２０２４年度

星槎道都大学

授業計画（シラバス）

星槎道都大学
SEISA DOHTO UNIVERSITY

目　　次

1304001 数学入門 横山　哲也 ２Ｑ ・・・ 1
5102100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの基盤と専門職(専門) 上原　正希 ３Ｑ ・・・ 3
5403000 経営組織論 信濃　吉彦 ２Ｑ ・・・ 5
6209201 ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ (M) 石山　玄幸 ４Ｑ ・・・ 7
6209202 ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ (S) 大島・西野 ４Ｑ ・・・ 9
6209203 ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ (D) 北嶋　洋一 後期 ・・・ 11
6209204 ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ (A) 横山　哲也 ４Ｑ ・・・ 13
6331000 ボールパークプログラム 信濃・安藤 後期 ・・・ 15
7305101 基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ 林　春生 ２Ｑ ・・・ 17
7706000 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論 山本　一彦 ３Ｑ ・・・ 19
7824000 絵画 西田　陽二 後期 ・・・ 21
1404000 法学 青山　浩之 ２Ｑ ・・・ 23
2102001 情報基礎演習Ⅱ (M) 由水・薦田・佐藤雅 後期 ・・・ 25
2102002 情報基礎演習Ⅱ (S) 宮崎・薦田 後期 ・・・ 27
2102003 情報基礎演習Ⅱ (D) 薦田・佐藤雅 後期 ・・・ 29
2102004 情報基礎演習Ⅱ (A) 薦田・佐藤雅 後期 ・・・ 31
3102101 基礎英語Ⅱ (M-信濃) 信濃　吉彦 ２Ｑ ・・・ 33
3102102 基礎英語Ⅱ (M-岡島) 岡島　徳昭 ２Ｑ ・・・ 35
3102103 基礎英語Ⅱ (M-石田) 石田　暁子 ２Ｑ ・・・ 37
3102104 基礎英語Ⅱ (M-井坂) 井坂　肇 ２Ｑ ・・・ 39
3102105 基礎英語Ⅱ (SDA-西崎) 西崎　毅 ２Ｑ ・・・ 41
3102106 基礎英語Ⅱ (SDA-宮嶋) 宮嶋　達也 ２Ｑ ・・・ 43
3102107 基礎英語Ⅱ (SDA-横田) 横田　肇 ２Ｑ ・・・ 45
3102108 基礎英語Ⅱ (SDA-井坂) 井坂　肇 ２Ｑ ・・・ 47
3202101 ﾄﾞｲﾂ語入門Ⅱ (M) 河田　一郎 後期 ・・・ 49
5103100 社会保障Ⅰ 星野　秀治 ３Ｑ ・・・ 51
5202000 美術学概論Ⅱ 寺嶋　弘道 ３Ｑ ・・・ 53
5302000 建築設計製図 佐々木哲・向井 後期 ・・・ 55
5402000 簿記論 川津　大樹 ２Ｑ ・・・ 57
7021100 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ 畠山　明子 ２Ｑ ・・・ 59
7211001 専門演習ⅠB 由水　伸 後期 ・・・ 61
7211002 専門演習ⅠB 信濃　吉彦 後期 ・・・ 63
7211003 専門演習ⅠB 河野　善文 後期 ・・・ 65
7211005 専門演習ⅠB 鈴木　重政 後期 ・・・ 67
7211006 専門演習ⅠB 岡島　徳昭 後期 ・・・ 69
7211008 専門演習ⅠB 青山　浩之 後期 ・・・ 71
7211009 専門演習ⅠB 石山　玄幸 後期 ・・・ 73
7211010 専門演習ⅠB 天野　雅斗 後期 ・・・ 75
7211011 専門演習ⅠB 石井　祐治 後期 ・・・ 77
7211012 専門演習ⅠB 篠原　諒介 後期 ・・・ 79
7211013 専門演習ⅠB 川津　大樹 後期 ・・・ 81
7211014 専門演習ⅠB 小林　大州介 後期 ・・・ 83
7211062 専門演習ⅠB 小早川　俊哉 後期 ・・・ 85
7211064 専門演習ⅠB 藤根　収 後期 ・・・ 87
7211068 専門演習ⅠB 大島　康雄 後期 ・・・ 89
7211069 専門演習ⅠB 吉江　幸子 後期 ・・・ 91
7211070 専門演習ⅠB 西野　克俊 後期 ・・・ 93
7211071 専門演習ⅠB 畠山　明子 後期 ・・・ 95
7211074 専門演習ⅠB 堀川　厚志 後期 ・・・ 97
7211075 専門演習ⅠB 宮崎　剛司 後期 ・・・ 99
7211076 専門演習ⅠB 松下　守邦 後期 ・・・ 101
7211078 専門演習ⅠB 蝦名　美穂 後期 ・・・ 103
7211079 専門演習ⅠB 星野　秀治 後期 ・・・ 105
7211080 専門演習ⅠB 上原　正希 後期 ・・・ 107
7305201 基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ 林　春生 ４Ｑ ・・・ 109
7514000 建築設計演習Ⅱ 日野　桂子 後期 ・・・ 111
7543000 建築表現Ⅱ 安藤・君 後期 ・・・ 113
7718000 ｽﾎﾟｰﾂ心理学 佐藤　和裕 ２Ｑ ・・・ 115
1405001 経済学 (S) 河野　善文 ３Ｑ ・・・ 117
1405002 経済学 (M・D・A) 小林　大州介 ３Ｑ ・・・ 119
2103300 ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ基礎 薦田　勇智 ４Ｑ ・・・ 121
3203101 中国語入門Ⅰ 孫　暢 ２Ｑ ・・・ 123
5104100 社会保障Ⅱ 星野　秀治 ４Ｑ ・・・ 125
5304000 建築ｼｽﾃﾑ論 向井　正伸 ４Ｑ ・・・ 127
5406001 ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 信濃　吉彦 ４Ｑ ・・・ 129
5406002 ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 (SP) 信濃　吉彦 ４Ｑ ・・・ 131
6102061 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 竹内　美帆 後期 ・・・ 133
6102062 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 後藤　啓倫 後期 ・・・ 135
6102063 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 戸佐　晃一 後期 ・・・ 137
6102064 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 米野　宏 後期 ・・・ 139
6102065 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 佐藤　和裕 後期 ・・・ 141
6102068 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 三嶋　康嗣 後期 ・・・ 143
6102069 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 井坂　肇 後期 ・・・ 145
6102071 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 阿部　一也 後期 ・・・ 147
6102072 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 篠原　諒介 後期 ・・・ 149

6102074 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 杉本　大輔 後期 ・・・ 151
6102075 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 横田　肇 後期 ・・・ 153
6102076 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 櫻井　美帆子 後期 ・・・ 155
6102077 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 湯浅　頼佳 後期 ・・・ 157
6102078 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 尾西　則昭 後期 ・・・ 159
6102079 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 西崎　毅 後期 ・・・ 161
6102081 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 宮嶋　達也 後期 ・・・ 163
6102083 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 横山　哲也 後期 ・・・ 165
6102085 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 向井　正伸 後期 ・・・ 167
6102086 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 佐藤　恵利 後期 ・・・ 169
6102087 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 千葉　聡美 後期 ・・・ 171
6102089 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 河田　一郎 後期 ・・・ 173
6102090 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 大島　康雄 後期 ・・・ 175
6102092 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 山本　一彦 後期 ・・・ 177
6102093 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 木村　浩紀 後期 ・・・ 179
6102094 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 薦田　勇智 後期 ・・・ 181
6102095 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 佐藤　雅一 後期 ・・・ 183
6102096 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB 塩﨑　大輔 後期 ・・・ 185
7545001 建築計画Ⅱ 安藤　淳一 後期 ・・・ 187
7711001 経済学概論 河野　善文 ４Ｑ ・・・ 189
7726001 基礎統計演習（M）河野　善文 後期 ・・・ 191
7726002 基礎統計演習（S）杉本　大輔 後期 ・・・ 193
7726003 基礎統計演習（D・A）伊藤　裕康 後期 ・・・ 195
2103500 ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ･ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 薦田・近澤 後期 ・・・ 197
3104101 英語入門Ⅱ（M） 石田　暁子 後期 ・・・ 199
3104102 英語入門Ⅱ（S）横田　肇 後期 ・・・ 201
3104103 英語入門Ⅱ（D・A） 宮嶋　達也 後期 ・・・ 203
3204101 中国語入門Ⅱ 孫　暢 ４Ｑ ・・・ 205
5105100 社会学と社会ｼｽﾃﾑ 松下　守邦 ４Ｑ ・・・ 207
5303100 建築材料 小笠原　健 ２Ｑ ・・・ 209
5308000 建築構造力学Ⅱ 長森　正 後期 ・・・ 211
6203001 ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ 山本・河野・青山・星野 ２Ｑ ・・・ 213
6333000 防災・治水プログラム 安藤　淳一 後期 ・・・ 215
7304000 立体構成Ⅱ 梅田　力 後期 ・・・ 217
7305600 ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝ基礎Ⅱ 佐藤　正人 後期 ・・・ 219
7710001 ｽﾎﾟｰﾂ社会学 戸佐　晃一 ２Ｑ ・・・ 221
7710002 ｽﾎﾟｰﾂ社会学（SP）戸佐　晃一 ２Ｑ ・・・ 223
7719000 ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学Ⅰ 篠原　諒介 ３Ｑ ・・・ 225
7823000 ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝﾂｰﾙ 佐藤善・伊藤裕 ３Ｑ ・・・ 227
3401000 日本語Ⅰ 髙橋　真弥 ２Ｑ ・・・ 229
5106100 心理学と心理的支援 吉澤　英里 ３Ｑ ・・・ 231
6104063 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 戸佐　晃一 後期 ・・・ 233
6104064 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 米野　宏 後期 ・・・ 235
6104065 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 佐藤　和裕 後期 ・・・ 237
6104068 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 三嶋　康嗣 後期 ・・・ 239
6104069 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 井坂　肇 後期 ・・・ 241
6104072 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 篠原　諒介 後期 ・・・ 243
6104073 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 後藤　啓倫 後期 ・・・ 245
6104074 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 杉本　大輔 後期 ・・・ 247
6104075 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 横田　肇 後期 ・・・ 249
6104076 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 櫻井　美帆子 後期 ・・・ 251
6104077 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 湯浅　頼佳 後期 ・・・ 253
6104078 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 尾西　則昭 後期 ・・・ 255
6104079 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 西崎　毅 後期 ・・・ 257
6104081 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 小山　尋明 後期 ・・・ 259
6104082 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 宮嶋　達也 後期 ・・・ 261
6104083 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 横山　哲也 後期 ・・・ 263
6104085 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 向井　正伸 後期 ・・・ 265
6104086 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 佐藤　恵利 後期 ・・・ 267
6104089 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 大島　康雄 後期 ・・・ 269
6104092 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 竹内　美帆 後期 ・・・ 271
6104093 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 千葉　聡美 後期 ・・・ 273
6104094 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 山本　一彦 後期 ・・・ 275
6104096 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 河田　一郎 後期 ・・・ 277
6104097 基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB 木村　浩紀 後期 ・・・ 279
6334000 イラスト・マンガプログラム 佐藤正・三上 後期 ・・・ 281
7004400 社会福祉の原理と政策Ⅱ 小早川　俊哉 ２Ｑ ・・・ 283
7038000 発達心理学Ⅱ 蝦名　美穂 ３Ｑ ・・・ 285
7720000 ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学Ⅱ 篠原　諒介 ４Ｑ ・・・ 287
7724000 経営戦略論 鈴木　重政 後期 ・・・ 289
7724001 経営戦略論（SP）鈴木　重政 後期 ・・・ 291
9113000 社会科・公民科教育法Ⅱ 松下　守邦 後期 ・・・ 293
1202001 社会学入門（M）山本　一彦 後期 ・・・ 295
1202002 社会学入門（S・D・A）松下　守邦 後期 ・・・ 297
1408000 環境学 西原　智昭 ２Ｑ ・・・ 299
3402000 日本語Ⅱ 佐藤　恵利 ３Ｑ ・・・ 301
5204001 平面構成Ⅱ 北嶋　洋一 後期 ・・・ 303
5209000 西洋美術史Ⅱ 竹内　美帆 後期 ・・・ 305
7012200 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習 上原小早川西野畠山 ４Ｑ ・・・ 307
7332000 漫画Ⅱ 三上　いずみ 後期 ・・・ 309

7542000 ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑⅠ 伊藤裕・向井 後期 ・・・ 311
7725000 財務会計論 川津　大樹 後期 ・・・ 313
9119100 特別活動の指導法 大庭　隆 ３Ｑ ・・・ 315
3403000 日本語Ⅲ 佐藤　恵利 ２Ｑ ・・・ 317
7043000 保育者論 平山　拓也 ２Ｑ ・・・ 319
7728000 ﾏｸﾛ経済学 河野　善文 後期 ・・・ 321
7733200 まちづくり論 松本　懿 ２Ｑ ・・・ 323
9108000 社会科・地理歴史科教育法Ⅱ 塩﨑　大輔 後期 ・・・ 325
9125100 生徒・進路指導論 髙井　雅一 後期 ・・・ 327
3404000 日本語Ⅳ 髙橋　真弥 ４Ｑ ・・・ 329
7280000 子どもの理解と援助 吉江　幸子 ２Ｑ ・・・ 331
7307000 ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅱ（1年） 北嶋　洋一 ４Ｑ ・・・ 333
7307001 ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅱ（2年） 北嶋　洋一 ４Ｑ ・・・ 335
7713000 西洋経済史 小林　大州介 ２Ｑ ・・・ 337
7734000 会社法 青山　浩之 後期 ・・・ 339
7738000 ｽﾎﾟｰﾂ医学 黒川　泰任 ４Ｑ ・・・ 341
5201000 美術学概論Ⅰ 竹内　美帆 ３Ｑ ・・・ 343
5207201 ﾃﾞｯｻﾝⅣ 西田　陽二 後期 ・・・ 345
7085000 保育内容総論 佐藤　慶知 ３Ｑ ・・・ 347
7531100 図学(建築図学を含む) 赤木　良子 ２Ｑ ・・・ 349
7590000 CAD演習Ⅲ 佐藤善・伊藤裕 後期 ・・・ 351
7741000 ｽﾎﾟｰﾂ指導論 髙井　雅一 後期 ・・・ 353
1207000 外国の歴史 横田　肇 後期 ・・・ 355
5108100 権利擁護を支える法制度 星野　秀治 後期 ・・・ 357
7288000 身体表現 尾西　則昭 ２Ｑ ・・・ 359
7311000 工芸実習Ⅱ 島田・中島知・楠本 後期 ・・・ 361
7553000 CAD演習Ⅰ 佐藤善・伊藤裕 ４Ｑ ・・・ 363
7733400 観光ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論（1年） 五ノ井　壽一 ３Ｑ ・・・ 365
7733401 観光ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論（2年） 五ノ井　壽一 ３Ｑ ・・・ 367
7751001 ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ概論 尾西　則昭 後期 ・・・ 369
7786001 ｽﾎﾟｰﾂ文化論 細川　光法 ２Ｑ ・・・ 371
7786002 ｽﾎﾟｰﾂ文化論（SP） 細川　光法 ２Ｑ ・・・ 373
3301001 外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（M） 岡島　徳昭 後期 ・・・ 375
3301002 外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（S） 信濃　吉彦 後期 ・・・ 377
3301003 外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（D・A） 宮嶋　達也 後期 ・・・ 379
5107100 貧困に対する支援 星野　秀治 後期 ・・・ 381
5207001 ﾃﾞｯｻﾝⅡ 西田　陽二 後期 ・・・ 383
5310001 福祉環境計画論 佐々木　哲之 後期 ・・・ 385
5404000 経営管理論 信濃　吉彦 後期 ・・・ 387
7291000 造形表現Ⅰ 浩而　魅論 ４Ｑ ・・・ 389
7568000 建築表現Ⅳ 安藤・君 後期 ・・・ 391
5113100 保健医療と福祉 宮﨑　剛司 後期 ・・・ 393
7007101 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅱ（M） 櫻井　美帆子 ２Ｑ ・・・ 395
7007102 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅱ（S） 櫻井　美帆子 ２Ｑ ・・・ 397
7289000 音楽表現Ⅰ 小黒　万里子 ３Ｑ ・・・ 399
7550000 建築法規Ⅱ 佐藤　善太郎 後期 ・・・ 401
9117100 道徳教育の指導法 佐藤　雅一 後期 ・・・ 403
7520100 建築材料実験（1年） 長森　正 ２Ｑ ・・・ 405
7520101 建築材料実験（2年） 長森　正 ２Ｑ ・・・ 407
7742000 管理会計論 鈴木　重政 後期 ・・・ 409
7144002 人文地理学Ⅱ 塩﨑　大輔 後期 ・・・ 411
7335000 ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ 田中　靖之 後期 ・・・ 413
7539100 ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ演習 安藤　淳一 後期 ・・・ 415
7593001 職業指導（M） 川津　大樹 後期 ・・・ 417
5115100 社会福祉調査の基礎 杉本　大輔 後期 ・・・ 419
7581000 鋼構造 長森　正 後期 ・・・ 421
7053000 生涯学習概論Ⅱ 藤根　収 後期 ・・・ 423
7058000 知的障害者の心理・生理・病理 堀川　厚志 ３Ｑ ・・・ 425
7319100 ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ 北嶋　洋一 後期 ・・・ 427
7583000 建築生産 小笠原　健 後期 ・・・ 429
7848000 公共ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 山本　一彦 ２Ｑ ・・・ 431
7011100 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ 上原　正希 後期 ・・・ 433
7061000 聴覚障害教育総論 室岡　弘明 ２Ｑ ・・・ 435
7186000 日本文化史 及川　琢英 ２Ｑ ・・・ 437
7571000 建築設計演習Ⅳ 向井　正伸 後期 ・・・ 439
7753000 ｽﾎﾟｰﾂと栄養 湯浅　頼佳 後期 ・・・ 441
7062000 視覚障害教育総論 木村　浩紀 ３Ｑ ・・・ 443
7319200 ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ 林　春生 後期 ・・・ 445
7818000 ｺｰﾁﾝｸﾞ方法論 伊藤　博 ３Ｑ ・・・ 447
9128000 保健体育科教育法Ⅱ 森　靖明 後期 ・・・ 449
7551000 住宅設計演習Ⅱ 君　興治 後期 ・・・ 451
7782400 地域政策論 信濃・石山 後期 ・・・ 453
9129000 保健体育科教育法Ⅲ 髙井　雅一 後期 ・・・ 455
7014100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習(専門)Ⅱ 小早川杉本櫻井大島星野 後期 ・・・ 457
7573100 建築環境Ⅱ 伊藤　裕康 後期 ・・・ 459
7729000 北海道経済論 小林　大州介 後期 ・・・ 461
7822000 写真表現Ⅱ 林　春生 後期 ・・・ 463
9102003 教育原理（S・1年） 西崎　毅 ３Ｑ ・・・ 465
9102004 教育原理（S・2年） 西崎　毅 ３Ｑ ・・・ 467
9131000 保健体育科教育法Ⅳ 髙井　雅一 後期 ・・・ 469

7016100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習指導Ⅰ 小早川上原杉本櫻井大島星野 後期 ・・・ 471
7820000 ｲﾗｽﾄ漫画概論Ⅱ 竹内 美帆 後期 ・・・ 473
9137000 特別な教育的ﾆｰｽﾞの理解とその支援 藤根・木村 ４Ｑ ・・・ 475
7024100 精神保健福祉の原理Ⅱ（1年） 西野 克俊 ２Ｑ ・・・ 477
7024101 精神保健福祉の原理Ⅱ（2年） 西野 克俊 ２Ｑ ・・・ 479
7570000 ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑⅣ 伊藤 裕康 後期 ・・・ 481
7588000 建築法規Ⅳ 佐藤 善太郎 後期 ・・・ 483
9138000 総合的な学習の時間の指導法 西崎 毅 後期 ・・・ 485
7028100 精神保健福祉制度論 大島 康雄 後期 ・・・ 487
7192000 特別支援教育実習(事後指導) 木村・千葉 後期 ・・・ 489
7337000 ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝⅡ 浩而 魅諭 後期 ・・・ 491
7849000 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾋﾞｼﾞﾈｽⅠ 川津 大樹 ３Ｑ ・・・ 493
9139000 介護等体験指導 堀川・木村 後期 ・・・ 495
7022100 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ（1年） 畠山 明子 ３Ｑ ・・・ 497
7022101 現代の精神保健の課題と支援Ⅱ（2年） 畠山 明子 ３Ｑ ・・・ 499
7607000 測量学 長森 正 後期 ・・・ 501
7025100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法(専門)Ⅲ 西野 克俊 後期 ・・・ 503
7332100 ｷｬﾗｸﾀｰﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ 三上 いずみ 後期 ・・・ 505
7362000 技法・材料研究Ⅱ 安田 祐造 後期 ・・・ 507
7521000 施工管理技士演習Ⅰ 小笠原 健 後期 ・・・ 509
7851000 ﾋﾞｼﾞﾈｽﾘｻｰﾁⅠ 信濃・河野・鈴木・石山・川津・小林 ４Ｑ ・・・ 511
7365000 彫刻Ⅱ 梅田 力 後期 ・・・ 513
7557000 応用数学 横山 哲也 後期 ・・・ 515
5106000 心理学 吉澤 英里 ２Ｑ ・・・ 517
7370001 漫画Ⅳ 五十嵐・鴨 後期 ・・・ 519
7372000 造形論Ⅱ 松岡 龍介 後期 ・・・ 521
7380000 彫刻Ⅳ 国松 明日香 後期 ・・・ 523
7614000 建築学特講Ⅰ 柿沼 博彦 後期 ・・・ 525
7615000 建築学特講Ⅱ 柿沼 博彦 後期 ・・・ 527
7294000 乳児保育Ⅰ 吉江 幸子 後期 ・・・ 529
7369001 工芸実習Ⅳ（三上） 三上 いずみ 後期 ・・・ 531
7369002 工芸実習Ⅳ（梅田力） 梅田 力 後期 ・・・ 533
7369003 工芸実習Ⅳ（中島義） 中島 義博 後期 ・・・ 535
7369004 工芸実習Ⅳ（鳴海） 鳴海 伸一 後期 ・・・ 537
7374000 東洋・日本美術史Ⅱ 苫名 真 ３Ｑ ・・・ 539
7295000 乳児保育Ⅱ 吉江 幸子 後期 ・・・ 541
7542300 一級対策製図Ⅱ 小笠原 健 後期 ・・・ 543
7482000 保育の計画と評価 吉江 幸子 後期 ・・・ 545
7296000 子どもの健康と安全 宮﨑 剛司 後期 ・・・ 547
7354000 映像表現Ⅱ 北嶋 洋一 後期 ・・・ 549
7532400 一級建築士演習Ⅲ 小笠原 健 後期 ・・・ 551
7791000 運動学(運動方法学を含む。) 米野・天野 後期 ・・・ 553
9103000 教育史 西崎 毅 ２Ｑ ・・・ 555
7484000 保育内容演習Ⅱ(人間関係) 松下 守邦 後期 ・・・ 557
7532500 一級建築士演習Ⅳ 赤木 良子 後期 ・・・ 559
9104001 教育行政学（M・D・A） 木村 浩紀 後期 ・・・ 561
9104002 教育行政学（S） 木村 浩紀 後期 ・・・ 563
7322300 ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝⅣ 林 春生 後期 ・・・ 565
7485000 保育内容演習Ⅲ(環境) 佐藤 慶知 ２Ｑ ・・・ 567
7797000 生理学 黒川 泰任 ２Ｑ ・・・ 569
9105000 教育課程論（1年） 西崎 毅 ４Ｑ ・・・ 571
9105001 教育課程論（2年） 西崎 毅 ４Ｑ ・・・ 573
7292000 造形表現Ⅱ 浩而 魅諭 ４Ｑ ・・・ 575
7319800 CG技法研究Ⅰ 北嶋 洋一 後期 ・・・ 577
7542500 二級対策製図Ⅱ 佐藤善・向井 後期 ・・・ 579
7293000 言語表現（1年） 太田 俊一 ３Ｑ ・・・ 581
7293001 言語表現（2年） 太田 俊一 ３Ｑ ・・・ 583
7319900 CG技法研究Ⅱ 北嶋 洋一 後期 ・・・ 585
7805000 精神保健Ⅰ 畠山 明子 後期 ・・・ 587
7102000 肢体不自由教育Ⅱ 千葉 聡美 後期 ・・・ 589
9112000 工業科教育法Ⅱ 横山 哲也 後期 ・・・ 591
7103000 知的障害教育Ⅰ 藤根 収 後期 ・・・ 593
7337200 ｲﾗｽﾄﾚｰｼｮﾝⅣ 佐藤 正人 後期 ・・・ 595
7522400 二級建築士演習Ⅲ 佐藤善・向井 後期 ・・・ 597
7599000 ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑⅥ 小笠原 健 後期 ・・・ 599
7789100 体つくり運動 是枝 亮 ２Ｑ ・・・ 601
9114000 美術科教育法Ⅱ 竹内 美帆 後期 ・・・ 603
7104000 病弱者の心理・生理・病理 千葉 聡美 後期 ・・・ 605
7319600 ｱﾆﾒｰｼｮﾝⅠ 梅田 真紀 ３Ｑ ・・・ 607
7522500 二級建築士演習Ⅳ 佐藤善・向井 後期 ・・・ 609
7319700 ｱﾆﾒｰｼｮﾝⅡ 梅田 真紀 ４Ｑ ・・・ 611
7758000 ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 阿部 裕樹 ３Ｑ ・・・ 613
7795201 陸上競技 戸佐・石井・阿部 ３Ｑ ・・・ 615
9118000 工芸科教育法Ⅱ 三上 いずみ 後期 ・・・ 617
7322700 ｴﾃﾞｨﾄﾘｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ 梅田 真紀 ２Ｑ ・・・ 619
7759000 eﾋﾞｼﾞﾈｽ論 阿部 裕樹 ４Ｑ ・・・ 621
7794100 球技Ⅲ(ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ) 戸佐 晃一 後期 ・・・ 623
7018100 ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ実習指導Ⅲ 小早川上原杉本櫻井大島星野 後期 ・・・ 625
7318300 WEBﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ 上坂 恒章 後期 ・・・ 627
7731000 ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ論 猪尾 紀幸 ２Ｑ ・・・ 629

7319300 WEBﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ 上坂　恒章 後期 ・・・ 631
7763000 ﾋﾞｼﾞﾈｽ法務 青山　浩之 後期 ・・・ 633
7531000 図学 赤木　良子 ２Ｑ ・・・ 635
7765000 産業心理学 吉澤　英里 後期 ・・・ 637
7803100 球技Ⅴ(ﾗｸﾞﾋﾞｰ) 佐藤　和裕 後期 ・・・ 639
7027100 精神障害ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ論 畠山　明子 後期 ・・・ 641
7105000 民法 青山　浩之 後期 ・・・ 643
7357000 ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ 上坂　恒章 後期 ・・・ 645
7845000 ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝ 上坂　恒章 ２Ｑ ・・・ 647
7807100 ﾀﾞﾝｽ 是枝　亮 後期 ・・・ 649
7790100 柔道 三嶋　康嗣 後期 ・・・ 651
9134000 教職実践演習(中・高) 藤根堀川千葉木村塩崎高井天野篠原三上 後期 ・・・ 653
7120000 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ 畠山・西野 後期 ・・・ 655
7764000 ｺﾐｭﾆﾃｨ心理学 吉澤　英里 後期 ・・・ 657
7297000 社会的養護Ⅱ 杉本　大輔 後期 ・・・ 659
7798000 ｽﾎﾟｰﾂ生理学 天野　雅斗 後期 ・・・ 661
7100000 地誌 塩﨑　大輔 後期 ・・・ 663
7486000 保育内容演習Ⅳ(言葉) 太田　俊一 ２Ｑ ・・・ 665
7613000 ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑⅧ 佐藤　善太郎 後期 ・・・ 667
7487000 保育内容演習Ⅴ(表現) 吉江　幸子 ２Ｑ ・・・ 669
7142000 障害児保育Ⅱ 坂上　俊樹 ４Ｑ ・・・ 671
7817000 ｸﾗｳﾄﾞｺﾝﾋﾟｭｰﾃｨﾝｸﾞ 由水　伸 後期 ・・・ 673
7145000 知的障害教育Ⅱ 藤根　収 後期 ・・・ 675
7782300 金融論 小林　大州介 後期 ・・・ 677
7121000 社会心理学 松下　守邦 後期 ・・・ 679
7732000 国際政治論 後藤　啓倫 後期 ・・・ 681
7730000 国際経済論 小早川　俊哉 後期 ・・・ 683
7810000 倫理学概論 尾崎　有紀 後期 ・・・ 685
7031100 社会福祉施設の人事・労務・財務管理とリスクマネジメント 上原　正希 後期 ・・・ 687
7056000 肢体不自由者の心理・生理・病理 坂上　俊樹 ２Ｑ ・・・ 689
7176100 精神医学と精神医療Ⅱ 伊東　隆雄 後期 ・・・ 691
7029100 精神保健福祉援助演習Ⅲ 畠山・西野 後期 ・・・ 693
7168000 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ 畠山・西野 後期 ・・・ 695
7299000 保育実践演習 吉江　幸子 後期 ・・・ 697
1104001 北海道誌 塩﨑　大輔 後期 ・・・ 699
7188000 日本政治史 後藤　啓倫 後期 ・・・ 701
7103110 社会福祉事業史 小早川　俊哉 後期 ・・・ 703
7190000 国際法 細川　光法 ４Ｑ ・・・ 705
7032100 福祉士国家試験対策ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 小早川櫻井杉本畠山西野星野他 後期 ・・・ 707

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	数学入門 （科目ナンバリング：MAT071046 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が教養力を身につけるために，「自然と環境」を幅広く学ぶための科目で、 大学で必要となる数学の基礎知識をしっかり身に付け、次に、高校の数学から大学の数学への橋渡しができる力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。（2024年度）
全学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）
全学科のDP1、DP8に対応する。（2021年度）

到達目標

様々な分野で活躍する人材に求められる課題探求能力のうちの，基本的な数学知識の修得と思考能力の向上を図ることができる。さらに，それらのことを通して，数学において重要なのは，答えではなく，計算過程（思考過程の説明）であることを理解し，習慣づけることができる。

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（数理基礎）の関連授業科目。
数の計算から始まり，分数・因数分解・平方根・無理式・一次方程式・連立方程式・二次方程式・高次方程式・一次関数・二次関数・三角関数・集合・順列と組み合わせ・確率などについて，豊富な練習問題をこなすことによって，数学を解くことの実感と意味をつかむ。「SDG9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連科目。

授業の方法

最近は，学生が積極的に参加する形での授業が要望されている。そこで，本講義では，教科書に沿って板書により授業を進める中で，学生自らが習熟度の向上を実現させるために，積極的に質問や要望を述べることが求められる。また、学生が課題を提出した後に板書にて解説を行う。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・課題等の提出方法については授業中に支持するので，授業を欠席することのないよう留意すること。
・講義に対して積極的に取り組むこと。
・解らないところは積極的に質問すること。
・授業で求めている以上の習熟度の向上を望む場合には，申し出ること。適切に対応します。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

成績は，１1回以上の出席、レポート課題の提出と定期試験の結果を総合し絶対評価及び相対評価を併用して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	４０%	０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎知識の修得	数学の基礎知識が完全に修得できた。	数学の基礎知識が修得できた。	数学の基礎知識がほぼ修得できた。	数学の基礎知識が大体修得できた。	数学の基礎知識が修得できなかった。
思考能力の向上	数学の思考能力が完全に向上した。	数学の思考能力が向上した。	数学の思考能力がほぼ向上した。	数学の思考能力が大体向上した。	数学の思考能力が向上しなかった。
計算過程（思考過程の説明）の習慣化	授業中に不明な点を全て解決し思考過程の習慣化ができた。	授業中に不明な点を質問等で全て解決し思考過程の習慣化ができた。	授業中に不明な点を質問等で解決し思考過程の習慣化ができた。	授業中に不明な点を解決し思考過程の習慣化が大体できた。	思考過程の習慣化ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	数学入門 （科目ナンバリング：MAT071046 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『大学新入生のための数学入門（増補版）』	石村　園子	共立出版			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス。シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明及び基礎学力試験	基礎学力試験のための準備をする（９０分）	基礎学力試験問題を再度解く（９０分）
2	整数と計算	数の分類・性質と四則計算の基本を理解する（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
3	分数・小数・繁分数	教科書の問題を丁寧に解く練習をする（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
4	展開・因数分解	展開と因数分解における公式を覚え，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
5	平方根	平方根の性質と計算方法を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
6	分数式・無理式の計算	教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
7	一次方程式	一次方程式の解き方とその利用について理解する（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
8	連立方程式	連立方程式の解き方とその利用について理解する（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
9	二次方程式・高次方程式	二次方程式と高次方程式の解き方およびその利用について理解する（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
10	一次関数とグラフ	一次関数の性質を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
11	二次関数	二次関数の性質を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
12	三角関数	三角関数の性質を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
13	集合	集合の性質を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
14	順列と組み合わせ	順列と組み合わせの違いを理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
15	確率及び授業改善アンケートの実施	確率の意味を理解し，教科書の問題を丁寧に解く（９０分）	教科書の問題を再度解く（９０分）
16	６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行います。	全内容の再確認及び理解を行う。（９０分）	総理解（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門 （科目ナンバリング：SWS111002 ）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 上原　正希 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１．ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について理解する。
２．ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。
３．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。
４．総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP２、DP3、DP4、DP５に対応する(2024年度)。

到達目標

１．ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について理解することができる。
２．ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解することができる。
３．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解することができる。
４．総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解することができる。

授業全体の内容と概要

１．ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について学ぶ。
２．ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について学ぶ。
３．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について学ぶ。
４．総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について学ぶ。
５．ソーシャルワーカーなどから、お話を聞き学ぶ。
６．「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」「ＳＤＧ4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１．授業形態は基本は「講義形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。
２．テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
３．適宜質問を促し、質問に対応する。
４．自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もあるが、しかし保育士養成課程学生については対面での実施となる。
５．ソーシャルワーカーなどの、お話を聞く授業等がある場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容は、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
２．適宜質問に対応する。
３．自然災害等などの状況により、オンライン授業やオンデマンドなどに変更になる場合もある。しかし保育士養成課程学生については対面での実施となるため補講等を実施する。
４．ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
５．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

１．教科書は必ず持参する。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．出席回数は最低１０回なければ試験を受験できない。
４．その他については、出席状況３０％の評価である。
５．成績評価分布の目標について「Ｓ」は履修者の１０％以内とし、「Ａ」と「Ｓ」を含めて履修者の４０％以内とする。
但し、履修者が１０人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	０％	０％	３０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について理解する。	ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について、理解を深めた。	ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について、ほぼ理解を深めた。	ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について、やや理解を深めた。	ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について、理解することができた。	ソーシャルワーカーの職域と求められる役割について、理解することができなかった。
ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、ほぼ理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、やや理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができなかった。
ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、ほぼ理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、やや理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができなかった。
総合的かつ包括的な支援について理解する。	総合的かつ包括的な支援について、理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、ほぼ理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、やや理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、理解することができた。	総合的かつ包括的な支援について、理解することができなかった。
多職種連携の意義と内容について理解する。	多職種連携の意義と内容について、理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、ほぼ理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、やや理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、理解することができた。	多職種連携の意義と内容について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの基盤と専門 （科目ナンバリング：SWS111002 ）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 上原　正希 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『図解でわかるソーシャルワーク』	鈴木 孝典・鈴木 裕介	中央法規	2023年	9784805889589	価格 / 2,420（本体 / 2,200）
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明）、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲Ⅰ　ソーシャルワーク専門職の概念と範囲	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
2	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲Ⅱ　社会福祉士の職域及び福祉行政等における専門職	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
3	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲Ⅲ　民間の施設・組織における専門職及び諸外国の動向	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
4	ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象Ⅰ　ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
5	ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象Ⅱ　ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
6	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークⅠ　ミクロ・メゾ・マクロレベルへの介入	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
7	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークⅡ　ミクロ・メゾ・マクロレベルの連関性	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
8	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークⅢ　ミクロ・メゾ・マクロレベルの支援の実際	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
9	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容Ⅰ　多機関による包括的支援体制	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
10	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容Ⅱ　フォーマル・インフォーマルな社会資源との協働体制	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
11	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容Ⅲ　ソーシャルサポートネットワーキング	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
12	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容Ⅰ　多職種連携及びチームアプローチの意義	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
13	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容Ⅱ　機関・団体間の合意形成と相互関係	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
14	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容Ⅲ　利用者、家族の参画	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
15	授業改善アンケートの実施 まとめ（事例研究）及びレポートに対するフィードバック（解説）を行う	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
16	【定期試験】６０分の試験終了後，残りの３０分で解説	テスト勉強をしておくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営組織論 （科目ナンバリング：MAN412003，MAN512003 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認すること。				

概要

履修目標

経営組織とは、何なのか。どういった構造や活動をするのか。その基礎を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

２年次以降の専門分野の活動に必要な経営の基本となる用語及び組織メカニズム（特に意思決定・モチベーション理論・リーダーシップ論・チームマネジメント）が理解できている。

授業全体の内容と概要

経営活動の基本要素であるに意思決定・モチベーション理論・リーダーシップ論・チームマネジメントに関する基本知識を理解・習得する。
SDG４．「質の高い教育をみんなに」のテストケースとして授業中の発言を重視し、ハンドアウトやプリントを多用する。

授業の方法

座学においてPCによるプロジェクタ投影と配布資料による講義とディスカッションをまじえた授業を行い理解度を高める。教科書に関する事前学習は当たり前のことで予習のページを指定する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視し、20分以上の遅刻および１５分以上の途中退出は欠席扱いとする。授業中の私語、居眠り、携帯・スマートホン利用は厳禁。これを破った場合は欠席扱いとする。また、本科目は座席を指定する。板書の撮影は許可するが次回の授業までに必ずノートに転記すること。加えて、平素の学習状況を確認するためノートチェックを行う。10回以上の出席がない学生は評価の対象としない。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、修学サポートを実施するので必ず相談して欲しい。

資格指定科目

教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１０回（厳守）。12回以上の出席を標準とし、これに満たない場合は平常点の加点を失う。教科書を持参しない学生に関しては評価対象としない。本科目は後期科目なので２回目以降の授業で教科書未持参の学生には履修中止を勧告する。よって、教科書未購入の学生の履修は、これを認めない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	２０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	様々な組織形態、組織デザインを完全に理解し、事例に対応した理想的な組織形態を提案できた。	様々な組織形態、組織デザインを十分に理解し、事例に対応した新たな組織形態を提案できた。	様々な組織形態、組織デザインを理解し、事例の組織形態を理解できた。	様々な組織形態、組織デザインを理解していた。	様々な組織形態、組織デザインを理解していなかった。
思考力・判断力・表現力	モチベーション理論を完全に理解し、事例に対応した自らのモチベーション論を展開できた。	モチベーション理論を十分に理解し、事例に対応したモチベーションの在り方を理解できた。	モチベーション理論を理解し、事例のモチベーションの形態を理解できた。	モチベーション理論を理解していた。	モチベーション理論を理解していなかった。
主体性	リーダーシップを完全に理解し、自らもリーダーシップを発揮し様々な意見を提案できた。	リーダーシップを十分に理解し、事例に対応したリーダーシップ論を理解できあた。	リーダーシップを理解し、リーダーシップの目的を理解できた。	リーダーシップを理解していた。	リーダーシップを理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経営組織論 （科目ナンバリング：MAN412003，MAN512003 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	2号館6階	
単位数	2 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『経営組織入門』	上林憲雄・庭本佳子	文眞堂	2020	9784830950698	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション・シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
2	経営組織とは	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
3	組織形態と活動	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
4	バーナードの組織論	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
5	組織の基本原理	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
6	意思決定	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
7	「やる気」を高める・・・モチベーション理論①	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
8	「やる気」を高める・・・モチベーション理論②	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
9	リーダーシップ論①	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
10	リーダーシップ論②	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
11	チームワークとチームマネジメント①	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
12	チームワークとチームマネジメント②	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
13	イノベーション	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
14	ネットワーク　　ノートチェック指示	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	授業内容の復習として事後学習を行う。（９０分）
15	総括レビュー 授業改善アンケートの実施	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	試験に向け全体を復習する。（９０分）
16	定期試験及び解説 （６０分の試験終了後、３０分で総括を行う）	試験に向け全体を復習する。（９０分）	試験及び解説を受け講義全体を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（M） （科目ナンバリング：S0E011009 ）				
授業担当者（所属・職名）	経営学科・キャリア支援委員	研究室等所在	経営学科・キャリア支援委員研究室		
単位数	1 （単位認定責任者： 経営学科・キャリア支援委員 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会人になるための心構えや一般的な常識、さらには学科の特性に準じた専門的な基本知識も学び、卒業年度に始まる就職活動に必要な態勢を早期に身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP３に対応する。（２０２４年度）
経営学科のDP１、DP２、DP３に対応する。（２０２３・２０２２年度）
経営学科のDP１、DP２、DP３に対応する。（２０２１年度）

到達目標

インターンシップや就職活動の際に実践することができる一般的及び専門的な知識や技術の習得。さらには自ら率先し、周囲の状況に流されることなく就職活動に臨む姿勢を持たせる。

授業全体の内容と概要

まずは働くことの必然性を学び、社会人になることについての興味を引き出す。続いて、学科の特性に準じた専門的な進路のパターンを具体的な例を示し、それらを自らの選択肢として捉えられるようにする。これに加えて、あらゆる業種において共通する一般常識も伝え、会社説明会や会社訪問など、就職活動に参加する際に必要になる態勢を作る。

授業の方法

就職活動に必要な知識を伝えるためPowerPointなどの資料を提示しながらの講義が中心になるが、就職活動や各種業界に対する取材を適時行わせ、それらについての疑問や質問に対しては随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
一般常識を学ぶに当たっては「ビジネス能力検定ジョブパス３級公式テキスト」を用い、カリキュラム終了後には検定の受験を紹介し、希望者を募る。
不測時における授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎授業に於いて、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。
授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。
遅刻１回は０．５回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「社会人に必要とされる一般常識を理解している。」	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についてほぼ理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が不十分である。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が全くできていない。
思考力・判断力・表現力 「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に望むことができる応用力を身につけている」	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては模範的な実践ができるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては実践できるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識は理解しているが、就職活動に於いて実践できるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要な一般常識の理解が不十分であり、実践できるレベルには到達していない。	社会人に必要な一般常識を理解できておらず、就職活動が行える段階にない。
主体性・多様性・協働性 「就職活動を前提とし、デザイン学科の特性に合わせた各種課題に対し、適切に対応することができる」	与えられた種々の課題に対し、臨機応変に適切に対応しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みは積極的であったが、適切に対応しきれていなかった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応しきれておらず、取り組みも積極的ではなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（M） （科目ナンバリング：S0E011009 ）				
授業担当者（所属・職名）	経営学科・キャリア支援委員	研究室等所在	経営学科・キャリア支援委員研究室		
単位数	1 （単位認定責任者： 経営学科・キャリア支援委員）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『2024年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト』	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団	株式会社 日本能率協会マネジメント	2023	978-4-8005-9153-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション/キャリタスUCの登録 （全学科合同） ・この科目の内容と目的の理解・評価方法等	シラバス全体を一読しておくこと（４５分）	授業内容の整理（４５分）
2	公務員の仕事について① （全学科合同）	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
3	公務員の仕事について② （全学科合同）	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
4	ビジネス能力検定基礎① （全学科合同） テーマ：「電話、メール、服装等について」	当該範囲のシラバスとテキストの確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
5	３.ビジネス能力検定基礎② （全学科合同） テーマ：「ビジネスマナーの基本」	当該範囲のシラバスとテキストの確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
6	経営学科の就活① 「業種・職種の違い」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
7	経営学科の就活② 「志望企業情報の調べ方」 「様々なメディアの有効な活用法」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
8	企業による講和①	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
9	企業による講和②	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
10	企業による講和③	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
11	GPS-Academicフィードバック （全学科合同） GPS-Academicの活用方法ややるべき事	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
12	インターンシップ 実践編 （全学科合同） テーマ：インターンシップとは	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
13	インターンシップ 入門編 （全学科合同） テーマ：将来就職活動をする上でのインターンシップの位置付け	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
14	北海道テレビ放送株式会社 編成局アナウンス部兼情報局スポーツ部 五十幡裕介氏 （全学科合同）	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
15	株式会社自然農園 制作部 マネージャー 渡谷智誉丸氏(全学科合同)	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
16	小テスト→まとめ （全学科合同） ビジネス能力検定ジョブパス3級の紹介 授業改善アンケートの実施	全授業内容整理と小テストの準備（４５分）	全授業内容のまとめ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（S） （科目ナンバリング：S0E011009 ）				
授業担当者（所属・職名）	社会福祉学科・キャリア支援委員	研究室等所在	社会福祉学科・キャリア支援委員　研究室		
単位数	1 （単位認定責任者： 社会福祉学科・キャリア支援委員 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会人になるための心構えや一般的な常識、さらには学科の特性に準じた専門的な基本知識も学び、卒業年度に始まる就職活動に必要な態勢を早期に身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP３に対応する。（２０２４年度）
社会福祉学科のDP１、DP２、DP３に対応する。（２０２３・２０２２年度）
社会福祉学科のDP１、DP２、DP３に対応する。（２０２１年度）

到達目標

インターンシップや就職活動の際に実践することができる一般的及び専門的な知識や技術の習得。さらには自ら率先し、周囲の状況に流されることなく就職活動に臨む姿勢を持たせる。

授業全体の内容と概要

まずは働くことの必然性を学び、社会人になることについての興味を引き出す。続いて、学科の特性に準じた専門的な進路のパターンを具体的な例を示し、それらを自らの選択肢として捉えられるようにする。これに加えて、あらゆる業種において共通する一般常識も伝え、会社説明会や会社訪問など、就職活動に参加する際に必要になる態勢を作る。

授業の方法

就職活動に必要な知識を伝えるためPowerPointなどの資料を提示しながらの講義が中心になるが、就職活動や各種業界に対する取材を適時行わせ、それらについての疑問や質問に対しては随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
一般常識を学ぶに当たっては「ビジネス能力検定ジョブパス３級公式テキスト」を用い、カリキュラム終了後には検定の受験を紹介し、希望者を募る。
不測時における授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎授業に於いて、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。
授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。
遅刻１回は０．５回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「社会人に必要とされる一般常識を理解している。」	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についてほぼ理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が不十分である。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が全くできていない。
思考力・判断力・表現力「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に望むことができる応用力を身につけている」	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては模範的な実践ができるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては実践できるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識は理解しているが、就職活動に於いて実践できるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要な一般常識の理解が不十分であり、実践できるレベルには到達していない。	社会人に必要な一般常識を理解できておらず、就職活動が行える段階にない。
主体性・多様性・協働性「就職活動を前提とし、デザイン学科の特性に合わせた各種課題に対し、適切に対応することができる」	与えられた種々の課題に対し、臨機応変に適切に対応しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みは積極的であったが、適切に対応しきれていなかった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応しきれておらず、取り組みも積極的ではなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（S） （科目ナンバリング：S0E011009 ）				
授業担当者（所属・職名）	社会福祉学科・キャリア支援委員		研究室等所在	社会福祉学科・キャリア支援委員　研究室	
単位数	1 （単位認定責任者： 社会福祉学科・キャリア支援委員 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『2024年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト』	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団	株式会社 日本能率協会マネジメント	2023	978-4-8005-9153-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション/キャリタスUCの登録　（全学科合同） ・この科目の内容と目的の理解・評価方法等	シラバス全体を一読しておくこと（４５分）	授業内容の整理（４５分）
2	公務員の仕事について①　（全学科合同）	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
3	公務員の仕事について②　（全学科合同）	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
4	ビジネス能力検定基礎①　（全学科合同） テーマ：「電話、メール、服装等について」	当該範囲のシラバスとテキストの確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
5	３.ビジネス能力検定基礎②　（全学科合同） テーマ：「ビジネスマナーの基本」	当該範囲のシラバスとテキストの確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
6	経営学科の就活① 「業種・職種の違い」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
7	経営学科の就活② 「志望企業情報の調べ方」 「様々なメディアの有効な活用法」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
8	企業による講和①	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
9	企業による講和②	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
10	企業による講和③	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
11	GPS-Academicフィードバック　（全学科合同） GPS-Academicの活用方法ややるべき事	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
12	インターンシップ　実践編　（全学科合同） テーマ：インターンシップとは	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
13	インターンシップ　入門編　（全学科合同） テーマ：将来就職活動をする上でのインターンシップの位置付け	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
14	北海道テレビ放送株式会社 編成局アナウンス部兼情報局スポーツ部 五十幡裕介氏　（全学科合同）	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
15	株式会社自然農園 制作部　マネージャー 渋谷智誉丸氏(全学科合同)	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
16	小テスト→まとめ　（全学科合同） ビジネス能力検定ジョブパス3級の紹介 授業改善アンケートの実施	全授業内容整理と小テストの準備（４５分）	全授業内容のまとめ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（D） （科目ナンバリング：S0E011009 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	1 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会人になるための心構えや一般的な常識、さらには学科の特性に準じた専門的な基本知識も学び、卒業年度に始まる就職活動に必要な態勢を早期に身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２に対応する。（２023・2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２に対応する。（２021年度）

到達目標

インターンシップや就職活動の際に実践することができる一般的及び専門的な知識や技術の習得。さらには自ら率先し、周囲の状況に流されることなく就職活動に臨む姿勢を持たせる。

授業全体の内容と概要

まずは働くことの必然性を学び、社会人になることについての興味を引き出す。続いて、学科の特性に準じた専門的な進路のパターンを具体的な例を示し、それらを自らの選択肢として捉えられるようにする。これに加えて、あらゆる業種において共通する一般常識も伝え、会社説明会や会社訪問など、就職活動に参加する際に必要になる態勢を作る。

授業の方法

就職活動に必要な知識を伝えるためPowerPointなどの資料を提示しながらの講義が中心になるが、就職活動や各種業界に対する取材を適時行わせ、それらについての疑問や質問に対しては随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
一般常識を学ぶに当たっては「ビジネス能力検定ジョブパス３級公式テキスト」を用い、カリキュラム終了後には検定の受験を紹介し、希望者を募る。
不測時における授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎授業に於いて、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。
授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。
遅刻１回は０．５回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「社会人に必要とされる一般常識を理解している。」	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についてほぼ理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が不十分である。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が全くできていない。
思考力・判断力・表現力「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に望むことができる応用力を身につけている」	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては模範的な実践ができるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては実践できるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識は理解しているが、就職活動に於いて実践できるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要な一般常識の理解が不十分であり、実践できるレベルには到達していない。	社会人に必要な一般常識を理解できておらず、就職活動が行える段階にない。
主体性・多様性・協働性「就職活動を前提とし、デザイン学科の特性に合わせた各種課題に対し、適切に対応することができる」	与えられた種々の課題に対し、臨機応変に適切に対応しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みは積極的であったが、適切に対応しきれていなかった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応しきれておらず、取り組みも積極的ではなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（D） （科目ナンバリング：S0E011009 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	1 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『2024年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト』	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団	株式会社 日本能率協会マネジメント	2023	978-4-8005-9153-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション/キャリタスUCの登録　（全学科合同） ・この科目の内容と目的の理解・評価方法等	シラバス全体を一読しておくこと（４５分）	授業内容の整理（４５分）
2	公務員の仕事について①　（全学科合同）	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
3	公務員の仕事について②　（全学科合同）	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
4	ビジネス能力検定基礎①　（全学科合同） テーマ：「電話、メール、服装等について」	当該範囲のシラバスとテキストの確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
5	３.ビジネス能力検定基礎②　（全学科合同） テーマ：「ビジネスマナーの基本」	当該範囲のシラバスとテキストの確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
6	デザイン学科の就活① 「デザインの業種・職種」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
7	デザイン学科の就活① 「志望企業情報の調べ方」 「様々なメディアの有効な活用法」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
8	デザイン学科の就活② 「就活に必要なツール」 ・ポートフォリオと名刺	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
9	デザイン学科の就活③ 「企業との接点の作り方」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
10	デザイン学科の就活④ 「就活の事例紹介」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
11	GPS-Academicフィードバック　（全学科合同） GPS-Academicの活用方法ややるべき事	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
12	インターンシップ　実践編　（全学科合同） テーマ：インターンシップとは	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
13	インターンシップ　入門編　（全学科合同） テーマ：将来就職活動をする上でのインターンシップの位置付け	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
14	北海道テレビ放送株式会社 編成局アナウンス部兼情報局スポーツ部 五十幡裕介氏　（全学科合同）	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
15	株式会社自然農園 制作部　マネージャー 渋谷智誉丸氏(全学科合同)	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
16	小テスト→まとめ　（全学科合同） ビジネス能力検定ジョブパス3級の紹介 授業改善アンケートの実施	全授業内容整理と小テストの準備（４５分）	全授業内容のまとめ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（A） （科目ナンバリング：S0E011009 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館7階		
単位数	1 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会人になるための心構えや一般的な常識、さらには学科の特性に準じた専門的な基本知識も学び、卒業年度に始まる就職活動に必要な態勢を早期に身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP２に対応する。（２023・2022年度）
建築学科のDP２に対応する。（２021年度）

到達目標

インターンシップや就職活動の際に実践することができる一般的及び専門的な知識や技術の習得。さらには自ら率先し、周囲の状況に流されることなく就職活動に臨む姿勢を持たせる。

授業全体の内容と概要

まずは働くことの必然性を学び、社会人になることについての興味を引き出す。続いて、学科の特性に準じた専門的な進路のパターンを具体的な例を示し、それらを自らの選択肢として捉えられるようにする。これに加えて、あらゆる業種において共通する一般常識も伝え、会社説明会や会社訪問など、就職活動に参加する際に必要になる態勢を作る。

授業の方法

就職活動に必要な知識を伝えるためPowerPointなどの資料を提示しながらの講義が中心になるが、就職活動や各種業界に対する取材を適時行わせ、それらについての疑問や質問に対しては随時対応する。
授業で用いた教材は全てTeamsのファイル又はクラウドストレージへアップロードし、学生が任意で閲覧できる資料として蓄積する。
一般常識を学ぶに当たっては「ビジネス能力検定ジョブパス３級公式テキスト」を用い、カリキュラム終了後には検定の受験を紹介し、希望者を募る。
不測時における授業や補講等ではオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎授業に於いて、当日定時までに提出するレポート課題が設定される。
授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器を用いることが多いため、準備を整えておくこと。
遅刻１回は０.５回の欠席扱いとする。但し、交通機関の遅延による遅刻は証明書類を持って担当教員に申し出ること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	８０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「社会人に必要とされる一般常識を理解している。」	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解し、実践可能なレベルで身に付けている。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割について十分に理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についてほぼ理解している。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が不十分である。	社会人に必要な一般常識と、その必要性と役割についての理解が全くできていない。
思考力・判断力・表現力 「社会人に必要とされる一般常識を基にして、就職活動に望むことができる応用力を身につけている」	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては模範的な実践ができるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識を理解し、就職活動に於いては実践できるレベルに到達した。	社会人に必要な一般常識は理解しているが、就職活動に於いて実践できるレベルには未だ到達していない。	社会人に必要な一般常識の理解が不十分であり、実践できるレベルには到達していない。	社会人に必要な一般常識を理解できておらず、就職活動が行える段階にない。
主体性・多様性・協働性 「就職活動を前提とし、デザイン学科の特性に合わせた各種課題に対し、適切に対応することができる」	与えられた種々の課題に対し、臨機応変に適切に対応しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応するよう努力しており、取り組みも積極的であった。	与えられた種々の課題に対し、取り組みは積極的であったが、適切に対応しきれていなかった。	与えられた種々の課題に対し、適切に対応しきれておらず、取り組みも積極的ではなかった。	与えられた種々の課題に対し、取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱ支援演習Ⅰ（A） （科目ナンバリング：S0E011009 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館7階	
単位数	1 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『2024年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト』	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団	株式会社 日本能率協会マネジメント	2023	978-4-8005-9153-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション/キャリタスUCの登録　（全学科合同） ・この科目の内容と目的の理解・評価方法等	シラバス全体を一読しておくこと（４５分）	授業内容の整理（４５分）
2	公務員の仕事について①　（全学科合同） テーマ：「公務員の仕事について」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
3	公務員の仕事について②　（全学科合同） テーマ：「電話、メール、服装等について」	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
4	ビジネス能力検定基礎①　（全学科合同） テーマ：「電話、メール、服装等について」	当該範囲のシラバスとテキストの確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
5	３.ビジネス能力検定基礎②　（全学科合同） テーマ：「ビジネスマナーの基本」	当該範囲のシラバスとテキストの確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
6	建築学科の就職ガイダンス 学科に特化した就職情報の提供	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
7	建築学科の就職ガイダンス 学科に特化した就職情報の提供	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
8	学科別業界研究 (学科ごとに教室分かれます) 学科に特化した企業や法人を招集	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
9	学科別業界研究 (学科ごとに教室分かれます) 学科に特化した企業や法人を招集	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
10	学科別業界研究 (学科ごとに教室分かれます) 学科に特化した企業や法人を招集	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
11	GPS-Academicフィードバック　（全学科合同） GPS-Academicの活用方法ややるべき事	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
12	インターンシップ　実践編　（全学科合同） テーマ：インターンシップとは	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
13	インターンシップ　入門編　（全学科合同） テーマ：将来就職活動をする上でのインターンシップの位置付け	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
14	北海道テレビ放送株式会社 編成局アナウンス部兼情報局スポーツ部 五十嵐裕介氏　（全学科合同）	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
15	株式会社自然農園 制作部　マネージャー 渡谷誉丸氏(全学科合同)	当該範囲のシラバス確認（４５分）	授業内容の整理（４５分）
16	小テスト→まとめ　（全学科合同） ・ふりかえり　・授業評価	全授業内容整理と小テストの準備（４５分）	全授業内容のまとめ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科1年生		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ボールパークプログラ　（科目ナンバリング：APT091055　）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一(建築・教授)、信濃　吉彦（経営・教授）、鈴木　重政（経営・教	研究室等所在	2号館6階（信濃）　他　各教員の研究室を確認すること		
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各担当教員の研究室前掲示ボード等を確認すること。				

概要

履修目標

我が街に在るボールパーク（エスコンフィールド北海道およびFビレッジ）に関する学び・調査・分析・講演を通して知識を獲得し、街の発展に寄与することを目的とする。各回の担当教員の専門域を通じてボールパークを総合的に分析し、街の発展に寄与できる知識やアイディア提案をするための素地を作る。

授業の位置づけ

本講座は、大学のすべてのディプロマポリシーに対応する科目である。（2024年度）

到達目標

ボールパークの案内ができるレベルまで球場とその周辺を熟知しどうすれば地域や北広島市と発展的な関係を築くことができるかを思考できるレベルに到達すること。

授業全体の内容と概要

本講座は座学と見学、講演の3本柱で構成される。座学は6名の教員が担当する。見学と講演会を正当な理由なく欠席した場合は単位認定しない。
最低出席回数は13回とし、その他に課題やレポートを義務づける。

授業の方法

授業回数は15回そのほかに見学会と講演会を実施予定。未知の言葉や理論に出会った時には必ず調べてから教員に確認のうえノートにまとめること。手ぶらでの出席は欠席とする。単位認定に必要な出席回数は、見学会や講演会を含めて13回とする。現場100回という言葉を胸にボールパークのセミプロを目指してあらゆる情報を貪欲に収集してもらいたい。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業回数は15回そのほかに見学会と講演会を実施予定。遅刻は2回で欠席1にカウントする。また、遅刻は5分までとし遅刻者は入室時に必ず担当教員に遅刻の申告を行う事。飲食と戴帽は厳に禁止する。提出期限を過ぎた課題やレポートは、これを受け付けない。未知の言葉や理論に出会った時には必ず調べてから教員に確認のうえノートにまとめること。手ぶらでの出席は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談によって、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポート行う。従って、該当すると思われる学生は必ず経営学科信濃教授まで事前相談に伺うこと。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、見学会や講演会を含めて13回とする。遅刻は2回で欠席1にカウントする。また、遅刻は5分までとし遅刻者は入室時に必ず担当教員に遅刻の申告を行う事。飲食と戴帽は厳に禁止する。提出期限を過ぎた課題やレポートは、これを受け付けない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１５%	０%	０%	７０%	１５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	ボールパークおよび周辺の状況を詳しく理解し、事例に対応した理想的な提案を構築できた。	ボールパークおよび周辺の状況を十分に理解し、事例に対応した新たな提案を構築できた。	ボールパークおよび周辺の状況を理解し、学習事例を理解できた。	ボールパークおよび周辺の状況を理解していた。	ボールパークおよび周辺の状況を理解できていなかった。
思考力・判断力・表現力	ボールパーク特にFビレッジの現状を完全に理解し、現状改善に向けた持論を展開できた。	ボールパーク特にFビレッジの現状を十分に理解し、現状改善の在り方を提示できた。	ボールパーク特にFビレッジの現状を理解し、現状改善の考え方を理解できた。	ボールパーク特にFビレッジの現状を理解していた。	ボールパーク特にFビレッジの現状を理解できていなかった。
主体性	学生の視点から本講座の目的を完全に理解し、クラスメートに対しても様々な意見を提案できた。	学生の視点から本講座の目的を十分に理解し、意見の展開を試みることができた。	学生の視点から本講座の目的を理解し、意見を提示できた。	学生の視点から本講座の目的を理解した活動を行っていた。	学生の視点から本講座の目的を理解した活動を行う事ができていなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科1年生		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ボールパークプログラ　（科目ナンバリング：APT091055　）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一(建築・教授)、信濃　吉彦（経営・教授）、鈴木　重政（経営・教	研究室等所在	2号館6階（信濃）　他　各教員の研究室を確認すること		
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　担当：信濃・鈴木　シラバスの説明，授業計画 BP創造　米国のボールパークとは（理念・米国の	シラバスを読み込み、ノートを準備し初回の学習内容に関する情報の収集を開始する。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
2	BPと夢・幸福・平和　日本のボールパークの状況（目標設定）　担当：信濃	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
3	BPマーケティング（顧客創造、デザイン） 担当：鈴木	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
4	BPとイノベーション（オペレーション、デザイン）	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
5	BPとホスピタリティ　担当：畠山	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
6	BPとヘルスケア　担当：湯浅	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
7	BPと環境（SDGs）　担当：鈴木	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
8	講演　ファイターズのスポーツビジネス 演者　株式会社ファイターズ スポーツ&エンターテイメント担当部署	講演予定の内容に沿った情報収集に努め、質問事項や確認事項をノートにまとめる。（９０分）	講演の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
9	BP建設までの経緯と現状　北海道日本ハムファイターズの場合　担当：安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
10	BP提案　北海道日本ハムファイターズへの提案（学生のアイディア）　担当：安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
11	BP概要#1　北海道日本ハムファイターズBP　敷地計画，建築概要　担当：安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
12	BP概要#2　北海道日本ハムファイターズBP　建築概要，周辺エリア，避難施設計画　担当：安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
13	BPファイナンス（財務・マネー）　BPと北広島市のまちづくり#1　担当：石山	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
14	BPと地域のwin win（地域マネジメント）　BPと北広島市のまちづくり#2　担当：安藤	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
15	BPと未来の街（行政マネジメント）　担当：石山	学習予定の内容に沿った情報収集に努める。（９０分）	授業の振り返りを行いノートを作成すること。（９０分）
16	総括＆これからの北広島　担当：安藤・信濃	本講座を振り返って、確認事項や満足度をノートにまとめ、質問事項や確認事項をまとめておく。（９０分）	自分なりに本講座の感想をまとめてノートに記録すること。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ　（科目ナンバリング：DES211016　）				
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザイナーになる為に必要な基礎デザインの技術を習得する。
頭の中に形を形成出来るようにして、そのイメージを第三者へ伝達、表現出来るようにする。
また、自己レベル認識を持てるようにする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

モノの形を正確に認識出来、脳内に形を形成出来るようにして、自分のイメージや意図を第三者に伝えられる事ができる。

授業全体の内容と概要

学生の脳内に形が形成出来るように、色々な製品の鉛筆スケッチを行う。
既製品をモチーフにスケッチするが、後半は自分の想像（脳内のイメージ）スケッチを
行う。完成した作品は自分の意図したポイントを発表して第三者と意見交流をする。
SDG 12.,つくる責任、つかう責任に準じる。

授業の方法

身の回りにある製品やイメージしたものを鉛筆を使ってデザインスケッチする。自分の作品の意図したところを
プレゼンテーションして第三者の意見を考察する。課題に対するフィードバックを得る。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。
三菱鉛筆のハイユニのA4～B4を使って、A3ケント紙に鉛筆スケッチする。
A3サイズの課題を持ち帰る為にカルトンが必要。鉛筆と消しゴム、カルトンを用意してください。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上
課題提出は全点必ず。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
形を正確に捉え、頭の中に形成出来て、それを紙に表現する事を学ぶ。	モノの形を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	モノの形を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	モノの形を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	モノの形を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	モノの形を捉えられない、頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。
材質を正確に捉え、頭の中に形成出来て、それを紙に表現する事を学ぶ。	材質感を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	材質感を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	材質感を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	材質感を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	材質感を捉えられない、頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。
架空のモノを頭の中に造り上げ、手を通して紙に表現する事を学ぶ。	想像物を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	想像物を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	想像物を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	想像物を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	想像物を捉えられない、頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES211016 ）				
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 林　春生 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、デザインとは？ 授業改善アンケート結果反映の説明 基本形1　鉛筆デザインスケッチ	シラバスを読んでおく。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
2	基本形1　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
3	想像形1　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
4	想像形1　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
5	基本形２　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
6	基本形２　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
7	想像形２　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
8	想像形２　鉛筆デザインスケッチプレゼンテーション	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
9	基本形３鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
10	基本形３鉛筆デザインスケッチ、想像形３鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
11	想像形３鉛筆デザインスケッチ、プレゼンテーション	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
12	基本形４鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
13	基本形４鉛筆デザインスケッチ、想像形４鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
14	想像形４鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
15	想像形４鉛筆デザインスケッチ、プレゼンテーション	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
16	デザイン概念 総評 授業改善アンケート	要求された課題を作成する。（90分）	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニケーション論	（科目ナンバリング：S0C412014，S0C512008　　）			
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　山本　一彦　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

コミュニケーションという人間行動の意味を知り、小集団・組織から社会全体にいたるまで、さまざまな場面での社会的相互作用としてのコミュニケーションについて考え、理解することができる。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、DP4、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

コミュニケーションの理論について単に知識を習得するだけでなく、日々の生活場面におけるコミュニケーション行動のもつ意味と、コミュニケーションをめぐる現代的な問題について自ら考える姿勢をもてるようになることができる。

授業全体の内容と概要

まず、コミュニケーションの原理、形式、過程、メディアに目を向ける。次に組織コミュニケーション、とりわけネットワークおよびリーダーシップとフォロワーシップに焦点を当て、経営組織をコミュニケーションの視点から考察する。最後に、広く社会的コミュニケーションをとり上げ、特にオーディエンスの権利はどうあるべきかを追究し、合わせて現代社会のコミュニケーション問題を考える。

授業の方法

授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留となった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合の評価はＣとする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	定期試験における基礎事項該当部分で９０%以上の正答があった。	同部分が８０%以上９０%未満の正答であった。	同部分が７０%以上８０%未満の正答であった。	同部分が６０%以上７０%未満の正答であった。	同部分の正答が６０%に届かなかった。
思考力・判断力等	コミュニケーション原理を軸にして、さまざまな場面のコミュニケーション行動を充分に考察できていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
コミュニケーション問題への分析力・主体性等	授業の中心的テーマである組織コミュニケーション中心に、さまざまなコミュニケーション問題について充分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的な水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論	（科目ナンバリング：S0C412014，S0C512008 ）			
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2	（単位認定責任者：　山本　一彦　）	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	科目ガイダンス‥‥全体概要、目的とねらい、履修上の注意、評価方法説明、（シラバスの説明を含む）、前年度授業アンケート結果説明	シラバス内容の事前確認（９０分）	目的とねらいについての復習・確認(９０分)
2	Ⅰ.人間行動としてのコミュニケーション‥‥コミュニケーションとはどのような営みか	コミュニケーション概念についての事前考察(９０分)	コミュニケーションが人と人との社会的相互作用であることの復習・理解(９０分)
3	Ⅱ.コミュニケーションの形式と過程‥‥類型とモデル	人間の社会的相互作用にどのような型があるかについての事前考察(９０分)	コミュニケーションについての学問的な「類型とモデル」の復習・理解（９０分）
4	Ⅲ.組織コミュニケーションとリーダーシップ１．フォーマル･コミュニケーションとインフォーマル･コミュニケーション	組織と基礎集団におけるコミュニケーションの違いについての事前考察(９０分)	組織のフォーマルとインフォーマルの両面性についての復習・理解（９０分）
5	Ⅲ.組織コミュニケーションとリーダーシップ２．コミュニケーション･ネットワークと集団の効果性	組織の中にあるネットワークの種類についての事前考察(９０分)	ネットワークの種類とその機能的特徴についての復習・理解（９０分）
6	Ⅲ.組織コミュニケーションとリーダーシップ３．コミュニケーションとリーダーシップ（１）マネジメントとリーダーシップ	組織コミュニケーションでのリーダーシップについての事前考察(９０分)	良いマネジメントを超える対人的影響力についての復習・理解（９０分）
7	Ⅲ.組織コミュニケーションとリーダーシップ３．コミュニケーションとリーダーシップ（２）リーダーシップ理論の変化	リーダーシップをとらえる視点についての事前考察(９０分)	古典的リーダーシップ理論の特質・限界についての復習・理解(９０分)
8	Ⅲ.組織コミュニケーションとリーダーシップ３．コミュニケーションとリーダーシップ（２）リーダーシップ理論の変化	「個人的属性」に根拠を求めないリーダーシップ理論についての事前考察（９０分）	集団・組織機能向上とリーダーシップの関係についての復習・理解(９０分)
9	Ⅲ.組織コミュニケーションとリーダーシップ４．リーダーシップとフォロワーシップ	組織メンバーの行動とフォロワーシップについての事前考察（９０分）	リーダーシップとフォロワーシップの不可分性についての復習・理解(９０分)
10	Ⅲ.組織コミュニケーションとリーダーシップ４．リーダーシップとフォロワーシップ	フォロワーシップにはどのようなタイプがあるかについての事前考察(９０分)	フォロワーシップが組織機能に不可欠であることについての復習・理解(９０分)
11	Ⅳ.社会的コミュニケーション１．コミュニケーションとメディア	コミュニケーションにとってメディアとは何かについての事前考察　（９０分）	メディア類型についての復習・理解　（９０分）
12	Ⅳ.社会的コミュニケーション２．メディアと社会的現実	われわれにとっての社会的現実とは何かについての事前考察（９０分）	メディア環境と社会的現実の構成のされ方との関係についての復習・理解(９０分)
13	Ⅳ.社会的コミュニケーション３．オーディエンスの権利‥‥「知る権利」と「アクセス権」	現代のオーディエンスにとって必要となる権利についての事前考察　（９０分）	メディア環境とオーディエンスの権利の関係についての復習・理解　（９０分）
14	Ⅴ.現代コミュニケーションの特質と諸問題	人々の社会的相互作用に生じている問題についての事前考察（９０分）	社会的技術的変化によるコミュニケーション問題についての復習・理解　（９０分）
15	総括と試験概要説明、授業アンケート実施	ノートの整理と重要事項のチェック(９０分)	試験対応のための復習・理解(９０分)
16	試験および解説６０分の試験終了後，残りの３０分で解説	試験対応準備（９０分）	解説内容の確認・理解（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	絵画 （科目ナンバリング：AEA22117 ）				
授業担当者（所属・職名）	西田　陽二（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 西田　陽二 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

絵画を完成させることで，手順を理解し自ら作品を制作できる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

アカデミックな技法により，基礎的な絵画技術の向上と基本的な混色の理解をする。

授業全体の内容と概要

人物（顔）を中心にオーソドックスな手法を使い絵画で表現することで基本的なものの見方や技術をマスターする。

授業の方法

プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

絵画用具等の材料は各自が用意する。
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，２０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
解剖学的な顔の表現が出来ているかを基準とする	固有色にとらわれない表現が出来てた。	自然な形態感が出来ていた。	自然なバランスで表現出来ていた。	大きな調子の流れが出来ていた。	一部のみが強調されバランスを崩していた。
３原色に夜混色が正しく理解できている	彩度のコントロールが出来た。	色相のコントロールが出来た。	明度のコントロールが出来た。	大きな調子の流れが出来た。	一部の調子が破綻していても理解出来なかった。
自分が目標とした画風を最後まで表現出来るかを基準とする	作風の狙い等が的確に表現されていた。	雰囲気のある表現が出来た。	個性的な表現を追及出来た。	無理のない画風を選択表現出来た。	思いつきだけの画風で表現しようとした。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	絵画 （科目ナンバリング：AEA22117 ）				
授業担当者（所属・職名）	西田　陽二（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 西田　陽二 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション=シラバスの説明 油彩画のための用具野説明，授業の流れと目的などについて。授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
2	オリエンテーション 油彩画のための用具野説明，授業の流れと目的などについて。	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
3	個人的に構想（コンセプト）等の確認とアドバイス資料つくり	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
4	個人的に構想（コンセプト）等の確認とアドバイス資料つくり	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
5	個人的に構想（コンセプト）等の確認とアドバイス資料つくり	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
6	個人的に構想（コンセプト）等の確認とアドバイス資料つくり	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（45分）（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
7	個人的に構想（コンセプト）等の確認とアドバイス資料つくり	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
8	個人的に構想（コンセプト）等の確認とアドバイス資料つくり	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
9	（自画像創作＞を描く（Ｆ１２号）３色（青，赤，黄）の混色によって出来る色（暗灰色）で自分の顔をデッサンする。①	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
10	（自画像創作＞を描く（Ｆ１２号）３色（青，赤，黄）の混色によって出来る色（暗灰色）で自分の顔をデッサンする。①	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
11	ホワイトを盛り上げて塗り，マチエール（絵肌）を作る。②	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
12	ホワイトを盛り上げて塗り，マチエール（絵肌）を作る。②	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと）（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
13	３色のみの混色によって出来る様々な色とホワイトを使い，グレージング（薄塗り）によって描き進める。③	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
14	３色のみの混色によって出来る様々な色とホワイトを使い，グレージング（薄塗り）によって描き進める。③	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
15	③の作業にホワイトによる形などの修正を加え，さらにグレージングの手法を使い描き進める④	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
16	③の作業にホワイトによる形などの修正を加え，さらにグレージングの手法を使い描き進める④	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	描き込みを進める。⑤	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
18	描き込みを進める。⑤	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
19	描き込みを進める。⑥	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
20	描き込みを進める。⑥	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
21	描き込みを進める。⑦	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
22	描き込みを進める。⑦	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
23	描き込みを進める。⑧	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
24	描き込みを進める。⑧	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
25	描き込みを進める。⑨	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
26	描き込みを進める。⑨	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
27	描き込みを進める。⑩	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
28	描き込みを進める。⑩	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
29	描き込みを進める。（油の層が出来ていくことを確認する）⑪	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
30	描き込みを進める。（油の層が出来ていくことを確認する）⑪	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
31	細部を描き込み作品を完成させる。⑫	配布された参考作品及び資料を読み，道具の手入れをしておくこと（４５分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（４５分）
32	採点及び講評会を行う （解説・フィードバック）⑬ 授業改善アンケート実施	提出課題の完成へ向けて準備をしておくこと（４５分）	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	法学	（科目ナンバリング：LAW361122 LAW161174 LAW261132 LAW461144）			
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者：　青山　浩之　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

法律は，市民生活や経済活動を送るうえで欠かせないものである。法的な問題が生じたとき、迅速かつ的確に対応できるよう，条文を理解し，適用・解釈できるように学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のDP2に対応する。（2024年度）

到達目標

法律に対して感じるむずかしさや抵抗感を取り除き，法律の基本知識を修得する。法律の基本知識を修得することにより，条文を理解し，適用・解釈できる。

授業全体の内容と概要

法律の基本となる知識を修得することを目的とし，条文を理解し，適用・解釈できるようになることを目標とする。さらには，法的な問題が生じたとき，迅速かつ的確に対応できる人材を育成することを目標とする。法の基本となる知識を修得し，実例に即し講義を行う。具体的には，日本において法律の基礎となる六つの法典，憲法，民法，商法，刑法，民事訴訟法，刑事訴訟法について，条文をベースに解説する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は，資料をパワーポイントで投影し，資料（第３回から第１４回の計１２回）を配布して実施する（調査学習含む）。授業の進行は，前回の復習から始まり，本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。
①確認テストは，講義の理解を深めるために４回（前年実績）実施する。②ビデオ視聴は，課題解決力を養うために２回（前年実績）（受講人数・使用教室などによっては実施しない）実施する。①②についてのフィードバックは，講義内で解説を行う。
※補講が必要な場合は実施する（公欠などの学生に対しては補講を実施する）。
※確認テストなどは、Microsoft Formsの小テストから実施し，学生全体の理解度を把握し，指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・私語などの迷惑行為は厳禁。
・講義中スマホの操作は厳禁，マナーモードで受講してください。
・六法を持参することを推奨。
・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。
※課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の４割を占めるので，１２回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り，理解できる	法律の条文を読み取り，理解でき，さらに自分の意見を述べる	法律の条文を読み取り，理解でき，自分なりの説明できる	法律の条文を読み取り，理解できる	法律の条文を読み取れる	法律の条文を読み取れない
事例を理解し，法律の条文を適用できる	事例を理解し，法律の条文を適用し，さらに自分の意見を述べる	事例を理解し，法律の条文を適用し，自分なりの説明できる	事例を理解し，法律の条文を適用できる	事例を理解し，法律の条文を理解できる	事例を読み取れず，法律の条文を理解できない
課題に対し，問題解決ができる	解答が的確で，過不足なく網羅して答えている	一部に解答と関係ないことを答えているが，解答は答えている	改善すべき点があるが，解答は一通り答えている	的確ではないが，解答を部分的には答えている	解答が論点にズレがあり，テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	法学	（科目ナンバリング：LAW361122 LAW161174 LAW261132 LAW461144 ）			
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者：　青山　浩之　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『法学入門』	宍戸常寿・石川博康	有斐閣	２０２１年	9784641126183	
2	『ポケット六法　令和６年版』	佐伯仁志・大村敦志・荒木尚志／編集代表	有斐閣	２０２３年	9784641009240	
3	『条文ガイド六法 憲法 第２版』	尾崎哲夫	自由国民社	２０１４年	9784426118730	
4	『大学生活と法学』	江藤祥平・大塚智見・遠藤聡太・粟谷しのぶ・辰野嘉則・田原	有斐閣	２０２２年	9784641126312	
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス　法とは何か	シラバスの確認（９０分）	復習（９０分）
2	シラバスの説明 ガイダンス　法とは何かー法と道徳，法の目的・種類	シラバスの確認 法とは何かを考える調べ学習（９０分）	復習（９０分）
3	法の適用と解釈ー法と裁判 確認テスト１（前年実績）	法と裁判についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
4	日本国憲法の基本原理ー基本的人権	基本的人権についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
5	日本国憲法の基本原理ー権力分立	権力分立二についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
6	日本国憲法の基本原理ー国民主権と国会	国民主権と国会についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
7	民法ー全体像と基本原理 確認テスト２（前年実績）	民法と基本原理についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
8	民法ー契約	契約についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
9	民法ー権利主体と法律行為 ビデオ視聴１（前年実績）	権利主体と法律行為についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
10	民法ー物権 民事訴訟法ー全体像と目的 確認テスト３（前年実績）	物権と民事訴訟法についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
11	会社法ー全体像と株式会社のしくみ	会社法と株式会社のしくみについての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
12	刑法ー法益保護機能と自由保障機能，罪刑法定主義	法益保護機能と自由保障機能，罪刑法定主義についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
13	刑法ー犯罪が成立するためのプロセス，行為無価値論と結果無価値論 確認テスト４（前年実績）	犯罪が成立するためのプロセス，行為無価値論と結果無価値論についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
14	刑法ー犯罪の構成要件，犯罪の保護法益 刑事訴訟法ー全体像と目的	犯罪の構成要件，犯罪の保護法益と刑事訴訟法についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
15	まとめ 定期試験の説明 授業改善アンケートの実施	第３回から第１４回まで復習（９０分）。	試験範囲の確認，第３回から第１４回まで復習（９０分）
16	定期試験（６０分） 定期試験の解説，採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認，第３回から第１４回まで復習（９０分）	復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（M） （科目ナンバリング：SOF061043 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、薦田　勇智（経営学科・専任講師）、由水	研究室等所在	１号館２階（佐藤）・２号館７階（薦田）・１号館２階（由		
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　雅一 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

プレゼンテーション能力は就職や進学の場面だけでなく、卒業後の学術的な発表や職場でのリーダーシップ力の鍵となる必須の能力である。プレゼンテーション能力を磨くためには、積極的に発言し、発表の練習を行うことが大切であり、スライドのデザインや話し方も重要なポイントである。
本授業は、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨くことを目的とする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

本授業ではプレゼンテーション能力を伸ばすために、以下のように目的を設定する。
・人に伝える内容と目的を明確に把握し、情報を集め資料を用意できること。
・情報源の明示、情報の正確性の確認、著作権を尊重すること。
・PowerPoint を使って発表資料を対象者に応じて視覚的に表現できること。
・PowerPointのスライドを使って、わかりやすくかつ効果的に説明できること。

授業全体の内容と概要

・基礎編では規定課題を通して、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。
・個人別作成編では、テーマを一つ選択し、個性を活かしたPowerPointスライドを作成する。
・自由作成編は、自由テーマでPowerPointスライドを作成する。これは定期試験に代わる評価対象である。
・個人別作成編と自由作成編の終了時には、それぞれ発表会と講評が設けられている。
・本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	１００%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集力	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	正しい情報源から必要な情報を収集することができた。著作権についても確認していた。	必要な情報を収集することができたが、情報源ならびに著作権についての確認は曖昧だった。	必要な情報を収集することができなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。
効果的なプレゼンテーション能力	表情が豊かで、言葉と合わせて身振り手振りも活用し、聴衆全体を惹きつけるプレゼンテーションができた。	聴衆全体に通る声で、明確で説得力のあるプレゼンテーションができた。	説得力のあるプレゼンテーションができた。	プレゼンテーションはできたが、説得力にかけていた。	プレゼンテーションがうまくできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（M）　（科目ナンバリング：S0F061043　　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、薦田　勇智（経営学科・専任講師）、由水	研究室等所在	１号館２階（佐藤）・２号館７階（薦田）・１号館２階（由		
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認 ・授業の進め方の確認	シラバスを読む（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
2	◇基礎１ Excelの基本的な使い方	Excelの使い方について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
3	◇基礎2 Excelの基本的な使い方	Excelの使い方について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
4	◇基礎３ ・Excelを使った計算 ・Excelで使える関数の確認	Ｅｘｃｅｌの特徴について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
5	◇基礎４ Excelを使った表の作成		操作方法を復習する（４５分）
6	◇基礎５ ・規定課題を通してPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本的を理解する		操作方法を復習する（４５分）
7	◇個人別作成１ ・課題をいくつかのテーマから選択 ・各自がテーマに沿った内容で作成		操作方法を復習する（４５分）
8	◇個人別作成２ ・作成の続き		メモやノートを整理する（４５分）
9	◇個人別作成３ ・完成		メモやノートを整理する（４５分）
10	◇発表会（予選） ◇プレゼンテーション技法		メモやノートを整理する（４５分）
11	◇発表会（選抜者） ◇講評		メモやノートを整理する（４５分）
12	○自由作成１（評価用） ・各自がテーマを自由に設定 ・採点対象作品の作成		メモやノートを整理する（４５分）
13	○自由作成２（評価用） ・作成の続き		操作方法を復習する（４５分）
14	○自由作成３（評価用） ・完成		操作方法を復習する（４５分）
15	○自由作品の内容確認と講評 ・講評は学生同士で行う ・優秀作を選出		操作方法を復習する（４５分）
16	○優秀作紹介 ○プレゼンテーションの発展的利用について ○まとめ		試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（S） （科目ナンバリング：S0F061043 ）				
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）、宮崎　剛士（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階（薦田）・１号館２階（宮崎）		
単位数	1 （単位認定責任者： 薦田　勇智 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

プレゼンテーション能力は就職や進学の場面だけでなく、卒業後の学術的な発表や職場でのリーダーシップ力の鍵となる必須の能力である。プレゼンテーション能力を磨くためには、積極的に発言し、発表の練習を行うことが大切であり、スライドのデザインや話し方も重要なポイントである。
本授業は、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨くことを目的とする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

本授業ではプレゼンテーション能力を伸ばすために、以下のように目的を設定する。
・人に伝える内容と目的を明確に把握し、情報を集め資料を用意できること。
・情報源の明示、情報の正確性の確認、著作権を尊重すること。
・PowerPoint を使って発表資料を対象者に応じて視覚的に表現できること。
・PowerPointのスライドを使って、わかりやすくかつ効果的に説明できること。

授業全体の内容と概要

・基礎編では規定課題を通して、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。
・個人別作成編では、テーマを一つ選択し、個性を活かしたPowerPointスライドを作成する。
・自由作成編は、自由テーマでPowerPointスライドを作成する。これは定期試験に代わる評価対象である。
・個人別作成編と自由作成編の終了時には、それぞれ発表会と講評が設けられている。
・本科目は、情報リテラシー教育の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	１００%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集力	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	正しい情報源から必要な情報を収集することができた。著作権についても確認していた。	必要な情報を収集することができたが、情報源ならびに著作権についての確認は曖昧だった。	必要な情報を収集することができなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。
効果的なプレゼンテーション能力	表情が豊かで、言葉と合わせて身振り手振りも活用し、聴衆全体を惹きつけるプレゼンテーションができた。	聴衆全体に通る声で、明確で説得力のあるプレゼンテーションができた。	説得力のあるプレゼンテーションができた。	プレゼンテーションはできたが、説得力にかけていた。	プレゼンテーションがうまくできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（S）　（科目ナンバリング：S0F061043　）				
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）、宮崎　剛士（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階（薦田）・１号館２階（宮崎）		
単位数	1　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートから ・プレゼンテーション能力の重要性	シラバスを読む（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
2	◇基礎１ ・規定課題を通してPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本的を理解する	ネットワーク上のマナーについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
3	◇基礎２ ・規定課題を通してPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本的を理解する	Microsoft Officeについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
4	◇基礎３ ・規定課題を通してPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本的を理解する	Ｗｏｒｄの書式設定について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
5	◇基礎４ ・規定課題を通してPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本的を理解する	Ｗｏｒｄの書式設定について復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
6	◇基礎５ ・規定課題を通してPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本的を理解する	ビジネス定型文書の作成１ついて復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
7	◇個人別作成１ ・課題をいくつかのテーマから選択 ・各自がテーマに沿った内容で作成	ビジネス定型文書の作成２について復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
8	◇個人別作成２ ・作成の続き	ヘッダーとフッターについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
9	◇個人別作成３ ・完成	Ｅｘｃｅｌの特徴について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
10	◇発表会（予選） ◇プレゼンテーション技法	Ｅｘｃｅｌの計算式と関数について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
11	◇発表会（選抜者） ◇講評	Ｅｘｃｅｌのグラフ作成について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
12	○自由作成１（評価用） ・各自がテーマを自由に設定 ・採点対象作品の作成	Ｅｘｃｅｌでよく使われる関数について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
13	○自由作成２（評価用） ・作成の続き	ソートについて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
14	○自由作成３（評価用） ・完成	Ｅｘｃｅｌの扱えるデータについて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
15	○自由作品の内容確認と講評 ・講評は学生同士で行う ・優秀作を選出	授業の全般について復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
16	○優秀作紹介 ○プレゼンテーションの発展的利用について ○まとめ	全授業内容を確認する（４５分）	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（D）　（科目ナンバリング：S0F061043　）				
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）、佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水	研究室等所在	２号館７階（薦田）・１号館２階（佐藤）・１号館２階（由		
単位数	1　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

プレゼンテーション能力は就職や進学の場面だけでなく、卒業後の学術的な発表や職場でのリーダーシップ力の鍵となる必須の能力である。プレゼンテーション能力を磨くためには、積極的に発言し、発表の練習を行うことが大切であり、スライドのデザインや話し方も重要なポイントである。
本授業は、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨くことを目的とする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

本授業ではプレゼンテーション能力を伸ばすために、以下のように目的を設定する。
・人に伝える内容と目的を明確に把握し、情報を集め資料を用意できること。
・情報源の明示、情報の正確性の確認、著作権を尊重すること。
・PowerPoint を使って発表資料を対象者に応じて視覚的に表現できること。
・PowerPointのスライドを使って、わかりやすくかつ効果的に説明できること。

授業全体の内容と概要

・基礎編では規定課題を通して、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。
・個人別作成編では、テーマを一つ選択し、個性を活かしたPowerPointスライドを作成する。
・自由作成編は、自由テーマでPowerPointスライドを作成する。これは定期試験に代わる評価対象である。
・個人別作成編と自由作成編の終了時には、それぞれ発表会と講評が設けられている。
・本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	１００%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集力	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	正しい情報源から必要な情報を収集することができた。著作権についても確認していた。	必要な情報を収集することができたが、情報源ならびに著作権についての確認は曖昧だった。	必要な情報を収集することができなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。
効果的なプレゼンテーション能力	表情が豊かで、言葉と合わせて身振り手振りも活用し、聴衆全体を惹きつけるプレゼンテーションができた。	聴衆全体に通る声で、明確で説得力のあるプレゼンテーションができた。	説得力のあるプレゼンテーションができた。	プレゼンテーションはできたが、説得力にかけていた。	プレゼンテーションがうまくできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（D） （科目ナンバリング：S0F061043 ）				
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）、佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水	研究室等所在	２号館７階（薦田）・１号館２階（佐藤）・１号館２階（由		
単位数	1 （単位認定責任者： 薦田　勇智 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートから ・プレゼンテーション能力の重要性	シラバスを読む（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
2	◇基礎１ ・規定課題を通してPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本的を理解する	ネットワーク上のマナーについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
3	◇基礎２ ・規定課題を通してPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本的を理解する	Microsoft Officeについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
4	◇基礎３ ・規定課題を通してPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本的を理解する	Ｗｏｒｄの書式設定について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
5	◇基礎４ ・規定課題を通してPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本的を理解する	Ｗｏｒｄの書式設定について復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
6	◇基礎５ ・規定課題を通してPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本的を理解する	ビジネス定型文書の作成１ついて復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
7	◇個人別作成１ ・課題をいくつかのテーマから選択 ・各自がテーマに沿った内容で作成	ビジネス定型文書の作成２について復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
8	◇個人別作成２ ・作成の続き	ヘッダーとフッターについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
9	◇個人別作成３ ・完成	Ｅｘｃｅｌの特徴について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
10	◇発表会（予選） ◇プレゼンテーション技法	Ｅｘｃｅｌの計算式と関数について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
11	◇発表会（選抜者） ◇講評	Ｅｘｃｅｌのグラフ作成について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
12	○自由作成１（評価用） ・各自がテーマを自由に設定 ・採点対象作品の作成	Ｅｘｃｅｌでよく使われる関数について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
13	○自由作成２（評価用） ・作成の続き	ソートについて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
14	○自由作成３（評価用） ・完成	Ｅｘｃｅｌの扱えるデータについて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
15	○自由作品の内容確認と講評 ・講評は学生同士で行う ・優秀作を選出	授業の全般について復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
16	○優秀作紹介 ○プレゼンテーションの発展的利用について ○まとめ	全授業内容を確認する（４５分）	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（A）　（科目ナンバリング：SOF061043　　）				
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）、佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水	研究室等所在	２号館７階（薦田）・１号館２階（佐藤）・１号館２階（由		
単位数	1　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

プレゼンテーション能力は就職や進学の場面だけでなく、卒業後の学術的な発表や職場でのリーダーシップ力の鍵となる必須の能力である。プレゼンテーション能力を磨くためには、積極的に発言し、発表の練習を行うことが大切であり、スライドのデザインや話し方も重要なポイントである。
本授業は、PowerPointを使ったプレゼンテーション資料の作成方法や効果的な説明法を学び、プレゼンテーション能力を磨くことを目的とする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

本授業ではプレゼンテーション能力を伸ばすために、以下のように目的を設定する。
・人に伝える内容と目的を明確に把握し、情報を集め資料を用意できること。
・情報源の明示、情報の正確性の確認、著作権を尊重すること。
・PowerPoint を使って発表資料を対象者に応じて視覚的に表現できること。
・PowerPointのスライドを使って、わかりやすくかつ効果的に説明できること。

授業全体の内容と概要

・基礎編では規定課題を通して、発表の組み立て、資料の準備、PowerPointの基本的な使い方などを学ぶ。
・個人別作成編では、テーマを一つ選択し、個性を活かしたPowerPointスライドを作成する。
・自由作成編は、自由テーマでPowerPointスライドを作成する。これは定期試験に代わる評価対象である。
・個人別作成編と自由作成編の終了時には、それぞれ発表会と講評が設けられている。
・本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。
・本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」

授業の方法

・ＩＣＴを活用した講義体制となる。
・解説・演習時は、大型モニターに教材（スライド資料等）を提示しながら行う。
・Microsoft Teamsを利用して課題提示、提出を求める。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・実習時は、大学に備え付けのＰＣの他、自己所有のノートＰＣ（Ｗｉｎｄｏｗｓ／Ｍａｃ）を使用してもよい。
・自己所有のノートPCを使用する場合は、Microsoft Officeを使えるように準備すること。（大学から無償で提供）。
・課題作成については著作物等の盗用（剽窃）無きよう、十分配慮すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必須科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
・課題を期限を超過して提出した場合は、当該課題の採点結果から減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	１００%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集力	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	複数の正しい情報源から情報を収集することで、情報の精度を上げていた。著作権についても確認していた。	正しい情報源から必要な情報を収集することができた。著作権についても確認していた。	必要な情報を収集することができたが、情報源ならびに著作権についての確認は曖昧だった。	必要な情報を収集することができなかった。
PowerPointを使った発表資料作成と表現力	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。また、周囲の学生へのアドバイスも行っていた。	PowerPointを使いこなして訴求力のある発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は優れていた。	PowerPointを使った発表資料の作成をすることができた。説得力、表現力は十分であった。	PowerPointを使った発表資料の作成はできたが、説得力、表現力が劣っていた。	発表資料を作成することができなかった。
効果的なプレゼンテーション能力	表情が豊かで、言葉と合わせて身振り手振りも活用し、聴衆全体を惹きつけるプレゼンテーションができた。	聴衆全体に通る声で、明確で説得力のあるプレゼンテーションができた。	説得力のあるプレゼンテーションができた。	プレゼンテーションはできたが、説得力にかけていた。	プレゼンテーションがうまくできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	情報基礎演習Ⅱ（A）　（科目ナンバリング：S0F061043　　）				
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）、佐藤　雅一（経営学科・専任講師）、由水	研究室等所在	２号館７階（薦田）・１号館２階（佐藤）・１号館２階（由		
単位数	1　（単位認定責任者：　薦田　勇智　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office+Access 2021対応版』	矢野 文彦	オーム社	2022	9784274229664	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション ・シラバスの確認、授業改善アンケートから ・プレゼンテーション能力の重要性	シラバスを読む（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
2	◇基礎１ ・規定課題を通してPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本的を理解する	ネットワーク上のマナーについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
3	◇基礎２ ・規定課題を通してPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本的を理解する	Microsoft Officeについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
4	◇基礎３ ・規定課題を通してPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本的を理解する	Ｗｏｒｄの書式設定について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
5	◇基礎４ ・規定課題を通してPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本的を理解する	Ｗｏｒｄの書式設定について復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
6	◇基礎５ ・規定課題を通してPowerPointを使った プレゼンテーション作成の基本的を理解する	ビジネス定型文書の作成１ついて復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
7	◇個人別作成１ ・課題をいくつかのテーマから選択 ・各自がテーマに沿った内容で作成	ビジネス定型文書の作成２について復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
8	◇個人別作成２ ・作成の続き	ヘッダーとフッターについて調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
9	◇個人別作成３ ・完成	Ｅｘｃｅｌの特徴について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
10	◇発表会（予選） ◇プレゼンテーション技法	Ｅｘｃｅｌの計算式と関数について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
11	◇発表会（選抜者） ◇講評	Ｅｘｃｅｌのグラフ作成について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
12	○自由作成１（評価用） ・各自がテーマを自由に設定 ・採点対象作品の作成	Ｅｘｃｅｌでよく使われる関数について調べる（４５分）	メモやノートを整理する（４５分）
13	○自由作成２（評価用） ・作成の続き	ソートについて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
14	○自由作成３（評価用） ・完成	Ｅｘｃｅｌの扱えるデータについて調べる（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
15	○自由作品の内容確認と講評 ・講評は学生同士で行う ・優秀作を選出	授業の全般について復習する（４５分）	操作方法を復習する（４５分）
16	○優秀作紹介 ○プレゼンテーションの発展的利用について ○まとめ	全授業内容を確認する（４５分）	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-信濃）　（科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードまたは連絡用ホワイトボードにて確認すること。				

概要

履修目標

国際化が高度に進行した現代において、国際共通言語としての英語の基礎運用を場面ごとに理解することを目的とする。具体的には翻訳アプリを併用しながら基本的なコミュニケーションを行うことができる土台（基礎会話および定型・応用表現）の構築を目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

基礎英語Ⅰの内容をさらに深め、「辞書さえあれば英語は大丈夫！」といった自信を持つことができる。加えて、会話力へ繋がる文法事項・表現方法を習得することができる。

授業全体の内容と概要

場面における会話の運用や日常の基礎表現を英語で行うことができるようVoiceTraを併用しながら、学習する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やハンドアウトを利用し英語の構造について学習しながら指定アプリを活用して単語数や日常表現を増やす活動を行ってもらう。
指定翻訳アプリ：VoiceTra
＜VoiceTra（ボイストラ）はＮＩＣＴ（エヌアイシーティー：国立研究開発法人情報通信研究機構）が、言葉の壁の克服を目指して開発したスマートフォン用の無料多言語音声翻訳アプリです。＞

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

平常点を重視する。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を以って欠席１回とする。特別な理由のない２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。また中間試験の代わりに英文日記を課し、採用する。
前向きな課題の提出には、加点する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。初回授業（科目オリエンテーション）終了後に必ず研究室を訪問し相談すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

講義による授業形態を採る。教科書・ノート・筆記具を持ってこない学生は欠席とする。また、教科書のない学生は評価の対象としない。１２回以上の出席を基準とし１０回の出席を確保できないものは再履修とする。
平常点にはノートチェックと授業参加度を含む。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９０点以上の得点を挙げた。	定期試験で８０点以上の得点を挙げた。	定期試験で７０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、英語の理解において必要となる文法・語法を学び、英語によるコミュニケーション力の基礎がほぼ確立している。	課題に取り組み、英語の語彙力や文法・語法への理解が深まりつつある。	課題に取り組み、英語によるコミュニケーション力の重要性や基本文法の理解に対する努力が見られる。	課題に取り組み、英語によるコミュニケーションの基礎を理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、英語による情報交換の基本に対する進歩が見られず、自分なりの学習ができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる語彙力・表現力の充実に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり国際言語習得に関して前向きで、努力が見られる。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んで国際言語を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-信濃）（科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『A New Approach to Understanding English Grammar』	藤田　直也　著	朝日出版社	２０１０	9784255154794	基礎英語Ｉと同じ
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明 英語の構造に関する基本的な考え方（おさらい）VoiceTraとその使い方	専用のノートを準備する（４５分）	自分の弱点確認（４５分）
2	基礎英語Ｉの復習①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
3	基礎英語Ｉの復習②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
4	日常表現と定型句①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
5	日常表現と定型句②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
6	アメリカの大学①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
7	アメリカの大学②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
8	Unit‐１０＆１１	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
9	Unit-１２＆１３	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
10	Unit-１４＆１５	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
11	Unit-１６＆１７	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
12	Unit-１８＆１９	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
13	Unit-２０＆２１	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
14	ノートチェック	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
15	文法の補足とテストビュー 授業評価アンケートの実施	テキストの指定範囲を読む（４５分）	期末試験に備える(４５分)
16	試験（６０分）及び授業総評（３０分）	試験準備（１２０分）	授業内容の振り返り（３０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-岡島） （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 岡島　徳昭 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

文法、読解、作文などの演習をとおし、英語の運用能力を向上させるとともに、異文化理解を深め、総合的なコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

基礎的文法や構文を復習し、英文読解、作文力を身につけ、同時に英語によるコミュニケーション能力を高める。

授業全体の内容と概要

英文を読み読解力、語彙力を培う。文法、構文の復習をとおし、英語運用能力の向上を図る。
「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書、CDを用い、「聞く」「書く」「話す」「読む」の４技能向上を目指し，学生参加型授業を展開する。中間テスト、定期試験に対する答え合わせ等のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席重視、テキスト・辞書持参

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	０%	４０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能（発音・語彙・文法・読解等）	定期試験・中間試験で９割以上、文法・語彙に誤りがなく正確に理解していた。	定期試験・中間試験で８割以上、文法・語彙に誤りがほとんどなく大体理解できた。	定期試験・中間試験で７割以上、文法・語彙に若干誤りがあるが理解していた。	定期試験・中間試験で６割以上、文法・語彙に誤りがあり理解できない部分があった。	定期試験・中間試験で６割以下。文法・語彙に誤りが多く理解に問題があった。
思考力・判断力・表現力	表現方法が適切であり誤りがほとんどなかった。	表現方法はほぼ適切で、小さな誤りが若干ある程度だった。	誤りがあるが、表現方法において誤解を生じるほどの大きな誤りはなかった。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることに支障をきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意思が伝わらなかった。
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲･関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲･関心・興味が感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けた。	全く意欲･関心･興味が感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けた。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-岡島） （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 岡島　徳昭 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「英検準２級　合格への道」』	坂部俊行、岡島徳昭　他	南雲堂	２０１１	9784523176763	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業の進め方、採点に関すること、その他授業に関する ガイダンス。（シラバスの説明）	シラバスを読むこと。 （４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
2	Lesson ７　語句空所補充 読解の基礎練習　Choosing a Pet	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
3	Lesson ７　語句空所補充 読解の基礎練習　Choosing a Pet	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
4	Lesson ８　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
5	Lesson ８　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
6	Lesson ９　語句空所補充 Relation-　読解の基礎練習　Gaming and	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
7	Lesson ９　語句空所補充 Relation-　読解の基礎練習　Gaming and	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
8	中間テスト	試験の準備学習。（４５分）	試験の復習。 （４５分）
9	Lesson １０　語句空所補充 Birth　読解の基礎練習　Music before	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
10	Lesson １０　語句空所補充 Birth　読解の基礎練習　Music before	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
11	Lesson １１　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
12	Lesson １１　語句空所補充 読解の基礎練習　E-mail	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
13	Lesson １２　語句空所補充 読解の基礎練習　Crayola Crayo	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
14	Lesson １２　語句空所補充 読解の基礎練習　Crayola Crayo	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
15	全体復習　Simulation Test (P-７６)	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）
16	総合評価　定期試験６０分、解説３０分 授業改善アンケートの実施	リーディングアサイメントと単語学習。（４５分）	授業中に学んだことを復習。 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-石田） （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1 （単位認定責任者： 石田　暁子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して発音と共に身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

身近な英語の語彙を覚え、文法の基礎を理解する。英文を読むことができる。

授業全体の内容と概要

英文法の解説、練習問題、リーディングの構成で、簡単な事柄からより高度な内容へと段階的に学んでいく。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

最重要事項は板書によって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては必ず予習で翻訳してくることを課題とし、学生は授業で自分の訳に間違いがないかどうかを確認する。最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書は、前期の「基礎英語Ⅰ」と同じものを継続して使用する。一回目の授業から持参すること。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な文法事項の理解はできていたが、より複雑な事項になると不安がある。	基本的な事項のみ理解できている。	基本的な事項が身についていない。
練習問題や発音練習の参加度	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、向上が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題（英文和訳）への取り組み	予め語や語句の意味を調べ、英文の訳を試みた。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって　挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-石田） （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 石田　暁子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英文法の基礎理解』	高橋　哲徳　他	朝日出版社	２０１７	9784255155975	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 比較の表現	テキストp.42～45 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
2	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.46 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
3	助動詞の基本的用法・過去形	テキストp.47～49 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
4	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.50 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
5	受動態	テキストp.51～53 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
6	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.54予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
7	現在分詞と過去分詞の用法	テキストp.55～58 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
8	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.59　予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
9	不定詞の基本と用法	テキストp.61～64 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
10	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.65 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
11	動名詞の基本と用法	テキストp.67～70 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
12	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.71 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
13	接続詞の種類・時制の一致	テキストp.73～76 予習（４５分）	授業内容復習 （４５分）
14	Reading Practice 英文の日本語訳	テキストp.77 予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
15	総復習・要点整理	期末試験準備 （４５分）	期末試験準備 （４５分）
16	授業改善アンケートの実施 期末試験（６０分）・解説（３０分）	期末試験準備 （４５分）	期末試験内容復習 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-井坂）（科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 井坂　肇 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、DP2、DP5に対応する。（２０２４年度）

到達目標

身近な英語の語彙・イディオムを習得し、英文法の基礎を理解できる。また、平素な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。

授業全体の内容と概要

所定のテキストに基づき、文法事項の解説を加えながら、各項目の練習問題を解き文法事項の定着を図る。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やパワーポイントを使用しながら、じっくりと確実に反復学習を進める。英文の暗記によって英語で発信するする力の向上を狙う。
文法事項の定着を図るため、講義中に演習課題を行い双方向システムを活用する。さらにはMicrosoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・１５分以上の遅刻は欠席とみなす
・遅刻２回で欠席１回とする
・授業には必ずテキストを持参すること。
・不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。
教科書・筆記用具を持ってこない学生は欠席とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	０%	４０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で７５点以上の得点を上げた。	定期試験で６０点以上の得点を上げた。	定期試験で５０点以上の得点を上げた。	定期試験で３５点以上の得点を上げた。	定期試験で３５点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（M-井坂）　（科目ナンバリング：ENL041030　　）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『Live Escalate Book 1: Base Camp』』	角山　照彦 / LiveABC editors 共著	成美堂	２０２１	9784791972210	基礎英語Ⅰと同様
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでおく （４５分）	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う （４５分）
2	Unit７ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit７の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
3	Unit７ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit７の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
4	Unit８ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit８の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
5	Unit８ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit８の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
6	Unit９ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit９の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
7	Unit９ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit９の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
8	Unit１０ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit１０の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
9	Unit１０ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit１０の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
10	Unit１１ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit１１の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
11	Unit１１ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit１１の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
12	Unit１２ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit１２の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
13	Unit１２ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit１２の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
14	Review２　テスト	Review２の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
15	Review２　解説	Review２の予習 （４５分）	授業内容復習 （４５分）
16	期末試験（６０分）・解説（３０分） 授業改善アンケートの実施	期末試験準備 （４５分）	期末試験内容復習 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-西 （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 西崎　毅 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の英語科教諭、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英語の統語構造を理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。
目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを理解し、表現し、伝えあうことができる力を身に付ける。
主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉・デザイン・建築学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

英語の５つの文型についてその概要を理解できる。
修飾語・句・節についてその概要を理解できる。
英語で簡単な説明を行うことができる。英語を読んだり聞いたりしてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

英語がどのような構造で成立しているのか、その法則性はどのようになっているのかについて理解し、相手が発する英語を理解したり、自分の考えを英語で表現したりすることができる能力を育成するために必要な事項を説明するとともに、知識や技能の定着のための演習を行う。英語の四技能をバランスよく育成するため、リスニングの演習や発表活動等を行う。学修集団の英語への興味・関心・習熟度等により、シラバスに記載した学修内容を再構成する場合がある。「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

授業では、学生のPC及びスマートフォンを使用する。授業は原則として英語で行うほか、毎回リスニング演習を行う。一方的な講義とならないよう、学生による発表やグループ活動を行う。学生の理解に資するよう、教材提示装置等を活用して説明を行う。学修内容の確実な定着を図るため、毎時間質問の時間を設定する。課題や発表に対しては口頭及びコメントにて評価のフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

〇講義の前後に行う学修課題を課すので真剣に取り組むこと。
〇講義においては、ＰＣ及びスマートフォンを活用するので、特に指示がある場合を除き毎時間必ず持参すること。持参なき場合は当該時間の履修を認定しない。
〇受講に支障が出ることのないよう、事前にＰＣ及びスマートフォンの充電を十分に行うなど対策を講じること。
○授業資料は電子媒体による配信を基本とするので、個人のフォルダを作成するなど、適切に管理し，学修に役立てること。
○授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」 に格納するので必要に応じてダウンロードすること。（教材の音声データを含む）
〇講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用は禁止する。
○講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○座席は指定しないが、スクリーンの文字が読める座席に着席すること。
〇上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断・決定・説明する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

〇単位認定に必要な最低出席回数は11回。
○成績評価は、定期試験の点数（６０％）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性などの平常点（４０％）を基に総合的に判断して行う。
〇受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。
〇講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９割以上の得点を上げた。	定期試験で８割以上の得点を上げた。	定期試験で７割以上の得点を上げた。	定期試験で６割以上の得点を上げた。	定期試験で得点が６割に満たなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関しては求められるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。英語を使用したコミュニケーションに関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。英語を使用したコミュニケーションに関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-西 （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 西崎　毅 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の英語科教諭、英語教育改革に係る指導行政担当者としての経験及び国際交流に関する実務経験を活用し、英語の基礎事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『基礎英語Ⅰで使用したテキストを継続使用する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） ５文型の復習①　リスニング・リーディング活動 授業改善アンケート結果反映の説明	英語についての自己の課題を考えておくこと。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	５文型の復習② リスニング・リーディング活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	５文型の復習③ リスニング・リーディング活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	準動詞① リスニング・リーディング活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	準動詞② リスニング・リーディング活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	準動詞③ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	準動詞④ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	接続詞① リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	接続詞② リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	接続詞③ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	接続詞④ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	関係詞① リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	関係詞② リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	関係詞③ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	関係詞④ リスニング・リーディング・パフォーマンス活動 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。（４５分）	前回までの学修内容を復習すること。（４５分）
16	６０分の試験終了後，残りの３０分で解説を行う。	前回までの学修内容を復習すること。（４５分）	試験結果を参考に自らの学修姿勢を評価すること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年、建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-宮 （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グローバル化に対応し、多様な人と協働するための表現力やコミュニケーション力を学ぶための英語科目であり、講義と演習（ペアワークとグループワーク）を通じて英語コミュニケーションを学ぶ。文法ベースで初級から徐々に積み上げることで、最終的にはコミュニケーションに生かせる力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP5に対応する。（２０２４年度）
デザイン・建築学科のＤＰ（２）（４）に対応する。（２０２３・２２年度）
デザイン・建築学科のDP２、DP3、DP8に対応する。（２０２１年度）

到達目標

文法やリスニングを中心にやさしい英語で書かれた文での練習を通じて、英文がどのような構成要素から成り立っているのかを明確に把握する。英会話に最低限必要な語彙力、文法力を身につけて、スピーキング、ライティングなどのアウトプットへの発展を意識する。英語で5分間またはそれ以上、身近なトピックや関心事について、自分の考えや意見を詳しく述べることができる。

授業全体の内容と概要

既存の英語知識を活用させ，スピーキング能力およびスキルを身につけることに焦点を当てるが、４技能を結びつけて総合的に英語力を向上させる授業を行う。
最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、テキスト中の表現を利用し、様々なコミュニケーションの構造（挨拶、スモール・トーク、質問する、意見を述べる）を理解し，表現することを目標とする。

授業の方法

授業では英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に着けることを目的とする。テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。授業中の発表、ペアやグループワーク、ロールプレイでの活動を取り入れ、コミュニケーション能力向上のために、積極的かつ協力的に行う。テキストの音声ファイルを無料でストーミング・ダウンロードし自習用音声として活用する。「ＮＡＵ’ＵＮ－ＤＯ（ｈｔｔｐ://nanun-do.com)提供

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻２回で欠席1回とします。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。授業計画に基づき、事前に各回の授業範囲の単語などの意味を調べておくこと。授業を休んだ場合は，次の授業までに、休んだ回の授業内容を担当教員又はクラスメートに確認し、課題など必要な情報を入手してください。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の必要となる最低出席回数は１１回以上とする。授業の参加姿勢も，評価の対象になります。授業活動に積極的に参加することで、授業外での学習成果を実感できます。予習と復習は授業の内容を理解し、学習効果を上げるために必要です。積極的に授業に参加するようにしてください。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	0%	１０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業の理解度	授業内容を超えた学修が認められる	授業内容を十分に理解している	授業内容を理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容を理解していない
英語表現能力(スピーキング)	優れた創造的表現を行うことができる	文献等を参考としながら、創造的表現を行うことができる	自在に定型的表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない
授業の積極性	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に集中して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。
リスニング技能	授業内で取り扱った単語・表現を完璧に習得し、リスニング技能を問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング技能を正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング技能をほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現を部分的に習得しているが、リスニング技能の運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・表現の習得が不十分であり、リスニング技能の運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年、建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-宮 （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Speaking of People』	Peter Vincent	南雲堂	2020	9784523179092	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　英語他己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。（４５分）	授業各回のテーマを理解しておくこと。（４５分）
2	Modal Verbs Ⅰ（法助動詞）	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
3	Modal Verbs Ⅱ（法助動詞）	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
4	Unit 7 Tell Me About Your Family	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
5	Unit 8 Communication	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
6	Unit 9 How Are You Feeling?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
7	Review Units 7-9	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
8	Grammar Present perfect Ⅰ（完了形）	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
9	Grammar Present perfect Ⅱ（完了形）	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
10	中間テスト	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
11	Unit 10 Memories	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
12	Unit 11 How Healthy Are You?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
13	Unit 12 You Can Fly!	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
14	Review Units 10-12	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
15	Review１	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
16	Final Exam.　試験終了後に授業改善アンケートの実施	試験範囲の復習。（４５分）	試験後に説明を受けた解説を復習。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-横　（科目ナンバリング：ENL041030　）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　横田　肇　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

学生が英語の基本的な文法・語法を習得し、英語の運用・使い方の基礎を理解する。合わせて、グローバル化の中でのコミュニケーションについて理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）
建築学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

学生が英語の基礎的な語彙・イディオムの習得、英文法・運用の基礎の理解と習得ができている。また、平易な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができる能力を身に付けている。さらに、平易な英会話ができるようになる。

授業全体の内容と概要

毎回、テキストに即し、英文法の各項目の練習問題を解き、合わせて関連する読解、作文、英会話の練習問題を解く。同時に、必要最小限の説明を加えていく。

授業の方法

毎回、テキストに即し、パワーポイントと板書、配布資料により各項目の全体的な説明（一斉）を行ない、その後、個人・グループワークによる練習問題（課題）の解答を行う。解答後にグループごと、個人ごとに課題の提出を求める。授業の最後にその回と前回の課題へのフィードバック（コメント）と課外学習（宿題）についての指示を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないようにに留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

保育士養成課程必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	２０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の基礎力	英文法の基礎が完全に理解できており、十分に応用することができた。	英文法の基礎がほぼ理解できており、ある程度応用することができた。	英文法の基礎が大体理解できた。	指示によって英文法の基礎の必要最低限の部分が理解できた。	指示によって英文法の基礎の必要最低限の部分が理解できなかった。
英文読解の能力	テキスト内の英文が完全に理解でき、十分に応用することができた。	テキスト内の英文がほぼ理解でき、ある程度応用することができた。	テキスト内の英文の基礎的な部分が理解できた。	指示によってテキスト内の英文の基礎的な部分が理解できた。	指示によってテキスト内の英文の基礎的な部分が理解できなかった。
英作文の能力	基礎的な英文を正確にしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって基礎的な短い英文を書けた。	指示によって基礎的な短い英文を書けなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・1年、デザイン学科・1年、建築		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-横　（科目ナンバリング：ENL041030　）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1　（単位認定責任者：　横田　肇　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Simply　Grammar　改訂版』	K.Saito	南雲堂	２０１７	978-4-523-17831-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス。	シラバスを読んでおく（４５分）	Unit３練習問題の予習（４５分）
2	英文法と英語の運用について（１）未来形	Unit３練習問題の予習（４５分）	Unit３練習問題の復習（４５分）
3	英文法と英語の運用について（２）未来形	Unit３練習問題の予習（４５分）	Unit３練習問題の復習（４５分）
4	英文法と英語の運用について（３）助動詞	Unit４練習問題の予習（４５分）	Unit４練習問題の復習（４５分）
5	英文法と英語の運用について（４）助動詞	Unit４練習問題の予習（４５分）	Unit４練習問題の復習（４５分）
6	英文法と英語の運用について（５）冠詞	Unit５練習問題の予習（４５分）	Unit５練習問題の復習（４５分）
7	英文法と英語の運用について（６）冠詞	Unit５練習問題の予習（４５分）	Unit５練習問題の復習（４５分）
8	英文法と英語の運用について（７）代名詞	Unit６練習問題の予習（４５分）	Unit６練習問題の復習（４５分）
9	英文法と英語の運用について（８）前置詞	Unit７練習問題の予習（４５分）	Unit７演習問題の復習（４５分）
10	英文法と英語の運用について（９）前置詞	Unit７練習問題の予習（４５分）	Unit７練習問題の復習（４５分）
11	英文法と英語の運用について（１０）接続詞	Unit８説明文の予習（４５分）	Unit８練習問題の復習（４５分）
12	英文法と英語の運用について（１１）進行形	Unit９説明文の予習（４５分）	Unit９練習問題の復習（４５分）
13	英文法と英語の運用について（１２）受動態	Unit１０説明文の予習（４５分）	Unit１０練習問題の復習（４５分）
14	英文法と英語の運用について（１３）完了形	Unit１１説明文の予習（４５分）	Unit１１練習問題の復習（４５分）
15	英文法と英語の運用について（14）完了形	Unit１１練習問題の予習（４５分）	Unit１１全体の復習（４５分）
16	定期試験。６０分の試験終了後、３０分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	既習事項の復習（４５分）	既習事項の復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-井 （科目ナンバリング：ENL041030 ）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 井坂　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英文法の基本を理解し、練習問題による練習を通して英語の運用・使い方の基礎を身につける。自ら英語で発信できるようになる。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

身近な英語の語彙・イディオムを習得し、英文法の基礎を理解できる。また、平素な英文の読解ができ、簡単な英文の作成ができるようになる。

授業全体の内容と概要

所定のテキストに基づき、文法事項の解説を加えながら、各項目の練習問題を解き文法事項の定着を図る。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。世界市民としての意識、さまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる。

授業の方法

講義形式で授業を行い、教科書やパワーポイントを使用しながら、じっくりと確実に反復学習を進める。英文の暗記によって英語で発信するする力の向上を狙う。
文法事項の定着を図るため、講義中に演習課題を行い双方向システムを活用する。さらにはMicrosoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する。学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・１５分以上の遅刻は欠席とみなす
・遅刻２回で欠席１回とする
・授業には必ずテキストを持参すること。
・不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。講義中の録音・録画・撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。
教科書・筆記用具を持ってこない学生は欠席とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	０%	４０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
定期試験	定期試験で７５点以上の得点を上げた。	定期試験で６０点以上の得点を上げた。	定期試験で５０点以上の得点を上げた。	定期試験で３５点以上の得点を上げた。	定期試験で３５点をクリアすることができなかった。
英文法の理解度	基礎的な英文をしっかりと書くことができた。	基礎的な英文をほぼ正確に書くことができた。	基礎的な短い英文を大体書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書けた。	指示によって、基礎的な短い英文を書くことができなかった。
授業に対する取り組み	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協同性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。積極性や協働性に関して期待される最低限のレベルに到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年、デザイン学科・１年、建		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎英語Ⅱ（SDA-井　（科目ナンバリング：ENL041030　）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　井坂　肇　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『Live Escalate Book 1: Base Camp』』	角山　照彦 / LiveABC editors 共著	成美堂	２０２１	9784791972210	基礎英語Ⅰと同様
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでおく （９０分）	シラバスの内容を確認し、授業準備を行う （９０分）
2	Unit７ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit７の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
3	Unit７ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit７の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
4	Unit８ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit８の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
5	Unit８ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit８の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
6	Unit９ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit９の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
7	Unit９ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit９の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
8	Unit１０ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit１０の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
9	Unit１０ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit１０の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
10	Unit１１ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit１１の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
11	Unit１１ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit１１の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
12	Unit１２ WARM UP、CONVERSATION、GRAMMAR	Unit１２の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
13	Unit１２ READING、WRITING、CHALLENGE　YOURSELF	Unit１２の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
14	Review２　テスト	Review２の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
15	Review２　解説	Review２の予習 （９０分）	授業内容復習 （９０分）
16	期末試験（６０分）・解説（３０分） 授業改善アンケートの実施	期末試験準備 （９０分）	期末試験内容復習 （９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾞｲﾂ語入門Ⅱ（M） （科目ナンバリング：GER051035 ）				
授業担当者（所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 河田　一郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ドイツ語の初級文法と簡単な会話をマスターする。グローバル化に対応するため、コミュニケーションの一手段としてドイツ語を学び、自らの世界を広げることを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP２に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

ドイツ語検定試験５級合格のための基礎を固める。ドイツ語圏への観光、留学をした際に困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

授業ではドイツ語初級文法を基礎から指導を行う。一年後には辞書を使えば、簡単な文章を理解できるようになることを目標とする。ドイツに関連することで、学生が興味を持ちそうなこと、また教養として知っていてほしいことについて紹介および解説を行う。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのＤＶＤ等も見て講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

新しいことばかりなので、とにかく授業に参加すること。ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行なう。再試験の評価は内容の理解度を重視する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ドイツ語の初級文法について説明及び語形変化等の活用をすることができる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
基礎的な文法を用いて、平易なドイツ語の文章を書き翻訳をすることができる。	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
ドイツ語の基本的な語彙を修得し、発音が正確にできる。	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾞｲﾂ語入門Ⅱ（M） （科目ナンバリング：GER051035 ）				
授業担当者（所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 河田　一郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『気分はドイツ（改訂版）』	渡辺・黒瀬ほか	三修社	２０２１	9784384123012	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	［ガイダンス］　授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
2	［話法の助動詞について］　話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
3	［話法の助動詞の用法について］　話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
4	［ヒアリング練習］　ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
5	［形容詞について］　ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
6	［形容詞の比較・副詞的用法について］　比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
7	［分離動詞について］　分離動詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
8	［動詞の３基本形について］　動詞の３基本形について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
9	［過去形の変化について］　過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
10	［完了形について］　ドイツ語の現在完了形について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
11	［完了形の用法について］　完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
12	［関係代名詞について］　関係代名詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
13	［受動態について］　受動態について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
14	［zu不定詞について］　不定詞について学び、和訳することができる。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
15	［接続法について］　接続法について学び、用法を理解する。	前回の授業内容を確認すること。（９０分）	授業の内容を復習しておくこと。（９０分）
16	［定期試験および解説］　６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	試験に向け全体を復習すること。（９０分）	試験および解説を受けて講義全体を復習すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会保障Ⅰ （科目ナンバリング：SWS111003 ）				
授業担当者（所属・職名）	星野　秀治（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 星野　秀治 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①社会保障の概念や対象及びその理念について，社会保障制度の展開過程も含めて理解する。
②現代社会における社会保障制度の役割と意義，取り組むべき課題について理解する。
③社会保障制度の財政について理解する。
④諸外国における社会保障制度の概要について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP４に対応する。（2024年度）

到達目標

①社会保障が生まれた背景と発展過程について理解できる。
②社会保障の理念の変化について説明することができる。
③わが国の社会保障が直面している制度的，政策的課題について関心を持つことができる。

授業全体の内容と概要

社会保障の理念，機能，歴史的展開，財政問題などを検討しながら，社会保障とは何かについて基礎的理解を深める。
「SDG1．貧困をなくそう」，「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

授業は，パワーポイント及び配布資料を活用しながら，ディスカッションを交えつつ講義形式で行う。適宜、授業内容についてのレポート提出を求める。授業内で実施するレスポンスシートについて、次回の授業でコメントを行うなどのフィードバックを行い双方向性を確保する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回，必ず教科書・配付資料を携行すること。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施することがある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程科目（選択）

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	履修目標を越えて少子高齢社会の課題について理解できた。	社会保障がかかえている問題と課題について理解できた。	今日における社会保障の意義を理解できた。	社会保障が生まれた背景や歴史を理解できた。	社会保障が生まれた背景や歴史を理解できなかった。
思考・判断	経済社会の変化を踏まえた今後の社会保障の見直しの是非について考えることができた。	少子高齢社会における社会保障の課題について対応策を考えることができた。	社会保障の理念の変化と社会保障の保障水準の関係について考えることができた。	社会保障の理念の変化について説明することができた。	社会保障の理念の変化について説明することができなかった。
関心・意欲	社会保障が直面する諸課題について諸外国との比較で対応策を考える意欲を示した。	社会保障が直面する諸課題について対応策を考えることができた。	社会保障が直面する諸課題の解決に関心を寄せることができた。	わが国の社会保障が直面している諸課題に関心を示すことができた。	わが国の社会保障が直面している諸課題に関心を示すことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会保障Ⅰ （科目ナンバリング：SWS111003 ）				
授業担当者（所属・職名）	星野　秀治（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 星野　秀治 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座７ 社会保障』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	２０２１	978-4-8058-8237-5	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 現代社会と社会保障（1）－私たちの暮らしと社会	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
2	現代社会と社会保障（2）－経済環境の変化と社会保障	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
3	現代社会と社会保障（3）－労働環境の変化と社会保障	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
4	社会保障とは何か（１）　－社会保障の概念と範囲	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
5	社会保障とは何か（２）－社会保障の役割と意義、社会保障の理念・目的・対象	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
6	社会保障とは何か（３）－社会保障の機能	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
7	社会保険と社会扶助の関係（１）－社会保険の概念と範囲	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
8	社会保険と社会扶助の関係（２）－社会扶助の概念と範囲	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
9	公的保険と民間保険	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
10	社会保障と財政（１）－社会保障の財源調達方法	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
11	社会保障と財政（２）－社会保障給付費，国民医療費	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
12	社会保障と財政（３）－国民負担率，社会保障と経済	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
13	諸外国の社会保障制度（1）－諸外国における社会保障制度の歴史と概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
14	諸外国の社会保障制度（２）－社会保障制度の国際比較	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
15	まとめ。授業改善アンケートの実施。	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
16	試験（６０分）	全授業を振り返り試験に向けた準備（９０分）	試験内容をふまえ授業全体を振り返る(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	美術学概論Ⅱ　（科目ナンバリング：AEA211002　）				
授業担当者（所属・職名）	寺嶋　弘道　（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　寺嶋　弘道　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	この科目は、美術館学芸員・館長としての経験に基づき、創造性を探求する基本的な態度を実践的に指導する。		
オフィスアワー	事前にチャットまたはメール連絡により調整し、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

人間の創造性と感性の所産である美術について、東西の多様な表現に触れながらそこに表された思想、信条、感覚、感情などを考察し、視覚芸術である美術の本質と文化所産の伝播と影響の実相を探究する。
また、学修者自身が美の所在を考え自らの言葉で表現し、またはその内容を他者に伝えることができるようになることをめざす。
もって、創造性の発現を促す美的体験の重要性を理解し、創作活動やさまざまな生産・製作活動の分野で社会に貢献できるクリエイティブな人材の育成に資する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP３、DP４に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP４に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP４、DP５、DP７に対応する。（2021年度）

到達目標

１　東西の美術の諸相を理解し、様式や表現に関する基礎用語を適切に用いることができる。
２　さまざまな美術作品の特質について理解を深め、具体的な事例をあげて美の所在を説明できる。
３　芸術文化の創造と伝播、技術や技法の発案と継承について着目し、視覚芸術をめぐるさまざまな視点から考察することができる。
４　文化財の保護や美術研究の場としての美術館の役割を理解し、その機能と活動を説明できる。

授業全体の内容と概要

古今東西の美は、人類の創造力の証として世界各地の文化財や美術作品にその姿を現している。
本授業では、地域と時代を俯瞰して人類の美の所産をめぐりつつ、その表現様式や美術潮流などの基礎知識を学ぶとともに、特徴的なテーマや造形的な特質について時間と空間を往来しながら作家や作品にアプローチし、美術文化の創造と受容の過程を理解する。
さらにこれらの美術作品が美術館や博物館において文化財として保護・活用され、新たな美的価値の創造に大きな役割を果たしていることにも理解を深める。
「SDGs9．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連項目

授業の方法

・各回の授業では作品画像をパワーポイントで提示しながら、講義形式で授業を進める。
・授業の内容に応じて、テーマに対するディスカッション、フリートーク、動画の視聴を併用する場合がある。
・ほぼ毎回の授業で、授業テーマまたは履修目標に関連したミニレポート、調査学習によるセルフワークを課題として提示する。本授業ではこれらの課題作成・考察内容を重視するので、期限までに作成し提出すること（期末評価物のため期限を越えても必ず提出。遅延は減点対象）。
・ミニレポート、セルフワークは必要に応じ、提出後の授業で解説・評価・指導内容を例示する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・教科書は使用しない。授業内で適宜、資料を配布する。参考図書は授業内で紹介する。
・各回の授業終了後は配布資料、ノート、参考図書等を読み返し、講義テーマを復習すること。
・予習として、次回授業のタイトルをもとにテーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、画集、図書、インターネット等で下調べをしておくこと。
・美術文化関係の展覧会や画集、テレビ番組、映画等を普段から積極的に見るほか、観覧が有用な美術展については授業内において紹介するので、実作品を鑑賞し自学自習に取り組むこと。
・やむをえず欠席、遅刻する場合は、事前もしくは事後にチャットまたはメールで担当教員まで連絡すること。その事由によっては、課題の提出をもって出席とみなす場合がある。規則によって手続きが必要な欠席については学務課に届け出ること。
・対面授業の実施を基本とするが、課題の提出や資料の配布は所定のWEBシステムを介して行う。また、感染症や災害など不測の事態が発生した場合にはオンライン授業となる場合もあるので、必要に応じてＩＣＴ環境を整えておくこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定には、全１６回の授業のうち期末の定期試験を除く計１５回の三分の二以上の出席が必要（１０回以上）。これに満たない者には期末定期試験の受験資格を付与しない。
・成績評価は、期末の定期試験またはレポート試験２０%、ミニレポート及びセルフワーク等７０%、今週のおすすめアート報告書（受講確認票）１０%の比率で点数を配分し、それらの提出状況と記述内容を評点して総合判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
２０%	０%	７０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
さまざまな表現様式・思潮・美術用語の理解	美術の諸相を理解し、史的観点を踏まえて美術用語を適切に用いて論考をまとめることができた。	美術の諸相を理解し、史的観点を踏まえて美術用語を適切に用いることができた。	美術の諸相を理解し、基礎的な美術用語を適切に用いることができた。	美術の諸相に関心を持ち、基礎的な美術用語を用いることができた。	美術の諸相への関心や基礎的な美術用語への学びが不十分だった。
美術の本質や文化の伝播・影響に関する多角的探究	芸術や文化に内在する美の本質を論理的に考察し、自らの言葉で多角的視点から的確に論述することができた。	芸術や文化に内在する美の本質を考察し、自らの言葉で多角的視点から説明することができた。	芸術や文化に内在する美の有り様を考察し、多角的視点から説明することができた。	芸術や文化に現れた美の有り様に気づき、説明することができた。	芸術や文化の美の有り様について、十分に考察するには至らなかった。
多様な芸術や文化に対する独創性・創造性の考察	芸術文化の創造、技術の継承について理解を深め、そのオリジナリティをさまざまな視点から分析し考察することができた。	芸術文化の創造、技術の継承について理解し、そのオリジナリティを分析し考察することができた。	芸術文化の継承について理解し、そのオリジナリティを考察することができた。	芸術文化の継承について関心を持ち、そのオリジナリティに気づくことができた。	芸術文化の継承やそのオリジナリティについて十分に考察するには至らなかった。
文化財の保護活用と芸術の社会包摂に関する理解	芸術文化の社会的な役割や美術館の機能を深く理解し、批評文・意見文などで自分の考えをの確に論述することができた。	芸術文化の社会的な役割や美術館の機能を理解し、批評文・意見文などで自分の考えをまとめることができた。	芸術文化の社会的な役割や美術館の機能を理解し、説明文・感想文などに記すことができた。	芸術文化の役割や美術館の機能に関心を持ち、感想文などに記すことができた。	芸術文化の役割や美術館の機能を理解するには至らなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	美術学概論Ⅱ　（科目ナンバリング：AEA211002　）				
授業担当者（所属・職名）	寺嶋　弘道　（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　寺嶋　弘道　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	この科目は、美術館学芸員・館長としての経験に基づき、創造性を探求する基本的な態度を実践的に指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明。　「芸術」の陰謀：美と美術と美術館と－迷宮の入り口で	シラバスを読んでおくこと（90分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等を作成し提出すること。（120分）
2	文化財へのアプローチ① 世界遺産探訪－もう一人の平山郁夫とその美術館	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等を作成し提出すること。（120分）
3	文化財へのアプローチ② 岡本太郎の縄文発見！＠東京国立博物館	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等を作成し提出すること。（120分）
4	文化財へのアプローチ③ 世界のロイヤルコレクション－ルーヴル・故宮・正倉院	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと。（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等を作成し提出すること。（120分）
5	文化財へのアプローチ④ 大英博物館にて－憧れの古代ギリシャ・ローマ	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと。（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等を作成し提出すること。（120分）
6	視覚芸術の相克① 栄光のルネサンス－画家ダ･ヴィンチVS彫刻家ミケランジェロ	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと。（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等を作成し提出すること。（120分）
7	視覚芸術の相克② 運慶・快慶、見参！－もののふの時代を生きる道	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと。（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等を作成し提出すること。（120分）
8	視覚芸術の相克③ 印象派の前と後－西欧アカデミズムと美の革新	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと。（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等を作成し提出すること。（120分）
9	視覚芸術の相克④ 神々の黄昏－ロダンとガウディをめぐる「新」彫刻史	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと。（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等を作成し提出すること。（120分）
10	視覚芸術の相克⑤ 近代ニッポン・文明開化150年の光と影	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと。（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等を作成し提出すること。（120分）
11	オリジナリティとは① 厚岸・正行寺：「よみがえった襖絵」から探る美の真相	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと。（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等を作成し提出すること。（120分）
12	オリジナリティとは② 渓斎英泉と浮世絵の図像学－江戸庶民の美意識	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと。（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等を作成し提出すること。（120分）
13	オリジナリティとは③ 合掌－クローン仏像に手を合わせるココロ	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと。（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等を作成し提出すること。（120分）
14	文化の伝播と創造① パフォーミングアート：茶の湯－もてなしの心とし つらえ	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと。（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等を作成し提出すること。（120分）
15	文化の伝播と創造② ホワイトキューブのジレンマ－ポップカルチャー時代の美術館	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと。（60分）	授業の要点を文献・ＷＥＢ等で再確認・ノート整理し、指示されたテーマでミニレポート等を作成し提出すること。（120分）
16	文化の伝播と創造③　中心と周縁－森村泰昌『まねぶ美術史』から　期末試験またはレポート試験の課題提示、授業改善アンケートの実施	講義タイトルをもとに、テーマ、美術思潮、作家・作品、美術館等について、文献やＷＥＢ等で下調べをしておくこと。（60分）	期末レポート試験の作成を行い提出すること。（120分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築設計製図 （科目ナンバリング：APT311002 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）、向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	１号館４階、２号館７階		
単位数	2 （単位認定責任者：　佐々木　哲之　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所での設計業務の実務経験をもとに実技指導。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

積雪寒冷地における木造と鉄筋コンクリート造について，技術と製図の基本を修得することを目標としている。木造では軸組構法が主となるが，構造・構法の考え方や高断熱・高気密の建築技術を学ぶ。鉄筋コンクリート構造では，壁構造とラーメン構造の構造計画，外壁・地下室・屋上防水等の詳細図，積雪寒冷地の外装計画等を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ１，ＤＰ３，ＤＰ４に対応する。（２０２４年度）
建築学科のＤＰ１，ＤＰ２に対応する。（２０２３・２２年度）
建築学科のＤＰ１，ＤＰ２に対応する。（２０２１年度）

到達目標

時間内に課題を完成させることができ，期日を守ることの重要性を身に付ける。木造，鉄筋コンクリート造，鉄骨構造の設計図面の描写や技法が製図規約に従って，正しく表現できる。

授業全体の内容と概要

木造，鉄筋コンクリート造，鉄骨構造の各種設計図の表現方法を学ぶ。課題は授業計画に従い，毎週提示され授業時間内に完成させ提出することを原則とする。課題により次回の提出を認めている。課題は採点の後返却される。

授業の方法

課題解説，製図，およびそれらの指導は，すべて製図室にて行われる。したがって，指定された製図道具を各自必ず持参し，授業に臨むこととなる。また，課題ごとに配布する資料と板書による説明をし，そののち製図を始める。再提出や追加課題に備えて，自宅に製図板，製図道具等を揃えておくことが不可欠である。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施し，欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

当日の製図課題の説明は授業開始直後に行うので，遅刻してきた場合の説明は他の学生が製図に着手した後となるので，遅刻はかなりのハンディキャップとなるので注意をする。課題は全課題提出が原則である。
３０分以上の遅刻は欠席とする。また，遅刻４回で欠席１回とみなすので注意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

２コマ連続実技なので，単位認定に必要となる最低出席回数は２２回以上，かつ全課題提出とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
製図の基本技術について①寸法とスケール②図面の表示記号③線の種類と描き方④建築図面の理解⑤空間の理解	①～⑤をすべて理解し表現できていた。	①～④をすべて理解し表現できていたが⑤について表現が作品によっては不十分であった。	①～④をすべて理解し表現できていたが⑤について表現が不十分であった。	①～⑤について理解できていたが表現が部分的に不十分であった。	①～⑤について理解，表現とも不十分であった。
木造軸組み工法の各種図面において①柱の位置②線種の使い分け③部材の寸法④図面のレイアウト⑤部位ごとの部材の組み合わせと線のメリハリ	①～⑤をすべて理解し表現できていた。	①～④をすべて理解し表現できていた。しかし⑤は理解できていたが表現が不十分であった。	①～④をすべて理解し表現できていたが⑤について理解，表現とも不十分であった。	①～⑤の項目の過半ついて理解できていたが表現が項目に限らずに不十分であった。	①～⑤について理解，表現とも不十分であった。
鉄筋コンクリート造・鉄骨造の各種図面において①柱割②線種の使い分け③部材の寸法④図面のレイアウト⑤部位ごとの部材の組み合わせと線のメリハリ	①～⑤をすべて理解し表現できていた。	①～④をすべて理解し表現できていた。しかし⑤は理解できていたが表現が不十分であった。	①～④をすべて理解し表現できていたが⑤について理解，表現とも不十分であった。	①～⑤の項目の過半ついて理解できていたが表現が項目に限らずに不十分であった。	①～⑤について理解，表現とも不十分であった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	建築設計製図 （科目ナンバリング：APT311002 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）、 向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	１号館４階、２号館７階		
単位数	2 （単位認定責任者： 佐々木　哲之 ）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所での設計業務の実務経験をもとに実技指導。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『コンパクト建築設計資料集成』	日本建築学会編	丸善株式会社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス1　授業計画の説明と履修指導	シラバスにより次回の部分を予習すること（４５分）	授業計画の内容と履修内容を復習すること（４５分）
2	ガイダンス2　製図のルール，作図方法	製図のルール，作図方法を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
3	寒冷地の木造建築－１a平面図（柱の配置，軸組構法）	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
4	寒冷地の木造建築－1b平面図（壁の断熱と大壁・真壁）	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
5	寒冷地の木造建築－２a 展開図の描き方，建具表の表現	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
6	寒冷地の木造建築－２b 展開図と建具表の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
7	寒冷地の木造建築－３a 基礎の断熱，寒冷地の１階床組	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
8	寒冷地の木造建築－３b 基礎伏図と１階床伏図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
9	寒冷地の木造建築－４a ２階荷重の伝播，小屋組の造り方	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
10	寒冷地の木造建築－４b ２階床伏図と小屋伏図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
11	寒冷地の木造建築－５a 矩計図に表現される事項	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
12	寒冷地の木造建築－５ｂ 矩計図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
13	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－１a 柱スパンと柱の断面寸法，外壁と構造躯体	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
14	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－１b 平面図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
15	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－２a 断面の考え方，表現方法	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
16	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－２b 断面図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－３a 梁・スラブと階高，断熱方法，天井の構法	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
18	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－３b 矩計図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
19	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－４a 防水（屋上防水，地下室の防水と断熱	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
20	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－４b 防水（屋上防水，地下室の防水と断熱）	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
21	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－５a外装 コンクリート打放し，カーテンウォール	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
22	鉄筋コンクリート造ラーメン構造－５b 立面図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
23	鉄筋コンクリート造壁構造－１a 壁式構造とは耐力壁の壁量と配置	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
24	鉄筋コンクリート造壁構造－１b 平面図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
25	鉄筋コンクリート造壁構造－２a 断熱材と開口部と納まり	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
26	鉄筋コンクリート造壁構造－２b 平面詳細図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
27	鉄骨構造－１a 柱スパンと柱の断面寸法，外壁と構造躯体	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
28	鉄骨構造－１b 平面図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
29	鉄骨構造－２a 床・屋根スラブの造り方，壁下地と仕上げ材　次回の製図内容を予習すること（90分）	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
30	鉄骨構造－２b 部分詳細図の作図	次回の製図内容を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，図面を完成すること（４５分）
31	講評会-1	講評会にむけて，今までの製図課題を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，課題図面を見直すこと（４５分）
32	講評会-2 授業改善アンケートの実施	講評会にむけて，今までの製図課題を予習すること（４５分）	製図内容を復習し，課題図面を見直すこと（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	簿記論 （科目ナンバリング：ACC411007，ACC511004 ）				
授業担当者（所属・職名）	川津　大樹（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2 （単位認定責任者： 川津　大樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体（商工会）に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、簿記に関する理論と実務を総合的に取り上げる。		
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。				

概要

履修目標

簿記とは、企業の取引を一定のルールに従って、記録、計算および整理し、報告書を作成する一連の手続きのことであり、広く社会的にも重要な役割を果たしている。また、簿記の基本原理は、会計学の理論的な側面を理解するためにも重要な基礎となる。
本講義は、簿記の一連の手続きを理解し、財務諸表（損益計算書・貸借対照表）の作成と読解ができることを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）

到達目標

・５つの勘定（資産・負債・資本・収益・費用）の意味を理解し、具体的な簿記一巡の手続きを習得する。
・決算手続きを理解し、財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を作成することができる。
・完成した財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を読み取ることができる。

授業全体の内容と概要

本講義は、簿記・会計の初心者を対象に、商業簿記に関する授業を行い、簿記の仕組みを基礎から学ぶ。
授業中は、テキストの解説のみならず、設例を用いた解説や演習問題に解答する時間を設ける。
授業では、小テストを毎回実施する。小テストの提出をもって、出欠確認を行う。
小テストの解答状況や質問欄に記載された内容は、次回以降の授業に反映していく。

授業の方法

簿記の学習は、実際に自分で問題を解くことで、体得するという性質がある。したがって、講義内では、問題演習を積極的に行う。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供することがあり得る。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

簿記は、学習の積み重ねが必要な科目であるため、講義には毎回出席すること。また、復習を欠かさず行うこと。
シラバス記載のテキストは、2024年4月時点の最新版を使用する。このテキストは、通常の書店では販売しておらず、また買い間違えを防ぐため、全学の教科書購入サイトを通じて購入すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。
「評価方法」にある平常点（30%）は、小テストで評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	３０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
５つの勘定（資産・負債・資本・収益・費用）を理解し、正しい金額を算定できる。	簿記の一連の手続きを理解した上で、即座に資料から勘定の計算ができる。	簿記の一連の手続きを理解した上で、時間内に資料から勘定の計算ができる。	簿記の一連の手続きを理解した上で、時間をかけつつも、資料から勘定の計算ができる。	勘定科目を5つの勘定（資産・負債・資本・収益・費用）に分類できる。	勘定科目を5つの勘定（資産・負債・資本・収益・費用）に分類できなかった。
決算手続きを理解できる。	決算手続きを理解した上で、速やかに財務諸表を作成することができる。	決算手続きを理解した上で、時間内に財務諸表を作成することができる。	決算手続きを理解した上で、時間をかけつつも、財務諸表を作成することができる。	決算手続きを最低限理解している。	決算手続きを理解できなかった。
財務諸表の内容を理解できる。	財務諸表の内容に基づき、基本的な経営分析ができる。	異なる会計期間の財務諸表を比較し、その違いや特徴を説明できる。	異なる会計期間の財務諸表を比較し、その違いや特徴に気づくことができる。	財務諸表に記載されている内容を最低限理解している。	財務諸表に記載されている内容を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	簿記論	（科目ナンバリング：ACC411007，ACC511004　　）			
授業担当者（所属・職名）	川津　大樹（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館4階	
単位数	2	（単位認定責任者：　川津　大樹　）	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体（商工会）に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、簿記に関する理論と実務を総合的に取り上げる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『日商簿記3級テキスト・問題集・解答集3冊セット』	片山覚 監修	カリアック	２０２２年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、簿記概論）	シラバスとテキストの序文を読んでおく（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
2	資産・負債・資本と貸借対照表	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
3	収益・費用と損益計算書	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
4	仕訳と総勘定元帳への転記	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
5	試算表の作成	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
6	決算手続き	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
7	現金・預金	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
8	商品売買	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
9	売上債権・仕入債務	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
10	有形固定資産	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
11	株式会社の資本と税金	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
12	決算整理（1） 売上原価・貸倒れ・減価償却	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
13	決算整理（2） 収益・費用の前払・前受・未収・未払	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
14	財務諸表の作成	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
15	総復習と問題演習 授業改善アンケートの実施	これまでの内容を復習する（９０分）	問題演習に取り組む（９０分）
16	定期試験と解説（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）	これまでの内容を復習する（９０分）	定期試験の解説内容を確認する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題　（科目ナンバリング：PSS122036　　）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　畠山　明子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代の精神保健分野の動向と課題、精神保健の基本的考え方、現代社会における精神保健の諸課題の実際に関わる精神保健福祉士に必要な知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。
②精神保健の基本的考え方を理解する。
③現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。

授業全体の内容と概要

①ライフサイクルや生活習慣をはじめとする精神保健の基本的な考え方と、それに関連する人間の心理行動面の特徴と現在の動向について学ぶ。
②現在注目されている精神保健の問題と解決策について学ぶ。
「SDGs3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。
②毎回の振り返り（小テスト・感想・質問等）をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
③第１０回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する（出題形式・試験時間等は授業内で説明）。
④授業資料の配信や感想等の提出にMicrosoft Teamsを活用する。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
③ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。
④新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに１０回以上あることを評価の前提条件とし、第１０回目に実施する中間テスト（３０点）、第１６回目に実施する定期試験（７０点）の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	３０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね説明できた。	現代の精神保健分野の動向と課題に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②精神保健の基本的考え方を理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方についておおむね説明できた。	精神保健の基本的考え方に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③現代社会における精神保健の諸課題の実際を理解する。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね説明できた。	現代社会における精神保健の諸課題の実際に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題 （科目ナンバリング：PSS122036 ）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2 （単位認定責任者： 畠山　明子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座２　現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
2	現代の精神保健の動向と基本的考え方①（精神保健の動向、精神保健活動の三つの対象）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
3	現代の精神保健の動向と基本的考え方②（精神の健康に関する心的態度、生活と嗜好）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
4	家族に関連する精神保健の課題と支援①（家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
5	家族に関連する精神保健の課題と支援②（介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
6	家族に関連する精神保健の課題と支援③（家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
7	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ①（学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
8	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ②（関与する専門職と関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
9	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ③（スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社会資源）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）
11	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ①（現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
12	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ②（職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
13	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ①（災害被害者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
14	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ②（精神保健の身体疾患に伴う精神保健、貧困問題と精神保健、社会的孤立）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
15	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ③（性的マイノリティと精神保健、多文化に接することで生じる精神保健上の課題、反復違法行為と	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 由水 伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ICTの専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

多岐にわたる情報分野と経営学の知識を総合的に理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

ICT活用に必要な応用知識の獲得の方向で演習が進められる。

授業の方法

講義、ゼミナール、実験、制作等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

３０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。授業内容は前後の相関関係があるため、欠席するとそれ以降の理解が難しくなる。全ての授業に出席することが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。
毎回の授業における課題の過程と結果が得点として積算される。
最終評価はルーブリックに従い、総合的に判断し決定する。
原則としてＳ評価は全回出席者に限る。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	70%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する獲得する事ができた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、高いレベルで知識・技能を獲得する事ができた。	まじめに取り組み、知識・技能の獲得につなげていた。	知識・技能を得るための最低限の活動は行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。また、独自の発想で課題に取り組み、高い結果を出していた。	真摯に取り組み、深いレベルで思考力・判断力・表現力を獲得する姿勢が感じられた。	まじめに取り組み、思考力・判断力・表現力の獲得につなげていた。	概ね、まじめに取り組んだが、思考力・判断力・表現力の獲得は不十分であった。	取り組みが不十分で、思考力・判断力・表現力の獲得に対する姿勢が全く見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組んえいた。また、課題解決後もさらなる研究・改善に努めた。	与えられた問題解決に前向きで、努力して取り組むが窺えた。	不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれた。	何とか授業はこなすものの、集中力が欠けていて理解する姿勢が不十分であった。	内容を身につけようとする姿勢が全く見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	由水 伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 由水 伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システム開発の経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報システムの理解に必要な知識について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	◇ オリエンテーション シラバスの説明、本専門演習の学習上の注意点 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	◇ 学習環境の整備 ・Microsoft365の設定確認 ・OneDriveの設定確認	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	◇ Wordを使ったレポート作成 ・スタイルを利用した文書の書式管理 ・図形・写真の組み込み、表組み、タブの利用	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	◇ Wordを使ったミニ新聞作成 ・縦書き段組を使ったレイアウト ・題字の設置、図形・写真の組み込み	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	◇ PowerPointを使ったポスター作成 ・目的に応じたデザインの決定 ・テキストボックス、図形、写真の利用	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	◇ Excelを利用した表データの活用 ・ソート ・フィルター	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	◇ Excelを利用したグラフの作成 ・グラフの種類と利用目的 ・円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	◇ Excelと関数（１） 基本的な関数 ・合計、平均、カウント（条件付き含む） ・文字の結合、分離、検索と置き換え	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	◇ Excelと関数（２） データの活用 ・XLOOKUP関数 ・INDEX、MATCH関数	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	◇ Excelとマクロ ・マクロとは ・マクロの記録と実行	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	◇ 画像編集 ・画像編集ソフトの選択とインストール ・用途に合わせた編集処理	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	◇ 音声編集 ・音声編集ソフトの選択とインストール ・サンプル音源の編集	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	◇ 動画編集（１） ・動画編集ソフトの選択とインストール ・サンプル動画の編集	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	◇ 動画編集（１） ・動画編集ソフトの選択とインストール ・サンプル動画の編集	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	◇ 画像や動画分野における生成AIの利用 ・種類と特徴 ・効果的な利用方法	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	○ 定期試験 定期試験と解答説明	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	経営学科各教員		研究室等所在	各研究室	
単位数	1 （単位認定責任者： 各教員 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢，学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして，それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がり、日本における社会人としての素養が身についた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的だった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	経営学科各教員		研究室等所在	各研究室	
単位数	1 （単位認定責任者： 各教員 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	担当教員による授業②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	担当教員による授業③	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	担当教員による授業④	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	担当教員による授業⑦	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	担当教員による授業⑧	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	担当教員による授業⑨	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	担当教員による授業⑩	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	担当教員による授業⑪	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	担当教員による授業⑫	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	担当教員による授業⑬	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	担当教員による授業⑭ 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による授業⑮およびまとめと評価について	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 河野　善文 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

日常のさまざまな疑問を経済学的観点からとらえるための知識を身につける。また、経済学の基礎知識を活用して、日常の問題を経済学的に考察する能力を身につける。さらには、演習内での議論を通して、人と協働して課題解決にあたるコミュニケーション能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

日常のさまざまな事象を経済学的観点でとらえる取組みができる。
課題の解決にむけて経済学の考え方の活用に取りくめる。
経済学の考えにもとづいたコミュニケーションに取りくめる。

授業全体の内容と概要

まず経済学の基本となる重要概念を学ぶ。学んだことを知識としてただ理解するだけでなく、経済学の考えの日常生活の事象への応用について、グループワークをおりまぜて演習する。演習では、日常のさまざまな不思議・疑問から出発して、具体的な問題・課題を見出し、その解決にむけて経済学の考え方の活用を議論する。

授業の方法

各回の計画にそって、まず経済学の重要概念からテーマを選んで解説する。次に、その学んだ考え方を、日常生活の身近な疑問や不思議にあてはめて考察することを演習する。演習では、個人的考察にくわえて集団討論による考察も行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

グループワークやディスカッションを基本とした少人数に授業であるため、受講人数を10人から12人程度までに制限する。ただし、具体的な人数は、当該年度の対象学年の学生数等を考慮して年度ごとに決める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	１０%	０%	９０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
疑問への経済学的観点の適用	日常生活の疑問に経済学的観点を適用して経済学的問題としてとらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点を適用して経済学的問題としてある程度とらえることができた。	日常生活の疑問に経済学的観点をある程度適用できた。	日常生活の疑問への経済学的観点の適用に取り組めた。	日常生活の疑問に経済学的な観点を適用できなかった。
問題の経済学的考察	日常生活の問題の経済学的解答を導くことができた。	日常生活の問いを経済学的に考察できた。	日常生活の問いについてある程度経済学的に考察できた。	日常生活の問いに関する経済学的考察に取りくめた。	日常生活の問いに関する経済学的考察ができなかった。
経済学的な議論の実践	経済学的思考にもとづいて意見をまとめることができた。	経済学的思考にもとづいて討議できた。	経済学的思考にもとづいてある程度討議できた。	経済学的思考にもとづいた討議に取りくめた。	経済学的思考にもとづいた討議ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 河野　善文 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明	シラバスを読む（４５分）	シラバス等の確認とまとめ（４５分）
2	時間割引について	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
3	時間割引の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
4	時間割引の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
5	時間割引に関する発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
6	インセンティブについて	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
7	インセンティブの事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
8	インセンティブの事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
9	インセンティブに関する発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
10	ゲーム理論について	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
11	ゲーム理論の事例演習(1) 集団討論	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
12	ゲーム理論の事例演習(2) 個別演習	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
13	ゲーム理論に関する発表とまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
14	後期演習のまとめ	前回の演習で指示した内容について調べる（４５分）	演習内容をノートにまとめる（４５分）
15	後期学生生活の振り返り	後期の学生生活について振り返る（４５分）	振り返りをまとめる（４５分）
16	補講・課題等 授業アンケートの実施	これまでの演習課題等を再確認・整理してたりないものを補う（４５分）	演習ノートの整理（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義　演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB　（科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094　）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木　重政（経営学科・教授）		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1　（単位認定責任者：　鈴木　重政　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	①研究室前の掲示ボード等を参照　②Teamsによるチャットは平日午前９時から午後５時まで対応				

概要

履修目標

目標は『未来を見通しビジネスを創造する力をつける』である。　コロナ禍や強権国家の台頭など世界の環境の変化は目まぐるしく、未来を見通すには高度な分析力と総合力そして実行力が必要となる。　分析力、総合力、実行力を涵養することを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

経営学の視点に立つ分析力、総合力、実行力を身につける。

授業全体の内容と概要

北海道の北広島市、由仁町、神恵内村でのフィールドワークを中心に、実用的な活動を行う。SDGsでは「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「11．住み続けられるまちづくりを」「12．つくる責任 つかう責任」「14．海の豊かさを守ろう」「15．陸の豊かさも守ろう」に関連する。

授業の方法

授業はフィールドワーク（北広島市、由仁町、神恵内村）が中心となる。研究室にて企画を立て、対象地域の人々とともに行動する。したがってコミュニケーション力も必要となる。フィールドワーク終了後はレポートを作成する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

分析力、総合力、実行力、改善力を存分に発揮すること。積極的な発言を望む。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要とされる最低出席回数は１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営学の視点に立つ分析力	経営学の視点に立つ分析力が極めて高い	経営学の視点に立つ分析力がやや高い	経営学の視点に立つ分析力が高い	経営学の視点に立つ分析力がある	経営学の視点に立つ分析力が不足している
経営学の視点に立つ立案力	経営学の視点に立つ立案力が極めて高い	経営学の視点に立つ立案力がやや高い	経営学の視点に立つ立案力が高い	経営学の視点に立つ立案力がある	経営学の視点に立つ立案力が不足している
運営能力	経営学の視点に立つ運営能力が極めて高い	経営学の視点に立つ運営能力がやや高い	経営学の視点に立つ運営能力が高い	経営学の視点に立つ運営能力がある	経営学の視点に立つ運営能力が不足している
評価能力	経営学の視点に立つ評価能力が極めて高い	経営学の視点に立つ評価力がやや高い	経営学の視点に立つ評価力が高い	経営学の視点に立つ評価力がある	経営学の視点に立つ評価力が不足している
改善能力	経営学の視点に立つ改善力が極めて高い	経営学の視点に立つ改善力がやや高い	経営学の視点に立つ改善力が高い	経営学の視点に立つ改善力がある	経営学の視点に立つ改善力が不足している

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義　演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB　（科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094　）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木　重政（経営学科・教授）		研究室等所在	1号館3階	
単位数	1　（単位認定責任者：　鈴木　重政　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　地域活性化の定義	地域活性化の定義を考える	地域の分析を行う
2	フィールドワーク（北広島市　エスコンフィールド）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
3	フィールドワーク（北広島市・由仁町・神恵内村）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
4	フィールドワーク（北広島市・由仁町・神恵内村）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
5	フィールドワーク（北広島市・由仁町・神恵内村）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
6	フィールドワーク（北広島市・由仁町・神恵内村）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
7	フィールドワーク（北広島市・由仁町・神恵内村）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
8	フィールドワーク（北広島市・由仁町・神恵内村）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
9	フィールドワーク（北広島市・由仁町・神恵内村）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
10	フィールドワーク（北広島市・由仁町・神恵内村）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
11	フィールドワーク（北広島市・由仁町・神恵内村）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
12	フィールドワーク（北広島市・由仁町・神恵内村）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
13	フィールドワーク（北広島市・由仁町・神恵内村）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
14	フィールドワーク（北広島市・由仁町・神恵内村）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
15	フィールドワーク（北広島市・由仁町・神恵内村）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成
16	フィールドワーク（北広島市・由仁町・神恵内村）	フィールドワークの準備	フィールドワークのレポート作成

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	岡島 徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 岡島 徳昭 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際言語としての英語理解を基本とし様々な国際関係の時事問題を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。さらにそれらを発展させ、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力を身につけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。基本的に専門演習ＩAの内容を継続する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

「異文化コミュニケーション」の学びに沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。

授業の方法

講義，ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態をとる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

10名を上限とする。各回授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価はすべての活動を通して加味し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	１００%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	岡島 徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 岡島 徳昭 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	授業①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	授業②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	授業③	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	授業④	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	授業⑤	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	授業⑥	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	授業⑦	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	授業⑧	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	授業⑨	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	授業⑩	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	授業⑪	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	授業⑫	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	授業⑬	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	授業⑭ 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	授業⑮およびまとめと評価について	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）	研究室等所在	１号館４階		
単位数	1 （単位認定責任者： 青山　浩之 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。法的なものの考え方を身につけ、ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を習得すること目的とする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得することにより、条文を理解し、適用・解釈できる。法的な側面から会社とは何かを考えることができる。

授業全体の内容と概要

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について、基本となる知識を修得する。

「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「SDG 8.働きがいも経済成長も」の関連科目。
「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

専門演習を進める上で、「商法」「会社法」（講義）を受講することが前提条件になります。
専門演習は基本的に講義・発表（報告者はあらかじめ決めて順次報告）・討論する方法をとります。
※確認テストなどはプリント配布で実施のほか、Microsoft Formsの小テストから学生全体の理解度を把握し、指導する

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・演習科目なので、積極的な出席が必要
・私語などの迷惑行為は厳禁
・講義中スマホの操作は厳禁
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	３０%	０%	７０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に授業に取り組み、実社会で対応し得る様々なスキルを学び、社会に貢献するための努力をしている。	各回の授業に真摯に取り組み、十分な実践力の獲得へ向けた理解が深まりつつある。	各回の授業に取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られる。	授業にまじめに取り組み、日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	授業への取り組みが不十分で、知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、主体的に活動を行っている。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり、活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的である。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られない。
事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を適用し、さらに自分の意見を述べる	事例を理解し、法律の条文を適用し、自分なりの説明できる	事例を理解し、法律の条文を適用できる	事例を理解し、法律の条文を理解できる	事例を読み取れず、法律の条文を理解できない
課題に対し、問題可決ができる	解答が的確で、過不足なく網羅して答えている	解答は答えているが、一部に解答と関係ないことを答えている	解答が一通り答えているが、改善すべき点がある	解答を部分的には答えているが、的確ではない	解答が論点にズレがあり、テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 青山　浩之 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション 個別面談・履修登録チェック 授業改善アンケート結果反映の説明	授業への参加の心構えを考える。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
2	株式会社の経営体制－骨格と役割（７）事例研究 大学の学びとキャリア（１） 大学で何を学び、身につけなければいけないか	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
3	株式会社の経営体制－骨格と役割（８）事例研究 大学の学びとキャリア（２） 大学で何を学び、身につけなければいけないか	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
4	株式会社の経営体制－責任（１）役員 大学の学びとキャリア（３） 大学で何を学び、身につけなければいけないか	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
5	株式会社の経営体制－責任（２）役員 大学の学びとキャリア（４） 大学で何を学び、身につけなければいけないか	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
6	株式会社の経営体制－責任（３）事例研究 大学の学びとキャリア（５） 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
7	株式会社の経営体制－責任（４）事例研究 大学の学びとキャリア（６） 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
8	株式会社の経営体制－責任（５）事例研究 大学の学びとキャリア（７） 「働く」ということを考える	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
9	株式会社の経営体制－骨格と役割（５）指名委員会等・監査等委員会・執行役 大学の学びとキャリア（８）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
10	株式会社の経営体制－骨格と役割（６）監査役・監査役会 大学の学びとキャリア（９）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
11	株式会社の経営体制－骨格と役割（７）会計参与・会計監査人 就職活動の準備（１）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
12	株式会社の経営体制－骨格と役割（８）事例研究 就職活動の準備（２）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
13	株式会社の経営体制－骨格と役割（９）事例研究 就職活動の準備（３）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
14	株式会社の経営体制－骨格と役割（１０）事例研究 就職活動の準備（４）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
15	株式会社の経営体制－骨格と役割（１１）事例研究 就職活動の準備（５）	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	授業の振り返りを行う。（４５分）
16	個別面談・履修登録チェック 授業改善アンケートの実施	指定された内容の準備完了を確認する。（４５分）	前期全体の振り返りを行う。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 石山　玄幸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

当ゼミナールは、グループディスカッションを基本として、ゼミナールで実施するテーマの決定から実行、検証までを学生主体で進めることで、将来的に社会人として活躍できる人材に成ることを目的としている。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ全てに対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

当ゼミナールの到達目標は、グループワークでの基本ルールを身に付け、他人の意見を尊重しながらも、自分の意見もきっちりと発言できること。そして、他人の意見から、多面的かつより深い議論ができるようになること。

授業全体の内容と概要

専門演習Ｉｂは、専門演習Ｉａ同じ手法で進めるが、専門演習Ｉaでの改善点を踏まえて、より質の高い成果を目指す。

授業の方法

当ゼミナールは、毎回、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを基本として、研究テーマを決定した後は、フィールドワーク、PBL、調査学習を中心に進める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

当ゼミナールは、①提出物等の期限が守れること、②無断欠席はしないこと、③ゼミで積極的に発言・参加すること。この３つを重視する。この３つを守れない場合は減点対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	１００%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚のもと、日本における社会人たる資質が出来上がった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的な範囲を超えなかった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	石山　玄幸（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 石山　玄幸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	グループディスカッションの基本	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	グループディスカッションによる研究テーマ選定①（研究テーマの候補をいくつか挙げる）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	研究テーマの決定	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	研究テーマの実施計画の策定①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	研究テーマの実施計画の策定②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	研究の実行①（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	研究の実行②（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	研究の実行③（フィールドワーク、調査学習、PBL）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	調査のまとめ①（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	調査のまとめ②（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	調査のまとめ③（報告書の作成）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	プレゼンテーション（研究成果の発表）と質疑応答	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	本研究の検証①（振り返り）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	本研究の検証②（後期に向けた改善点） 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	担当教員による講評と評価についての説明	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 天野　雅斗 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして、それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

スポーツパフォーマンスを感覚だけではなく客観的事実（データ）からも評価できるようにする。その過程を通して、①保健体育・スポーツ分野の専門家としての基礎的な知識の定着、②様々な人々と一緒に仕事をしていくための人間力の育成、③プロジェクトを遂行するためのマネジメント力、④学んだ知識を現場に適用し有効に活用していくための社会人基礎力を向上させることを目標とする。

授業全体の内容と概要

①スポーツパフォーマンス研究の現状を知る。②調査から提案までのプロセスについて、実践を通して理解する。データの収集・統計分析・結果報告・改善方法の立案（Excel，Word，Power Pointなどを使用）について学ぶ。③グループ毎にプロジェクト内容を決め計画・実行する。

授業の方法

大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実践経験（体験活動）に重点を置いているため、好奇心を持って積極的に取り組むこと。また、パソコンを使用してデータ分析も行うのでパソコンを用意すること。そのほか授業時にアナウンスするので、その指示に従うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち出席１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとし判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	１００％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自然科学における基本的な思考法やスポーツ科学の基礎知識・技能を身につけている	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着しなかった。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け本学経営学部生としての自覚が出来上がり、日本における社会人としての素養が身についた。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常であり経営学部生としての活動を実社会で生かすことに関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか授業はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、日々の活動も受動的だった。	自分から進んで経営学部生としての内容を身につけようとする姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 天野　雅斗 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明	シラバスの確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	研究計画の立案①先行研究の文献調査（文献検索の方法、読み方）	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
3	研究計画の立案②研究方法、研究倫理について	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
4	研究計画の立案③実験・調査依頼文の作成	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
5	実験・調査依頼	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
6	アンケート調査	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
7	スポーツパフォーマンス測定調査①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
8	スポーツパフォーマンス測定調査②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
9	スポーツパフォーマンス測定調査③	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
10	スポーツパフォーマンス測定調査④	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
11	調査結果のデータ分析①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
12	調査結果のデータ分析②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
13	調査結果報告資料作成①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
14	調査結果報告資料作成②	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
15	調査結果報告発表①	予習課題（４５分）	授業振返り課題（４５分）
16	調査結果報告発表② まとめと評価について	授業振り返り作成（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義、実技	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ　（科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094　）				
授業担当者（所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　石井　祐治　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・自分自身で行っているトレーニングの効果を検証する。
・トレーニング内容を確立する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

データ分析，パワーポイント，ワードでのまとめ方を覚える。
統計処理まで行い，より詳しい分析方法やデータ処理を身につける。

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自で決めて，その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して，論文の書き方などの指導を行う。
・トレーニング
・新たなトレーニング方法の検証
・レース分析
・簡単な動作分析　など

授業の方法

自分が行いたいテーマを決め，スケジュールを組み取り組んでいく。
途中経過をゼミで発表し，意見交換を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各自状態によってトレーニング内容が変わってくるため，日程調整しながらトレーニングを継続することが大事となってくる。トレーニングおよびレース内容をもとに評価する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２５%	２５%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていないカ所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義、実技	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	石井　祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 石井　祐治 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明	ガイダンス （45分）	学習内容の復習（45分）
2	各テーマの論文検索①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
3	各テーマの論文検索②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
4	各テーマの論文検索③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
5	各テーマの論文検索④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
6	論文発表①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
7	論文発表②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
8	論文発表③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
9	論文発表④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
10	トレーニング①	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
11	トレーニング②	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
12	トレーニング③	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
13	トレーニング④	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
14	トレーニング⑤	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
15	トレーニング⑥	論文読解 （45分）	学習内容の復習（45分）
16	まとめ・発表	パワーポイントでの作成 （45分）	学習内容の復習（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ　（科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094　）				
授業担当者（所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・自分自身で行っているトレーニングの効果を実験などを踏まえて検証する．
・新たな指導法を確立する．

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

データ分析，パワーポイント，ワードでのまとめ方を覚える．
統計処理まで行い，より詳しい分析方法やデータ処理を身につける．

授業全体の内容と概要

主にデータ収集。テーマを各自で決めて，その実験などに必要な被検者などはゼミ内でまかなう。データ収集と平行して，論文の書き方などの指導を行う。
・トレーニング
・各部活における新たな指導法
・ゲーム分析
・簡単な動作分析　など

授業の方法

・自分が行いたいテーマを決め、スケジュールを組み、測定を行う。
・途中経過をパワーポイントで発表し，意見交換を行う。
・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します．
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します．

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

データをとるなどの細かい作業もあり，日程調整などもあるため継続することが大事となってくる。データをもとに発表などから評価する。尚、不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２５%	２５%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
論文の内容を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
データ分析やパワーポイントの操作を理解したか	十分に理解した	理解した	おおむね理解した	理解できていないカ所がある	全く理解できていない
発表の際の工夫は行われていたか	十分に行われた	行われた	おおむね行われた	行われていないカ所がある	全く行われていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者：　篠原　諒介　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
2	各テーマの論文検索①	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
3	各テーマの論文検索②	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
4	各テーマの論文検索③	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
5	各テーマの論文検索④	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
6	論文発表①	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
7	論文発表②	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
8	論文発表③	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
9	論文発表④	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
10	プレ測定①	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
11	プレ測定②	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
12	プレ測定③	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
13	プレ測定④	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
14	プレ測定⑤	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
15	プレ測定⑥	論文読解（４５分）	学習内容の復習（４５分）
16	まとめ・発表 授業改善アンケートの実施	パワーポイントでの作成（４５分）	学習内容の復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	川津　大樹（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館4階	
単位数	1 （単位認定責任者： 川津　大樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体（商工会）に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。		
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。				

概要

履修目標

財務会計に関する知識を習得するとともに、経営分析等を通じてそれを活用する力を身につける。
また、４年次の卒業論文の執筆に向けて、その論点（財務会計の問題点）を自ら発見するため、自発的に考える力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

・財務会計の理論、国内外の会計基準およびそれらに基づく実務にまつわる知識を身につける。
・有価証券報告書等の公表資料を用いて、実際の企業を分析する力を身につける。
・卒業論文の書き方や参考文献等の資料収集を体得するとともに、卒業論文のテーマ・論点を見つける。

授業全体の内容と概要

３年次では、財務会計にまつわる文献を輪読し、近年における財務会計の動向を把握する。
その中で、自分なりに財務会計における論点（問題点）を見つけ、卒業論文の執筆に備える。
授業最終回では、半年間のまとめとして、財務会計の動向または実際の企業に関する経営分析をテーマとしたプレゼンテーション回を行う予定である（具体的なテーマや実施形式は、受講生との話し合いによって決定する）。
このほか、卒業論文の書き方や文献収集について随時指導していく。

授業の方法

テキスト等の指定された文献の箇所・テーマを各自レポート形式で事前にまとめ、当日はそれに基づいてディスカッションを深めていく。
ディスカッションにおいては、積極的な発言を期待する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供することがあり得る。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

他の会計科目を履修済みもしくは今年度に履修予定であることが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上。
自主的・積極的な演習内での発言を評価する一方、無断欠席は大きな減点要因となるので要注意。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
財務会計にまつわる知識の習得	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれを活用することができた。	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれをある程度活用することができた。	財務会計の知識を踏まえ、経営分析等、授業以外の場でもそれを活用しようと試みた。	授業で取り上げた財務会計の知識を最低限習得できた。	授業で取り上げた財務会計の知識を習得できなかった。
財務会計に対する問題意識の醸成と論点の発見	財務会計の論点・問題点を見つけ、その解決に向けた考察を行っている。	財務会計の論点・問題点を見つけた。	財務会計に対する問題意識を抱き、その論点となる問題を探している。	財務会計に対する問題意識を抱き始めた。	財務会計に対する問題意識を全く抱かなかった。
主体的・意欲的な授業への参加	自分だけでなく、他の受講者も巻き込んだ形で授業に参加し、授業全体の活発化に取り組んだ。	積極的に質問やディスカッションを行い、能動的に授業に参加した。	積極性は乏しいものの、質問やディスカッションに一部参加した。	授業には参加したものの、質問やディスカッションについて、受動的に姿勢に終始した。	授業に意欲的に参加しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	川津　大樹（経営学科・専任講師）		研究室等所在	1号館4階	
単位数	1 （単位認定責任者： 川津　大樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体（商工会）に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『新・現代会計入門　第6版』	伊藤邦雄	日経ＢＰＭ	2024年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：講義の方針確認 前期の復習 授業改善アンケート結果反映の説明	前期に用いた資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	金融商品会計①	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
3	金融商品会計②	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
4	従業員給付会計①	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
5	従業員給付会計②	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
6	連結会計①	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
7	連結会計②	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
8	企業結合・事業分離等の会計①	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
9	企業結合・事業分離等の会計②	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
10	外貨換算会計①	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
11	外貨換算会計②	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
12	経営分析①	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
13	経営分析②	テキストの指定範囲のレポート作成（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
14	プレゼンテーション報告会の準備①	プレゼンテーションの準備（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
15	プレゼンテーション報告会の準備②	プレゼンテーションの準備（４５分）	ディスカッションでの論点を再確認する（４５分）
16	プレゼンテーション報告会（本番）と総評 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーションの準備（４５分）	報告会での指摘事項を再確認（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ　（科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094　）				
授業担当者（所属・職名）	小林　大州介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1　（単位認定責任者：　小林　大州介　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	初回に周知する。また各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

担当各教員の専門領域を通して、経営学部生として主体的な学ぶ姿勢、学問的（客観的・論理的）な思考・研究方法の基礎を磨く。そして，それを基礎として、自ら課題設定を行い、学問的に問題解決する力をつけ、就職活動や卒業論文へ活かし専門的な知識領域を磨く。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ全てに対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

多岐にわたる経営学の分野を理解し、各自が修める専門テーマを明確にする。また、そのために必要な知識と考え方を修得するよう努力する。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿った形で演習が進められる。最終的な成果を形にすることを目指して、研究を着実に進めることが一層求められる。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針の下に行われるので，講義，ゼミナール、実験、制作、見学、調査等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。与えられたテーマに沿ってプレゼンテーションを行う・テーマ別にディスカッションやディベートを行う・グループに分かれて討議や調査を行うなど、実社会において使える技能に磨きをかけることを目的とした様々な活動を行うこととなる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員が授業時にアナウンスする。授業中に指定された課題は必ず行うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業１６回のうち１３回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。最終評価は各教員が判断し決定する。出席および日々の活動はすべて平常点扱いとしゼミ担任が判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	１００%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	知識・技能を得るために十分積極的に活動した。	知識・技能を得るための活動は、やや積極性を欠くものの十分な姿勢を見せた。	知識・技能を得るための通常の活動は、ある程度こなすことができた。	知識・技能を得るための最低限の活動を行った。	知識・技能を得るための最低限の活動が見られなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的にゼミに取り組み、経営学部生として実社会で対応し得る様々なスキルを学び、経営学部において学んだ内容を以って社会に貢献するための努力をした。	各回のゼミに真摯に取り組み、経営学部生として十分な実践力の獲得へ向けた理解を深めることができた。	各回のゼミに取り組み、考え方や問題解決に対する努力が見られた。	ゼミにまじめに取り組み、経営学部生としての日常活動を実社会につなげるための努力は認められるがなかなか定着していない。	ゼミへの取り組みが不十分で、本学経営学部生としての知識の獲得に対する前向きな姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	小林　大州介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 小林　大州介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション　授業内容の説明 授業改善アンケート結果反映の説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業①	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
3	担当教員による授業②	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
4	担当教員による授業③	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
5	担当教員による授業④	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
6	担当教員による授業⑤	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
7	担当教員による授業⑥	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
8	前半授業の振り返り	前半授業の復習（４５分）	授業の復習（４５分）
9	担当教員による授業⑦	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
10	担当教員による授業⑧	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
11	担当教員による授業⑨	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
12	担当教員による授業⑩	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
13	担当教員による授業⑪	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
14	担当教員による授業⑫	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
15	担当教員による授業⑬ 授業改善アンケートの実施	予習課題（４５分）	授業の復習（４５分）
16	後期授業の総括について	後期授業の復習（４５分）	全体の復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	小早川俊哉（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 （単位認定責任者： 小早川俊哉 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

社会の変化から社会政策（福祉政策）の変化を理解できるようになる。
「専門演習ＩＢ」の目的は、知的トレーニングを積み重ねてくことにある。それまでの様々な講義から習得した知識を基盤とし、さらにゼミナール担当教員の指導やゼミナール学生とのディスカッションを通して、学生個々の独創性を磨き、独自の研究テーマを設定する視点と、それを論文として形にするための基本スキルとツールの活用法を取得する。さらに「勉学・研究テーマ」を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

・日本の社会システムを把握する。
・自らの課題を見つけ、自らが学び考えてIN PUT-OUT PUTできる能力を身につける。
・卒論テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・次年度の国家試験を意識して、積極的に学ぶ習慣を身に付ける。

授業全体の内容と概要

大学生として理解すべき社会システム、特に政治経済の基礎、並びに、社会福祉学部の学生として福祉制度変革の背景の理解を主目的に議論中心の授業を展開する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・プレゼン・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。従って、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、プレゼンやレポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

前期に履修した「専門演習ＩＡ」の教員が継続して担当する。４年次の「専門演習ＩＩＡＢ」についても、原則としてこの科目の尚、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。その他、個別案件に対しては要相談。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低条件である１１／１６回以上の出席をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
４年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。	研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動（ネット、文献検索等）を説明できた。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。	自分の研究テーマが明確になっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
日本の社会システムを理解した。	社会政策が必要となる背景を理解して説明できた。	社会政策の主体と方法を理解できた。	社会政策と経済政策の関連を理解できた。	社会政策・経済政策の概要を理解できた。	左記の内容が何一つできなかった
研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の発表を尊重することができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	小早川俊哉（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 （単位認定責任者： 小早川俊哉 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	自身の目標発表の準備（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業１	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業５	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業６	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業７	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業８	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業９	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業１０	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業１１	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業１２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業１３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業１４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ　（科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094　）				
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　藤根　収　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育や今日的な教育課題について指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習担当各教員の専門分野を中心に、社会福祉学をはじめとする社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育や今日的な教育課題等についてテーマを設け、探究、整理、協議、発表を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に演習に取り組む。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々は授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職課程を履修している学生で特別支援教育や教育の今日的な課題に対して、関心をもって主体的に学ぼうとする者を対象とする。
担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に努めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ　（科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094　）				
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階研究室	
単位数	1　（単位認定責任者：　藤根　収　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験や教育行政経験のある教員がその経験を活かして、特別支援教育や今日的な教育課題について指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業１ 「特別支援学校教育についてのディスカッション」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	担当教員による授業２ 「後期の演習及び研究についての説明と協議」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	担当教員による授業３ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	担当教員による授業４ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	担当教員による授業５ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	担当教員による授業６ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	担当教員による授業７ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	担当教員による授業８ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	担当教員による授業９ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	担当教員による授業１０ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	担当教員による授業１１ 「特別支援教育の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	担当教員による授業１２ 「特別支援教育等の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	担当教員による授業１３ 「特別支援教育等の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	担当教員による授業１４ 「特別支援教育等の今日的課題演習」	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括 専門演習ＩＢのまとめ（発表）	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態		必修・選択	
科目名称	専門演習ＩB　（科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094　）				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	1　（単位認定責任者：　）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー					

概要

履修目標

授業の位置づけ

到達目標

授業全体の内容と概要

授業の方法

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

修学サポート（合理的配慮）

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態		必修・選択	
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	1 （単位認定責任者： ）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 （単位認定責任者： 吉江　幸子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

こども・高齢・障害分野に興味関心をもち、文献を調べる方法を理解する。
積極的に意見を出し合い、周囲とのコミュニケーションを図る。
主体的に研究テーマを決め、討論などを通して専門的な知識を深める。
討論、発表を繰り返すことで周囲との意見の違いにも気づき、チームワークの大切さや自分の強みに気付く。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１，DP２，DP３，DP４，DP５に対応する。（２０２２年度）

到達目標

・自分の方向性を見つけ、自ら学び考えて解決できる能力を身につける。
・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかんでいる。
・研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につける。
・研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

「専門テーマ：「自分発見」に沿った形で資料を活用し、要約の方法などを考察する。
専門演習ＩAから継続する。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査等様々な授業形態で実施する。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・専門演習ＩAから継続して受講。
・不測の事態不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
・吉江ゼミでは、学生の企画立案、実践、事後評価の流れを汲んで積極的参加を求める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上とするが全回出席が望ましい。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 （単位認定責任者： 吉江　幸子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ゼミ内容のガイダンスと今後実践したい内容の意見収集	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	ゼミ内の役割分担の話し合い	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	希望テーマに沿った文献収集と発表準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	希望テーマに沿った文献収集と発表	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	発表と討論・ディスカッション	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括としての評価・ディスカッション	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ　（科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西野　克俊　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

ソーシャルワークの基礎知識・基礎技術の習得を図り、自身の考えるテーマを深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。（2023年度）

到達目標

①福祉の現場や働いている専門職役割を知識として学習する。
②専門職になるために、学ぶ・考える・関わるの基礎を学習する。
③自らの目標達成のために、計画性・実行性を習得する。
④コミュニケーション能力などの向上を図る。

授業全体の内容と概要

①現業のSW話を聞き、現場の様子や現状を知り、それをもとにゼミ内でディスカッションをしながら知識を広げる。
②状況に応じて、現場交流や技術習得を目指すためのボランティア活動への参加。
③個人だけでなくゼミとして専門職として必要と考えられる知識や経験などを検討し、必要な計画を立て実行する。
④終盤には知り得た知識の中で、何か一つテーマを見つけそのテーマに沿った内容を深く掘り下げる。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・実験・製作・見学等様々は授業形態を行う。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
②不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
担当教員が提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ　（科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　西野　克俊　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	現場見学（福祉サービス事業所） シラバスの説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	現場見学（福祉サービス事業所）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
3	現場見学（精神科診療所）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
4	現場見学（精神科診療所）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
5	現場見学（地域活動支援センター）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
6	現場見学（地域活動支援センター）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
7	現場見学振り返り（福祉サービス事業所）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
8	現場見学振り返り（精神科診療所）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
9	現場見学振り返り（地域活動支援センター）	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
10	卒業論文準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
11	卒業論文準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
12	卒業論文準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
13	卒業論文準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
14	卒業論文準備	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
15	まとめ	予習課題（４５分）	配布資料の確認（４５分）
16	総括	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 畠山　明子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

「専門演習ＩＢ」の目的は、知的トレーニングを積み重ねてくことにある。それまでの様々な講義から習得した知識を基盤とし、さらにゼミナール担当教員の指導やゼミナール学生とのディスカッションを通して、学生個々の独創性を磨き、独自の研究テーマを設定する視点と、それを論文として形にするための基本スキルとツールの活用法を取得する。さらに「勉学・研究テーマ」を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２２年度）

到達目標

・自分の課題を見つけ、自らが学び考えて解釈できる能力を身につけることができる。
・個々の学生がそれぞれの「勉学テーマ」の糸口をつかむことができる。
・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につけることができる。
・研究テーマに沿った論文執筆の基本的スキルを身につけることができる。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルが取得できる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿って進められる。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。従って、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。
基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

前期に履修した「専門演習ＩＡ」の教員が継続して担当する。４年次の「専門演習ＩＩＡＢ」についても、原則としてこの科目の教員が継続して担当する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
４年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。	研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動（ネット、文献検索等）を説明できた。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。	自分の研究テーマが明確になっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のスキルを身につけている。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に着けており、それを起承転結に構成した文章で表すことができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に着けており、そのための章立てができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に着けることができた。	論文・レポート執筆のための基本スキルを身に着けることができた。	左記の内容が何一つできなかった
研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の意見を尊重することができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 畠山　明子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	調査活動準備①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	調査活動準備②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	調査活動実施①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	調査活動実施②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	調査活動実施③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	調査活動実施④	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	調査活動振り返り①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	調査活動振り返り②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	調査活動振り返り③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	調査活動振り返り④	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	調査活動振り返り⑤	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	調査活動まとめ①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	調査活動まとめ②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	調査活動まとめ③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	調査報告会、総括	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 堀川　厚志 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野を中心に、教育学、社会福祉学をはじめとする教育科学、社会科学の方法論を、文献研究、フィールドワーク、ディスカッションなどの教授方法を使用し獲得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

自身の関心のあるテーマを探り、研究を方向付けるために必要な文献・資料・データの活用方法を身につける。
個々の研究テーマを追究するための研究方法に関するノウハウを理解する。
研究テーマに沿った論文執筆に必要なスキルを身につける。
自身の研究内容について、プレゼンテーションによる発表するスキルを身につける。
学友の発表を傾聴し、内容の理解と的確な質問をするスキルを身につける。

授業全体の内容と概要

特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、関連する内容や今日的課題について探究、整理、発表、協議を行う。
各自が関心をもつ内容について整理、焦点化などを通して研究の方向付けを行う。
調査研究や文献研究の方法、情報の整理の仕方やまとめ方について、主体的に取り組む。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

プレゼンテーション資料等によるテーマの焦点化、調査方法、文献研究の方法について説明する。
フレームワーク等の試行により関心事、文献研究・調査研究内容を焦点化し整理し、随時グループワークを実施する。
プレゼンテーションの発表を通して、調査研究等の報告、情報共有を行う。
質問には随時対応し、各自の調査・収集・整理した内容については、コメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーション時に配布される担当教員のゼミナール紹介を熟読の上、所属を決定すること。
「専門演習ＩＡ」を担当した教員が後期の「専門演習ＩＢ」を担当する。
特別支援教育、障害のある子に応じた教育を中心に、教育に関連する内容や今日的な課題について、関心をもつ者とする。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業と評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２０%	０%	１０%	７０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
提示した課題についての情報獲得ツールを駆使できる	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができ、さらに、自分の学習課題として昇華できる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示でき、まとめることができる。	ネット、文献検索などのツールを使いこなし、提示された課題についての資料を具体的に提示できる。	提示された課題についてネット検索を行い、資料を具体的に検索できる。	左記の内容が何一つできていない。
論文・レポート執筆のためのスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見でき、それを論文に構成できるスキルを獲得する。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆でき、そこから、さらに研究課題を発見できる。	論文・レポート執筆のスキルを獲得し、その方法に沿って、レポートを執筆できる。	具体的なレポート路執筆できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマを明確に発表でき、他者の研究を尊重できる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができ、且つ、他者の意見と研究を尊重しながら、双方向の向上ができるような議論ができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができ、それについてディスカッションができる。	自分の研究テーマについて、プレゼンを行い、他の学生に納得させることができる。	自分の研究テーマを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	堀川　厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 堀川　厚志 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育学、特別支援教育、障がいのある子に応じた教育等の専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（活動の目的、方法、活動計画等） 前期の取組の振り返りと後期の取組方針の確認	所属研究室選択資料の確認 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
2	前期の取組の振り返りと後期の取組方針の確認 各自の追究する内容等（概要）の確認	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
3	各自の追究する内容等（概要）の確認 調査研究、文献研究等の各自の計画（期間、内容、方法等）の確認	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
4	調査研究、文献研究等の各自の計画の確認及び計画による情報収集と整理 各情報収集内容の全体共有の実施計画説明	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
5	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理 実施計画に基づく情報収集内容の全体共有１	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
6	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理 実施計画に基づく情報収集内容の全体共有２	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
7	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理 実施計画に基づく情報収集内容の全体共有３	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
8	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理 実施計画に基づく情報収集内容の全体共有４	前期の振り返り （４５分）	前期の振り返りの確認 （４５分）
9	中間報告資料の作成	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
10	中間報告会 （前半の取組内容、振り返りと後半の取組方針）	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
11	前半の取組内容、振り返りと後半の取組方針の確認 各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
12	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理 実施計画に基づく情報収集内容の全体共有５	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
13	各自の計画に基づく調査研究、文献研究等による情報収集と整理 実施計画に基づく情報収集内容の全体共有６	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
14	文献研究、調査研究等による情報収集内容の整理 発表資料の作成	予習課題 （４５分）	配布資料の確認 （４５分）
15	全体発表会（後期の取組内容、整理した情報内容） 振り返りと次年度の取組方針について	全体の振り返り （４５分）	全体の振り返りと次年度方針の確認 （４５分）
16	全体発表会、後期の取組内容の振り返りの確認 次年度の取組方針の確認	全体の振り返り （４５分）	全体の振り返りと次年度方針の確認 （４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ　（科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094　）				
授業担当者（所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階専任講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮﨑　剛司　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または各教員の研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標

卒業論文執筆を通じて、社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１，DP２，DP３，DP４，DP５に対応する。（２０２２年度）

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「専門テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

・各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
・Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
・「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。
・大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
・後期の「専門演習ＩＩＢ」も、この演習の担当教員が継続して担当する。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
卒業論文執筆のテーマをが明確になっている。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	卒業論文執筆のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の執筆予定を説明できる。	卒業論文執筆のテーマに沿って章立てができており、執筆を開始している。	卒業論文執筆のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の執筆テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階専任講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 宮﨑　剛司 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む）	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業１	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業５	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業６	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業７	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業８	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業９	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業１０	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業１１	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業１２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業１３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業１４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	社会福祉学科･教授		研究室等所在	1号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 松下 守邦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（演習科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

卒論準備（アカデミック･シンキング）の基礎理解をおこなう。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（2022年度）

到達目標

卒論執筆準備のため、学術レポート作成の基礎を理解する。
学術作法にもとづいて、社会科学の疑問をあきらかにする方法を習得する。

授業全体の内容と概要

・専門ゼミ初年度の１年間を通して、アカデミック・シンキングを学修する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
・次の①から④について段階的理解をすすめる。
①学術論文のスタイルを確認する。
（書く作業のなかで思考を深める、先行研究理解、引用など、学術研究ルールを学ぶ）
②大学教員や研究者が執筆した学術論文を自分の関心にあわせて
図書情報館レファレンスサービスをうけ取寄せる。
③学術論文、文献を読み、要旨をまとめる。
社会的事象について、複数文献を精読し、視点、考察方法の違い等を報告する。
④学術論文、文献の読解作業をふまえ、先行研究の批評的思考をおこなう。
（定義を確認する、比較する、相違点や類似点をみつける ）

授業の方法

社会福祉学科Teams「２０２４年度 専門演習Ｉ履修方法」（２０２４年１月開示）には、「専門ゼミテーマ、内容一覧」（PDF）がある。アカデミック・シンキングのための文献講読は、ゼミメンバー確定後、演習にて選書、決定する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
・授業科目Teamsを利用する。履修学生はチームメンバーになり、以下のコースパケット利用が可能になる。
・コースパケットは、履修学生に必要と思われる教材資料をまとめたものである。
準備学習に必要となる教材（論文コピー、報告書など）
課題（練習問題、レポートの指示と執筆のための参考資料）
授業のなかでは扱いきれなかった、関連文献、補足情報
授業者への相談質問のための案内

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
高校教育までにうけた支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら、科目サポートを進める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１０回以上をクリアすること。これは、必要とされる量的基準であるけれども、十分条件ではない。学修は最後まで継続しベストを尽くすことを期待する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	０％	３０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心のある主題について、信頼性のある情報を整理し、論点を抽出する。	信頼性の高い情報を網羅して調べており、多様な見解を整理している。専攻とそれに関連する領域の先行研究を統合させて、問題背景を的確に説明した。	信頼性を保ちながら情報を調べており、見解を適切に整理している。専攻領域の代表的な先行研究をふまえながら、問題背景を説明した。	信頼性のある情報を調べ、いくつかの見解を整理している。自らの専攻について、いくつかの先行研究を確認し、問題背景を設定した。	インターネット情報の信頼性を理解して文献収集している。大学、研究機関などの資料を収集するが、自らの専攻と先行研究に関する絞込みは十分ではなかった。	インターネット情報の信頼確認の理解が十分ではない。まとめサイト、Wikipediaなど、「いきなり検索」の情報収集にとどまった。
学術論文スタイルを理解して、学術レポートを作成する。	主題、内容、方法はキーワード、学術概念による適切な筋立の構成である。学術論文の引用が明確に示した。	キーワード、学術概念をもとにして適切な論点を見出している。引用形式は適切であり、その解釈は文脈をふまえた。	キーワード、学術概念を用いており、論理的説明の基本はおこなわれている。文献リストの作成、本文の注、引用形式は適切であった。	学術概念に利用、引用、参照文献リストの作成が試みられているが、本文と文献の照合は十分ではなく、改善の余地があった。	文章は個人的経験、感想もとづく「素朴理論」である。引用、参照文献のリストが示されなかった。
ゼミメンバーとして、学術環境を創造していく役割を自覚し、自分と異なる意見を統合させて、学修経験を高めていこうとする、関心･意欲･態度	ゼミメンバーとして、役割と責任を自覚して、積極的、協同的に行動することができた。	ゼミメンバーとしての役割は、おおむね理解しており、他のメンバーに配慮する行動をおこうことができた。	ゼミメンバーとしての役割は、基本的な行動についておこなうことができた。	ゼミメンバーとして自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	ゼミメンバーとして自分の役割を理解すること、主体的な行動はできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	社会福祉学科･教授		研究室等所在	1号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 松下 守邦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						テキストは初回ゼミにて相談決定する。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第３版』	井下千以子	慶応義塾大学出版会	２０１９		
2	『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』	佐渡島沙織ほか	大修館	２０１５		
3	『コピペと言われないレポートの書き方教室』	山口裕之	新曜社	２０１３		
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、演習ガイダンス	シラバス、科目Teamsの確認（４５分）	スケジュールと準備学習の整理（４５分）
2	アカデミック･シンキング基礎1（学術文献の種類）	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
3	アカデミック･シンキング基礎２（調べ学習、自由研究、学術研究）	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
4	アカデミック･シンキング基礎３（研究不正；捏造、剽窃、ほう助、自己剽窃）	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
5	アカデミック･シンキング基礎４（学術倫理；ハラスメント、研究協力者への配慮）	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
6	アカデミック･シンキング基礎５	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
7	アカデミック･シンキング基礎６	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
8	アカデミック･シンキング基礎７	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
9	アカデミック･シンキング基礎８	テキストの読解（４５分）	テキスト、ノートの整理（４５分）
10	文献講読１（文献の選書、報告割当、レジュメ作成、準備学習）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
11	文献講読２（分担報告）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
12	文献講読３（分担報告）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
13	文献講読４（分担報告）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
14	文献講読４（分担報告）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
15	文献講読５（分担報告）	資料の読解（４５分）	資料注解の整理（４５分）
16	まとめ	資料の読解（４５分）	次年度への課題設定（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB　（科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094　）				
授業担当者（所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	1　（単位認定責任者：　蝦名　美穂　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，教育領域，福祉領域，司法・矯正領域，産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし，研究室で対応。				

概要

履修目標

「専門演習ＩB」の目的は，知的トレーニングを積み重ねていくことにある。それまでの様々な講義から習得した知識を基盤とし，さらにゼミナール担当教員の指導やゼミナール学生とのディスカッションを通して，学生個々の独創性を磨き，独自の研究テーマを設定する視点とそれを論文として形にするための基本スキルとツールの活用法を取得する。さらび「勉学・研究テーマ」を探究する。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１，DP２，DP３，DP４，DP５に対応する科目（２０２２年度）。

到達目標

・自分の課題をみつけ、自らが学び考えて解釈できる能力を身につけることができる。
・個々の学生がそれぞれの「勉学のテーマ」の糸口をつかむことができる。

・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につけることができる。
・研究テーマに沿った論文執筆の基本的スキルを身につけることができる。

・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し，的確な質問をするスキルが取得できる。

授業全体の内容と概要

専門演習ＩAで学習した内容を発展させる形で，身近にある「居場所」について調べる。
いくつかの「居場所」に実際に赴き，現状を知る。その結果をまとめ，発表をする。
それらの学びから卒論のテーマへつなげる。

「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・ゼミナール・見学・調査・発表等さまざまな形態が取られる。したがって，大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。質問は随時対応し，レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。Microsoft　Teams/Formsの諸機能を活用し，意見交換，質問，教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

前期に履修した「専門演習ＩA」の教員が継続して担当する。４年次の「専門演習ＩＩAB」についても原則としてこの科目の教員が継続して担当する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
４年次における研究テーマの端緒を見つけ，それを研究テーマに昇華できる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスをネット資料，参考文献を提示しながら説明でき，且つ今後のプロセスについて指針を持つことができる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスをネット資料，参考文献を提示しながら説明できる。	自分の研究テーマの端緒を掴むため，今現在自分が行っている活動（ネット，文献検索等）を説明できた。	自分の研究テーマが明確になっており，そこに至ったプロセスを明確に説明できる。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のスキルを身につけている。	研究テーマについて，論証するための執筆スキルを身につけており，それを起承転結に構成した文章で表すことができた。	研究テーマについて，論証するための執筆スキルを身につけており，それを章立てできた。	研究テーマについて，論証するための執筆スキルを身につけることができた。	論文・レポート執筆のための基本スキルを身につけることができた。	左記の内容が何一つできなかった。
研究テーマについてディスカッションを行うことができる。	研究テーマについてのディスカッションの中で，自分のテーマを明確に発表でき，周囲を納得させることができ，且つ他者の発表を尊重し，双方向の発表の中で他者の意見からヒントを得て，他者にもヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で，自分のテーマを明確に発表でき，周囲を納得させることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で，自分のテーマを明確に発表でき，他者の研究を尊重することができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	1 （単位認定責任者： 蝦名　美穂 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，教育領域，福祉領域，司法・矯正領域，産業領域での臨床経験を踏まえて講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明	所属研究室選択資料の確認（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
2	身近な「居場所」のピックアップ，見学の準備①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	身近な「居場所」のピックアップ，見学の準備②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	身近な「居場所」のピックアップ，見学の準備③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	身近な「居場所」のピックアップ，見学の準備④	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	身近な「居場所」のピックアップ，見学の準備⑤	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	見学①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	見学②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	見学③	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	見学④	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	見学の結果をまとめる①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	見学の結果をまとめる②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	見学の結果を発表する	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	卒論テーマの絞り込み①	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	卒論テーマの絞り込み②	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括	予習課題（４５分）	全体振り返り　（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ　（科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094　）				
授業担当者（所属・職名）	星野　秀治（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　星野　秀治　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	地域若者サポートステーションなどでの実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

「専門演習ＩＢ」の目的は、知的トレーニングを積み重ねてくことにある。それまでの様々な講義から習得した知識を基盤とし、さらにゼミナール担当教員の指導やゼミナール学生とのディスカッションを通して、学生個々の独創性を磨き、独自の研究テーマを設定する視点と、それを論文として形にするための基本スキルとツールの活用法を取得する。さらに「勉学・研究テーマ」を探求する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

・自分の課題を見つけ、自らが学び考えて解釈できる能力を身につけることができる。
・個々の学生が。それぞれの「勉学テーマ」の糸口をつかむことができる。
・上記研究テーマを構築するために必要な文献・資料・データを活用するスキルを身につけることができる。
・研究テーマに沿った論文執筆の基本的スキルを身につけることができる。
・自分の研究テーマをプレゼン形式で発表するスキルと学友の発表を傾聴し、的確な質問をするスキルが取得できる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が提示している「専門テーマ」に沿って進められる。
「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。従って、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
質問は随時対応し、レポートの場合はコメント等によりフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

前期に履修した「専門演習ＩＡ」の教員が継続して担当する。４年次の「専門演習ＩＩＡＢ」についても、原則としてこの科目の教員が継続して担当する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低条件である１０回以上の出席をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
４年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。	研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動（ネット、文献検索等）を説明できた。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。	自分の研究テーマが明確になっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のスキルを身につけている。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に着けており、それを起承転結に構成した文章で表すことができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に着けており、そのための章立てができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に着けることができた。	論文・レポート執筆のための基本スキルを身に着けることができた。	左記の内容が何一つできなかった
研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の家ｋンを尊重することができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ　（科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094　）				
授業担当者（所属・職名）	星野　秀治（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1　（単位認定責任者：　星野　秀治　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	地域若者サポートステーションなどでの実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業１	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業５	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業６	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業７	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業８	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業９	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業１０	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業１１	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業１２	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業１３	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業１４	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義・演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩＢ （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 （単位認定責任者： 上原　正希 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

専門演習ＩＡ・ＩＢの授業の目的は『卒業論文のテーマを見つける』ことである。
卒業論文のテーマを見つけるためには、いろいろな視点から物事を考え、広い視野を持つことが必要である。
様々な学問分野や福祉・保育・教育などの社会福祉学科で学んできた領域にふれたり、ボランティアや実習の体験など、多くのことに興味、関心を抱くことが大切で、その中から自分の興味の対象を徐々に絞り込んでいき、最終的に卒業論文のテーマを決め、卒業論文に取り組むことができる。
よって、専門演習ＩＡ・専門演習ＩＢは、その過程を生み出す学習である。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP１，DP２，DP３，DP４，DP５に対応する。（２０２２年度）

到達目標

卒業論文は、大学での学業生活の総決算とも言えるものであるとともに、自らの主体性によって学問の世界に踏み込み、本格的に研究し、自分自身の成果を創造することが到達目標である。
専門演習ＩＡで基礎を築き、そこから進歩するのが専門演習ＩＢの目標である。

授業全体の内容と概要

１．卒業論文のテーマを見つける。
２．卒業論文のテーマを見つけるために、様々な学問分野や福祉・保育・教育などの社会福祉学科で学んできた領域にふれる。
３．卒業論文のテーマを見つけるために、ボランティア体験などを行う。
４．卒業論文のテーマを確定させる。
５．「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
６．専門演習ＩＡで基礎を築き、そこから進歩するのが専門演習ＩＢである。

授業の方法

１．授業形態は講義やグループワークやディスカッション、地域へ出向き活動を行う。
２．適宜、質疑応答を交える。
３．自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
４．地域の福祉・保育・教育の活動をしている実践家やボランティア団体のお話を聞く授業等もある。
５．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．３年生後期を担当することから、４年生の専門演習ⅡＡ、ⅡBおよび卒業論文を担当することとなる。
２．不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
３．必要な資料等は適宜配布する。
４．不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
５．ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低条件である１０回以上の出席をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
４年次における研究テーマの端緒を見つけ、それを研究テーマに昇華できる。 ※専門演習ＩＡで基礎を築き、そこから少しでも進歩するのが専門演習ＩＢである。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明でき、且つ、今後のプロセスについて指針を持つことができた。	研究テーマの端緒を掴むため、今現在自分が行っている活動（ネット、文献検索等）を説明できた。	自分の研究テーマを発見するに至ったプロセスを、ネット資料、参考文献を提示しながら説明できた。	自分の研究テーマが明確になっており、そこに至ったプロセスを明確に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
論文・レポート執筆のスキルを身につけている。 ※専門演習ＩＡで基礎を築き、そこから少しでも進歩するのが専門演習ＩＢである。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に着けており、それを起承転結に構成した文章で表すことができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に着けており、そのための章立てができた。	研究テーマについて、論証するための執筆スキルを身に着けることができた。	論文・レポート執筆のための基本スキルを身に着けることができた。	左記の内容が何一つできなかった
研究テーマについてのディスカッションを行うことができる。 ※専門演習ＩＡで基礎を築き、そこから少しでも進歩するのが専門演習ＩＢである。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができ、尚且つ他者の発表を尊重し、双方向の発表の中で他者の意見をヒントを得て、他者にヒントを与えることができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、他者の家ｋンを尊重することができた。	研究テーマについてのディスカッションの中で、自分のテーマを明確に発表でき、周囲を納得させることができた。	自分の研究テーマを明確に発表できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義・演習	必修・選択	必修
科目名称	専門演習ＩB （科目ナンバリング：SEM133146，SEM433087，SEM533094 ）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	1号館2階	
単位数	1 （単位認定責任者： 上原　正希 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 担当教員によるガイダンス	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業及び地域活動１ 専門演習ＩAから進歩した専門演習ＩBの学び	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業及び地域活動２ 専門演習ＩAから進歩した専門演習ＩBの学び	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業及び地域活動３ 専門演習ＩAから進歩した専門演習ＩBの学び	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業及び地域活動４ 専門演習ＩAから進歩した専門演習ＩBの学び	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業及び地域活動５ 専門演習ＩAから進歩した専門演習ＩBの学び	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業及び地域活動６ 専門演習ＩAから進歩した専門演習ＩBの学び	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業及び地域活動７ 専門演習ＩAから進歩した専門演習ＩBの学び	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業及び地域活動８ 専門演習ＩAから進歩した専門演習ＩBの学び	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業及び地域活動９ 専門演習ＩAから進歩した専門演習ＩBの学び	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業及び地域活動１０ 専門演習ＩAから進歩した専門演習ＩBの学び	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業及び地域活動１１ 専門演習ＩAから進歩した専門演習ＩBの学び	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業及び地域活動１２ 専門演習ＩAから進歩した専門演習ＩBの学び	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業１３ 専門演習ＩAから進歩した専門演習ＩBの学び	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業及び地域活動１４ 専門演習ＩAから進歩した専門演習ＩBの学び	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括 専門演習ＩAから進歩した専門演習ＩBの学びと専門演習ＩＩAと専門演習ＩＩBへの展開	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修/高・美
科目名称	基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ （科目ナンバリング：DES211017 ）				
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 林　春生 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザイナーになる為に必要な基礎デザインの技術を習得する。
頭の中に形を形成出来るようにして、そのイメージを第三者へ伝達、表現出来るようにする。
また、自己レベル認識を持てるようにする。前半はグラフィックデザイン、後半はプロダクトデザインを行う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

モノの形を正確に認識出来、脳内に形を形成出来るようにして、自分のイメージや意図を第三者に伝えられる事が出来る。ユーザーをイメージして課題を的確に表現し、自分オリジナルな切り口を持ってデザイン出来る事。

授業全体の内容と概要

学生の脳内に形が形成出来るように、色々なロゴや製品のデザインを行う。
自分の想像（脳内のイメージ）スケッチを行う。完成した作品は自分の意図したポイントを発表して第三者と意見交流をする。
SDG12,　つくる責任、使う責任に準じる。

授業の方法

課題のテーマに沿って、テーマが第三者に伝わる様にデザインする。使い勝手を考慮して美しく、便利なデザインを考えていく。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。
三菱鉛筆のハイユニの4A～4Bを使って、A3ケント紙に鉛筆スケッチする。
A3サイズの課題を持ち帰る為にカルトンが必要。鉛筆と色鉛筆、マーカー、消しゴム、カルトンを用意してください。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上
課題提出は全点必ず。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イメージを正確に捉え、頭の中に形成出来て、それを紙に表現できる事。	イメージを正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	イメージを正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	イメージを正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	イメージを捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	イメージを捉えられない、頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。
課題テーマを正確に捉え、頭の中に形成出来て、それを紙に表現できる事。	課題テーマを正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	課題テーマを正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	課題テーマを正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	課題テーマを捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	課題テーマを捉えられない、頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。
オリジナルな切り口を持って商品デザインをし、手を通して紙に表現出来る事。	オリジナルデザインが出来、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	オリジナルデザインが出来、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	オリジナルデザインが出来、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	オリジナルデザインが何とかでき、頭の中に描くことができる。それを絵として辛うじて表現できる。	オリジナルデザインが出来ない、頭の中に描くことができない、それを絵として表現できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修/高・美
科目名称	基礎ﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　（科目ナンバリング：DES211017　）				
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 デザインとは？授業改善アンケート結果反映の説明 基本形1　鉛筆デザインスケッチ	シラバスを読んでおく。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
2	課題1　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
3	課題1ロゴ　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
4	課題2ロゴ　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
5	課題2ロゴ　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
6	課題3ロゴ　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
7	課題3ロゴ　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
8	課題3ロゴ　鉛筆デザインスケッチプレゼンテーション	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
9	課題プロダクト1　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
10	課題プロダクト1　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
11	課題プロダクト1　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
12	課題プロダクト2　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
13	課題プロダクト2　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
14	課題プロダクト3　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
15	課題プロダクト3　鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。（９０分）	要求された課題を作成する。（９０分）
16	デザイン概念　総評 授業改善アンケート	要求された課題を作成する。（９０分）	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習Ⅱ　（科目ナンバリング：APT312004　）				
授業担当者（所属・職名）	日野　桂子（建築学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　日野　桂子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所を開業して20年、1軒1軒こだわりを持って設計、監理をしています。その実務の経験から建築設計の手法を伝える。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

設計とは様々な事を考えること。四季の環境を捉え、敷地と建物の関係をよく把握し、建主の要望をくみ取るなど、一軒の建物を設計するのに沢山の思慮がある事を感じながら作図する。バランスが取れ、デザインの良い、魅力ある空間の建築を設計する。住宅の設計を行い、配置計画、外部環境と建築との関わり合い、生活動線を考慮することで、豊かな建築空間を計画する。空間のスケールを体感しながら、建築を設計する事を身につける。さらに講評会に向けてプレゼンテーション能力を高める。

授業の位置づけ

建築学科のDP１、DP３、DP４に対応する。（2024年度）
建築学科のDP１、DP２に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP２、DP５、DP７に対応する。（2021年度）

到達目標

２軒の住宅について、魅力ある空間、建築を設計し、そのプランニングの意図を正しく明確に図面に描くことができる。

授業全体の内容と概要

実際の住宅建築の画像等を紹介、住宅の特徴、コンセプト等を伝え、設計に生かす。
毎回エスキスチェック、作図チェックを行う。
エスキスからプランニング、配置図、平面図、立面図、断面図、面積表で２次元の図面作成と３Ｄパースまたは模型等で設計意図を表現し、A２用紙にまとめ完成させる。

授業の方法

設計のポイントを伝え、エスキスチェック、作図チェックを行う（調査学習含む）。
２つの講評会を行い、学生と教員とで意見交換をする。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

筆記用具、製図道具、巻尺は必ず携帯すること。課題制作のためには、製図版、製図道具を使って手描きで作図、または、コンピューターによるCADソフトで作図、（手描き、画像、CAD図のコラージュ、３Ｄまたは模型）。
設計課題を製作中は集中して作業に取り組む。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格科目」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

「単位に認定必要となる最低出席回数は、１１回以上」
必ず巻尺を持参。設計する建物のサイズを実測して計画する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	０％	２０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
作図内容	A2用紙に美しくバランスの取れた配置ができ、建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像が描かれ、完成図面としての必要事項を描くことができた。	A2用紙にバランスの取れた配置ができ、建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像が描かれ、完成図面としての必要事項が描くことができた。	A2用紙に建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、立面図、断面図、3dまたは模型の画像。完成図面としての必要事項が描くことができた。	A2用紙に建物の名前、コンセプト文、配置図、平面図、配置図、立面図、断面図作図することができた。	作図が完成できなかった。
設計デザイン力	その土地、季節、人物を理解した空間構成が優れた意匠的にデザインされたプラン。	その土地、季節、人物を理解して空間構成が出来たプランができた。	プラン計画ができた。	基本的なプラン計画ができた。	基本的なプラン計画ができなかった。
作業体制	巻尺を使って様々な事を検討しながら、集中してエスキスどおりに作図することができた。	様々な事を検討しながら、集中してエスキスどおりに作図することができた。	集中してエスキスどおりに作図することができた。	ほぼエスキスどおりに作図することができた。	エスキスどおりに作図できなかった。
講評会の発表	建物の意図をわかりやすくまとめて、コンセプトや魅力を時間内に伝え、他の発表者の内容をよく聞き、時には質問をすることができた。	建物の意図をわかりやすくまとめて、コンセプトや魅力を時間内に伝え、他の発表者の内容をよく聞くことができた。	発表を期日どおりに行うことができた。	期日に遅れても発表を行うことができた。	発表を行うことができなかった。
プレゼン力	1軒の建築に時間を充分にかけて思考し、美しく、魅力ある図面を作成しバランスのとれたプレゼンテーション図を作成。作図のチェック項目をすべて描いた。	1軒の建築に時間をかけて思考し、美しく、魅力ある図面を作成しバランスのとれたプレゼンテーション図を作成。作図のチェック項目をすべて描いた。	1軒の建築に時間をかけて思考し、作図のチェック項目をすべて描いた。	作図のチェック項目をすべて描いた。	作図を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	建築設計演習Ⅱ （科目ナンバリング：APT312004 ）				
授業担当者（所属・職名）	日野　桂子（建築学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 日野　桂子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所を開業して20年、1軒1軒こだわりを持って設計、監理をしています。その実務の経験から建築設計の手法を伝える。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。 授業の進め方と課題提出までのスケジュール。実務	シラバスを読んでおくこと（４５分）	レポート作成（４５分）
2	住宅建築1　自分が設計に取り入れたい建築物のレポート提出。設計課題．　大学生の自分の家　配置計画、ゾーニング、エスキスチェック	レポート作成（４５分）	与えられた課題に取り組むこと（４５分）
3	住宅建築2　設計課題．　大学生の自分の家　配置図、平面図、立面図、断面図　エスキスチェック	与えられた課題の構想を考えること（４５分）	与えられた課題に取り組むこと（４５分）
4	住宅建築3　設計課題．　大学生の自分の家　配置図、平面図、立面図、断面図、　作図チェック	与えられた課題の構想を考えること（４５分）	与えられた課題に取り組むこと（４５分）
5	住宅建築4　設計課題．　大学生の自分の家　配置図、平面図、立面図、断面図、作図チェック	与えられた課題の構想を考えること（４５分）	与えられた課題に取り組むこと（４５分）
6	住宅建築5　設計課題．　大学生の自分の家　配置図、平面図、立面図、断面図、3d、模型　チェック	与えられた課題の構想を考えること（４５分）	与えられた課題に取り組むこと（４５分）
7	住宅建築6　設計課題．　大学生の自分の家　配置図、平面図、立面図、断面図、3d、模型　チェック	与えられた課題の構想を考えること（４５分）	与えられた課題に取り組むこと（４５分）
8	住宅建築7　課題提出　講評会	講評会の発表へ向けて準備をしておくこと（４５分）	レポート作成（４５分）
9	住宅建築8 設計課題．　自分が設計に取り入れたい建築物のレポート提出。家族の家　配置計画、ゾーニング　エスキスチェック	レポート作成（４５分）	与えられた課題に取り組むこと（４５分）
10	住宅建築9 設計課題．　家族の家　配置計画、ゾーニング　エスキスチェック	与えられた課題の構想を考えること（４５分）	与えられた課題に取り組むこと（４５分）
11	住宅建築10 設計課題．　家族の家　配置図、平面図、立面図、断面図、作図チェック	与えられた課題の構想を考えること（４５分）	与えられた課題に取り組むこと（４５分）
12	住宅建築11 設計課題．　家族の家　配置図、平面図、立面図、断面図、作図チェック	与えられた課題の構想を考えること（４５分）	与えられた課題に取り組むこと（４５分）
13	住宅建築12 設計課題．　家族の家　配置図、平面図、立面図、断面図、3d、模型チェック	与えられた課題の構想を考えること（４５分）	与えられた課題に取り組むこと（４５分）
14	住宅建築13 設計課題．　家族の家　配置図、平面図、立面図、断面図、3d、模型チェック	与えられた課題の構想を考えること（４５分）	与えられた課題に取り組むこと（４５分）
15	住宅建築14　課題提出　講評会	講評会の発表へ向けて準備をしておくこと（４５分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（４５分）
16	授業改善アンケートの実施 最終回において課題提出物に対して評価しフィードバック。	教員のフィードバックに対する準備をしておくこと（４５分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅱ　（科目ナンバリング：AHD321040　）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　君　興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館３階　２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築は，図面や模型に表現されたものによってその内容を理解してもらえる。そのためには，考え出された建築をどのように表現するかということがとても重要となる。したがって空間表現や建築図面表現に必要な立体系の基礎的能力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDFP3,DP4,DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

立体系の建築表現に必要となる道具の基本的使い方を習得する。また時間内に課題を製作するための時間配分，期限内に課題を提出するという自己管理及び基本姿勢を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

基礎的練習課題とその作品の講評会を２週ごとおこなう。前半はキーワードをもとに発想した空間の立体表現，後半では建築模型の基礎的課題に取り組む。課題製作は，原則として授業時間内におこない即日提出とする。やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は，次週授業開始時までに完成し提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明をし，課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会を開催し，各自作品のプレゼンテーションをおこない，その後指導教員が講評・評価をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目であるため，全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説（プレゼンテーション）することも評価する。原則授業にはすべて出席し，授業時間内に課題制作をおこなうこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席する(ただし最低出席回数１０回以上)こととし，積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８５%	０%	１５%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
立体系の建築表現に必要となる道具の基本的使い方を習得する。	基本的道具の使い方をもとにより高い技術を習得することができた。	基本的道具の使い方をもとにより高い技術を習得するための練習に取組むことができた。	基本的道具の使い方を習得することができた。	基本的道具の使い方をおおむね習得することができた。	基本的道具の準備・管理ができず，使い方を習得することができなかった。
期限内に課題を制作し提出するというスケジュール管理及び基本姿勢を修得する。	すべての課題を期限内に余裕をもって作成完成することができた。	すべての課題を期限内に作成完成することができた。	課題提出のためのスケジュール管理ができた。	課題提出のためのスケジュール管理がおおむねできた。	スケジュール管理ができなかった。
立体系の建築空間の発想・構想力を作品としてかたちにすること，そのための表現する技術を修得する。	配布資料のみならず他の資料も参考に建築空間を構想し表現することができた	配布資料を参考に建築空間を構想し表現することができた。	建築空間を構想し表現することができた。	建築空間を構想することがおおむねでき表現もできた。	建築空間を構想することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅱ　（科目ナンバリング：AHD321040　）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　君　興治（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館３階　２号館４階		
単位数	1　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，授業計画の説明	シラバスの事前確認（45分）	授業内容の確認（45分）
2	使用する道具と材料・使い方の説明	授業資料の確認（45分）	使用道具の確認（45分）
3	立体構成１（壁）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
4	立体構成２（床）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
5	講評会（壁・床）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
6	立体構成３（タワー）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
7	立体構成４（スカイハウス）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
8	講評会（タワー・スカイハウス）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
9	立体構成５（サイコロの製作）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
10	立体構成６（建築模型の製作１）　建築模型とは	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
11	立体構成６（建築模型の製作２）　建築模型の作り方	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
12	講評会（建築模型）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
13	プレゼンテーション（建築模型の写真撮影）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
14	プレゼンテーション（プレゼンテーションパネルの製作）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
15	講評会（プレゼンテーションパネル）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）
16	総評（全作品の講評）授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認（45分）	総評の振返り（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ心理学 （科目ナンバリング：SPS422063，SPS522053 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　和裕 ）		CAP制	講義	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツ心理学についての基礎的な科学的知識を深め指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

スポーツの実践や指導に関わる様々な問題を心理学の側面からとらえることを目的とする。また、競技者や指導者がスポーツを実践する上で必要となる心理学的諸理論を知り、各自の問題解決の一助として活用していくための視点を養う。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ３、ＤＰ4、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

スポーツを見つめる科学的な視点を養う。スポーツにおける心理学の基礎理論を理解する。スポーツにおける心理学の実践的応用について理解する。

授業全体の内容と概要

スポーツに対する科学としての心理学的視点（認知モデルの紹介）。スポーツにおける人間の行動特徴（モチベーション、行動の個人差）。スポーツにおける人間の行動マネジメント（メンタルトレーニング）スポーツにおける関係としての個人と集団（個人者集団と指導者集団との関係）。スポーツにおける心理学の活用事例（事例から自分自身への適用）。　　「ＳＤＧ　４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物資料で実施しスポーツ心理学の事例を紹介しメンタルトレーニングの実践などのＤＶＤも活用しながら講義形式で行う。また、授業の終わりに振り返りを行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ノートやプリントは毎回必ず持参すること。授業中は口頭説明にも注意を向けノートやプリント等にメモしながらノート作成を行うこと。口頭で説明したことにも重要な事柄が含まれる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	３０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に対する積極性	準備学習、事後学習はもとより積極的に授業に参加するなど、他の学生の模範となる授業態度であり、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ理解を深めるために受講し板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされ普通に受講し、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなされてはいないが、板書や課題提出ができた。	準備学習、事後学習がなく、板書や課題提出ができなかった。
スポーツ心理学についての基礎知識と領域理解	幅広い領域について基礎的な知識を持ち、それぞれの領域について理解し説明できた。	多様な領域からの見解を深く理解できた。	多様な領域からの見解を一定程度理解できた。	多様な領域からの見解をある程度理解できた。	多様な領域からの見解をまったく理解ができなかった。
スポーツ心理学の知識に基づいた多様な思考力・判断力	幅広い分野の知識・理解をもとにして、問題に対して多角的な思考力・判断力を行うことができた。	多様な思考力・判断力が身についた。	多様な思考力・判断力が一定程度身についた。	多様な思考力・判断力がある程度身についた。	多様な思考力・判断力がまったく身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ心理学 （科目ナンバリング：SPS422063，SPS522053 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　和裕 ）		CAP制	講義	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、スポーツ心理学についての基礎的な科学的知識を深め指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（９０分）	ガイダンスの内容を理解しておく（９０分）
2	行動としてのスポーツ	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
3	スポーツにおける動機づけⅠ（動機づけを高める原理や方法）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
4	スポーツにおける動機づけⅡ（コーチングの心理、技能の練習と指導）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
5	メンタルマネジメント、リラクセーション	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
6	他者観察（技術指導における効果的指導法）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
7	個人差を考慮したコーチング	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
8	日常生活における相談	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
9	運動感覚（筋感覚・内部知覚）	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
10	運動学習	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
11	フィードバック、心理的サポート・集中力	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
12	イメージトレーニング	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
13	あがり、プレッシャー、スランプについて	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
14	性格、自己概念	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
15	心理的コンディショニング	シラバスを参考に、参考文献を読み確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）
16	まとめ(授業改善アンケートの実施)	ノート・プリントで講義内容を確認しておく（９０分）	資料はノートに貼り付け、授業内容を理解しておく（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学（S）	（科目ナンバリング：ECT161176 ）			
授業担当者（所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2 （単位認定責任者： 河野　善文 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

経済のニュースや記事を理解するために必要な経済学の基礎的知識を身につける。また、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、経済事象について考察する基礎力を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2に対応する。（2024年度）

到達目標

経済の基礎的なしくみや経済学の用語・考え方の要点を理解することで、経済のおもなできごとについて、その概要をニュース等から知ることができる。また、経済事象を解釈して自分なりに説明することができる。

授業全体の内容と概要

経済学を概観するために、経済学の基礎であるマクロ経済学とミクロ経済学の要点を教科書と経済資料で学ぶ。ミクロ経済学では、市場における個々の買手や売手の行動に焦点をあて、市場での需要と供給の作用を中心に考察する。また、マクロ経済学では、国民所得や経済成長などの概念を中心に経済を大きな視点から考察する。なかでも経済成長や経済的厚生に関する問題はSDGsの目標「1.貧困をなくそう」に関連するものである。

授業の方法

各回の計画にそって、板書やスライドによる講義と演習問題とを組み合わせた授業をおこなう。また、授業中に随時、受講生の理解の確認や受講生自身に考えさせることを目的とした問いかけ（質問・対話）と演習問題をおこなう。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点はこの演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、試験を除く１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済用語の理解	授業で取り上げた経済用語について、適切な事例をあげて的確に説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげてある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、ある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語を説明できなかった。
経済学の考え方の理解	経済学の考え方を用いて経済事象を説明できた。	経済学の考え方を用いて経済事象をある程度説明できた。	経済学の考え方を図や式を用いて説明できた。	経済学の考え方をある程度説明できた。	経済学の考え方を説明できなかった。
経済事象の理解	経済ニュースや資料を読み取って適切に説明できた。	経済ニュースや資料を読み取ってある程度説明できた。	経済ニュースや資料を調べて読み取ることができた。	経済ニュースや資料を調べてある程度読み取ることができた。	経済のニュースや資料を読み取ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学（S）	（科目ナンバリング：ECT161176 ）			
授業担当者（所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 河野　善文 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『マンキュー入門経済学（第３版）』	Ｎ・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	２０１９	4492315217	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	経済学とは：この授業で学ぶこと ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画（シラバス）の説明	経済学とは何かを考える（９０分）	経済学とは何かノートにまとめる（９０分）
2	日本の景気について： ・景気を知る方法	景気知る方法について調べる（９０分）	景気を調べる方法についてノートにまとめる（９０分）
3	国内総生産からみた世界経済： ・国内総生産（ＧＤＰ）とは ・世界の国内総生産（ＧＤＰによる世界地域比較）	国内総生産について調べる（９０分）	地域比較で気付いたことをノートにまとめる（９０分）
4	希少な資源と生産活動： ・生産要素と生産活動、資源 ・富裕国と最貧国との比較	生産要素について調べる（９０分）	生産要素と生産活動についてノートにまとめる（９０分）
5	経済成長とは： ・経済成長率の計算	経済成長率について調べる（９０分）	経済成長率の計算式と意味をノートにまとめる（９０分）
6	経済成長と国民所得： ・生産要素と経済成長 ・経済成長率の事例	成長著しい国の成長率を調べる（９０分）	経済成長についてノートにまとめる（９０分）
7	実質値と名目値： ・物価変動と実質値	実質値と名目値の違いを調べる（９０分）	実質値と名目値の違いをまとめる（９０分）
8	需要と供給の作用： ・価格と需要量、供給量の関係 ・需要と供給の相互作用	価格と需要量、供給量との関係について調べる（９０分）	価格と需要量、供給量との関係についてまとめる（９０分）
9	市場経済と価格： ・市場というしくみについて ・供給の変動と市場価格への影響	市場のしくみについて調べる（９０分）	供給の市場価格への影響をノートにまとめる（９０分）
10	１０ 経済的厚生の問題 ・経済的な豊かさと幸福	経済的厚生の問題について考える（９０分）	経済的厚生の問題のまとめ（９０分）
11	通貨と中央銀行： ・通貨の機能 ・中央銀行と通貨	通貨・中央銀行の機能を調べる（９０分）	中央銀行と通貨についてノートにまとめ（９０分）
12	日銀の資金供給と金利 ・金利とは　・日銀と資金供給	金利について調べる（９０分）	日銀の政策と金利についてノートにまとめ（９０分）
13	通貨供給量と信用創造 ・通貨供給量とは　・信用創造とは	通貨供給量について調べる（９０分）	信用創造と通貨供給量についてノートにまとめる（９０分）
14	日銀と金融政策 ・金融政策にかんするニュース　・金融政策の影響	金融政策の現状を調べる（９０分）	日銀の金融政策をノートにまとめる（９０分）
15	経済政策とこれまでの授業のまとめ	ノート見直しと不明点の確認（９０分）	ノートの整理（９０分）
16	定期試験（６０分）と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再挑戦（９０分）	わからなかった試験問題の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科、デザイン学科、建築学科・1年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学（Ｍ・Ｄ・Ａ）	（科目ナンバリング：ECT461146 ECT361124 ECT261134 ）			
授業担当者（所属・職名）	小林大州介(経営学科・専任講師)	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2 （単位認定責任者： 小林 大州介 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

近年世界経済は、中国の台頭やコロナ問題、ウクライナ情勢などといった不確実な情勢に対し大いに影響を受け、大変動の時期を迎えていると言える。ニュースや新聞などでも、こうした変動を示す文言を目にする事が多くなった。こうした世界情勢や大規模な経済変動を伝えるニュースに対し、学門の「分析的」で「冷静」な目をもって接することがますます重要になってきている。本講義では、学門としての経済学の基礎を学び、しっかりとした知識を構築する事により、日々伝えられるニュースを良く理解し、自分で分析し、判断出来る様にすることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科DP２に対応する。(2024年度)
デザイン学科DP２に対応する。(2024年度)
建築学科のDP２に対応する。(2024年度)

到達目標

ミクロ経済学、マクロ経済学の基本的な考え方、概説的な日本経済史などを学び、日常で起きている経済問題について理解、説明できるようにする。

授業全体の内容と概要

ミクロ経済学(交換・取引、均衡分析・余剰分析)、マクロ経済学(ケインズ経済学・経済成長)、ゲーム理論(囚人のジレンマ・交互ゲーム)、日本経済史といった各領域を、テキストに即して説明する。

授業の方法

PPTを使った講義形態が主。毎回演習問題を行い、自分の理解度をチェックする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書を必ず携帯する事。毎回きちんと内容を把握する事。講義の最後に毎回演習問題を行う。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のための最低出席回数１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ミクロ経済学について	「市場」のメカニズムを深く理解し、「社会的総余剰」や「市場の失敗」といった概念を説明できる。また、ミクロ経済学における分析の限界も説明することが出来る。	「市場」のメカニズムを深く理解し、「社会的総余剰」や「市場の失敗」といった概念を説明できる。	「市場」のメカニズムを良く理解し、その均衡状態について説明することが出来る。	「市場」のメカニズムについて、一定の理解がある。	「市場」のメカニズムについて、理解が見られない。
マクロ経済学について	総需要管理政策の意味を深く理解し、計算問題を解くことが出来る。また、その政策の問題点や、経済成長論についての理解がある。	総需要管理政策の意味を理解し、計算問題を解くことが出来る。また、その問題点を挙げることが出来る。	総需要管理政策の意味を理解し、計算問題を解くことが出来る。	総需要管理政策がどういうものかについて説明できる。	総需要管理政策についての理解が見られない。
ゲーム理論について	ナッシュ均衡の意味を深く理解し、囚人のジレンマゲームや交互ゲームの解を示すことが出来る。	ナッシュ均衡の意味を深く理解し、囚人のジレンマゲームを含む同時ゲームの解を示すことが出来る。	囚人のジレンマゲームを含む、同時ゲームの解を示すことが出来る。	同時ゲームの解を示すことが出来る。	ゲームの均衡解についての理解が見られない。
日本経済史について	戦後の日本経済の歴史について深く理解し、マクロ経済学的含意を使った説明が出来る。	戦後の日本経済史について深く理解し、その転換点について説明が出来る。	戦後の日本経済史を理解し、説明できる。	戦後の日本経済の流れをある程度説明できる。	戦後の日本経済の流れを説明できる。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科、デザイン学科、建築学科・1年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	経済学（M・D・A）	（科目ナンバリング：ECT461146 ECT361124 ECT261134 ）			
授業担当者（所属・職名）	小林大州介(経営学科・専任講師)		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小林 大州介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『経済学概論』	矢口和宏、坂本直樹	株式会社みらい	２０１６		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書の序章を良く読んでおく。	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
2	経済活動における選択と意思決定	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
3	経済学の基礎/取引とは何か	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
4	ミクロ経済学基礎①市場価格と取引量の決定	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
5	ミクロ経済学基礎②市場均衡と余剰分析	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
6	ミクロ経済学応用編①企業の価格設定	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
7	ミクロ経済学応用編②市場の失敗	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
8	マクロ経済学入門①国家の経済について	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
9	マクロ経済学入門②物価・失業とマクロ経済理論	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
10	マクロ経済学入門③政策で経済は成長するか	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
11	ゲーム理論とは何か？新しい経済理論	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
12	ゲーム理論・応用編	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
13	取引と選択決定・ミクロ経済の総復習	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
14	マクロ経済学・ゲーム理論の総復習	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
15	試験に向けて総復習	教科書の該当箇所について良く読み、分からない箇所は本やネットで調べる(９０分)	講義で行ったことを良く復習する(９０分)
16	期末試験 授業改善アンケートの実施	これまでの講義を良く復習しておく。	これまでの講義を通じて行ってきたことを良く復習する。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ基礎 （科目ナンバリング：STS061074 ）				
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 （単位認定責任者： 薦田　勇智 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。				

概要

履修目標

・データサイエンスの意義と目的についての理解を踏まえ、数理・データサイエンス・ＡＩを日常生活や実社会の場で活用できる基礎的素養を身につける。
・統計学の知見に基づいたデータの加工・分析・表現技法の知識・技術を習得する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4に対応する。（2024年度）

到達目標

・データ・ＡＩ活用領域の広がりを理解し、それらを活用する価値を説明できる。
・データ・ＡＩ利活用の際に留意すべきモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威（リスク）について理解する。
・Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ Ｏｆｆｉｃｅ Ｅｘｃｅｌを使って、与えられたデータを適切に加工・分析・表現することができる。

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス・ＡＩの利活用について、知識だけではなく、実際にデータを加工し、表現できる技術を体系的に学習する。教科書・オンライン教材（動画・テキスト）を使った学習により基礎知識の習得を目指し、複数回Ｅｘｃｅｌを使った演習を行うことで、データ処理の基本的な技術の習得を目指す。なお、分析演習の課題では、組織の課題解決に資するデータ分析を行い、より現実感のある分析手法を学ぶ。

本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。

本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業科目である。
・「ＳＤＧ　４．質の高い教育をみんなに」
・「ＳＤＧ　９．産業と技術革新の基盤をつくろう」
・「ＳＤＧ１２．つくる責任　つかう責任」

授業の方法

本科目では、映像コンテンツ主体のオンライン教材（ベネッセ社提供）により、学習を進める。適時、教員によりプロジェクター及び大型モニターに教材（スライド資料等）または教員のパソコン画面を提示しながら解説を行う。なお、習熟度を測定するため、各授業回最後に確認テストの実施、及びＥｘｃｅｌ分析演習課題の提出を複数回求めるので、必ず受験・提出すること（評価の対象とする）。オンライン教材は、自宅からでも視聴可能であるため、準備・事後学習に役立てること。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。
本科目では、出欠確認、教材・資料等の配布、課題の提示・回収・採点（フィードバック）は全てＴｅａｍｓにて行う。

習熟度に関して個人差が大きくなる可能性があるため、次の学習支援を実施する。
・授業時間外において質問などがあれば、Teamsチャットにて受け付ける。
・提示した教材は、全てＴｅａｍｓにて公開・配信する。
・習熟度に応じて、個別指導（補講）を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・本科目では、コンピュータ及びＥｘｃｅｌに関する基礎知識が前提となるため、「情報基礎演習Ｉ」の単位修得が望ましい。
・自己所有のノートパソコンを使用する場合は、Ｅｘｃｅｌのインストールが必要である（大学から無償提供あり）。
・課題は、自分で考え作成したものを提出することとし、第三者が作成した著作物等の盗用（剽窃）が認められた場合は、提出を無効とする。
・本科目では、教科書を購入していない者については単位取得を認めないものとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は、１２回以上とする。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
・課題提出期限を過ぎて提出した場合は、当該課題の採点結果から２０％減点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０％	0%	２０％	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数理・データサイエンス・ＡＩの理解	データ・ＡＩ活用領域の広がりを具体的に理解し、データ・ＡＩを活用する価値について事例を用いて自分の考えと併せて説明できた。	データ・ＡＩ活用領域の広がりを具体的に理解し、データ・ＡＩを活用する価値について事例を用いて説明できた。	データ・ＡＩ活用領域の広がりを理解し、データ・ＡＩを活用する価値について事例を用いて説明できた。	データ・ＡＩ活用領域の広がりを理解し、データ・ＡＩを活用する価値を説明できた。	データ・ＡＩ活用領域の広がりを理解し、データ・ＡＩを活用する価値を説明できなかった。
データ・AI利活用におけるモラル・倫理・リスクの理解	データ・ＡＩを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威（リスク）について理解でき、自分ごととして考えた上で、事例を基に詳しく説明できた。	データ・ＡＩを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威（リスク）について理解でき、事例を基に詳しく説明できた。	データ・ＡＩを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威（リスク）について理解でき、事例を見つけることができた。	データ・ＡＩを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威（リスク）について理解できた。	データ・ＡＩを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威（リスク）について理解できなかった。
コンピュータを使ったデータ加工・分析・表現	Ｅｘｃｅｌを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現し、自らの考えを交えて説明できた。	Ｅｘｃｅｌを使って、データを適切且つより詳細に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Ｅｘｃｅｌを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できた。	Ｅｘｃｅｌを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を表現できた。	Ｅｘｃｅｌを使って、データを適切に加工・分析・考察を行うことができ、結果を正しく表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ基礎 （科目ナンバリング：STS061074 ）				
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 （単位認定責任者： 薦田　勇智 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、データサイエンスとは 授業改善アンケート結果反映の説明	データサイエンスの定義について調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
2	社会で起きている変化	データサイエンスによる起きている身近な変化を調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
3	社会で活用されているデータ 情報収集（文献検索･データベース活用法等）	社会で活用されているデータについて調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
4	データ・ＡＩの活用領域	ＡＩについて調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
5	データ・ＡＩ利活用のための技術	ＡＩの事例について調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
6	データ活用とは	データサイエンスの活用に関するニュースを調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
7	データ・ＡＩ利活用の現場	データサイエンスの活用に関するニュースを調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
8	データ・ＡＩ利活用の最新動向	データサイエンスの活用に関するニュースを調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
9	データを読む①（データの種類、データの代表値、データのばらつき）	平均値・中央値・最頻値について調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
10	データを読む②（相関と因果、母集団と抽出、統計情報の正しい理解）、組織の課題解決に資するデータ分析演習	相関と因果の違いについて調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
11	データを説明する 情報の整理（ワープロ･表計算）	Ｅｘｃｅｌの操作方法について復習する（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
12	データを扱う 情報発信（レポート･プレゼンテーション技法等）	Ｅｘｃｅｌグラフの作成方法について復習する（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
13	データ・ＡＩを扱う上での留意事項①（ＥＬＳＩ、不正行為、個人情報）	個人情報について調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
14	データ・ＡＩを扱う上での留意事項②（バイアス、ＡＩの正しい活用）	バイアスについて調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
15	データを守る上での留意事項とまとめ	情報セキュリティについて調べる（９０分）	確認テストの内容を復習する（９０分）
16	定期試験、授業改善アンケートの実施	全ての確認テストを復習する（９０分）	試験で回答できなかった・自信がない項目について復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門Ⅰ　（科目ナンバリング：CHI051036　）				
授業担当者（所属・職名）	孫　暢（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　孫　暢　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

中国人と簡単な会話を交わすことが出来るようになる。中検準4級程度のレベルに到達する。
（中国語検定試験（「中検」）は，主に日本語を母語とする中国語学習者を対象とします。「中検」と「HSK」は同じ中国語の検定試験ですが性格を異にする試験です。
「中検」は，中国語読解及び聴解能力のほか翻訳能力を問うものです。
「HSK」は，中国語による設問に中国語で答えることを求め，中国語の運用能力のみを問うものであり翻訳能力は問われておりません。
したがって，中検は日本の企業での活躍を目指す方，HSKは中国の大学本科への留学や中国企業で活躍を目指す方に適していると言えるでしょう。）

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)
デザイン学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)
建築学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)
経営学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

中国語の発音・文法とあいさつ・簡単な会話をマスターする。中国語を通して、中国人の礼節・習慣なども理解できる。

授業全体の内容と概要

初めて中国語を学習する学生のために、日常会話と文法を結び付けて学習することで、コミュニケーション能力を身につけられるようにする。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書により、「発音」・「挨拶」・「基本文」・「会話文」・「入れ替え練習と応用」・「新出単語」・「文法」・「練習」と段階的に講義形式で授業を進める。
中国語の学習を通して、中国の文化や歴史なども理解しやすいように講義する。また、復習を重視し、適宜簡単な確認テストを実施する。課題に対して解説を加えてフィードバックをする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

オリエンテーションの出席は必須です。
通算GPAが2.0未満の学生は履修できません。
発音が特に難しいので、できる限り授業に参加し、正確な発音と聴力を身につけるように努力し、ピンインと簡体字を覚え書けるようにしなければならない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数は１０回以上
課題を期限内に提出すること

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	10%	10%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能（発音・文字語彙・文法・読解等）	期末テストで９割以上、語彙・文法の誤りがなく正確に理解していた。	期末テストで８割以上、語彙・文法の誤りがほとんどなく大体理解していた。	期末テストで７割以上、語彙・文法の誤りが若干あるが問題なく理解していた。	期末テストで６割以上、語彙・文法の誤りが若干あって理解できていない部分があった。	期末テストで６割未満、理解を妨げる語彙・文法の誤りがあった。
思考力・判断力・表現力（聴解・会話・プレゼン等）	表現方法が適切であり、誤りがなかった。	表現方法が適切であり、誤りがほとんどなかった。	表現方法が適切であり、誤りが少しあった。	表現方法に誤りがあり、自分の意見を伝えるのに支障をきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意見が伝わらなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組み、多様な表現や協働性に関してレベル以上に達した。	与えられた課題に取り組み、多様な表現や協働性に関して一定のレベルに達した。	与えられた課題に取り組んだが、多様な表現や協働性に関して求められるレベルに達しなかった。	与えられた課題に取り組んだが、多様な表現や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。
授業態度	授業内容に「関心が強く」「意欲的に」受けている・聞いている	授業内容に「関心あり」「意欲を見られる」受けている・聞いている	授業内容に関心・意欲が低い（ボーッとしている・授業とは関係ないことを考えている・よそ見）	授業内容に関心が低く、意欲がない（授業中の飲食、授業中の私語等）	授業内容に関心が極めて低く、意欲がない（注意に対する言い訳・反論）

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門Ⅰ　（科目ナンバリング：CHI051036　）				
授業担当者（所属・職名）	孫　暢（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　孫　暢　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『基礎からレッスンはじめての中国語』』	南雲大悟	ナツメ社	2018	9784816364679	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『本気で学ぶ中国語』』	趙玲華	ベレ出版	2009	9784860642471	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	講義ガイダンス：中国語のイメージの簡単紹介、授業方法、他の注意事項	シラバスの内容確認（９０分）	教科書の確認（９０分）
2	第１課 発声：「拼音字母とは」、「拼音字母の構成および数」、「４つの声調の特徴」	教科書P12～P23の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
3	第２課 発声：「基礎韻母（単母音）とそこ発音」「声母表（子音）とその発音」「声調変化」	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
4	第３課 発声：「声母表（子音）とその発音」「複韻母・鼻韻母とその発音」	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
5	第４課 数字の数え方	教科書P30の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
6	第５課 課外活動：中国語を通じて動きましょう	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
7	第６課 基本あいさつ文：初対面・別れ・再会	教科書P32～P39の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
8	第７課 基本文：返事のことば、お礼・お詫びのことば	教科書P40～P47の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
9	第７課 基本文：お祝いことば、感情を表すことば	教科書P48～P51の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
10	第８課 数字の復習、月日・曜日・時刻	教科書P30の復習・P52の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
11	第９課 文法：中国語の主要文型（肯定文・否定文）	教科書P24～P25の予習（９０分）	教科書P26～P27の練習問題（９０分）
12	第１０課 文法：自己紹介などで使う表現	教科書P54～P57の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
13	第１１課 中国語の自己紹介文を作ろう	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
14	総復習Ⅰ　発音の復習、数字の復習、基本あいさつことばの復習	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
15	総復習Ⅱ　フレーズの復習と実際応用練習	前回の授業内容復習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
16	期末テスト	テスト勉強（９０分）	テストへの反省など（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会保障Ⅱ （科目ナンバリング：SWS111004 ）				
授業担当者（所属・職名）	星野　秀治（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 星野　秀治 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。
②社会保障制度の体系と概要について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP４に対応する。（2024年度）

到達目標

①わが国の社会保障制度の発展過程について説明できる。
②社会保険制度の具体的な仕組みについて理解できる。
③今後の社会保障制度のあり方について自らの考えを示すことができる。

授業全体の内容と概要

わが国の社会保障制度の中核をなしている年金保険，医療保険，介護保険等の社会保険のほか，児童扶養手当などの社会手当制度などについても制度の仕組みを理解するとともに，社会保険と民間保険の関係等についても理解を深める。
「SDG1．貧困をなくそう」，「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

授業は，パワーポイント及び配布資料を活用しながら，ディスカッションを交えつつ講義形式で行う。適宜、授業内容についてのレポート提出を求める。授業内で実施するレスポンスシートについて、次回の授業でコメントを行うなどのフィードバックを行い双方向性を確保する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回，必ず教科書・配付資料を携行すること。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施することがある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程科目（選択）

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	少子高齢社会における安定的な社会保障体制構築の方向性について認識できた。	少子高齢社会における社会保障制度の見直しの必要性について説明できた。	わが国の国民皆保険・皆年金体制確立の経緯を理解できた。	わが国の社会保障制度の発展過程について説明できた。	わが国の社会保障制度の発展過程について説明できなかった。
思考・判断	全世代型社会保障体制の構築について思考することができた。	安定的な社会保障体制構築の必要性について思考することができた。	国民皆保険・皆年金体制の維持に向けて制度見直しの必要性を考えることができた。	社会保険の意義について考えることができた。	社会保険の意義について考えることができなかった。
関心・意欲	国際化が求められる日本社会と社会保障のあり方について関心を示した。	安定的な社会保障体制の構築に向けて自らの考えを示すことができた。	社会保障制度のあり方について自らの考えを示す意欲を持った。	今後の社会保障の方向性について関心を寄せることができた。	今後の社会保障の方向性について関心を寄せることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会保障Ⅱ （科目ナンバリング：SWS111004 ）				
授業担当者（所属・職名）	星野　秀治（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 星野　秀治 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 7 社会保障』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	２０２１	978-4-8058-8237-5	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 わが国における社会保障制度の展開（1）－社会保	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
2	わが国における社会保障制度の展開（２）－国民皆保険・皆年金体制の確立と社会保障の発展期	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
3	わが国における社会保障制度の展開（３）－低成長期への移行と社会保障制度の改革期	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
4	わが国の社会保障制度の体系（年金保険制度①）－国民皆年金体制	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
5	わが国の社会保障制度の体系（年金保険制度②）－国民年金の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
6	わが国の社会保障制度の体系（年金保険制度③）－厚生年金の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
7	わが国の社会保障制度の体系（医療保険制度①）－国民皆保険体制	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
8	わが国の社会保障制度の体系（医療保険制度②）－被用者医療保険の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
9	わが国の社会保障制度の体系（医療保険制度③）－国民健康保険の概要，後期高齢者医療制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
10	わが国の社会保障制度の体系－介護保険制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
11	わが国の社会保障制度の体系－労災保険制度の概要、雇用保険制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
12	わが国の社会保障制度の体系－生活保護制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
13	わが国の社会保障制度の体系－社会手当制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（90分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（90分）
14	わが国の社会保障制度の体系－社会福祉制度の概要	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
16	試験（６０分）	全授業を振り返り試験に向けた準備（９０分）	試験内容をふまえ授業全体を振り返る(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築ｼｽﾃﾑ論 （科目ナンバリング：BSM311014 ）				
授業担当者（所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所に勤務し、木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造、膜構造など様々な構造形式の建築設計を行なった経験を活かして授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボート等を参照				

概要

履修目標

この授業では、建築における様々な構造や部材の役割と名称を理解することを目的とする。大学で建築学を修得する上において、さらには建築に関わるあらゆる職種において必要な基礎的知識として、各種建築構造の特徴や部材に関する知識を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP１、DP３、DP４に対応する。（２０２４年度）
建築学科のDP１、DP２に対応する。（２０２３年度・２０２２年度）
建築学科のDP１、DP５、DP７に対応する。（２０２１年度）

到達目標

各種建築構造の構造原理及び特徴、非構造部材を含む建築の各部位・部材の名称や役割などが理解できる。

授業全体の内容と概要

建築の代表的な構造形式である木造，鉄筋コンクリート構造，鉄骨構造、膜構造の構造原理や特徴ついて講義する。合わせて、各構造種別における建築の非構造部材の役割と名称についても学び、建物の専門家としての基礎的知識を身につける。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布資料、必要に応じて動画を用いた講義形式で行う。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

配布資料により講義を進めるので，休まず出席すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目，建築士試験受験資格課程必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	３０%	０%	10%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築物の部位・部材の名称	全ての構造物の部位・部材名称を理解し、他の人に説明できた。	全ての構造物の部位・部材名称を理解できた。	基本的な構造物に対して名称を理解できた。	該当する構造物の名称を理解できた。	該当する構造物の名称を理解できなかった。
建築物各構造の特徴・構造原理	構造物の特徴・構造原理が全て理解でき、他の人に説明できた。	構造物の特徴・構造原理が全て理解できた。	基本的な構造物の特徴・構造原理が理解できた。	該当する構造物の特徴が理解できた。	該当する構造物の特徴が理解できなかった。
建築構造形式の理解力	建築構造形式の内容を深く理解し、特徴を図・表などを示しながら記述することができた。	建築構造形式の内容を深く理解し、特徴を記述することができた。	建築構造形式の内容を理解し、基本的な内容を記述することができた。	建築構造形式の基本事項を記述することができた。	建築構造形式の基本事項を記述することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築ｼｽﾃﾑ論 （科目ナンバリング：BSM311014 ）				
授業担当者（所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所に勤務し、木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造、膜構造など様々な構造形式の建築設計を行なった経験を活かして授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『図解テキスト　建築構造』	建築構造システム研究会編	彰国社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 各種構造システム	シラバス資料を確認して，授業内容を予習する（９０分）	授業内容を整理して，復習する（９０分）
2	コンクリート系の構造システム	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
3	鋼材系の構造システム	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
4	膜財系・基礎・制震の構造	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	（専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
5	荷重系の種類	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
6	木造系の詳細	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
7	コンクリート系の詳細	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
8	鉄筋・鉄骨と部材	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
9	鉄筋コンクリート系（1）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
10	鉄筋コンクリート系（2）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
11	鉄骨構造の詳細（1）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
12	鉄骨構造の詳細（2）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
13	鉄骨構造の接合（1）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
14	鉄骨構造の接合（2）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
15	鉄骨構造の接合（3）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	専門用語を理解し，配布資料を確認し復習する（９０分）
16	授業改善アンケートの実施 定期試験	授業内容全体について資料を整理して，試験に備える（９０分）	授業内容全体について資料を整理する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論	（科目ナンバリング：SPS422060，SPS512009　　）			
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

経営学の手法を使って，スポーツ組織の構造と運営に関して理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

スポーツ団体における経営の問題点や課題について理解したうえで、各種競技スポーツの運営や活動に関して理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

板書が多いのできちんとノートをとり，その内容をしっかり理解する。様々な場面・考え方を理解することによってスポーツとマネジメントがどのようにつながり発展的な運営となるのかを考える。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励行する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、スポーツにおけるマネジメントの在り方を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは，教科書・前回までの配布物・ノート・筆記用具の４点セットを持参することを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を１回課し，最終評価の対象とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて１１回以上とする。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を１回の欠席として扱う。予習復習を心がけ，知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大５０%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９０点以上の得点を挙げた。	定期試験で８０点以上の得点を挙げた。	定期試験で７０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランシングへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論	（科目ナンバリング：SPS422060，SPS512009 ）			
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明 授業評価アンケートの結果を説明する	専用のノートを準備する（９０分）	ノートによる情報のデータベース化を行うこと（９０分）
2	スポーツ組織とは何をさすのか	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
3	スポーツ組織の経営戦略	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
4	スポーツ組織の経営資源	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
5	人材育成と経営責任	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
6	マーケティング	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
7	ストレッチの重要性と危機管理	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
8	マーケティング上の意思決定	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
9	マーケティングミックス	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
10	スポーツ組織のリーダーシップ論	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
11	プロスポーツ産業の経営戦略	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
12	スポーツ事業のプロモーション	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
13	情報化とスポーツ	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
14	ノートチェック①	ノート提出に備える（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
15	テストリビュー＆ノートチェック② 授業評価アンケートを実施	ノート提出に備える（９０分）	試験に備える（９０分）
16	試験および総括	試験に備える（１５０分）	本科目の総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論（SP） （科目ナンバリング：SPS422060，SPS512009 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生に経営学の手法を使って，スポーツ組織の構造と運営に関して理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

スポーツ団体における経営の問題点や課題について理解したうえで、各種競技スポーツの運営や活動に関して理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

板書が多いのできちんとノートをとり，その内容をしっかり理解する。様々な場面・考え方を理解することによってスポーツとマネジメントがどのようにつながり発展的な運営となるのかを考える。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励行する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、スポーツにおけるマネジメントの在り方を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは，教科書・前回までの配布物・ノート・筆記用具の４点セットを持参することを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を１回課し，最終評価の対象とする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて１１回以上とする。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を１回の欠席として扱う。予習復習を心がけ，知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大５０%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９０点以上の得点を挙げた。	定期試験で８０点以上の得点を挙げた。	定期試験で７０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランシングへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論（SP）	（科目ナンバリング：SPS422060，SPS512009 ）			
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明 授業評価アンケートの結果について説明する	専用のノートを準備する（９０分）	ノートによる情報のデータベース化を行うこと（９０分）
2	スポーツ組織とは何をさすのか	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
3	スポーツ組織の経営戦略	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
4	スポーツ組織の経営資源	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
5	人材育成と経営責任	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
6	マーケティング	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
7	ストレッチの重要性と危機管理	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
8	マーケティング上の意思決定	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
9	マーケティングミックス	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
10	スポーツ組織のリーダーシップ論	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
11	プロスポーツ産業の経営戦略	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
12	スポーツ事業のプロモーション	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
13	情報化とスポーツ	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
14	ノートチェック①	ノート提出に備える（９０分）	ノートをまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
15	テストリビュー＆ノートチェック② 授業評価アンケートの実施	ノート提出に備える（９０分）	試験に備える（９０分）
16	試験および総括	試験に備える（１５０分）	本科目の総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 （単位認定責任者： 竹内　美帆 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な現象、表現、歴史を考えることを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（2022・2023年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP8に対応する。（2021年度）

到達目標

マンガを中心とする表現の特性、産業としての側面や、専門用語などの知識を身に着け理解する。
文献や資料を考察するための基礎能力を身につける。
ディスカッションや発表などを通じて、大学で学ぶための基礎的な学力（プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など）を身につける。
表現・文化についての興味や関心、批判的思考を養う。

授業全体の内容と概要

マンガを中心としたトピックについての講義やグループワーク、ディスカッションを行い、諸文化や社会について多様な視点から考える力を養いながら、文献調査の方法や発表資料のつくり方などを学ぶ。後半では、各自でマンガについて調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。
「SDGs16．平和と公正をすべての人に」の関連科目。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。
授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力（プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力）	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べ、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 （単位認定責任者： 竹内　美帆 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　オリエンテーション	シラバスを読んでおく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
2	産業としてのマンガ（１）雑誌文化と新しいビジネスモデル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
3	産業としてのマンガ（２）マンガ制作と流通　マンガ家の位置づけ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
4	「マンガ家」という仕事（１）制作方法の特殊性（他メディアと比較して）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
5	「マンガ家」という仕事（２）制作方法の多様性	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
6	「マンガ家」という仕事（３）マンガ家の仕事の現場	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
7	マンガと社会（１）戦争を語るメディアとしてのマンガ　中沢啓治「はだしのゲン」	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
8	マンガと社会（２）戦争を語るメディアとしてのマンガ　こうの史代『この世界の片隅に』読解	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
9	マンガと社会（３）戦争を語るメディアとしてのマンガ　こうの史代『この世界の片隅に』　映画版との比較	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
10	プレゼンテーションの方法 レポートのまとめ方	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
11	個人発表（１）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
12	個人発表（２）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
13	個人発表（３）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
14	個人発表（４）	個人発表の準備をする（45分）	レポートを作成する（45分）
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	授業内容を復習する（45分）
16	期末レポートの解説　フィードバック	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	授業内容を復習する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 後藤　啓倫 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

前期のⅠAに引き続き、大学での学習の基礎になる、文献の読み方、発表の仕方、議論の仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。
自分で調べ構想したことを、レジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。

授業全体の内容と概要

前期のⅠAに引き続き、講義の受け方・レポート作成方法といった学習のためのスキル、自発的に問題を発見し解決する力といった、大学生としてふさわしい能力や姿勢を修得するために、このゼミナールでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者による討論、レポートの作成を行う。

授業の方法

授業は次のように進める。
①報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。
②司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員で討論をする。
③担当教員による講評を行う。
④レポート作成に向けた準備を進める。
輪読するテキストは、社会福祉と政治・行政に関する文献のなかから受講生と相談の上で決める。
Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。
自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べ構想したことを、レジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、的確にまとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、部分的に問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできなかった。
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独創的な着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	テーマ設定ができたレポートが作成された。	テーマ設定が概ねできたレポートが作成された。	レポートの提出がなされなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的に討論に参加し、リーダーシップを発揮できた。	他者に協力しながら積極的に討論に参加することができた。	積極的に討論に参加することができた。	討論に参加することができた。	討論に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 後藤　啓倫 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、テキストの決定	シラバスを読む。（４５分）	議論内容の整理（４５分）
2	テキストの内容報告と討論（1）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
3	テキストの内容報告と討論（2）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
4	テキストの内容報告と討論（3）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
5	テキストの内容報告と討論（4）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
6	テキストの内容報告と討論（5）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
7	テキストの内容報告と討論（6）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
8	テキストの内容報告と討論（7）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
9	テキストの内容報告と討論（8）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
10	テキストの内容報告と討論（9）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
11	テキストの内容報告と討論（１０）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
12	テキストの内容報告と討論（１１）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
13	レポートの進捗状況の報告（1）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
14	レポートの進捗状況の報告（2）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
15	レポート作成（1）	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の準備（４５分）
16	レポート作成（2）	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の仕上げ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 戸佐　晃一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

前期に学習した人体の構造や機能について具体的な内容の理解を深め、、食生活（栄養）・運動実践・睡眠などの生活習慣を見直すことに生かし、健康的な学生生活を目指す。
また、生涯にわたって運動習慣（軽スポーツ）を継続することで高齢になっても健康で長寿であることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

各自、無理のない体力・健康目標を設定し、健康で活力ある学生生活を送るために必要な食事・睡眠・運動の正しい知識を学び健康の維持・増進を実践できるようにする。

授業全体の内容と概要

各自自分自身の食生活・睡眠・運動について健康状態を把握する。
各自人体の脳や骨格・筋肉・内臓臓器の構造や機能を理解し健康の維持増進に努める。
各自栄養素について理解を深め健康的な学生生活を送るために食生活を見直す。

授業の方法

DVDなど動画を参考に基本的な人体の構造や機能を理解する。
グループワークで互いが課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションを通して正しい理解ができるように進めていく。
Teamsを活用して連絡・レポート提出を行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	30%	30%	０%	40%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
栄養素の働きの理解	栄養素の働きを良く理解している	栄養素の働きをほぼ理解している	栄養素の働きをある程度理解している	栄養素の働きを理解している	栄養素の働きを理解していない
内臓臓器の構造や機能の理解	内臓臓器の構造や機能を良く理解している	内臓臓器の構造や機能をほぼ理解している	内臓臓器の構造や機能をある程度理解している	内臓臓器の構造や機能を理解している	内臓臓器の構造や機能を理解していない
運動の効果の理解	運動の効果を良く理解している	運動の効果をほぼ理解している	運動の効果をある程度理解している	運動の効果を理解している	運動の効果を理解していない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 戸佐　晃一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンス内容を理解しておく（４５分）
2	個人面談（前期成績・取得単位数・学生生活）	前期成績・取得単位数を確認しておく（４５分）	前期成績・取得単位数を把握しておく（４５分）
3	個人面談（前期成績・取得単位数・学生生活）	前期成績・取得単位数を確認しておく（４５分）	前期成績・取得単位数を把握しておく（４５分）
4	栄養素の働きの理解Ⅰ	栄養素の働きを確認しておく（４５分）	栄養素の働きを理解しておく（４５分）
5	栄養素の働きの理解Ⅱ	栄養素の働きを確認しておく（４５分）	栄養素の働きを理解しておく（４５分）
6	栄養素の働きの理解Ⅲ	栄養素の働きを確認しておく（４５分）	栄養素の働きを理解しておく（４５分）
7	栄養素の働きの理解Ⅳ	栄養素の働きを確認しておく（４５分）	栄養素の働きを理解しておく（４５分）
8	内臓臓器の構造や機能の理解Ⅰ	内臓臓器の構造や機能を確認しておく（４５分）	内臓臓器の構造や機能を理解しておく（４５分）
9	内臓臓器の構造や機能の理解Ⅱ	内臓臓器の構造や機能を確認しておく（４５分）	内臓臓器の構造や機能を理解しておく（４５分）
10	内臓臓器の構造や機能の理解Ⅲ	内臓臓器の構造や機能を確認しておく（４５分）	内臓臓器の構造や機能を理解しておく（４５分）
11	内臓臓器の構造や機能の理解Ⅳ	内臓臓器の構造や機能を確認しておく（４５分）	内臓臓器の構造や機能を理解しておく（４５分）
12	運動の効果の理解Ⅰ	運動の効果を確認しておく（４５分）	運動の効果を理解しておく（４５分）
13	運動の効果の理解Ⅱ	運動の効果を確認しておく（４５分）	運動の効果を理解しておく（４５分）
14	運動の効果の理解Ⅲ	運動の効果を確認しておく（４５分）	運動の効果を理解しておく（４５分）
15	まとめ 授業改善アンケート結果反映の説明	授業内容を振り返り確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
16	フィードバック	授業内容を振り返り確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 米野　宏 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議およびディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答も行う。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。
プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。
　不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１０%	１０%	０%	７０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 米野　宏 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明）	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を再度確認する。（４５分）
2	グループディスカッション（学生スポーツの課題）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
3	グループディスカッション（スポーツと金）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
4	グループディスカッション（オリンピック）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
5	グループディスカッション（スポーツの未来）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
6	ミニプレゼンテーションの準備　１（スポーツの問題と課題）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
7	ミニプレゼンテーションの準備　２（スポーツの問題と課題）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
8	ミニプレゼンテーション（５分）　１～５番	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
9	ミニプレゼンテーション（５分）　５～１０番	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
10	ミニプレゼンテーション（５分）　１１番～	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
11	プレゼンテーション（１５分）の準備１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
12	プレゼンテーション（１５分）の準備　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
13	プレゼンテーション（１５分）と質疑応答　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
14	プレゼンテーション（１５分）と質疑応答　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
15	プレゼンテーション（１５分）と質疑応答　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
16	ふりかえり 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再確認する。（４５分）	評価等の内容を確認しておく。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　和裕 ）		CAP制	演習	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

「健康とスポーツ」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、また大学での学習を進めるにあたり、コミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

健康とスポーツについて理解し知識を身に付け、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。

授業全体の内容と概要

授業に関しては、特定のテーマに沿って書籍やインターネットで調べプレゼンテーションを行い、ディスカッションも行う。「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」

授業の方法

授業は配布資料で実施し、レポートの書き方については板書または資料にて説明する。授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。課題や発表に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。欠席をする場合は必ず事前に連絡すること。
注意事項の詳細についてはガイダンスにて説明する。
発表と意見交換の機会が多いので、主体的で能動的な姿勢で取り組むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１０%	１０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康とスポーツについての基礎的な知識を深く理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を多少理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体的・多様性・協調性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　和裕 ）		CAP制	演習	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明）	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	健康について考える（飲酒）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
3	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
4	健康について考える（喫煙）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
5	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
6	健康について考える（薬物）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
7	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
8	健康について考える（食生活）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
9	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
10	健康について考える（感染症）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
11	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
12	健康のための生涯スポーツを考える（障がい者とスポーツ）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
13	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
14	健康のための生涯スポーツを考える（高齢者とスポーツ）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
15	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
16	まとめ	ノートに記載された内容を復習し理解する。（４５分）	評価の内容を確認し自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 三嶋　康嗣 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

自分でテーマを設定し、文章にまとめることができる。
グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、小論文・レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議およびディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマでプレゼンテーションを行い、質疑応答も行う。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１０%	１０%	０%	７０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 三嶋　康嗣 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明）	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を再度確認する。（４５分）
2	グループディスカッション（スポーツの価値）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
3	グループディスカッション（アマチュアスポーツとプロスポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
4	グループディスカッション（日本でのスポーツの発展）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
5	グループディスカッション（学生スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
6	ミニプレゼンテーションの準備　１（身近なスポーツの課題）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
7	ミニプレゼンテーションの準備　２（身近なスポーツの課題）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
8	ミニプレゼンテーション　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
9	ミニプレゼンテーション　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
10	ミニプレゼンテーション　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
11	グループディスカッション　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
12	グループディスカッション　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
13	プレゼンテーションと質疑応答　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
14	プレゼンテーションと質疑応答　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
15	プレゼンテーションと質疑応答　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習する。（４５分）
16	ふりかえり 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再確認する。（４５分）	評価等の内容を確認しておく。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 井坂　肇 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながら不足している体力要素を特定していく。さらには、その体力要素の向上のためのトレーニング方法を理解する。科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行うために、論文を読めるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

トレーニング理論について理解できる。
課題解決のために他者と討議することができる。
トレーニングを実践することができる。
論文を読んで内容について理解することができる。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながらトレーニングを進めていく。論文を読み、科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行う。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークを行う。データやトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。
学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１５分以上の遅刻は欠席とみなす。
遅刻２回で１回の欠席とみなす。
トレーニングデータの題材として野球の投手を利用することがある。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的なエビデンスに基づいたトレーニングの理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめていた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持てていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめていた。	トレーニング理論を説トレーニングを構成する様々な要素について調べていた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
データに対する思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを達成した。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 井坂　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	シラバスの内容を理解しておく（４５分）
2	エビデンスに基づいたトレーニング⑥ 論文の読み方⑥	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
3	エビデンスに基づいたトレーニング⑦ 論文の読み方⑦	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
4	エビデンスに基づいたトレーニング⑧ 論文の読み方⑧	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
5	エビデンスに基づいたトレーニング⑨ 論文の読み方⑨	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
6	トレーニングデータの収集と理解⑥ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
7	トレーニングデータの収集と理解⑦ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
8	トレーニングの実践⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
9	トレーニングの実践⑥	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
10	トレーニングデータの収集と理解⑧ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
11	トレーニングデータの収集と理解⑨ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
12	トレーニングの実践⑦	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
13	トレーニングの実践⑧	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
14	トレーニングデータの収集と理解⑩ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
15	エビデンスに基づいたトレーニング⑩ 論文の読み方⑩	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	阿部　一也（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 阿部　一也 ）		CAP制	演習	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

陸上競技（駅伝）を通じて、生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創り出して行くための必要な知識を理解する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

陸上競技（駅伝）を通じて、個人、家庭という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康について、一層の関心を持っことができる。

授業全体の内容と概要

陸上競技（駅伝）を通じて、生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく説明する。

授業の方法

資料を通読し、その内容の説明や質疑応答及びディスカッションを行います。健康に関するキーワードについて調べ、発表を行います。課題や発表等に対応するフィールドバックや要望等への対応は、少人数集団の利点を生かし、口頭で説明を行います。不測の事態が発生した際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「２０分以上の遅刻は欠席とします。」
「遅刻3回で欠席1回とみなします。」

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	８０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を深く理解できた。	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を理解できた。	陸上（駅伝とて、健康について基礎的な知識をおおむね理解できた。	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を多少理解できた。	陸上（駅伝）と、健康について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に十分に考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開におおむね考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に多少考察できた。	陸上（駅伝）と、健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できなかった。
主体的に取り組む態度	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	陸上（駅伝）と、健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	阿部　一也（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 阿部　一也 ）		CAP制	演習	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　「シラバス説明」	事前にシラバスを読んで確認するする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
2	陸上（駅伝）と、健康についての調査説明①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
3	陸上（駅伝）と、健康についての調査②　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
4	陸上（駅伝）と、健康についての調査③　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
5	陸上（駅伝）と、健康についての調査④　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
6	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑤　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
7	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑥　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
8	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑦　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
9	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑧　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
10	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑨　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
11	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑩　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
12	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑪　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
13	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑫　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
14	陸上（駅伝）と、健康についての調査⑬　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
15	陸上（駅伝）と、健康についての調査まとめ・講評	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
16	陸上（駅伝）と、健康調査全体のまとめ	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。（４５分）	解説の内容を確認する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者：　篠原　諒介　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際的に活躍するエリートアスリートとともに働く世界の著名なスポーツ科学者達のリカバリーに関する最新の科学的データを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

「パフォーマンスを向上させたい」、「オーバーリーチングや怪我を予防したい」と考えているすべてのアスリートやコーチを目指している学生のために、科学的なエビデンスに基づいた情報、また、エリートスポーツに携わるコーチやスポーツ科学者が、成功へと導いた競技現場でのリカバリーの応用例を実践する。

授業全体の内容と概要

すべてのアスリートやコーチを目指している学生がトレーニングや試合などの競技活動におけるオーバーロードや怪我のリスクを低下させ、最終的にはそれぞれのパフォーマンスを改善するリカバリープロセスを学ぶ。

授業の方法

・授業はパワーポイントを使用し、ＤＶＤの視聴、レポートなどの講義形式で実施する．
・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します．
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します．

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻３回で１回の欠席とみなします。
不測の事態の際はオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修ひた知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 篠原　諒介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
2	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要①	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
3	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要②	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
4	リカバリーの理解と修得 スクリーニングとアセスメントの概要③	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
5	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学①	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
6	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学②	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
7	リカバリーの理解と修得 解剖学的科学と機能の科学③	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
8	リカバリーの確認	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
9	リカバリーの実践① スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
10	リカバリーの実践② スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
11	リカバリーの実践③ スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
12	リカバリーの実践④ スクリーニングとアセスメント	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
13	リカバリーの実践⑤ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
14	リカバリーの実践⑥ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
15	リカバリーの実践⑦ 筋機能－動作と感覚	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	測定準備及び論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 杉本　大輔 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

本ゼミナールではキリスト教・仏教・イスラム教・儒教の教義内容とその特色を概観し、各々を構造神学的に比較したうえで、それらを振興する人々のエートス（行動様式）の生成と、そこから導き出された現代国際社会の諸相を分析し、併せて日本社会における宗教の影響と、日本人のエートスについての思考を深めるようにする。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１，DP２，DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

・キリスト教、仏教、イスラム教、儒教の基本的協議を理解できる。
・上記宗教のから導き出されるエートスを理解し、現代社旗への影響を理解できる。
・現代日本社会における「宗教」とその機能を理解できる。

授業全体の内容と概要

小室直樹『日本人のための宗教原論ーあなたを宗教はどう助けてくれるかー』（徳間書店）を基本参考文献とし（講義ごとに購読パートを教員がコピーする）、併せて、山本七平、橋爪大三郎、大澤真幸、の著書を参考に、音読しながら購読し、必要に応じてディスカッションを行う。

授業の方法

・各講義ごとに参考文献を音読してもらい、必要に応じて教員が説明を加える。また、ディスカッションも行う。
・ゼミで使用するプリントは前の週に配布する。熟読することが望ましい。
・学生の要望には可能な限り応じるが、教育上問題ありと思われる要望には応えられない。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

チャット、ライン等に「欠席理由」のしんこくがない、あるいは校間等の連絡がない場合は欠席とみなす。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の最低出席数１０回以上をクリアすること

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	３０%	７０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
キリスト教・仏教・イスラム教・儒教の基本的協議を理解する。	ゼミナールで行った内容について説明できる。ディスカッションにおいて、自分の意見を明示でき、且つ、他者の意見について様々な指摘ができた。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示できた。	高校のテキストにおける「宗教」の基本的知識を習得できた。	ゼミナールで行った内容について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
各宗教から導き出されるエートス（行動様式）を理解する。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示でき、且つ、他者の意見について様々な指摘ができた。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示できた。	マックス・ウェーバーの「エートス」の概念を理解できた。	ゼミナールで行った内容について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
現代日本社会における宗教的機能について理解する。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示でき、且つ、他者の意見について様々な指摘ができた。	ディスカッションにおいて、自分の意見を明示できた。	小室直樹・山本七平の「日本教」について」説明できた。	ゼミナールで行った内容について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 杉本　大輔 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明	高校の世界史の復習（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
2	宗教のアウトライン１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
3	宗教のアウトライン２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
4	キリスト教１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
5	キリスト教２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
6	キリスト教３	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
7	キリスト教４	前回資料の読み込み（９０分）	配布資料の熟読（９０分）
8	仏教１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
9	仏教２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
10	イスラム教１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
11	イスラム教２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
12	儒教１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
13	儒教２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
14	日本人と宗教１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
15	日本人と宗教２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）
16	日本人と宗教３	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の熟読（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 横田　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

基礎ゼミナールⅠAの継続として、学生が世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識と考え方を身につける。学生が、プレゼンテーション・コミュニケーションの基礎を身につける。文章作成の基礎の習得。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

受講者において、プレゼンテーション・コミュニケーションの基礎が習得できていること。文章作成の基礎が習得できていること。世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識が習得され、理解できていること。

授業全体の内容と概要

毎回、教員による講義と受講者各自の学習（文献調査）により、世界と日本の歴史と文化についての基礎的な知識を習得し、合わせて、プレゼンテーション、レポート等によって学んだことを発信する。後期は、北海道以外の日本の歴史と文化を中心に学習を進める。

授業の方法

毎回、１）調査、発表者によるプレゼンテーション、２）討論、３）教員による補足と講評（フィードバック）を行なう。適宜、文章作成の練習も行なう。 ※プレゼンテーションと説明では、スライド、板書、ボード等を使用する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	２０%	６０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集・調査能力	多様で正確な情報収集と編集・整理ができ、的確に発信できた。	正確な情報収集と整理ができ、的確に発信できた。	情報収集と整理の基礎が身に付いており、発信の基本ができていた。	指示によって情報収集と整理が遂行でき、発信の基本ができていた。	指示による情報収集・整理、発信ができなかった。
コミュニケーション・プレゼンテーション能力	的確な議論、明確なプレゼンテーションができ、適切な質疑応答ができた。	議論、プレゼンテーションの基礎が身に付いており、適切な質疑応答ができた。	議論、プレゼンテーションの基礎ができていた。	指示によって議論、プレゼンテーションが適切に遂行できた。	指示による議論、プレゼンテーションができなかった。
歴史と文化の理解・認識	日本の文化に関する広く深い理解ができており、発展的な学習ができた。	日本の文化に関する的確な理解ができており、発展的な学習が期待できた。	日本の文化に関する基本的な理解ができており、深めることが期待できた。	指示によって日本の文化に関する基本的な理解ができた。	指示による日本文化に関する理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 横田　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜紹介
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、教員による日本の歴史と文化の基礎に関する講義	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
2	教員による日本の歴史と文化の基礎に関する講義	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
3	受講者による調査とプレゼンテーション（１）	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
4	受講者による調査とプレゼンテーション（２）	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習(４５分)
5	受講者による調査とプレゼンテーション（３）	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習(４５分)
6	受講者による調査とプレゼンテーション（４）	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習（４５分）
7	受講者による調査とプレゼンテーション（５）	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習(４５分)
8	受講者による調査とプレゼンテーション（６）	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習(４５分)
9	受講者による調査とプレゼンテーション（７）	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習(４５分)
10	受講者による調査とプレゼンテーション（８）	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習(４５分)
11	受講者による調査とプレゼンテーション（９）	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習(４５分)
12	受講者による調査とプレゼンテーション（１０）	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習(４５分)
13	受講者による調査とプレゼンテーション（１１）	日本の歴史の基礎的事項の予習（４５分）	日本の歴史の基礎的事項の復習(４５分
14	受講者による調査とレポート作成（１）	レポート作成の準備（４５分）	レポート作成の準備（４５分）
15	受講者による調査とレポート作成（２）	レポート作成の準備（４５分）	レポート作成の準備（４５分）
16	受講者による調査とレポート作成（３）	レポート作成の準備（４５分）	レポートの仕上げ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 櫻井　美帆子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉実践に用いられることが多い語を学ぶとともに、基礎的なチームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP５に対応する。(2024年度)

到達目標

①用語と各々の意味を覚えるとともに、自分に適した暗記方法を身につけることができる。
②チームワークに必要なコミュニケーションの初歩的なスキルを身につけることができる。

授業全体の内容と概要

①福祉現場で用いられることが多い基礎的な用語（主にカタカナの用語）と基礎的な意味について学ぶ。
②実践的なコミュニケーションについて学ぶ。
「SDG1．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①基本はテーマに沿ったグループワークでの展開を基本とする。グループで議論した内容をまとめ、代表者が発表する展開とする。
②一部、講義形式で展開をする。講義の際には随時事質問を行うので、答えること。
③随時、記録物を提出する。記録物はコメントを添えて返却する。
④授業毎に使用する資料を配布する。
⑤不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①30分以上の遅刻は欠席とする。
②出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事で用いられ入れる事が多いカタカナ語を理解できる。	カタカナ語に該当する日本語を示すことができた。	カタカナ語の意味を答えることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
実践的なコミュニケーションをロールプレイで展開できる。	適切な態度や言葉を用いてロールプレイができた。	ロールプレイでは、相手を尊重した姿勢をとることができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
クラスのメンバーと協働できる。	状況に応じ、リーダーシップをとったり、他者へのサポートができた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 櫻井　美帆子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 福祉の仕事で用いられ入れる事が多いカタカナ語①	入学後、福祉の授業の中で知ったア行のカタカナ語を書き出す。（４５分）	単語帳を作る。（４５分）
2	福祉の仕事で用いられ入れる事が多いカタカナ語②	入学後、福祉の授業の中で知ったカ行とサ行のカタカナ語を書き出す。（４５分）	単語帳を作る。（４５分）
3	福祉の仕事で用いられ入れる事が多いカタカナ語③	入学後、福祉の授業の中で知ったタ行とナ行のカタカナ語を書き出す。（４５分）	単語帳を作る。（４５分）
4	福祉の仕事で用いられ入れる事が多いカタカナ語④	入学後、福祉の授業の中で知ったハ行とマ行のカタカナ語を書き出す。（４５分）	単語帳を作る。（４５分）
5	福祉の仕事で用いられ入れる事が多いカタカナ語⑤	入学後、福祉の授業の中で知ったヤ行とラ行とワ行のカタカナ語を書き出す。（４５分）	単語帳を作る。（４５分）
6	敬語の種類	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	ノートの整理をする。（４５分）
7	敬語の使い方	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	授業で学んだことを意識し、目上の人と話会話する。（４５分）
8	気をつけなければならない言葉や話し方	自分の言葉や話し方の特徴について箇条書きで整理する。（４５分）	授業で学んだことを意識し、知人と会話する。（４５分）
9	中間まとめ	1回から8回の内容を振り返り、疑問点や再度説明を希望する部分をまとめる。（４５分）	1回から8回までで理解が不十分だった点を復習する。（４５分）
10	コミュニケーションの意義・目的	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	授業で学んだことを意識し、知人と会話する。（４５分）
11	コミュニケーションの役割 コミュニケーションの種類	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	授業で学んだことを意識し、知人と会話する。（４５分）
12	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。①	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。（４５分）
13	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。②	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。（４５分）
14	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。③	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。（４５分）
15	福祉現場でのコミュニケーションを事例を用いて考える。④	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。（４５分）
16	まとめ	１回から15回までの授業内容を振り返り、疑問点や議論したい点をまとめる。（４５分）	この授業で学んだ事を振り返り、2年生へ向けた自己の課題を明確化する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 湯浅　頼佳 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「食生活の重要性を考える」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、「課題探求能力」養成を軸とした学習活動やその意義を理解させ、併せて快適な学生生活を送ることが出来る様指導する。提示したテーマの他様々な事柄への好奇心・探求心・向学心を刺激しながら学習能力を高める工夫をし、また、「学びの方法」も修得する。

授業の位置づけ

全学科の DP１、ＤＰ２、ＤＰ5に対応する。(2024年度)

到達目標

上記の授業内容や目的・ねらいを理解し、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的（保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等）に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関した講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質問には随時応答する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来たす行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。
「ＳＤＧ．３　すべての人に健康と福祉を」の関連科目。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席状況（３分の２以上）。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	３０%	５０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性，傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け，タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け，タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来るが質問できなかった。
知識・理解(興味，関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持に食生活や栄養についてのテーマを概ね発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持つ努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル，表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいようわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう概ねわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ，態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し，積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し，ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し，ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し，ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席16回)	概ねゼミに出席できた。(出席15～14回)	休みがちではあるが出席できた。(出席13～12回)	欠席が目立つが出席できた。(出席11～10回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席9～0回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 湯浅　頼佳 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション及びシラバスの説明	ゼミ初回に必要な事項について考える。（４５分）	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(４５分)
2	「食生活の重要性を考えるＩB」①テーマの見つけ方(新聞・図書・雑誌等)	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
3	「食生活の重要性を考えるＩB」②プレゼンテーションテーマの見つけ方(ニュース・ネット等)	栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
4	「食生活の重要性を考えるＩB」③プレゼンテーション資料の作成について	栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
5	「食生活の重要性を考えるＩB」④プレゼンテーション以外のテーマについて(フィールドワーク等)	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを発見する準備を行う。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
6	「食生活の重要性を考えるＩB」⑤プレゼンテーション以外のテーマについて(調理実習等)	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを発見する準備を行う。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
7	「食生活の重要性を考えるＩB」⑥プレゼンテーションとディスカッション(発表順１・２番目)	栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
8	「食生活の重要性を考えるＩB」⑦プレゼンテーションとディスカッション(発表順３・４番目)	栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
9	「食生活の重要性を考えるＩB」⑧プレゼンテーションとディスカッション(発表順５・６番目)	栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
10	「食生活の重要性を考えるＩB」⑨プレゼンテーション以外のテーマ実施に向けたディスカッション	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを発見する準備を行う。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
11	「食生活の重要性を考えるＩB」⑩プレゼンテーション以外のテーマ実施	実施するための方法を探る。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
12	「食生活の重要性を考えるＩB」⑪プレゼンテーションとディスカッション(発表順７・８番目)	栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
13	「食生活の重要性を考えるＩB」⑫プレゼンテーションとディスカッション(発表順９・１０番目)	栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
14	「食生活の重要性を考えるＩB」⑬プレゼンテーション以外のテーマ実施に向けたディスカッション	栄養についてのプレゼンテーション以外のテーマを発見する準備を行う。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
15	「食生活の重要性を考えるＩB」⑭プレゼンテーション以外のテーマ実施	実施するための方法を探る。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
16	まとめ	まとめの準備を行う。（４５分）	まとめの振り返りを行う。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾西　則昭（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 尾西　則昭 ）		CAP制	演習	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生活の多様な側面から人間の生活と健康を理解し、より健康な生活を創り出して行くための必要な知識を理解する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

個人、家庭という様々なレベルにおける健康的な生活について理解し、知識を身につけ、健康について、一層の関心を持っことができる。

授業全体の内容と概要

生活の多様な側面に焦点を当て、個人、家族という様々なレベルにおける人間の健康的な生活について詳しく説明する。

授業の方法

資料を通読し、その内容の説明や質疑応答及びディスカッションを行います。健康に関するキーワードについて調べ、発表を行います。課題や発表等に対応するフィールドバックや要望等への対応は、少人数集団の利点を生かし、口頭で説明を行います。不測の事態が発生した際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「２０分以上の遅刻は欠席とします。」
「遅刻3回で欠席1回とみなします。」

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	８０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康について基礎的な知識を深く理解できた。	健康について基礎的な知識を理解できた。	健康について基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康について基礎的な知識を多少理解できた。	健康について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開におおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開に考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾西　則昭（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 尾西　則昭 ）		CAP制	演習	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　「シラバス説明」	事前にシラバスを読んで確認するする。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
2	健康についての調査説明①	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
3	健康についての調査②　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
4	健康についての調査③　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
5	健康についての調査④　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
6	健康についての調査⑤　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
7	健康についての調査⑥　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
8	健康についての調査⑦　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
9	健康についての調査⑧　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
10	健康についての調査⑨　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
11	健康についての調査⑩　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
12	健康についての調査⑪　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
13	健康についての調査⑫　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
14	健康についての調査⑬　個人発表	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
15	健康についての調査まとめ・講評	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（４５分）
16	健康調査全体のまとめ	ノートに記載された内容を再復習し、理解する。（４５分）	解説の内容を確認する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 西崎　毅 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能，思考力・判断力・表現力等及び主体的な学修態度を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

教育の現状（全国・全道・地域）や教育制度等を理解することができる。
教育の諸問題について，自分で考える，詳しく調べる，自分の意見を表現することができる。
教員になるために必要な事項を理解することができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸問題についての探究的な学修
教育法規，学習指導要領，中央教育審議会答申の学修
教員に求められる基本的資質の獲得（漢字，一般教養等）
学校体験活動等への参加
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」関連科目

授業の方法

各回のテーマに基づいて，探究的な学修（自分で考える，詳しく調べる，自分の意見を表現する等）を行う。
教育法規，学習指導要領，中央教育審議会答申を通読する。
教員に求められる基本的資質を獲得するための演習を行う。（漢字，一般教養等）
学校体験活動等の成果を発表・共有する。
毎時間，事前事後課題を課す。
課題や発表等に対するフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し，意見交換，質問対応，小テスト，教材配布等を行う。
不測の事態が生じた際に、授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある 。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

〇以下を履修条件とする。
・教職課程に登録し，大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意志を持つこと。
・サブメジャー・プログラムの「教員採用試験対策プログラム」を履修すること。
・担当教員が紹介する学校体験活動等に積極的に取り組むこと。
・事前事後学修に真剣に取り組むこと。
・漢字検定に真剣に取り組むこと。（受検級に合格するまで毎回確実に受検すること。）
・各自，B5版のノートを用意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 西崎　毅 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明を含む） ＩＡの反省，決意表明	シラバスを熟読してくること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	北海道における学力向上策を考える。（思考・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	北海道における学力向上策を発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	教員に求められる資質・能力について考える。（個人の思考・発表・意見交換） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	教員に求められる資質・能力について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	教員に求められる資質・能力について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	教員育成指標について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	教員育成指標について発表する。（発表・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	生徒指導とは何か考える。（個人の思考・発表・意見交換） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	生徒指導の目的，定義について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	生徒指導の構造について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	生徒指導の構造について発表する。（発表・質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	問題行動等とは何か（個人の思考・発表・意見交換） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	問題行動等の状況（全道・全国）について調べる。（調査・まとめ） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	問題行動等の状況について発表する。（発表，質疑応答） 一般教養演習，教育法規演習，学習指導要領等通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	１年間の反省及び今後の決意	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインを通し自由な発想でプランニングからデザイン制作まで地域で必要とされることをゼミ活動で、できる限り一貫して実践することを目標とする。

自らデザインした形を地域社会の中に残し貢献する。地域との取り組みに自分の創作意欲を掻き立てながらSDGsの達成のために、どんなことができるのか、地域イベントやワークショップなどに企画参加し、自ら学び、考え、そして楽しく活動する。

昨年度の主な活動：食品パッケージデザイン、イベントポスター、行政・企業とのイベント企画、ピクトグラム制作、
企業へのＰＯＰ制作、企業ロゴマーク、教育施設でのデザインワークショップや美術部とのアートセッションなど

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP5に対応する。（２０２４年度）
デザイン・建築学科のＤＰ（１）（２）（３）（４）（５）に対応する。（２０２３・２２年度）
全学科学科のDP２、DP3、DP６、DP７、DP８、DP１１に対応する。（２０２１年度）

到達目標

（1）制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にする。
（2）様々な活動場面に応じて、適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつ。
（3）各自の活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の学習課題を設定する。

授業全体の内容と概要

授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分の好きなデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する。

授業の方法

グループワークを中心にした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に励む。授業では、グループワーク、討論、ワークショップ等のアクティビティを多く取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

受講定員15名
受講条件
本ゼミを希望する学生は必ず活動内容の説明を聞きに選択志望する前に研究室へ来ること。
受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。
①社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人
②やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人
③協力し合いながら目標に向かい活動を成功させる意気込みがある人
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	30%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聴き、十分な理解に努め、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聴き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取 り組み、高い コミュニケーション能力と行動力があった。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力があった。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが必要なコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことはなく最低限度のコミュニケーション能力や行動力はあった。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	前期の活動においての確認と振り返り シラバスの説明	演習の準備　シラバスの熟読（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
5	Research activities　1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
6	Research activities　2	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
7	Research activities　3	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
8	Creative activities　1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
9	Creative activities　2	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
10	Creative activities　3	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
11	Creative activities　4	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
12	Creative activities　5	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
13	presentation①	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
14	presentation②	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
15	レポート・後期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
16	1年間の活動における総括と振り返り	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が大学で必要となる数学の基礎知識及び２年のゼミナールで行うＳＰＩに必要な知識及び思考過程をしっかり身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）
全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、ＤＰ5に対応する。（2023・2022年度）
全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、ＤＰ8に対応する。（2021年度）

到達目標

大学で必要となる数学の基礎知識及び２年のゼミナールで行うＳＰＩに必要な知識及び思考過程を修得できる。

授業全体の内容と概要

数の計算、式の計算及び関数とグラフ等を練習問題を計算することによって、数学の問題を解く実感及びＳＰＩに必要な数学の知識をつかませる。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題は学生が提出後、解説を行う。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ゼミナールの内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。
レポート等の提出方法についてはゼミナール時間中に指示するので、ゼミナールを欠席することのないよう留意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１1回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	３０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数学及びＳＰＩに必要な基礎知識の修得	数学及びＳＰＩに必要な基礎知識及び計算過程（思考過程）が１００%理解できた。	数学及びＳＰＩに必要な基礎知識及び計算過程（思考過程）が９０%理解できた。	数学及びＳＰＩに必要な基礎知識及び計算過程（思考過程）が８０%理解できた。	数学及びＳＰＩに必要な基礎知識及び計算過程（思考過程）が７０%理解できた。	数学及びＳＰＩに必要な基礎知識及び計算過程（思考過程）が７０%も理解できなかった。
計算過程において必要な記述内容の修得	演習問題は計算過程を１００%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を９０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を８０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を７０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程を７０%も記述したレポートにならなかった。
思考過程のプレゼンテーション	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	一部筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	筋道の立った思考過程のプレゼンテーションが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
2	連立方程式（1）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
3	連立方程式（2）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
4	代数方程式（1）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
5	代数方程式（2）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
6	代数方程式（3）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
7	直線	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
8	放物線	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
9	円	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
10	不等式（1）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
11	不等式（2）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
12	領域	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
13	三角比	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
14	三角関数（1）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
15	三角関数（2）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
16	まとめ及び要点のフィードバック	総復習（45分）	総理解（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、多様な事例や課題解決法を紹介する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

都市や建築を構想することは、行政や都市計画者、建築家だけの仕事ではない。住民や地域に係る皆が、より良い暮らしを考え実践した積み重ねが都市や街を形づくる。ゼミでは都市や建築のより良い未来を提案するための基礎を身につけることを目標とする。※ゼミでは都市や建築を空間的な問題として扱う。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）
建築学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（２０２３・２０２２年度）
建築学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP８に対応する。（２０２１年度）

到達目標

都市や建築の変遷やその社会的背景を理解し、都市や建築について自分なりの意見をもつことができる。

授業全体の内容と概要

前期で学んだことを発展・応用させるため、いくつかの課題に取り組む。グループに分かれて都市や建築について調査分析を行い、空間的な提案をまとめ発表・ディスカッションを行う。　□SDGs3.すべての人に健康と福祉を　□SDGs11.住み続けられるまちづくりを　□SDGs12.つくる責任　つかう責任

授業の方法

課題説明はパワーポイントを用いる。適宜プリントを配布する。重要だと思われるキーワードは必ずメモし、示された図式等はノートにスケッチをすることが望まれる。参考となる書籍・建築等を授業中に適宜紹介する。グループに分かれて調査分析し、提案を作成する。パソコンを使うため、各自ノートパソコンを準備すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

能動的な学習姿勢を望む。授業中に引用された建築、書籍に積極的に触れること。また、グループワークでは積極的に発言をし、議論をする。２０分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	４０%	２０%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を越えた自主的な学習を行なった。	授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。	授業内容を理解しなかった。
調査・課題解決能力	独自の視点で調査し、独創且つ具体的手法で課題を解くことができた。	独自の視点で調査し、独創的な手法で課題を解くことができた。	独力で調査し、課題を解くことができた。	アドバイスをもとに、調査・課題を解くことができた。	アドバイスがあっても自発的に課題を解くことができなかった。
表現力	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。	構想したものを、独自の工夫で表現することができた。	構想したものを表現することができた。	構想したものを表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、多様な事例や課題解決法を紹介する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
2	課題1　説明	対象を事前に調べる（４５分）	紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
3	課題1　事例等調査	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスをフィードバックする（４５分）
4	課題1　事例等調査	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスをフィードバックしまとめる（４５分）
5	課題1　発表	プレゼンテーションをまとめる（４５分）	発表を自己評価する（４５分）
6	課題2　説明	対象を事前に調べる（４５分）	講義内容を復習（４５分）
7	課題2　フィールドワーク	対象を事前に調べる（４５分）	フィールドワーク内容をまとめる（４５分）
8	課題2　調査結果取りまとめ	フィールドワーク内容をまとめる（４５分）	エスキスをフィードバックする（４５分）
9	課題2　調査結果取りまとめ	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスをフィードバックしまとめる（４５分）
10	課題2　調査結果発表	調査分析を行い、まとめる（４５分）	発表を自己評価し、今後の課題を認識する（４５分）
11	課題2　作業	提案内容を検討（４５分）	エスキスをフィードバックする（４５分）
12	課題2　作業	提案内容を検討（４５分）	エスキスをフィードバックする。（４５分）
13	課題2　作業	提案内容を検討（４５分）	エスキスをフィードバックする（４５分）
14	課題2　作業	提案内容を検討（４５分）	エスキスをフィードバックしまとめる（４５分）
15	課題2　発表	プレゼンテーションをまとめる（４５分）	発表を自己評価する（４５分）
16	まとめ・ディスカッション	授業を振り返る（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習・実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　恵利（国際交流センター・センター員）		研究室等所在	本部棟3階　国際交流センター	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　恵利 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミⅠB		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。				

概要

履修目標

交流を通じ、日本の時事問題や日本文化、日本の習慣などをトピックに挙げながら日本語の４技能を育成する。トピックを題材に、ディスカッションやグループワークなどの活動をし、自身の専門分野でも自分のことが十分に表現できる能力を身に付ける。大学間、または地域との交流活動に参加、また交流活動を企画、実施し、異文化理解、相互理解を得ること。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

日本語での表現力を身に付け、自分の意見を正しい日本語で伝えることができる。他者の意見を聞き、そこから自分の意見を生み出し相手に伝えることができる。多文化との交流を積極的に楽しみ、異国（日本）での生活、大学生活をより豊かなものにする。

授業全体の内容と概要

学内異文化交流会や合同授業の内容を企画し、準備、実施する。学生間での交流を通じ、相互理解や異文化理解を得る。交流では、母国紹介や母国の文化紹介等をすることもある。それらを正しい日本語で伝えることや、他者からの意見を尊重することを学ぶ。大学祭ブースへの参加や、地域の施設見学等に参加し、地域交流を楽しむとともに、北広島市、北海道の問題や課題について考える。日本文化や日本事情を通して「SDG３．すべての人に健康と福祉を」「SDG７．エネルギーをみんなに　そしてクリーンに」「SDG１０．人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

授業の方法

教材は教師が用意する。教材は紙媒体だけではなく、プロジェクターやパソコン、レアリアなども使用する。授業は学生が主体となり、学生間で話し合いながら教師が与える議題や課題に取り掛かる。授業内では決まった人たちとのコミュニケーションに終わらず、様々なクラスメートとグループワークやディスカッションをし、自分を表現できる能力を養う。その成果をプレゼンテーションやレポートで表す場合もある。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。災害等の不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。15分以上の遅刻は欠席とみなす。3回遅刻すると1回の欠席とみなす。授業内は原則母語は禁止とする。学生間での交流でも授業中の母語が多い学生は評価に影響する。授業中は携帯電話や辞書、タブレットの使用は原則禁止とする。わからないことがあったら教師に聞くこと。
平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数１６回のうち、単位認定に必要となる最低出席回数は１３回とする。授業への参加、授業態度、ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	３５%	５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違えが目立つ。声の大きさ、発音がよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がないと自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようという姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。
思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業対しに意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題があった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習・実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　恵利（国際交流センター・センター員）		研究室等所在	本部棟3階　国際交流センター	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　恵利 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミⅠB		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス、授業、評価の説明）、自己紹介	シラバスを読む・自己紹介の練習（４５分）	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(４５分)
2	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
3	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
4	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
5	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
6	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	授業内容復習（４５分）
7	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
8	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
9	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
10	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
11	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
12	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
13	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
14	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
15	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
16	後期学習範囲の総括および反省・最終課題の提出(担当：佐藤)	最終課題提出の準備（４５分）	授業内容復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 千葉　聡美 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

教育の制度や内容についてその概要を理解することができる。
教育の諸問題についてその概要を理解することができる。
教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。
教員に必要な国語力を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

各回の授業テーマについて考える。
教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読
教育に関する基本的事項についての調べ学修
教員として求められる一般教養及び教職教養の学修
漢字検定等への参加
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行う。板書や教材提示装置を活用する。教育に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行う。
教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行う。テーマの考察や使用テキスト要約など端的に文章にまとめる練習を行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
○サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。
○漢字検定に真剣に取り組むこと。
○各自、ノートを用意すること。（ルースリーフは不可）
○プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。
○不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 千葉　聡美 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政職員としての経験を活かして教職に関連する指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途購入案内する。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） 学修計画の作成	教職志望の理由をまとめること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	○SDGsについて考える１　設定の背景と１７の目標 学修計画の発表 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	○SDGsについて考える②日本社会との関連 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	○SDGsについて考える③教育との関連 授業で取り組むアイデアを交流 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	○子どもたちの学力について考える１　学力とは 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	○子どもたちの学力について考える②生きる力 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	○子どもたちの学力について考える③学力調査結果 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	○生徒指導について考える１　意義 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	○生徒指導について考える②特別支援 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	○生徒指導について考える③問題行動等 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	○進路指導について考える１　労働の現状 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	○進路指導について考える②キャリア教育 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	○障害のある子どもの保護者心理１　出生 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	○障害のある子どもの保護者心理②家族 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	○障害のある子どもの保護者心理③支援 法令・学習指導要領等の通読及びディスカッション 漢字小テスト及び短文要約	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	後期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 河田　一郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築・絵画・音楽などウィーン文化を考察し、ウィーンでの研修（希望者のみ）の準備を行う。また、このゼミナールでは就職活動時に必要になるスキルの修得を早い段階から始める。キャンパス・ライフを楽しみながら、自由な発想の展開、自己実現などをテーマに学びを広げる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

ドイツ語圏への旅行、留学の際に、困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

ウィーンといえば、クラシック音楽である。毎回、クラシック音楽をBGMに、ゆったりとしたペースで授業を行う。ウィーンの文化・見どころについてプリントを配布し、説明を行う。各自のテーマが決まった時点で、少しずつテーマについて調べ、ゼミ終了時にレポートを提出してもらう。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのＤＶＤ等も見て講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ドイツ語検定試験受験希望者には特別講義を行う。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 河田　一郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	［ガイダンス］　授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
2	［ウィーンのカフェ―の文化について］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
3	［オーストリアのワインについて］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
4	［ハプスブルク家の歴史について］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
5	［マリア・テレジアについて］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
6	［マリー・アントワネットについて］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
7	［シシーについて］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
8	［フロイトについて］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
9	［ウィーンの音楽について］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
10	［ウィーンのオペラについて］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
11	［オペラとオペレッタの違いについて］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
12	［ウィーンの食事について］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
13	［ハプスブルクの食卓について］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
14	［ザッハートルテについて］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
15	［グリーヒェンバイスルについて］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
16	［レポートのプレゼンテーション］授業改善アンケートの実施。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 大島　康雄 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前のボードなどを参照。				

概要

履修目標

社会福祉学研究に必要なスキルを習得する。具体的には、社会福祉に関係する様々な事象のうち、自分が関心を持つ事象を探究するためのスキル（問題発見・分析能力の養成・情報文献収集・調査等）を身に付ける。また、ゼミナールごとにキャリア支援教育が組まれており、身に着けたスキルを将来に生かす方法を探求する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

ソーシャルスキル、グループ方式による作業方法、データの収集や分析・解釈、プレゼン能力の向上、論文作成など、一連の方法を身に付けることが基本となるが、さらに、下記のことについて達成できるようにする。
・各自の関心に基づく社会福祉関連の研究テーマを見つけることができる。
・関連資料の収集・整理を共同作業で行うことができる。
・研究報告及び研究成果のまとめを行うことができる。

授業全体の内容と概要

それぞれのゼミナール担当教員が学生に提示する「研究テーマ」に沿った形で進められる。
「SDG4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

各教員の指導方針のもとに行われるので、講義・ゼミナール・実験・製作・見学・調査など、様々な授業形態がとられる。資料等の提示については、板書、資料配布、プレゼンテーションソフトウェア等により行われる。課題等に関するフィードバックはコメントにてフィードバックされる。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
　不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各担当教員の指示に従い、主体的・積極的な参加に務めること。
大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
前期の「基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠA」の授業内容も含まれる。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得の最低出席条件１０回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	０%	１００%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ゼミ研究のテーマをが明確になっている。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマに至るまでの文献・ネット検索のプロセスを説明できる。	ゼミ研究のテーマが明確になっており、そのテーマの今後の研究予定を説明できる。	ゼミ研究のテーマに沿って章立てができており、研究を開始している。	ゼミ研究のテーマが明確になっている。	左記の内容が何一つできていない。
研究テーマに関するディスカッションができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告でき、尚且つ、他者の発表に的確な助言ができる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望、現在の進捗状況を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマの意義と展望を報告できる。	ディスカッションにおいて、自分の研究テーマを報告できる。	左記の内容が何一つできていない。
自分の研究テーマについてプレゼンテーションができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができ、さらに、他者のプレゼンに対して的確な助言ができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告でき、且つ、周囲を納得させることができる。	自分の研究テーマについてのプレゼンにおいて、明確な参考資料を提示でき、報告できる	自分の研究テーマのプレゼンテーションが一応できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	1号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 大島　康雄 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	各教員がそれぞれの専門分野の資格、実務経験をもとに課題発見や研究テーマ構築の指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『相模原事件・裁判傍聴記「役に立ちたい」と「障害者ヘイト」のあいだ 』	雨宮処凛	太田出版	2020	9784778317096	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	担当教員によるガイダンス（シラバスの説明を含む）	所属研究室選択資料の確認（４５分）	配布資料の確認（４５分）
2	担当教員による授業2	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
3	担当教員による授業3	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
4	担当教員による授業4	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
5	担当教員による授業5	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
6	担当教員による授業6	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
7	担当教員による授業7	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
8	担当教員による授業8	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
9	担当教員による授業9	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
10	担当教員による授業10	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
11	担当教員による授業11	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
12	担当教員による授業12	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
13	担当教員による授業13	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
14	担当教員による授業14	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
15	担当教員による授業15	予習課題（４５分）	授業振り返り課題（４５分）
16	総括	予習課題（４５分）	全体振り返り（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館８F	
単位数	1 （単位認定責任者： 山本　一彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

1年次前期の学生生活の達成と反省点を振り返り、今後の目標を明確にする。その上で、基礎ゼミナールⅠAのテーマとの連続として、現代の世代問題とライフコースの変化について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

世代問題やライフコースの変化について単に知識を習得するだけでなく、自らが対処を求められる
問題としてそれらを考える姿勢をもつ。

授業全体の内容と概要

基礎ゼミナールⅠAの中で考察した青年期問題の理解を前提とした上で、現代青年期の世代的特質と変化するライフコースの中でキャリア形成が求められることを し考察する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は対話形式と板書筆記を併用して行ない、必要な場合には資料を配布する。テーマによっては小文を提出してもらい、概要を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での参加が必要である。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談受け、本学の基本方針および規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	学修した知識を確実に修得し、求められる水準を大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識を概ね修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できる水準に留まっていた。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力等	ゼミナール・テーマに積極的に取り組み、求められる水準を大きく超えて考察できていた。	ゼミナール・テーマに積極的に取り組み、求められる水準で考察できていた。	ゼミナール・テーマ取り組み、広く一般的な水準の考察に達していた。	ゼミナール・テーマに取り組んだが、考察が最低限の水準に留まっていた。	ゼミナール・テーマへの取り組みが不充分で、内容が理解されていなかった。
テーマへの分析力・主体性	ゼミナール・テーマについて、現代社会の中の自己の問題として充分に主体的分析ができていた。	左記事項について、主体的分析が概ねできていた。	左記事項について、広く一般的な水準の分析には達していた。	左記事項について分析が最低限の水準に留まっていた。	分析が最低限の水準に届かず、ゼミナール・テーマが理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館８F	
単位数	1 （単位認定責任者： 山本　一彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	※科目ガイダンス ゼミナール内容等シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの事前確認（45分）	ガイダンス内容の確認（45分）
2	Ⅰ．前期大学生活の振り返り １．何が反省点か？	1年次前期の振り返り（45分）	反省点等の確認（45分）
3	Ⅰ．（続き） ２．後期以降の目標は？	今後の目標の明確化（45分）	目標の再確認（45分）
4	Ⅱ．世代の問題 １．世代とは何だろうか？	世代をどうとらえるかの考察（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
5	Ⅱ．（続き） １．（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
6	Ⅱ．（続き） １．（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（４）
7	Ⅱ．（続き） １．（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
8	Ⅱ．(続き) ２．現代青年期の世代問題	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
9	Ⅱ．（続き） ２．（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
10	Ⅲ．ライフコースの現代的特徴	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
11	Ⅲ．（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
12	Ⅲ．（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
13	Ⅲ．（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
14	Ⅲ．（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
15	Ⅳ．後期学生生活の振り返り 授業改善アンケートの実施	後期のすべての活動の振り返り（45分）	振り返り内容の再確認（45分）
16	※総まとめ	15回分の内容の振り返り（45分）	総まとめの再確認（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 木村　浩紀 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

教育の諸課題についてその概要を理解することができる。
教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。
教育にかかわる法令、答申などの通読
教育に関する諸課題についての調べ学修
教師に求められる教職教養等の学修
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

教育にかかわる法令、答申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。
教育課題に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行う。
教師に求められる教職教養等について演習を行う。
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
板書や教材提示装置を活用する。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
○サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。
○各自、ノートを用意すること。（ルーズリーフは不可）
○プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。
○オンライン授業やハイブリッド授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 木村　浩紀 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む）	前期の課題を整理すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	○教育の諸課題の解決策を考える④１ ・いじめについて 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	○教育の諸課題の解決策を考える④２ ・いじめについて 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	○教育の諸課題の解決策を考える⑤１ ・虐待について 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	○教育の諸課題の解決策を考える⑤２ ・虐待について 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	○教育の諸課題の解決策を考える④⑤３ ・いじめ・虐待について 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	○教育の諸課題の解決策を考える⑥１ ・家庭・地域との連携 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	○教育の諸課題の解決策を考える⑥２ ・家庭・地域との連携 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	○教育の諸課題の解決策を考える⑥３ ・家庭・地域との連携 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	○教育の諸課題の解決策を考える⑦１ ・教師をめぐる課題 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
11	○教育の諸課題の解決策を考える⑦２ ・教師をめぐる課題 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	○教育の諸課題の解決策を考える⑦３ ・教師をめぐる課題 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	○教育の諸課題の解決策を考える⑧１ ・自由課題 個人の考えのまとめ	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	○教育の諸課題の解決策を考える⑧２ ・自由課題 意見交流	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	○教育の諸課題の解決策を考える⑧３ ・自由課題 学修発表	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	後期の学修の総括及び反省 授業改善アンケートの実施	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	後期の学修を振り返り、自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1 （単位認定責任者：　薦田　勇智　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

・前期で学んだ内容を活かしながらeスポーツを通してチームの中での自分の役割を果たすことが出来る。
・適切にコミュニケーションを取ることが出来る。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

・問題なく人間関係を構築することが出来る。
・相手の意見を聞き入れ、自分の意見を主張することが出来る。

授業全体の内容と概要

・自身が学んだことを文字に書き起こす。
・プレゼンテーションを行い、自分の考えをアウトプットする場を設ける。

授業の方法

・不測の事態が無い限り対面にて行う。
・Microsoft Teamsにて課題提示、提出を求める。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・欠席は認めない。体調不良等の場合は、必ず事前に連絡をすること。
・課題の提出は必ず期限内に行う。遅れた場合は、単位取得を認めない。
・遊びではなく学習の場であることを理解する。
・自身のPC（できればデスクトップPC）を持っていることが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	50%	0%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
eスポーツについての理解	eスポーツについて何を聞かれても説明をすることが出来る。	eスポーツとは何なのかを理解している。	自分の興味がある分野のeスポーツについて理解している。	eスポーツをプレイすることが出来る。	eスポーツについて理解していない。
自身のアウトプット	レポートやプレゼンテーションを作成し、自分の考えを相手に正しく伝えることが出来る。	誰かに手伝ってもらうことで、自分の考えを相手に伝えることが出来る。	資料の作成は出来ないが、自分の考えを相手に話せる。	自分の考えを相手に正しく伝えることが出来ない。	全く自分を表現することが出来ない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 薦田　勇智 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	・オリエンテーション ・前期の復習	シラバスを読む（45分）	前期に何を行ったか復習する（45分）
2	・チームの作成 ・eスポーツタイトルの選択、実践	どのタイトルをやるか考える（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
3	・eスポーツの実践	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
4	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
5	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成	eスポーツについて調べる（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
6	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
7	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
8	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
9	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
10	・中間発表	発表準備（45分）	批評を受けた部分を修正する（45分）
11	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成、修正	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
12	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成、修正	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
13	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成、修正、発表練習	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
14	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成、発表練習	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
15	・eスポーツの実践 ・発表資料の作成、発表練習	チームで作戦を考え、練習する（45分）	良かった点、反省点をレポートにて提出（45分）
16	・最終発表	発表準備（45分）	批評を受けた部分を復習する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　雅一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グループワークを基本とした様々な演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動を通して「前に踏み出す力」（主体性・働きかけ力・実行力）・「考え抜く力」（課題発見力・計画力・創造力）・「チームで働く力」（発信力・傾聴力・柔軟性・情況把握力・規律性・ストレスコントロール力）を修得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

・失敗を恐れず、自分にとって困難な場面においても打開することを諦めずに、最後まで前向きに取り組むことができる。
・物事を多角的に分析し、発見した課題に対してどのように解決するかを考え抜くことができる。
・グループの一員であることの自覚を踏まえ、多様な価値観を持つ人たちの意見を拒絶せず、柔軟な視点で物事を把握、適切な意見の発信を行うことで、グループメンバーとの良好な関係性を構築できる。

授業全体の内容と概要

グループワークを基本とし、様々な演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動を通して「チームで働く意義」「チームで働く難しさ」「円滑なコミュニケーションの重要性」について体感してもらう。グループワークの成果物として「レポート」・「プレゼンテーション」・「デザイン制作物（ポスター・チラシ・Ｗｅｂサイトデザイン・ムービー）」などのいずれかを、グループ単位で制作・発表する。
本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業である。
・「ＳＤＧ　８．働きがいも経済成長も」
・「ＳＤＧ　９．産業と技術革新の基盤をつくろう」
・「ＳＤＧ１６．平和と公正をすべての人に」
・「ＳＤＧ１７．パートナーシップで目標を達成しよう」
※その他、プロジェクト活動のテーマによって、追加されることがある。

授業の方法

グループで取り組む演習課題や事例研究、学内外のプロジェクト活動開始時点では、その目的や最終目標、背景などについて資料等を提示しながら説明する。その後は、各グループでディスカッション等を行いながら、企画・計画の立案、目標設定、予算作成、調査、制作、発表、自己評価、改善、発表といったＰＤＣＡサイクルを軸とする一連の工程を行う。都度アドバイスやフィードバックを行い、各グループが円滑に進むようサポートする。ゼミナール活動において円滑なコミュニケーションを図れるよう、次の学修支援を実施する。
・授業時間外において質問及び相談があれば、Ｔｅａｍｓチャットまたは音声通話にて受け付ける。
・提示した教材は、全てＴｅａｍｓにて公開・配信する。
・グループワークにおいて、適切かつ円滑なコミュニケーションが図れるよう、適宜介入しサポートする。
・本科目内で最低１回は個人面談を行い、取り組み状況について確認する。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・所属学科の制限は設けない。
・課題制作（デザイン制作）を行う場合は、全学科対応できるよう考慮した内容とする。
・評価については、チームでの取り組みの姿勢や態度を重視する。
・取り組んだ結果、「失敗した」としても減点しない。あくまでも、取り組みの「プロセス（過程）」を評価対象とするので、失敗を恐れず積極的に挑戦すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上とする。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	30%	０%	70%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
前に踏み出す力	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができ、目的を持って行動することができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き一定の行動について、主体的に取り組み、周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について、主体的に取り組み、少しながらも周囲に働きかけて巻き込むことができた。	一定の行動について主体的に取り組むことができた。	ほぼ全ての行動について主体的に取り組むことができなかった。
考え抜く力	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができ、その解決策が効果的で新たな価値を創造することができた。	課題を発見し、見出した解決策の実行に向けた具体的なプロセスを考えることができた。	課題を発見し、解決策を見出すことができた。	課題を発見することができた。	課題を発見することができなかった。
チームで働く力	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して意見集約ができ、反対意見に対しても柔軟に対応することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴でき、お互いの立場や考え方を尊重して、意見集約することができた。	他の学生の意見をしっかりと傾聴することができた。	他の学生の意見を最低限傾聴することができた。	他の学生の意見を傾聴することができなかった。
成果物の完成度と関与（学習意欲）	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として十分に関与し、主体的に行動し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として十分に関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員としてある程度関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として最低限関与し、完成させることができた。	成果物（レポート・プレゼンテーション・デザイン制作）を、チームの一員として関与せず、完成させることができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　雅一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	［オリエンテーション］ シラバスの説明等	シラバスを確認する（４５分）	履修登録結果を確認する（４５分）
2	［ビギナーズセミナーⅡ①］ 前期の単位修得状況や学修成績から、今後の学修への取り組み方について説明する。	学生便覧を読む（４５分）	不明な点をまとめ、調べる（４５分）
3	［ビギナーズセミナーⅡ②］ 前期の単位修得状況や学修成績から、今後の学修への取り組み方について説明する。	学生便覧を読む（４５分）	不明な点をまとめ、調べる（４５分）
4	［コンセンサスゲーム・演習課題①］ グループディスカッションの練習を行う。	グループディスカッションのコツについて調べる（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
5	［コンセンサスゲーム・演習課題②］ グループディスカッションの練習を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	グループディスカッションの反省点を整理する（４５分）
6	［学内プロジェクト活動①］ 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
7	［学内プロジェクト活動②］ 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
8	［学内プロジェクト活動③］ 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
9	［学内プロジェクト活動④］ 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
10	［学内プロジェクト活動⑤］ 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
11	［学内プロジェクト活動⑥］ 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
12	［学内プロジェクト活動⑦］ 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
13	［学内プロジェクト活動⑧］ 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
14	［学内プロジェクト活動⑨］ 学内においてプロジェクト活動を行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	ここまでの授業内容を整理する（４５分）
15	［学内プロジェクト活動⑩（成果発表会）］ グループごとに取り組んだ内容について、プレゼンテーションを行う。	前回までの授業内容を確認する（４５分）	反省点をまとめる（４５分）
16	［まとめ・総評］	前回までの授業内容を確認する（４５分）	フィードバックの内容をまとめる（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 塩﨑　大輔 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

地域調査に必要な情報収集・読解・まとめ・発表を行うための基礎的な能力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

地域調査に必要な情報収集能力の基礎を身につける。
先行研究を取集・レビューし、まとめる基礎的な能力を身につける。
地理空間情報を活用する能力を身につける。

授業全体の内容と概要

本授業は北広島市や北海道における先行研究・GISの活用を通して、地域に対する理解度を高め、地域課題の発見や課題解決のための基礎的な能力を育成することを目標とする。またそうして得られた調査結果や課題をレポートにまとめ表現する能力を育成する。
「SDG11. 住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

前半は地域調査に必要な先行研究のレビューをまとめ、発表し議論する。
後半は地域調査に必要なGIS・地理空間情報活用方法を説明する。
最終的にそれらの成果をレポートにまとめる。
なお、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

■出席について
毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。

■PCについて
本ゼミは地理情報システムを用いるためPCが必要となる。ノートPCを持っている人は持参すること。なお、ゼミ中に貸し出せるPCは４台までとする。

■その他
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
地域調査法基礎	レポート課題において、９割以上の得点を上げた。	レポート課題において、８割以上の得点を上げた。	レポート課題において、７割以上の得点を上げた。	レポート課題において、６割以上の得点を上げた。	レポート課題において、６割未満の得点であった。
情報収集・活用能力	複数の先行研究を収集し、高いレベルでまとめることができた。	複数の先行研究を収集し、まとめることができた。	先行研究を収集し、まとめることができた。	先行研究を収集することができた。	先行研究を収集することができなかった。
地理情報活用能力	GISを用いて、複数の地理空間情報を高いレベルで活用することができた。	GISを用いて、複数の地理空間情報を活用することができた。	GISを用いて、地理空間情報を活用することができた。	GISを活用することができた。	GISを活用することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅠB （科目ナンバリング：BAS001004 ）				
授業担当者（所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 塩﨑　大輔 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方 ガイダンス	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	地域に関する先行研究収集	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	先行研究を収集すること。（９０分）
3	地域に関する先行研究レビュー	先行研究を収集すること。（９０分）	先行研究の内容をまとめること。（９０分）
4	地域に関する先行研究発表①	発表準備をすること。（９０分）	先行研究の内容をまとめること。（９０分）
5	地域に関する先行研究発表②	発表準備をすること。（９０分）	先行研究の内容をまとめること。（９０分）
6	地域に関する先行研究発表③	発表準備をすること。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
7	地理情報システム①	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
8	地理情報システム②	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
9	地理情報システム③	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
10	地理情報システム④	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
11	地理情報システム⑤	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
12	地理情報システム⑥	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
13	地域調査結果報告①	報告の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
14	地域調査結果報告②	報告の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
15	地域調査結果報告③	報告の準備をしておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 授業改善アンケートの実施	レポート課題等を作成すること。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築計画Ⅱ　（科目ナンバリング：APT312007　）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築計画Ⅱは，公共施設をはじめ地域に居住する住民の生活に貢献する商業施設等を対象に，現代の社会状況のなかでどのように計画されなければならないかという視点で学ぶ。そのためには各種建築に求められる役割と，建築としてどのように具体的な計画内容と結びつけていかなければならないかを理解することを目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP3,DP4に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

各種建築を対象に，その建築はどのような特徴的なはたらきをもつ建築であるか（基本事項），どのような社会状況によって建築の役割も変化してきたのか，今後その建築のあるべき姿について等を考察する力を身につけ，それぞれの設計活動に援用できるようになることを目標とする。

授業全体の内容と概要

授業の前半では，対象建築の歴史的背景から現在の建築に求められる機能などの基本事項を解説する。後半では建築をとりまく社会状況をデータや資料をもとに理解し把握する内容になっている。
「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業ではテキストのほかに，毎回配布する資料（テキストの内容を補完）を用いて授業を進める。授業の出席を重視するため，原則として授業資料は授業時間開始時にのみ配布する。授業内容についての理解度を確認するため，次回授業開始時に小テストをおこなう。小テスト終了後，回答と内容について講評する。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業開始時に配布する着席票に氏名を記入し回収するので，遅刻者は欠席扱いとなる。また，着席票をもとに意見発表を求め，受講態度もチェックされるので留意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１０回以上)，毎回授業開始時におこなう小テスト(前回のふり返りテスト)が定期試験の基盤となるため，授業欠席により小テスト未受講は成績評価，さらには不合格に直結することになるので注意すること。最終評価は定期試験，中間テスト（振り返り小テスト），その他により決定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	２０％	０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
公共施設を主体に基本事項としてその施設に求められる役割と機能を理解する。	公共施設の基本的機能および多機能化の可能性への展開の理解を含め，今後の施設のあり方までを理解できた。	公共施設の基本的機能，今後の施設のあり方までを理解できた。	公共施設の基本的機能，および昨機能変化の可能性を理解できた。	公共施設の基本的機能を理解できた。	公共施設の役割を理解することができなかった。
対象となる施設機能に対して求められる空間構成や諸室構成を理解する。	各種施設の機能と空間構成の関係性およびそれに伴う諸室構成を理解できた。	各種施設の機能と空間構成と基本的諸室構成を理解できた。	各種施設の機能と室構成を理解できた。	各種施設の室構成を理解できた。	施設機能を理解することができなかった。
社会状況により施設のあり方が変化すること，将来他の施設との関係も含めその施設及びあるべき姿について考察する。	社会状況の変化に伴い公共施設の施設機能が変化したり在り方が多様化することを理解できた。	社会状況の変化に伴い公共施設の役割も変化したり施設の在り方が替わることを理解できた。	社会状況の変化に伴い公共施設の役割も変化することを理解できた。	社会状況に伴い施設が変化することを理解できた。	公共施設に求められる施設像が理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築計画Ⅱ　（科目ナンバリング：APT312007　）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『わかる建築学　建築計画　[第二版]』	浅野平八他	学芸出版			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，授業計画の説明	シラバス事前確認（90分）	教科書確認（90分）
2	計画共通事項　バリアフリー法	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
3	図書館	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
4	スポーツ施設	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
5	幼稚園・保育所	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
6	学校	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
7	美術館・博物館	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
8	公民館・コミュニティ施設	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
9	宿泊施設	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
10	医療施設	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
11	福祉施設	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
12	商業施設・駐車場　業務施設（定義と分類，コアタイプ，オフィスレイアウト，設備計画，ＥＶ計画）	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
13	戸建住宅	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
14	集合住宅	該当単元予習（90分）	授業資料復習（90分）
15	振返り試験	小テスト全体復習（90分）	振返り試験復習（90分）
16	総評（試験結果発表，成績評価と解説） 授業改善アンケートの実施	資料参照（90分）	全体の振返り（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経済学概論 （科目ナンバリング：ECT122136，ECT412011，ECT522029 ）				
授業担当者（所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 河野　善文 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

経済のニュースや記事を理解するために必要な経済学の基礎的知識を身につける。また、経済学の基本的な考え方を学ぶことで、経済事象について考察する基礎力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）

到達目標

経済の基礎的なしくみや経済学の用語・考え方の要点を理解することで、経済のおもなできごとについて、その概要をニュース等から知ることができる。また、経済事象を解釈して自分なりに説明することができる。

授業全体の内容と概要

経済学を概観するために、経済学の基礎であるマクロ経済学とミクロ経済学の要点を教科書と経済資料で学ぶ。ミクロ経済学では、市場における個々の買手や売手の行動に焦点を当て、市場における需要と供給の作用を中心に考察する。また、マクロ経済学では、国民所得や経済成長などの概念を中心に経済を大きな視点から考察する。なかでも経済成長や経済的厚生に関する問題はSDGsの目標「1.貧困をなくそう」に関連するものである。

授業の方法

各回の計画にそって板書やスライドによる講義と演習問題とを組みあわせた授業をおこなう。演習問題の実施にあたっては、ノートの活用のほかに、受講生の理解度を把握して解説・指導する目的でリアクションペーパーやMicrosoft Forms等のWebフォームも利用する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点はこの演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は試験を除く１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済用語の理解	授業で取り上げた経済用語について、適切な事例をあげて的確に説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげて説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、事例をあげてある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語について、ある程度説明できた。	授業で取り上げた経済用語を説明できなかった。
経済学の考え方の理解	経済学の考え方を用いて経済事象を説明できた。	経済学の考え方を用いて経済事象をある程度説明できた。	経済学の考え方を図や式を用いて説明できた。	経済学の考え方をある程度説明できた。	経済学の考え方を説明できなかった。
経済事象の理解	経済の出来事に関するニュースや資料を読み取って自分なりの意見を述べることができた。	経済の出来事に関するニュースや資料を調べて説明できた。	経済の出来事に関するニュースや資料を調べてある程度説明できた。	経済の出来事に関するニュースや資料を調べて読むことができた。	経済の出来事に関するニュースや資料を調べることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経済学概論 （科目ナンバリング：ECT122136，ECT412011，ECT522029 ）				
授業担当者（所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 河野　善文 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『マンキュー入門経済学（第３版）』	Ｎ・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	２０１９	4492315217	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	経済学とは：この授業で学ぶこと ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画（シラバス）の説明	経済学とは何かを考える（９０分）	経済学とは何かノートにまとめる（９０分）
2	日本の景気について： ・景気を知る方法	景気知る方法について調べる（９０分）	景気を調べる方法についてノートにまとめる（９０分）
3	国内総生産からみた世界経済： ・国内総生産（ＧＤＰ）とは ・世界の国内総生産（ＧＤＰによる世界地域比較）	国内総生産について調べる（９０分）	地域比較で気付いたことをノートにまとめる（９０分）
4	希少な資源と生産活動： ・生産要素と生産活動、資源 ・富裕国と最貧国との比較	生産要素について調べる（９０分）	生産要素と生産活動についてノートにまとめる（９０分）
5	経済成長とは： ・経済成長率の計算	経済成長率について調べる（９０分）	経済成長率の計算式と意味をノートにまとめる（９０分）
6	経済成長と国民所得： ・生産要素と経済成長 ・経済成長率の事例	成長著しい国の成長率を調べる（９０分）	経済成長についてノートにまとめる（９０分）
7	実質値と名目値： ・物価変動と実質値	実質値と名目値の違いを調べる（９０分）	実質値と名目値の違いをまとめる（９０分）
8	需要と供給の作用： ・価格と需要量、供給量の関係 ・需要と供給の相互作用	価格と需要量、供給量との関係について調べる（９０分）	価格と需要量、供給量との関係についてまとめる（９０分）
9	市場経済と価格： ・市場というしくみについて ・供給の変動と市場価格への影響	市場のしくみについて調べる（９０分）	供給の市場価格への影響をノートにまとめる（９０分）
10	１０ 経済的厚生の問題 ・経済的な豊かさと幸福	経済的厚生の問題について考える（９０分）	経済的厚生の問題のまとめ（９０分）
11	通貨と中央銀行： ・通貨の機能 ・中央銀行と通貨	通貨・中央銀行の機能を調べる（９０分）	中央銀行と通貨についてノートにまとめ（９０分）
12	日銀の資金供給と金利 ・金利とは　・日銀と資金供給	金利について調べる（９０分）	日銀の政策と金利についてノートにまとめ（９０分）
13	通貨供給量と信用創造 ・通貨供給量とは　・信用創造とは	通貨供給量について調べる（９０分）	信用創造と通貨供給量についてノートにまとめる（９０分）
14	日銀と金融政策 ・金融政策にかんするニュース　・金融政策の影響	金融政策の現状を調べる（９０分）	日銀の金融政策をノートにまとめる（９０分）
15	経済政策とこれまでの授業のまとめ	ノート見直しと不明点の確認（９０分）	ノートの整理（９０分）
16	定期試験（６０分）と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再挑戦（９０分）	わからなかった試験問題の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習（M）	（科目ナンバリング：STS072048 ）			
授業担当者（所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2 （単位認定責任者： 河野　善文 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

複数の基本統計量とそれを組み合わせたデータの読みかたを理解することで、統計にだまされない能力を身につける。また、統計的有意性や推測統計の考え方を理解することで、統計分析の結果が意味することを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

複数の基本統計量を組み合わせて、データの特性について述べることができる。
正規分布に従う分布について、統計的有意性を判断できる。
推測統計の考え方の枠組みがわかる。

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス教育の関連授業科目であり、各種データの分析に必要な基本統計量や統計分析の基礎を学ぶ。具体的には、代表値などの基本統計量やヒストグラムによるデータの要約・整理、基本統計量を応用したデータ分析、推測統計学の考え方などについて学ぶ。また、統計量の定義や統計の理論を学ぶだけでなく、チームスポーツ競技の試合結果や選手データ、過去の気象データ、株価データなどを用いた演習を行う。
・数理・データサイエンス・AI教育プログラム（数理基礎）の関連授業科目

授業の方法

各回の計画にそって、板書による講義とノートをもちいた演習とを組み合わせた授業をおこなう。講義では、現実データも使用しながら基本統計量や推測統計の考え方について解説をおこなう。演習では、実際にノートを使って統計量を計算したり・グラフを描いたりする。さらに、得られた計算結果やグラフに関する自分なりの解釈も検討する。また、受講生の理解度を把握して解説・指導する目的で、受講生に対する質問やリアクションペーパー、Microsoft Forms等のWebフォームを利用する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

基礎統計の演習では、統計量の計算や統計データにかんする意見をまとめるために、電卓やノートが必要である。平常点は、この演習への取り組みを評価するため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は試験を除く１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本統計量・グラフの理解	複数の基本統計量とグラフとを比較・組み合わせてデータを分析できた。	複数の基本統計量やグラフを求めて、データの性質を読みとれた。	ひとつの基本統計量もしくはグラフを求めて、データの性質を読みとれた。	データから基本統計量を求める・グラフを描くことができた。	基本統計量を求めることができなかった。グラフが描けなかった。
統計学の考え方の理解	推測統計の考え方を理解していて、かつ正規分布に従う分布の事例で統計的有意性の判断ができた。	推測統計の考え方を理解、または正規分布に従う分布の事例をもとに統計的有意性を判断できた。	統計的有意性の意味や推測統計の考え方を説明できた。	推測統計の基礎的な考え方をある程度説明できた。	推測統計の考え方を説明できなかった。
統計学の用語の理解	事例をあげて統計学の基礎的な用語を説明できた。	事例をあげて統計学の基礎的な用語をある程度説明できた。	統計学の基礎的な用語を説明できた。	推測統計の基礎的な用語をある程度説明できた。	推測統計の用語を説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習（M）	（科目ナンバリング：STS072048 ）			
授業担当者（所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 河野　善文 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『完全独習 統計学入門』	小島　寛之	ダイヤモンド社	２００６	4478820090	
2	『数学ガールの秘密ノート やさしい統計』	結城　浩	ＳＢクリエイティブ	２０１６	4797387122	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	この授業で学ぶこと ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画（シラバス）の説明	統計とは何か調べる（９０分）	この授業で学ぶことについてノートにまとめる（９０分）
2	データを代表する値： ・中央値と平均値　・最頻値と平均値	代表値とは何か調べる（９０分）	授業で学んだ代表値のまとめと演習問題（９０分）
3	データの分布と代表値 ・範囲(レンジ)と最大値・最小値　・分布と代表値	範囲(レンジ)について調べる（９０分）	範囲のまとめと演習問題（９０分）
4	度数分布表によるデータの整理 ・度数分布表とヒストグラム	度数分布とヒストグラムについて調べる（９０分）	度数分布表・ヒストグラムのまとめと演習問題（９０分）
5	グラフによるデータの直感的理解： ・範囲・四分位範囲と分布 ・箱ひげ図と価格変動分析	範囲・四分位範囲を調べる（９０分）	グラフと分布との関係のまとめと演習問題（９０分）
6	データのバラツキを知る ・バラツキの代表値：標準偏差	標準偏差について調べる（９０分）	標準偏差の計算のまとめと演習問題（９０分）
7	バラツキとリスク ・変動係数とは ・バラツキによるビジネス・リスクの分析	変動係数について調べる（９０分）	変動係数とバラツキのリスクに関するまとめ、演習問題（９０分）
8	バラツキの事例と演習 ・リターンとリスクの資産運用分析	標準偏差とは何か調べる（９０分）	標準偏差の計算のまとめと演習問題（９０分）
9	統計でもっとも重要な分布 ・正規分布の特徴　・正規分布を描いてみる	正規分布について調べる（９０分）	正規分布の演習問題（９０分）
10	統計的有意性と正規分布 ・身長の平均・標準偏差と分布　・標準偏差と統計的有意性	正規分布と統計的有意性の関係について調べる（９０分）	標準偏差と統計的有意性のまとめと演習問題（９０分）
11	推測統計の考え方	推測統計とは何かについて調べる（９０分）	推測統計の考え方のまとめ（９０分）
12	推測統計と標本調査： ・母集団と標本	母集団と標本について調べる（９０分）	標本調査の考え方のまとめ（９０分）
13	信頼区間と推定の考え方 ・推定の考え方と例	推定とは何かについて調べる（９０分）	推定の考え方のまとめ（９０分）
14	検定の考え方 ・仮説検定の考え方と例	仮説検定とは何かについて調べる（９０分）	仮説検定の考え方のまとめ（９０分）
15	推測統計のまとめ	これまでに学んだことを復習する（９０分）	推測統計についてまとめる（９０分）
16	定期試験（６０分）と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再度とりくむ（９０分）	試験にでた問題の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習（S）　（科目ナンバリング：STS072048　）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　杉本　大輔　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

量的調査における記述統計（最大値・最小値、分散、歪度　標準偏差　平均値　範囲）と多変量解析、重回帰分析、因子分析、ロジスティック回帰分析の理論と基本的な算出方法、計算方法を身に着ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP５に対応する（２０２３・２０２２年度）

到達目標

記述統計を説明することかできる。
積分応用の意味を説明することができる。
各種多変量解析の方法論を説明することができる

授業全体の内容と概要

データの分析に必要な基本統計量や統計分析の基礎を学ぶ。各種社会調査の統計データを使い、その分析方法と算出方法を演習形式で行い、最終的には、社会科学で扱うデータ分析の理論をマスターする。
数理・データサイエンス教育の関連授業科目

授業の方法

各回の講義プリントを教員が配布し、量的調査における記述統計、分析方法の概念と数式を説明したうえで、実際のデータを使い、学生が各種数式を使って計算を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

基礎統計の演習では、統計量の計算や統計データに関する意見をまとめるために、電卓やノートが必要である。平常点は、この演習への取り組みを評価するため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
記述統計の理解	平均値、標準偏差、最大・最小値、中央値、最頻値、歪度の概念と理論を理解でき、その算出方法を習得した。	平均値、標準偏差、分散、の概念について理解でき、その計算方法を習得した。	中央と、最頻値、平均値の関係を理解し、正規分布上の置ける意味を理解できた。	最大値と最小値、範囲について理解できた。	記述統計について何一つ理解できなかった。
相関についての理解	正・負の相関、相関係数についての概念と算出方法を理解し、相関係数を使って数値を算出できた。	相関係数を使って、数値を算出できた。	正・負の相関と相関係数の概念について理解できた。	正・負の相関の概念について理解できた。	相関について理解できなかった。
多変量解析についての理解	回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、因子分析の方法を理解し、実際の数値を算出できた。	回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析の方法について理解し、実際の数値を算出できた。	回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、因子分析の方法を理解できた。	回帰分析、重回帰分析の方法を理解できた。	多変量解析について何も理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習（S）　（科目ナンバリング：STS072048　）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　杉本　大輔　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	この授業で学ぶこと ・統計とは　・授業計画（シラバス）の説明 ・授業改善アンケート結果反映の説明	統計とは何か調べる（９０分）	統計とは何かとこの授業で学ぶことについてノートにまとめる（90分）
2	記述統計 ・中央値と平均値　・最頻値と平均値	記述統計とは何か調べる（９０分）	授業に出てきた代表値のまとめと演習問題（９０分）
3	データの分布と代表値との関係： ・範囲(レンジ)と最大値・最小値　・分布と代表値	範囲(レンジ)について調べる（９０分）	範囲のまとめと演習問題（９０分）
4	平均値と分散	分散とは何か調べる（９０分）	平均値と分散のまとめと演習問題（９０分）
5	分散と標準偏差	標準偏差とは何か調べる（９０分）	平均値と分散と標準偏差のまとめと演習問題（９０分）
6	正の相関、負の相関	相関とは何かを調べる（９０分）	正・負の相関のまとめと演習問題（９０分）
7	相関係数①	相関係数について調べる（９０分）	正・負の相関と相関係数の関係のまとめ（９０分）
8	相関係数②	相関係数とは何か調べる（９０分）	ピアソンの相関係数の計算のまとめと演習問題（９０分）
9	回帰分析	回帰分析について調べる（９０分）	回帰分析と相関に関するまとめ、演習問題（９０分）
10	重回帰分析	重回帰分析の特徴について調べる（９０分）	重回帰分析に関する演習問題（９０分）
11	ロジスティック回帰分析	ロジスティック回帰分析について調べる（９０分）	ロジスティック回帰分析の演習問題（９０分）
12	因子分析	因子分析について調べる（９０分）	因子分析のまとめと演習問題（９０分）
13	全数調査と標本調査	標本調査とは何かについて調べる（９０分）	サンプリングの考え方のまとめ（９０分）
14	サンプリングの方法（１） ーサンプリングの理論ー	サンプリングの方法について調べる（９０分）	サンプリングの考え方のまとめ（９０分）
15	サンプリングの方法（２） ー演習問題ー 授業改善アンケートの実施	サンプリングの種類について調べる（９０分）	サンプリングの各種算出方法のまとめ（９０分）
16	定期試験（６０分）と試験の説明（	各回の演習問題に再度とりくむ（９０分）	試験にでた問題の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年、建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習（D・A）　（科目ナンバリング：STS072048　　）				
授業担当者（所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

自然科学や社会科学、医学などの学問分野だけでなく、ビジネスの世界でも統計学は活用されている。目的に応じて調査や実験が行われているが、観測したい事象のすべてを網羅的に観測できない場合がある。ここでは、一部のデータ（標本）からデータ全体（母集団）の特性を推測する標本調査をあつかい、推定および検定という推測統計の手法について学ぶ。

授業の位置づけ

デザイン・建築学科のDP1、DP2、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン・建築学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）
デザイン・建築学科のDP1、DP4に対応する。（2021年度）

到達目標

標本平均についての中心極限定理を理解し、推定手法と検定手法についてはそれぞれの考え方を説明できる。

授業全体の内容と概要

数理・データサイエンス・AI教育プログラム（数理基礎）の関連授業科目。
「SDG 4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。
統計量と標本分布については自由度と標本分布表の使い方を理解する。推測統計では、推定手法および検定手法の考え方と処理手順について理解する。授業は、コンピュータ室において表計算ソフトExcelを活用してデータ処理を行う。統計学の専門用語が多く出てくるため、理解するのには時間がかかるが、多くの練習問題に触れることで処理手順と専門用語の意味を理解してもらう。

授業の方法

授業は教科書及びパワーポイントで実施し、必要な統計的処理の流れを説明した後に、演習問題を行う。データ処理には表計算ソフトExcelを使用する。一つのデータ処理をするたびに机間巡視を行って学生の計算状況を確認するとともに、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・「統計学入門」の履修・修得を履修の前提とする。
・Excelを活用して問題を解く場合に、自分のノートPCを用いて良い。
・大学のPCを利用する場合にはUSBメモリーを持参すること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	１５%	０%	０%	２５%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
統計量と標本分布についての理解	不偏分散と標本分散について理解し、自由度と標本分布について理解できた。	不偏分散の考え方について理解できた。	さまざまな標本分布表の使い方を理解できた。	中心極限定理について理解できた。	中心極限定理について理解できなかった。
推定手法についての理解	与えられた条件から推定に用いる確率分布を選ぶことができて、区間推定の信頼区間も導出できた。	信頼係数に対応する限界値と信頼限界の幅についての導出方法を理解できた。	与えられた統計データの条件から推定に用いる確率分布を選ぶことができた。	推定手法の考え方を理解できた	推定手法の考え方を理解できなかった。
検定手法についての理解	限界値と実現値を計算して、帰無仮説が棄却されるかどうかを判断できた。	有意水準に対応する限界値と、検定統計量の実現値を求める方法を理解できた。	検定統計量の分布を定めることができた。	検定手法の考え方を理解できた。	検定手法の考え方を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年、建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	基礎統計演習（D・A）　（科目ナンバリング：STS072048　）				
授業担当者（所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『身につく統計学』	伊藤正義/伊藤公紀	森北出版	2018	9784627082113	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明／情報モラル及び情報セキュリティ／データの整理（表計算ソフトExcel）	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
2	標本平均の分布と中心極限定理	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
3	推測統計に用いられる標本分布	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
4	推定の考え方と手順	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
5	母平均の推定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
6	母分散の推定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
7	母比率の推定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
8	母相関係数の推定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
9	推定の演習問題	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
10	検定の考え方と手順	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
11	母平均の検定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
12	母平均の差の検定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
13	分散比の検定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
14	母分散の検定	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
15	検定の演習問題	専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	専門用語の意味と統計処理を復習しておくこと（90分）
16	授業改善アンケートの実施／定期試験（60分の試験終了後、解説を行う）	試験範囲について復習しておくこと（90分）	試験内容について復習しておくこと（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ･ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ （科目ナンバリング：STS062075 ）				
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）・近澤　潤（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	2号館7階または１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 薦田　勇智 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照のこと。または、事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

・数理・データサイエンス・ＡＩの基礎的素養を深めることを目的とし、地域社会が抱える課題に対して、データサイエンスの知識・技術を利活用して解決する方策を導き出す実践力を習得する。
・学生間のコミュニケーションを通して、分析・考察をより深め、プロジェクトを完遂する。
・ＰＢＬ（Project Based Learning／プロジェクト型学習）を通して、プロジェクト管理能力、ディスカッションスキル、プレゼンテーションスキル、ドキュメント作成スキル、設計力、計画力、コミュニケーションの向上を図り、複合・応用的なスキルを習得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)
社会福祉学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)
デザイン学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)
建築学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

・数理・データサイエンス・ＡＩに関する基礎知識・技術を利活用した課題解決への取り組みについて体感する。
・地域社会が抱える課題に関心を持ち、多角的に分析し、解決する方策を考え抜く力を習得する。
・グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、柔軟な視点で適切な意見を発信する。

授業全体の内容と概要

Society5.0や、データ駆動型社会などと称される現在において、文理問わず、幅広い分野においてデータサイエンス・ＡＩやＩＣＴの利活用できる基礎的素養を習得し、課題の発見・解決のために利活用できる能力が必要となる。本科目では、将来、幅広い分野でデータサイエンスやＩＣＴを実際に利活用できるよう、これまで習得した知識・技術を応用して、実際に自分たちの周りにある課題の解決に挑戦する。

本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（情報リテラシー）の関連授業科目である。

本科目は、以下のＳＤＧｓ関連授業である。
・「ＳＤＧ　８．働きがいも経済成長も」
・「ＳＤＧ　９．産業と技術革新の基盤をつくろう」
・「ＳＤＧ１１．住み続けられるまちづくりを」
・「ＳＤＧ１７．パートナーシップで目標を達成しよう」

授業の方法

本科目は、プロジェクト形式にて行うため、学生間のコミュニケーションやディスカッション、グループワークなど主体的に取り組む姿勢が重要となる。プロジェクトの開始にあたり、地域社会が抱える課題や、その背景、最終目標などについて資料等を、プロジェクター及び大型モニターに提示しながら、解説する。その後、ディスカッションなどを行いながら課題解決に向け、企画・計画の立案、目標設定、予算作成、調査、分析、制作、発表、自己評価・改善といったＰＤＣＡサイクルを軸とした一連の工程を行う。担当教員は、都度アドバイスやフィードバックを行い、プロジェクトが円滑に進むようサポートする。

円滑なコミュニケーションが図れるよう、次の学習支援を実施する。
・授業時間外において質問及び相談があれば、Ｔｅａｍｓチャットまたは音声通話にて受け付ける。
・提示した教材は、全てＴｅａｍｓにて公開・配信する。
・一連の活動において、適切かつ円滑なコミュニケーションが図れるよう、適宜介入しサポートする。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

≪受講条件あり≫
・本科目は「情報基礎演習Ｉ」で習得した知識を踏まえた高度な技術が求められ、かつデータサイエンスに関して高い関心を持ち主体的な取り組みが必要であることから、成績評価が「Ｓ（秀）・Ａ（優）」のいずれかであることを条件とする。
・本科目受講を希望する場合は、必ず第１回授業に出席すること。
・本科目はプロジェクト形式にて行うため、積極的に他の学生とのコミュニケーションを図ること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は、１２回以上とする。
・遅刻及び早退は２０分までを限度とし、それ以上の場合は欠席とみなす。
・評価については、プロジェクトでの取り組みの姿勢や態度、貢献度を重視する。
・取り組みの中で「失敗した」としても減点しない。あくまでも、「プロセス（過程）」を評価対象とするので、失敗を恐れず積極的に挑戦すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数理・データサイエンス・ＡＩの知識・技術を利活用した課題解決	課題解決に向け、数理・データサイエンス・ＡＩの知識・技術を適切かつ工夫を講じて独自の視点で利活用でき、他の学生にその方法を共有できた。	課題解決に向け、数理・データサイエンス・ＡＩの知識・技術を適切に利活用でき、他の学生にその方法を共有できた。	課題解決に向け、数理・データサイエンス・ＡＩの知識・技術を適切に利活用できた。	課題解決に向け、数理・データサイエンス・ＡＩの知識・技術を利活用できた。	数理・データサイエンス・ＡＩの知識・技術を利活用できなかった。
地域社会への関心・課題への主体的な取り組み	地域社会に非常に高い関心を持ち、リーダーシップを発揮して、課題に主体的に最後まで取り組むことができた。	地域社会に非常に高い関心を持ち、他の学生と関わり合いながら、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に高い関心を持ち、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に関心を持ち、課題に主体的に取り組むことができた。	地域社会に関心を持てず、課題に主体的に取り組むことができなかった。
課題解決のために考え抜く姿勢	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、他の学生の価値観を尊重しながら、論理立てて考え抜くことができた。	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、論理立てて考え抜くことができた。	課題解決に向け、分析結果やディスカッションをもとに、考え抜くことができた。	課題解決に向け、考え抜くことができた。	途中で考えることを諦めてしまった。
柔軟な視点と発信力	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、他の学生が意見を出しやすい工夫を講じた上で、柔軟かつ独創的な視点で適切な意見を発信でき、活発なディスカッションにできた。	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、他の学生が意見を出しやすい工夫を講じた上で、柔軟かつ独創的な視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、柔軟かつ独創的な視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚し、多様な価値観を認め合い、柔軟な視点で適切な意見を発信できた。	グループの一員であることを自覚できず、意見を発信できなかった。
プロジェクト活動への理解とスキルの習得	プロジェクトとは何かを十分に理解し、チームのために自分に必要なスキルは何かを主体的に考え、習得できた。また、そのスキルを他の学生に共有できた。	プロジェクトとは何かを十分に理解し、チームのために自分に必要なスキルは何かを主体的に考え、習得できた。	プロジェクトとは何かを十分に理解し、必要なスキルを概ね習得できた。	プロジェクトとは何かを理解し、必要なスキルの習得を目指して取り組むことができた。	プロジェクトとは何かを理解できず、必要なスキルの習得を目指して取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ･ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ （科目ナンバリング：STS062075 ）				
授業担当者（所属・職名）	薦田　勇智（経営学科・専任講師）・近澤　潤（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	2号館7階または１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 薦田　勇智 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『教養としてのデータサイエンス』	北川 源四郎・竹村 彰通	講談社	２０２１	9784065238097	
2	『データサイエンスの基礎』	濵田 悦生	講談社	２０１９	9784065170007	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	［オリエンテーション］ シラバス・授業改善アンケート結果反映の説明、本科目の受講条件の確認。	シラバスを読む（９０分）	プロジェクトについて調べる（９０分）
2	［プロジェクトマネジメント入門］ プロジェクトとは何か、求められるスキルと姿勢について解説する。	プロジェクトの進め方について調べる（９０分）	メモ・ノートを整理する（９０分）
3	［プロジェクトテーマの説明］ 地域社会の課題について説明する。その後、理解を深めるためにディスカッションを行う。	北広島市について調べる（９０分）	説明の内容について理解できなかった点について調べる（９０分）
4	［リサーチ・データ分析］ 課題解決に向けて、情報収集（文献検索･データベース活用法等）を行い、データを分析する。	前回のディスカッションの内容を復習する（９０分）	データの分析結果の改善点を見つける（９０分）
5	［企画立案］ 課題解決に向けて、データ分析の結果をもとに企画を立案し、提案に向けて準備を行う。	データ分析結果を復習する（９０分）	文書作成・プレゼンテーションについて復習する（９０分）
6	［提案練習］ プレゼンテーション資料を作成し、教員に対して提案の練習をする。	プレゼンテーションのコツについて復習する（９０分）	自分の役割を全うできるよう練習する（９０分）
7	［提案］ 教員に対してプレゼンテーションを行う。	自分の役割を全うできるよう練習する（９０分）	教員からのフィードバックを整理する（９０分）
8	［企画実行］ 承認を受けた内容について取り組む。	教員からのフィードバックを整理する（９０分）	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する（９０分）
9	［企画実行］ 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める（９０分）	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する（９０分）
10	［企画実行］ 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める（９０分）	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する（９０分）
11	［企画実行］ 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める（９０分）	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する（９０分）
12	［企画実行］ 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める（９０分）	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する（９０分）
13	［企画実行］ 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める（９０分）	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する（９０分）
14	［企画実行］ 承認を受けた内容について取り組む。	自分の分担業務について進める（９０分）	取り組んだ内容についてメンバー間で共有する（９０分）
15	［取り組みの自己評価・まとめ］ 自分たちの取り組みについて、評価・反省点をまとめる。	実行した結果についてまとめる（９０分）	反省点をどのように改善したらよいかを考えまとめる（９０分）
16	［講評・まとめ］ 教員より講評を行う。授業改善アンケートを実施する。	自己評価について確認する（９０分）	講評の内容について、今後活用できるかたちに整理する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅱ（M） （科目ナンバリング：ENL042032 ）				
授業担当者（所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 石田　暁子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

英文法の基本を身に付けし、ビジネスでも使われるものを含め、理解できる語彙を増やす。音声変化に慣れることにより、リスニングの能力をつける。

授業の位置づけ

全学科のDP２に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

今後の英語学習の土台となるよう、語彙、文法、発音面での英語の基本を身につける。

授業全体の内容と概要

各ユニットはリーディング、グラマー、リスニングの３つのセクションで構成されている。ビジネスに関する内容を取り上げているため、「ビジネス英語」への橋渡しにもなっている。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で、最重要事項は板書によって注意を促し、じっくりと確実に反復学習を進める。発音練習にも力を入れる。各自の理解度を知るため、授業では毎回できるだけ多くの学生を指名し、解答を聞く。テキストのリーディングパートについては必ず予習で翻訳してくることを課題とし、最後にまとめたものを教員が最終チェックして返却する。これも評価の対象となる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書を必ず用意し、予習をしてくること。前期開講「英語入門Ⅰ」からの継続のため、「英語入門Ⅰ」を履修済みであること。教科書も同じものを使用する。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業（語彙・文法・音声変化）の理解度	授業の範囲を超え、関連事項への興味があった。また、自分から発信する意欲が見られる。	授業内容をほぼ理解している。	基本的な語彙や文法事項の理解はできているが、長文の理解にやや不安がある。音声変化を理解し、発音できる。	基本的な事項のみ理解できている。音声変化については、注意をすると訂正できる。	基本的な事項が身についていない。
発音練習・練習問題の参加度	積極的に参加し、授業の進行に貢献していた。	説明をよく聞き、発音練習や練習問題にも真剣に取り組んだ。ミスを指摘された際、自分で訂正することができ、意欲が認められた。	発音練習や練習問題に真剣に取り組んだ。	自分の力で問題を解くことをあきらめてしまっていたが、解答を聞いた後に理解しようとする努力がみられた。	授業中の活動に集中できなかった。
課題（英文翻訳）の取り組み	予め語や語句の意味を調べ、場面にふさわしい英文の訳ができる。疑問点を自覚した上で授業に臨み、解決することができた。	予習にきめ細かさはないが、ほぼ満足な訳ができた。	毎回予習をせず、復習によって　挽回を図ることもあった。	復習だけのことが多く、課題は提出したが、期限を守ることができなかった。	課題を提出しなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅱ（M） （科目ナンバリング：ENL042032 ）				
授業担当者（所属・職名）	石田　暁子（非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 石田　暁子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Good Choice!新入社員ショウタと学ぶ大学基礎英語』	津村　修志　他	金星堂	２０１７	9784764740372	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『英和辞典』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 助動詞	テキストp.51～54 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
2	will の短縮形の音	テキストp.55～56 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
3	WH 疑問文	テキストp.57～60 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
4	疑問文のイントネーション	テキストp.61～62 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
5	可算名詞・不可算名詞	テキストp.63～66 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
6	名詞の複数形の語尾の音	テキストp.67～68 予習（９０分）	授業内容復習 (９０分)
7	現在進行形	テキストp.69～72 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
8	弱音の[a]や[of]の音	テキストp.73～74 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
9	there is. there are	テキストp.75～78 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
10	数字の後の[th]の音	テキストp.79～80 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
11	動詞の過去形	テキストp.81～84 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
12	過去形の語尾の音	テキストp.85～86 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
13	過去形　否定・疑問文	テキストp.87～90 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
14	つながる音	テキストp.91～92 予習(９０分)	授業内容復習 (９０分)
15	総復習・要点整理	期末試験準備 (９０分)	期末試験準備 (９０分)
16	授業改善アンケートの実施 期末試験(６０分）・解説(３０分)	期末試験準備 (９０分)	期末試験内容復習 (９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅱ（S）　（科目ナンバリング：ENL042032　）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　横田　肇　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

受講者が英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用方法を習得する。合わせて、平易な英文の読解と作文の能力が身に付く。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

受講者において、英文法、読解、作文、会話の基礎的な知識と運用能力の習得ができている。
特に英文法の基礎的な知識が身に付いており、基礎的な読解力が身に付いている。

授業全体の内容と概要

この科目はグローバル化に対応するための一助として「外国語」を学ぶための科目である。
毎回、英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらう。合わせて、適宜、必要最小限の補足説明を行なう。
授業の最後にその回の内容についてのまとめと質問への回答（フィードバック）を行う。

授業の方法

毎回、所定のテキストに沿って、１）その回の説明、２）英文法、読解、作文、会話の練習問題を解いてもらい、３）その後に解答と説明を行なう。必要に応じて、補足教材（コピー）を配布、使用する。
解答と説明は、適宜、口頭と板書、パワーポイントを使って行う。
授業の最後にまとめと質問の時間（フィードバック）を設ける。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位取得に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
英文法の理解	テキストの説明が完全に理解されており、テキストの問題がほとんど解けた。	テキストの説明がほぼ理解されており、テキストの問題が大体解けた。	テキストの説明が大体理解されており、テキストの問題の主要な部分が解けた。	英文法の初歩が理解されており、テキストの問題がいくらか解けた。	英文法の初歩が理解されていなかった。
英文読解・作文の能力	テキストの英文が完全に理解され、基本的な英文がしっかりと書けた。	テキストの英文がほぼ理解され、基本的な英文が書けた。	テキストの英文が大体わかり、単純な英文が書けた。	簡単な英文が大体わかり、単純な英文が大体書けた。	簡単な英文がわからず、単純な英文が書けなかった。
英会話の能力	テキストの英会話文が完全に理解されており、応用的な展開ができた。	テキストの英会話文がほぼ理解され、応用ができた。	テキストの英会話文が大体わかり、若干の応用ができた。	簡単な英会話文が理解でき、少し応用できるた。	簡単な英会話文が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅱ（S） （科目ナンバリング：ENL042032 ）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 横田　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『English Once More!』	Y.Aiko、他	朝日出版社	2018	978-4-255-15547-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示する
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明，シラバスの説明、ガイダンス。	シラバスを読む。（９０分）	Unit7の予習（９０分）
2	Unit7：名詞・冠詞の使い方（１）	Unit7の予習（９０分）	Unit7の復習（９０分）
3	Unit7：名詞・冠詞の使い方（２）	Unit7の予習（９０分）	Unit7の復習（９０分）
4	Unit8：代名詞の使い方（１）	Unit8の予習（９０分）	Unit8の復習（９０分）
5	Unit8：代名詞の使い方（２）	Unit8の予習（９０分）	Unit8の復習（９０分）
6	Unit9：形容詞の使い方（１）	Unit9の予習（９０分）	Unit9の復習（９０分）
7	Unit9：形容詞の使い方（２）	Unit9の予習（９０分）	Unit9の復習（９０分）
8	Unit10：副詞の使い方（１）	Unit10の予習（９０分）	Unit10の復習（９０分）
9	Unit10：副詞の使い方（２）	Unit10の予習（９０分）	Unit10の復習（９０分）
10	Unit11：比較の使い方（１）	Unit11の予習（９０分）	Unit11の復習（９０分）
11	Unit11：比較の使い方（２）	Unit11の予習（９０分）	Unit11の復習（９０分）
12	Unit12：前置詞の使い方（１）	Unit12の予習（９０分）	Unit12の復習（９０分）
13	Unit12：前置詞の使い方（２）	Unit12の予習（９０分）	Unit12の復習（９０分）
14	Unit13：受動態の使い方	Unit13の予習（９０分）	Unit13の復習（９０分）
15	Unit14：現在完了形の使い方	Unit14の予習（９０分）	Unit14の復習（９０分）
16	定期試験。６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	Unit7から14を通読する（９０分）	Unit7から14を通読する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年、建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅱ（D・A） （科目ナンバリング：ENL042032 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グローバル化に対応し、多様な人と協働するための表現力やコミュニケーション力を学ぶ。講義と演習（ペアワークとグループワーク）を通じて英語コミュニケーションを学ぶ。将来のキャリアと継続教育に役立つ語彙や表現を修得し英語コミュニケーション能力の向上につなげる。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP5に対応する。（２０２４年度）
デザイン・建築学科のＤＰ（２）（４）に対応する。（２０２３・２２年度）
デザイン・建築学科のDP２、DP3、DP8に対応する。（２０２１年度）

到達目標

英会話の自信を裏付けるためのスピーキング，リスニング能力のスキルアップを目的とする。相手と快適にコミュニケーションを取るための応答やリアクション等，コミュニケーションの技法も修得する。
ペアワークを通して，パターンプラクティス等により定型表現を習得し，相手とのコミュニケーションを図れるようになる。

授業全体の内容と概要

リーディングや様々なアクティビティを中心に　既存の英語知識を活用させ，スピーキングのスキルを身につけることにフォーカスする。
最低限必要な語彙力や文法力を身につけながら、テキスト中のクリティカルシンキングを学び、様々なコミュニケーションの構造を理解し，表現する。

授業の方法

授業では英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に着けることを目的とする。テキストの練習問題を解き、疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。授業中の発表、ペアやグループワーク、ロールプレイでの活動を取り入れ、コミュニケーション能力向上のために、積極的かつ協力的に行う。テキストの音声ファイルを無料でストーミング・ダウンロードし自習用音声として活用する。「
ＮＡＵ’ＵＮ－ＤＯ（ｈｔｔｐ://nanun-do.com)提供

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

15分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻２回で欠席1回とします。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。授業計画に基づき、事前に各回の授業範囲のリスニングと意味調べをしておくこと。授業を休んだ場合は，次の授業までに、休んだ回の授業内容を担当教員又はクラスメートに確認し、課題など必要な情報を入手してください。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の必要となる最低出席回数は１１回以上とする。授業の参加姿勢も評価の対象になります。授業活動に積極的に参加することで、授業外での学習成果を実感できます。予習と復習は授業の内容を理解し、学習効果を上げるために必要です。積極的に授業に参加するようにしてください。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	１0%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業の理解度	授業内容を超えた学修が認められる	授業内容を十分に理解している	授業内容を理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容を理解していない
英語表現能力(スピーキング)	優れた創造的表現を行うことができる	文献等を参考としながら、創造的表現を行うことができる	自在に定型的表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる	与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない
授業の積極的参加	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる	授業に集中して理解しようとする態度が見られる	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる	学修範囲の理解に曖昧な点がある	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である	指示された範囲の事前・事後学修をほとんどせず理解が不十分である。
リーディング技能	授業内で取り扱った単語・文章を完璧に理解し、問題なく正確に運用できる	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を理解し、問題なく正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・文章の大部分を習得し、ほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・文章を部分的に習得しているが、運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・文章の習得が不十分であり、運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年、建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	英語入門Ⅱ（D・A） （科目ナンバリング：ENL042032 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Project English』	Vivian Morooka	南雲堂	2021	978452317936-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　英語で他己紹介文作成 シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。（９０分）	授業各回のテーマを理解しておくこと。（９０分）
2	Modal Verbs Ⅰ（助動詞）	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
3	Modal VerbsⅡ（助動詞）	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
4	Unit 7 How was your weekend?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
5	Unit 8 What time is your first class?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
6	Unit 9 Have you ever been to Kyoto?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
7	Review Units 7-9	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
8	Grammar Present perfect Ⅰ(完了形)	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
9	Grammar Present perfect Ⅱ（完了形）	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
10	Mid-term Exam.	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
11	Unit 10 Can I ask you a favor?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
12	Unit 11 I'm going to visit my grandparents.	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
13	Unit 12 I'm on the train.	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
14	Review Units 10-12	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
15	Review１	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（９０分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（９０分）
16	Final Exam.　試験終了後，授業改善アンケートの実施	試験範囲の復習。（９０分）	試験後に説明を受けた解説を復習。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門Ⅱ　（科目ナンバリング：CHI051037　）				
授業担当者（所属・職名）	孫　暢（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　孫　暢　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

中国人と簡単な会話を交わすことが出来るようになる。中検4級程度のレベルに到達する。
（中国語検定試験（「中検」）は，主に日本語を母語とする中国語学習者を対象とします。「中検」と「HSK」は同じ中国語の検定試験ですが性格を異にする試験です。
「中検」は，中国語読解及び聴解能力のほか翻訳能力を問うものです。
「HSK」は，中国語による設問に中国語で答えることを求め，中国語の運用能力のみを問うものであり翻訳能力は問われておりません。
したがって，中検は日本の企業での活躍を目指す方，HSKは中国の大学本科への留学や中国企業で活躍を目指す方に適していると言えるでしょう。）

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)
デザイン学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)
建築学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)
経営学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

中国語を通して、中国の文化を理解し日中友好に寄与することができる。

授業全体の内容と概要

初めて中国語を学習する学生のために、日常会話と文法を結び付けて学習することで、コミュニケーション能力を身につけられるようにする。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書により、「発音」、「基本文法」、「会話文」、「入れ替え練習と応用」、「新出単語」、「練習」と段階的に講義形式で授業を進める。中国語の学習を通して、中国の文化や歴史等も理解しやすいように講義する。また、復習を重視し、適宜簡単な確認テストを実施する。課題に対して解説を加えてフィードバックする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「中国語入門Ⅰ」の成績は「B」以上（Bを含む）であること。
会話を特に重視したいので、聞き取った中国語を中国語で理解し、すぐに反応して中国語で答えられる能力を身につけるよう努力すること。
ペアー練習やグループワークが多い。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数は１０回以上
課題を期限内に提出すること

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60%	10%	10%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能（発音・文字語彙・文法・読解等）	期末テストで９割以上、語彙・文法の誤りがなく正確に理解していた。	期末テストで８割以上、語彙・文法の誤りがほとんどなく大体理解していた。	期末テストで７割以上、語彙・文法の誤りが若干あるが問題なく理解していた。	期末テストで６割以上、語彙・文法の誤りが若干あって理解できていない部分があった。	期末テストで６割未満、理解を妨げる語彙・文法の誤りがあった。
思考力・判断力・表現力（聴解・会話・プレゼン等）	表現方法が適切であり、誤りがなかった。	表現方法が適切であり、誤りがほとんどなかった。	表現方法が適切であり、誤りが少しあった。	表現方法に誤りがあり、自分の意見を伝えるのに支障をきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意見が伝わらなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組み、多様な表現や協働性に関してレベル以上に達した。	与えられた課題に取り組み、多様な表現や協働性に関して一定のレベルに達した。	与えられた課題に取り組んだが、多様な表現や協働性に関して求められるレベルに達しなかった。	与えられた課題に取り組んだが、多様な表現や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に取り組まなかった。
授業態度	授業内容に「関心が強く」「意欲的に」受けている・聞いている	授業内容に「関心あり」「意欲を見られる」受けている・聞いている	授業内容に関心・意欲が低い（ポーッとしている ・授業とは関係ないことを考えている・よそ見）	授業内容に関心が低く、意欲がない（授業中の飲食、授業中の私語等）	授業内容に関心が極めて低く、意欲がない（注意に対する言い訳・反論）

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・2年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	中国語入門Ⅱ　（科目ナンバリング：CHI051037　）				
授業担当者（所属・職名）	孫　暢（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　孫　暢　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『基礎からレッスンはじめての中国語』』	南雲大悟	ナツメ社	2018	9784816364679	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『本気で学ぶ中国語』』	趙玲華	ベレ出版	2009	9784860642471	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	講義ガイダンス：今学期の目標、「中国語入門Ⅰ」の復習（ピンイン、基本あいさつ等）	シラバスの内容確認（９０分）	教科書の確認（９０分）
2	第１課 基本文法の復習、指示代名詞「これ」「あれ」	教科書P58～P59の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
3	第２課 文法：動詞述語文、構造助詞「的」、時間詞	教科書P60～P63/P74～P75の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
4	第３課 文法：形容詞述語文	教科書P64～P65の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
5	第４課 文法：所有・所在・存在表現	教科書P66～P69の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
6	第５課 文法：疑問文（「なに」「どこ」）	教科書P70～P73の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
7	第６課 文法：願望の助動詞（～したい）	教科書P78～P79の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
8	第７課 文法：必要・義務の助動詞（しなければならない）	教科書P80～P79の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
9	第８課 文法：可能の助動詞（できる）	教科書P82～P85の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
10	第９課 文法：好きなことを言う時の表現	教科書P86～P87の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
11	第１０課 文法：人を何かを「授ける、もらう」時の表現	教科書P88～P89の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
12	第１１課 文法：現在進行形（～している）	教科書P92～P93の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
13	第１２課 文法：過去形（～しました）	教科書P98～P99の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
14	第１３課 文法：様態補語（動作の様子や評価を述べる）	教科書P94～P95の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
15	第１４課 文法：丁寧な依頼（どうぞ～してください）	教科書P96～P97の予習（９０分）	授業内容の復習・練習（９０分）
16	期末テスト	テスト勉強（９０分）	テストへの反省など（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学と社会ｼｽﾃﾑ （科目ナンバリング：SOC111005 ）				
授業担当者（所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 松下　守邦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業のねらい（目標）は、社会学の概念を使い、現代社会の特性、生活の多様性、人と社会、社会問題の理解を学修する。授業内容は、つぎの５つの項目を扱うことなる。①社会学の視点、②社会構造と変動、③市民社会と公共性、④生活と人生、⑤自己と他者。本科目では、社会学の学術概念を使い、社会的事象の課題について説明記述ができること。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）

到達目標

①社会学の基本になる学術用語の説明ができる、②社会学応用領域における社会問題について、社会学の学術概念、理論と社会統計を用いて、課題を把握し考察ができる。
下記のルーブリック、到達目標は、合格最低レベル（C）であるので、上位段階の履修目標になるよう、ベストを尽くすこと。成績は、履修状況により相対性と絶対性が勘案されるので留意する。

授業全体の内容と概要

「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
社会学の扱う対象は広いといえるが、本授業では現代社会論、家族、地域社会の領域に関する基礎的学修する。社会学の学術用語、基礎的理論を確認し、社会的事象の理解を深めていく。

授業の方法

・授業の方法は、講義法、ＰＢＬ、ワークシート作成、学術論文読解により実施する。
・授業計画と学習内容の講義は、シラバス準拠法であり、テキストの目次順にすすめる教科書準拠法を採用していない。
・ＰＢＬ（問題基盤型学習）の第６回と第１４回は、社会福祉士、公務員採用試験の過去問題の解題作業知識の外化作業は第１５回、である。
・映像像料視聴は、学術概念を使い説明記述するワークシート作成がある。
・課題提出後の授業にて模範回答例を紹介、フィードバックをおこなう機会がある。
・配布資料は欠落することのないようにファイリングする。ノートは、授業の再現ができるよう、取材メモとして作成する。
・大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネルを利用する。授業資料のファイルボックス、関連サイト紹介など、コースパケット学修利用をすすめる。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
・質問相談は、随時、対応するので、授業中、研究室来室など、気軽に相談してほしい。学生から教員へのチャット、メール等連絡は、教員が他の授業、面談などでは対応がむずかしい。学校事務扱い時間を確かめ、夜間、休日の連絡は緊急をのぞき、学校登校日に相談してほしい。
・社会福祉士新カリキュラム対応テキト準拠型授業（テキスト目次記載順）とシラバス準拠型授業（シラバス授業計画）を併用し学修する。
・学修は、高校の学修スキルが基礎になるが、高等教育であるから広く深く学ぶこと、学術の多面的理解が重要である。
・飯間浩明氏（国語辞書編集者）資料参照。https://twitter.com/IIMA_Hiroaki/status/586525324088774657 （２０２４．０３．１０確認）

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談してほしい。

資格指定科目

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格課程科目、教職課程（社会・公民）選択科目、保育士養成課程選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のためには、授業第１回から第１５回までに計１０回以上の出席が必要である。
各授業の作業課題を提出することは基本要件になる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	１０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる、情報分析力としての知識・技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめており、これまでの学修内容との関連を適切にふまえていた。新しく学ぶ学術用語について、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶ学術用語について、いくつかの例をあげて、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめていた。新しく学ぶ学術用語について、例証はなく、充分ではないが、自分の言葉で説明をこころみていた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業は難しかった。新しく学ぶ学術用語について、説明することはまったくできなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的事象について論理的に分析表現をすることができる、思考力・判断力・表現力	信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用していた。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら、社会的事象の分析表現ができた。	信頼性のある文献資料を選び、適切な手続きで引用していた。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと関連づけながら、論理的に社会的事象の分析表現ができた。	信頼性のある文献資料を選び、引用していた。新しく学ぶ学術概念を使い、これまでのものと関連づけながら、社会的事象の分析表現ができた。	文献資料を選び、信頼性について改善の余地はあるが、引用していた。新しく学ぶ学術概念を使い、充分ではないが、社会的事象の分析表現を試みることができた。	文献資料を選び、引用することについて、信頼性の確保が難しかった。新しく学ぶ学術概念を使い、社会的事象の分析がまったくできなかった。
大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	大学生としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、本人が理解して行動することは難しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学と社会ｼｽﾃﾑ （科目ナンバリング：SOC111005 ）				
授業担当者（所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 松下　守邦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						テキスト改訂版発行２０２３年５月予定
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『社会学事典』	日本社会学会	丸善	２０１０	9784621082546	
2	『社会学用語図鑑』	田中正人編、香月孝史	プレジデント社	２０１９	9784833423113	
3	『社会福祉士養成課程のカリキュラム社会学と社会システム　教育に含むべき事項（内容）』	厚生労働省　福祉人材確保対策室		２０２０		https://www.mhlw.go
4	『大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準　社会学分野』	日本学術会議		２０１４		http://210.149.141.38
5	『社会学の力　改訂版』	友枝敏雄ほか	有斐閣	２０２３	9784641174818	

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス、ルーブリック）、前年度本科目、授業改善アンケート結果反映の説明をおこう。	シラバスをあらかじめ確認する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
2	社会学の考え方－１(社会化、社会的地位、役割)	テキスト1章を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
3	社会学の考え方－２(重要な他者、属性主義、業績主義)	テキスト1章「学習のヒント」を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
4	家族社会－１（家族類型、家族機能）	テキスト２章を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
5	家族社会－２（家族形態、親族関係）	テキスト３章を予習する。（９０分）	テキスト第３章「学習のヒント」発展学修する。（９０分）
6	社会学の基本的概念、家族社会のまとめ（PBL）	授業1-5回の学習ふりかえり整理を行う。（９０分）	今回の学習内容（ＰＢＬ資料）を復習する。(９０分)
7	現代社会の捉え方（ライフコース、ジェンダー、性別役割規範、社会文化的性差）	テキスト４章を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
8	地域社会－１（都市化、都市的生活様式、過疎化）	テキスト８章を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
9	地域社会－２(第一次的関係、パーソナル・ネットワーク)	テキスト１０章を予習する。（９０分）	テキスト第１０章「学習のヒント」を発展学修する。（９０分）
10	地域社会－３(地域社会の人口変動)	テキスト１０章を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
11	少子化と高齢化―１（人口転換、出生力、死亡力）	テキスト１１章を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
12	少子化と高齢化―２（人口の地域間移動）	テキスト１１章を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
13	人口問題と社会学（人口構成、人口ボーナス、人口オーナス、人口転換）	テキス１２章を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
14	ライフコース、ジェンダー、地域社会、少子化と高齢化、人口問題のまとめ（ＰＢＬ）	授業７－１０回学習のふりかえり整理する。（９０分）	今回の学習内容（ＰＢＬ資料）を復習する。(９０分)
15	学術論文読解（三色線引き読み、福祉社会学）	三色線引き読み資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
16	本科目のまとめ（授業総括と課題シートの教員講評）授業改善アンケートの実施	全授業のまとめを準備する。（９０分）	全体のふりかえりを行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築材料 （科目ナンバリング：BSM311016 ）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館６階		
単位数	2 （単位認定責任者： 小笠原　健 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築材料の具体的な名称や機能を理解し、材料の使用方法を修得することで、今後の専門科目を学ぶために役立つ基礎知識を養う。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ２に対応する。（2024年度）
建築学科のＤＰ２に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のＤＰ２に対応する。（2021年度）

到達目標

建築学科の専門科目に向けての基礎的知識を修得し、専門用語の理解とその機能を理解できる。また、建築士試験科目を見据えた基礎的学力を修得できる。

授業全体の内容と概要

構造材料では主に木材・金属・コンクリート等を中心に基本的な特性、品質、規格、形状等について修得し、仕上げ材料などについても理解できるように授業を実施する。

授業の方法

授業形式は板書中心に実施するが、その個々の材料についての特徴などを説明していく。また、状況によってはイラストや写真などの資料を提供し、各材料のイメージしやすくし、解説する。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

指定テキストと配布資料を必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」必修科目，教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１1回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０％	０％	０％	０％	１０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。
「建築材料」の基礎知識を習得することができる。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組むことができた。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組む必要性を理解できた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築材料 （科目ナンバリング：BSM311016 ）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小笠原　健 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『絵とき建築材料　改訂3版』	廣瀬幸男・赤石辰夫・遠藤真弘・廣瀬妙子（共著）	オーム社	2022	978-4-274-22890-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明（小笠原	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
2	木材①（木材の特徴・種類・性質）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
3	木材②（木材の強度・木取り・規格・等級）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
4	木材③（集成材・合板・木質ボード）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
5	コンクリート①（コンクリートの特徴・種類・性質）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
6	コンクリート②（コンクリートの施工と耐久性・セメント・骨材）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
7	コンクリート③（混和材料・コンクリート製品・セメント製品）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
8	鋼材①（鋼材の特徴・加工と腐食・種類）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
9	鋼材②（鋼材の接合・ステンレスとアルミニウム・構造用金物）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
10	仕上げ材①（石材・ガラス・タイル・レンガ）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
11	仕上げ材②（外装材・屋根・外壁）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
12	仕上げ材③（内装材・天井・壁・床）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
13	機能性材料（防水材料・防火材料・断熱材）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
14	設備機器等	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
15	高齢者対応とバリアフリー	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
16	定期試験（60分の試験終了後，残りの30分で解説を行う） 授業改善アンケートの実施	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える（90分）	定期試験内容を整理して、復習する（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学Ⅱ　（科目ナンバリング：BSM312013　）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	2　（単位認定責任者：　長森　正　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築構造力学Ｉの内容を基礎にして、静定トラス・断面の力学特性・応力度・ひずみ度・部材の設計など項目について特徴や解法を学習する。
物理学や数学をベースとして基礎知識を修得し，それらを応用する能力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ１、DP３、DP４に対応する。（２０２４年度）
建築学科のＤＰ１、DP２に対応する。（２０２３・２０２２年度）
建築学科のＤＰ１、DP５、DP７に対応する。（２０２１年度）

到達目標

建築構造物に起きている力学的諸現象がイメージし、把握できる。弾性状態における応力とひずみの関係を説明でき、それらを計算できる。
断面の力学特性を理解し、断面諸量を計算できる。
建築施工管理技士及び建築士程度の問題が解けるようになる。

授業全体の内容と概要

静定力学の基礎知識・初等弾性力学及び静定構造物の応力と変形などである。
静定トラスの軸力・部材断面の諸量・ひずみ度・応力度・などの事項について、演習問題を解きながら講義する。

授業の方法

教科書の例題に沿って解説しながら板書にて講義する。積み重ねが重要な科目であるので出席を特に重視し、授業毎に簡単な演習を出題する。
参考資料無しで演習を解けるように説明する。
不足時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書の例題と配布資料を中心に講義を進めるので、休まず出席して知識を集積することが重要である。
講義を理解し演習を行うには十分な予習が必要であり、知識の定着には復習（反復練習）が不可欠である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目、建築士試験受験資格課程。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
静定トラス・断面諸量の知識	様々なトラスの解法（節点法・切断法）及び面諸量の計算ができ、他の人に説明できた。	様々なトラスの解法（節点法・切断法）及び面諸量の計算ができた。	基本的なトラスの解法（節点法・切断法）及び断面諸量の計算ができ、他の人に説明できた。	基本的なトラスの解法（節点法・切断法）及び断面諸量の計算ができた。	基本的なトラスの解法（節点法・切断法）及び断面諸量の計算ができなかった。
ひずみ度・応力度・部材設計	応力とひずみの関係を理解し、ヤング係数・ポアソン比・応力度等について計算でき、他の人に説明できた。	応力とひずみの関係を理解し、ヤング係数・ポアソン比・応力度等について計算できた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができ、他人に説明できた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができた。	応力とひずみの関係を理解し、基本的な応力度計算ができなかった。
建築士・建築施工管理技士の試験問題対応力	２級建築士問題（構造部門）を解答でき、他人に説明できた。	２級建築士問題（構造部門）を解答できた。	建築施工管理技士（構造部門）を解答でき、他人に説明できた。	建築施工管理技士（構造部門）を解答できた。	建築施工管理技士問題（構造部門）を解答できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築構造力学Ⅱ　（科目ナンバリング：BSM312013　）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	2　（単位認定責任者：　長森　正　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『図説やさしい構造力学』	浅野　清昭	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『初めての建築構造力学』	建築のテキスト編集委員会編	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 静定トラス（１）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（９０分）	授業内容を整理して、演習問題を復習する（９０分）
2	静定トラス（２）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
3	静定トラス（３）	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
4	断面の力学的特性（１）図心	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
5	断面の力学的特性（２）断面１次モーメント	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
6	断面の力学的特性（３）断面２次モーメント	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
7	断面の力学的特性（４）断面係数	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
8	断面の力学的特性（５）断面２次半径	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
9	ひずみ度と応力度（１）ひずみとひずみ度	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
10	ひずみ度と応力度（２）梁の応力度	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
11	ひずみ度と応力度（３）弾性係数	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
12	部材の設計（１）許容応力度	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
13	部材の設計（２）曲げ材の設計	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
14	部材の設計（３）組合せ応力度	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
15	まとめ	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	演習問題を理解し復習する（９０分）
16	授業改善アンケートの実施 定期試験６０分の試験終了後、残りの３０分で解説する。	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える（９０分）	授業内容全体について資料を整理する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ （科目ナンバリング：S0E011012 ）				
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・教授）　河野　善文（経営学科・教授）　青山　浩之	研究室等所在	２号館８階（山本）　１号館２階（河野）　１号館４階（青		
単位数	2 （単位認定責任者： 青山　浩之 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

変化する現代社会の特質を知り、その中で働くとはどのようなことか、職業とは何か、またそれらをめぐる諸問題に目を向け、「学生」が「職業人」になっていくことの意味を理解し学ぶ。自分のキャリアを客観的に見つめ、自らの卒業後のビジョンを描き、それを実現するためには何をすべきかについて考察する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

各単元内容について単に知識を習得するだけでなく、「学生」から「社会人」に移行していく自分自身の問題としてとらえ、批判的に考察する姿勢をもつことができる。

授業全体の内容と概要

まず、自ら生涯における「キャリア」とは何かを知り、続いて、「働くこと」はどのようにとらえられてきたか、現代社会の「労働」はどのような特質を持っているか、分業が発達した社会での「職業」活動の意味について理解する。そして、「学生」が「職業人」へ移行していく過程を受講者自らに問題として理解し、考察する。とくに、演習のなかで書きながら考えることによって自己理解を深める。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「SDG 8.働きがいも経済成長も」の関連科目。

授業の方法

授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式（PBL含む）で行い、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の理解を知るための小文（課題・レポート）を提出してもらい、授業内でフィードバックする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各単元のテーマについて自ら考える「主体性・能動的」な姿勢での授業参加を求める。本講座は定期試験を実施しないため、各回の演習課題の評価で単位認定を行う。欠席があると単位の取得は難しい。
・私語などの迷惑行為は厳禁。
・講義中スマホの操作は厳禁、マナーモードで受講してください。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３５%	３５%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	各担当者の実施する小文（課題・レポート）の結果が各単元で求められる知識修得レベルを大きく超えていた。	左記小文（課題・レポート）の結果で、各単元で求められる知識を確実に修得できていた。	左記小文（課題・レポート）の結果で、各単元で求められる知識をほぼ修得できていた。	左記小文（課題・レポート）の結果で、各単元で求められる知識を最低限容認できるレベルにとどまった。	左記小文（課題・レポート）の結果で、各単元で求められる知識を修得できなかった。
思考力・判断力	キャリア概念を軸にして、自らの将来の労働生活・職業活動に関する展望・考察が充分にできていた。	左記事項についての展望・考察が概ねできていた。	左記事項についての展望・考察が一般的な水準でできていた。	左記事項についての展望・考察が最低限の水準にとどまっていた。	左記事項についての展望・考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
実社会における労働生活・職業活動への分析力・主体性	実際の労働生活・職業活動をめぐるさまざまな社会問題について、充分に主体的分析ができいていた。	左記の事項について概ねできていた。	左記の事項について一般的な水準できていた。	分析や主体性が最低限の水準にとどまっていた。	分析や主体性が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
課題における意見の提示と展開	自分の考えが根拠とともに論理的かつ明確に展開・提示されている。	自分の考えが根拠とともに、ある程度明確に展開できている。	自分の考えが明示されている。展開もしくは根拠のいずれかが不十分である。	自分の考えが示されているか、展開ならびに根拠のどちらも不十分である。	自分の考えが示されていない。
課題の構成・書式	各担当者が指示した構成と書式にそって過不足なく適切に課題が整えられている。	各担当者が指示した構成と書式にある程度そった形で課題が整えられている。	各担当者の指示に基づいて課題が整えられているが、構成ないし書式のいずれかに不備がみられる。	各担当者の指示に基づいて課題が整えられているが、構成と書式のどちらにも不備がみられる。	提出課題が、各担当者が指示した構成と書式にそっていない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ （科目ナンバリング：S0E011012 ）				
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・教授）　河野　善文（経営学科・教授）　青山　浩之	研究室等所在	２号館８階（山本）　１号館２階（河野）　１号館４階（青		
単位数	2 （単位認定責任者：　青山　浩之　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明 ～キャリアデザインとは何か～ 授業改善アンケート結果反映の説明	キャリアとは何かを調べ、考えておく（４５分）	ノートにキャリアとは何かについてまとめておく（４５分）
2	Ⅰ.ライフデザインとキャリア……現代社会のキャリア形成（担当：山本）	自らの将来展望のイメージ化・意識化（４５分）	「キャリア」とは何であるかの復習（４５分）
3	Ⅱ.「働くこと」をどうとらえるか？……現代の「労働」の特質（担当：山本）	自らが「働くこと」をどうみているかについての意識化（４５分）	さまざまな「労働」観と現代的「労働」についての復習・理解（４５分）
4	Ⅲ.現代産業社会と「職業」……社会と個人の結び目としての「職業」（担当：山本）	自らが「職業」活動をどう見ているかについての意識化（４５分）	社会的分業と個人の職業生活との関係についての復習・理解（４５分）
5	Ⅳ.「学生」から「職業人」へ……ライフコースの変化と「職業人」に求められるエンプロイアビリティー（担当：山本）	現代人の人生経路についてのイメージ化（４５分）	何が「職業人」に求められるかについての復習・理解（４５分）
6	自分を知る（1）（担当：星野） 自己理解の重要性を理解する	これまでの自分を振り返り、私とは何かを考えておく（４５分）	自分の個性について気づいたことをノートにまとめておく（４５分）
7	自分を知る（2）（担当：星野） これまでの自分のストーリーを振り返り、将来について考える	自分が興味を持っていることをノートのまとめておく（４５分）	課題を作成することで気づいたことをノートにまとめておく（４５分）
8	自分を知る（3）（担当：星野） 職業に対する自分のイメージの偏りを知る	これまでの課題から気づいたことをノートにまとめる（４５分）	課題を作成することで気づいたことをノートにまとめておく（４５分）
9	自分を知る（4）（担当：星野） 複数の未来を想定して自分を見つめる	今までの課題で気づいた自分から、どのように働きたいかをイメージしておく（４５分）	自分のキャリア目標達成には、どのような学びが必要かをノートにまとめておく（４５分）
10	大学での学びをデザイン（１）（担当：河野） 就活で求められることを考える	就活で求められるものを考えてノートに書く（４５分）	今回の授業での学び・演習をノートに整理（４５分）
11	大学での学びをデザイン（２）（担当：河野） 就活で求められることを考える	就活で求められるものを考えてノートに書く（４５分）	今回の授業での学び・演習をノートに整理（４５分）
12	大学での学びをデザイン（３）（担当：河野） 就活で求められることを考える	就活で求められるものを考えてノートに書く（４５分）	今回の授業での学び・演習をノートに整理（４５分）
13	大学の学びとキャリア（１）（担当：青山） 大学で何を学び、身につけなければいけないか ～学生のキャリア３つの視点～	社会で求められる力とは何か、社会人基礎力について調べ学習（４５分）	プリントの空欄を記入し、目標について考える（４５分）
14	大学の学びとキャリア（２）（担当：青山） 大学１～２年生のキャリアデザイン ～課題「自己ＰＲ」～	就職活動における自己ＰＲについての調べ学習。「自己ＰＲ」課題１作成（４５分）	提出した「自己ＰＲ」課題1の添削。「学生時代に力を入れたこと」課題2作成（４５分）
15	大学の学びとキャリア（３）（担当：青山） 「働く」ということを考える ～新卒採用の選考を突破するために～	就職活動のスケジュールの調べ学習。就職活動のスケジュールの調べ学習。「学生時代に力を入れたこと」課題２作成（４５分）	「自己ＰＲ」の解説をもとに、課題１・２を添削作成（４５分）
16	講義のまとめ　講義を振り返り、自分のキャリアとこれからすべき行動を再確認 授業改善アンケートの実施	これまでの講義を振り返り、ノートで講義内容を確認（４５分）	授業をとおして行った振り返りの内容についてノートにまとめる（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	サブメジャープログラム	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	防災・治水プログラム　（科目ナンバリング：NDD092058　　）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館3階	
単位数	1　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本科目は北広島市の地域防災を学びことにより，万が一，自然災害発生時に遭遇した際，状況をどのように判断し，どのような行動をとるべきか等の理解と認識を身につけ，日ごろの行動に反映させられるようになれることを目標とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1,DP3,DP4に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

自然災害の恐ろしさの理解と防災・治水に関する基礎的な知識を身につけ，万が一の自然災害発生時に自己判断で的確な行動がとれることを目指す。

授業全体の内容と概要

前半は講義と自然災害を想定したシミュレーションゲームを中心に進める。後半はFW（フィールドワーク）を中心に進める。FWは指定地点から指定避難所までの避難経路の踏破から，経路上の危険要因等の抽出等の記録をおこない，そのデータをもとに防災マップを作成する。
「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

前半は教室にてPPやシミュレーション用の教材を使用しての授業をおこない，後半は実際に指定した北広島市内を踏破（FW）し，観察調査をおこない，そこから得られた情報を防災マップとして作成，そして学習成果をプレゼンテーションする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業開始時に着席表を配布し氏名の記入をおこなう。したがって，着席表回収後の遅刻は欠席扱いとなる。授業中の受講態度もチェックするので留意すること。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

講義，実技，FWなど多様な授業形態をとるので，原則毎回出席すること。ただし正当な理由がある場合に限り出席回数12回を認める。授業はもとより実技，FWには積極的に取り組む姿勢を求める。防災マップの評価と制作の態度等（課題作品），FWの参加（その他），FW等のレポート（レポート）で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	３0%	50%	0%	0%	２0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自然災害という事象について客観的に理解することができる。	多様な自然災害の事象と発生する被害を客観的に理解できた。	多様な自然災害の事象を客観的に理解できた。	自然災害の事象を客観的に理解できた。	自然災害の概要を理解できた。	自然災害を理解できなかった。
自然災害が発生した状況を想定でき，その際にどのような行動が求められるかを判断できる。	多様な自然災害に対し，状況により求められる行動の多様性を判断できた。	多様な自然災害に対し，行動の多様性を理解できた。	自然災害の状況に対し求められる行動が理解できた。	自然災害の状況を理解できた。	求められる行動が判断できなかった。
FWから避難経路の問題点を明らかにし，研究成果として防災マップにまとめることができる。	避難経路に隠された問題点や避難に有効な要素を見つけ出し，防災マップにまとめることができた。	避難経路に隠された問題点を見つけ出し，防災マップにまとめることができた。	避難経路上の問題を防災マップにまとめることができた。	防災マップにまとめることができた。	成果をまとめることができなかった。

基本情報

科目分類区分	サブメジャープログラム	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	防災・治水プログラム （科目ナンバリング：NDD092058 ）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	2号館3階	
単位数	1 （単位認定責任者： 安藤　淳一 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　授業計画，シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，防災の基礎知識について	シラバスの確認（45分）	授業計画の振り返り（45分）
2	北広島市の地域防災	配布資料の確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
3	DIG（Disaster Imagination Game）の取り組み	配布資料の確認（45分）	DIGの取り組みのレポート作成（45分）
4	北広島市庁舎の見学	配布資料の確認（45分）	見学レポート作成（45分）
5	DO HUG（Hinanjyo Unei Game 北海道版）の体験１	配布資料の確認（45分）	DO HUGの振り返り（45分）
6	DO HUG（Hinanjyo Unei Game 北海道版）の体験２	配布資料の確認（45分）	DO HUGのレポート作成（45分）
7	避難経路の検証（FW）の解説	配布資料の確認（45分）	配布資料の振り返り（45分）
8	避難経路の検証１（積雪なし）の場合	配布資料の確認（45分）	検証の振り返り（45分）
9	北広島市指定避難所の見学	配布資料の確認（45分）	避難所見学のレポート作成（45分）
10	避難経路の検証１（積雪なし）の資料・写真データの集約と整理	データの準備（45分）	データの再確認（45分）
11	避難経路の検証２（積雪あり）の場合	配布資料の確認（45分）	検証の振り返り（45分）
12	避難経路の検証２（積雪あり）の資料・写真データの集約と整理	データの準備（45分）	データの再確認（45分）
13	火災と救急救命について	配布資料の確認（45分）	講義のレポート作成（45分）
14	防災マップ制作１（積雪なし）	データの準備（45分）	作成データの再確認（45分）
15	防災マップ制作２（積雪あり）	データの準備（45分）	作成データの再確認（45分）
16	防災マップ提出，発表　講評会 授業改善アンケートの実施	提出課題の確認（45分）	発表の振り返り（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成Ⅱ （科目ナンバリング：AEA211013 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　力 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

立体の構成原理を活用し、構造的にも安定した美しい作品を制作することが出来る。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP3、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

立体の基本的な構成原理を活用し、作品を制作することが出来る。

授業全体の内容と概要

授業毎に設定された課題を基に、立体作品の制作を行いながら実践的に立体の構成原理を学ぶ。また、作品の見せ方、発表の仕方も学ぶ。

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポートフォリオを作成し提出する。また自由制作では、作品プレゼンテーションも行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

制作した作品は毎回撮影して保存し、最終的にはポートフォリオにまとめて提出すること。
必要な材料、用具を事前に指示するので、各自忘れずに用意すること。
「立体構成Ｉ」の展開講座のため、原則立体構成Ｉを履修済みの者が対象。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

２０回以上の出席がない場合は評価の対象としない。ポートフォリオが提出されない場合は評価の対象としない。
評価は作品点（４０％）、ポートフォリオ点（30％）、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」（３０％）の基準で行う。
講義の前半で課題を説明するため、３０分以上の遅刻は出席として認めない。また遅刻３回で欠席1回と見做す。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
立体の基本的な特性の理解（知識・理解）	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を理解し、上手く活用しており、美しい造形である。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を理解し、活用している。	作品が自立し、構造的にも安定している。またデザイン原理を活用しようと試みている。	作品が自立し、構造的にも安定している。	作品が自立せず、立体として成立していない。
編集と発表の能力（思考力・表現力・判断力等）	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を収めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めずポートフォリオを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度（主体性・多様性・協働性）	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成Ⅱ　（科目ナンバリング：AEA211013　）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　梅田　力　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「美の構成学　―バウハウスからフラクタルまで―」』	三井秀樹	中公新書	1996	4121012968	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと（４５分）	オリエンテーションを振り返り、内容を理解しておく事（４５分）
2	素材について	身近な素材について、考察してくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
3	素材研究１　線材１	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
4	素材研究１　線材１	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
5	素材研究２　線材２	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
6	素材研究２　線材２	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
7	素材研究３　線材３	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
8	素材研究３　線材３	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
9	素材研究４　面１	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
10	素材研究４　面１	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
11	素材研究５　塊１　彫像	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
12	素材研究５　塊１　彫像	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
13	素材研究６　塊２　塑像１	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
14	素材研究６　塊２　塑像１	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
15	素材研究７　塊３　塑像２	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
16	素材研究７　塊３　塑像２	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	構成の応用１ （課題説明）	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
18	構成の応用１ （アイデア出し）	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
19	構成の応用２	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
20	構成の応用２	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
21	構成の応用３	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
22	構成の応用３	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
23	構成の応用４	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
24	構成の応用４	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
25	構成の応用５	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
26	構成の応用５	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
27	応用作品 作品プレゼンテーション	プレゼンテーション準備（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
28	応用作品 作品プレゼンテーション	プレゼンテーション準備（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
29	ポートフォリオ作成（チュートリアル）	ポートフォリオ作成（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
30	ポートフォリオ作成（チュートリアル）	ポートフォリオ作成（４５分）	ポートフォリオ作成（４５分）
31	講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（４５分）
32	講評、授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎Ⅱ　（科目ナンバリング：AEA221039　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）		研究室等所在	２号館７階・１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　佐藤　正人　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に促した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

前期で学んだ画材の特性を活かして、更にイラスト表現の多様性を意識したイラスト制作を目的とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP３に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP１、DP４に対応する。（2021年度）

到達目標

発想力，デザイン感性，積極的な探究心，研究心を養いクオリティの高い作品を制作できるようになる。

授業全体の内容と概要

各テーマを意識した制作意図，制作過程に沿ってイラスト表現の多様性を学ぶ。

授業の方法

各課題に合わせて様々なイラスト表現を研究して，イラストレーションの多様性を実習制作することを通て学ぶ。各課題ごとプレゼン実施，作品提出。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

前期に開講する「イラストレーション基礎Ⅰ」の修得を前提とする。遅刻３回で欠席１回とみなす。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，２０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対しての制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題へ取り組みながらも、制作意欲が乏しかった。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現における画材の知識および理解。	授業内容に積極的に真剣に取り組み、知識の習得と理解度を深めていた。	授業内容に真剣に取り組み、授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組み概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解していなった。
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形にしていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎Ⅱ　（科目ナンバリング：AEA221039　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）		研究室等所在	２号館７階・１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　佐藤　正人　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に促した実習を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『マイワーク３１』	北海道イラストレーターズクラブアルファ				
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映。 イラストレーションタッチ，表現研究・１。 コラージュ手法実習・１	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
2	イラストレーションタッチ，表現研究・１。 コラージュ手法実習・１	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
3	イラストレーションタッチ，表現研究・１。 コラージュ手法実習・２	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
4	イラストレーションタッチ，表現研究・１。 コラージュ手法実習・２	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
5	イラストレーションタッチ，表現研究・１。 コラージュ手法実習・３	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。（４５分）	作品完成へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
6	イラストレーションタッチ，表現研究・１。 コラージュ手法実習・３	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。（４５分）	作品完成へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
7	イラストレーションタッチ，表現研究・１。 コラージュ手法実習・４。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
8	イラストレーションタッチ，表現研究・１。 コラージュ手法実習・４。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
9	イラストレーションタッチ，表現研究・２。 ペインティング手法実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
10	イラストレーションタッチ，表現研究・２。 ペインティング手法実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。（４５分）
11	イラストレーションタッチ，表現研究・２。 ペインティング手法実習・２。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
12	イラストレーションタッチ，表現研究・２。 ペインティング手法実習・２。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
13	イラストレーションタッチ，表現研究・２。 ペインティング手法実習・３。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
14	イラストレーションタッチ，表現研究・２。 ペインティング手法実習・３。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	作品完成へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
15	イラストレーションタッチ，表現研究・２。 ペンティング手法実習・４。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	作品完成へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
16	イラストレーションタッチ，表現研究・２。 ペンティング手法実習・４。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	イラストレーションタッチ，表現研究・３。 その他の描写手法実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
18	イラストレーションタッチ，表現研究・３。 その他の描写手法実習・１。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
19	イラストレーションタッチ，表現研究・３。 その他の描写手法実習・２。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）
20	イラストレーションタッチ，表現研究・３。 その他の描写手法実習・２。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
21	イラストレーションタッチ，表現研究・３。 その他の描写手法実習・３。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）
22	イラストレーションタッチ，表現研究・３。 その他の描写手法実習・３。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
23	イラストレーションタッチ，表現研究・３。 その他の描写手法実習・４。作品提出。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
24	イラストレーションタッチ，表現研究・３。 その他の描写手法実習・４。作品提出。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
25	オリジナルイラストレーション制作・１ 様々な画材を使って画材の併用，多様性の併用を研究。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
26	オリジナルイラストレーション制作・１ 様々な画材を使って画材の併用，多様性の併用を研究。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
27	オリジナルイラストレーション制作・２ 様々な画材を使って画材の併用，多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
28	オリジナルイラストレーション制作・２ 様々な画材を使って画材の併用，多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
29	オリジナルイラストレーション制作・３ 様々な画材を使って画材の併用，多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
30	オリジナルイラストレーション制作・３ 様々な画材を使って画材の併用，多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。（４５分）	実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
31	総合プレゼンテーション（各作品についてのプレゼン実施），作品講評，作品提出。	作品の完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
32	総合プレゼンテーション（各作品についてのプレゼン実施），作品講評，作品提出。授業アンケート実施。	作品の完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ社会学 （科目ナンバリング：SPS422061，SPS512011 ）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階研究室	
単位数	2 （単位認定責任者： 戸佐　晃一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

スポーツ全体と社会の関わりを理解し、スポーツの価値・魅力、地域社会への貢献などを考え、認識を深めることにより、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

スポーツへの関心を高め、スポーツ全体と社会の関わりを理解できる。

授業全体の内容と概要

スポーツを楽しむ、参加する、応援するなど、多様な関わり方を理解し、各々のスポーツ観を向上させる。

授業の方法

授業の前段として、折々の主なスポーツニュースについてその背景や重要な視点を解説する。そのあと、全体の授業計画に基づく各回のテーマについて講義する。
またレポート提出も数回行う。
なお、資料にて説明したことをもとに、プレゼンテーションやディスカッション、調査学習を用いた講義を展開する。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻（１５分）は２回につき１回の欠席。私語は厳禁。携帯・タブレットの持ち込みは許可するが必要のない場合の使用は禁ずる。レポートを期限に提出しない場合は不合格とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、１３回以上
小・中・最終レポート、出席回数を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツと社会との関連	積極的にスポーツと社会との関連性を理解し、自分の考え方、主張を持っていた。	スポーツと社会との関連性を理解しており、自分の考え方、主張を持つため、資料等を収集していた。	スポーツと社会との関連性を概ね理解することができた。	スポーツと社会との関連性に関心を持ち、少し理解することができた。	関心が薄く、ほとんど興味を示さなかった。
オリンピックへの理解	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで理解し、今大会を解析していた。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで概ね理解していた。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解していた。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解しようと努力していた。	オリンピック・パラリンピックに興味を示さなかった。
スポーツと地域貢献	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にとのような影響をもたらすかについて、自分の考え方、主張を持っていた。	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にとのような影響をもたらすかについて、資料等を収集していた。	スポーツと地域の結びつきを概ね理解していた。	スポーツと地域の結びつきに一定の理解を示し始めていた。	スポーツと地域の結びつきや、スポーツが地域活性化にどんな影響をもたらしているかなどに全く関心がなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ社会学 （科目ナンバリング：SPS422061，SPS512011 ）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階研究室	
単位数	2 （単位認定責任者： 戸佐　晃一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンスとスポーツの意義（スポーツの社会性・	体協のテキスト「共通科目Ｉ」を見る（９０分）	シラバス全体を見る（９０分）
2	世界、日本のスポーツの歴史・発展の歩み（戦争、ゲリラ等も含めて）小レポートの提出	同「共通科目II」に目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
3	東京オリンピック・パラリンピックの展望㊤	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
4	東京オリンピック・パラリンピックの展望㊦（問題点、課題も）小レポートの提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
5	障害者全体にパラリンピックが及ぼす影響	前回のプリントに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
6	「文化」としてのスポーツ（拡がる共鳴、政治化）小レポートの提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
7	スポーツの４つの柱（する、みる、支える、知る）	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
8	スポーツと人権（差別、体罰、ＬＧＢＴなど）前半の振り返りレポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
9	現代スポーツの多面性（スポンサー、放映権など）	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
10	新スポーツの誕生や底辺の拡大、小レポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
11	生涯スポーツ（子どもから高齢者）と生きがい	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
12	アマチュアスポーツとプロスポーツ、小レポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
13	学校部活動問題	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
14	スポーツ指導者制度、小レポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
15	後半授業の振り返り 授業改善アンケートの実施	前回のノートに目を通す（９０分）	これまでのノートを読み返し振り返る（９０分）
16	最終レポート課題の説明とまとめ	これまでのノートをじっくり読み返す（９０分）	これまでの授業のまとめ（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・１		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ社会学（SP） （科目ナンバリング：SPS422061，SPS512011 ）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階研究室	
単位数	2 （単位認定責任者： 戸佐　晃一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

スポーツ全体と社会の関わりを理解し、スポーツの価値・魅力、地域社会への貢献などを考え、認識を深めることにより、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

スポーツへの関心を高め、スポーツ全体と社会の関わりを理解できる。

授業全体の内容と概要

スポーツを楽しむ、参加する、応援するなど、多様な関わり方を理解し、各々のスポーツ観を向上させる。

授業の方法

授業の前段として、折々の主なスポーツニュースについてその背景や重要な視点を解説する。そのあと、全体の授業計画に基づく各回のテーマについて講義する。
またレポート提出も数回行う。
なお、資料にて説明したことをもとに、プレゼンテーションやディスカッション、調査学習を用いた講義を展開する。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻（１５分）は２回につき１回の欠席。私語は厳禁。携帯・タブレットの持ち込みは許可するが必要のない場合の使用は禁ずる。。レポートを期限に提出しない場合は不合格とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと
修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は、１３回以上
小・中・最終レポート、出席回数を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	70%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツと社会との関連	積極的にスポーツと社会との関連性を理解し、自分の考え方、主張を持っている。	スポーツと社会との関連性を理解しており、自分の考え方、主張を持つため、資料等を収集している。	スポーツと社会との関連性を概ね理解することができる。	スポーツと社会との関連性に関心を持ち、少し理解することができる。	関心が薄く、ほとんど興味を示さない。
オリンピックへの理解	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで理解し、今大会を解析している。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点だけでなく、歴史・戦争・紛争の影響まで概ね理解している。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解している。	オリンピック・パラリンピックの意義や問題点を理解しようと努力している。	オリンピック・パラリンピックに興味を示さない。
スポーツと地域貢献	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にとのような影響をもたらすかについて、自分の考え方、主張を持っている。	スポーツと地域の結びつきを理解しており、スポーツが地域活性化にとのような影響をもたらすかについて、資料等を収集している。	スポーツと地域の結びつきを概ね理解している。	スポーツと地域の結びつきに一定の理解を示し始めている。	スポーツと地域の結びつきや、スポーツが地域活性化にどんな影響をもたらしているかなどに全く関心がない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・１		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ社会学（SP）	（科目ナンバリング：SPS422061，SPS512011　　）			
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階研究室	
単位数	2	（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンスとスポーツの意義（スポーツの社会性・	体協のテキスト「共通科目Ｉ」を見る（９０分）	シラバス全体を見る（９０分）
2	世界、日本のスポーツの歴史・発展の歩み（戦争、ゲリラ等も含めて）小レポートの提出	同「共通科目II」に目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
3	東京オリンピック・パラリンピックの展望㊤	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
4	東京オリンピック・パラリンピックの展望㊦（問題点、課題も）小レポートの提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
5	障害者全体にパラリンピックが及ぼす影響	前回のプリントに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
6	「文化」としてのスポーツ（拡がる共鳴、政治化）小レポートの提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
7	スポーツの４つの柱（する、みる、支える、知る）	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
8	スポーツと人権（差別、体罰、ＬＧＢＴなど））前半 の振り返りレポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
9	現代スポーツの多面性（スポンサー、放映権など）	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
10	新スポーツの誕生や底辺の拡大、小レポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
11	生涯スポーツ（子どもから高齢者）と生きがい	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
12	アマチュアスポーツとプロスポーツ、小レポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
13	学校部活動問題	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
14	スポーツ指導者制度、小レポート提出	前回のノートに目を通す（９０分）	講義の要点を整理する（９０分）
15	後半授業の振り返り 授業改善アンケートの実施	前回のノートに目を通す（９０分）	これまでのノートを読み返し振り返る（９０分）
16	最終レポート課題の説明とまとめ	これまでのノートをじっくり読み返す（９０分）	これまでの授業のまとめ（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学Ⅰ	（科目ナンバリング：SPS422064，SPS522059　　）			
授業担当者（所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

トレーニングは、働きかけの対象である身体機能を良く理解しなければ、効果が得られない場合もある。本講義では、トレーニングに関わる身体の仕組み・働きについて解説し、各種スポーツ、体力づくりに必要なトレーニングの基礎理論を理解させ、女性と運動、中高年における健康に対する構成要素の知識を学ぶと共に障害者における運動と健康についても詳しく学習する。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

身体機能の特性を理解し、トレーニングの原理・原則を熟知させ各人の性、年齢、体力、健康状態を考慮し、適正なトレーニングの処方計画を作成できるようにする。

授業全体の内容と概要

テキストを中心に授業を進め、授業の展開に応じて、レポートの提出やビデオを利用して理解を確実なものにする。

授業の方法

授業はパワーポイントを使用し、DVDの視聴、レポートなどの講義形式で実施する。
また、レポートへの対応はコメントや解説などでフィードバックを行う。
他にも、課題は講義内で学生に発表を行わせる。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します.
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します.

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目　スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格過程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
２５%	３０%	０%	２５%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修ひた知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学Ⅰ	（科目ナンバリング：SPS422064，SPS522059 ）			
授業担当者（所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2	（単位認定責任者：　篠原　諒介　）	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明 体力とは	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
2	トレーニングの進め方（原理、原則、トレーニング処方）	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
3	トレーニングの種類	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
4	運動器のしくみと働き①　筋・骨格・神経系のしくみと働き	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
5	運動器のしくみと働き②　間接・運動器の機能	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
6	運動器のしくみと働き③　神経のコントロール	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
7	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給①　呼吸循環器系の働き	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
8	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給②　エネルギーの供給	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
9	スポーツバイオメカニクスの基礎（歩く、走る、跳ぶ、泳ぐ、投げる、蹴るなど）	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
10	中高年者とスポーツ	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
11	女性とスポーツ①　身体的特徴について	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
12	女性とスポーツ②　心理的特徴について	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
13	女性とスポーツ③　トレーナビリティとプログラム	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
14	障害者とスポーツ①　障害者の理解	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
15	障害者とスポーツ①　障害者の理解	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
16	テスト及び解説 ６０分の試験終了後、残り３０分で解説 授業改善アンケートの実施	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝﾂｰﾙ （科目ナンバリング：S0F321114 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者：　佐藤　善太郎　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

４年間をとおして建築表現に必要不可欠なデジタルデバイスによる表現方法を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

基本的なデジタルプレゼンテーションツールを自在に操れることができる。

授業全体の内容と概要

コンピュータ操作の初歩として，コンピュータOSやその周辺の知識修得とデジカメやスキャナを使用したプレゼンテーションを行う。
「SDG11. 住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

毎回テキストに沿いながら、担当者のサイトを参照し、そこからデータをダウンロードして課題制作を行う。発表会形式での講評会を実施し、課題提出先は担当者の指定フォルダにアップロードすることにより完結する。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書はもちろん，各自ＵＳＢメモリを携行のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(単位認定に必要となる最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
明確なプレゼンテーションと説明によって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	明快で美しいプレゼンテーションと説明により、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。
デジタルツールによって自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	デジタルツールによって、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。
課題の意図を理解して的確に企画を立案できるか。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することができた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することがほぼできた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することがある程度以上できた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することがある程度できた。	課題の意図を理解して的確に企画を立案することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝﾂｰﾙ （科目ナンバリング：S0F321114 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　善太郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『今すぐ使えるかんたんPhotoshop Elements 15』	技術評論社編集部	技術評論社	2016	9784774185392	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 コンピュータOS，コンピュータデバイス，コンピュータメディア	オリエンテーション時に指示の資料を熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	基本操作その１／画像の加工	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
3	基本操作その２／案内図の作成	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
4	基本操作その３／Photoshopの原理	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
5	扱う画像の種類と用途	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
6	レイヤの概念	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
7	画像編集の基礎	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
8	画像編集の応用	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
9	文字の入力編集	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
10	スキャナによる画像取込	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
11	パノラマの作成とストリートビュー	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
12	クリスマスカードの製作と年賀状の製作	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
13	他のソフトとPhotoshopとの連携／JW	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
14	他のソフトとPhotoshopとの連携／Vector	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
15	マンション広告の作成 授業改善アンケートの実施	配布資料・テキスト熟読(45分)	当日制作課題のデータ整理(45分)
16	講評会	講評会準備（45分）	振返りレポート作成（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年（留学生対象）		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語Ⅰ （科目ナンバリング：JLN051038 ）				
授業担当者（所属・職名）	髙橋　真弥（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1 （単位認定責任者：　佐藤　恵利・髙橋　真弥 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本語Ⅰ		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

日本語でのレポートやレジュメの書き方、ＰＰＴの作成、授業内発表など、学生が大学生活を送るうえで必要なスキルや語彙力を身につける。また、授業内容は日本に関することに限らず日本国外の文化・歴史も例にあげ、幅広いジャンルで学ぶ。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

日本語の文章を読む・書くことで語彙力を広げ、レポート等の課題を通して文章作成の基礎を習得し、授業内の発表を通して説明や質疑応答といったプレゼンテーション能力を身につける。

授業全体の内容と概要

担当教員が様々なテーマのもと、各発表形式（レポート、レジュメ、ＰＰＴ）を使用して講義を行う。それを参考に、学生自身がテーマを選んで報収収集し、発表を行う。授業内容は時事問題やエンタメ、サブカル、日本や日本以外の国の文化比較など、様々なジャンルに渡る。

授業の方法

教科書の購入はなく、授業内で使用する教材は担当教員が準備する。講義形式で授業を行い、参考資料を読みながら練習問題を解き、日本語能力を上げていく。テーマに沿ったディスカッションでは、積極的に学生に発言させ、学生主体の授業進行とする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。３０分の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数１６回のうち、単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上とする。授業最終日（１６回目）に期末試験を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３５%	３５%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
日本語の知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった。	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まなかった。
思考力・判断力・日本語の表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年（留学生対象）		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語Ⅰ （科目ナンバリング：JLN051038 ）				
授業担当者（所属・職名）	髙橋　真弥（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　恵利・髙橋　真弥 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本語Ⅰ		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『思考を鍛えるレポート論文作成法［第3版］』	井下千以子	慶應義塾大学出版会	2019年	9784766425772	購入の必要なし
2	『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド』	佐渡島 紗織・坂本 麻裕子・大野 真澄	大修館書店	2015年	9784469222449	購入の必要なし
3	『大学１年生の君が、はじめてレポートを書くまで』	川崎昌平	ミネルヴァ書房	2020年	9784623088898	購入の必要なし
4	『「うまい文章」の共通ルールがゼロから身につく 伝わる文章術見るだけノート』	山口拓朗	宝島社	2021年	9784299018359	購入の必要なし
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む（４５分）	授業内容復習（４５分）
2	文章の書き方・構成①	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
3	文章の書き方・構成②	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
4	文章の書き方・構成③	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
5	小論文作成	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
6	小論文フィードバック	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
7	レジュメの書き方～基本の形・テーマ決め・内容～	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
8	レジュメの作成・発表・書き直し①	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
9	レジュメの作成・発表・書き直し②	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
10	レポートの書き方～基本の形・テーマ決め・内容～	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
11	レポートの作成・発表・書き直し①	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
12	レポートの作成・発表・書き直し②	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
13	パワーポイントの作り方～基本の形・テーマ決め・内容～	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
14	パワーポイントの作成・発表①	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
15	パワーポイントの作成・発表②	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）
16	まとめ・復習 授業改善アンケートの実施	資料の確認（４５分）	授業内容復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理学と心理的支援　（科目ナンバリング：PSG111006　）				
授業担当者（所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉澤　英里　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。
②人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。
③日常生活と心の健康との関係について理解する。
④心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP３、DP４に対応する。（２０２４年度）

到達目標

人の基本的な心の仕組みと機能、アセスメント等の支援方法を理解する。

授業全体の内容と概要

心理学のテーマは多岐にわたる。そこで、本授業ではソーシャルワークに深く関連する事項に絞り、人の心の仕組みと働きについて学ぶ。さらに、心理学理論を基礎とした支援方法について理解する。
「SDGs３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

授業は講義形式で進行する。補助教材として、PowerPointによるスライドを用いる。このスライドは授業前にTeamsでデータ共有するため、必要な人は各自ダウンロードすること。スライドをプリント化して配布することはない。毎授業時間の最後に、コメントや質問、要望をMicroft Formsを活用して記入する。提出されたコメント等に対して、次回の冒頭、全体に向けてのフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書を必ず持参すること。授業の進行を著しく妨害する行為が認められた際は、成績評価から減点することがある。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程（必修）、精神保健福祉士国家試験受験資格課程（必修）、保育士養成課程（選択）

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	３０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
心理学と心理的支援の知識	授業で扱った専門知識について、非常に理解ができた。	授業で扱った専門知識について、よく理解ができた。	授業で扱った専門知識について、やや理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができていなかった。
表現方法の適切さ	授業で求められる文章表現の基準を極めて上回る水準で到達できた。	授業で求められる文章表現の基準をかなり上回る水準で到達できた。	授業で求められる文章表現の基準をやや上回る水準で到達できた。	授業で求められる文章表現の基準に到達できた。	授業で求められる文章表現の基準に到達できなかった。
授業への積極的参加	授業に対して、非常によく参加できた。	授業に対して、よく参加できた。	授業に対して、やや参加できた。	授業に最低限の参加ができた。	授業に参加できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理学と心理的支援　（科目ナンバリング：PSG111006　）				
授業担当者（所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉澤　英里　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『心理学と心理的支援（最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座）』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805882320	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	心理学の歴史と対象について シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	関連図書を熟読する（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
2	心を探究する方法の発展について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
3	心の生物学的基盤について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
4	感情・動機づけ・欲求について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
5	感覚・知覚について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
6	学習・行動について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
7	認知について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
8	個人差について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
9	人と環境について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
10	生涯発達について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
11	心の発達の基盤について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
12	心の不適応について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
13	心理アセスメントについて	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
14	心理的支援の基本的技法について	示されたキーワードを調べる（９０分）	授業内容を振り返り、疑問点をまとめる（９０分）
15	心理療法について 授業改善アンケートの実施	示されたキーワードを調べる（９０分）	これまでの内容をまとめる（９０分）
16	６０分の試験後、残り時間で解説を行う	これまでの内容を整理する（９０分）	これまでの内容を振り返る（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 戸佐　晃一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

本授業では、体力・形態測定を実施することで自己の体力を把握し足りない体力の強化に向けて、様々なトレーニング方法の応用的な理論と実践方法について学習する。また、生涯にわたって運動習慣を継続することで高齢になっても健康で長寿であることを目的とする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

各自、無理のない体力目標を設定し、様々なトレーニング方法の応用を理解し実践できることを目標とする。生涯を通じて定期的に運動する習慣を養う。

授業全体の内容と概要

体力測定、形態測定により自分の体の状態を知る。
様々な種類のトレーニングに関する応用理論を学び、正しいトレーニングの方法を学習する。

授業の方法

教室、体育館を中心に授業を行う。様々なトレーニング方法をグループワークによる実践を通して、課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではタブレット、スマートフォンの活用をすることで正しい技術を習得できるように進めていく。レポートなどの解説のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

競技経験があり体力があること。遅刻は２回につき１回欠席とする。運動着、飲料水、上靴、タオルの用意。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ウエイトトレーニングの応用	ウエイトトレーニングの応用が良くできている	ウエイトトレーニングの応用がほぼできている	ウエイトトレーニングの応用力がある程度できている	ウエイトトレーニングの応用ができている	ウエイトトレーニングの応用ができない
体幹トレーニングの応用	体幹トレーニングの応用が良くできている	体幹トレーニングの応用がほぼできている	体幹トレーニングの応用がある程度できている	体幹トレーニングの応用ができている	体幹トレーニングの応用ができない
ラダートレーニングの応用	ラダートレーニングの応用が良くできている	ラダートレーニングの応用がほぼできている	ラダートレーニングの応用がある程度できている	ラダートレーニングの応用ができる	ラダートレーニングの応用ができない

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 戸佐　晃一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	個人面談（前期成績・学生生活など）	前期成績を確認しておく（４５分）	前期成績を把握しておく（４５分）
3	個人面談（前期成績・学生生活など）	前期成績を確認しておく（４５分）	前期成績を把握しておく（４５分）
4	ウエイトトレーニングの応用Ⅰ	ウエイトトレーニングの応用を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
5	ウエイトトレーニングの応用Ⅱ	ウエイトトレーニングの応用を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
6	ウエイトトレーニングの応用Ⅲ	ウエイトトレーニングの応用を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
7	体幹トレーニングの応用Ⅰ	体幹トレーニングの応用を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
8	体幹トレーニングの応用Ⅱ	体幹トレーニングの応用を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
9	体幹トレーニングの応用Ⅲ	体幹トレーニングの応用を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
10	SPI性格検査の実施（キャリア支援センター）	ＳＰＩ検査について調べる。（４５分）	ＳＰＩ検査受検の感想を書く。（４５分）
11	ラダートレーニングの応用Ⅰ	ラダートレーニングの応用を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
12	ラダートレーニングの応用Ⅱ	ラダートレーニングの応用を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
13	体力測定	体力測定種目の確認をしておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
14	形態測定	形態測定種目の確認をしておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業内容を振り返り確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）
16	フィードバック	体力・形態測定結果を確認しておく（４５分）	学習内容を復習し理解しておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 米野　宏 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマで実践発表を行い、反省やディスカッションも行う。グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。 なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上遅刻は欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨んでほしい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１０%	１０%	０%	７０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 米野　宏 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における体育・健康・スポーツ関係の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を再度確認する。（４５分）
2	レポート作成 （高齢者とスポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
3	レポートの発表とディスカッション　１ （高齢者とスポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
4	レポートの発表とディスカッション　２ （高齢者とスポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
5	レポートの発表とディスカッション　３ （高齢者とスポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
6	ニュースポーツの実践発表準備　１ （新しい高齢者スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
7	ニュースポーツの実践発表準備　２ （新しい高齢者スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
8	ニュースポーツの実践発表準備　３ （新しい高齢者スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
9	ニュースポーツの実践発表　１ （新しい高齢者スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
10	SPI性格検査の実施（キャリア支援センター）	ＳＰＩ検査について調べる。（４５分）	ＳＰＩ検査受検の感想を書く。（４５分）
11	ニュースポーツの実践発表　２ （新しい高齢者スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
12	ニュースポーツの実践発表　３ （新しい高齢者スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
13	ニュースポーツの実践発表　４ （新しい高齢者スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
14	ニュースポーツの実践発表　５ （新しい高齢者スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
15	ニュースポーツの実践発表　６ （新しい高齢者スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
16	ふりかえり 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度確認する。	評価等に関する解説を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　和裕 ）		CAP制	演習	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

「健康とスポーツ」というテーマを基に、学生と教員双方の人間関係を築き、また大学での学習を進めるにあたり、コミュニケーション能力や思考力・判断力・表現力の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

健康とスポーツについて理解し知識を身に付け、自分に必要な課題探求の道筋を明らかにする事ができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は健康とスポーツに関しての学生の実態調査を行い。
後半は健康とスポーツに関しての学生の実態調査のアンケートをまとめ、発表と意見交換を行う。
「ＳＤＧ　４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は配布資料で実施し、レポートの書き方については板書または資料にて説明する。
授業によってはグループワークで思考・考察・発表を行い学習していく。課題や発表に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。欠席をする場合は必ず事前に連絡すること。
注意事項の詳細についてはガイダンスにて説明する。
発表と意見交換の機会が多いので、主体的で能動的な姿勢で取り組むこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１０%	１０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康とスポーツについての基礎的な知識を深く理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を比較的理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を多少理解できた。	健康とスポーツについての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体的・多様性・協調性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　和裕 ）		CAP制	演習	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、将来に向け健康で豊かな生活を営んでいくための基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明）	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	健康とスポーツについての学生調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
3	健康とスポーツについての学生調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
4	健康とスポーツについての学生調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
5	健康とスポーツについての学生調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
6	健康とスポーツについての学生調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
7	健康とスポーツについての学生調査	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
8	中間報告	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
9	プレゼンテーションの準備（グループに分けて）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
10	ＳＰＩ性格検査の実施（キャリア支援センター）	ＳＰＩ検査について調べる。（４５分）	ＳＰＩ検査受検の感想を書く。（４５分）
11	プレゼンテーションの準備（グループに分けて）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
12	プレゼンテーションの準備（グループに分けて）	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
13	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
14	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
15	発表と意見交換	事前にシラバスを読んで確認し準備をする。（４５分）	ノートに記載されている内容を確認し理解しておく。（４５分）
16	まとめ	ノートに記載された内容を復習し理解する。（４５分）	評価の内容を確認し自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 三嶋　康嗣 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

大学での勉強を進めるにあたり、必要となる文章読解力のほか、コミュニケーション能力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力の向上をはかる。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

グループ内でのコミュニケーションを図ることができ、リーダーシップを発揮できる。
テーマに基づきプレゼンテーションをすることができる。

授業全体の内容と概要

授業の前半は、レポートを作成し発表する。また、発表に対して討議したり、ディスカッションを行う。
後半は、特定のテーマで実践発表を行い、反省やディスカッションも行う。グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、新聞やインターネットによるニュース等を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。
人前で話すための準備をし、解り易く、興味深い内容を考える。

授業の方法

小論文、レポートの書き方については、板書または資料にて説明する。提出されたレポートについては、添削及び内容の評価とともにフィードバックする。
グループディスカッションやプレゼンテーションの題材として、書籍や新聞、インターネット等の情報を提供しながら実施する。プレゼンテーションの方法については、授業のなかで学びとともに説明する。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上遅刻は欠席扱いとする。
対話する機会が多いので、積極的な発言や能動的な授業態度で臨んでほしい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１０%	１０%	０%	７０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
コミュニケーション能力	仲間とのコミュニケーションを図る方法がとても巧みにおこなえた。	仲間とコミュニケーションを図ることが比較的巧みにできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが普通にできた。	仲間とコミュニケーションを図ることが上手ではないが努力した。	仲間とコミュニケーションを図ることがとても苦手であった。
ディスカッション能力	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップも取れた。	討議の中で、対話を巧みにでき、リーダーシップもまずまず取れた。	討議の中で、対話を巧みにできたが、リーダーシップをとるまではいかなかった。	討議の中で、対話をすることが普通にできた。	討議の中で、対話をすることが苦手で、ほとんど受け身でおわった。
プレゼンテーション能力	パワーポイント等を巧みに使い、解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、比較的解り易く、興味深い内容でプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、解り易くプレゼンテーションを行った。	パワーポイント等を使い、プレゼンテーションを行ったが、多少伝わらなかった。	プレゼンテーションの準備がほとんどできていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 三嶋　康嗣 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	教育機関における健康・スポーツ関連の授業経験を活かし、学生の教養の基礎を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	注意事項を再度確認する。（４５分）
2	レポート作成 （生涯スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
3	レポートの発表とディスカッション　１ （生涯スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
4	レポートの発表とディスカッション　２ （生涯スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
5	レポートの発表とディスカッション　３ （生涯スポーツ）	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
6	生涯スポーツの実践発表準備　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
7	生涯スポーツの実践発表準備　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
8	生涯スポーツの実践発表準備　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
9	生涯スポーツの実践発表　１	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
10	SPI性格検査の実施（キャリア支援センター）	ＳＰＩ検査について調べる。（４５分）	ＳＰＩ検査受検の感想を書く。（４５分）
11	生涯スポーツの実践発表　２	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
12	生涯スポーツの実践発表　３	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
13	生涯スポーツの実践発表　４	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
14	生涯スポーツの実践発表　５	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
15	生涯スポーツの実践発表のフィードバック	シラバスを読んで確認と準備をする。（４５分）	ノートに記載された内容を確認する。（４５分）
16	ふりかえり 授業改善アンケートの実施	ノートに記載された内容を再度確認する。	評価等に関する解説を確認する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）	研究室等所在	１号館３階		
単位数	1 （単位認定責任者： 井坂　肇 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながら不足している体力要素を特定していく。さらには、その体力要素の向上のためのトレーニング方法を理解する。科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行うために、論文を読めるようにする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

トレーニング理論について理解できる。
課題解決のために他者と討議することができる。
トレーニングを実践することができる。
論文を読んで内容について理解することができる。

授業全体の内容と概要

スポーツパフォーマンスを最大化するために、データを活用しながらトレーニングを進めていく。論文を読み、科学的なエビデンスに基づいたトレーニングを行う。

授業の方法

講義はパワーポイント及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワークを行う。データやトレーニング方法について考察し、他者と共有する機会を設ける。
学生の不明点・質問は、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１５分以上の遅刻は欠席とみなす。
遅刻２回で１回の欠席とみなす。
トレーニングデータの題材として野球の投手を利用することがある。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的なエビデンスに基づいたトレーニングの理解	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめていた。また様々なケースにおいて採用されたトレーニングの方法について意見を持てていた。	トレーニング理論を説明できると共に、トレーニングを構成する様々な要素について調べ、まとめていた。	トレーニング理論を説トレーニングを構成する様々な要素について調べていた。	トレーニング理論を説明できた。	トレーニング理論を説明できなかった。
他者との討議	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。さらには新たな課題を自ら発見し、他者との討議の場を生み出すことができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示的ると共に、意見を集約してまとめることができた。	他者と討議しながら解決のための具体策を提示できた。	他者と討議できた。	他者と討議できなかった。
データに対する思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを達成した。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	井坂　肇（経営学科・助教）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 井坂　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	シラバスの内容を理解しておく（４５分）
2	エビデンスに基づいたトレーニング④ 論文の読み方④	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
3	エビデンスに基づいたトレーニング⑤ 論文の読み方⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
4	エビデンスに基づいたトレーニング⑥ 論文の読み方⑥	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
5	エビデンスに基づいたトレーニング⑦ 論文の読み方⑦	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
6	トレーニングデータの収集と理解⑥ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
7	トレーニングデータの収集と理解⑦ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
8	トレーニングの実践⑤	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
9	トレーニングの実践⑥	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
10	SPI性格検査の実施（キャリア支援センター）	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
11	トレーニングデータの収集と理解⑧ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
12	トレーニングデータの収集と理解⑨ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
13	トレーニングの実践⑦	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
14	トレーニングの実践⑧	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
15	トレーニングデータの収集と理解⑩ データ解釈のグループワーク	学習内容に関連する事柄について調べておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	講義全体を振り返り質問事項をまとめておく（４５分）	学習内容について振り返りまとめておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 篠原　諒介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

動作の質的測定を行うためのシステム「ファンクショナルムーブメントスクリーン:FMA」と「セレクティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメント:SFMA」を理解する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

様々な対象者の動作パターンを調べ、一貫性のある基準を用いて問題の有無を判断する方法と、その問題を修正するために適切なエクササイズを見つける。

授業全体の内容と概要

日本においてもファンクショナルムーブメントスクリーンは、プロのアスリートだけでなく一般のスポーツ愛好家にも行われるようになってきているが、医療の専門家の中ではまだ十分に認識されていないのが現状である。スポーツやフィットネス、リハビリテーションには様々な専門分野の人が関わっているが、ファンクショナルムーブメントスクリーンとセレクティブ・ファンクショナルムーブメントアセスメントはこのような専門分野の溝を埋めるツールとなりうることを理解し、自身の競技力向上に繋げる。

授業の方法

・各回のテーマについてテキストを使用しながら講義をし、さらに、理解を深めるために医学的ビデオも視聴します。
・授業はパワーポイントを使用し、ＤＶＤの視聴、レポートなどの講義形式で実施します.
・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します.
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します.

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻３回で１回の欠席とみなします。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修ひた知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 篠原　諒介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
2	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
3	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
4	FMSとSFMAの理解と習得 FMSのデザイン③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
5	FMSとSFMAの理解と習得 ４つの基本的なフィルター①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
6	FMSとSFMAの理解と習得 ４つの基本的なフィルター②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
7	FMSとSFMAの理解と習得 ４つの基本的なフィルター③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
8	FMSとSFMAの確認	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
9	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
10	SPI性格検査の実施（キャリア支援センター） FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
11	FMSとSFMAの実践 実施中の疼痛や違和感③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
12	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化①	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
13	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化②	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
14	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化③	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
15	FMSとSFMAの実践 採点方法－結果の序列化④	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	測定準備と論文の読み込み（４５分）	本時の学習内容をまとめて提出する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 後藤　啓倫 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

前期のⅡAに引き続き、大学での学習の基礎になる、文献の読み方、発表の仕方、議論の仕方、レポートの書き方等の技能を修得する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。
自分で調べ構想したことを、レジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。

授業全体の内容と概要

前期のⅡAに引き続き、講義の受け方・レポート作成方法といった学習のためのスキル、自発的に問題を発見し解決する力といった、大学生としてふさわしい能力や姿勢を修得するために、このゼミナールでは、学生自身によるテキストの読解、内容の報告、参加者による討論、レポートの作成を行う。

授業の方法

授業は次のように進める。
①報告者はテキストの内容要約と議論すべきポイントに関するプレゼンテーションを行う。
②司会役の進行の下、報告者のプレゼン内容について参加者全員で討論をする。
③担当教員による講評を行う。
④レポート作成に向けた準備を進める。
輪読するテキストは、社会福祉と政治・行政に関する文献のなかから受講生と相談の上で決める。
Teamsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回出席することが前提となるが、やむを得ず欠席する場合には、担当教員に必ず事前連絡すること。無断欠席は厳禁。
自主的な参加が求められるので、テキストは必ず事前に読んでおくこと。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自分で調べ構想したことを、レジュメやパワーポイントを使用して効果的に発表できる。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、的確にまとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心をよく理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、部分的に問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできた。	プレゼンテーション等において、問題の核心を理解し、まとめたり発表したりできなかった。
学習の基礎となる読解力や要約力、文章構成力や論理的思考力を身につける。	独創的な着眼点で設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	工夫を凝らして設定されたテーマに基づいてレポートが作成された。	テーマ設定ができたレポートが作成された。	テーマ設定が概ねできたレポートが作成された。	レポートの提出がなされなかった。
自主的に学び、情報収集・分析し、課題解決のための方策を他者と協力しつつ考える能力を身につける。	積極的に討論に参加し、リーダシップを発揮できた。	他者に協力しながら積極的に討論に参加することができた。	積極的に討論に参加することができた。	討論に参加することができた。	討論に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰルⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 後藤　啓倫 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						相談の上決定。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、テキストの決定	シラバスを読む。（４５分）	議論内容の整理（４５分）
2	テキストの内容報告と討論（1）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
3	テキストの内容報告と討論（2）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
4	テキストの内容報告と討論（3）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
5	テキストの内容報告と討論（4）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
6	テキストの内容報告と討論（5）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
7	テキストの内容報告と討論（6）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
8	テキストの内容報告と討論（7）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
9	テキストの内容報告と討論（8）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
10	SPI性格検査の実施（キャリア支援センター）	実施要領の確認（４５分）	検査のふり返り（４５分）
11	テキストの内容報告と討論（9）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
12	テキストの内容報告と討論（１０）	テキストの熟読（４５分）	議論内容の整理（４５分）
13	レポートの進捗状況の報告（1）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
14	レポートの進捗状況の報告（2）	関連資料の収集（４５分）	議論内容の整理（４５分）
15	レポート作成（1）	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の準備（４５分）
16	レポート作成（2）	レポート（課題）の準備（４５分）	レポート（課題）の仕上げ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 杉本　大輔 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

本ゼミナールでは数学の歴史的概要と基本的ターム及び理論経済学における基本的な用法を学習することによって、論理的思考方法の構築する。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

・数学の歴史的外観を理解できる。
・数学の持つ論理性を理解できる。
・背理法、必要条件、十分条件、帰納法、逆・裏・対偶について理解できる。
・数学と近代経済学の関係を理解できる。

授業全体の内容と概要

小室直樹『数学嫌いの人のための数学ー数学原論ー』（東洋経済）『数式を使わない数学の講義』（ワック出版）を基本参考文献とする。その他『Newton』等の科学雑誌を参考資料とする。音読を基本とする購読を主に、必要に応じて教員が説明を加え、ディスカッションを行う。

授業の方法

・音読を基本とする購読を主に、必要に応じて教員が説明を加え、ディスカッションを行う。
・ゼミで使用するプリントは前の回に配布する。熟読することが望ましい。
・学生の要望には可能な限り対応するが、教育上好ましくない要望には応えられない。
・不測の事態が生じたときは、補講、オンライン等で講義を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

主体的・積極的参加を望む。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の最低出席条件１０回以上をクリアする

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	３０%	７０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
数学の歴史を理解する。	ディスカッションにおいて自分の意見を言えるだけでなく、他者の意見に対して、明確で筋の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を表現できた。	世界史における数学の位置づけを理解できた。	ゼミナールの内容を説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
形式論理学について理解する。	ディスカッションにおいて自分の意見を言えるだけでなく、他者の意見に対して、明確で筋の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を表現できた。	命題、逆、裏、対偶についての知識を取得することができた。	ゼミナールの内容を説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
数学と経済学との関連を理解する。	ディスカッションにおいて自分の意見を言えるだけでなく、他者の意見に対して、明確で筋の通った指摘ができた。	ディスカッションにおいて自分の意見を表現できた。	必要条件、十分条件、背理法、帰納法についての基礎的知識を習得できた。	ゼミナールの内容を説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 杉本　大輔 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『数学が嫌いな人のための数学』	小室直樹	東洋経済新報社	２００１年	4-492-27205-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明	高校数学の復習（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
2	数学の論理の源泉ー古代宗教から生まれた数学の論理ー１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
3	数学の論理の源泉ー古代宗教から生まれた数学の論理ー２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
4	論理とは神との論争の技術１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
5	論理とは神との論争の技術２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
6	数学と近代資本主義１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
7	数学と近代資本主義２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
8	数学と近代資本主義３	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
9	証明の技術１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
10	SPI性格検査の実施（キャリア支援センター）	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
11	証明の技術２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
12	証明の技術３	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
13	数学と近代経済学１	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
14	数学と近代経済学２	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
15	数学と近代経済学３	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）
16	数学と近代経済学４	前回資料の読み込み（４５分）	配布資料の読み込み（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 横田　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

前期のⅡAに引き続き、学生が世界と日本の歴史と文化の基礎について理解し、プレゼンテーションと文章作成の基礎的な能力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

受講者が世界と日本の歴史と文化の基礎的な知識を理解、習得し、学んだことを発信できるようになる。合わせて、プレゼンテーション、文章作成の基礎的な能力が身に付く。

授業全体の内容と概要

毎回、受講者が世界と日本の歴史と文化の基礎の学習（文献調査）を行い、合わせて、プレゼンテーション、文章作成のトレーニングを行う。

授業の方法

毎回、1）受講者による文献調査、2）プレゼンテーション、質疑応答、3）教員による補足、講評（フィードバック）を行う。
適宜、文章作成の練習も取り入れる。　※プレゼンテーションでは板書、スライド、ボードを使用する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	２０%	６０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
情報収集・整理の能力	多様で正確な情報収集と分析、編集、整理ができ、的確な発信ができた。	正確な情報収集・整理と適切な発信ができた。	情報収集・整理と発信の基本が身に付いた。	指示によって情報収集・整理と発信ができた。	指示による情報収集・整理、発信ができなかった。
コミュニケーション・プレゼンテーション能力	的確な議論ができ、明確なプレゼンテーション、応答ができた。	適切な議論、プレゼンテーションができた。	議論とプレゼンテーションの基本が身に付いた。	指示によって議論とプレゼンテーションが遂行できた。	指示による議論とプレゼンテーションができなかった。
歴史と文化の理解・認識	ヨーロッパの歴史と文化に関する広く深い理解ができており、発展的な学習ができた。	ヨーロッパの歴史と文化に関する理解ができており、発展的な学習が期待できた。	ヨーロッパの歴史と文化に関する基本的な理解ができた。	指示によってヨーロッパの歴史と文化の基礎が理解できた。	指示によるヨーロッパの歴史と文化の理解ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 横田　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						教科書なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示する
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、ヨーロッパの歴史と文化の基礎に関する講義。	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
2	ヨーロッパの歴史と文化の基礎に関する講義。	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
3	受講者による調査とプレゼンテーション（１）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
4	受講者による調査とプレゼンテーション（２）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
5	受講者による調査とプレゼンテーション（３）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
6	受講者による調査とプレゼンテーション（４）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
7	受講者による調査とプレゼンテーション（５）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
8	受講者による調査とプレゼンテーション（６）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
9	受講者による調査とプレゼンテーション（７）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
10	SPI性格検査実施（キャリア支援センター）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
11	受講者による調査とプレゼンテーション（８）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
12	受講者による調査とプレゼンテーション（９）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
13	受講者による調査とプレゼンテーション（10）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の予習（４５分）	ヨーロッパの歴史の基礎的事項の復習（４５分）
14	受講者による調査とレポート作成（１）	レポート作成の準備（４５分）	レポート作成の準備（４５分）
15	受講者による調査とレポート作成（２）	レポート作成の準備（４５分）	レポート作成の準備（４５分）
16	受講者による調査とレポート作成（３）	レポート作成の準備（４５分）	レポートの仕上げ（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 櫻井　美帆子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉実践の現場で、必要な社会的なマナーを学ぶとともに、基礎的なチームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023年度)

到達目標

①福祉従事者に求められる態度と人柄を理解する。
②他者との共働に必要な要件を身につける。

授業全体の内容と概要

①基本的な社会常識を身に着ける。
②福祉従事者に求められる資質について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①基本はテーマに沿ったグループワークでの展開を基本とする。グループで議論した内容をまとめ、代表者が発表する展開とする。
②一部、講義形式で展開をする。講義の際には随時事質問を行うので、答えること。
③随時、記録物を提出する。記録物はコメントを添えて返却する。
④授業毎に使用する資料を配布する。
⑤不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①３０分以上の遅刻は欠席とする。
②出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。
③不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
一般的な社会常識を身につける。	成人として、常識をわきまえた行動ができた。	大学生としての常識をわきまえた行動ができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
対人技能の基本を身につける。	社会人として求められる人間関係の理解及び福祉従事者として特に留意する点について述べることができた。	社会人に求められる人間関係の理解ができた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
クラスのメンバーと協働できる。	状況に応じ、リーダーシップをとったり、他者へのサポートができた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 櫻井　美帆子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 大学生活を送る上で必要なマナー①	大学生としてふさわしいふるまいにとは何か考える。（４５分）	ノートを整理する。（４５分）
2	大学生活生活をを送る上で必要なマナー② 明るさを備える。	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。（４５分）	ノートを整理する。（４５分）
3	大学生活を送る上で必要なマナー③ 誠実さを備える。	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。（４５分）	ノートを整理する。（４５分）
4	大学生活を送る上で必要なマナー④ 良識を持つ	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。（４５分）	ノートを整理する。（４５分）
5	大学生活を送る上で必要なマナー⑤ 素直な態度を心得る。	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。（４５分）	ノートを整理する。（４５分）
6	大学生としてのマナー⑥ 清潔感に磨きをかける。	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。（４５分）	ノートの整理をする。（４５分）
7	中間まとめ	１回から８回の内容を振り返り、疑問点や議論を深めたい内容をまとめる。（４５分）	授業で学んだことを意識し、目上の人と話会話する。（４５分）
8	社会人としてのマナー① 社会人意識とは	次回のテーマについて自分の意見をまとめる。（４５分）	ノートを整理する。（４５分）
9	社会人としてのマナー② 社交儀礼	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	ノートを整理する。（４５分）
10	ＳＰＩ性格検査実施（キャリア支援センター）	性格を自己分析する。（４５分）	友人から自分の性格について意見を受ける。（４５分）
11	社会人としてのマナー③ 社内の人間関係	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	ノートを整理すノートを整理する。（４５分）
12	社会人としてのマナー④ 社外の人間関係	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	ノートを整理する。（４５分）
13	社会人としてのマナー⑤ 事例検討	１１回、１２回の内容を振り返る（４５分）	（クラスのメンバーの意見と自分の意見を比較し考察する。（４５分）
14	社会人としてのマナー⑥ 接遇実践の基本	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	ノートを整理する。（４５分）
15	社会人としてのマナー⑦ 接遇実践の実際	次回の内容について、書籍やインターネットで調べる。（４５分）	ノートを整理する。（４５分）
16	まとめ	１回から１５回までの授業内容を振り返り、疑問点や議論したい点をまとめる。（４５分）	この授業で学んだ事を振り返り、３年生へ向けた自己の課題を明確化する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 湯浅　頼佳 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

基礎ゼミナールⅠの目的を踏襲しながら無理なく専門課程へ移行できる様「学びの方法」を修得する。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

基礎ゼミナールⅠから継続して考えていきながら、学生それぞれが１つのテーマを上げレポートを作成し発表する事を目標とする。

授業全体の内容と概要

人間は食べることのみによって栄養を取り入れ、様々な活動を可能としている。乳幼児から高齢者まで各々の目的や問題の違いはあれ、それぞれ生活リズムの確立や健康、QOL、疾病防止などを目的として望ましい食生活をする事が必要となる。学生それぞれが自分自身の食生活だけでなく職業的（保育士、社会福祉士、スポーツトレーナー、教員等）に必要な問題意識を持ち知識を身につけることを目標とする。

授業の方法

食生活や栄養に関する問題の中からそれぞれが研究テーマを見つけ、プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等を実施する。また必要に応じて教員がテーマに関した講義も行い、カレントトピックスについても解説する。質疑応答には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・出席を重視する。欠席をする場合は必ず事前に連絡をすること。出席数を満たしていてもゼミの運営を乱す行為があった場合は評価をしない場合がある。また同じくゼミの運営に支障を来たす行為があった場合は途中でゼミ異動を宣告する場合がある。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席状況（２/３以上）。ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	３０%	５０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(協調性，傾聴力)	ゼミ内でのプレゼンテーションに積極的に耳を傾け，タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け，タイミングよく質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾け何回か質問することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションに耳を傾けることは出来るが質問できなかった。
知識・理解(興味，関心)	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち積極的に食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持に食生活や栄養についてのテーマを概ね発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持つ努力をしながら食生活や栄養についてのテーマを発見することができた。	新聞、ニュース、トピックス等に関心を持ち食生活や栄養についてのテーマを発見することができなかった。
汎用的機能(トークスキル，表現力)	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう資料を十分揃えわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいようわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう概ねわかりやすく発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができた。	ゼミ内でのプレゼンテーションにおいて聞き手が理解しやすいよう発表することができなかった。
態度・志向性(リーダーシップ，態度)	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し，積極的にゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を十分に認識し，ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し，ゼミ運営に関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識し，ゼミ運営に多少関わることができた。	ゼミ内での自分の役割を認識できなかった。
態度・志向性(意欲)	休まずゼミに出席できた。(出席１６回)	概ねゼミに出席できた。(出席１５～１４回)	休みがちではあるが出席できた。(出席１３～１２回)	欠席が目立つが出席できた。(出席１１～１０回)	評価前提条件を満たす事ができなかった。(出席９～０回)

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	1 （単位認定責任者： 湯浅　頼佳 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション及びシラバスの説明	ゼミ初回に必要な事項について考える。（４５分）	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える（４５分）
2	「食生活の重要性を考えるⅡA」①	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
3	「食生活の重要性を考えるⅡA」②	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
4	「食生活の重要性を考えるⅡA」③	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
5	「食生活の重要性を考えるⅡA」④	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
6	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑤	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
7	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑥	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
8	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑦	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
9	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑧	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
10	SPI性格検査の実施（キャリア支援センター）	「SPI性格検査」についてのポイントを整理する。（４５分）	「SPI性格検査」について振り返りを行う。（４５分）
11	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑨	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
12	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑩	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
13	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑪	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
14	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑫	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
15	「食生活の重要性を考えるⅡA」⑬	新聞、ニュース、トピックス等に目を向け食生活や栄養についてのテーマを発見する。（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
16	まとめ	まとめの準備を行う。（４５分）	まとめの振り返りを行う。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾西則昭 （社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 尾西 則昭 ）	CAP制	演習		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人間生活の基本である健康・体力や身体運動に関する知識を深め、現在不規則になりがちな生活習慣の改善が必要になる。学生生活における健康維持のための運動の大切さについての基礎知識を理解する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

生涯にわたり有意義な人生を送るために、健康的なライフスタイルを確立する方法を身につける。
不規則になりがちな生活習慣で留意しなければならない点について、いくつかのテーマを通じて、基本的な知識を学習する。現在だけのことだけでなく、卒業後に訪れるだろう社会人生活における健康づくりについて述べることができる。

授業全体の内容と概要

講義では、健康の意味、特に運動と健康とのかかわりを理解し、現代社会における健康な心身のあり方についての知識を習得する。さらに、生き生きとした人生を送るために運動・栄養・休養について、自らの生活習慣を見直す機会を深める。

授業の方法

資料を通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行います。
健康に関するキーワードについて調べ学修の発表を行います。
「不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある」

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待します。
２０分以上の遅刻は欠席とみなします。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合があります。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	１００%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	健康についての基礎的な知識を深く理解できた。	健康についての基礎的な知識を理解できた。	健康についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	健康についての基礎的な知識を多少理解できた。	健康についての基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について十分に考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開についておおむね考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について多少考察できた。	健康の基本を踏まえた健康内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度	健康の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できた。	健康の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	健康の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾西則昭　（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 尾西　則昭 ）		CAP制	演習	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス「シラバス説明」	事前にシラバスを読んで確認する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
2	健康についての学生調査①	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
3	健康についての学生調査②	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
4	健康についての学生調査③	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
5	健康についての学生調査④	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
6	健康についての学生調査⑤	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
7	健康についての学生調査⑥	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
8	健康についての学生調査⑦	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
9	健康についての学生調査⑧	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
10	SPI性格検査実施(キャリア支援センター)	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
11	健康についての学生調査⑨	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
12	健康についての学生調査⑩	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
13	健康についての学生調査⑪	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
14	学生調査研究個人発表 リハーサル発表①	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
15	学生調査研究個人発表 本番②	シラバスを参考にし、参考文献で予習する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）
16	総まとめ・講評	ノートに記載された内容を再度復習し、理解する。（４５分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 西崎　毅 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

教員になるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力及び意欲を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科の社学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

教育制度についてその概要を理解することができる。
教育にかかわる諸問題についてその概要を理解することができる。
教員になるために必要な事項についてその概要を理解することができる。

授業全体の内容と概要

各回の授業テーマについて考える。
教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などの通読
教育に関する基本的事項についての調べ学修
教員として求められる一般教養及び教職教養の学修
学校視察やボランティア活動等への参加
漢字検定等への参加
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

教育にかかわる法令、中央教育審議会答申、学習指導要領などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッションを行います。板書や教材提示装置を活用する。教育に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行う。
教員として求められる一般教養及び教職教養について演習を行う。課題や発表等に対するフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。
不測の事態が生じた際には、授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
○サブメジャープログラムの『教育採用試験対策プログラム』の履修を条件とする。
○漢字検定の受検級合格まで毎回検定を受け続けることを条件とする。（目標準２級）
○授業内で紹介する体験活動に積極的に取り組むことを条件とする。
○各自、ノートを用意すること。
○プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 西崎　毅 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教員及び教育行政職員としての経験を活かし、教職に関連する事項を題材に、学生の主体的な学修姿勢や探究力を培う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『授業内で別途指示する。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） 学修計画の作成	基礎ゼミナールⅠでの学修を自己評価すること。（４５分）	本時に課された事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	教育法規のまとめ①教育基本法 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	教育法規のまとめ②学校教育法 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	教育法規のまとめ③学校教育法施行規則 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	教育心理のまとめ①心理学のおこり 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	教育心理のまとめ②学習理論等 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	教育心理のまとめ③心理療法等 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	教育史のまとめ①日本教育史 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	教育史のまとめ②西洋教育史 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	ＳＰＩ性格検査の実施（キャリア支援センター）	ＳＰＩ検査について調べる。（４５分）	ＳＰＩ検査受検の感想を書く。（４５分）
11	教育原理のまとめ①教育改革の流れ 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	教育原理のまとめ②現代の教育課題 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	小論文についての学修①小論文の構成 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	小論文についての学修②小論文の作成 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	小論文についての学修③小論文の評価 法令・答申等の通読及びディスカッション 一般教養及び教職教養の演習	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	後期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	1年間の自らの学修姿勢を評価すること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	小山　尋明（建築学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 小山　尋明 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

競技スポーツの基礎的トレーニングを基礎ゼミナールＩＡ．Ｂより更に深く理解し、個人に必要なトレーニングを自ら実践できるよう知識を身につける。携っている競技の試合分析をする知識と理解力を身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）
全学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５対応する。（２０２３・２２年度）
経営学科のＤＰ１、DP８に対応する。（２０２１年度）
社会福祉学科のＤＰ２、DP４、DP８、DP１０に対応する。（２０２１年度）
デザイン学科のＤＰ１、DP８に対応する。（２０２１年度）
建築学科のＤＰ１、DP２、DP3、DP４、DP８に対応する。（２０２１年度）

到達目標

競技及び個人の特性を理解し、安全にトレーニングできるようにする。また、試合の分析・考察(心理的)も出来る。

授業全体の内容と概要

基礎ゼミナールＩＡ．Ｂを基に個人に必要なフィジカルとメンタルトレーニングを実践し、自分の競技の試合をどのように分析・考察(心理的)すればよいのかを考える。

授業の方法

プリントなど資料にて説明したのち、トレーニング室及び体育館などで実際にトレーニング(フィジカルとメンタル)をする。また、コンディショニングの方法・心理的などについての分析を行い、次の大会などに活かせるようにする。なお、次回の授業において前回の反省と確認を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

男子バスケットボール部に所属の学生を対象とする。注意事項等の詳細については、ガイダンスにて説明する。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	０%	６０%	４０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
関心・意欲・態度・判断	積極的に行動し，意欲的に取り組み，安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に行動し，意欲的に取り組み，安全に細心の注意を払うことが７割程度できた。	積極的に行動し，意欲的に取り組み，安全に細心の注意を払うことが5割程度できた。	積極的に行動し，意欲的に取り組み，安全に細心の注意を払うことが3割程度できた。	積極的に行動し，意欲的に取り組み，安全に細心の注意を払うことができなかった。
競技及び個人の特性を理解し、安全にトレーニングができる	目標設定の原理，原則，種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことができた。	目標設定の原理，原則，種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが７割程度できた。	目標設定の原理，原則，種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが5割程度できた。	目標設定の原理，原則，種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことが3割程度できた。	目標設定の原理，原則，種類とその方法を理解し安全に細心の注意を払うことができなかった。
知識・理解	フィジカルとメンタルトレーニングの知識・理解があり，心理的スキルも含め分析・考察ができた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識・理解があり，心理的スキルも含め分析・考察が７割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識・理解があり，心理的スキルも含め分析・考察が5割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識・理解があり，心理的スキルも含め分析・考察が3割程度できた。	フィジカルとメンタルトレーニングの知識・理解があり，心理的スキルも含め分析・考察ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	小山　尋明（建築学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 小山　尋明 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス(シラバス説明)。	事前にシラバスを読んで確認しておく(４５分)	ガイダンスの内容を理解しておく(４５分)
2	トレーニング実践　1 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(４５分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(４５分)
3	トレーニング実践　2 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(４５分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(４５分)
4	トレーニング実践　3 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(４５分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(４５分)
5	トレーニング実践　4 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(４５分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(４５分)
6	トレーニング実践　5 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(４５分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(４５分)
7	トレーニング実践　6 (フィジカルとメンタル)	トレーニングの基礎と原則を確認しておく(４５分)	トレーニングの基礎と原則を理解しておく(４５分)
8	試合分析　1 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(４５分)	コンディショニングの方法を理解しておく(４５分)
9	試合分析　2 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(４５分)	コンディショニングの方法を理解しておく(４５分)
10	試合分析　3 (心理的・コンディショニングの方法) SPI性格検査の実施（キャリア支援センター）	コンディショニングの方法を確認しておく(４５分)	コンディショニングの方法を理解しておく(４５分)
11	試合分析　4 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(４５分)	コンディショニングの方法を理解しておく(４５分)
12	試合分析　5 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(４５分)	コンディショニングの方法を理解しておく(４５分)
13	試合分析　6 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(４５分)	コンディショニングの方法を理解しておく(４５分)
14	試合分析　7 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(４５分)	コンディショニングの方法を理解しておく(４５分)
15	試合分析　8 (心理的・コンディショニングの方法)	コンディショニングの方法を確認しておく(４５分)	コンディショニングの方法を理解しておく(４５分)
16	振り返りと確認	内容を確認し理解を深めておくこと(４５分)	専門用語の意味を理解しておくこと(４５分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生時代に創作し、制作した作品で地域に貢献するには、その地域や社会(企業)の理解や課題認識が必要であり、また、自らの学習成果を地域社会の中で試し検証する絶好の機会となる。更に、本学の教育理念に「必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現をめざし、それを成し遂げる」を具現する活動でもある。そうした位置付けで、リサーチ・プランニング・クリエーション・プレゼン・制作活動まで一貫して実践する。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP5に対応する。（２０２４年度）
デザイン・建築学科のＤＰ（１）（２）（３）（４）（５）に対応する。（２０２３・２２年度）
全学科学科のDP２、DP3、DP６、DP７、DP８、DP１１に対応する。（２０２１年度）

到達目標

（1）制作活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にする。
（2）様々な活動場面に応じて、適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつ。
（3）各自の活動経験を振り返り、今後進めていく上での自己の学習課題を設定する。

授業全体の内容と概要

授業では、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティビティを多く取り入れる。各自が問題意識を持ち、考察結果などをグループ全体で共有しながら、目標達成に向けて活動をする。地域との取り組みに自分のデザインを交えながら、どんなことができるのか考え楽しく活動する。

授業の方法

グループワークを中心にした活動が多いため、一人ひとりが自主性を持ち、他人任せになるようなことがないように、常に問題意識を持ち、議論しながら問題解決し、積極的に活動に励む。授業では、グループワーク、討論、ワークショップ等のアクティビティを多く取り入れる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

受講に関して以下の心構えがある学生を条件といたします。

①社会に役立って達成感を得たり、自分に自信をつけたい人
②やる気があり、最後まで活動をやり通す気力を持ち合わせている人
③協力し合いながら目標に向かい活動を成功させることができる人
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	３０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
積極性、社会理解	積極的にアイデアを出し、採用された。他人の発言を聴き、十分な理解に努め、積極的に意見した。	積極的にアイデアを出した。他人の発言を聴き、十分な理解に努めた意見した。	それなりにアイデアを出した。他人の発言を聞き、ある程度意見した。	アイデアを殆ど出せなかった。他人の意見をあまり理解できなかった。	アイデアを出せなかった。他人の意見を殆ど理解できなかった。
課題解決能力と創造性	仕事を的確に発見し、進め方を共有しあいながら適切に検討し、実行できた。	仕事を進んで発見し、進め方を適切に検討し、実行できた。	仕事を発見し、進め方を検討し、ある程度実行できた。	仕事をあまり発見できず、依頼されたことだけ実行できた。	仕事を発見できず、依頼されたことも、ほとんど実行できなかった。
コミュニケーション能力と行動力	他者をリードする態度で積極的に活動に取 り組み、高い コミュニケーション能力と行動力がある。	自主的・協働的に活動に取り組み、コミュニケーション能力や行動力がある。	自らの考えでアクションを起すことはあまりないが必要なコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことはなく最低限度のコミュニケーション能力や行動力はある。	自らの考えでアクションを起すことができない。最低限度のコミュニケーション能力や行動力もほとんどない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	前期の活動においての確認と振り返り シラバスの説明	演習の準備　シラバスの熟読（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
2	Planning1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
3	Planning2	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
4	Planning3	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
5	Research activities　1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
6	Research activities　2	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
7	Research activities　3	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
8	Creative activities　1	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
9	Creative activities　2	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
10	SPI性格検査実施	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
11	Creative activities　3	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
12	Creative activities　4	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
13	presentation①	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
14	presentation②	事前に作業しておくなどの準備をすること（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
15	レポート・後期活動のまとめ	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）
16	１年間の活動における総括と振り返り	事前に作業しておくなどの準備（45分）	演習内容を確認して理解を深める（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が就職活動を行う時に必要なＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）の基本をしっかり身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）
全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、ＤＰ5に対応する。（2023・2022年度）
全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、ＤＰ8に対応する。（2021年度）

到達目標

ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）の基本を修得できる。

授業全体の内容と概要

金銭に関する問題、速さ・時間・距離、確率、推論、集合、論証、グラフの領域等を豊富な練習問題を解くことによって、ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）と解き方の基本について実感をつかませる。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題は学生が提出後、解説を行う。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ゼミナールの内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず、また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。
レポート等の提出方法についてはゼミナール時間中に指示するので、ゼミナールを欠席することのないよう留意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１1回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	３０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ＳＰＩに必要な基礎知識の修得	ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が１００%理解できた。	ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が９０%理解できた。	ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が８０%理解できた。	ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が７０%理解できた。	ＳＰＩの基礎知識（非言語分野）及び解き方（思考過程）が７０%も理解できなかった。
計算過程において必要な記述内容の修得	演習問題は解き方（思考過程）を１００%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を９０%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を８０%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を７０%記述したレポートになった。	演習問題は解き方（思考過程）を７０%も記述したレポートにならなかった。
思考過程のプレゼンテーション	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。また、質問にも正確に対応した。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して明確に出来た。	筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	一部筋道の立った思考過程がプレゼンテーションを通して出来た。	筋道の立った思考過程のプレゼンテーションが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス及びシラバスの説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
2	資料の読み取り	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
3	順列・組み合わせ	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
4	確率のとらえ方	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
5	集合	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
6	推論	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
7	ものの流れと比率	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
8	ブラックボックス	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
9	グラフの領域（１）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
10	ＳＰＩ性格検査の実施（キャリア支援センター）	ＳＰＩ性格検査の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のＳＰＩ性格検査の再確認（45分）
11	グラフの領域（２）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
12	グラフの領域（３）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
13	論証（１）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
14	論証（２）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
15	論証（３）	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（45分）	今日のゼミナールの再確認（45分）
16	まとめ及び要点のフィードバック	総復習（45分）	総理解（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

都市や建築を構想することは、行政や都市計画家、建築家だけの仕事ではない。住民や地域に係る皆が、より良い暮らしを考え実践した積み重ねが都市を形づくる。ゼミでは、一人ひとりがより良い未来を提案するための基礎を身につけることを目標とする。※ゼミでは都市や建築を空間的な問題として扱う。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２４年度）
建築学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（２０２３・２０２２年度）
建築学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP８に対応する。（２０２１年度）

到達目標

都市や建築の変遷やその社会的背景を理解し、都市や建築について自分なりの意見をもつことができる。

授業全体の内容と概要

実際の都市空間を対象に、パブリックスペースのアップデート手法を検討・表現・発表を行う。また良い提案を行うには綿密な調査が必要であることから、前半は利用者ニーズや将来像のリサーチを重点的に行う。 □SDGs３.すべての人に健康と福祉を □SDGs１１.住み続けられるまちづくりを □SDGs１２.つくる責任 つかう責任

授業の方法

課題の説明はパワーポイント等を用いる。 また、課題表現として模型・スケッチ・レイアウト・プレゼンテーション等を用いる。 模型製作に必要なカッターマット（A３サイズ推奨）、カッター、ボンド、金尺（１５cm,３０cm）、スコヤを用意すること。 調査や作業、発表はPC作業となることから、各自のノートパソコンを準備すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

能動的な学習姿勢を望む。授業中に引用された建築、書籍に積極的に触れること。２０分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は,１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	８０%	0%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を越えた自主的な学習を行なった。	授業内容を理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自主的な学習を行なった。	授業内容をほぼ理解し、自分なりの意見をもつことができた。	授業内容を理解しなかった。
調査・課題解決能力	独自の視点で調査し、独創且つ具体的手法で課題を解くことができた。	独自の視点で調査し、独創的な手法で課題を解くことができた。	独力で調査し、課題を解くことができた。	アドバイスをもとに、調査・課題を解くことができた。	アドバイスがあっても自発的に課題を解くことができなかった。
表現力	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に共感させることができた。	構想したものを、独創性のある手法で表現し、考えを第三者に理解させることができた。	構想したものを、独自の工夫で表現することができた。	構想したものを表現することができた。	構想したものを表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	計画設計等の実務経験を活かし、課題解決法や様々な事例を紹介する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを事前に把握する（４５分）	紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）
2	都市空間の調査・研究	紹介した書籍・建築事例等について調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
3	都市空間の調査・研究	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
4	都市空間の調査・研究	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
5	都市空間の調査・研究	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映しまとめる（４５分）
6	都市空間の調査・研究　中間発表	プレゼンテーションをまとめる（４５分）	発表を自己評価する（４５分）
7	課題「都市空間のアップデート」課題説明	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
8	課題「都市空間のアップデート」課題　調査	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
9	課題「都市空間のアップデート」課題　調査	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
10	SPI 性格検査実施	ＳＰＩ検査について調べる。（４５分）	ＳＰＩ検査受検の感想を書く。（４５分）
11	課題「都市空間のアップデート」課題　作業	対象を事前に調べる（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
12	課題「都市空間のアップデート」課題　作業	提案を事前に考える（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
13	課題「都市空間のアップデート」課題　作業	提案を事前に考える（４５分）	エスキスを反映する（４５分）
14	課題「都市空間のアップデート」課題　作業	提案を事前に考える（４５分）	エスキスを反映しまとめる（４５分）
15	課題「都市空間のアップデート」課題　発表	プレゼンテーションをまとめる（４５分）	発表を自己評価すること（４５分）
16	発表・まとめ 授業改善アンケートの実施	今までの授業を振り返る（４５分）	学習を振り返り、自己評価を行う（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習・実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　恵利（国際交流センター・センター員）		研究室等所在	本部棟3階　国際交流センター	
単位数	1 （単位認定責任者：　佐藤　恵利　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミⅡB		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、国際交流センターで対応。				

概要

履修目標

大学間、または地域との交流活動に参加、また交流活動を企画、実施し、異文化理解、相互理解を得ること。

授業の位置づけ

交流を通じ、日本の時事問題や日本文化、日本の習慣などをトピックに挙げながら日本語の４技能を育成する。トピックを題材に、ディスカッションやグループワークなどの活動をし、自身の専門分野でも自分のことが十分に表現できる能力を身に付ける。日本文化や日本事情を通して「SDG３．すべての人に健康と福祉を」「SDG７．エネルギーをみんなに　そしてクリーンに」「SDG１０．人や国の不平等をなくそう」について考え、知識を深める。

到達目標

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

授業全体の内容と概要

学内異文化交流会や合同授業の内容を企画し、準備、実施する。学生間での交流を通じ、相互理解や異文化理解を得る。交流では、母国紹介や母国の文化紹介等をすることもある。それらを正しい日本語で伝えることや、他者からの意見を尊重することを学ぶ。大学祭ブースへの参加や、地域の施設見学等に参加し、地域交流を楽しむとともに、北広島市、北海道の問題や課題について考える。

授業の方法

教材は教師が用意する。教材は紙媒体だけではなく、プロジェクターやパソコン、レアリアなども使用する。授業は学生が主体となり、学生間で話し合いながら教師が与える議題や課題に取り掛かる。授業内では決まった人たちとのコミュニケーションに終わらず、様々なクラスメートとグループワークやディスカッションをし、自分を表現できる能力を養う。その成果をプレゼンテーションやレポートで表す場合もある。レポートはテーマ、内容、正確さ、長さ、表現力の5項目で評価する。「内容」の項目は特に重要で、自分の言葉でわかりやすく表現できているかを評価する。「正確さ」では文法や文字表記の誤りを提示するので、各自でフィードバックすること。災害等の不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。15分以上の遅刻は欠席とみなす。3回遅刻すると1回の欠席とみなす。授業内は原則母語は禁止とする。学生間での交流でも授業中の母語が多い学生は評価に影響する。授業中は携帯電話や辞書、タブレットの使用は原則禁止とする。わからないことがあったら教師に聞くこと。
平常点が評価に大きく影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数１６回のうち、単位認定に必要となる最低出席回数は１３回とする。授業への参加、授業態度、ゼミ内での活動(プレゼンテーションやディスカッション、グループワーク、フィールドワーク、実習等)とゼミ内での役割の認識と行動により総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	０%	０%	３５%	５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。声の大きさ、発音もよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法の間違えが目立つ。声の大きさ、発音がよかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすいが、文法、発音に問題があり、聞き取りにくかった。	自身で考えているが、他者の協力がないと自分の言葉で表現することができない。文法、発音に問題があった。	他者任せで、自身で考え、自分の言葉で表現しようという姿勢が見られない。文法、発音に問題があった。
思考力・判断力・日本語での表現力等	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動にも積極的に参加している。発言も多かった。	毎回の授業に参加し、授業対しに意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題があった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習・実習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　恵利（国際交流センター・センター員）		研究室等所在	本部棟3階　国際交流センター	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　恵利 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	基礎ゼミⅡB		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス、授業、評価の説明）、自己紹介・授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む・自己紹介の練習（４５分）	シラバスについて確認する。ゼミ内での自分の役割について考える(４５分)
2	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
3	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
4	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
5	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
6	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
7	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
8	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
9	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
10	SPI性格検査の実施（キャリア支援センター） 異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
11	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
12	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
13	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
14	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
15	異文化交流会・合同授業・大学祭等の企画、準備、実施。地域交流への参加。	対象を事前に調べ、発表等の準備を行う（４５分）	本日のゼミ内容について振り返りを行う。（４５分）
16	後期学習範囲の総括および反省・最終課題の提出(担当：佐藤)	最終課題提出の準備（４５分）	授業内容復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館3階	
単位数	1 （単位認定責任者： 大島康雄 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。
フィールドワークや参加を体験を通じて、福祉の現場を学ぶ。
チームワーク力を涵養する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

①福祉に関する専門用語を覚える。
②自分に適した暗記方法を身につける。
③協調性を身につける。

授業全体の内容と概要

①福祉現場で使われることが多い技術などを学ぶ。
②フィールドワークや参加を体験を通じて、福祉の現場を学ぶ。
③他者を尊重しながら自己主張できるようになる。
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①基本は、テーマに沿ったグループワークでの展開とする。グループで課題に取り組み、代表者が発表をする展開とする。
②一部、講義形式で授業を展開する。講義の際は随時質問をするので答える事。
③随時記録物を提出する。記録物はコメントを添え返却する。
④内容により、使用する資料を配布する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

30分以上の遅刻は欠席とする。
出席を重視するので、遅刻や欠席をする場合は事前に連絡をすること。授業を妨害したり他者の学ぶ権利を侵害する場合は、注意をする注意をする注意をするが、改善がない場合には単位を認定しない。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席があること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉の仕事の場で用いられることが多い技術を使うことができる。	相談援助技術を適切に使用できる。	相談援助技術を使用できる。	相談援助技術を助言の中、使用することができる。	助言があれば一部できた。	助言があってもできなかった。
フィールドワーク、参加、体験を通じて、福祉現場を学ぶことができる。	フィールドワークなどに積極的に参加した。	フィールドワークなどに参加した。	フィールドワークなどを見学した。	見守りの中、フィールドワークなどを見学できた。	フィールドワークなどができなかった。
チームで目標を達成できる。	状況に応じてリーダーシップをとったら、他のメンバーへのサポートができた。	他のメンバーを尊重できた。	自分の役割を責任を持ち果たせた。	助言があればできた。	助言があってもできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰルⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	大島康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館3階	
単位数	1 （単位認定責任者： 大島康雄 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場での実務経験から得た事例等を用いて福祉に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						『使用しない』
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術①	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
2	専門演習ⅡAの振り返り	前期のまとめた内容を整理する。（４５分）	発表した内容を振り返る。（４５分）
3	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術②	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
4	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術③	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
5	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術④	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
6	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術⑤	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
7	福祉の現場で用いられることが多い相談援助技術⑥	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
8	中間まとめ	相談援助技術を調べる。（４５分）	相談援助技術をロールプレイする。（４５分）
9	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験①	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
10	SPI性格検査の実施（キャリア支援センター）	SPI性格検査の準備を行う。（４５分）	SPI性格検査の振り返りを行う。（４５分）
11	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験③	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
12	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験④	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
13	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑤	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
14	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑥	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
15	福祉現場のフィールドワーク、参加、体験⑦	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）
16	まとめ	福祉制度を調べ、社会資源の内容を整理する。（４５分）	Word・Excelなどで学んだことをまとめる。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 （単位認定責任者： 竹内　美帆 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する様々な事象、表現の特性、歴史などを考えることを通して、大学での学修に必要な基礎的な知識や表現技術・方法を実践的な演習によって学び、自身の大学における活動と連動させながら新たな視点を獲得する。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（2022・2023年度）

到達目標

マンガを中心とした表現の特性や、専門用語などの知識を身に着け理解する。
文献や資料を考察するための基礎能力を身につける。
ディスカッションや発表などを通じて、大学で学ぶための基礎的な学力（プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など）を身につける。

授業全体の内容と概要

マンガ、アニメを中心としたポピュラーカルチャーに関する講義やグループワーク、ディスカッションを行い、作品の読解の仕方、文献調査の方法や発表資料のつくり方などを学ぶ。後半では、各自で自身の活動と関連する作品について調査分析を行い、発表・ディスカッションを行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションなどを行う。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自ら行う資料調査では、図書館などの機関を積極的に利用すること。個人発表では、自ら行った調査について短い時間でプレゼンテーションを行う。授業内でグループワークやディスカッションなどを行うので、積極的に参加すること。
授業の内容は、集まった参加者の興味・関心等に合わせ適宜変更する可能性がある。
1回程度、ゲスト講師（マンガ研究者、マンガ家、マンガ編集者、マンガ施設関係者等）の参加を予定している。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	３０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力（プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力）	授業で学んだことを超えて、自分の視点について他者に伝わりやすく述べ、他者と積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の視点について述べ、積極的にコミュニケーションをとることができた。	授業で学んだことを生かして、自分の意見を述べることができた。	促されれば自分の意見や考えを述べることができた。	授業内で自分の意見を述べられなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学年・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	1 （単位認定責任者： 竹内　美帆 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『文学・芸術は何のためにあるのか？』	吉岡洋、岡田暁生編	東信堂	2009	978-4-88713-894-0	
2	『マンガ産業論』	中野晴行	筑摩書房	2004	978-4480873460	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　オリエンテーション	シラバスを読んでおく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
2	資料を読む（1）文献の読解	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
3	資料を読む（2）文献についての調査	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
4	資料を読む（3）文献についてのディスカッション	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
5	産業としてのマンガ（1）雑誌文化と新しいビジネスモデル　ゲスト講師への質問を考える	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	ゲスト講師への質問を考える（45分）
6	産業としてのマンガ（2）雑誌文化と新しいビジネスモデル　ゲスト講師参加	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
7	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ（1）作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（45分）
8	読解の仕方、調査・発表資料のつくり方などを学ぶ（2）作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（45分）	個人発表の準備をする（45分）
9	個人発表（1）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
10	SPI性格検査の実施（キャリア支援センター）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の準備をする（45分）
11	個人発表（2）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
12	個人発表（3）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
13	個人発表（4）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りをする（45分）
14	個人発表（5）	個人発表の準備をする（45分）	個人発表の振り返りと、レポートを作成する（45分）
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	授業内容を復習する（45分）
16	期末レポートの解説　フィードバック	これまでの授業を振り返り、疑問点等を挙げておく（45分）	授業内容を復習する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 千葉　聡美 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、公務員としての資質向上に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

公務員という仕事の理解を深めるため、行政各種の取り組みを調べ、目指すべき公務員の姿を明らかにして、そのために必要な学習を自ら行うことができるようにする。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（２０２３年度）

到達目標

行政の制度や服務について概要を理解することができる。
社会人として必要な基礎学力とマナーを身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

公務員の種類と職務内容について調べ学習
行政の機構と今日的課題についてのリサーチ
SPI３対策を通した一般教養の学修
漢字検定等への参加
「SDG11　住み続けられるまちづくりを」の関連項目

授業の方法

テーマを選択し、計画、調査、探究、整理、資料作成等の一連の活動を行う。
公務員として求められる一般教養、文章力、語彙力向上のための演習を行う。
資料内容、発表内容等に対して、自己評価を下にしたフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教育又は行政に強い関心がある者。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	５０%	０%	２０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を修得するとともに、関連した事項にも知識を深めることができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、達成は十分ではなかった。	学修した知識・技能を修得したが、期待するレベルまで到達することができなかった。
グループワークによる内容の整理、資料作成、報告、発表等による説明等の思考力、判断力、表現力の向上	内容を的確かつ発展的に整理し、理解しやすい報告、発表等をとおして、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	内容を的確に整理し、理解しやすい報告、発表等をとおして、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をとおして、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理し、報告、発表等をとおして、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	内容を整理できず、報告、発表等をすることがなかったため、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら積極的課題を見つけ自発的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、自ら課題を見つけ積極的に取り組むことができた。	授業に関心をもって参加し、自ら課題を見つけ取り組むことができた。	授業に対してある程度関心をもって参加し、自ら取り組むことができた。	授業に対して消極的であり、自ら行動して取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 千葉　聡美 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政機関に勤務経験のある教員が、公務員としての資質向上に関連する指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（取組の概要、シラバスの説明、基礎ゼミⅡAの確認等	シラバスを読む（４５分）	説明内容を整理する（４５分）
2	行政課題について 漢字小テスト 英語読解	ネット等で情報収集。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する。（４５分）
3	行政課題について 漢字小テスト 英語読解	ネット等で情報収集。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する。（４５分）
4	行政課題について 漢字小テスト 非言語分野テスト	ネット等で情報収集。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する。（４５分）
5	行政課題について 漢字小テスト 非言語分野テスト	ネット等で情報収集。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する。（４５分）
6	行政課題について 漢字小テスト 非言語分野テスト	ネット等で情報収集。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する。（４５分）
7	行政課題について 漢字小テスト 非言語分野テスト	ネット等で情報収集。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する。（４５分）
8	行政課題について 漢字小テスト 非言語分野テスト	ネット等で情報収集。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する。（４５分）
9	行政課題について 漢字小テスト 非言語分野テスト	ネット等で情報収集。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する。（４５分）
10	SPI性格検査実施（キャリア支援センター）		
11	行政課題について 漢字小テスト 非言語分野テスト	ネット等で情報収集。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する。（４５分）
12	行政課題について 漢字小テスト 非言語分野テスト	ネット等で情報収集。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する。（４５分）
13	行政課題について 漢字小テスト 構造的把握力テスト	ネット等で情報収集。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する。（４５分）
14	行政課題について 漢字小テスト 構造的把握力テスト	ネット等で情報収集。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する。（４５分）
15	行政課題について 漢字小テスト 構造的把握力テスト	ネット等で情報収集。漢字練習（４５分）	内容を整理し復習する。（４５分）
16	全活動内容の振り返り 学修したことをプレゼンテーションにまとめて発表	プレゼンテーション準備（４５分）	1年間の学びを整理する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階	
単位数	1 （単位認定責任者： 山本　一彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

前期基礎ゼミナールⅡA での学びと考察を踏まえ、若者の雇用、大卒者の就職の状況を、日本と諸外国との比較の中で確認し、考察、理解を目指す。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

若者・大卒者の雇用・就職状況について単に知識を習得するだけでなく、現代のライフコース変化の中での自らの問題として考える姿勢をもつ。

授業全体の内容と概要

日本の雇用・就職状況の変化の動きの中で、どのような活動分野でどのような仕事・職業に就くのか具体化することを促し、その実現可能性を考察する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は対話形式と板書筆記を併用して行ない、必要な場合には資料を配布する。テーマによっては小文を提出してもらい、概要を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自らが考える「主体的・能動的」な姿勢での参加が必要である。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	80%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	学修した知識を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識を確実に修得した。	学修した知識をほぼ修得した。	学修した知識を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力等	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えて考察できていた。	ゼミナールテーマに積極的に取り組み、求められるレベルで考察できていた。	ゼミナールテーマに取り組み、広く一般的水準の考察に達していた。	ゼミナールテーマに取り組んだが、考察が最低限の水準にとどまっていた。	ゼミナールテーマへの取り組みが不充分で、内容が理解されていなかった。
テーマへの分析力・主体性	ゼミナールテーマについて、現代社会の中の自己の問題として充分に主体的分析ができていた。	左記事項について、主体的分析が概ねできていた。	左記事項について、広く一般的水準の分析には達していた。	左記事項の分析が最低限の水準にとどまっていた。	分析が最低限の水準にとどかず、ゼミナールテーマが理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	2号館8階	
単位数	1 （単位認定責任者： 山本　一彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	※科目ガイダンス ゼミ内容等シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの事前確認（45分）	ガイダンス内容の確認（45分）
2	Ⅰ..現代日本社会の雇用・就職 １.大卒就職の歴史	日本の大卒就職の現状の意識化（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
3	Ⅰ.１.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
4	Ⅰ.１.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
5	Ⅰ.１.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
6	Ⅰ.２.若者の雇用の変化と現状	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
7	Ⅰ.２.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
8	Ⅰ.２.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
9	Ⅰ.２.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
10	※SPI性格検査の実施（キャリア支援センター）	SPI性格検査の意義確認（45分）	SPI性格検査振り返り（45分）
11	Ⅱ.大卒就職・雇用の国際比較	日本の大卒就職・雇用の特徴のイメージ化（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
12	Ⅱ.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
13	Ⅱ.（続き）	前回のゼミ内容の確認（45分）	ゼミ内容の復習（45分）
14	Ⅲ.自らの進路決定に向けて	自らがどのような活動分野・仕事・職業を選択するかの明確化（45分）	選択分野・仕事・職業の再確認（45分）
15	Ⅳ.後期学生生活の振り返り 授業改善アンケートの実施	後期のすべての活動の振り返り（45分）	振り返り内容の再確認（45分）
16	※総括・振り返り	15回分の内容の振り返り（45分）	総括の再確認（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 河田　一郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

基礎ゼミナールⅠに引き続き、建築・絵画・音楽などウィーン文化を考察する。さらにドイツ語学修に重きを置き、ドイツ語検定試験５級合格のための基礎を固める。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

ドイツ語検定試験５級合格のための基礎を固める。観光・留学などドイツ語圏で困らない程度の日常会話を身につける。

授業全体の内容と概要

ドイツと言えば、クラシック音楽である。クラシックをBGMに用いたリラックスした学習環境の中で、ドイツ語の文法と会話を学修する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では板書をしながら、ドイツ語の文法・文化を紹介する。ドイツのＤＶＤ等も見て講義形式で行う。
また、適宜確認テストを実施し、フィードバックとして解説を丁寧に行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ウィーンを含めたヨーロッパの絵画、建築、音楽等に興味があり、ドイツ語を修得したい学生であればだれでも受講可能。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規定等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得し、求められるレベルを大きく超えた。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能をほぼ修得した。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修した知識を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力	与えられた課題に積極的に取り組み、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題には積極的に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。理解力やプレゼンテーション能力は求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組み、求められるレベルをほぼ達成した。	与えられた課題に取り組んだが、最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まずなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	河田　一郎（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 河田　一郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	［ガイダンス］　授業の進め方・シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。	シラバスの内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
2	［話法の助動詞について］　話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
3	［話法の助動詞の用法について］　話法の助動詞の用法について学び、置き換えができるようにする。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
4	［ヒアリング練習］　ヒアリング問題に関する対策を学ぶ。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
5	［形容詞について］　ドイツ語の形容詞の用法について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
6	［形容詞の比較・副詞的用法について］　比較・副詞的用法を学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
7	［分離動詞について］　分離動詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
8	［動詞の３基本形について］　動詞の３基本形について学び、変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
9	［過去形の変化について］　過去形の変化について学び、人称変化させることができる。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
10	SPI性格検査の実施（キャリア支援センター）	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
11	［完了形の用法について］　完了形の用法について学び、英語との違いを理解する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
12	［関係代名詞について］　関係代名詞について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
13	［受動態について］　受動態について学び、作文することができる。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
14	［zu不定詞について］不定詞について学び、和訳することができる。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
15	［接続法について］　接続法について学び、用法を理解する。	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）
16	［レポートのプレゼンテーション］	前回の授業内容を確認すること。（４５分）	授業の内容を復習しておくこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 木村　浩紀 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教師に求められる能力、使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的な知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力等を身に付ける。

授業の位置づけ

全学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

教育の諸課題についてその概要を理解することができる。
教師に必要な知識・技能等について、理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

教育の諸課題について、各回のテーマごとに考える。
教育にかかわる法令、答申などの通読
教育に関する諸課題についての調べ学修
教師に求められる教職教養等の学修
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

教育にかかわる法令、答申などを通読し、その内容にかかわって説明や質疑応答及びディスカッション等を行う。
教育課題に関するキーワードについての調べ学修及びその発表を行う。
教師に求められる教職教養等について演習を行う。
課題や発表等に対する評価のフィードバックや要望等への対応は口頭で行う。
板書や教材提示装置を活用する。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○教職課程を履修し、大学卒業後に必ず教職に就く強い希望と意思を持った学生を対象とする。
○サブメジャープログラムの「教育採用試験対策プログラム」の履修を条件とする。
○各自、ノートを用意すること。（ルーズリーフは不可）
○プリント類はフラットファイルに格納し、毎回授業に持参すること。
○オンライン授業やハイブリッド授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても習得することができた。	学修した知識・技能を十分に修得することができた。	学修した知識・技能を修得することができた。	学修した知識・技能を修得したが、最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
課題に取り組む意欲・態度	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを大きく超えることができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを十分に達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して期待されるレベルを達成することができた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関して最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まず、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	基礎ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡB （科目ナンバリング：BAS002006 ）				
授業担当者（所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 木村　浩紀 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、教職に関連する指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） ○学級編成・教職員定数・給与負担と制度と法①関係資料の通読	教育の諸問題についてまとめること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
2	○学級編成・教職員定数・給与負担と制度と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
3	○学校の管理運営と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
4	○学校の管理運営と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
5	○教員の身分・服務と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
6	○教員の身分・服務と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
7	○学校の説明責任・地域参画と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
8	○学校の説明責任・地域参画と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
9	○児童生徒の在学関係・生徒指導と法 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
10	職業レディネス・テストのフィードバック（キャリア支援センター）	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	今後の進路について考え、整理すること。（４５分）
11	○教育課程・教科書・教育評価と法① 関係資料の通読 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
12	○教育課程・教科書・教育評価と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
13	○学校保健安全・学校給食と法① ディスカッション関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
14	○学校保健安全・学校給食と法② 学修発表 ディスカッション	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
15	○学校事故と法① ディスカッション関係資料の通読	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	事後課題を行い次時に提出すること。（４５分）
16	○学校事故と法② 学修発表 後期の学修の総括及び反省	前時に課された課題を行い提出すること。（４５分）	1年間の学修を振り返り、自己評価を行うこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科を除く全学生対象		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラスト・マンガプロ （科目ナンバリング：DES091059 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授） 三上　いずみ（デザイン学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階（佐藤）・２号館８階（三上）		
単位数	1 （単位認定責任者： 三上　いずみ ）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	（佐藤）デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。 （三上）漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。		
オフィスアワー	（佐藤）事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。 （三上）研究室前の掲示ボード等を参照 。				

概要

履修目標

基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を身につける。
クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を身につける。
イラストやマンガで表現することを学び、広く社会に伝えるスキルを身につける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を体験する。
クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を学ぶ。
イラストやマンガで表現することを学ぶ。

授業全体の内容と概要

クリエイティブな内容に触れることで感性を磨き、視野を広げ、表現力を身につけ、人としての成長を促す。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

いろいろな画材を用いてアナログの制作の体験をする。
使用する画材はすべてこちらで用意する。
PowerPointで技法の説明をする場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

筆記用具のみ持参すること。
授業の始めに説明するので遅刻はしないこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全８回のすべての授業に出席すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を身につけ制作に活かすことができた。	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を身につけることができた。	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法をある程度身につけることができた。	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を体験することができた。	基本的なイラストレーションの技術やマンガの描画技法を体験することができなかった。
表現力	イラストやマンガで表現することを学び、広く社会に伝えるスキルを充分に身につけることができた。	イラストやマンガで表現することを学び、広く社会に伝えるスキルを身につけることができた。	イラストやマンガで表現することを学び、広く社会に伝えるスキルをある程度身につけることができた。	イラストやマンガで表現することを学ぶ。	イラストやマンガで表現することを学ぶことができなかった。
主体的な学び	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を身につけ、制作に活かすことができた。	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を身につけることができた。	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢をある程度身につけることができた。	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を学ぶことができた。	クリエイティブな作品の制作過程において、積極的に課題に取り組む姿勢を学ぶことができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科を除く全学生対象		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラスト・マンガプロ （科目ナンバリング：DES091059 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授） 三上　いずみ（デザイン学科・准教授）	研究室等所在	２号館７階（佐藤）・２号館８階（三上）		
単位数	1 （単位認定責任者： 三上　いずみ ）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	（佐藤）デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。 （三上）漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 マンガ技法①　つけペンの使い方・構図	シラバスを読んでおくこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
2	マンガ技法②　ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
3	マンガ技法③　スクリーントーン	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
4	マンガ技法④　作品発表・講評	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
5	イラスト制作①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
6	イラスト制作②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
7	イラスト制作③	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容の振り返りと課題制作の続き（４５分）
8	イラスト制作④　作品発表・講評	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	授業内容を振り返り、理解を深める（４５分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会福祉の原理と政策　（科目ナンバリング：SWS121018　　）				
授業担当者（所属・職名）	小早川　俊哉（社会福祉学部・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小早川　俊哉　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①福祉政策を捉える基本的な視点として、生活上のニーズと福祉政策の過程を結び付けて理解する。
②福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。
③福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。
④福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP３，DP４に対応する。（２０２４年度）

到達目標

①社会福祉士と精神保健福祉士に必要な基礎的な理論について理解することができる。
②ソーシャル・ポリシー（社会政策）が元来の福祉政策のみならず、直接福祉を目的としない政策（所得政策、雇用政策、住宅政策、教育政策など）を含む意義と目的を理解することができる。
③福祉の市場化の意義と目的を理解することができる。
④主要国の福祉制度の外観を理解し、今後の我が国のソーシャル・ポリシーの方向性を考えることができる。

授業全体の内容と概要

①「社会福祉の原理と政策Ⅰ」を踏まえて、ソーシャル・サービスの構成要素と供給主体を学ぶ。
②福祉の市場化について、その内容と背景を学ぶ。
③福祉を直接の目的としない個々のソーシャル・ポリシー及びソーシャルワークとの関連を学ぶことから、福祉における「公平と効率」の意義を学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

①授業のポイントを記したレジュメ（プリント）をteamsのファイルに格納するので、自身でプリントアウトするかPC等を持参して授業に臨む。
②開始５～１０分は、前回の復習を口頭試問形式で行う。その後は、パワーポイントを使用し、レジュメに従い空き行間に重要・理解できた事項をメモする形の講義形式をとる。理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。
質問には随時対応する。
③復習を兼ねて、授業中のメモと教科書などを参考に授業内容をノートにまとめることを推奨する。
④中間試験（論述）を採点後返す際、解答の仕方など個別に指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「社会福祉の原理と政策Ⅰ」を踏まえ、社会保障やソーシャルワークの基盤と専門職など、他の授業との関わりに注意する。
授業中の積極性（質問、質問への回答など）は、その場で確認することで平常点として反映する。
遅刻３回で欠席１回とみなす。
尚、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。その他、個別案件に対しては要相談。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０／１５回以上（１６回目は定期試験）。
積極的な授業参加（発言する、質問する、回答する、メモを取る、など）を平常点とする。
論述の中間小試験と定期試験、平常点の総計で単位認定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	２０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
直接福祉を目的としないソーシャル・ポリシー	ソーシャル・ポリシーの概念とソーシャル・サービスの概念との範囲の違いに気付くことができた。	ソーシャル・ポリシーとソーシャル・サービスの関連を理解できた。	ソーシャル・ポリシーが直接福祉を目的としない政策を含む背景を理解できた。	直接福祉を目的としない個々のソーシャル・ポリシーの意義と目的を理解できた。	直接福祉を目的としない個々のソーシャル・ポリシーの意義と目的を理解できなかった。
福祉の市場化	福祉における公平と効率の関係を説明することができた。	福祉における効率化の必要性を説明することができた。	福祉の市場化の背景と目的を理解することができた。	福祉の市場化の内容を理解できた。	福祉の市場化の内容を理解できなかった。
今後のソーシャル・ポリシーの方向性	公平と効率を念頭に自らの福祉観を表現することができた。	自らの福祉観を持つことができた。	社会変化の方向性とソーシャル・ポリシーの方向性を整合的に説明することができた。	論理的に今後のソーシャル・ポリシーの方向性を説明することができた。	今後のソーシャル・ポリシーの方向性を説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	社会福祉の原理と政策　（科目ナンバリング：SWS121018　）				
授業担当者（所属・職名）	小早川　俊哉（社会福祉学部・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小早川　俊哉　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座　４　社会福祉の原理と政策』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805882344	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（授業改善アンケート結果について，シラバスの説明を含む）とソーシャル・サービスにおけるニーズについて（把握方法、種類と内	シラバスの読み込みと市場原理を調べてくる（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
2	ソーシャル・サービスにおける社会資源について（種類とその特徴，新たな構築など）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
3	福祉政策の構成要素について（福祉の基礎構造，措置制度から契約方式へなど）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
4	福祉政策の過程について（福祉のPDCAサイクル、福祉計画、実施方法と手段など）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
5	福祉政策の動向と課題について（地域包括ケアシステムなど）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
6	直接福祉を目的としない政策（保健医療政策および防災・災害時避難政策）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
7	直接福祉を目的としない政策（権利擁護政策）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	今回のノートをまとめるとともに中間小試験のため見直しを行う（９０分）
8	前半のまとめと中間小試験	中間小試験の準備をする　（９０分）	自身の解答を振り返る　（９０分）
9	直接福祉を目的としない政策（所得政策および雇用政策）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
10	直接福祉を目的としない政策（住宅政策および教育政策）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
11	ソーシャル・サービスの供給部門について（福祉の多元化を含む）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
12	ソーシャル・サービスの供給過程について（福祉行財政、市場化などを含む）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
13	ソーシャル・サービスの利用主体と援助方法について（対人援助とコミュニティを含む）	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
14	ソーシャル・サービス及びソーシャル・ポリシーの国際比較と時事および今後の課題について	教科書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
15	まとめとして，ソーシャル・ポリシーにおける公平と効率およびソーシャル・ポリシーの全体像の確認 授業改善アンケート実施	これまでの授業を振り返り，福祉において公平がなぜ重要かを考えてくる　（９０分）	定期試験に向け自身のノートの最終チェックを行う（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、試験のポイントを解説）	定期試験の準備をする（９０分）	今後の学修に向けて、試験を振り返る（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達心理学Ⅱ　（科目ナンバリング：EDP122067　）				
授業担当者（所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	1号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　蝦名　美穂　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，スクールカウンセラーとして相談活動や乳幼児の発達相談での経験を踏まえて，講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくはチャットにて事前連絡後に調整をし，研究室にて対応。				

概要

履修目標

こどもと家族を包括的支援の視点から，発達心理学，臨床心理学などの基礎的知見を踏まえ，現代の社会的状況や課題を明確にし，その支援のあり方について学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP３，DP４，DP５に対応する科目（２０２４年度）

到達目標

・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに，親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し，子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。

・子育て家庭を巡る現代の社会的状況と課題について理解する。

授業全体の内容と概要

発達心理学Ⅰで学んだ内容を基礎としながら，こどもの発達に果たす家族，家庭の機能について考える。子育てや教育に関する各回のテーマに関する記事を自身の関心に従い新聞やニュースから探し，目を通してから授業に臨み，授業後には関連を自分なりにノートにまとめておくことを期待する。

「SDG.４質の高い高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業では，テキスト，パワーポイント，配布資料等を適宜活用した講義形式で行う。
授業の終わりに質問や感想（リアクションシート）をteamsの課題から提出する。質問は随時受け付ける。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自分で振り返ることができるようなノートづくりを心がける。
授業の進行を妨害するような行為，他の受講者の迷惑となる行為を慎む。
不測の事態が起きた際にはオンライン授業を実施する場合がある。
テキストを必ず購入すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回とする。レポート課題，授業の終わりに提出する感想等（リアクションシート），授業態度を評価の対象とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	授業で扱った内容について理解し，用語の説明を資料等を見ずに説明することができた。	授業で扱った内容について理解し，用語の説明を資料等を見ながら説明することができた。	授業で扱った内容について，資料等の中から探すことができるようにノートや資料がまとめられた.	授業で扱った内容について，ノートにまとめることができた。	授業で扱った内容について，ノートにまとめることができなかった。
知識の応用	こどもと家族の関係性、その様々なあり方について，資料等も見ずに説明ができ，自分の考えを述べることができる。	こどもと家族の関係性，その様々なあり方について、資料等も見ながら説明ができ，自分の考えを述べることができる。	こどもと家族の関係性，その様々なあり方について，資料等も見ながら説明ができる。	こどもと家族の関係性，その様々なあり方について，資料等も見ながら部分的に説明ができる。	左記の内容が何一つすることができなかった。
授業に主体的に取り組む態度（リアクションシート含む）	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返る感想だけでなく，疑問点を明確にすることができ，自分なりの考えを述べられた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べ，疑問点を明確にすることができた。	授業内容に関心をもち，自身の授業態度について客観的に振り返ることができた。且つ，授業内容を振り返り感想を述べられた。	授業内容を振り返り感想を述べられた。	左記の内容が何一つすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	発達心理学Ⅱ　（科目ナンバリング：EDP122067　）				
授業担当者（所属・職名）	蝦名　美穂（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	1号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　蝦名　美穂　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	臨床心理士・公認心理師の資格を持ち，スクールカウンセラーとして相談活動や乳幼児の発達相談での経験を踏まえて，講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『事例で楽しむ学ぶ子ども家庭支援の心理学』	芝野松次郎	中法法規	２０２３	9784805888438	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明　親子関係・家族関係における発達と	こどもの家庭支援に関して調べる（９０分）	授業で学ぶ内容について振り返る（９０分）
2	青年期の発達の特徴と課題①	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
3	青年期の発達の特徴と課題②	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
4	成人期・老年期の発達の特徴と課題	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
5	子どもの生活・生育環境とその影響	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
6	子どもの心の健康にかかわる問題①	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
7	子どもの心の健康に関わる問題②	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
8	子育てを取り巻く社会的状況① VTR視聴	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
9	子育てを取り巻く社会的状況②	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
10	ライフコースと仕事・子育て	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
11	多様な家庭とその理解	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
12	特別な配慮を必要とする家庭	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
13	家族・家庭の意義と機能	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
14	親子関係・家族関係の理解	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
15	子育て経験と親としての育ち	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	授業の内容を振り返り、疑問点等を整理する（９０分）
16	これまでの学習のまとめ。授業改善アンケートの実施	これまでの学習内容について振り返る（９０分）	試験の振り返りを行う（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学Ⅱ	（科目ナンバリング：SPS422065，SPS522060　　）			
授業担当者（所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　篠原　諒介　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人間の体は、意図的に働きかけることにより、構造的にも機能的にも変化させることができる。本講義ではトレーニングに必要な基礎的理論、トレーニングの方法を概説し、トレーニング計画、筋力トレーニングの基礎、ストレッチングや体力テストの活用について学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

身体機能の特性を理解し、トレーニングの原理・原則を熟知させ各人の性、年齢、体力、健康状態を考慮し、適正なトレーニングの処方計画を作成できるようにする。

授業全体の内容と概要

テキストを中心に授業を進め、授業の展開に応じて、レポートの提出、ビデオを利用し、トレーニング理論、トレーニング計画などについて詳しく説明する。

授業の方法

授業は、板書及び配布物資料を活用しながら講義形式で行い、レポートの提出を求める。
レポートへの対応はコメントや解説などでフィードバックを行う。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します.
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供します.

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	３０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学修ひた知識・技能を確実に修得した	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取り組まなかった
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ科学Ⅱ	（科目ナンバリング：SPS422065，SPS522060 ）			
授業担当者（所属・職名）	篠原　諒介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2	（単位認定責任者：　篠原　諒介　）	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明及び授業改善アンケート結果反映の説明 トレーニング理論と方法論①トレーニング学の理論	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
2	トレーニング理論と方法論②スポーツパフォーマンス構造論	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
3	トレーニング理論と方法論③トレーニング手段における基礎論	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
4	トレーニング理論と方法論④筋力トレーニングにおける基礎論	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
5	トレーニング理論と方法論⑤筋力トレーニングの方法	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
6	トレーニング計画とその実際①　トレーニング目標の設定	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
7	トレーニング計画とその実際②　トレーニング・プログラムの設計	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
8	トレーニング計画とその実際③　トレーニング計画と疲労およびその回復	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
9	トレーニング計画とその実際④　トレーニング環境の整備と効果的遂行の条件	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
10	体力テストとその活用①体力テストの位置づけについて	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
11	体力テストとその活用②形態および身体組成の測定と評価について	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
12	体力テストとその活用③筋力・筋パワーの測定と評価について	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
13	スキルの獲得とその獲得過程①　スキルとは	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
14	スキルの獲得とその獲得過程②　スキル獲得の過程	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
15	スキルの獲得とその獲得過程③　スキル獲得にかかわる要因	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
16	テスト及び解説 ６０分の試験終了後，残り３０分で解説 授業改善アンケートの実施	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営戦略論 （科目ナンバリング：MAN413005，MAN523014 ）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木　重政（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 鈴木　重政 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	①研究室前の掲示ボード等を参照　②Teamsによるチャットは平日午前９時から午後５時まで対応				

概要

履修目標

現実的・実践的なマーケティング論を学ぶことにより、マーケティング的な思考や判断能力を身につけ、企業や社会組織の中で活用できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

戦略の内容、策定・選択のプロセスを理解するとともに、戦略的フレームワークを活用する能力を身につけること。

授業全体の内容と概要

戦略の内容、策定・選択のプロセスの概要と、その中で用いられる具体的な理論、フレームワークの理解を重点とする。また、身近な事例を学ぶことでより実践的な経営戦略を理解する。

授業の方法

パワーポイントによるプロジェクタ投影と配布レジメによる講義とディスカッションをまじえた授業を行い理解度を高める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１５分以上の遅刻・途中退出は欠席扱いとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営戦略策定プロセスの理解	経営戦略策定プロセスの理解	戦略策定プロセスを十分に理解し、事例に対して自らの戦略プロセスを策定できた。	戦略策定プロセスを理解し、事例に対して戦略プロセスをあてはめることができた。	戦略策定プロセスを理解していた。	戦略策定プロセスを理解していなかった。
環境分析、全社戦略の理解	環境分析、全社戦略を完全に理解し、事例に対して自らの革新的経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦を十分に理解し、事例に対して自らの経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦略を理解し、事例の経営戦略をあてはめることができた。	環境分析、全社戦略を理解していた。	環境分析、全社戦略を理解していなかった。
事業戦略、機能別戦略、戦略フレームの理解	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを完全に理解し、事例に対して自らの革新的戦略プロセスを策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを十分に理解し、事例に対して自らの戦略を策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解し、事例にあてはめることができた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営戦略論 （科目ナンバリング：MAN413005，MAN523014 ）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木　重政（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 鈴木　重政 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　経営戦略の基本コンセプト 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
2	全社戦略と事業戦略　SCPモデルと５フォース分析	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
3	マイケル・ポーターの３つの基本戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
4	業界内のポジショニング	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
5	バリューチェーン	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
6	事業ドメイン　全社戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
7	VARIO	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
8	SWOT分析（１）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
9	SWOT分析（２）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
10	PPM	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
11	アンゾフのマトリックス	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
12	PDCA　KPI	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
13	イノベーションと経営戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
14	ブルーオーシャン	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
15	アライアンスとM&A	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
16	試験 授業改善アンケート実施	試験に向け全体を復習する。（９０分）	試験及び解説を受けて講義全体を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営戦略論（SP）	（科目ナンバリング：MAN413005，MAN523014 ）			
授業担当者（所属・職名）	鈴木　重政（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 鈴木重政 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	①研究室前の掲示ボード等を参照　②Teamsによるチャットは平日午前９時から午後５時まで対応				

概要

履修目標

現実的・実践的なマーケティング論を学ぶことにより、マーケティング的な思考や判断能力を身につけ、企業や社会組織の中で活用できるようになる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

戦略の内容、策定・選択のプロセスを理解するとともに、戦略的フレームワークを活用する能力を身につけること。

授業全体の内容と概要

戦略の内容、策定・選択のプロセスの概要と、その中で用いられる具体的な理論、フレームワークの理解を重点とする。また、身近な事例を学ぶことでより実践的な経営戦略を理解する。

授業の方法

パワーポイントによるプロジェクタ投影と配布レジメによる講義とディスカッションをまじえた授業を行い理解度を高める。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１５分以上の遅刻・途中退出は欠席扱いとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	0%	0%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経営戦略策定プロセスの理解	経営戦略策定プロセスの理解	戦略策定プロセスを十分に理解し、事例に対して自らの戦略プロセスを策定できた。	戦略策定プロセスを理解し、事例に対して戦略プロセスをあてはめることができた。	戦略策定プロセスを理解していた。	戦略策定プロセスを理解していなかった。
環境分析、全社戦略の理解	環境分析、全社戦略を完全に理解し、事例に対して自らの革新的経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦を十分に理解し、事例に対して自らの経営戦略を策定できた。	環境分析、全社戦略を理解し、事例の経営戦略をあてはめることができた。	環境分析、全社戦略を理解していた。	環境分析、全社戦略を理解していなかった。
事業戦略、機能別戦略、戦略フレームの理解	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを完全に理解し、事例に対して自らの革新的戦略プロセスを策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを十分に理解し、事例に対して自らの戦略を策定できた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解し、事例にあてはめることができた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していた。	事業戦略、機能別戦略、戦略フレームを理解していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営戦略論（SP）	（科目ナンバリング：MAN413005，MAN523014 ）			
授業担当者（所属・職名）	鈴木　重政（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 鈴木重政 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　経営戦略の基本コンセプト 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
2	全社戦略と事業戦略　SCPモデルと５フォース分析	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
3	マイケル・ポーターの３つの基本戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
4	業界内のポジショニング	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
5	バリューチェーン	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
6	事業ドメイン　全社戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
7	VARIO	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
8	SWOT分析（１）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
9	SWOT分析（２）	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
10	PPM	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
11	アンゾフのマトリックス	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
12	PDCA　KPI	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
13	イノベーションと経営戦略	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
14	ブルーオーシャン	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
15	アライアンスとM&A	今回の授業に必要な準備学習を行う。（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
16	試験 授業改善アンケート実施	試験に向け全体を復習する。（９０分）	試験及び解説を受けて講義全体を復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・公民科教育法　（科目ナンバリング：ESS143154　　）				
授業担当者（所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　松下　守邦　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業の目的は、以下の２つが具体化内容である。
①中学校社会科の公民的分野、高等学校公民科の教科目標と内容を学修する。
②授業実践のための教材作成を学修する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP3、DP5に対応する。（2022年度）

到達目標

・社会福祉学の学科専攻領域をこえ、広く社会科学の専門性を理解し説明できる。
・専門知をふまえて高等学校、中学校レベルの学習内容を抽出できる。
・教科目標である公民的資質をふまえた分析説明ができる、教科学習内容の概念的枠組みを説明できる、教材研究に主体的な取り組みができる。

下記ルーブリックの合格最低レベル（C）、到達目標にとどまることのないよう留意する。相対性と絶対性を勘案するのでベストを尽くすこと。

授業全体の内容と概要

「SDGs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
公民科の教科目標と内容を把握し、現代社会の社会的事象等をとらえる概念、理論について、学習指導理論をふまえ、学習指導時案を作成、模擬授業をおこない、授業設計と改善の方法を学修する。授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・後期3Qは、学習指導要領にもとづくシナリオ型学習指導案の作成、模擬授業の観察評価をおこなう。
・板書を利用しながら、公民科の学習指導要領の内容について講義形式で学修する。
・模擬授業、ＰＢＬ（Project Based Learning）による主体的実践が評価対象になる。
・「課題に関する説明～課題に対するフィードバック」：教材研究、指導案、ＰＢＬ等の各課題フィードバックは、回収の次の授業にて模範回答例が紹介される機会があるので、次回の課題提出の改善材料として利用をすすめる。
・「要望等への対応方法」：授業の課題の取り組み方など質問、要望、相談は、随時、対応する。授業中、あるいは研究室に来室など、気軽に相談してほしい。オフィスアワーを利用すると事前の時間予約ができる。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
・「社会科・公民科教育法Ⅰ」、「社会科・公民科教育法Ⅱ」は、順序性のある段階的履修が基本になる。単独科目履修を希望する場合、履修登録前に教員へ相談すること。
・「社会科・公民科教育法Ⅰ」、「社会科・公民科教育法Ⅱ」の指定テキストは共通のものである。
・授業関連情報コースパケットをマイクロソフト社Teams科目チャネル、過去の科目情報は、大学ＨＰ教員個人ページにあるので利用してほしい。過去の授業情報の閲覧は、要PWのため、履修学生は授業にて申請すること。https://www.seisadohto.ac.jp/~mmatsu/index.html
・学習は、単に教えられたことを暗記し再現するものでなく、「深い理解、深い学習、深い関与」（松下佳代：2015）のアウトプットである。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談すること。

資格指定科目

教職課程（社会・公民）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定のためには、授業第１回から第１５回までに計１０回以上の出席が必要になる。
・文献読解（分担報告；教材研究、指導案作成を報告する。教材研究における新しい知見、資料を説明記述する）、プレゼンテーション（分・担発表）をする。学修のまとめとしてレポート作成提出する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	６０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる、情報分析力としての知識・技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめており、これまでの学修内容との関連を適切にふまえていた。新しく学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明ができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明ができた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめていた。新しく学ぶことについて、充分ではないが、自分の言葉でいくらか説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業が難しかった。新しく学ぶことについて、説明することは難しく、知識・技能の修得はできなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的事象について論理的に分析表現をすることができる、思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでの関連づけをおこない、独自の視点から論理的に表現ができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切な手続きで引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら、論理的に表現ができた。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現ができた。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を選び引用した。新しく学ぶことは、十分ではないが、これまでのものを関連づけて表現ができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用することが難しかった。新しく学ぶことは、表現することが難しく、思考力・表現力は修得できなかった。
大学の学修環境を創造するメンバー（教職課程の教生）として自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	大学生（教職課程の教生）としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動ができた。	大学生（教職課程の教生）として役割は、おおむね理解しており、行動するができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、基本的な行動ができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生（教職課程の教生）として自分の役割は、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことはできなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・公民科教育法　（科目ナンバリング：ESS143154　　）				
授業担当者（所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　松下　守邦　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学社会　公民　ともに生きる』	成田喜一郎ほか	教育出版	２０２０		１７教出公民９０２（中学校検定
2	『詳述公共』	中村達也ほか	清水書院	２０１７		７実教公共７０３（高校検定済教科
3	『ズームアップ公共資料　２０２４』	実教出版編修部	実教出版	２０２４	9784407363128	
4	『中学校社会科教育の実践と方法』	小泉博明ほか	清水書院	２０１５	9784389225735	
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説 社 会編』	文部科学省	東京書籍	２０１８	9784491034713	https://www.mext.go.
2	『高等学校学習指導要領（平成３０年告示）解説 公民編』	文部科学省	東洋館出版社	２０１９	9784487286331	https://www.mext.go.
3	『ベストをつくす教育実習-強みを活かし実力を伸ばす』	筒井 美紀・遠藤野ゆり	有斐閣	２０１７	9784641174320	
4	『中学校社会　指導スキル大全』	梅津正美	明治図書	２０１５	9784184522336	
5	『ディープ・アクティブラーニング』	松下佳代	勁草書房	２０１５	978432625101	

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス；シラバスの説明、前年度本科目の授業改善アンケート結果反映の説明 中学校公民的分野、高等学校公民科の指導方法と授	シラバスをあらかじめ確認する。（９０分）	テキスト（筒井ほか２０１７：1章－２）を独習する。（９０分）
2	模擬授業実践、中学社会科公民的分野、学習指導要領の解説	テキスト(中村正美：２０２２）を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
3	模擬授業実践、高校公民科、公共、学習指導要領の解説	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
4	模擬授業実践、高校公民科、政治経済、倫理、学習指導要領の解説	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習、指導教諭（南英世氏ＨＰ）資料を確認する。（９０分）
5	模擬授業実践、視聴覚教材	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	授業1-5回学習整理する。（９０分）
6	模擬授業実践、中学社会科公民的分野、シナリオ型学習指導時案の作成	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習、ＮＩＥＲ評価基準、規準を確認する。（９０分）
7	模擬授業実践、高校公民科公共、シナリオ型学習指導時案の作成	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
8	模擬授業実践、高校公民科政治経済、シナリオ型学習指導時案の作成	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
9	模擬授業実践、高校公民科倫理、シナリオ型学習指導時案の作成	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	授業6-9回学習整理する。（９０分）
10	模擬授業評価、学生観察シートの作成	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	学習内容を復習する。音声記録文字化と振り返りをする（９０分）
11	模擬授業評価、学生自己評価の作成	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	学習内容を復習する。音声記録文字化と振り返りをする。（９０分）
12	模擬授業評価、授業サポーターの分析	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	学習内容を復習する。音声記録文字化と振り返りをする。（９０分）
13	模擬授業評価、授業サポーターの分析	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	授業１０－１４回学習整理、音声記録文字化と振り返りをする。（９０分）
14	模擬授業実践、学生評価のまとめ	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	授業全体学習整理する。（９０分）
15	課題提出（観察シート、音声記録と作業シート提出）指導方法と評価（振り返り、総括）	テキスト(中村正美：２０２２）、資料を予習する。（９０分）	授業全体の学習整理する。（９０分）
16	本科目のまとめ（授業総括と学修の教員講評） 授業改善アンケートの実施	全授業のまとめを準備する。（９０分）	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学入門（M） （科目ナンバリング：SOC021021 ）				
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 山本　一彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代社会の特質を知り、さまざまな場面に生ずる問題を生活者としての視点から把握して、持続可能なよりよい社会はどのようなものであるかを理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

「現代社会の状況」について単に知識を習得するだけだなく、さまざまな社会問題を生活者としての自分自身の問題としてとらえ、批判的に考察できる。

授業全体の内容と概要

まず、社会的存在としての人間という視点に立ち、集団や組織のありようを学ぶ。次に、近代化を遂げた現代社会がどのような問題を持つようになったかを批判的にとらえ、その特質を学び、持続可能な社会を展望する。また、特に、学生世代が該当する現代の青年期問題について考察を加える。

授業の方法

授業は現代社会のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない（ＰＢＬ含む）、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、授業で概要を発表してフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自ら考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留となった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合は、評価はＣとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会学の知識	定期試験における社会学の基礎事項該当部分で９０%以上の正答があった。	左記の同部分が８０%以上９０%未満の正答であった。	左記の同部分が７０%以上８０%未満の正答であった。	左記の同部分が６０%以上７０%未満の正答であった。	左記の同部分の正答が６０%に届かなかった。
思考力・判断力等	「人間と人間の関係」の視点から，さまざまな場面の社会的問題を充分に考察できていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察に達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準にと留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
社会的問題への分析力・主体性等	授業の核となる「現代の社会状況」の視点で、さまざまな社会問題ついて充分な主体的分析ができていた。	左記の事項について主体的分析が概ねできていた。	左記の事項についての主体的分析が一般的水準でできていた。	左記の事項についての主体的分析が最低限の水準に留まっていた。	主体的分析ができていとはいえず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学入門（M）	（科目ナンバリング：SOC021021 ）			
授業担当者（所属・職名）	山本　一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者：　山本　一彦　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	※科目のガイダンス 全体概要，目的とねらい、履修上の注意、評価方	シラバス内容を事前確認（９０分）	目的とねらいについての復習・理解（９０分）
2	Ⅰ.近代社会の確立と社会学 １.社会学成立の時代背景	近代社会とはどのようなものであるかのイメージ化（９０分）	近代社会についての復習・理解（９０分）
3	Ⅰ.近代社会の確立と社会学 ２.社会学は何を考えるのか？	近代社会の人間関係とはどのような特質をものかについての意識化（９０分）	人間関係の変化のあり方についての復習・理解（９０分）
4	Ⅱ.人間と社会集団 １.社会的存在としての人間	「ヒト」という動物がもっている特殊性についての意識化（９０分）	人間が「社会的」であることについての復習・理解（９０分）
5	Ⅱ.人間と社会集団 ２.社会集団の類型	人間がつくる集団にはどのような特質があるかについての事前考察（９０分）	集団類型の原理についての復習・理解（９０分）
6	Ⅱ.人間と社会集団 ３.基礎的生活集団の変化	基礎集団としての家族が現代社会ではどういう特質をもつようになったかの事前考察（９０分）	家族集団のあり方と社会のあり方が密接に関わっていることについての復習・理解（９０分）
7	Ⅲ.全体社会の変動 １.社会変動と近代化	Ⅰ.１.の振り返りを基に近代化とはどのような過程であるかの事前考察（９０分）	社会変動パターンとその要因、近代化としての社会変動についての復習・理解（９０分）
8	Ⅲ.全体社会の変動 ２.近代市民社会の変化 （１）大衆社会への移行	近代化によって成立した市民社会がどのように変化しているかの事前考察（９０分）	現代社会の大衆化状況についての復習・理解（９０分）
9	Ⅲ.全体社会の変動 ２.近代市民社会の変化 （２）個人化・リスク化する現代社会	個人を取り巻く不安定な現代社会の状況についての事前考察（９０分）	リスク社会としての現代社会についての復習・理解（９０分）
10	Ⅲ.全体社会の変動 ３.近代産業社会の変化 （１）産業社会の構造変化	近代化によって成立した産業社会がどのように変化しているかの事前考察（９０分）	現代社会の脱工業化状況についての復習・理解（９０分）
11	Ⅲ.全体社会の変動 ３.近代産業社会の変化 （２）ポスト産業化の中の現代社会	知識集約化する現代産業社会についての事前考察（９０分）	サービス経済が主軸となった現代社会についての復習・理解（９０分）
12	Ⅳ.現代の青年期 １.青年期とアイデンティティー形成	Ⅱ.１.の振り返りを基に社会の中の青年期についての事前考察（９０分）	アイデンティティーとはどのような自己のあり方であるかについての復習・理解（９０分）
13	Ⅳ.現代の青年期 ２.ライフコースの多様化と通過儀礼の喪失	現代社会の中のライフコースとはどのようなものかについての事前考察（９０分）	標準的ライフコースが失われた現代社会でのアイデンティティー形成が困難であることの復習・理解（９０分）
14	Ⅴ.時持続可能な社会に向けて	社会が持続可能となるためには何が問題でどのように対処すればよいかについての事前考察（９０分）	後期近代社会に特有な社会問題についての復習・理解（９０分）
15	※総括と試験概要説明、授業アンケート実施	ノートの整理と重点項目のチェック（９０分）	評価に関する確認と理解，試験対応のための復習・理解（９０分）
16	※試験および開設 ６０分の試験終了後、残りの３０分で解説	試験対応準備（９０分）	解説内容の確認・理解（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学入門（S・D・A）　（科目ナンバリング：SOC021021　　）				
授業担当者（所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　松下　守邦　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

・社会学とはどのような学問であるか、その基本的性格を概観する。
・社会学は、高校の科目でみると公民「公共」の学修内容に近い。学術3分類（人文科学、自然科学、社会科学）のひとつ、社会科学に含まれる学問である。社会科学のなかでは、経済学は行動の効率合理性、政治学は国家や権力行使、法学は法規範に焦点をおくとみるならば、社会学はそれらのどれにもとらえられない、社会と人間の側面にこだわる性格を備えるものである。本科目においては、それらの基本的性格を学修する。
・社会学は、個人と社会の関係を分析すること、そして常識の批評的理解をおこなうものである。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP5に対応する。（2023年度）
デザイン・建築学科のDP2に対応する。（2023年度）
社会福祉・デザイン・建築学科のDP2、DP5に対応する。（2022年度）

到達目標

・社会を構成しているさまざまな領域について、その基本を理解する。
・社会でおきているさまざまな問題を、個人の責任のみでとらえるものではなく、社会的な関係性のもたらす要因として説明をしようとする方法について、その基本を理解する。

授業全体の内容と概要

「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。
社会学固有の考え方である、社会的行為、相互作用、社会集団、社会構造、社会変動などの概念を使い、私たちの社会でおこっている社会現象を記述説明する知識、技術を学修する。
①社会学の基礎知識を、日常生活を例をあげて説明すること、②文献を読解引用してコメントを述べること、以上の統合的学習をすすめる。

授業の方法

・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
・既習事項の整理作業（第７回、第１４回）は、社会学用語の理解を、日常生活を例にあげて記述説明をおこなう、作業学習である。
・視聴覚教材、社会学文献の読解（第８回、第１５回）は、映像資料を視聴し、社会学用語を使って解説、コメント文を作成する。（学習評価技法 バークレイ/メジャー，2016＝2020）
・文献読解は、3色線引き読み（齋藤孝『三色ボールペンで読む日本語』角川書店，2005）の技法を利用する。
・「課題に関する説明～課題に対するフィードバック」：各課題のフィードバックは、提出の次の授業にて模範回答例を紹介する機会がある。この後の課題提出の改善材料として利用してほしい。

・「要望等への対応方法」：授業の課題の取り組み方など質問、要望、相談は、随時、対応する。授業中、あるいは研究室に来室など、気軽に相談してほしい。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・授業（講義）は学びの基本である。授業外学修として、図書情報館にある学術文献を調べる、自宅で準備学修（予習や復習）をすることにより、学修時間量を増やすことが大切になる。授業の学びは基礎的学修、さらに授業外学修は関連資料（Teamsファイル資料）読解による応用的学修である。
・授業の教材準備（テキスト、ファイル資料）をおこない、参加することが学生評価の対象になる。
・課題作成は、学術レポート（アカデミック・ライティング、AW）引用手続により文章作成する。（オリエンテーションにて説明する）
・学術倫理（剽窃、ほう助の禁止）を守り、学修する。
・テキト目次構成、章の順番を入れ替えて学修すること、関連資料による発展学習がある。
・ノートは、授業の再現資料として利用できるように作るものになる。取材メモとして作成する。
・欠席、遅刻の際の対応、教室内の授業マナー（水分補給、入退室、スマホ操作自粛、座席表指定）は、社会人モードで対応する。大学生の受講マナーは、高校までのものとは異なる次元になる。
・大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用する。パソコンスキル（レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー）を高めていく。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談してほしい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のためには、授業第１回から第１５回までに計１０回以上の出席が必要である。
【既習事項の整理事項】、【視聴覚教材、社会学文献の読解】課題は、評価資料となる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	０％	２０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスト資料により学修した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる、情報分析力としての知識・技能	テキスト資料の要旨をていねいにまとめており、これまでの学修内容との関連を適切にふまえていた。新しく学ぶ学術用語について、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で例をあげて説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめており、新しく学ぶ学術用語について、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨は、改善の余地があるが、まとめている。新しく学ぶ学術用語について、充分ではないが、自分の言葉で説明することができた。	テキスト資料の要旨をまとめる作業、新しく学ぶ学術用語について、説明することは難しく、知識・技能の修得はできなかった。
文献資料の信頼性を保ちながら、学術概念を使って考察すること、客観的立場から社会的事象について論理的に分析表現をすることができる、思考力・判断力・表現力	信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶ学術概念を、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら、社会的事象の分析表現することができた。	信頼性のある文献資料を選び、適切な手続きで引用した。新しく学ぶ学術概念を、、これまでのものと関連つけながら、論理的に社会的事象の分析表現することができた。	信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶ学術概念を使い、これまでのものと関連づけながら社会的事象の分析表現することができた。	文献資料を選び、信頼性を保持したうえで引用することは、改善の余地はあるが、おこなった。新しく学ぶ学術概念を使い、社会的事象の分析表現することは、十分ではないがおこなうことができた。	文献資料を選び、引用する信頼性の確保すること、新しく学ぶ学術概念を使い、社会的事象の分析表現をすることは難しく、思考力・判断力・表現力は修得できなかった。
大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	大学生としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生として自分の役割は、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことはできなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会学入門（S・D・A）（科目ナンバリング：SOC021021 ）				
授業担当者（所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者：　松下　守邦　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『基礎社会学　新訂第５版』	間淵領吾ほか	世界思想社	２０２２	9784790717669	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『社会学用語図鑑』	田中正人	プレジデント社	２０１９	9784833423113	
2	『参照基準　社会学分野』	日本学術会議社会学委員会		２０１４		大学教育の分野別質保証のための教育課
3	『社会学の力　改訂版』	友枝俊雄・浜日出夫・山田真茂	有斐閣	２０２３	9784641174818	
4	『学習評価ハンドブック　ALを促す５０の技法』	バークレイ/メジャー	東京大学出版会	２０２０	9784130513531	
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーションでシラバス（ルーブリック；古語の赤チョーク、赤土の語源とされ、現在は評価基準表の意味を持つとされる。出典略）を説明する。	シラバスを熟読する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
2	社会学と社会、社会学の歴史、社会学の思考	テキスト（間淵，２０２２）１章を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
3	社会学の説明、社会学の説明論理	テキスト（間淵，２０２２）２章を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
4	社会学の社会調査と計量	テキスト（間淵，２０２２）３、４章を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
5	社会学の基本概念（社会的行為、地位と役割）	テキスト（間淵，２０２２）５章前半を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
6	社会学の基本概念（社会集団、官僚制）	テキスト（間淵，２０２２）５章後半を予習する。	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
7	【既習事項の整理作業】	授業１回－６回を整理学修する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
8	【視聴覚教材、社会学文献の読解】	テキスト、文献資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
9	家族の社会学	テキスト（間淵，２０２２）６章を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
10	都市の社会学	テキスト（間淵，２０２２）７章を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
11	労働の社会学	テキスト（間淵，２０２２）９章を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
12	社会福祉の社会学	テキスト（間淵，２０２２）１３章を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
13	差別の社会学	テキスト（間淵，２０２２）１４章を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
14	【既習事項の整理作業】	授業９回－１３回を整理学修する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
15	【視聴覚教材、社会学文献の読解】、授業改善アンケートの実施	テキスト、文献資料を予習する。（９０分）	今回の学習内容（テキスト、資料）を復習する。（９０分）
16	授業全体のまとめ、作業解説。	全授業のテキスト、文献資料、ノートの確認準備学修をする。（９０分）	全体のふりかえりを行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	環境学	（科目ナンバリング：ENV361127 ENV161179 ENV261137 ENV461149）			
授業担当者（所属・職名）	西原　智昭（社会福祉学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　西原　智昭　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をして，昼休みあるいは講義後に、非常勤講師室で対応。				

概要

履修目標

環境学を学ぶに当たり、自然環境の破壊と生物多様性の喪失、その保全の問題は大きなテーマの一つである。自然環境および生物多様性の保全を目指すには資源開発の問題は避けて通れない。資源の開発・利用により危機的状況に直面している生物多様性、そうした自然環境に依拠してきた先住民族への権利侵害について、アフリカの熱帯林の事例を中心に話題提供しながら、特に資源の乏しい日本に住むわれわれが自然環境の保全に対して果たすべき役割を考察していく機会とする。

授業の位置づけ

全学科のDP２に対応する。（2024年度）

到達目標

われわれの現在の日常生活において生き物や資源を利用していることを、身近な事例や日本国内、そして国際的な視点から学ぶ。そうした生き物や資源の大規模な開発や過剰な利用が、現在に至るまで世界中の自然環境を破壊し、また本来なら自然環境に依拠してきた先住民族の人権侵害まで引き起こしていることを理解する。そのうえで、とりわけ資源の少ない日本に住むわれわれがどのように対処しサステイナブルなライフスタイルを目指していくか検討していく。

授業全体の内容と概要

文明・科学技術の進展とグローバル社会の拡大化に伴い、膨大な原材料や物資調達のための過剰な資源開発が全世界で進行中である。それは地球上に存在する自然環境や生物多様性に危機をもたらしている。この講義では、アフリカの熱帯林の事例を中心に、われわれ人類の祖先が生まれ出た本来の自然環境や生物多様性の機能や役割を学びつつ、資源開発に伴う地球規模の自然界への脅威だけでなく従来より自然界に依拠し長大な年月に渡り持続可能な自然環境保全を実践してきた先住民族への土地・人権侵害などについても話題提供する。とりわけ大量の資源を輸入依存に頼る日本の責任は重い点から、日本人として何ができるのかを考察する機会をも提供する。

授業の方法

パワーポイントを用いた講義資料及び映像によって，われわれを取り巻く種々の地球規模の自然環境の問題を、アフリカ現地の事例などを中心に説明する。講義内容について自らの知識として定着が図れるよう，文献調査，ミニレポート作成，グループ討論及びプレゼンテーションを手掛ける。グループディスカッション課題については，必要な調査を行い相互に意見交換して，グループとしての見解をまとめてプレゼンテーションすることにより受講者全員でディスカッションを行う。講義中に不明な点は自分でも書籍等で調査して予習・復習を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・レポート課題（グループ討論の課題を含む）の進め方等については，その都度指示する。
・講義内容にとらわれることなく，自分が興味のある事項を見出し，積極的に調べること。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。講義二回ごとに付き講義内容に対する意見や質問を盛り込んだミニレポートを課す（その他３５％：７回x５％）。定期試験（期末試験）は行わないが，集中講義全般に渡るテーマに関する課題を１５回目の講義中に提供するので、それに対する自身の見解や提案などを記載した論理的な構成のレポートを最後１６回目の講義時間中に仕上げる（レポート：６５％）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	６５％	0%	０％	０％	３５％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自然界（陸と海を含む）の生態系と生物多様性に関する理解	地球規模での自然環境と、その生態系や生物多様性について理解している	日本国内における自然環境と、その生態系や生物多様性について理解している	身近な自然環境における生態系や生物多様性に強い関心があり理解している	少なくても講義中で学んだ生態系や生物多様性に関して強い関心を抱いている	生態系や生物多様性への関心が希薄である
生き物を含めた資源の開発と利用がもたらす自然環境や生き物への影響に関する理解	人間は生き物や資源を利用しないと生きていけない中、どのような方途でサステイナブルな資源の利用をすべきか理解している	資源の少ない日本において、資源の調達先やその結果どのように海外の自然環境や生き物に影響を及ぼしているかを理解している	資源の開発と利用が、自然環境や生き物に多大な影響を及ぼしていることを理解している	日常生活における身近な生き物や物資は自然環境の利用の結果であるということを理解している	資源の開発や利用への関心が希薄である
自然環境に依拠してきた先住民族の存在と彼らが直面している問題に関する理解	先住民族が現在もなお直面している人権侵害や文化・言語消失などの実際を知り、先住民族との共生社会を目指していく重要性を理解している	先住民族がこれまで受けてきた差別や土地収奪など人権侵害の歴史について理解している	先住民族の社会の特徴や生活様式について理解している	先住民族とはなにか、日本国内や世界中にどのような先住民族が現存しているのか理解している	先住民族についての関心が希薄である、あるいは先住民族の存在を無視している

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	環境学	（科目ナンバリング：ENV361127 ENV161179 ENV261137 ENV461149 ）			
授業担当者（所属・職名）	西原　智昭（社会福祉学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者：　西原　智昭　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『コンゴ共和国～マルミミゾウとホタルの行き交う森から：増補改訂版』	西原智昭	現代書館	2020	978-47684-5877-8	
2	『サステナブル調達を成功させるための「国際認証」の教科書』	山口真奈美	生産性出版	2024	978-4-8201-2148-0	
3	『教養としての資源問題～今、日本人が直視すべき現実』	谷口正次	東洋経済新報社	2011	978-4-492-76197-7	すでにこの書籍は絶版なので電子書籍版
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『人類の起源 古代DNAが語るホモサピエンスの「大いなる旅」』	篠田謙一	中公新書	2023	978-4-12-102683-5	
2	『追いつめられる海～猶予はない ブルーエコノミーの実現を！』	井田徹治	岩波書店	2020	978-4-00-029694-6	
3	『アイヌ、日本人、その世界』	小坂洋右	藤田印刷エクセレントブックス	2019	9784865380965	
4	『再生可能エネルギーの問題点』	加藤やすこ	緑風出版	2022	978-4-8461-2207-2	
5	『音と文明～音の環境学ことはじめ』	大橋力	岩波書店	2003	4000223674	

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。人間はもともと自然界に依拠して進化してきた中で、どのように自然環境を利用してきたかを理解する手立ての一つとして、人類の近縁	人類の進化、類人猿の生態・社会について調べる（９０分）	人類の起源・もともとの生活様式について学ぶ（９０分）
2	野生の類人猿の生存に対して直面している問題の一つにエボラウイルスの蔓延がある。人間に対しても致死性の高いこのウイルスに対して対処すべき方途	エボラウイルスについて調べる（９０分）	エボラウイルスなどパンデミックへの根本的な対処について学ぶ（９０分）
3	森林を構成する生き物の中で昆虫の重要性と森林環境音がもたらすメカニズム、および、海洋生態系について学ぶ。	昆虫や森林環境音、海洋生態系について調べる（９０分）	昆虫や森林環境音、海洋生態系の重要性について学ぶ（９０分）
4	自然環境の中で昆虫の存在の重要性とわれわれがいかに昆虫と共存していくかについて、グループ討論・プレゼンを実施する。	昆虫との共存の方途について調べる（９０分）	昆虫との共存がもたらす心身への重要性について学ぶ（９０分）
5	アフリカ熱帯林の生態学的礎石種でありながら絶滅危惧種であるマルミミゾウの生態や社会、絶滅に向かう要因について学ぶ。	マルミミゾウについて調べる（９０分）	マルミミゾウの生態や社会、危機的状況について学ぶ（９０分）
6	マルミミゾウのような生き物が絶滅に向かう要因の一つとして挙げられるわれわれの伝統文化の存在があるが、伝統文化の継承と生物多様性保全のバラン	生き物の利用による伝統文化の事例について調べる（９０分）	伝統文化の継承と生物多様性保全のバランスについて学ぶ（９０分）
7	飼育下の生き物への需要（ペットや家畜、動物園・水族館の生き物）が野生の生き物へ影響を及ぼす事例について学ぶ。	ペットとして人気のあるヨウムについて調べる（９０分）	飼育下動物が野生の生き物にもたらす影響について学ぶ（９０分）
8	飼育下の生き物の存在はわれわれ人間にとって不可欠なものではあるにしても、それが野生生物に影響を及ぼさないような方策、また動物園・水族館の役	飼育下の生き物と野生生物との関係について事例を調べる（９０分）	動物園や水族館の役割について学ぶ（９０分）
9	先住民族とその歴史や社会の特徴、伝統文化について、また現在も引き続き直面している彼らへの人権侵害について学ぶ。身近なアイヌ民族についても話	アイヌなど先住民族やその歴史について調べる（９０分）	アイヌなど先住民族への人権侵害について学ぶ（９０分）
10	先住民族による獣肉食や学校教育について、グループ討論・プレゼンを実施する。	獣肉食や学校教育の是非について調べる（９０分）	伝統文化や学校教育についてあらためて学ぶ（９０分）
11	木材や農畜産物（魚介類も含む）の需要に応じた森林など大規模な自然環境の開発の現状とその自然環境への影響について学ぶ。	身近な木材由来の製品や農畜産物とその由来について調べる（９０分）	日本はどれくらいの割合でどこから木材や農畜産物を輸入しているか学ぶ（９０分）
12	木材や農畜産物（魚介類も含む）をいかにサステイナブルな方途で利用していくかについて、グループ討論・プレゼンを実施する。	サステイナブルな木材や農畜産物（魚介類も含む）の利用について調べる（９０分）	木材や農畜産物（魚介類も含む）についての国際認証制度について学ぶ（９０分）
13	鉱物資源開発やエネルギー開発がもたらす自然環境への影響について学ぶ。特に地球温暖化対策として有効と言われている再生可能エネルギーの設置、お	鉱物資源や現在のエネルギー構成について調べる（９０分）	再生可能エネルギーや電気自動車などの開発による自然環境への影響について学ぶ（９０分）
14	地球温暖化対策としての再生可能エネルギーや電気自動車の開発に問題があるとした場合、エネルギーや鉱物資源をいかにサステイナブルな方途で利用し	再エネ設置に伴う地域住民への影響や鉱物資源開発による先住民族への影響について調べる（９０分）	エネルギー問題をどのように見直すべきかあらためて学ぶ（９０分）
15	１回から１４回までの講義全体を振り返り、それと関わる課題を提供する。特に資源の少ない日本に住むわれわれが抱えている問題点も話題提供する。	１～１４回までの講義全体を振り返る（９０分）	講義全体に関わる課題について考察する（９０分）
16	レポート試験（６０分）。レポート試験終了後に解説を行う。授業改善アンケートの実施。	講義全体に関わる課題について考察する（９０分）	レポート試験とその講評を振り返る（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年（留学生対象）		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語Ⅱ （科目ナンバリング：JLN051039 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　恵利（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　恵利・高橋　真弥 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本語Ⅱ		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

基礎の型を学び、、抑えるべきポイントを理解し、相手にしっかりと自分の考えを伝えられる表現力を身に着ける。演習に取り掛かり、それをクラスで共有しコミュニケーションの輪を広げ、楽しくプレゼンテーション能力を身に着ける。

授業の位置づけ

全学科のDP1、DP2、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

プレゼンテーションの法則を学び、様々な演習を通じて大学で通用するプレゼンテーションの技術を身に着ける。身に着けた技術は話すことに限定せず、書くことにも応用する。

授業全体の内容と概要

プレゼンテーションの技法やポイントを段階的に学ぶ。発言力や情報せいりしょくを身に着けるための活動を行い、提示される課題に取り組む。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「SDG 17.パートナーシップで目標を達成しよう」の関連科目。

授業の方法

資料や参考図書を使用し、段階的にプレゼンテーションの型を学ぶ。演習、講義が中心だが、課題についてディスカッションしたり、場面に合わせた敬語等の日本語表現を身に着けるためのグループワーク等も行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中は母語の使用は禁止とする。母語話者同士の会話もすべて日本語で行うこと。また、授業中の携帯電話、辞書の使用は原則禁止とする。集中して教師の講義を聞き、わからなかったら教師に質問すること。プレゼン作成等、教師が許可した時のみ携帯電話の使用ができる。毎時授業内で課題を提示する。一日でも休むと課題評価が得られないので毎回出席すること。
授業中はまじめに取り組み、「日本語でできない」と思わず、なんでもチャレンジすることが求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業内で提示する課題と、最終プレゼンで評価する。課題や最終プレゼンの評価はプレゼンの型やポイントをしっかり理解していることや、スキルを使ってわかりやすく表現できているかで行う。15分以上の遅刻は欠席とみなす。最低出席日数は10回である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	６０％	％	３５％	５％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
プレゼンテーションのための知識と技能	プレゼンテーションのための知識と技能を完全に身に着け、知識と技術を活用してわかりやすく表現することができた。	プレゼンテーションのための知識と技能を身に着け、それを活用して表現することができた。	わからないことを適切な方法で調べながら、相手により伝わるプレゼンテーションを作成するための知識と技能を身に着けることができた。	適切な知識と技術でプレゼンテーションを作成することができた。プレゼンテーションの型や抑えるべきポイントを完全には理解できなかった。	プレゼンテーションのための知識と技能を身に着けることができなかった。プレゼンテーションの型や抑えるべきポイントを理解できなかった。
思考力、判断力、日本語での表現力	自身で考え、自身のことばで表現できる。表現の内容がわかりやすく、文法の間違えがほとんどない。大学で通用するしっかりしたプレゼンができた。	自身で考え、自分のことばで表現でき、内容がわかりやすかった。	自身で考え、自分のことばで表現できた。	正しい日本語での表現ができた。	正しい日本語での表現が困難だった。
主体的に学習に取り組む態度	毎回の授業に参加し授業にも意欲的で、活動、課題にも積極的に参加していた。	毎回の授業に参加し、まじめに取り組んでいた。積極的に活動に参加していた。	毎回の授業に参加し、意欲的でまじめに取り組んでいた。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対しまじめに取り組んでいたが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題があった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年（留学生対象）		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語Ⅱ （科目ナンバリング：JLN051039 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　恵利（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　恵利・高橋　真弥 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本語Ⅱ		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	受講のためのオリエンテーションとシラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 プレゼンテーションのためのことばのドリル	シラバスの内容確認と受講準備（４５分）	授業内容の復習（４５分）
2	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
3	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
4	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
5	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
6	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
7	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
8	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
9	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
10	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
11	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
12	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
13	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク	前回の復習（４５分）	授業内容の復習（４５分）
14	口頭表現、口頭発表、課題対応、グループワーク、 最終プレゼン課題提示	前回の復習（４５分）	授業内容の復習、最終プレゼン作成（４５分）
15	最終プレゼン作成	最終プレゼン作成（４５分）	最終プレゼン作成（４５分）
16	最終プレゼン発表と全体のまとめ 授業改善アンケートの実施	最終プレゼンのチェック（４５分）	全体の復習（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	平面構成Ⅱ （科目ナンバリング：AEA211004 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	グラフィックデザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。もしくは、Teamsなどにより事前に連絡。				

概要

履修目標

デザインの成り立ちに於いて重要とされる要素（エレメント）と原則（プリンシプル）を平面上の造形を通じて学ぶことにより、後に様々な制作活動で応用が可能な造形力を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5、DP7に対応する。（2021年度）

到達目標

デザインの要素（エレメント）と原則（プリンシプル）を理解した上で、求められた課題のコンセプトを平面上に適切に美しく表現することができる造形力を身に付け、今後の作品制作に必要な応用力を高める。

授業全体の内容と概要

平面構成Ⅰで習得した内容を基にして、さらに高度なテーマや複雑なモチーフを用いながら平面を構成する能力を高めるための課題制作を段階を追って積み重ねていく。

授業の方法

各課題作品のテーマや補助的な知識について適宜講義し、制作を進めて行く。
制作は伝統的なアナログ作業とし、デジタルでの制作は行わない。
画材はアクリルガッシュ、筆、パレット、鉛筆、定規、コンパス、カッターナイフ、スケッチブックなどを用い、課題の提出形態はA3サイズのケントボードを用いる。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

平面構成Ⅰを履修していることが前提である。
制作には、アクリルガッシュ、筆、パレット、芯の柔らかい鉛筆、定規、コンパス等の筆記具、カッターナイフ、スケッチブックまたはクロッキー帳を必要とする。
上記のほか、適宜、課題制作前に指示するものを準備すること。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は13回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
課題のコンセプトを理解し、画材を効果的に用いて、平面上に適切に美しく表現できる。	十分に表現出来ていた。	概ね表現出来ていた。	不十分ではあるが、表現出来ていた。	最低限の表現にとどまった。	表現出来ていなかった。
課題のコンセプトを表現するために必要な工程や画材の選択ができる。	十分に出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限しか出来なかった。	全く出来なかった。
常にデザインの要素（エレメント）と原則（プリンシプル）を意識しながらの制作ができる。	十分に出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限しか出来なかった。	全く出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	平面構成Ⅱ （科目ナンバリング：AEA211004 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	グラフィックデザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 平面構成Ⅰの振り返り	シラバスの確認（９０分）	平面構成Ⅰの内容整理（９０分）
2	言葉から発想するイメージ①	シラバスの確認（９０分）	課題の制作（９０分）
3	言葉から発想するイメージ②	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
4	言葉から発想するイメージ③	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
5	言葉から発想するイメージ④	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
6	言葉から発想するイメージ⑤	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
7	プレゼンテーション～講評	課題の制作（９０分）	講評内容の整理（９０分）
8	具象的表現①	シラバスの確認（９０分）	課題の制作（９０分）
9	具象的表現②	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
10	具象的表現③	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
11	具象的表現④	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
12	具象的表現⑤	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
13	具象的表現⑥	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
14	具象的表現⑦	課題の制作（９０分）	課題の制作（９０分）
15	プレゼンテーション～講評	課題の制作（９０分）	講評内容の整理（９０分）
16	全課題の確認・総評 授業改善アンケートの実施	全授業内容のまとめ（９０分）	全授業内容のまとめ（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋美術史Ⅱ （科目ナンバリング：FAH211011 ）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 （単位認定責任者： 竹内　美帆 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

新古典主義以降の西洋の絵画を中心とする美術の歴史を理解する。各時代を代表する画家の主要作品を通して、西洋美術に慣れ親しむとともに、その画家や作品を生み出した社会や文化に対する理解を深める。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP4に対応する。（2022・2023年度）

到達目標

・西洋美術史の時代区分、様式、流派、個々の美術作品などに対する基礎的な知識を習得する。
・作品に関する諸情報を自分の言葉で説明できる。

授業全体の内容と概要

西洋美術の大まかな流れを概観し、具体的な作品を取り上げながら、個々の美術作品の特徴や時代区分、様式、流派について学び、作品の背景にあるものを含めて、美術作品を「視る」能力を高める。

授業の方法

講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。グループワークやディスカッションも取り入れる。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

事前学習として、授業内で取り上げる作品について事前にテキストやインターネット等で予習し、事後学習として取り上げた作家の他の作品について調べると、理解が深まる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程必修　高・美術、工芸

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
３０％	０％	０％	３０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術史の内容に対する理解度	授業内容を越えた自主的な学修ができた。	授業内容について自主的な学修ができた。	授業内容について充分な理解ができた。	授業内容について理解できた。	授業内容の理解が不足していた。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
表現力	授業内容を超えて文献や資料を自分で調査して、独自の知見を加えて説得的に論じることができた。	自分の考えをもとに文献や資料を自分で調査して、筋の通った論述を展開できた。	授業内容に沿って自分の考えを深めて展開し論述できた。	定期試験において自分の考えを記述することができた。	定期試験において自分の考えを記述できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋美術史Ⅱ　（科目ナンバリング：FAH211011　）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『いちばん親切な西洋美術史』	池上英洋、川口清香、荒井咲紀	新星出版社	2016	9784405072282	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『美術でめぐる　西洋史年表』	池上英洋、青野尚子	新星出版社	2021	9784405108134	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業についてのオリエンテーション　授業改善アンケート結果反映の説明 西洋美術史Ⅰの振り返り	シラバスを読んでおく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
2	新古典主義とロマン主義（１）ダヴィッド	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
3	新古典主義とロマン主義（２）アングル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
4	新古典主義とロマン主義（３）ジェリコー、ドラクロワ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
5	近代絵画のはじまり　クールベ、ミレー、マネ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
6	印象派（１）マネ、モネ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
7	小テスト（１） 印象派（２）ルノワール	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
8	印象派（３）ジャポニスム	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
9	後期印象派と新印象派（１）ゴーギャン、ゴッホ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
10	後期印象派と新印象派（２）セザンヌ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
11	小テスト（２） 後期印象派と新印象派（３）スーラ、シニャック	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
12	世紀末美術（１）象徴主義　モロー　ルドン	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
13	世紀末美術（２）ラファエル前派 、分離派、アーツ・アンド・クラフツ運動、アール・ヌーヴォー	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
14	20世紀前半の諸潮流（１）フォーヴィスムとキュビスム　マティス、ピカソ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
15	20世紀前半の諸潮流（２）ダダ、シュルレアリスムなど まとめ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
16	定期試験　フィードバック 授業改善アンケート実施	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	授業内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ソーシャルワーク演習 （科目ナンバリング：SWS112025 ）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希(社会福祉学科・教授)・小早川　俊哉(社会福祉学科・教授)・西野	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 上原　正希 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１．ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。
２．ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。
３．ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。
４．ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。
５．精神保健医療福祉のソーシャルワークについても理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP２、DP3、DP4、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

１．ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養することができる。
２．ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解することができる。
３．ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養うことができる。
４．ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解することができる。
５．精神保健医療福祉のソーシャルワークについても理解することができる。

授業全体の内容と概要

１．ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力について学ぶ。
２．ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に学ぶ。
３．ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力について学ぶ。
４．ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に学ぶ
５．精神保健医療福祉のソーシャルワークについても学ぶ。
６．個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心とする演習形態により学ぶ。
７．「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」「ＳＤＧ4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１．グループに分かれて、テキストの事例を実際にロールプレイしたり、小グループに分かれてディスカッションを行う。
　　その中で教員のスーパービジョンを受け、自己の振り返りを行い、自己覚知を促す。
２．自然災害等などの状況により、オンライン授業などの授業に変更になる場合もある。
３．ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
４．不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．自分の意見等を積極的に発言すること。
２．多くの考えがあることを理解し、他者の意見を否定しない行動が必要となる。
２．教科書は必ず持参すること。
３．必要な資料等は適宜配布する。
４．ソーシャルワーカーや学生・教員のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
５．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程
スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１．単位認定に必要となる５０％最低出席回数１０回以上をクリアすること。
２．その他については、８０％は出席３０％、ボランティアの出席状況１５％、演習における話し合いの態度や発言の取り組み態度３５％で評価します。ボランティアレポートを２０％とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	２０％	０％	０％	０％	８０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークにおける自己理解、他者理解の重要性を理解する。	自己覚知の概念、自己開示の実践、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、他者理解における実践理論を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念、自己開示の実践を言語で明確に説明できた。	自己覚知の概念を言語で明確に理解できた。	左記の専門用語を一つも説明できなかった。
ソーシャルワークにおける面接技法を理解する。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスと重要タームをマイクロカウンセリング技法の用語を用いて説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスの重要タームを説明できた。	ソーシャルワーク面接の一連のプロセスを説明できた。	面接における身体技法を実践できた。	左記の専門ターム及び実践技法を一つも説明及び実践できなかった。
ソーシャルワークにおけるアセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について理解する。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価について明確に言語で説明でき、且つ各々の矢ｊ区割りをロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価における各々の役割をロールプレイングで実践できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、評価、モニタリングの理論と重要性を言語で明確に説明できた。	アセスメント、プランニング、ケースカンファレンス、モニタリング、評価の重要性を説明できた。	左記の用語の説明およびロールプレイング実践を一つもできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	必修
科目名称	ソーシャルワーク演習 （科目ナンバリング：SWS112025 ）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希(社会福祉学科・教授)・小早川　俊哉(社会福祉学科・教授)・西野	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 上原　正希 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワーク演習(共通科目)』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	9784805882436	価格 / 2,750（本体 / 2,500）
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『学びが深まるソーシャルワーク演習』	「学びが深まるソーシャルワーク演習」編集委員会	ミネルヴァ書房	2021	9784623091195	価格 / 3,080
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明）、グループ分け　自己紹介 ・自己理解と他者理解について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
2	基本的なコミュニケーション技術について理解する。 ・言語的技術（質問、促し、言い換え、感情の 反	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
3	基本的な面接技術　・面接の構造化について理解する。 ・場の設定(面接室、生活場面、自宅等)	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
4	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
5	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
6	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
7	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
8	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
9	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
10	ソーシャルワークの展開過程 事例を用いて、具体的なソーシャルワークの場面と過程について理解する。	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
11	ソーシャルワークの記録について理解する。 ・支援経過の把握と管理	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
12	グループダイナミクスの活用について理解する。 ・グループワークの構成(グループリーダー・ コリーダー・グループメンバー)	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
13	グループダイナミクスの活用について理解する。 ・グループワークの展開過程(準備期・開始 期・作業期・終結期)	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
14	プレゼンテーション技術について理解する。 ・個人プレゼンテーション ・グループプレゼンテーション	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
15	プレゼンテーション技術について理解する。 ・個人プレゼンテーション ・グループプレゼンテーション	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理・自己の言動の振り返り（90分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	全てのノート整理・全ての自己の言動の振り返り（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222065 ）				
授業担当者（所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 三上　いずみ ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ストーリー漫画の構成・特徴を理解する。
漫画を描くための技術を身につけ、磨く。
漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探る。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のＤＰ１、DP３、DP５に対応する。（2023，2022年度）
デザイン学科のDP２、DP３、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

ストーリー漫画の構成・特徴を知る。
漫画を描くための技術を身につける。
漫画での表現力を身につける。

授業全体の内容と概要

ストーリー漫画とはどのようにして作り上げていくのか、その方法を知り、読み物として成立させることを学ぶ。また、どのようなジャンルの漫画を描きたいのか、漫画で伝えたいことは何なのかを考える。漫画課題は制作段階ごとに個別に指導する。作画はアナログ・デジタルどちらにも対応する。

授業の方法

授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。授業後にデジタル資料はTeamｓに保存するので振り返り可能。漫画を作成するときは段階ごとに個別に対応する。課題は発表、添削、講評にてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

漫画Ⅰを履修していることが望ましい。
授業開始から３０分間で学習内容の説明を行うので遅刻しないこと。
デジタルで描く場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数２２回以上。
完成した課題を期日までに提出すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	５０％	０％	５０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ストーリー漫画についての知識	ストーリー漫画の構成・特徴を理解し、作品に活かすことができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を理解することができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を理解することに努めた。	ストーリー漫画の構成・特徴を知ることができた。	ストーリー漫画の構成・特徴を知ることができなかった。
漫画を描くための技術	漫画を描くための技術を磨き、作品に活かすことができた。	漫画を描くための技術を磨くことができた。	漫画を描くための技術を磨くことに努めた。	漫画を描くための技術を身につけた。	漫画を描くための技術を身につけることができなかった。
作品の表現力	漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探り、作品に活かすことができた。	漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探ることができた。	漫画での表現力を身につけ、自己の可能性を探ることに努めた。	漫画での表現力を身につけることができた。	漫画での表現力を身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222065 ）				
授業担当者（所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 三上　いずみ ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家として出版経験のある教員がその経験を活かして漫画の描き方を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 使用道具の説明	シラバスを読んでおくこと（４５分）	必要な道具を準備する（４５分）
2	ストーリー漫画の構成・特徴 漫画のおもしろさについて どんな漫画を描きたいのか	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
3	プロットづくり①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
4	プロットづくり②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
5	ネーム①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
6	ネーム②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
7	ネーム直し①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
8	ネーム直し②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
9	ネーム直し③	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
10	ネーム直し④	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
11	下描き①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
12	下描き②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
13	下描き③	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
14	下描き④	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
15	ペン入れ①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
16	ペン入れ②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	背景①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
18	背景②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
19	ベタぬり①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
20	ベタぬり②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
21	スクリーントーン①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
22	スクリーントーン②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
23	仕上げ①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
24	仕上げ②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
25	表紙①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
26	表紙②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
27	製本①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
28	製本②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
29	発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
30	講評	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
31	鑑賞	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進める（４５分）
32	展示 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（４５分）

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態		必修・選択	
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑⅠ　（科目ナンバリング：IRE321072　）				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	1　（単位認定責任者：　）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー					

概要

履修目標

授業の位置づけ

到達目標

授業全体の内容と概要

授業の方法

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

修学サポート（合理的配慮）

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態		必修・選択	
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑⅠ	（科目ナンバリング：IRE321072 ）			
授業担当者（所属・職名）			研究室等所在		
単位数	1 （単位認定責任者： ）		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	財務会計論 （科目ナンバリング：ACC412010，ACC512007 ）				
授業担当者（所属・職名）	川津　大樹（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 川津　大樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体（商工会）に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。		
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。				

概要

履修目標

会計は、「事業（ビジネス）の言語」と呼ばれており、あらゆる業種や立場（経営者、従業員またはフリーランス等）を問わず、その知識が必要とされている。
ところが、会計には、「利益」や「減価償却」のように、会計の世界にしか存在しない用語や概念が存在する。
そこで、本講義では、社会人として求められる財務会計の知識・理解を深め、財務諸表分析を通じて会計情報を利用できるようになることを目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

・財務会計の基礎的な仕訳処理を理解する。
・財務会計の役割と財務諸表の構造に関する理論を理解する。
・財務諸表分析を行うことができる。

授業全体の内容と概要

講義の前半（第５回まで）は、財務会計の総論として、会計の基本前提や関連規則を取り上げる。
講義の後半（第６回以降）は、個別論点を取り上げ、会計処理とそれを支える理論を解説する。
本講義は、テキストの解説のみならず、日経新聞の記事や上場企業の財務諸表を用いて、実社会との関わりを意識して進める。
また、本授業科目は、「SDG12 つくる責任　つかう責任」の関連授業であり、当該目標で求められているサステナビリティ報告に関しても取り上げる。

授業の方法

・会計処理を取り上げる際には、仕訳の計算を行う時間を設けるため、電卓を用意することを推奨する。
・Teamsの利用を前提とするので、受講生は全員必ず登録する。登録案内は、初回までに別途行う。
・不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供することがあり得る。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義は、簿記の発展科目であることから、「簿記論」の単位を取得していない者は受講できない。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	４０%	０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
会計処理の意味を理解する。	会計処理の内容を理論と関連づけて詳細に説明できる。	会計処理を理解した上で、その背後にある理論を十分に理解している。	会計処理を理解した上で、その背後にある理論をある程度理解している。	会計処理の意味を最低限理解している。	会計処理の意味を理解できなかった。
財務諸表の内容を理解できる。	財務諸表の内容を理論と関連づけて詳細に説明できる。	財務諸表の内容を理解した上で、その背後にある理論を十分に理解している。	財務諸表の内容を理解した上で、その背後にある理論をある程度理解している。	財務諸表に記載されている内容を最低限理解している。	財務諸表に記載されている内容を理解できなかった。
財務諸表の分析について理解できる。	財務諸表分析を行い、数値の結果と関連づけて企業の状態を詳細に説明できる。	財務諸表分析の数値を見て、企業の状態を判断できる。	実際の企業の財務諸表を用いて、財務諸表分析を行い、指標の数値を計算することができる。	財務諸表分析に使用される指標の意味を最低限理解している。	財務諸表分析に使用される指標の意味を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	財務会計論 （科目ナンバリング：ACC412010，ACC512007 ）				
授業担当者（所属・職名）	川津　大樹（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 川津　大樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体（商工会）に勤務し、地域の中小企業に対して金融・税務指導を行った経験に基づき、財務会計に関する理論、制度および実務を総合的に取り上げる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ケースブック会計学入門（第４版）』	永野則雄	新世社	２０１４年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（講義の進め方、簿記論の復習） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスとテキストの序文を読んでおく（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
2	会計とは何か	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
3	会計の仕組みと規則	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
4	会計公準と企業会計原則	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
5	財務諸表の作成原理	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
6	棚卸資産の会計	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
7	固定資産の会計	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
8	金融資産の会計	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
9	負債の会計	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
10	純資産の会計	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
11	収益・費用・税金の会計	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
12	連結の貸借対照表と損益計算書	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
13	その他の財務諸表	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
14	企業の評価―財務諸表分析―	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
15	サステナビリティ報告に関する最新動向 授業改善アンケートの実施	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
16	定期試験と解説（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）	これまでの内容を復習する（９０分）	定期試験の解説内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	特別活動の指導法	（科目ナンバリング：ESS143158，ESS243104，ESS343098，ESS443100，ESS543109）			
授業担当者（所属・職名）	大庭　隆（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　大庭　隆　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	元高等学校教諭・教頭・副校長、商業科高等学校校長の経験を活かし、学習指導要領の理解と科目の効果的指導方法や、学習指導案の作成、模擬授業を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

特別活動の指導法について，教職を志す学生に身に付けさせることを目的とする。特別活動とは学生生活における授業活動以外の全活動を指すものであり，学校とは何の為にあるのかをこの講義を通じて修得するものである。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP３、DP４に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP２、DP４に対応する。（2023・2022年度）
社会福祉学科のDP１、DP２、DP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

本科目は，デザイン学科のＤＰ＜学修目標＞１、２を達成するための科目である。
デザイン学科のＤＰ＜履修すべき科目と単位＞１を達成するための科目である。特別活動の指導法について、教職を志す学生に特別活動の内容を理解させることを目的とする。特別活動とは学生生活における授業活動以外の全活動を指すものであり、学校の持つ意義をこの講義を通じて考える。

授業全体の内容と概要

カリキュラムマネジメントに基づいて各回のテーマに反って授業の検証を行なって質の高い講義をするとともに、主体的・実践的・具体的な理解を可能とするように考察・討論・発表などの活動を行う。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は，各回のテーマに基づき板書及び配布物資料等を活用しながら講義形式で行うとともに、指導計画の作成など実践的な内容を含めて考察・討論・発表、ペアワーク・グループワーク・プレゼンテーションを取り入れた思考・考察、意見交換、討論、発表等の活動としてのActiveLearningを行ない、さまざまな事例を素材としＰＰＴを活用した講義形式。コミュニケーション力、メタ認知力を身に付ける。板書となるＰＰＴについては表示したものを毎時間配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るためのレポートを提出し発表、要望等についてもレポートに記入欄を設ける。次回の導入時に全体にフィードバックを行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

科目の性格上出席・受講態度等についてもそのまま評価対象とする。教師志望者として，ふさわしい受講態度で授業に臨むこと。講義に関係の無い私物については鞄に入れ、使用を厳禁とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目　中学校・高等学校教諭免許

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上
定期試験・受講態度などで決定。（教科の性格上受講態度・出席を重視する）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	２０％	０％	０％	１０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
課題発見・　課題解決力	テーマに意義を発見し、目標を設定した上で、最善の方法を選択、計画を立て、適切な目標を設定、最善の方法を選択し、多面的・多角的に課題解決できた。	テーマに対し、適切な目標を設定した上で、目標に応じた方法を選択し課題解決できる、実行できた。	テーマに対し、目標を設定し、計画を立てることができ、結果を基準に照らし合わせて評価し、計画の見直に努力できた。	テーマに対し、目標を設定することができる。結果を基準に照らし合わせて評価できた。	テーマに対して目標を設定できず、課題を発見できなかった。
プレゼンテーションのスキル	聞き取りやすい声と適度な抑揚と間のある語りで、興味を惹きつけ説得力がある。反応を受け、学習活動を牽引し、工夫ある適切なスライド資料ができた。	聞き取りやすい声と抑揚のある話し方で工夫している。自分の表情とジェスチャーに工夫ができる。図表やグラフなどスライド資料の順番・構成もできた。	終始、聞き取りやすい大きい声で話せる。みんなの表情を確認しながら話せる。文字の大きさや図表の使い方は十分だが、情報量のバランスを欠いていた。	発表途中で声が小さく、聞き取りづらいことがある。手元の原稿や発表スライドの方を向くなと不十分。文字の大きさは十分だが、図表やグラフが少なく、ＰＲが不十分だった。	発表の内容が分かりづらく、相手に自分の意見を伝えようという意図が感じられなかった。
論理的・批判的思考力	事柄・情報を整理して理論的に構造化でき、他を納得させる意見が展開できる。多面的・多角的に考察することができ、様々な可能性を検証することができた。	事柄・情報を整理して構造化でき、意見を展開できる、最適解を導くため、自分の思考が偏っていないか確認、考察することができた。	事柄・情報の整理に苦労し、自分の意見を表現するまでに至らない。情報や人の意見をが正しいか考察することができた。	事柄・情報の整理に苦労し、自分の意見を表現するまでに至らない。情報や人の意見をが正しいか考察することができた。	事柄・情報を整理出来ず、論理性を欠き、最適解を求めることが出来なかった。
情報管理力	PC等の適切な図表・写真等を用いたレポート、効果的なプレゼンテーション資料を作成でき、ICTを活用した適切な情報整理ができる。もよくできた。	PC等の図表や写真等を用いたレポート、プレゼンテーション資料が作成でき、ICTを活用した学習ができる。情報整理もできる。多角的疑問に回答が出来た。	PC等を使用して、図表や写真等を用いたレポート、プレゼンテーション資料を作成できる。テーマに関する情報整理も出来た。	PC等を使用して、レポートの作成ができる。プレゼンテーションの資料作成に苦労することが多い。テーマに関する情報整理はできた。	ICTの活用が未熟で、テーマに対する情報整理が出来なかった。
コミュニケーション力（グループワーク）	自ら積極的に話し相手との双方向の会話が出来、学生間の信頼関係があり、学習活動の中心的な存在。自他の意見の尊重で、結論を出すことに貢献できた。	自ら相手に話しか,相手からもよく話しかけられる。他との信頼関係を築き、関係性は良好に保つ。相手の意見に関心を持ち、注意深く聞き、相手を理解できた。	自ら相手に話しかけ，相手から話しかけられたりと他との信頼関係を築く努力をしている。同意する姿勢が強く、相手の意見を積極的に聞く姿勢がみられた。	自分から話しかけないが，話しかけられれば，話をすることができる。消極的。相手の意見を聞くことができるが、議論を進め、学習活動にを活性化する発言が少なかった。	他との話し合いに参加することが無く、議論を進め、学習活動にを活性化する発言も無かった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	特別活動の指導法	（科目ナンバリング：ESS143158，ESS243104，ESS343098，ESS443100，ESS543109）			
授業担当者（所属・職名）	大庭　隆（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者：　大庭　隆　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	元高等学校教諭・教頭・副校長、商業科高等学校校長の経験を活かし、学習指導要領の理解と科目の効果的指導方法や、学習指導案の作成、模擬授業を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 特別活動とは何か	シラバスを読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，テキスト・ノートをまとめておくこと（９０分）
2	特別活動の歴史について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，テキスト・ノートをまとめておくこと（９０分）
3	教育基本法から見た特別活動の目的と意義について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，テキスト・ノートをまとめておくこと（９０分）
4	特別活動の種類と内容について	学習内容について学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，テキスト・ノートをまとめておくこと（９０分）
5	学級活動の目標について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，テキスト・ノートをまとめておくこと（９０分）
6	学級活動の内容について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，テキスト・ノートをまとめておくこと（９０分）
7	学級活動の指導計画について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，テキスト・ノートをまとめておくこと（９０分）
8	生徒会活動の目標について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，テキスト・ノートをまとめておくこと（９０分）
9	組織と内容について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，テキスト・ノートをまとめておくこと（９０分）
10	生徒会活動の指導計画について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，テキスト・ノートをまとめておくこと（９０分）
11	学校行事の目標について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，テキスト・ノートをまとめておくこと（９０分）
12	学校行事の内容について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，テキスト・ノートをまとめておくこと（９０分）
13	学校行事の指導計画について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，テキスト・ノートをまとめておくこと（９０分）
14	特別活動の指導上の留意点について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，テキスト・ノートをまとめておくこと（９０分）
15	特別活動の評価について	学習内容について、関連する事柄や語句等について調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，テキスト・ノートをまとめておくこと（９０分）
16	定期試験 ６０分の試験終了後，残りの３０分で解説 授業改善アンケートの実施	試験に備えて講義全体の振り返りを行うこと（９０分）	試験および解説を受けて講義全体を振り返り理解を深めること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（留学生対象）		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語III （科目ナンバリング：JLN052040 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　恵利(経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　恵利・高橋　真弥 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本語III		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

自分の思いや考えを、相手が理解できるように伝えるにはどのような技法や作法が必要なのかを学ぶ。大学の各専門分野において、しっかりした文章が書けるようになる。日本の大学で通用するレポート、論文の書き方を段階的に学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３年、２０２２年度度）
デザイン学科のＤＰ２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３年度、２０２２年度）
建築学科のＤＰ２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３年度、２０２２年度）
経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。（２０２３年度、２０２２年度）

到達目標

文章の「型」を身に着け、自分の考えを整理することができる。文章表現のルールを理解し、スキルを身に着け、正しい形のレポートや論文を書くことができる。
わかりやすい文章で、相手に自分の思いや考えを伝えることができる。

授業全体の内容と概要

文章表現のルールや技法を段階的に学ぶ。課題発見力、情報整理力を身に着けるためのトレーニングを行い、提示される課題に取り組む。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。
「SDG 17.パートナーシップで目標を達成しよう」の関連科目。

授業の方法

資料や参考図書を使用し、段階的にレポート、論文の書き方を学ぶ。文章表現のトレーニングが中心だが、グループでお互いの文章を評価したり、課題発見力、情報整理力をつけるためのグループワーク等も行う。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中は母語の使用は禁止とする。母語話者同士の会話もすべて日本語で行うこと。また、授業中の携帯電話、辞書の使用は原則禁止とする。集中して教師の講義を聞き、わからなかったら教師に質問すること。文章表現時に単語等がわからない時など、教師が許可した時のみ携帯電話等の使用ができる。毎時授業内で課題を提示する。一日でも休むと課題評価が得られないので毎回出席すること。
平常点も評価に影響する。授業中は真面目に取り組み、「日本語で表現できない」と思わずなんでもチャレンジすることが求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業内で提示する課題と、最終レポートで評価する。課題や最終レポートの評価は文章表現のルールを理解していることや、スキルを使ってわかりやすく表現できているかどうかで行う。
15分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。最低出席日数は10回である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	４０%	０%	２５%	５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
文章を書くための知識と技術	文章を書くための知識と技術を完全に身につけ、知識と技術を活用してわかりやすい文章で表現することができた。	文章表現のルールを理解し、文章を書くための知識と技術を身につけることができた。	分からないことを適切な方法で調べながら、相手に、より伝わる文章を書くための知識と技術を身につけることができた。	適切な知識と技術で文章を書くことができた。文章表現のルールを完全には理解できなかった。	文章を書くための知識と技術を身につけることが全くできなかった。文章表現のルールを理解できなかった。
思考力、判断力、日本語での表現力	自身で考え、自分の言葉で表現できる。表現の内容が分かりやすく、文法の間違えがほとんどない。大学で通用するしっかりした文章表現ができた。	自身で考え、自分の言葉で表現でき、内容が分かりやすかった。	自身で考え、自分の言葉で表現できた。	日本語での表現ができた。	日本語での表現ができなかった。
主体的に学習に取り組む態度	毎回の授業に参加し授業に意欲的で、活動、課題にも積極的に参加していた。	毎回の授業に参加し、授業に対し真面目に取り組んでいる。積極的に活動に参加していた。	毎回の授業に参加し、授業に対しに意欲的で真面目に取り組んでいる。積極性は弱かった。	最低出席日数分授業に参加しており、授業に対し真面目に取り組んでいるが、授業内の活動に対し消極的であった。	最低出席日数分授業に参加しておらず、授業態度も問題あった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（留学生対象）		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語III （科目ナンバリング：JLN052040 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　恵利(経営学科・非常勤講師)		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　恵利・高橋　真弥 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本語III		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	受講のためのオリエンテーションとシラバスの説明 文章を書くためのことばのドリル 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの内容の確認と受講準備（９０分）	授業内容の復習（９０分）
2	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
3	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
4	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
5	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
6	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
7	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
8	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
9	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
10	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
11	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
12	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
13	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク	前回の復習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
14	文章表現トレーニング、課題対応、グループワーク 最終レポート課題提示	前回の復習（９０分）	授業内容の復習、最終レポート作成（９０分）
15	最終レポート作成	前回の復習（９０分）	最終レポート作成（９０分）
16	最終レポートの提出と全体のまとめ 授業改善アンケートの実施	最終レポートのチェック（９０分）	全体の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育者論 （科目ナンバリング：CHS121072 ）				
授業担当者（所属・職名）	平山　拓也（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 平山　拓也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実務経験を活かし、保育士の専門性を体系的に講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

以下の４つを授業の目的とする。
１．保育者の役割と倫理について理解する。
２．保育士の制度的な位置づけを理解し、その専門性について考察する。
３．保育者の連携・協働について理解する。
４．保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

１．保育者の役割・倫理，協働，専門職的成長について理解したことを説明する。
２．保育士の制度的な位置づけ，専門性について理解したことを説明する。

授業全体の内容と概要

保育者の役割、倫理、協働、専門職的成長及び保育士の制度的な位置づけ、専門性について体系的に学修する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とプレゼンテーションソフトを活用しながら講義形式で行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換や教材配付等を行う。
レポートに関してもコメントしてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

レポートの内容・提出方法及び平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。
遅刻した場合、授業へは参加できるが２０分以上の遅刻は欠席扱いとするので注意すること。
評価Ｓは履修者の１０％以内、評価ＳとＡを合わせて４０％以内となっている。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
60％	0％	0％	0％	40％	0％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育者の役割に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	保育者の役割及び倫理性について深く理解できた。	保育者の役割及び倫理性についておおむね理解できた。	保育者の役割及び倫理性について理解できた。	保育者の役割及び倫理性についてやや理解できた。	保育者の役割及び倫理性について理解できなかった。
保育士の専門性に関する思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育士の専門性について深く考察できた。	保育士の専門性についておおむね考察できた。	保育士の専門性について考察できた。	保育士の専門性についてやや考察できた。	保育士の専門性について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをわかりやすく説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをおおむね説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことを説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことをやや説明できた。	専門職としての役割・倫理・協働について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育者論 （科目ナンバリング：CHS121072 ）				
授業担当者（所属・職名）	平山　拓也（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 平山　拓也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実務経験を活かし、保育士の専門性を体系的に講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『新・基本保育シリーズ7　保育者論』	公益財団法人児童育成協会	中央法規出版	２０１９	9784805857878	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 保育者の役割・職務内容・職務内容	指定した教科書を事前に読むこと（９０分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
2	保育士の倫理	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
3	保育士の資格・資質	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す課題レポートを作成する（９０分）。
4	欠格事由、信用失墜行為及び秘密義務保持等	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
5	保育士の資質・能力	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	５回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
6	養護及び教育の一体的展開	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	６回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
7	家庭との連携と保護者に対する支援	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
8	計画に基づく保育の実践と省察・評価	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す課題レポートを作成する（９０分）。
9	保育の質の向上	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	９回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
10	保育における職員間の連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	１０回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
11	専門職間及び専門機関との連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	１１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
12	地域における自治体や関係機関等との連携・協働	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	１２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
13	資質向上に関する組織的取組	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	１３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
14	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す課題レポートを作成する（９０分）。
15	組織とリーダーシップ　まとめ	これまでの授業で学んだ事を整理しておく（９０分）。	授業の目的の達成度を自己評価する（９０分）。
16	定期試験６０分。試験終了後に解説を行う 提出されたレポートの総合評価をフィードバックと授業改善アンケートの実施	15回の講義内容を振り返り復習する(９０分)。	験、課題の解説に基づき復習し整理する(９０分)。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	マクロ経済学 （科目ナンバリング：ECT422027，ECT522030 ）				
授業担当者（所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 河野　善文 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

マクロ経済学の基本用語や考え方を理解することで、マクロ経済学に関する基礎的な問題が解け、日本のマクロ経済のニュースが自分なりに解釈できる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

マクロ経済学の基礎的な用語を説明できる。
マクロ経済学の基礎的な理論に関する計算問題や図解問題を解ける。
日本のマクロ経済規模やマクロ経済政策に関するニュースの概要を説明できる。

授業全体の内容と概要

国民所得や三面等価、通貨供給量などのマクロ経済の用語ならびに財市場の均衡理論など、マクロ経済学の基本的な枠組みについてテキストを通じて学ぶ。また、日本のマクロ経済に関する記事や資料を読み、マクロ経済学で学んだことをもとにマクロ経済の動向や政策について考察・解釈する。

授業の方法

各回の計画にそって、板書やスライドによる講義とノートをもちいた演習とを組み合わせた授業をおこなう。講義では、マクロ経済学の用語や基本的な考え方について事例をまじえて解説しする。演習では、マクロ経済学に関連する計算問題やグラフの作成、例をあげて用語を説明するなどの演習問題に取り組む。また、理解の確認の意味もふくめて、解説と演習のあいまに受講生に対して随時質問をして意見をもとめながら授業をすすめる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

履修人数によっては座席を指定する場合がある。また、質問や演習問題の回答・解答を書くために必ずノートが必要である。平常点はこの演習課題への取り組みを評価する。このため、欠席・遅刻することなく授業に参加して演習に取り組むことが重要である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は試験を除く１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
マクロ経済の用語の理解	事例をあげてマクロ経済の用語を明確に説明できた。	事例をあげてマクロ経済の用語を説明できた。	マクロ経済の用語を説明できた。	マクロ経済の用語をある程度説明できた。	マクロ経済の用語を説明できなかった。
マクロ経済理論の理解	図や式を利用してマクロ経済学の問題をとき、その結果についてコメントできた。	図や式を利用してマクロ経済学の問題がとけた。	マクロ経済学の基礎的な図や式を正確に書くことができた。	マクロ経済学の図や式をある程度書くことができた。	マクロ経済学の図や式を書くことができなかった。
日本のマクロ経済の理解	日本のマクロ経済や経済政策の動向について概要を説明できた。	日本のマクロ経済や経済政策の動向について概要をある程度説明できた。	日本のマクロ経済や経済政策の動向についてある程度考察できた。	日本のマクロ経済や経済政策の動向について調べることができた。	日本のマクロ経済や経済政策の動向を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	マクロ経済学 （科目ナンバリング：ECT422027，ECT522030 ）				
授業担当者（所属・職名）	河野　善文（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 河野　善文 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『マンキュー入門経済学（第３版）』	Ｎ・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	２０１９	4492315217	
2	『マクロ経済学の基礎（第２版）』	家森信善	中央経済社	２０２１	9784502371318	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	マクロ経済学とは ・授業改善アンケート結果反映の説明 ・授業計画（シラバス）の説明	マクロ経済学とは何かについて調べる（９０分）	マクロ経済学とは何かについてノートにまとめる（９０分）
2	日本のマクロ経済について ・経済活動と国民経済計算　・日本のマクロ経済の動向	国内総生産ＧＤＰ・月例経済報告について調べる（９０分）	国民経済計算とは何かについてノートにまとめる（９０分）
3	マクロ経済学の基本要素 ・マクロ経済の３つの面　・マクロ経済の３つの市場と経済主体	経済の３つの面と経済主体について調べる（９０分）	マクロ経済学の基本要素についてノートに整理してまとめる（９０分）
4	経済の三面とその関係 ・経済の３つの面と国民の所得　・経済の３つの面の関係	三面等価について調べる（９０分）	経済の３つの面の関係をノートに整理してまとめる（９０分）
5	財の需要と供給 ・マクロ経済学の記号と式　・財市場における総需要と総供給の均衡	財市場の均衡について調べる（９０分）	財市場の均衡についてノートにまとめる（９０分）
6	均衡国民所得 ・国民経済計算　・所得と消費の関係式	消費関数について調べる（９０分）	国民経済計算の復習(ノート整理)と演習問題（９０分）
7	均衡国民所得の計算 ・均衡国民所得の計算　・演習：均衡国民所得	均衡国民所得について調べる（９０分）	均衡国民所得の計算方法のノート整理と演習問題（９０分）
8	有効需要と財政政策 ・有効需要と不況　・景気対策	有効需要と財政政策について調べる（９０分）	財政政策にかんするノート整理と演習問題（９０分）
9	均衡国民所得の図解 ・総供給と総需要の図　・均衡国民所得の図解	４５度線分析について調べる（９０分）	均衡国民所得の図の描きかたをノートにまとめる（９０分）
10	完全雇用と需給ギャップ ・日本の雇用状況　・完全雇用と完全雇用国民所得	完全雇用について調べる（９０分）	完全雇用国民所得の説明をノートにまとめる（９０分）
11	需給ギャップと経済政策 ・需給ギャップの復習　・演習：需給ギャップ	需給ギャップの復習（９０分）	需給ギャップにかんする演習問題（９０分）
12	投資の決定について ・金利とは　・投資の決定の考え方	金利・期待収益について調べる（９０分）	投資決定の考え方についてノートにまとめる（９０分）
13	中央銀行と通貨 ・金利の現状　・通貨と日本銀行	日本銀行について調べる（９０分）	通貨と日銀についてノートにまとめる（９０分）
14	金融政策と通貨 ・金融政策とは　・日銀と金融政策	金融政策について調べる（９０分）	日銀と金融政策についてノートにまとめる（９０分）
15	財市場と金融市場のまとめ	これまでの授業ノートを見直して疑問点をまとめる（９０分）	不明な点を確認して授業ノートを完成させる（９０分）
16	定期試験（６０分）と試験の説明 授業改善アンケートの実施	各回の演習問題に再度とりくむ（９０分）	試験で間違えた問題に再度とりくむ（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	まちづくり論 （科目ナンバリング：S0C423044，S0C523043 ）				
授業担当者（所属・職名）	松本　懿（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 松本　懿 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間シンクタンクでの勤務（２３年）や北海道地域づくりアドバイザー（北海道委嘱：３５年）としての経験をもとに、まちづくりの考え方、あり方を具体的・実践的に説明する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

「まちづくり」という言葉は広く使われているが、その意味・内容や成果についての受け止め方は一様ではない。本講では、住民自治をベースに地域経営をいかに展開・確立するかという観点から、改めてまちづくりの概念、今日的意義と課題、成功要因等を理解するとともに、自らの関わり方についても考究する。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

「まちづくり」への知識や興味・関心が高まり、周りにある様々なまちづくり活動の特徴や成否に関する分析的視点・評価尺度が身につくとともに、今後、一住民として、あるいは自治体職員等として、自ら積極的姿勢をもって企画、参画することができる。

授業全体の内容と概要

「まちづくり」とは、誰が、何を、どうすることなのか。また、成功とはどんな状態を指し、到達するための条件・ポイントは何か。さらに、リーダーやメンバーに求められる心構えや行動とは･･･。こうした疑問や問題意識を念頭に、道内外の実際例をていねいに分析・検討する中から、その答えを見出してゆく。
「SDG3.すべての人に健康と福祉を」「SDG11.住み続けられるまちづくりを」「SDG12.つくる責任　つかう責任」の関連授業。

授業の方法

講義、グループワーク、レポート作成などを併用する。講義は、まちづくりの理論的側面を概説した上で、個別のまちづくりに関する経過資料やビデオを活用するなど事例を中心に進める。グループワークでは、まちづくり文献・資料等から、成功要因や学ぶべき事柄等を討議、発表し合う（4回程度）。レポート・課題提出を数多く求めるが（７回程度）、グループワークやレポート等へのコメントは、質問や要望事項に対する回答も含めて、次週にフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

私語厳禁。メモやノートをしっかりとる。遅刻の取り扱いは、授業開始時に説明。不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	３０%	１０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
まちづくりの意義・概念・成功条件への知識・理解	授業内容を超える知識・情報を積極的に勉強・収集し、理解度を高めている。	授業内容をほぼ全て理解している。	授業内容を概ね理解している。	最低限の授業内容を理解している。	授業内容を理解できていない。
まちづくりへの関心・意欲および授業態度	事前事後の学習はもとより、授業中積極的に質問、発言するなど模範的な授業態度である。	事前事後の学習がなされている。授業中の課題や板書をこなしている。また、理解を深めるため真剣に聴いている。	授業中の課題や板書をこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聴いている。	授業中の課題や板書をこなしている。	授業中、着席するものの課題や板書に取り組んでいない。
具体的な市町村等を対象に、地域特性や課題を踏まえたまちづくりプランを構想・提言	問題意識が鮮明で、内容も具体性に富み、魅力に溢れている。	問題意識が鮮明で、内容も具体的、魅力的である。	問題意識が鮮明で、内容も具体的でわかりやすい。	内容に一定の具体性がある。	問題意識が不鮮明で、内容も具体性や魅力に欠けている。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	まちづくり論 （科目ナンバリング：S0C423044，S0C523043 ）				
授業担当者（所属・職名）	松本　懿（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者：　松本　懿　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間シンクタンクでの勤務（２３年）や北海道地域づくりアドバイザー（北海道委嘱：３５年）としての経験をもとに、まちづくりの考え方、あり方を具体的・実践的に説明する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：シラバスを中心に説明（本講の目的・内容・意義、進め方、試験・評価方法、遅刻の取り扱い、受講上の留意点、授業改善アンケート結果の	シラバスによく目を通しておく(９０分)	授業内容に関連した「作文」を作成(９０分)
2	まちづくりへのアプローチ(１)　基礎理解（その概念、今日的意義・課題、担い手、新しい公共、参加・協働など）	事前配布「米百俵」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
3	まちづくりへのアプローチ(２)　構想・計画（まちの構成要素、その点検、計画・ルールなど）、　まちづくりの事例研究①＜旭川市＞	事前配布「旭川買物公園「を読んでおく（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
4	まちづくりへのアプローチ(３)　実践に向けて（その準備、基本手順、留意点など）、　まちづくりの事例研究②＜山形県長井市＞	事前配布「長井市レインボープラン」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するレポートを作成する（９０分）
5	まちづくりの事例研究③　過疎を逆手にとる＜鹿児島県鹿屋市やねだん集落＞	過疎地域の今日的状況、課題を考察しておく（９０分）	授業内容に関するレポートを作成する（９０分）
6	まちづくりの事例研究④　まちの美化・環境改善への挑戦＜長野県飯田市＞	事前配布「飯田市リンゴ並木」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するレポートを作成する（９０分）
7	まちづくりの事例研究⑤　まちの歴史、町並みを活かす＜愛媛県内子町＞	事前配布「内子町の町並み保存」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
8	まちづくりの事例研究⑥　美しい水環境を再生する＜福岡県柳川市＞	事前配布「柳川の堀割」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
9	ゲスト講話「自治体職員とまちづくり」＜北広島市の職員を予定＞	北広島市についての資料・データ・情報にアクセスする（９０分）	ゲスト講話の内容に関するレポート作成（９０分）
10	まちづくりの事例研究⑦　障がい者が働く・輝く＜スワンベーカリー＞	事前配布「スワンベーカリー」を読んでおく（９０分）	障がい者が働きやすい地域社会や職場を考えてみる（９０分）
11	まちづくりの事例研究⑧　安心・安全な子育て環境を創る＜東京都NPOフローレンス＞	事前配布「病児保育のフローレンス」を読んでおく（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
12	まちづくりの事例研究⑨　商店街の再生・活性化＜東京都足立区東和銀座商店街＆香川県高松市丸亀町商店街＞	事前配布「東和銀座商店街」を読んでおく（９０分）	出身地の商店街の現状、課題を検討・整理してみる（９０分）
13	まちづくりの事例研究⑩　高齢者の生きがい・働きがい創造＜徳島県上勝町＞	事前配布「上勝町の葉っぱビジネス」を読んでおく（９０分）	身近な高齢者に生きがいやまちのあり方を聞く（９０分）
14	まちづくりの事例研究⑪　若者によるまちづくりイベント・活性化＜札幌市YOSAKOIソーラン祭り＞	配付資料からレポート「YOSAKOIの特徴・成功要因」を作成（９０分）	授業内容に関するノートを整理する（９０分）
15	まとめ　①課題「北広島市のまちづくりへの提言」発表・提出　②総括講義「まちづくりの要諦」　③「授業改善アンケート」	課題「北広島市への提言」をまとめておく（９０分）	「まちづくり論」のノート、資料の整理（９０分）
16	「定期試験」(６０分)及び解説(３０分)	定期試験の準備（９０分）	定期試験及び解説を受けて、本講全体の理解を深める（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・地理歴史科教　（科目ナンバリング：ESS143156,　　）				
授業担当者（所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館3階	
単位数	2　（単位認定責任者：　塩﨑　大輔　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

中学校の社会科教諭及び高等学校の地理歴史科教諭として最低限、身につけなければならない事、すなわち「社会科」・「地理歴史科」という教科の本質的な意義と目的を、詳細に理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP４、DP５に対応する。　（2023・2022年度）

到達目標

実際に「社会科」・「地理歴史科」の授業計画を作成することや教壇に立てるだけの最低限のスキルを身につけ、教材研究ができる。

授業全体の内容と概要

教育実習の準備として、基本的な教科の理解及び教科の授業計画、教材研究、模擬授業（後期）等をマスターするので、教員の立場として物事を考えることが望まれる。前期は、社会・地理歴史科の基礎的な内容を学修して教材研究の方法を学び、後期には実践的な模擬授業を実施する。
「ＳＤＧ４、質の高い教育をみんなに」の関連科目。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業形態は講義形式（板書を含む）が中心であるが、グループ学習・ディスカッションも含まれる。また、指導案やレポート等は、コメントによりフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義内で適宜連絡する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上である。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	３０%	０%	２５%	２５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、９割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、８割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、７割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点取ることができなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現ができた。	ディスカッションの課題などで、論理的に自分の意見をまとめ、たいへんわかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、わかりやすく説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができた。	ディスカッションの課題などで、自分の意見をまとめ、説明ができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現ができた。	実践的な模擬授業において、より詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされず、授業として成立していなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	社会科・地理歴史科教　（科目ナンバリング：ESS143156,　　）				
授業担当者（所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館3階	
単位数	2　（単位認定責任者：　塩﨑　大輔　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領解説　社会編』	文部科学省	東洋館出版社	2018	9784491034713	
2	『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』	文部科学省	東洋館出版社	2019	9784491036410	
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明を含む） 前年度の授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	模擬授業見学（４年生）（１）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
3	模擬授業見学（４年生）（２）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
4	模擬授業の実践　～地理的な見方・考え方～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
5	模擬授業の実践　～国際理解～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
6	模擬授業の実践　～身近な地域～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
7	模擬授業の実践　～歴史的な見方・考え方～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
8	模擬授業の実践　～過去と現在のつながり～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
9	模擬授業の実践　～多面的・多角的に考察する力～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
10	模擬授業の実践　～地理情報システム～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
11	模擬授業の実践　～防災～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
12	模擬授業の実践　～近現代・国際社会～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
13	模擬授業の実践　～近現代・日本～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	模擬授業の資料を作成準備しておくこと。（９０分）
14	総合的な学習の時間における地理歴史科　～テーマ～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
15	総合的な学習の時間における地理歴史科　～調査～	模擬授業の資料を作成しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生徒・進路指導論	（科目ナンバリング：ESS143160，ESS243107，ESS343101，ESS443103，ESS543112）			
授業担当者（所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者：　髙井　雅一　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして生徒・進路指導論に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

概要

履修目標

生徒指導・進路指導の意義や役割をはじめ、その考え方、進め方を学ぶ。今日的な課題や対応できる資質能力を身につけ、学校指導体制や関係諸機関との連携の在り方について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP２、DP３、DP４に対応する。（2023・2022年度）
社会福祉学科・デザイン学科・建築学科のＤＰ２、DP４に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP２、DP４に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP１、DP２、DP３に対応する。（2021年度）

到達目標

生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義や原理及び今日的な課題、望ましい指導体制、家庭や関係機関との連携の在り方、主体的・対話的で深い学びを実現する指導の進め方を理解し、効果的な授業を実践することができる。
「SDG10」人や国の不平等をなくそう

授業全体の内容と概要

・生徒指導・進路指導は、生徒が社会との調和のもとで自己実現を達成することを援助するためのものであり、個としての個人適応ならびに社会適応の促進を援助するためのものであることをわかりやすく講義する。
・各テーマにより、グループ学習など自他の意見交換をしながら、自分の意見をまとめて発表できるとともに、協調性を身に着けられるような活動を行う。
「SDG10」人や国の不平等をなくそう問題でいじめ・不登校などの対応など体得する。

授業の方法

・各回のテーマに関してプリント等を使用して説明を行う。
・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。
・Ｆｏｒｍｓを使い理解度を把握するための小テストを行い、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・主体的・対話的な学修を行うため、座席を指定する。
・講義で配布するプリント等は、ファイルに整然と保管し、必要時に参照できるようにする。
・講義中、スマホや飲食物等はカバン等に入れておく。但し、指示のある場合は可。
・２０分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻は３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	２０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
生徒・進路指導の意義と諸問題についての理解できる	基本的な諸問題を認識し生徒理解はいかにあるべきか、豊かな人格形成をどのように実現するか生徒・進路指導の本来の意義と方法を説明できた。（９割）	基本的な諸問題を認識し生徒理解はいかにあるべきか、豊かな人格形成をどのように実現するか生徒・進路指導の本来の意義と方法を説明できた。（８割）	基本的な諸問題を認識し生徒理解はいかにあるべきか、豊かな人格形成をどのように実現するか生徒・進路指導の本来の意義と方法を説明できた。（７割）	生徒・進路指導の基本的な諸問題を理解できた。	生徒・進路指導の基本的な諸問題を理解できなかった。
生徒・進路指導の在り方についての思考・判断ができる。	生徒の可能性を引き出し豊かで調和のとれた人格を育成するための生徒・進路指導はいかにあるべきかを思考し判断できた。（９割）	生徒の可能性を引き出し豊かで調和のとれた人格を育成するための生徒・進路指導はいかにあるべきかを思考し判断できた。（８割）	生徒の可能性を引き出し豊かで調和のとれた人格を育成するための生徒・進路指導はいかにあるべきかを思考し判断できた。（７割）	調和のとれた人格を育成するために生徒・進路指導を考えることができた。	調和のたれた人格を育成するための考えや判断ができなかった。
意見発表における主体性を身につける。	生徒・進路指導は、生徒が社会との調和のもと自己実現を達成するために、どのように援助するか自分の考えをまとめ、意見交換をしながら発表できた。（９割）	生徒・進路指導は、生徒が社会との調和のもと自己実現を達成するために、どのように援助するか自分の考えをまとめ、意見交換をしながら発表できた。（８割）	生徒・進路指導は、生徒が社会との調和のもと自己実現を達成するために、どのように援助するか自分の考えをまとめ、意見交換をしながら発表できた。（７割）	生徒が自己実現するためにどう援助するかを自分の意見をまとめることができた。	社会で自己実現するための援助するための自分の意見をまとめることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生徒・進路指導論	（科目ナンバリング：ESS143160，ESS243107，ESS343101，ESS443103，ESS543112）			
授業担当者（所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2	（単位認定責任者：　髙井　雅一　）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして生徒・進路指導論に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新生徒指導・進路指導ー理論と方法ー』	林尚示・伊藤秀樹	学文社	２０１８	9784762028298	
2	『生徒指導提要』	文部科学省	教育図書	２０２２	9784877302740	
3	『中学校キャリア教育の手引き』	文部科学省	教育出版	2011		
4	『高等学校キャリア教育の手引き』	文部科学省	教育出版	２０１２		
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 生徒指導・進路指導の意義と役割について	学校で生徒指導がなぜ必要か自分の考えを言えるようにしておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
2	教育課程と生徒指導・進路指導の関連と進め方について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
3	生徒指導体制と教育相談体制の考え方の違いについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
4	学校と家庭・地域・関係諸機関との連携と協力について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
5	生徒指導計画と進路指導計画の実践と課題について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
6	校則の意義と改善について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
7	体罰、児童虐待の現状と適切な指導方法について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
8	問題行動等(1)「いじめの定義」「不登校の多様な要因」「暴力行為」等の現状の理解と対応・指導法について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
9	問題行動等（２）事例による対応策の討論・発表について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
10	インターネット・携帯電話の利用の現状と対応について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
11	効果的な職場体験・インターンシップ実施上の留意点について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
12	アクティブ・ラーニングによるキャリア教育の理論と実践について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
13	キャリアプランの作成とキャリアカウンセリングの考え方について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
14	生徒指導・進路指導のアセスメントの意義と目的について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
15	学校安全の現状と現代の労働問題について 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	講義の内容を総復習する。（９０分）
16	定期試験（６０分）,終了後、試験の解説（３０分）	全講義内容の復習。（９０分）	本時の学修内容をまとめて提出する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（留学生対象）		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語Ⅳ （科目ナンバリング：JLN052041 ）				
授業担当者（所属・職名）	髙橋　真弥（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者：　佐藤　恵利・髙橋　真弥 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

就職活動はもちろん、在学中のインターンシップやアルバイト、卒業後の就職や進学に必要なビジネス日本語の習得を目指す。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３年、２０２２年度度）
デザイン学科のＤＰ２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３年度、２０２２年度）
建築学科のＤＰ２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３年度、２０２２年度）
経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。（２０２３年度、２０２２年度）

到達目標

ビジネスの現場また就職活動というシチュエーションに沿った語彙・重要表現を習得し、正しく使うことができる。日本の独特な就職活動文化を理解する。

授業全体の内容と概要

参考文献を使用して授業を行うが、日本語教材以外では履歴書や求人、送付状など、日本で目にするものを参考資料として使用し、実際に使われている言葉の中から語彙力を身につけていく。

授業の方法

教科書の購入はなく、授業内で使用する教材は担当教員が準備する。講義形式で授業を行い、参考資料を読みながら練習問題を解き、日本語能力を上げていく。問題解答時やシチュエーションに合わせたロールプレイ、テーマに沿ったディスカッションでは、積極的に学生に発言させ、学生主体の授業進行とする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻、欠席をしないこと。３０分の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

全授業回数１６回のうち、単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上とする。授業最終日（１６回目）に期末試験を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
日本語の知識・技能	学修した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した。	学修した知識・技能を確実に修得した。	学修した知識・技能のすべてを修得することはできなかった。	学修した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった。	学修に真面目に取り組まなかった。
思考力・判断力・日本語の表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった。	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった。	与えられた課題に真面目に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・2年（留学生対象）		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本語Ⅳ （科目ナンバリング：JLN052041 ）				
授業担当者（所属・職名）	髙橋　真弥（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者：　佐藤　恵利・髙橋　真弥 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『外国人のための　ケーススタディで学ぶビジネス日本語 中級』	千駄ヶ谷日本語教育研究所	スリーエーネットワーク	2020年	9784883198535	購入の必要なし
2	『ビジネス日本語マスターテキスト』	Heart & Brain Inc.	IBCパブリッシング	2017年	9784794605184	購入の必要なし
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読む（９０分）	授業内容復習（９０分）
2	日本の会社で働く～外国人に必要な資格・レベル・ビザ～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
3	履歴書の書き方・内容	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
4	履歴書～実際に書いてみよう～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
5	日本の会社～職種・部署・役職～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
6	挨拶・自己紹介・他己紹介～対面・面接～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
7	電話～出方・かけ方・切り方～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
8	電話～実際にやってみよう～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
9	メール～アポイントメント・書類の確認・送付～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
10	メール～実際に書いてみよう～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
11	手紙～送付状・ＤＭ・FAX～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
12	手紙～実際に書いてみよう～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
13	アポイントメント～社内・社外・方法～	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
14	報告（ホウレンソウ）・許可・指示・断る・謝罪・感謝	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
15	総括・授業改善アンケートの実施	資料の確認（９０分）	授業内容復習（９０分）
16	期末試験（６０分）・解説（３０分）	期末試験準備（９０分）	授業内容復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子どもの理解と援助 （科目ナンバリング：CHS122073 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者：　吉江　幸子　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における保育経験を活かし、発達課題と子どもを理解する視点との関連を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

この科目は、以下の３つを授業の目的とする。
１．保育実践において、実態に応じた子ども個々の心身の発達や学びを把握することの意義を理解する。
２．子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を学修し、子ども理解のための具体的な方法を理解する。
３．子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、DP４、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

１．子どもを理解する視点について説明する。
２．子どもを理解する上での基本的な考え方について説明する。

授業全体の内容と概要

子どもの実態に応じた発達を理解する視点及び理解する方法について学修する。さらに、発達課題に応じた援助と関わりについて理解を深める。「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイントを活用し、授業の理解度を深めるためのグループ学習も取り入れる。特に各回でテーマを設定し、思考・考察、意見交換、討論、発表等一連の活動を行う。
提出されたレポート及び質問等は、コメントを記入してフィードバックを行う。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容・提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。
遅刻の場合は、入室可能だが２０分以上の遅刻は欠席扱いとみなすので注意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程（必修科目）

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子ども理解の視点に対する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	子ども理解の視点についての知識を深く理解できた。	子ども理解の視点についての知識をおおむね理解できた。	子ども理解の視点についての知識を理解できた。	子ども理解の視点についての知識を多少理解できた。	子ども理解の視点についての知識を理解することができなかった。
思発達課題に関する思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	発達課題に応じた援助について十分に考察できた。	発達課題に応じた援助についておおむね考察できた。	発達課題に応じた援助について考察できた。	発達課題に応じた援助について多少考察できた。	発達課題に応じた援助について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	子ども理解の方法について理解したことをわかりやすく説明できた。	子ども理解の方法について理解したことをおおむね説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを多少説明できた。	子ども理解の方法について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	子どもの理解と援助 （科目ナンバリング：CHS122073 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 吉江　幸子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における保育経験を活かし、発達課題と子どもを理解する視点との関連を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育所保育指針＜平成29年告示＞』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 保育における子どもの理解の意義 授業改善アンケート結果反映の説明	指定した教科書を事前に読むこと（９０分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
2	子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
3	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
4	子どもを理解する視点①子どもの生活や遊び	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
5	子どもを理解する視点②保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	保育計画の意味を理解しておく（９０分）。	５回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
6	子どもを理解する視点③子ども相互のかかわりと関係づくり	保育計画と指針、要領との関連を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す１回目の課題を作成する（９０分）。
7	子どもを理解する視点④集団における経験と育ち、葛藤、つまずき	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
8	子どもを理解する視点⑤保育の環境の理解と構成、環境の変化・移行	発達心理等発達過程を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す２回目の課題を作成する（９０分）。
9	子どもを理解する方法①観察・記録	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	９回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
10	子どもを理解する方法②省察・評価	計画作成の方法をよく読んでおく（９０分）。	授業終了時に示す３回目の課題を作成する（９０分）。
11	子どもを理解する方法③職員間の対話、保護者との情報の共有	対象年齢と計画の連動性を理解しておく（９０分）。	１１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
12	発達の課題に応じた援助と関わり	教科書の専門用語の意味を理解しておく（90分）。	１２回目の授業で理解した点を整理する（90分）。
13	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	教科書の評価頁を事前に読んでおく（９０分）。	１３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
14	発達の連続性と就学への支援	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す４回目の課題を作成する（９０分）。
15	子どもの理解に基づく発達援助・まとめ	保育の計画で学んだ事を整理しておく（９０分）。	授業の目的の達成度を自己評価する（９０分）。
16	提出されたレポートの総合評価をフィードバック 授業改善アンケートの実施	１５回の講義内容を振り返り復習する(９０分)。	試験、課題の解説に基づき復習し整理する(９０分)。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅱ（1年）　（科目ナンバリング：DES211015　　）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2　（単位認定責任者：　北嶋　洋一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

デザイン概論Ⅰで学んだデザイン史の流れの中にあって、特に重要な役割を果たした著名な人物や出来事などを取り上げ、深く掘り下げながら、デザインを学び、デザインを志す者にとっては常識とされる専門知識を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP5に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

授業で取り上げるデザインに関する事項に関して理解し、意見や感想を持つことができる。
授業で取り上げるデザインに関する事項について、さらに深く掘り下げて調査・取材を行う姿勢を持つことができる。

授業全体の内容と概要

デザインの成り立ちに於いて重要な役割を果たした人物や出来事を学びながら、様々なデザイン分野の存在意義や社会性・公共性、さらには著名なデザイナーが残した作家性についても知識を深めさせる。

授業の方法

本講義では、毎回の内容に沿ったPowerPointによるスライドショーを作成し、それを提示しながらの講義が主体となる。
必要に応じて資料などの配布を行うが、基本的にPDFによる資料であるのでスマートフォンやタブレット、又はノートPCの持ち込みは必須である。
毎回の授業終了後にPowerPointによるスライドショーは、PDFに書き出してTeamsで学生が共有できる資料として整える。
節目に小テスト又はレポート提出を行い、授業内容の理解度について採点し評価するが、時には取材やプレゼンテーションを伴う内容も設定される。
小テスト又はレポートの作成についてもスマートフォンやタブレット、又はノートPCによる作成となる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回の授業時にスマートフォン・タブレット・ノートPCなど、いずれかの通信及び記録用の端末を持参し使用環境を整えておくこと。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程科目(美術)の選択必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	０%	０%	２０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について理解できている。	十分に理解できている。	概ね理解できている。	不十分ではあるが、理解できている部分がある。	最低限の理解しかできていない。	全く理解できていない。
授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことができている。	十分できている。	概ね、できている。	不十分ではあるが部分的にはできている。	最低限のことしかできていない。	全くできていない。
授業で学んだデザインに関する様々な事柄について整理統合し、独自のプレゼンテーションを行うことができるだけの知見を深めた。	十分深められている。	概ね、深められている。	不十分ではあるが部分的に深められている。	ほとんど深められていない。	全く深められていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅱ（1年） （科目ナンバリング：DES211015 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ガイダンス～デザイン概論Ⅰのまとめ	シラバスの確認（９０分）	デザイン概論Ⅰの情報と資料整理（９０分）
2	発想力・設計力・実現力 「レオナルド・ダ・ヴィンチのデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）
3	なぜ、デザインするのか？ 「アーツアンドクラフツ運動」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）
4	1900パリ万国博覧会がデザインに及ぼした影響 調査レポートの作成	情報と資料整理（９０分）	調査レポートの作成（９０分）
5	デザインの近現代① 「近代建築の三大巨匠」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）
6	デザインの近現代② 「イラストレーションの概念」	情報と資料整理（９０分）	情報と資料整理（９０分）
7	デザインの近現代③ 「丹下健三・亀倉勇作」	情報と資料整理（９０分）	情報と資料整理（９０分）
8	デザインの近現代①～③ 小テスト又はレポート	情報と資料整理（９０分）	自己採点（９０分）
9	デザインの近現代④ 「ルイジ・コラーニ、ジオ・ポンティ、 ロバート・ブルーナー、ジェームズ・ダイソン	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）
10	デザインの近現代⑤ 「モーリス・ビンダー、ソウル・バス、福田繁雄 、	情報と資料整理（９０分）	情報と資料整理（９０分）
11	デザインの近現代⑥ 「シャネル、ディオール、ヴィトン、ランバン、 クロエ、エルメス、ギ・ラロッシュ　他」	情報と資料整理（９０分）	情報と資料整理（９０分）
12	デザインの近現代④～⑥ 小テスト又はレポート	情報と資料整理（９０分）	自己採点（９０分）
13	サブカルチャーとデザイン① 「娯楽のためのデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）
14	サブカルチャーとデザイン② 「コミックマーケットの拡大と未来展望」	情報と資料整理（９０分）	情報と資料整理（９０分）
15	デザインの近現代①～② 小テスト又はレポート	情報と資料整理（９０分）	自己採点（９０分）
16	デザイン概論で学んだ知識を実践に於いてどう生かすのか？ 授業改善アンケートの実施	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅱ（2年） （科目ナンバリング：DES211015 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

デザイン概論Ⅰで学んだデザイン史の流れの中にあって、特に重要な役割を果たした著名な人物や出来事などを取り上げ、深く掘り下げながら、デザインを学び、デザインを志す者にとっては常識とされる専門知識を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP5に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

授業で取り上げるデザインに関する事項に関して理解し、意見や感想を持つことができる。
授業で取り上げるデザインに関する事項について、さらに深く掘り下げて調査・取材を行う姿勢を持つことができる。

授業全体の内容と概要

デザインの成り立ちに於いて重要な役割を果たした人物や出来事を学びながら、様々なデザイン分野の存在意義や社会性・公共性、さらには著名なデザイナーが残した作家性についても知識を深めさせる。

授業の方法

本講義では、毎回の内容に沿ったPowerPointによるスライドショーを作成し、それを提示しながらの講義が主体となる。
必要に応じて資料などの配布を行うが、基本的にPDFによる資料であるのでスマートフォンやタブレット、又はノートPCの持ち込みは必須である。
毎回の授業終了後にPowerPointによるスライドショーは、PDFに書き出してTeamsで学生が共有できる資料として整える。
節目に小テスト又はレポート提出を行い、授業内容の理解度について採点し評価するが、時には取材やプレゼンテーションを伴う内容も設定される。
小テスト又はレポートの作成についてもスマートフォンやタブレット、又はノートPCによる作成となる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回の授業時にスマートフォン・タブレット・ノートPCなど、いずれかの通信及び記録用の端末を持参し使用環境を整えておくこと。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程科目(美術)の選択必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	０%	０%	２０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業で取り上げたデザインに関する基本的な知識について理解できている。	十分に理解できている。	概ね理解できている。	不十分ではあるが、理解できている部分がある。	最低限の理解しかできていない。	全く理解できていない。
授業で取り上げたデザインに関する様々な事柄に対し、さらに掘り下げて自身の感想や意見を持つことができている。	十分できている。	概ね、できている。	不十分ではあるが部分的にはできている。	最低限のことしかできていない。	全くできていない。
授業で学んだデザインに関する様々な事柄について整理統合し、独自のプレゼンテーションを行うことができるだけの知見を深めた。	十分深められている。	概ね、深められている。	不十分ではあるが部分的に深められている。	ほとんど深められていない。	全く深められていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｻﾞｲﾝ概論Ⅱ（2年） （科目ナンバリング：DES211015 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ガイダンス～デザイン概論Ⅰのまとめ	シラバスの確認（９０分）	デザイン概論Ⅰの情報と資料整理（９０分）
2	発想力・設計力・実現力 「レオナルド・ダ・ヴィンチのデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）
3	なぜ、デザインするのか？ 「アーツアンドクラフツ運動」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）
4	1900パリ万国博覧会がデザインに及ぼした影響 調査レポートの作成	情報と資料整理（９０分）	調査レポートの作成（９０分）
5	デザインの近現代① 「近代建築の三大巨匠」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）
6	デザインの近現代② 「イラストレーションの概念」	情報と資料整理（９０分）	情報と資料整理（９０分）
7	デザインの近現代③ 「丹下健三・亀倉勇作」	情報と資料整理（９０分）	情報と資料整理（９０分）
8	デザインの近現代①～③ 小テスト又はレポート	情報と資料整理（９０分）	自己採点（９０分）
9	デザインの近現代④ 「ルイジ・コラーニ、ジオ・ポンティ、 ロバート・ブルーナー、ジェームズ・ダイソン	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）
10	デザインの近現代⑤ 「モーリス・ビンダー、ソウル・バス、福田繁雄 、	情報と資料整理（９０分）	情報と資料整理（９０分）
11	デザインの近現代⑥ 「シャネル、ディオール、ヴィトン、ランバン、 クロエ、エルメス、ギ・ラロッシュ　他」	情報と資料整理（９０分）	情報と資料整理（９０分）
12	デザインの近現代④～⑥ 小テスト又はレポート	情報と資料整理（９０分）	自己採点（９０分）
13	サブカルチャーとデザイン① 「娯楽のためのデザイン」	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）
14	サブカルチャーとデザイン② 「コミックマーケットの拡大と未来展望」	情報と資料整理（９０分）	情報と資料整理（９０分）
15	デザインの近現代①～② 小テスト又はレポート	情報と資料整理（９０分）	自己採点（９０分）
16	デザイン概論で学んだ知識を実践に於いてどう生かすのか？ 授業改善アンケートの実施	シラバスの確認（９０分）	情報と資料整理（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋経済史 （科目ナンバリング：ECH122124,ECH422032 ）				
授業担当者（所属・職名）	小林　大州介		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小林　大州介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡の上調整を行うか、研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

現代の世界経済はヨーロッパ経済が世界に拡大する形で形成されたものであり、日本やアジア諸国の経済成長はその経済システムの中で達成されたものである。西洋経済史を学ぶことによって、歴史に学ぶだけでなく、現代の経済を理解するための素養を身につける。
とりわけ以下の２点に着目する。
①資本主義（資本制）の成立と展開。農業中心の社会経済構造から工業化へ。特に産業革命を中心に、その前提として必要なものは何であったか、また産業革命によってどのような社会経済構造がもたらされたのか。
②市場経済化。需給関係に基づき最適な形で価格が調整される範囲の拡大。ヨーロッパにおける商業の発達と市場経済の形成の関連、歴史的存在としての市場の構造・役割、その変容を知る。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

①資本制の成立と展開がいかにして行われたのかを理解し、資本制の本質を理解する。
②市場経済化の進展が歴史上、どのようになされたのかを理解し、市場経済とは何かを説明することができる。

授業全体の内容と概要

Intro. 古代から中世へ
1. 近世（初期近代）
2. 近代
3. 現代

授業の方法

ＰＤＦ資料を中心として行う。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書を必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	0%	0%	0%	３０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
中世ヨーロッパ経済の発達を市場経済の発達と関連させて理解する。	教科書を超える内容について詳しく理解している	中世の経済について教科書の内容を理解できている	農業および商業の特徴ないし発展について教科書の内容を理解できている	農業ないし商業の特徴ないし発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない
近代における資本制の発生と展開について理解する	教科書を超える内容について詳しく理解している	近代のヨーロッパ経済について教科書の内容を理解できている	近代ヨーロッパの様々な国家の工業化の発展について教科書の内容を理解できている	近代ヨーロッパのある国家の工業化の発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない
世界大戦とその後のヨーロッパ経済について理解する	教科書を超える内容について詳しく理解している	現代のヨーロッパ経済について教科書の内容を理解できている	大戦の発生及びその戦後処理からEUの誕生とその発展に至るまで教科書の内容を理解できている	EUの誕生とその発展について教科書の内容を理解できている	教科書の内容をあまり理解できていない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	西洋経済史 （科目ナンバリング：ECH122124,ECH422032 ）				
授業担当者（所属・職名）	小林　大州介		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小林　大州介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『西洋経済史』	奥西孝至	有斐閣	2010年	9784641124042	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ヨーロッパの拡大と国際競争の開始 授業改善アンケート結果反映の説明	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
2	17～18世紀の「経済危機」と国家の形成（オランダ＆イギリス）	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
3	17～18世紀の「経済危機」と国家の形成（フランス＆中・東欧）	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
4	ヨーロッパの工業化をどうとらえるか	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
5	「産業革命」とは何だったのか	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
6	ヨーロッパにおける工業化の始動	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
7	様々な工業化	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
8	「第二次産業革命」の時代	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
9	工業国と社会政策	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
10	北アメリカの台頭とビッグビジネス	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
11	第一次世界大戦とヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
12	第二次世界大戦とヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
13	第二次大戦後のヨーロッパ経済	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
14	ＥＵへの道	該当箇所の教科書の読解（90分）	講義で学んだ事の復習（90分）
15	まとめ	該当箇所の教科書の読解（90分）	期末試験勉強（90分）
16	定期試験（６０分）と試験の解説 授業改善アンケートの実施	授業の総まとめ（90分）	これまで学んだ事を見返す（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	会社法 （科目ナンバリング：LAW422034，LAW522035 ）				
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 青山　浩之 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

企業を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について，基本となる知識を修得する。
法的な問題が生じたとき，迅速かつ的確に対応できる。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

会社を巡る法律関係を規定する会社法およびその関連法規について，基本となる知識を修得することにより，条文を理解し，適用・解釈できる。法的な側面から会社とは何かを考えることができる。

授業全体の内容と概要

会社法およびその関連法規について，基本となる知識を修得することを目的とし，条文を理解し，適用・解釈できるようになることを目標とし，さらに法的な問題が生じたとき，迅速かつ的確に対応できる人材の育成することを目的とする。会社法は，前期開講された商法をもとに，会社に関する法規制を中心に講義を行う。具体的には，会社法の分野を解説する。
「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は，資料をパワーポイントで投影し，資料（第３回から第１４回の計１２回）を配布して実施する。授業の進行は，前回の復習から始まり，本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。
①確認テストは，講義の理解を深めるために４回（前年実績）実施する。②ビデオ視聴は，課題解決力を養うために２回（前年実績なし）（受講人数・使用教室などによっては実施しない）実施する。③課題は，講義の理解を深めるために２回（前年実績）実施する。①②③についてのフィードバックは，講義内で解説を行う。
※補講が必要な場合は実施する（公欠などの学生に対しては補講を実施する）実施する。③課題は，講義の理解を深めるために２回（前年実績）実施する。①②③についてのフィードバックは，講義内で解説を行う。
※補講が必要な場合は実施する（公欠などの学生に対しては補講を実施する）。
※確認テストなどはMicrosoft Formsの小テストから実施し，学生全体の理解度を把握し，指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・私語などの迷惑行為は厳禁。
・講義中スマホの操作は厳禁，マナーモードで受講してください。
・六法を持参することを推奨。
・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。開始後，プリント配布はしません。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上
※課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の４割を占めるので，１２回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り，理解できる	法律の条文を読み取り，理解でき，さらに自分の意見を述べる	法律の条文を読み取り，理解でき，自分なりの説明できる	法律の条文を読み取り，理解できる	法律の条文を読み取れる	法律の条文を読み取れない
事例を理解し，法律の条文を適用できる	事例を理解し，法律の条文を適用し，さらに自分の意見を述べる	事例を理解し，法律の条文を適用し，自分なりの説明できる	事例を理解し，法律の条文を適用できる	事例を理解し，法律の条文を理解できる	事例を読み取れず，法律の条文を理解できない
課題に対し，問題解決ができる	解答が的確で，過不足なく網羅して答えている	一部に解答と関係ないことを答えている，解答は答えている	改善すべき点があるが，解答が一通り答えている	的確ではないが，解答を部分的には答えている	解答が論点にズレがあり，テーマに対して十分ではない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	会社法 （科目ナンバリング：LAW422034，LAW522035 ）				
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 青山　浩之 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『会社法（ベーシック・シリーズ）』	伊藤雄司・笠原武朗・得津晶	日本評論社	２０２１年	9784535806863	
2	『ポケット六法　令和６年版』	佐伯仁志・大村敦志・荒木尚志／編集代表	有斐閣	２０２３年	9784641009240	
3	『コア・テキスト会社法』	川村正幸・品谷篤哉・山田剛志	新世社	２０２０年	9784883843138	
4	『商法 第2版（ファーストトラックシリーズ 4）』	伊藤真	弘文堂	２０１８年	9784335314599	
5	『法学入門』	宍戸常寿・石川博康	有斐閣	２０２１年	9784641126183	

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認（９０分）	復習（９０分）
2	シラバスの説明 ガイダンス 株式会社とは	シラバスの確認。株式会社についての調べ学習（９０分）	復習（９０分）
3	会社法の概要 株式自由譲渡の原則・株主有限責任の原則・株主平等の原則	会社法と株式会社についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
4	株式会社の機関設計（１）	持分会社と株式会社についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
5	株式会社の機関設計（２）大会社で公開会社のCASE	監査役会設置会社、指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
6	株式会社の機関設計（３）大会社で公開会社のCASE しっかり条文を読んでみよう 確認テスト２（前年実績）	監査役会設置会社、指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
7	株式会社の機関設計（４）大会社で株式譲渡制限会社 株式会社の経営体制－骨格と役割（１）会計監査人	大会社で株式譲渡制限会社・会計監査人、内部統制システムについての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
8	株式会社の機関設計（５）大会社で株式譲渡制限会社 株式会社の経営体制－骨格と役割（２）会計監査人	会計監査人・内部統制システムについての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
9	株式会社の経営体制－骨格と役割（３）株主総会	株主総会についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）。特に株主総会決議に瑕疵がある場合についての調べ学習
10	株式会社の経営体制－骨格と役割（４）株主総会 株式会社の経営体制－責任（１）役員 確認テスト３（前年実績）	株主総会・取締役についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
11	株式会社の経営体制－責任（２）役員 課題１（前年実績）	役員についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）、課題作成
12	株式会社の経営体制－責任（３）役取締役の責任 株式会社の経営体制－骨格と役割（１）取締役会 確認テスト４（前年実績）	取締役の責任・取締役会についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
13	株式会社の経営体制－骨格と役割（２）取締役会・代表取締役・表見代表取締役	取締役会・代表取締役・表見代表取締役についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
14	株式会社の経営体制－骨格と役割（３）指名委員会等・監査等委員会・監査役・会計参与・会計監査人 課題２（前年実績）	指名委員会等・監査等委員会・監査役・会計参与・会計監査人についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），課題作成
15	まとめ 授業改善アンケートの実施 定期試験の説明	課題作成。第３回から第１４回まで復習（９０分）。	試験範囲の確認により，第３回から第１４回まで復習（９０分）
16	定期試験（６０分） 定期試験の解説，採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認，第３回から第１４回まで復習（９０分）	復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ医学 （科目ナンバリング：AHS422070，SPS522056 ）				
授業担当者（所属・職名）	黒川　泰任（経営学科・客員教授）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 黒川　泰任 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門医・指導医であり、外傷治療と栄養学の実務から、運動の医学的背景について経験がある。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

運動時の生理、病態生理、外傷・けがなどを、医学的背景から考察・学習する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

医学的知識の背景を元に，スポーツ指導の現場において、対象者の状態や外的環境に対して適切な対応ができ、また緊急時の救急処置ができるようにする。

授業全体の内容と概要

身体運動がヒトの体にどのような影響を与えるか、スポーツが生体に及ぼす影響を、ヒトの状態・性別・年齢・外的環境によってどのように異なるのかを知る。緊急時における対処方法を、具体的に修得する。
「SDGs 3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目。
「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義は配布資料を使用し、対話・質問形式で行う。また、確認小テストを講義後に行い、解答と講義内容の確認を行う。毎回の小テスト結果は、定期試験得点に加算する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

小テストと講義内容要約が重要なので、欠席しないように。
首席は表彰される。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１０回以上。
定期試験と、各講義終了時の小テストの合計点で目標到達を判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	４０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
運動のしくみを科学的に理解する。	討論を元に、運動のしくみを科学的に考えられた。	運動のしくみについて興味を持ち、理解しようとしていた。	ヒトの運動の特徴がいえた。	講義の中心テーマを一つは理解できていた。	講義に参加していなかった。
効率的な運動方法を理解して、スポーツ指導の現場で活躍できる。	討論を元に、運動のしくみ理解し、科学的知識にもとづいた指導ができた。	科学的知識にもとづいた運動のしくみへの理解が、スポーツ指導に必要だと理解していた。	ヒトの運動を科学的に説明できた。	講義の中心テーマを一つは理解できていた。	講義に参加していなかった。
運動がヒトに及ぼす影響が理解できる。	運動がヒトに及ぼす影響を、科学の立場から理解できた。	運動が良くも悪くも、ヒトに大きく影響することが理解できた。	運動と健康の関係を説明できた。	講義の中心テーマを一つは理解できていた。	講義に参加していなかった。
講義態度。	討論・質疑に参加し、積極的に意見や考えを述べられていた。	講義や皆の発言に耳を傾け、書き取っていた。	板書しており、疑問点や不明点をメモできていた。	板書はできていた。	講義に参加していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ医学 （科目ナンバリング：AHS422070，SPS522056 ）				
授業担当者（所属・職名）	黒川　泰任（経営学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 黒川　泰任 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門医・指導医であり、外傷治療と栄養学の実務から、運動の医学的背景について経験がある。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『健康・スポーツ科学講義』	出村慎一	杏林書院	２０１１	9784764411258	
2	『スポーツ栄養学』	寺田　新	東京大学出版会	２０１７	9784130527064	
3	『1から学ぶスポーツ生理学【第3版】』	中里浩一，岡本孝信，須永美歌子／著	ナップ	2022	9784905168706	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション・シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認しておく（９０分）	運動やスポーツ医学について興味ある点を、まとめておく（９０分）
2	健康と運動・スポーツ	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておく（９０分）	当日講義内容の確認のため小テストを行うが、これを利用して理解を深める（９０分）
3	体力、運動とは何か	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
4	運動の仕組み	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
5	発達と運動	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
6	運動の医学的背景　１	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
7	運動の医学的背景　２	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
8	運動と栄養（運動栄養学）１	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
9	運動と栄養（運動栄養学）２	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
10	運動と脱水	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
11	スポーツ活動中に多いケガ・障害　１	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
12	スポーツ活動中に多いケガ・障害　２	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
13	救急処置　１	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
14	救急処置　２	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
15	スポーツと心理・ストレス 授業改善のアンケート実施	各講義内容は、互いに関連があるので、講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
16	定期試験 ６０分の試験終了後、残り３０分で解説を行う。	試験準備（９０分）	定期試験内容を参考として、ヒトが生きていく仕組みについて、参考になる読書をする（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	美術学概論Ⅰ　（科目ナンバリング：AEA211001　）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館での勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、美術学を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会や文化におけるの美術の意義や歴史、美術に関して問われてきたことを学び、多様な視点を理解する。
美術に関する表現活動を行う者として、芸術文化一般についての視野を広げ、批評的な考え方を持つことができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP4に対応する。（2023年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP4、DP5、DP7に対応する。（2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP4、DP5、DP7に対応する。（2021年度）

到達目標

美術に関するこれまでの論点を理解できる。
美術作品を制作し鑑賞するための、基礎能力を養う。
自分の考えを根拠づけ明確に他者に表現する力を身につける。

授業全体の内容と概要

これまで美術に関して問われてきたさまざまなトピックを考えることを通して、社会における美術作品の意義を捉えなおし、美術について多様な視点から考える力を養う。

授業の方法

講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。授業内のトピックについてグループワークやディスカッションも取り入れる。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

事前学習として、授業内で取り上げるテーマについて事前に書籍やインターネット等で予習し、事後学習として取り上げたテーマを掘り下げて調べると、より理解が深まる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程必修　高・美術

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
３０％	０％	０％	３０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
文献や資料の調査・活用	授業で取り上げた資料を越えて、独自性のある調査ができた。	授業で取り上げた資料を越えて、必要な調査ができた。	授業で取り上げた資料を理解し活用できた。	授業で取り上げた資料を理解できた。	授業で取り上げた資料の理解・活用が不十分だった。
論理・文章表現力	自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。	自身の観点から、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	自身の観点はまだ不十分だが、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	美術学概論Ⅰ　（科目ナンバリング：AEA211001　）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館での勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、美術学を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『西洋美術史入門』	池上英洋	ちくまプリマー新書	2012	9784480688767	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業のオリエンテーション　授業改善アンケート結果反映の説明 美術／芸術とは何か。なぜ美術を学ぶ必要があるの	シラバスを読んでおく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
2	美術作品とは何か　美術作品を「読む」ということ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
3	美術の技法とジャンル（１）技法	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
4	美術の技法とジャンル（２）ジャンル	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
5	社会と美術（１）美術の社会的役割　社会を見るための窓	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
6	社会と美術（２）美的価値と社会	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
7	小テスト（１） 美術と文化　「文化」とは何か	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
8	美術における「作者」とは何か　近代美術における「作者」の誕生	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
9	美術における「オリジナリティー」とは何か	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
10	モダニズムとポストモダニズム	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
11	小テスト（２） 美術館（１）美術館とは何か　美術館の役割	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
12	美術館（２）美術館の歴史	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
13	美術館（３）美術館の現在的課題（日本的課題）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
14	美術とジェンダー　女性作家の問題　女性の表象	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
15	まとめ 授業改善アンケート実施	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
16	定期試験 試験のフィードバック	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	これまでの授業内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝⅣ （科目ナンバリング：AEA222009 ）				
授業担当者（所属・職名）	西田　陽二（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 西田　陽二 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザイナーとして，アーティストとして，美術の教員として「デッサン」が全ての基礎基本であることを充分に認識させ，単に技能や知識の向上にとどまらず，美術を愛好し積極的に，学生がそれぞれの専門分野に活かそうとする態度を養うこと。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

モティーフのかたちを客観的に把握できるようにすること。素描の楽しさや重要性について理解できる。
卒業後の社会での生活を想定した専門性に関する意識の高揚と実践的態度を養成する。

授業全体の内容と概要

デッサンの材料・用具・その要素としてのプロポーション・明暗・質感・空間表現などについての実習。

授業の方法

プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

知性と感性を充分に発揮し，根気強くたゆまなく努力すること。
作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，２０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
適正な構図、形のバランス（比例）が正しく捉えられることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられている	ほぼバランスよく配置されている	大きさ等が大体捉えられている	左右上下にバランスよく配置されている	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ている	ほぼ光の方向が表現出来ている	明るい、暗いの描き分けが出来ている	明暗で表現している	輪郭線等で囲って色を付けている
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ている	陰で立体表現が出来ている	光の流れで立体表現をしている	色の濃淡で表現している	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでる

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝⅣ （科目ナンバリング：AEA222009 ）				
授業担当者（所属・職名）	西田　陽二（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 西田　陽二 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーションー　シラバスの説明 デッサンのための用具野説明，授業の流れと目的などについて。	シラバスを読んでおくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
2	石膏像（胸像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
3	石膏像（胸像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
4	石膏像（胸像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
5	石膏像（胸像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
6	石膏像（胸像）のデッサン　⑤　作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
7	石膏像（胸像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
8	石膏像（胸像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
9	石膏像（胸像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
10	石膏像（胸像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
11	石膏像（胸像）のデッサン　⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
12	石膏像（胸像）のデッサン　⑥　作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
13	石膏像（胸像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
14	石膏像（胸像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
15	石膏像（胸像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
16	石膏像（胸像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	石膏像（胸像）のデッサン　⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
18	石膏像（胸像）のデッサン　⑥　作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
19	石膏像（胸像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
20	石膏像（胸像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
21	石膏像（胸像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
22	石膏像（胸像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
23	石膏像（胸像）のデッサン　⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
24	石膏像（胸像）のデッサン　⑥　作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
25	石膏像（胸像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
26	石膏像（胸像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
27	石膏像（胸像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
28	石膏像（胸像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
29	石膏像（胸像）のデッサン　⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
30	石膏像（胸像）のデッサン　⑥	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
31	石膏像（胸像）のデッサン⑦　作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
32	採点及び講評会　（解説・フィードバック） 授業改善アンケート実施	講評会の準備を行うこと（45分）	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科　１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育内容総論　（科目ナンバリング：CHS121077　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　慶知（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　慶知　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における経験を活かし保育の基本と保育内容との関連を講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応する。				

概要

履修目標

この科目は、以下の４つを授業の目的とする。
1　保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育の内容」の関連を理解する。
2　保育所保育指針の各章のつながり、保育の全体的な構造について理解する。
3　子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景や歴史的変遷を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。
4　保育の多様な展開について具体的に理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

保育所保育指針をもとに保育の全体構造と保育内容について理解できる。
保育の基本を踏まえた保育内容の展開と保育の多様な展開について理解できる。

授業全体の内容と概要

保育の全体構造と保育内容について学修する。
保育の基本を踏まえた保育内容の展開及び保育の多様な展開について学修する。

授業の方法

授業は、板書とグループワークを取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。
リアクションペーパーを活用し質問に対する返答等コメントしてフィードバックする。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
提出方法及び課題・平常点の評価方法は、授業時間に説明する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	２０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
	保育の全体構造について、基礎的な知識を深く理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識を理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識をやや理解できた。	保育の全体構造について、基礎的な知識の理解が難しかった。
	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開についてやや考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。
	保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	保育の多様な展開について理解したことをやや説明できた。	保育の多様な展開について理解したことを説明することはできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科　１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育内容総論　（科目ナンバリング：CHS121077　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　慶知（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　慶知　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における経験を活かし保育の基本と保育内容との関連を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育所保育指針解説』	厚生労働省	フレーベル	2018	9784577814482	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解	保育指針の該当箇所を事前に目を通す事（９０分）	１回目の講義で理解した事を整理する（９０分）
2	保育の内容と歴史的概観とその社会的背景 保育士の専門性と保育士倫理綱領の解説 保育の現場における安全管理について	保育の歴史的変遷について事前に学習しておく（９０分）	２回目の講義で理解した事を整理する（９０分）
3	保育者に求められると資質とセルフチェック アンガーマネジメント、子ども観について学ぶ 保育者の専門性と虐待について	保育者に求められる資質について事前に学習する（９０分）	３回目の講義で理解した事を整理する（９０分）
4	保育指針より保育の基本を学ぶ 養護と教育を一体的に行う保育と子どもの主体性、 環境を通して行う保育について	保育指針の該当箇所を事前に目を通す事（９０分）	４回目の講義で理解した事を整理する（９０分）
5	子どもの発達の特徴と発達課程について 保育指針から学ぶ 生活や遊びによる総合的な保育について	保育指針の該当箇所を事前に目を通す事（９０分）	５回目の講義で理解した事を整理する（９０分）
6	子どもの発達の特徴と発達課程について 保育指針から学ぶ 個と集団による発達を踏まえた保育について	保育指針の該当箇所を事前に目を通す事（９０分）	６回目の講義で理解した事を整理する（９０分）
7	家庭、地域、小学校との連携や 多様化する保育ニーズへの対応と 特別な配慮を必要とする子どもの保育、多文化共生	多様化する保育ニーズや小学校との連携について事前に学習しておく（９０分）	７回目の講義で理解した事を整理する（９０分）
8	試験につての事前説明。定期試験６０分。 授業改善アンケートの実施。	講義内容を振り返り復習する（９０分	試験の解説に基づき復習し整理する（９０分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	図学(建築図学を含む)　（科目ナンバリング：APT321033　）				
授業担当者（所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館６階		
単位数	2　（単位認定責任者：　赤木　良子　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計・インテリア実務設計経験		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

図学、つまり図形幾何学とは、3次元の立体を2次元の平面上に表現したり、2次元の平面情報から3次元の立体を再構成する技術である。 これは美術・デザインにおける表現手段の基礎的な技術の一つであり、製図の基礎として位置付けられる。 本実習ではこの表現技術について修得し、基本的な作図と立体表現ができるようになることを目標とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2、に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP1、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

基礎的な立体と平面の関係性の把握。
作図に必要な道具を使って水平・垂直・長さ・線の太さ・破線等を美しく正確に作図表現できる。

授業全体の内容と概要

まずは基本となる図形の書き方を定規やコンパスなどを用いて描く。
製図の基本的な仕組みや、立体を平面上で表現する基礎的な方法を学び、自分なりの表現技術の基礎を作る。

授業の方法

教科書、補足資料、パワーポイント、板書などに内容に応じて用いる。
授業形態は講義および、講義に対応した課題をその場で実施する。
アクティブラーニングとしては、自身で課題を製作するため、それ自体がアクティブそのものである。
学生同士で相談などしても良い。
課題に対するフィードバックは適宜行う。
基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

【必要な道具（以下）】各自で準備のこと。（推奨商品リストを配布します）
製図用シャープペンシル（芯の太さ0.5、濃さB以上推奨）必須。そのほか、0.3,0.7などの太さがあっても良い。
定規（15cm，できれば30cmも）、三角定規、三角スケール、コンパス、カッターナイフ、スケッチブック（クロッキー帳でも良い）
その他通常の文具。
正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎的な立体と平面の関係性の把握ができている。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
作図に必要な道具を的確に使うことができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
基本的な図面の表現ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	図学(建築図学を含む)　（科目ナンバリング：APT321033　）				
授業担当者（所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　赤木　良子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計・インテリア実務設計経験		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築図法　立体・パース表現から設計製図へ』	佐藤健司	学芸出版社	2019	9784761527211	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：シラバスの説明、授業の進め方「線と分割」	シラバスを読んでおくこと（９０分）	課題の復習（９０分）
2	「つなげる」	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
3	「平面・立面・断面」（１）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
4	「平面・立面・断面」（２）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
5	アイソメトリック図	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
6	アクソノメトリック図	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
7	ヴォリュームの組み合わせと陰影図	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
8	透視図（１）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
9	透視図（２）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
10	透視図（３）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
11	作品制作（１）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
12	作品制作（２）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
13	作品制作（３）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
14	作品制作（４）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
15	作品制作（５）講評	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
16	総評・授業評価アンケート	未提出課題等の仕上（９０分）	全体の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習III （科目ナンバリング：APT323036 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者：　佐藤　善太郎　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「ＣＡＤ演習Ⅰ・Ⅱ」を受けてWindowsの３次元ＣＡＤの応用及びドローイングソフトの基礎を学ぶ。本科目習得者全員が単にＣＡＤを操作できるだけではなく，プレゼンテーションとして表現できるように学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

３次元ＣＡＤで，３次元作図とアニメーションの基本的な操作までできる。

授業全体の内容と概要

テキストとＨＰによる解説により３次元ＣＡＤの操作を学ぶ。３次元ＣＡＤはVectorworksを使用する。
「SDG11. 住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は前半，テキストや資料を基に３次元ＣＡＤの操作を修得し，後半は課題作品の制作に取り組む。最終日には作図した作品をプレゼンテーションする発表会形式で実施し意見交換を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ＵＳＢメモリーは持参すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
3次元CADの３次元機能を用いて表現ができる。	3次元CADの３次元機能を用いて，的確で美しい３次元表現が 完璧にできた。	3次元CADの３次元機能を用いて，的確で美しい３次元表現が8割方できた。	3次元CADの３次元機能を用いて，的確で美しい３次元表現がほぼ6割方できた。	3次元CADの３次元機能を用いて，３次元表現ができた。	3次元CADの３次元機能を用いて，３次元表現ができなかった。
3次元CADの３次元表現で相手に伝わるプレゼンテーションができる。	3次元CADの３次元表現で相手に正確に意図を伝える アニメーションが 完璧に作成できた。	3次元CADの３次元表現で相手に正確に意図を伝える アニメーションが 8割方作成できた。	3次元CADの３次元表現で相手に正確に意図を伝える アニメーションが ほぼ6割方作成できた。	3次元CADの３次元表現で相手に意図を伝えるアニメーションが作成できた。	3次元CADの３次元表現で相手に意図を伝えるアニメーションが作成できなかった。
３次元CADと複数のデジタルツールを用いた設計表現ができる。	３次元CADと複数のデジタルツールを用いて，的確で美しい設計表現が完璧にできた。	３次元CADと複数のデジタルツールを用いて，的確で美しい設計表現が8割方できた。	３次元CADと複数のデジタルツールを用いて，的確で美しい設計表現がほぼ6割方できた。	３次元CADと複数のデジタルツールを用いて，設計表現ができた。	３次元CADと複数のデジタルツールを用いて，設計表現ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習III （科目ナンバリング：APT323036 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者：　佐藤　善太郎　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。2・３次元CADの基本と柱状体，回転体 授業改善アンケート結果反映の説明	CAD演習 II の振返り（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
2	２次元での作図	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
3	２次元モデルの移動，整列，回転	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
4	2次元モデルの複製，反転複写ほか編集	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
5	３次元モデルの編集	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
6	３次元での視点と各投影法の違いについて	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
7	各レンダリングの種類と特性	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
8	光源，ブーリアンの配置	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業終了時に提示の課題を処理する（45分）
9	ハイブリッド図形の注意点	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業の作図の継続（45分）
10	トータルな３次元表現とアニメーション	配布資料・テキスト熟読（45分）	授業の作図の継続（45分）
11	設計課題の提示	授業の作図の継続（45分）	授業の作図の継続（45分）
12	設計プランの検討と確認	授業の作図の継続（45分）	授業の作図の継続（45分）
13	エスキスチェック	授業の作図の継続（45分）	授業の作図の継続（45分）
14	作図指導	授業の作図の継続（45分）	授業の作図の継続（45分）
15	３次元設計審査 授業改善アンケートの実施	プレゼンテーション準備（45分）	感想レポート提出（45分）
16	講評会	講評会準備（45分）	振返りレポート作成（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ指導論 （科目ナンバリング：SPS422071，SPS522055 ）				
授業担当者（所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 髙井　雅一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の部活動顧問や道高体連役員での指導経験を活かして、今日的な課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

概要

履修目標

スポーツ活動における望ましい指導者像、科学的・合理的な指導方法等を学ぶ。また、スポーツ指導に必須とされる競技者育成と評価、スポーツ活動と安全管理、ミーティングの方法、指導計画について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ２、DP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

指導者としての心構え・視点、さまざまなスポーツ指導現場に対応できる基礎能力を身につける。

授業全体の内容と概要

・スポーツ指導者に必要とされるプログラム作成手順、教授技術、指導に関わる評価及び評定について概説する。
・競技者を一番に考え指導のあたり方を認識し、お互いに意見交換をしながら、指導者としてのあるべき姿を身につける。
・「SDG4」質の高い指導を身につけるような授業を展開する。

授業の方法

・各回のテーマに関してのパワーポイントや配布資料で実施し、資料説明とグループワーク・発表等で理解を深める講義を行う。
・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、思考・考察・意見交換、発表等の一連の活動を行う。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・主体的・対話的な学修を行うため、座席を指定する。
・講義中、スマホや飲食物はカバン等に入れておくこと。※スマホや飲料水は指示があれば可。
・講義で配布するプリント類はクリアファイル等に整然と保管し必要時に参照できるようにすること。
・２０分以上の遅刻は欠席とみなす。また、遅刻は３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	２０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
科学的・合理的な指導方法を学び理解	指導方法を学び、自分の意見を発表した	指導方法等を学び、自分なりに思考・判断できた	指導方法を学び、自分なりに判断できた	指導方法を学び、理解できた	指導方法を学んでいるが、理解できなかった
指導現場に対応できる基礎能力	指導現場で基礎能力を身につけ、実践できた	指導現場で基礎能力を身につけ、説明できた	指導現場で基礎能力を身につけ、よく理解できた	指導現場で基礎能力を身につけ、理解できた	指導現場での基礎能力を理解できなかった
指導の在り方を確認し、指導者のあるべき姿の理解	指導者のあるべき姿を理解し、実践できた	指導者のあるべき姿を理解し、自分で判断できた	指導者のあるべき姿を十分理解できた	指導者のあるべき姿を概ね理解できた	指導者のあるべき姿を理解できなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ指導論 （科目ナンバリング：SPS422071，SPS522055 ）				
授業担当者（所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 髙井　雅一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校の部活動顧問や道高体連役員での指導経験を活かして、今日的な課題への対応を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Reference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会	２０２４		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスの説明 スポーツ指導者とは 授業改善アンケート結果反映の説明	スポーツ指導者として大切にしたいことを説明できるようにしておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
2	スポーツ指導者の倫理について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
3	指導者の心構え・視点について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
4	世界の舞台を目指すアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
5	指導計画の立て方について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
6	スポーツ活動と安全管理について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
7	総合型地域スポーツクラブの必要性と社会的意義について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
8	プレーヤーと指導者の望ましい関係について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
9	ミーティングの方法について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
10	世界に頂点を目指すアスリートの育成・強化の在り方と指導者の役割について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
11	トップアスリートを育てるために	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
12	トップアスリートの育成・強化の方法とその評価について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
13	競技力向上のためのチームマネジメントについて	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
14	競技力向上のための情報とその活用について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
15	ドーピング防止について 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	講義の内容を総復習する。（９０分）
16	定期試験（６０分）、終了後、試験の解説（３０分）	全講義内容を復習する。（９０分）	本時の学修内容をまとめて提出する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国の歴史 （科目ナンバリング：HIS021025 ）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者：　横田　肇　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が、ヨーロッパとイギリスの歴史を概観し、政治・社会、文化の歴史（通史）の基本的な知識を習得する。合わせて、歴史的な見方、考え方の基礎を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科、社会福祉学科、デザイン学科、建築学科のＤＰ２に対応する。（２０２３・２０２２年度）
経営学科、社会福祉学科、デザイン学科、建築学科のDP２に対応する。（２０２１年度）

到達目標

ヨーロッパとイギリスの歴史と社会・文化についての基礎的知識を獲得し，自分なりの理解がされ，
合わせて，獲得した知識が自身の言葉で的確に説明できる。さらに、歴史的な見方、考え方の基礎が
身に付いている。

授業全体の内容と概要

ヨーロッパ、特にイギリスの歴史を時代を追って順次講義形式で概説していく。合わせて、日本を含むアジア等の諸国・地域について関連する部分を必要最小限説明していく。

授業の方法

毎回、講義形式でヨーロッパとイギリスの歴史を述べていく。原則、こちらで用意した原稿に沿って口頭で説明していくが、適宜、パワーポイントと板書、配布資料を併用する。授業の最後に当該箇所のまとめと確認を行い、その際、受講者にはミニッツペーパー（コメント）の提出を求める。ミニッツペーパー（コメント）への講評を次回の授業の冒頭で行い、フィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

欠席、遅刻をしないように留意する。やむを得ず欠席する場合は申し出る。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事情に応じ、口頭、スライド、板書、資料による説明に配慮する。写真、録画・録音を認める。

資格指定科目

教職科目（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
歴史に関しての知識・理解	歴史（イギリス史）に関しての理解が正確、十分になされ、的確に説明ができた。	歴史（イギリス史）に関しての理解がおおよそなされ、おおよその説明ができた。	歴史（イギリス史）の主要な部分の理解がなされ、ある程度説明ができた。	歴史（イギリス史）の主要な部分の理解がなされていた。	歴史（イギリス史）の理解が全くなされていなかった。
文献読解・考察の能力	歴史に関する初歩的な文献が十分に読解でき、明晰な考察ができた。	歴史に関する初歩的な文献の読解と考察がおおよそできた。	歴史に関する初歩的な文献の読解が大体できた。	指示によって歴史に関する初歩的な文献の読解が一定程度できた。	指示による歴史に関する初歩的な文献の読解ができなかった。
論述の能力	課題に対する説明が正確、論理的にでき、明確な文章で表現できた。	課題に対する説明が論理的にでき、明確な文で提示できた。	課題に対する説明がわかりやすく、読みやすい文で提示できた。	指示によって課題に対する説明がわかりやすく提示できた。	指示による課題に対する説明ができなかった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国の歴史 （科目ナンバリング：HIS021025 ）				
授業担当者（所属・職名）	横田　肇（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 横田　肇 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						なし
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜指示する
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明、シラバスの説明、ガイダンス	シラバスを読んでおく（９０分）	歴史の基礎的事項の復習（９０分）
2	人類の起源・ヨーロッパの原始時代	原始・古代の予習（９０分）	原始・古代の復習（９０分）
3	ヨーロッパの古代（１）ギリシャ時代	古代ギリシャ（資料）の予習（９０分）	古代ギリシ（資料）の復習（９０分）
4	ヨーロッパの古代（２）ローマ時代	古代ローマ（資料）の予習（９０分）	古代ローマ（資料）の復習（９０分）
5	ヨーロッパの中世（１）イギリスの中世：王政前期	イギリス王政前期の予習（９０分）	イギリス王政前期の復習（９０分）
6	ヨーロッパの中世（２）イギリスの中世：王政前期	イギリス王政前期の予習（９０分）	イギリス王政前期の復習（９０分）
7	ヨーロッパの近世（１）イギリスの近世：王政中期	イギリス王政中期の予習（９０分）	イギリス王政中期の復習（９０分）
8	ヨーロッパの近世（２）イギリスの近世：王政中期	イギリス王政中期の予習（９０分）	イギリス王政中期の復習（９０分）
9	ヨーロッパの近世（３）イギリスの近世：王政後期	イギリス王政後期の予習（９０分）	イギリス王政後期の復習（９０分）
10	ヨーロッパの近世（４）イギリスの近世：王政後期	イギリス王政後期の予習（９０分）	イギリス王政後期の復習（９０分）
11	ヨーロッパの近代（１）イギリスの近代	イギリス近代の予習（９０分）	イギリス近代の復習（９０分）
12	ヨーロッパの近代（２）イギリスの近代	イギリス近代の予習（９０分）	イギリス近代の複習（９０分）
13	ヨーロッパの近代（３）イギリスの近代	イギリス近代の予習（９０分）	イギリス近代の復習（９０分）
14	今日の世界（１）	既習事項の復習（９０分）	既習事項の復習（９０分）
15	今日の世界（２）	既習事項の復習（９０分）	既習事項の復習（９０分）
16	定期試験。６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行う。授業改善アンケートの実施。	既習事項の復習（９０分）	既習事項の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	権利擁護を支える法制　（科目ナンバリング：SWS112011　　）				
授業担当者（所属・職名）	星野　秀治(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　星野　秀治　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

相談援助と法の関わりについて学ぶとともに，相談援助業務において必要となる成年後見制度等の仕組みと権利擁護活動の実際を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP４に対応する。（2024年度）

到達目標

①憲法，行政法，民法など権利擁護と法との関係について理解できる。
②ソーシャルワーカーに必要な成年後見制度，日常生活自立支援事業等の知識について説明できる。
③権利擁護活動の実際について理解を示すことができる。

授業全体の内容と概要

相談援助業務において必要となる法知識（憲法，民法，行政法など）を学ぶとともに，権利擁護の仕組みとしての成年後見制度や日常生活自立支援事業，成年後見制度利用支援事業についての知識を習得する。
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」，「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は，パワーポイント及び配布資料を活用しながら，ディスカッションを交えつつ講義形式で行う。適宜、授業内容についてのレポート提出を求める。授業内で実施するレスポンスシートについて、次回の授業でコメントを行うなどのフィードバックを行い双方向性を確保する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回，必ず教科書・配付資料を携行すること。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施することがある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格科目、精神保健福祉士国家試験受験資格科目、保育士養成課程科目（選択）

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	現在の成年後見制度と権利擁護の問題点を理解できた。	成年後見制度の内容と権利擁護の仕組みを理解できた。	権利擁護に関わる法律の仕組みについて理解できた。	権利擁護と法との関係について理解できた。	権利擁護と法との関係について理解できなかった。
思考・判断	現状を踏まえわが国の権利擁護制度に内在する課題について考察できた。	成年後見制度の趣旨を権利擁護活動に活かす方法等を考えることができた。	成年後見制度の仕組みから権利擁護活動の実際をイメージすることができた。	成年後見制度，日常生活自立支援事業等について説明できた。	成年後見制度，日常生活自立支援事業等について説明できなかった。
関心・意欲	権利擁護活動におけるソーシャルワーカーの役割について理解を示すことができた。	利用者の能力に応じた権利擁護活動の実際について関心を示すことができた。	利用者の能力に応じた成年後見制度の仕組みについて理解を示すことができた。	権利擁護活動の実際について理解を示すことができた。	成年後見制度の必要性に関心を寄せることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	権利擁護を支える法制　（科目ナンバリング：SWS112011　）				
授業担当者（所属・職名）	星野　秀治(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　星野　秀治　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座９　権利擁護を支える法制度』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	２０２１	978-4-8058-8239-9	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 法とは何か①（法と社会規範，法と道徳の関係，法の体系・種類・機能）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
2	法とは何か②（法の基礎知識，法の解釈，裁判と判例）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
3	ソーシャルワークに関わる法①（憲法の意義，日本国憲法の基本原理，基本的人権）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
4	ソーシャルワークに関わる法②（民法の意義，民法総則，債権－契約，不法行為－など）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
5	ソーシャルワークに関わる法③（婚姻・離婚，親権・未成年後見，扶養，成年後見，相続）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
6	ソーシャルワークに関わる法④（行政法の意義，行政組織，行政行為，行政強制，行政訴訟，国家賠償）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
7	権利擁護を支える仕組み①（権利擁護の意義，福祉サービスの適正利用，苦情解決の仕組み）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
8	権利擁護を支える仕組み②（高齢者虐待防止法，児童虐待防止法，障害者虐待防止法）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
9	権利擁護を支える仕組み③（障害者差別解消法，障害者サービスの利用等に関する意思決定支援ガイドライン）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
10	権利擁護活動における法的諸問題（インフォームド・コンセント，秘密・プライバシー・個人情報，権利擁護活動）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
11	成年後見制度（成年後見制度の意義と仕組み）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
12	成年後見制度（後見，保佐，補助の概要，任意後見の概要）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
13	成年後見制度（成年後見制度利用支援事業，成年後見制度の動向）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
14	権利擁護に関わる組織，団体，専門職	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
16	試験（６０分）	全授業を振り返り試験に向けた準備（９０分）	試験内容をふまえ授業全体を振り返る(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	身体表現 （科目ナンバリング：CHS122083 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾西則昭　（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 尾西　則昭 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において身体表現の授業を担当した経験を活かし指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

自身のダンスの技術の分析をし、自身で課題の克服をする。
ダンスの振り付けを分析し、評価する。
ダンス特有の面白さを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

ダンスの特性について理解することができる。
ダンスの基礎技術、指導法、発表技法について理解することができる。
主体かつ積極的に課題に取り組むことができる。
仲間と協力して課題に取り組むことができる。
リズムの特徴やイメージをとらえて、即興的かつ自由な身体表現ができる。

授業全体の内容と概要

表現運動・ダンス領域は、社会におけるダンスの広がりに対応し、創作ダンスの現代的なリズムのダンスフォークダンスから構成され幼稚園・保育園において発達段階に対応した内容で構成されている。
「SDGs3．すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

授業は板書及び配布物資料で実施し、資料にて説明した後、グループワーク発表(全２回)実施

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積極的に取り組むことを期待します。
学習にはグループワークもあるので、お互い声を掛け合い、協力して実施すること。
自分の健康は自分で管理すること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
表現活動の基礎技能	基本ステップを行うことができ、意欲的にダンステクニックを発揮でき、パートナーとできた。	基本ステップを行うことができ、意欲的にダンステクニックをおおむね発揮できた。	基本ステップを行うことができ、意欲的にダンステクニックを発揮できた。	基本ステップを行うことができ、意欲的にパートナーと多少できた。	基本ステップを行わない。意欲もなくパートナーとできなかった。
創作ダンスの技術の向上	各種ダンスの技術向上への姿勢は優れ、充分できた。	各種ダンスの技術向上への姿勢は７割ほどできた。	各種ダンスの技術向上への姿勢は5割ほどできた。	各種ダンスの技術向上への姿勢は3割ほどできた。	各種ダンスの技術向上への姿勢はできなかった。
作品創作の発表	創作ダンスの発表でしっかりと踊ることができた。	創作ダンスの発表で踊ることがおおむねできた。	創作ダンスの発表で踊ることができた。	創作ダンスの発表で多少踊ることができた。	創作ダンスの発表で踊ることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	身体表現 （科目ナンバリング：CHS122083 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾西則昭　（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 尾西　則昭 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において身体表現の授業を担当した経験を活かし指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『身体表現を楽しむあそび作品集』	新リズム表現研究科会	かもがわ出版	2018年	978478030948-5	
2	『資料配布』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス 「シラバス説明」 「授業改善アンケート結果反映の説明」	事前にシラバスを読んで確認をする。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
2	身体表現基本説明①　（ダンスの導入）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
3	身体表現基本②　（ダンスの映像鑑賞）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
4	身体表現基本③　（リズム運動）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
5	身体表現基本④(リズム運動)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
6	創作ダンス①　（リズム運動）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
7	創作ダンス②(グループでの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
8	創作ダンス③(グループでの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
9	創作ダンス④(グループでの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
10	創作ダンス⑤　（グループでのの作品づくり）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
11	創作ダンス⑥(グループでのの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
12	創作ダンス⑦（グループでのの作品づくり）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
13	創作ダンス⑧(グループでのの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
14	創作ダンス⑨(グループでのの作品づくり)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
15	創作ダンスリハーサル（まとめ）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する。（９０分）
16	創作ダンス発表会(定期試験) 「授業改善アンケート実施」	ノートに記載された内容を再度確認し、理解する。（９０分）	解説の内容を確認する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅱ　（科目ナンバリング：AEA222073　）				
授業担当者（所属・職名）	島田　晶夫・楠本　祐弘・中島　知之（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

“物”を作るには必ずその物に最も適切な「構造」を考えなければならない。それが出来て初めてデザインするという事になる。デザイン→制作の過程を学び，あわせて，使用する木材の性質，木工の道具と機械類の操作，着色，塗装等も学ぶ。表現したいテーマや目標に対し、発想を展開しデザインする。安全で効率良い制作作業を行う。作品の説明までを一つの作品制作として行うように制作する。素材知識を身につけ、段取りをして物づくりの基本的な効率の良い作業の進め方を身につける。日常の中にある「うつわ」をテーマにした陶芸制作を通じ、「陶器」という素材における表現方法と知識、技術を深めることで、美術表現の幅を広げる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP３、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP４に対応する。（2021年度）

到達目標

使える物を丁寧に作る。ノミ、鉋、ノコの使い方（手工具の使い方）を身につける。ガラスの素材知識を理解する。ガラス工芸の手法を修得する。テーマを持ってデザイン表現が出来ている。作業を安全に効率よく行える。作品を的確な言葉で説明出来る。陶芸の知識・技法の理解を目標とする。その上で豊かな発想をもって新しく活動を展開する力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

木工の工作機械と工具、道具類の使い方を知り、作業手順の大切さと作業後の片付けの大切さを学ぶ。あわせて，刃物の危険性も学ぶ。素材特性を理解するよう，作業と素材感の異なる3つの技法を行う。ハード・ド・ヴェールでは原型･型取りを行い、ガラスを型に流し小皿またはオーナメントを製作する。高温のガラス特性を理解する為にパーナーワーク／吹きガラスを実技する。パーナーワークではガラス棒を溶かしとんぼ玉等を製作。吹きガラスはグラス等を製作する。基本的な焼き物の知識や技術を身につけてもらうため、茶碗・鉢・皿といった身近な物を課題にして成形技術の実習を中心に進める。「土ねり」「装飾」「釉掛け」「窯詰め」「窯焚き」なども作品の制作経過に沿って学ぶ。それと同時に全国の焼き物・各窯業地などの特色なども学ぶ。

授業の方法

実際に作業を見せて説明し、実技を行う。パート・ド・ヴェールは粘土原型を制作し、耐火石膏で型取りした後ガラスカレットを詰め焼成する。作業日数を考え、段取りをしながら進める。パーナーワークは交代で作業する。吹きガラスはパート・ド・ヴェールのスケジュールに照らし合わせ行う。講師による作業のチェックは適宜行う。講評会を行い、作品のプレゼンテーションを行う。課題作品の説明、実演ののちに各自練習。講師の示す期間内に課題作品提出し作品批評をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席を重視する。作業に適した服装を用意する。安全を確保し、怪我に十分注意し作業する事。作業要点のメモを取る事。
成績を主に作品で評価するため必ず作品提出する事。課題提出期限は厳守。遅刻，欠席の無いよう注意すること。課題作品の提出を課す。課題作品の説明，提出の方法は授業時間に指示する。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、２０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
工具の使い方、授業態度	授業事前事後の学習はもとより、授業中の積極的な取り組み、模範的な授業態度である。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題や取り組みをこなしている。また、理解を深めるため真剣に取り組んでいる。	授業中の課題や作業をこなしている。また、理解を深めるため内容を真剣に聞いている。	授業中の課題や作業をこなしている。	授業中着席するものの課題や作業をしていない。
知識、理解	授業内容を越える学習を積極的にすすめ理解度を深めている。	授業内容をほぼすべて理解している。	授業内容の概ねを理解している。	最低限の授業内容を理解している。	授業内容を理解できていない。
展開、安全	授業内容にとどまらず、問題点と課題を発展させ、より良い提案ができる。また、安全な作業を展開できる。	授業内容をほぼすべて理解し，安全な作業を展開できる。	授業内容の概ねを理解し、安全な作業を展開できる。	授業内容の一部から安全な作業の展開を見つけている。	授業内容を理解できていないため、安全な作業を展開することができない。
技法の習得度	課題作品に必要な技法を習得し課題を完成させる。そして、より高難度技法の課題に取り組む。	課題作品に必要な技法をほぼ習得し課題を完成させる。	課題作品に必要な技法をおおむね習得し課題を完成させる。	課題作品に必要な技法を最低限習得し課題課題を完成させる。	課題を完成できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222073 ）				
授業担当者（所属・職名）	島田　晶夫・楠本　祐弘・中島　知之（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 林　春生 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	島田晶夫　授業説明　第一課題「象嵌」 シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
2	島田晶夫　第一課題のデザイン、制作	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
3	島田晶夫　第二課題「カトラリー」　デザイン	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
4	島田晶夫　第二課題の制作	完成までの計画を立てる事。（４５分）	手工具の使い方の把握。（４５分）
5	島田晶夫　第三課題「枡」	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
6	島田晶夫　第三課題の練習	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（45分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
7	島田晶夫　第三課題の本番材での加工①	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
8	島田晶夫　第三課題の本番材での加工②	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
9	島田晶夫　第三課題の本番材での加工③	完成までの計画を立てる事。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
10	島田晶夫　第三課題の細部手直し、組み立て、仕上げ、解説、フィードバック	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	指摘事項を確認すること。（４５分）
11	楠本裕弘　シラバスの説明･技法説明を行う。 ［パート・ド・ヴェール］ 小皿・オーナメント	シラバスを読んでおくこと。 アイデアの素材収集する。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
12	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿・オーナメント　デザイン ［とんぼ玉］　交代で作業	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	アイデアの検証する。（４５分）
13	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿・オーナメント　原型制作 ［とんぼ玉］　交代で作業	作業の段取りをする。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
14	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿・オーナメント　原型制作 ［とんぼ玉］　交代で作業	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	原型の修正を行う。（４５分）
15	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿・オーナメント　耐火石膏型取り ［とんぼ玉］　交代で作業	原型の修正をする。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
16	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿・オーナメント　耐火石膏型取り ［とんぼ玉］　交代で作業	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	石膏型の点検と修正を行う。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿・オーナメント　焼成準備 ［吹きガラス］　グラス制作	グラスのデザインをする。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
18	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿・オーナメント　焼成準備 ［吹きガラス］　グラス制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	石膏型・カレットの点検を行う。（４５分）
19	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿･オーナメント　仕上げ	作業の段取りをする。（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
20	楠本裕弘　［パート・ド・ヴェール］ 小皿･オーナメント　講評会	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	自者他者の発表を考察する。（４５分）
21	中島知之　シラバス説明	シラバスを読んでおくこと（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
22	中島知之　基本的な陶芸の知識と制作の説明 土ねり指導（荒ねり・菊ねり）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
23	中島知之　手びねりによる作品制作① カップ（手回しロクロによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	制作状況、完成までの確認。（４５分）
24	中島知之　手びねりによる作品制作② カップ（手回しロクロによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
25	中島知之　手びねりによる作品制作③ カップ（装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
26	中島知之　手びねりによる作品制作④ カップ（装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
27	中島知之　釉がけ・窯詰め・電気窯による焼成①	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
28	中島知之　釉がけ・窯詰め・電気窯による焼成②	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行う（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
29	中島知之　課題作品の批評会	質問事項を考えておく（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
30	中島知之　総講評会・解説	質問事項を考えておく（４５分）	講義全体をふりかえり，まとめを行うこと（４５分）
31	中島知之　楠本裕弘　島田晶夫 全体的な講評を行う。	これまで学んだ技法等についてまとめておくこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
32	林　春生　各自の振り返りの発表 授業改善アンケートの実施	これまで学んだ技法等についてまとめておく（４５分）	他の発表も参考に更に振り返りをおこなうこと（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習Ⅰ （科目ナンバリング：APT322034 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　善太郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

ＣＡＤ教育の始めとして，コンピュータによる作図が自在に出来るように，基本操作から木造・ＲＣ造設計課題を２次元ＣＡＤで「建築製図」として仕上げられる程度まで修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

２次元ＣＡＤを使い，自分で計画した建築物が手描き図面のように，自由自在に使えるための基本操作と作図手順を行うことができる。

授業全体の内容と概要

コンピュータ室にて，2次元CADであるjw_cadを用いて，木造およびＲＣ造についての演習を行う。住宅の設計課題に取り組み，自由に作図できるようにjw_cadを習得する。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

コンピュータ室にて，２次元ＣＡＤ画面を大型ディスプレイに表示しながら解説する。設計課題では作成したエスキスを個別にプレゼンしてもらい，図面確認と修正指導を行うことでフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業はコンピュータ室を使うので座席指定をします。ＵＳＢメモリーは持参すること。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１1回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
２次元CADの特性を活かした作図ができるか	２次元CADの特性を理解し、設計ツールとして的確に駆使することができた。	２次元CADの特性を理解し、設計ツールとして的確に駆使することがほぼできた。	２次元CADの特性を理解し、設計ツールとして的確に駆使することがある程度以上できた。	２次元CADの特性を理解し、設計ツールとして的確に駆使することがある程度できた。	２次元CADの特性を理解し、設計ツールとして的確に駆使することができなかった。
設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案できるか。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することができた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがほぼできた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがある程度以上できた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することがある程度できた。	設計課題の意図を理解して迅速に企画を立案することができなかった。
JW_CADを駆使して自身の計画内容を他者に伝えることができるか。	JW_CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることができた。	JW_CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることがほぼできた。	JW_CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度以上できた。	JW_CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることがある程度できた。	JW_CADを駆使して、計画内容を相手に的確に伝えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CAD演習Ⅰ （科目ナンバリング：APT322034 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　善太郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Jw_cad徹底解説(操作解説編)2012-2013（エクスナレッジムック Jw_cadシリーズ 1)』	Jiro Shimizu（著）, Yoshifumi Tanaka（著）	エクスナレッジ	2012	978-4767813929	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。インストールと設定，レイヤ・作図・編集等基本操作 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
2	レイヤ・作図・編集コマンド	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
3	木造平面図	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
4	木造立面図	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
5	ＲＣ造マンション平面図の作成１	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
6	ＲＣ造マンション平面図の作成２	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
7	ＲＣ造マンション平面図の作成３	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
8	ＲＣ造マンション敷地図と南側立面図の作成	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
9	2.5Dの作成１	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
10	2.5Dの作成２	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
11	透視図・鳥瞰図・アイソメ図の作成１	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
12	透視図・鳥瞰図・アイソメ図の作成２	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
13	内部パースの作成（CADデータのインポート）	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
14	内部パースの作成（柱壁の立ち上げ）	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
15	内部パースの作成（着色） 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと。（45分）	自分のパソコンを使って復習すること（45分）
16	講評会	講評会準備（45分）	振返りレポート作成（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	観光ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論（1年）	（科目ナンバリング：T0S422039 ）			
授業担当者（所属・職名）	五ノ井　壽一（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：　五ノ井　壽一　）	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業における実務経験を有する教員がその経験を活かし観光マネジメントについて講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

観光マネジメントの特性・重要性を理解し講師の経験を通して学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

観光産業の現状と課題を認識することで観光マネジメントの重要性を理解する。

授業全体の内容と概要

観光の概念と特徴を説明し、主な観光産業の歴史・特徴・現状等を紹介し観光学の基礎、観光ビジネスの基本知識を観光サービスの視点から解説していく。

授業の方法

授業は板書および教科書をもとに講義形式で行う。日々の授業において様々な質問や提案をするので自分なりの意見をすぐにまとめて発表すること。問いかけに対する答えや各種フィードバックは、その都度行ったり、講義で全体的に行ったりする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

最低限の規則を守ること。教科書を必ず持参し欠席・遅刻は極力避けること。平常点を重視します。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。
出席率・授業参加度等の平常点、レポートの結果等を総合的に判断する。特に平常点を重視する。期限までにレポートの提出がなかったものは評価の対象としない。また、授業中のスマホ使用は厳にこれを慎むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
観光産業の現状と課題の認識	観光産業の現状と課題を十分に認識し、その認識に基づいて観光マネジメントの重要性を理解し、自身の意見を持つことができた。	観光産業の現状と課題を十分に認識し、その認識に基づいて観光マネジメントの重要性を理解できた。	観光産業の現状と課題を認識できた。	観光産業の現状と課題の理解は十分ではないが、理解するために努めていはいた。	観光産業の現状と課題が理解できておらず、理解する姿勢もみられなかった。
レポートについて（思考力・判断力・表現力）	極めて優れたレポートで到達目標を完全に達成した。	優れたレポートで到達目標をほぼ達成した。	妥当と認められるレポートで不十分な点は認められるものの到達目標を成した。	合格を認められる最低限のレポートで到達目標の最低限は満たしていた。	合格と認められる最低限のレポートに達しておらず、到達目標を充足していなかった。
授業に対する積極性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分けるなど、授業に対する積極性が顕著にみられた。	積極的に授業に参加しており、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがえた。	積極性は乏しいものの、申し分なく授業に参加していた。	最低限授業には参加していた。	授業に参加していると言い難い取り組みだった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	観光ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論（1年）	（科目ナンバリング：T0S422039 ）			
授業担当者（所属・職名）	五ノ井　壽一（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者：　五ノ井　壽一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業における実務経験を有する教員がその経験を活かし観光マネジメントについて講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『観光サービス論』	安田　亘宏	古今書院	２０１５	9784772231664	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『1からの観光事業論』	高橋一夫・柏木千春	碩学舎	2016	9784502172816	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明・ガイダンス	シラバスを読んでおくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
2	観光と観光サービス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
3	観光の歴史	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
4	国内旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
5	海外旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
6	訪日外国人旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
7	観光行政	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
8	観光ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
9	旅行業ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
10	宿泊業ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
11	観光交通ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
12	観光施設ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
13	観光まちづくり	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
14	ニューツーリズム（１）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
15	ニューツーリズム（２） 授業改善アンケートの実施	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
16	まとめ（レポート総評と解説）	講義を振り返り、質問事項等があれば整理しておくこと（９０分）	講義全体をふりかえり、まとめておくこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｺｰｽ以外）・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	観光ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論（2年）	（科目ナンバリング：T0S422039 ）			
授業担当者（所属・職名）	五ノ井　壽一（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者：　五ノ井　壽一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業における実務経験を有する教員がその経験を活かし観光マネジメントについて講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

観光マネジメントの特性・重要性を理解し講師の経験を通して学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP３、DP４に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

観光産業の現状と課題を認識することで観光マネジメントの重要性を理解する。

授業全体の内容と概要

観光の概念と特徴を説明し、主な観光産業の歴史・特徴・現状等を紹介し観光学の基礎、観光ビジネスの基本知識を観光サービスの視点から解説していく。

授業の方法

授業は板書および教科書をもとに講義形式で行う。日々の授業において様々な質問や提案をするので自分なりの意見をすぐにまとめて発表すること。問いかけに対する答えや各種フィードバックは、その都度行ったり、講義で全体的に行ったりする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

最低限の規則を守ること。教科書を必ず持参し欠席・遅刻は極力避けること。平常点を重視します。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。
出席率・授業参加度等の平常点、レポートの結果等を総合的に判断する。特に平常点を重視する。期限までにレポートの提出がなかったものは評価の対象としない。また、授業中のスマホ使用は厳にこれを慎むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
観光産業の現状と課題の認識	観光産業の現状と課題を十分に認識し、その認識に基づいて観光マネジメントの重要性を理解し、自身の意見を持つことができた。	観光産業の現状と課題を十分に認識し、その認識に基づいて観光マネジメントの重要性を理解できた。	観光産業の現状と課題を認識できた。	観光産業の現状と課題の理解は十分ではないが、理解するために努めていはいた。	観光産業の現状と課題が理解できておらず、理解する姿勢もみられなかった。
レポートについて（思考力・判断力・表現力）	極めて優れたレポートで到達目標を完全に達成した。	優れたレポートで到達目標をほぼ達成した。	妥当と認められるレポートで不十分な点は認められるものの到達目標を成した。	合格を認められる最低限のレポートで到達目標の最低限は満たしていた。	合格と認められる最低限のレポートに達しておらず、到達目標を充足していなかった。
授業に対する積極性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分けるなど、授業に対する積極性が顕著にみられた。	積極的に授業に参加しており、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがえた。	積極性は乏しいものの、申し分なく授業に参加していた。	最低限授業には参加していた。	授業に参加していると言い難い取り組みだった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄｺｰｽ以外）・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	観光ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論（2年） （科目ナンバリング：T0S422039 ）				
授業担当者（所属・職名）	五ノ井　壽一（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 五ノ井　壽一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	旅行業における実務経験を有する教員がその経験を活かし観光マネジメントについて講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『観光サービス論』	安田　亘宏	古今書院	２０１５	9784772231664	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『1からの観光事業論』	高橋一夫・柏木千春	碩学舎	2016	9784502172816	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明・ガイダンス	シラバスを読んでおくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
2	観光と観光サービス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
3	観光の歴史	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
4	国内旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
5	海外旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
6	訪日外国人旅行	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
7	観光行政	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
8	観光ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
9	旅行業ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
10	宿泊業ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
11	観光交通ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
12	観光施設ビジネス	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
13	観光まちづくり	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
14	ニューツーリズム（１）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
15	ニューツーリズム（２） 授業改善アンケートの実施	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（９０分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（９０分）
16	まとめ（レポート総評と解説）	講義を振り返り、質問事項等があれば整理しておくこと（９０分）	講義全体をふりかえり、まとめておくこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	レクリエーション概論 （科目ナンバリング：AHS522068 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾西　則昭(社会福祉学科・特任教授)	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2 （単位認定責任者： 尾西　則昭 ）	CAP制	講義		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において、レクリエーションの授業を担当した経験を活かし指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人々の健康づくりや体力向上、スポーツの振興、高齢者や障がい児(者)福祉、子育て支援や保育・幼児保育、子どもたちの健全育成や学校教育、ボランティアによる地域づくりなど、幅広い連携体制について理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

レクリエーションの意義や歴史・制度について理解を深め、レクリエーション・インストラクターの役割を確認をするとともに、現代社会における、ライフステージごとの課題や乳幼児・児童・障がい児(者)レクリエーションの課題について学び、レクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解する。また、レクリエーション事業の考え方や展開方法について理解し、且つ安全管理等についても理解する。
次世代を生きる子どもたちになぜレクリエーション活動支援が必要なのかについて知る。

授業全体の内容と概要

レクリエーションの主旨(目的)は心を元気にすることであり、レクリエーション支援者は、人々が自主的、主体的心を元気にできるようになることを目的に、ゲームや歌、ダンスといったレクリエーション活動を用いて手助けする指導者である。主に、福祉分野や教育分野の施設、学校、地域の事業などの現場で高齢者や子どもなどの対象者として心の元気づくりの支援を行う。
レクリエーション講義では、以上の目的を達成するために、①レクリエーション概論②楽しさと心の元気づくりの理論③レクリエーション支援の理論について学ぶ。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

基本的には対面式の授業形態であるが、演習部分ではグループワークの形をとるため、少人数でのグループ形式の授業形態もある。
「不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。」

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	１０%	０%	２０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
;レクリエーションの基礎知識と理解	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を深めることが理解できた。	レクリエーションの歴史や制度の基礎的知識を理解することができた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識をおおむね理解できた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を多少理解できた。	レクリエーションの歴史や制度についての基礎的知識を理解することができなかった。
レクリエーション支援の知識と理解	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を深く理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本をおおむね理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本を多少理解できた。	レクリエーション支援における生活課題とレクリエーションの働きかけの基本をほとんど理解できなかった。
レクリエーション支援事業の知識と理解	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について深く理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等についておおむね理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等について多少理解できた。	レクリエーション事業の考え方や展開方法、安全管理等についてほとんど理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	レクリエーション概論 （科目ナンバリング：AHS522068 ）				
授業担当者（所属・職名）	尾西　則昭(社会福祉学科・特任教授)		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 尾西　則昭 ）		CAP制	講義	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大学及び専門学校において、レクリエーションの授業を担当した経験を活かし指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『レクリエーション支援の基礎』	小西亘	(財)日本レクリエーション協会	2007年	9784931180819	
2	『楽しいをつくるやさしいレクリエーション実践』	川村皓章	(財)日本レクリエーション協会	2000年	9784931180611	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　「シラバス説明」	事前にシラバスを読んで確認する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
2	レクリエーションの意義及び歴史	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
3	レクリエーション運動の歴史	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
4	レクリエーションインストラクターに期待される役割	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
5	レクリエーションの指導法　(ビデオ)	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
6	高齢者社会の課題とレクリエーション	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
7	障がい者とレクリエーション	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
8	レクリエーションの企画・運営	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
9	レクリエーションの活動の安全管理	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
10	レクリエーション事業の考え方及び展開方法	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
11	レクリエーションの事業評価	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
12	レクリエーション支援の方法① アイスブレーキング・トレーニング	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
13	レクリエーション支援の方法② ホスピタリティ・トレーニング	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
14	加盟団体とスポーツ	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
15	レクワーク（レク種目体験）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する。(９０分)	ノートに記載された内容を復習し、理解する。(９０分)
16	定期試験 まとめ 「授業改善アンケート実施」	ノートに記載された内容を再度確認し、理解する。(９０分)	解説の内容を確認する。(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ文化論 （科目ナンバリング：SPS422068，SPS512012 ）				
授業担当者（所属・職名）	細川　光法（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 細川　光法 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

オリンピック・パラリンピックなどを通して、スポーツの文化性・価値・未来への展望などへの関心を高め、スポーツを多面的な視点で捉える力を養うことにより、人間・スポーツ・社会の関連を理解し、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP４に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

スポーツを文化性・価値・未来への展望などの多面的な視点で理解することができる。

授業全体の内容と概要

毎回、直近のスポーツ文化関連ニュースの背景を探ることからはじめ、シラバスに基づいたテーマを学ぶ。
「SDG　5.　ジェンダー平等を実現しよう」の関連科目。
「SDG　17.　パートナーシップで目標を達成しよう」の関連科目。

授業の方法

基本は「スポーツは文化である」という認識で各テーマを解説する。
毎回、テーマに対応したプリントを配布し、板書など参考データを活用しながら講義形式で行う。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教室では他人の迷惑になる行為（私語など）をしない、携帯・スマホの使用も厳禁。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１６回の授業（定期試験を含む）のうち１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	10%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの文化性	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を充分に理解できた。	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を概ね理解できた。	スポーツはなぜ文化といえるのかを一定程度理解し、資料収集もしていた。	スポーツの文化性をわずかに理解できた。	スポーツを文化ととらえる考えが見られない。
パラリンピックと障害者への視点	単にスポーツの世界だけでなく、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力まで充分に理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を概ね理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を一定程度理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力に共感していた。	スポーツ競技に参加する障害者に関心が見られない。
東京オリンピックの光と影	経済効果や遺産の陰にあるさまざまな課題まで総合的に理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを概ね理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを一定程度理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることをわずかに理解できた。	五輪の光と影について全く興味がない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ文化論 （科目ナンバリング：SPS422068，SPS512012 ）				
授業担当者（所属・職名）	細川　光法（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 細川　光法 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『スポーツ文化を学ぶ人のために』	井上俊・亀山佳明（編）	世界思想社	１９９９	4790707717	
2	『よくわかるスポーツ文化論（やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ』	井上俊・菊幸一編著	ミネルヴァ書房	２０１２	9784623061181	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 この授業全体のガイダンス	スポーツ関連ニュースを意識（９０分）	ガイダンスの復習（９０分）
2	スポーツ文化のとらえ方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
3	メディア化するスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
4	2020東京オリンピックの光と影	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
5	1964年の東京オリンピック	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
6	パラリンピックの歴史と意義	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
7	スポーツとジェンダー	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
8	スポーツと地域社会	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
9	スポーツと政治・権力①	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
10	スポーツと政治・権力②	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
11	職業としてのスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
12	スポーツと教育	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
13	スポーツ指導者としての在り方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
14	スポーツとファン	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
15	スポーツとジャーナリズム	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
16	総合評価　定期試験 授業改善アンケートの実施	これまで学んだことを確認（９０分）	解説を受けて試験のふりかえりを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ文化論（SP）	（科目ナンバリング：SPS422068，SPS512012　　）			
授業担当者（所属・職名）	細川　光法（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　細川　光法　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

東京オリンピック・パラリンピックなどを通して、スポーツの文化性・価値・未来への展望などへの関心を高め、スポーツを多面的な視点で捉える力を養うことにより、人間・スポーツ・社会の関連を理解し、スポーツ指導者として社会に貢献できる資質を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP４に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

スポーツを文化性・価値・未来への展望などの多面的な視点で理解することができる。

授業全体の内容と概要

毎回、直近のスポーツ文化関連ニュースの背景を探ることからはじめ、シラバスに基づいたテーマを学ぶ。
「SDG　5.　ジェンダー平等を実現しよう」の関連科目。
「SDG　17.　パートナーシップで目標を達成しよう」の関連科目。

授業の方法

基本は「スポーツは文化である」という認識で各テーマを解説する。
毎回、テーマに対応したプリントを配布し、板書など参考データを活用しながら講義形式で行う。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教室では他人の迷惑になる行為（私語など）をしない、携帯・スマホの使用も厳禁。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程、スポーツソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１６回の授業(定期試験を含む）)のうち１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	10%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
スポーツの文化性	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を充分に理解できた。	スポーツが芸術や遺跡などに劣らない文化性を持つ真の意味を概ね理解できた。	スポーツはなぜ文化といえるのかを一定程度理解し、資料収集もしていた。	スポーツの文化性をわずかに理解できた。	スポーツを文化ととらえる考えが見られない。
パラリンピックと障害者への視点	単にスポーツの世界だけでなく、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力まで充分に理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を概ね理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力を一定程度理解できた。	スポーツの世界において、ハンディを克服していく人々の勇気と行動力に共感していた。	スポーツ競技に参加する障害者に関心が見られない。
東京オリンピックの光と影	経済効果や遺産の陰にあるさまざまな課題まで総合的に理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを概ね理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることを一定程度理解できた。	経済効果や遺産の陰にさまざまな課題があることをわずかに理解できた。	五輪の光と影について全く興味がない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ文化論（SP）	（科目ナンバリング：SPS422068，SPS512012　　）			
授業担当者（所属・職名）	細川　光法（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　細川　光法　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『スポーツ文化を学ぶ人のために』	井上俊・亀山佳明（編）	世界思想社	１９９９	4790707717	
2	『よくわかるスポーツ文化論（やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ』	井上俊・菊幸一編著	ミネルヴァ書房	２０１２	9784623061181	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 この授業全体のガイダンス	スポーツ関連ニュースを意識（９０分）	ガイダンスの復習（９０分）
2	スポーツ文化のとらえ方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
3	メディア化するスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
4	2020東京オリンピックの光と影	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
5	1964年の東京オリンピック	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
6	パラリンピックの歴史と意義	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
7	スポーツとジェンダー	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
8	スポーツと地域社会	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
9	スポーツと政治・権力①	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
10	スポーツと政治・権力②	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
11	職業としてのスポーツ	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
12	スポーツと教育	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
13	スポーツ指導者としての在り方	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
14	スポーツとファン	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
15	スポーツとジャーナリズム	テレビ・スマホなどで最新のスポーツニュースを知る（９０分）	授業中に学んだことを復習（90分）
16	総合評価　定期試験 授業改善アンケートの実施	これまで学んだことを確認（９０分）	解説を受けて試験のふりかえりを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（M） （科目ナンバリング：ENL042033 ）				
授業担当者（所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 岡島　徳昭 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

英文を読み、個々の単語の発音練習を行う。基本的文法事項を復習し、作文練習、会話練習を行い、英語運用能力を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

英語の発音を修得する。基本的文法事項を理解し、簡単な作文と会話ができる。

授業全体の内容と概要

英文を読み、発音を確認し、基本的表現や文型を学び、英語の運用能力の向上を目指す。
「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

板書、CDを用い英語運用能力の向上を計り、学生参加型授業を行う。　中間テスト、定期試験の答え合わせ等のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

平常点重視、テキスト・辞書持参

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

成績評価には１０回以上の出席が必要。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	０%	０%	４０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能（発音・語彙・文法・読解等）	定期試験・中間試験で９割以上、文法・語彙に誤りがなく正確に理解していた。	定期試験・中間試験で８割以上、文法・語彙に誤りがほとんどなく大体理解できていた。	定期試験・中間試験で７割以上、文法・語彙に若干誤りがあるが理解していた。	定期試験・中間試験で６割以上、文法・語彙に誤りがあり理解できてない部分が多少あった。	定期試験・中間試験で６割以下。文法・語彙に誤りが多く理解に問題があった。
思考力・判断力・表現力	表現方法が適切であり誤りがほとんどなかった。	表現方法はほぼ適切で、小さな誤りが若干ある程度だった。	誤りがあるが、表現方法において誤解を生じるほどの大きな誤りはなかった。	表現方法に誤りがあり、自分の意思を伝えることに支障を少しきたす点があった。	表現方法に誤りが目立ち、自分の意思を伝えることができなかった。
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲･関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲・関心・興味が感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲･関心･興味が感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（M）（科目ナンバリング：ENL042033 ）				
授業担当者（所属・職名）	岡島　徳昭（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 岡島　徳昭 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「English Indicator 1」』	テリー・オブライエン，三原京 他	南雲堂	２０１８	9784523178538	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業の進め方，採点に関すること，その他授業に関するガイダンス。（シラバスの説明） Unit 1 The Royal Family	シラバスを読むこと。（９０分）	授業中に学んだことを復習する。（９０分）
2	Unit 2 The Beatles Past tense 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。（９０分）	授業中に学んだことを復習する。（９０分）
3	Unit 3 Very Cold Progressive forms 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。（９０分）	授業中に学んだことを復習する。（９０分）
4	Unit 4 Euro Money Auxiliary verbs 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。（９０分）	授業中に学んだことを復習する。（９０分）
5	Unit 5 To Your Health Perfect tense 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。（９０分）	授業中に学んだことを復習する。（９０分）
6	Unit 6 Recycling Articles, pronouns 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。（９０分）	授業中に学んだことを復習する。（９０分）
7	Unit 7 The UK Nouns: countable, uncountable	リーディングアサイメント及び語彙の学習。（９０分）	授業中に学んだことを復習する。（９０分）
8	中間テスト	リーディングアサイメント及び語彙の学習。（９０分）	授業中に学んだことを復習する。（９０分）
9	Unit 8 A Quiet Life Adjectives, adverbs 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。（９０分）	授業中に学んだことを復習する。（９０分）
10	Unit 9 My Company Comparisons 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。（９０分）	授業中に学んだことを復習する。（９０分）
11	Unit 10 Advertising Infinitives, conjunctions 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。（９０分）	授業中に学んだことを復習する。（９０分）
12	Unit 11 Business Trips Prepositions, conjunctions 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。（９０分）	授業中に学んだことを復習する。（９０分）
13	Unit 12 Get It Cleaned Causative verbs, perceptive	リーディングアサイメント及び語彙の学習。（９０分）	授業中に学んだことを復習する。（９０分）
14	Unit 13 A Storm Passive voice 復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。（９０分）	授業中に学んだことを復習する。（９０分）
15	Unit 14 The Media Relativesの復習	リーディングアサイメント及び語彙の学習。（９０分）	授業中に学んだことを復習する。（９０分）
16	総合評価　定期試験６０分、解説３０分 授業改善アンケートの実施	リーディングアサイメント及び語彙の学習。（９０分）	授業中に学んだことを復習する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（S）　（科目ナンバリング：ENL042033　）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照またはチームズにて要確認				

概要

履修目標

身近な話題を中心とした日常生活の様々な場面を想定し、テキストに沿った文法整理から、会話、発音、語彙を総合的に学習することによってコミュニケーションツールとしての英語運用能力を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（２０２２年度）

到達目標

簡単な日常会話や場面表現に関して用いられる英文の文法解釈において，文型を理解したうえでコミュニケーションツールとして基礎的な英語運用能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

文法，語彙，会話表現の向上をはかり，自分が表現したいことを相手に伝えられるようコミュニケーションスキルの基礎を習得する。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

本講座は講義形式で授業を行い、教科書やハンドアウトを利用し英語の構造について学習しながら指定アプリを活用して単語数や日常表現を増やす活動を行ってもらう。レポート、試験などの解説のフィードバックを実施する。
指定翻訳アプリ：VoiceTra
＜VoiceTra（ボイストラ）はＮＩＣＴ（エヌアイシーティー：国立研究開発法人情報通信研究機構）が、言葉の壁の克服を目指して開発したスマートフォン用の無料多言語音声翻訳アプリです。＞

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席を重視する。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を以って欠席１回とする。特別な理由のない２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。また、中間試験として文型理解度確認テストを実施する。加えて英文日記を１回提出し，レポートとして採用する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）選択科目　保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

講義による授業形態を採る。教科書・ノート・筆記具を持ってこない学生は欠席とする。また、教科書のない学生は評価の対象としない。１２回の出席を基準とし１０回の出席を確保できないものは再履修とする。
平常点にはノートチェックと授業参加度を含む。前向きな課題の提出には，加点する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	１０%	１０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９０点以上の得点を挙げた。	定期試験で８０点以上の得点を挙げた。	定期試験で７０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、実際の場面で必要となる語彙・表現に取り組み、十分なコミュニケーション能力を獲得するための土台がほぼ完成している。	与えられた課題に取り組み、自分が出会う場面を想定しコミュニケーションをとる土台が出来つつある。	与えられた課題に取り組み、日々の生活で使用頻度の高い語彙を調べだし辞書を有効に活用してコミュニケーションの土台つくりの努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、語彙力をつける努力は認められるがなかなか定着していない。辞書を使うことはできる。	課題への取り組みが不十分で、語彙力の進歩が見られず、翻訳アプリがないと何もできない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる語彙力・表現力の充実に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり国際言語習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んで国際言語を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（S）（科目ナンバリング：ENL042033 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『A New Approach to Understanding English Grammar』	藤田　直也　著	朝日出版社「	2010	9784255154794	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明 授業評価アンケートの結果への対応を説明 英語の構造に関する基本的な考え方	専用のノートを準備する（４５分）	自分の弱点確認（４５分）
2	英語と日本語の違い＆英語の基本文型①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
3	英語の基本文型②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
4	英語の基本文型③	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
5	英語の動詞とその使い方①＆オーストラリア文化談	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
6	英語の動詞とその使い方②＆アメリカ大学文化談	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
7	品詞に関するイメージ①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
8	品詞に関するイメージ②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
9	英文の構造を理解する①＆アメリカ文化談	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
10	英文の構造を理解する②＆アメリカ文化談	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
11	英文の構造を理解する③	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
12	時制①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
13	時制②	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
14	不定詞・動名詞・分詞のイメージ①	テキストの指定範囲を読む（４５分）	ノートの作成。課題・宿題（４５分）
15	不定詞・動名詞・分詞のイメージ②＆テストReview 授業評価アンケートの実施	テキストの指定範囲を読む（４５分）	期末試験に備える(４５分)
16	試験（６０分）及び授業総評（３０分）	試験準備（１２０分）	授業内容の振り返り（６０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年、建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ （科目ナンバリング：ENL042033 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

グローバル化に対応するため「外国語」を学ぶための科目であり、英語で外国人と最低限のコミュニケーションができるよう実際に使える英語を身につける。また、日本と外国の習慣や文化、考え方の違いについて理解を深める。

授業の位置づけ

全学科のDP１、DP２、DP5に対応する。（２０２４年度）
デザイン・建築学科のＤＰ（２）（４）に対応する。（２０２３・２２年度）
デザイン・建築学科のDP２、DP3、DP8に対応する。（２０２１年度）

到達目標

会話表現の向上をはかり、自分が表現したいことを最低限相手に伝えられるように、コミュニケーションスキルを習得することができる。

授業全体の内容と概要

身近なトピックを扱ったダイアログを通して「聞く・読む」から「話す・書く」へとつなぐ技能統合を重視した英語運用能力育成を目的とし、口語表現などを学習し,会話でよく使用される重要な表現を想定し相手の気持ちを読み取り,相手に自分の気持ちを伝えるコミュニケーションを学ぶことができる。

授業の方法

授業では視聴覚メディアを活用し、講義形式で行う。リスニングで単語の発音をインプットし、リーディングでは英文を声に出して読むアウトプットの作業を行う。また、テキストの練習問題を解き疑問点などは個々に対応、或いはクラス全体への解答を解説し学生へのフィードバックを行う。ペアでのロールプレイ、グループワークなど多く取り入れるので積極的に授業に参加する。
音声の無料ストーミング配信サービスを使えばテキストの音声スマホ・タブレットに簡単にダウンロード。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１５分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻２回で欠席1回。授業には必ずテキスト、辞書を持参すること。テキストを忘れ、授業前に申し出ない場合は欠席扱いとする。不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	10%	40%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	授業内容を超えた学修が認められる。	授業内容をほぼ理解している。	到達目標に達している。	到達目標は理解しているが、授業内容の理解に少し不足がある。	到達目標に達していない。
英語表現能力	英語で優れた表現を行うことができる。	英語で表現を行うことができる。	英語で表現を一定程度行うことができる。	英語で与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができる。	英語で与えられた条件を満たした最低限度の表現を行うことができない。
積極性	授業全体の流れを理解し、質問・問題提起により授業展開に貢献する。	授業全体の流れを理解し、発問に対して積極的に応じる。	発問に対して、指名されれば正しく応じることができる。	授業に集中して理解しようとする態度が見られる。	授業に集中できず、授業放棄の態度が見られる。
事前・事後学修	自ら進んで学修範囲を超えて調べている。	学修範囲を十分に調べて、授業内容を他人に説明できる。	学修範囲を調べている。	指示された範囲の事前・事後学修はするが、理解が不十分である。	指示された範囲の事前・事後学修が不十分である。
リスニング・スピーキング	授業内で取り扱った単語・表現を完璧に習得し、リスニング・スピーキングの２技能を問題なく正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング・スピーキングの２技能を正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現の大部分を習得し、リスニング・スピーキングの２技能をほぼ正確に運用できる。	授業内で取り扱った単語・表現を部分的に習得しているが、リスニング・スピーキングの２技能の運用に不適切な部分が見受けられる。	授業内で取り扱った単語・表現の習得が不十分であり、リスニング・スピーキングの２技能の運用に不正確さが目立つ。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年、建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	外国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ （科目ナンバリング：ENL042033 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮嶋　達也（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 宮嶋　達也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『New Getting Into English』	Joseph Cronin Eric Bray	NAN’UN-DO	２０２１	978-4-523-17918-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明/授業改善アンケート結果反映の説明 Unit 1 Hi, I’m Rina.	シラバスを参照しながらテキスト内容を理解する。（４５分）	授業各回のテーマを理解しておくこと。（４５分）
2	Unit 2 How do you spell that?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
3	Unit 3 What’s the time?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
4	Unit 4 Where are you from?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
5	Unit 5 What’s your favorite food?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
6	Unit 6 How often do you get your hair cut?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
7	Unit 7 What kinds of music do you like?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
8	Unit 8 Who’s older, you or your sister?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
9	Unit 9 How was your weekend?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
10	Unit 10 Have you ever been abroad?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
11	Unit 11 What kinds of movies do you like?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
12	Unit 12 What’s the weather going to be like?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
13	Unit 13 What’s your favorite coffee shop?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
14	Unit 14 Do you have a part-time job?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
15	Unit 15 How long have you had your phone?	次回の授業範囲を予習し,単語の意味を調べておくこと。（４５分）	授業で説明を受けたポイントをもう一度復習する。（４５分）
16	Final Exam.　試験終了後，授業改善アンケートの実施	試験での疑問点などは前もって質問できるように準備しておく。（４５分）	間違えた箇所をもう一度復習し理解する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	貧困に対する支援 （科目ナンバリング：SWS112012 ）				
授業担当者（所属・職名）	星野　秀治(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 星野　秀治 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代における公的扶助(貧困・低所得者に対する支援制度)の意義を理解するとともに，貧困問題の本質とソーシャルワーカーの役割について知る。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP４に対応する。（2024年度）

到達目標

①貧困問題の本質を理解する視点について理解することかできる。
②現代における貧困原因を分析し，最低生活保障のあり方について考えることができる。
③要保護者，低所得者の特性に応じた自立支援の意義について説明することができる。

授業全体の内容と概要

公的扶助の概念，範囲，歴史的展開，現代社会における機能などについて概説したうえで，わが国における公的扶助制度である生活保護制度の仕組みと生活困窮者に対する自立支援のあり方について学び，併せて最近の保護動向から今後の課題について理解を深める。
「SDG１．貧困をなくそう」，「SDG2..飢餓をゼロ」の関連授業

授業の方法

授業は，パワーポイント及び配布資料を活用しながら，ディスカッションを交えつつ講義形式で行う。適宜、授業内容についてのレポート提出を求める。授業内で実施するレスポンスシートについて、次回の授業でコメントを行うなどのフィードバックを行い双方向性を確保する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回，必ず教科書・配付資料を携行すること。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施することがある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け，本学の基本方針及び規程等に基づき，学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、保育士養成課程科目（選択）

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	現代における新たな貧困問題に対処するために必要な自立支援のあ　り方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について考えることができた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できなかった。
思考・判断	現代における新たな貧困問題に対処するために必要な自立支援のあ　り方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について説明できた。	低所得者の特性に応じた自立支援のあり方について考えることができた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できた。	低所得者に対する自立支援の意義について説明できなかった。
関心・意欲	具体的な事例に則して最低生活保障のあり方について考えることができた。	現代における貧困原因を分析しソーシャルワーカーの役割を考えることができた。	現代における貧困問題に対するソーシャルワーカーの役割について考える姿勢を示した。	現代における貧困原因について考えることができた。	現代における貧困原因について考えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	貧困に対する支援　（科目ナンバリング：SWS112012　）				
授業担当者（所属・職名）	星野　秀治(社会福祉学科・専任講師)		研究室等所在	1号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　星野　秀治　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新社会福祉士養成講座４ 貧困に対する支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	２０２１	78-4-8058-8247-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 貧困とは何か①（貧困の概念－絶対的貧困と相対的貧困，社会的排除など）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
2	貧困とは何か②（貧困の実態、貧困を取り巻く社会環境、貧困状態にある人に対する福祉の理念，貧困観の変遷）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
3	貧困とは何か②（公的扶助の意義と範囲）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
4	貧困に対する取り組みの歴史①（欧米における救貧制度から公的扶助に至る歩み）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
5	貧困に対する取り組みの歴史②（日本における救貧制度から公的扶助に至る歩み）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
6	貧困に対する取り組みの歴史③（日本における近年の取り組み－ホームレス自立支援法、生活困窮者自立支援法など）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
7	貧困に対する法制度①（生活保護法の基本原理、保護の種類と内容，最低生活費と保護基準，保護の動向）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
8	貧困に対する法制度①（生活保護における相談支援活動，自立支援プログラム，保護施設）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
9	貧困に対する法制度③（生活困窮者自立支援法の仕組みと実際）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
10	貧困に対する法制度④（低所得者対策，ホームレス対策）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
11	貧困に対する支援おける関係機関と専門職（貧困に対する支援における公私の役割，国と都道府県・市町村の役割）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
12	貧困に対する支援おける関係機関と専門職（福祉事務所の組織・業務と社会福祉主事の役割）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
13	貧困に対する支援おける関係機関と専門職（自立相談支援機関その他の関係機関・関連専門職の役割）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
14	貧困に対する支援の実際（貧困に対する支援活動の実際と社会福祉士の役割）	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	教科書を読み授業範囲の予習をする（９０分）	授業のまとめをレポートとして提出する準備（９０分）
16	試験（６０分）	全授業を振り返り試験に向けた準備（９０分）	試験内容をふまえ授業全体を振り返る(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝⅡ （科目ナンバリング：AEA211007 ）				
授業担当者（所属・職名）	西田　陽二（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 西田　陽二 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザイナーとして，アーティストとして，美術の教員として「デッサン」が全ての基礎基本であることを充分に認識させ，単に技能や知識の向上にとどまらず，美術を愛好し積極的に，学生がそれぞれの専門分野に活かそうとする態度を養うこと。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

モティーフのかたちを客観的に把握できるようにすること。素描の楽しさや重要性について理解できる。
卒業後の社会での生活を想定した専門性に関する意識の高揚と実践的態度の養成をする。

授業全体の内容と概要

デッサンの材料・用具・その要素としてのプロポーション・明暗・質感・空間表現などについての実習。

授業の方法

プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

知性と感性を充分に発揮し，根気強くたゆまなく努力すること。
作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。
不測の事が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，２０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	０％	２０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
適正な構図、形のバランス（比例）が正しく捉えられることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさ等が大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの描き分けが出来ていた	明暗で表現していた	輪郭線等で囲って色を付けていた
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしていた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでた

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	ﾃﾞｯｻﾝⅡ （科目ナンバリング：AEA211007 ）				
授業担当者（所属・職名）	西田　陽二（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 西田　陽二 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が，その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーションー　シラバスの説明 デッサンのための用具野説明，授業の流れと目的などについて。	シラバスを読んでおくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
2	石膏像（首像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
3	石膏像（首像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
4	石膏像（首像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
5	石膏像（首像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
6	石膏像（首像）のデッサン　⑤作品画像を保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
7	石膏像（首像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
8	石膏像（首像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
9	石膏像（首像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
10	石膏像（首像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
11	石膏像（首像）のデッサン　⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
12	石膏像（首像）のデッサン　⑥作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
13	石膏像（首像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
14	石膏像（首像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
15	石膏像（首像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
16	石膏像（首像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	石膏像（首像）のデッサン　⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
18	石膏像（首像）のデッサン　⑥作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
19	石膏像（首像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
20	石膏像（首像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
21	石膏像（首像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
22	石膏像（首像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
23	石膏像（首像）のデッサン　⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
24	石膏像（首像）のデッサン　⑥作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
25	石膏像（首像）のデッサン　①	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
26	石膏像（首像）のデッサン　②	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
27	石膏像（首像）のデッサン　③	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
28	石膏像（首像）のデッサン　④	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
29	石膏像（首像）のデッサン　⑤	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
30	石膏像（首像）のデッサン　⑥	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
31	石膏像（首像）のデッサン　⑦作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと（45分）	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること（45分）
32	採点及び講評会　（解説・フィードバック） 授業改善アンケートの実施	講評会の準備を行うこと（45分）	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉環境計画論 （科目ナンバリング：APT313008 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐々木　哲之 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築の計画や設計をおこなう上での基準は健常者の身体能力であった。しかし，わが国では人口の高齢化が急速に進展し，高齢者は増加の一途を辿っている。さらに人口の高齢化に伴って，障がい者人口もさらに増加すると見られている。そこで，高齢者・障がい者の身体特性を学び，バリアフリー，ユニバーサルデザインの知識の修得により建築計画ができる。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ１，ＤＰ３，ＤＰ４に対応する。（２０２４年度）
建築学科のＤＰ１，ＤＰ２，ＤＰ３に対応する。（２０２３・２２年度）
建築学科のＤＰ１，ＤＰ２，ＤＰ３に対応する。（２０２１年度）

到達目標

高齢者・障がい者が多く罹る疾病やこれに伴う心身の特性を理解し，生活上の不便，不都合を知ることで生活空間の計画・設計上の配慮点を理解できる。また，バリアフリー，ユニバーサルデザインの知識を理解し，それに基づいて建築計画することができる。

授業全体の内容と概要

福祉環境整備に関する法制度の流れを理解し，高齢者・障がい者の身体特性を知る。福祉用具を利用するための住空間の規模計画，生活空間の部位の寸法など要点を把握する。

授業の方法

テキストに加えてプロジェクターによる画像，図表で解説するので，ノートに講義内容と資料を整理すること。また，課題は各単元ごとに出題し，それはレポート形式とする。課題は３課題を準備している。そのうちの最終課題は，住宅のバリアフリー化をテーマに計画・プレゼンし，それを講評する。不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施し，欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義における板書内容と配布資料を要領よく整理することが重要である。３０分以上の遅刻は欠席とする。また，遅刻３回で欠席１回とみなすので注意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	１０%	２０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉環境に関わる基礎的知識について	知識を十分に習得しており，それを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得しており，それを応用できた。	知識を十分に習得していた。	基礎的な知識を理解できていた。	基礎的な知識が不足していた。
福祉用具と住空間に関わる知識や計画について	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計画ができ，さらにそれを応用できた。	知識を習得して計画ができ，さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計画ができた。	知識が不足し計画ができなかった。
建築空間におけるバリアフリー・ユニバーサルデザインに関わる知識や計画について	知識を十分に習得して計画ができた。さらにそれを応用でき，説明・解説ができた。	知識を十分に習得して計画ができ，さらにそれを応用できた。	知識を習得して計画ができ，さらにそれを十分ではないが応用できた。	知識を習得して計画ができた。	知識が不足し計画ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	福祉環境計画論 （科目ナンバリング：APT313008 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐々木　哲之（建築学科・特任教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐々木　哲之 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザインブック』	野村，橋本	彰国社	2015	978-4-395-32048-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 福祉環境計画の概要	シラバスにより次回の部分を予習すること（９０分）	授業内容を復習すること（９０分）
2	ハートビル法，障害者基本法，生活福祉空間づくり，その他関係法令	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
3	高齢者・障害者の身体特性	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
4	計画と設計に求められるコンセプト	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
5	高齢者・障害者の福祉用具１	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
6	高齢者・障害者の福祉用具２	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
7	住環境整備の計画１ アプローチ，駐車場，建物出入り口	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
8	住環境整備の計画２ 室内出入り口，廊下，階段	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
9	住環境整備の計画３ エレベータ，便所	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
10	住環境整備の計画４ 床の配慮，段差の解消	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
11	住環境整備の計画５ スペースの配慮，建具，収納	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
12	生活空間改善の手法 計画の基本と応用	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
13	生活空間改善の手法 計画例－１	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
14	生活空間改善の手法 計画例－２	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
15	生活空間改善の手法 計画例－３ 授業改善アンケートの実施	次回の授業範囲を予習すること（９０分）	授業内容を復習し，特に専門用語を確認すること（９０分）
16	定期試験（６０分）及び解説（３０分）	これまでの授業範囲を見直し予習すること（９０分）	試験内容を振り返り，特に専門用語を復習すること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営管理論 （科目ナンバリング：MAN413002，MAN513002 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

今まで学んできた様々な経営分野の知識を集合体としてとらえマネジメントの本質を理解し実践できる知識として獲得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP3、DP4に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

経営に関する実践的な思考を実務に生かすため、種々の理論等が理解できる。

授業全体の内容と概要

板書が多いのできちんとノートをとり，その内容をしっかり理解すること。様々な考え方を利用することによって今まで学んだことがどのようにつながり意思決定やバランシングにつながるのかを考える。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励行する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、教科書に沿って経営学におけるマネジメントの本質をより深く理解してもらう。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は支持があるとき以外はこれを認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは，テキスト・ノート・筆記用具の３点セットを持参することを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為およびテキストを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとする。中間試験は実施しない。課題提出を複数回行う。ノート提出を１回課し，最終評価の対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて１１回以上とする。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を１回の欠席として扱う。予習復習を心がけ，知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大５０%に換算する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期試験で９０点以上の得点を挙げた。	定期試験で８０点以上の得点を挙げた。	定期試験で７０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点以上の得点を挙げた。	定期試験で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に課題に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、マネジメントの真髄や各種理論への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や各種理論の理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランシングへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら課題解決に取り組み、余った時間をさらなる定義や理論の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	経営管理論 （科目ナンバリング：MAN413002，MAN513002 ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『今さらだけど、ちゃんと知っておきたい「経営学」』	佐藤　耕紀	同文館出版株式会社	2021	9784495540890	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション：シラバスの説明 授業アンケート結果の説明 経営学の基本的な考え方	専用のノートを準備する（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
2	正しく考え、正しく判断する心理学的側面	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
3	価格の仕組みを理解して、増収・増益を目指す	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
4	相乗効果とコストダウン	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
5	ライバルとの競争を勝ち抜く	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
6	目的実現	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
7	分析手法　復習①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
8	分析手法　復習②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
9	やる気と個性を活かして、強いチームを作る①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
10	やる気と個性を活かして、強いチームを作る②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
11	DX時代の組織の形を考える①	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
12	DX時代の組織の形を考える②	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
13	DX時代の組織の形を考える③	テキストの指定範囲を読み込む（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
14	人材マネジメント＆ノートチェック①	ノート提出に備える（９０分）	ノートをまとめ過不足を　補い予習に備える（９０分）
15	テストリビュー＆ノートチェック② 授業評価アンケートの実施	ノート提出に備える（９０分）	試験に備える（９０分）
16	試験および総括	試験に備える（９０分）	本科目の総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	造形表現Ⅰ （科目ナンバリング：CHS122086 ）				
授業担当者（所属・職名）	浩而魅諭（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 浩而魅諭 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員実務経験を生かし、乳幼児とその保護者とを対象にした自然体験型教室（兼託児）を立ち上げ運営してきた。また、社会に出ることができずに自宅で悩んでいる人と社会との橋渡しの活動をしてきた。それらの経験を基に保育に携わるものが身につけるべき心構えや言動、乳幼児への感性を高める声かけなどを大前提にした実践的な授業を行		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室などで対応。				

概要

履修目標

①子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。
②保育における教材等の活用及び作成と、身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ（２）、（３）に対応する。（２０２４年度）

到達目標

保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識、技術を習得する。
身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。

授業全体の内容と概要

保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識、技術を学修する。
身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に学修する。

授業の方法

板書で授業を実施し，講義形式で各回のテーマに沿った解説を行う。フィールドワークで自然の造形美に触れる体験を行う。そこから得たことを生かした課題制作を実技形式で行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

指定した用具・用品等，自筆ノート，各自が準備した材料・用材等を持ってくること。
出席を取り終わった後は欠席とする。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。
受講人数や季節、天候、習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったりすることもある。
（その都度説明しますのでご理解ください。）
受講人数を見て、グループでの活動を主体にすることもある。
毎回出席することが大前提。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程などに基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	６０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力をつける。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力を十分につけることが出来た。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力概ねつけることが出来ていた。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力を不十分ではあるがつけることが出来ていた。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力を最低限つけることが出来ていた。	フィールドワークを通して自然の造形美を感じ取り、それを保育の現場で生かす力をつけることが出来ていなかった。
造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力をつける。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力を十分につけることが出来た。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力を概ねつけることが出来ていた。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力を不十分ではあるがつけることが出来ていた。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力を最低限つけることが出来ていた。	造形活動を通じて子どもの思いを受け止めるとともに、子どもに表現することの喜びを味わわせる力をつけることが出来ていなかった。
発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが出来る。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが十分にできていた。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが概ね出来ていた。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが不十分ではあるが出来ていた。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが最低限出来ていた。	発達にあわせた保育における造形表現を理解して、表現の基本となる描く、貼る、切るを安全に確実に行うことが出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	造形表現Ⅰ	（科目ナンバリング：CHS122086 ）			
授業担当者（所属・職名）	浩而魅諭（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 浩而魅諭 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員実務経験を生かし、乳幼児とその保護者とを対象にした自然体験型教室（兼託児）を立ち上げ運営してきた。また、社会に出ることができずに自宅で悩んでいる人と社会との橋渡しの活動をしてきた。それらの経験を基に保育に携わるものが身につけるべき心構えや言動、乳幼児への感性を高める声かけなどを大前提にした実践的な授業を行		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　　シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 　保育の内容における造形表現とは	あらかじめシラバスの確認をしておく（45分）	授業の流れを理解し全体の見通しをもつ（４５分）
2	”保育士”として自己紹介をしよう	幼児の発達特性を予習しておく（４５分）	フィールドワークの準備をしておく（４５分）
3	保育における造形表現の位置付け	幼児の発達特性を予習し、フィールドワークの準備をする。(45分)	フィールドワークで感じたことをまとめておく。（45分）
4	造形表現のための基本技法①	フィールドワークの準備をしておく。（45分）	自然素材の保育現場での可能性について考える。（45分）
5	造形表現のための基本技法②	身近に小さい子がいる環境ならば、どんなことに関心があるか聞いておく。どんな絵を描いているか見せてもらう。（45分）	近隣の児童会館には子育てサロンを開設しているところが多々ある。多くは未就園児とその保護者とが対象だ。可能であれば見学させてもらうのも良い。
6	造形表現のための基本技法③	既存の造形表現に触れておく。（45分）	既存の造形表現を味わい自己に取り入れ活かしていく。（45分）
7	造形表現のための基本技法④	フィールドワークの準備をしておく。（服装、道具）（45分）	フィールドワークで感じたことをまとめておく（45分）
8	造形表現のための基本技法⑤	フィールドワークの準備をしておく（服装、道具）（45分）	フィールドワークで感じたことをまとめておく。（45分）
9	造形表現のための応用技法①	雪の可塑性について予習しておく（45分）	雪の特性を生かした造形表現について考える（45分）
10	造形表現のための応用技法②	雪の量塊感を持って表現することについて考える（45分）	身近な素材である雪の持つ造形表現の可能性についてまとめる（45分）
11	造形表現のための応用技法③	フィールドワークで感じ取ったことをまとめておく（45分）	思いをどう表現していくか考える（45分）
12	造形表現のための応用技法④	フィールドワークで集めた素材を準備しておく（45分）	フィールドワークで感じた気持ち、膨らんだ思いをどう表現すれば良いか考える（45分）
13	造形表現のための応用技法⑤	自分の作品を客観的に見つめる。思いが表れているか。足りないことは何か。（45分）	作品を客観的に見つめる。（45分）
14	さまざまな造形表現と保育の環境１	自分の作品を客観的に見つめる。工夫する箇所はないか考える。（45分）	作品を客観的に見つめる。完成していなければ完成させておく。（45分）
15	さまざまな造形表現と保育の環境２	自分の作品についてどう発表するか考えておく。（45分）	他の学生の作品に触れると、多様な価値観、表現を感じ取る。（45分）
16	講評　授業改善アンケートの実施	他者からの意見、感想を参考に、自らの作品についての評価を再検討する。（45分）	講評を通じて感じたことを、以後の作品に反映させていくことを考える。（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅳ （科目ナンバリング：AHD322042 ）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　君　興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館３階　２号館４階	
単位数	1 （単位認定責任者：　安藤　淳一　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

前半では，建築図面の基礎的立体表現として陰影とアクソメ図の課題に，後半ではこれらの手法を統合させた課題に取り組む。立体表現の課題では基本的技術を習得し，応用課題では表現の多様性を理解するとともに実践し技術を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3,DP4,DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

立体表現の基礎技術力ならびに応用力を養うとともに，表現の対象となる有名建築作品，設計者（建築家）の考え方について理解を深めることができる。

授業全体の内容と概要

各シリーズとも３課題ごとに講評会をおこなう。課題製作，原則として授業時間内におこない即日提出とするが，やむを得ず授業時間内に完成させられなかった場合は，次週授業開始時までに完成させ提出する。

授業の方法

シリーズごとに課題の目的・到達目標等について説明の後、課題制作に取り組む。課題のシリーズ終了ごとに講評会を開催し，各自作品のプレゼンテーションをおこない、その後指導教員が講評・評価をおこなう。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目であるため，全授業に出席し期限内に課題を製作し提出すること。また作品講評会に出席し自分の作品の解説（プレゼンテーション）することも評価する。原則授業にはすべて出席し，授業時間内に課題制作をおこなうこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席する(ただし最低出席回数１０回以上)こととし，積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８５％	０％	０％	１５％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
二次元における立体表現の基礎技術力ならびに応用力と，可塑的素材を使用した模型の立体表現力を修得する。	基礎技術力をもとに応用技術を身に付けることができた。	立体表現の基礎技術をもとに応用技術も身につけようとする姿勢がみられた。	立体表現の基礎技術を身につけることができた。	立体表現の基礎技術をおおむね身につけることができた。	立体表現の基礎技術を身につけることができなかった。
表現の対象となる有名建築作品，設計者（建築家）の考え方について理解する。	対象以外の建築にも興味を持ち，建築作品，設計者について進んで調べることができた。	対象となる建築の設計者が設計した他の建築について理解することができた。	建築作品ならびに設計者について理解できた。	建築作品ならびに設計者についておおむね理解できた。	建築作品ならびに設計者について理解することができなかった。
講評会を通して，自分の作品及び他社の作品に対する批評をもとに作品を客観視する力を修得する。	自己の作品に対する評価を客観的に受け止め理解し，改善点について検討することができた。	自己の作品に対する評価を理解し，改善点について検討することができた。	自己の作品に対する評価を理解できた。	自己の作品に対する評価をおおむね理解できた。	自己の作品に対する評価を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	建築表現Ⅳ　（科目ナンバリング：AHD322042　）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）　君　興治（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館３階　２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　安藤　淳一　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，授業計画の説明	シラバスの事前確認（45分）	授業内容の確認（45分）
2	陰影表現１（立面図）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
3	陰影表現２（配置図）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
4	講評会（立面図・配置図）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）分
5	アクソノメトリクスの図法解説	授業資料の確認（45分）	授業資料の復習（45分）
6	アクソノメトリクスの表現１（外観）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
7	アクソノメトリクスの表現２（内観・外観）	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
8	講評会（アクソノメトリクス　外観・内観）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）分
9	空間要素１	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
10	空間要素２	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
11	講評会（空間要素）	提出作品の確認（45分）	講評内容の振返り（45分）分
12	可塑的素材を使用した模型の説明と制作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
13	模型設置用台の制作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
14	可塑的素材を使用した模型の制作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
15	可塑的素材を使用した模型の制作	使用道具の確認と準備（45分）	追加作業（45分）
16	総評（全作品の講評） 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認（45分）	総評の振返り（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健医療と福祉 （科目ナンバリング：SOM112013 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 宮﨑　剛司 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	医療機関や看護教育現場での経験を活かし、医療・保健・福祉の現況について話をします。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉活動に必要な医療保険制度や保健医療サービスについて学ぶ。また、保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種の協働について理解を深める。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（2023年度）

到達目標

保健医療サービスについてその概要と保健医療サービス提供が各専門職の連携をもとになされることを説明できる。

授業全体の内容と概要

保健医療の概況や基本事項を学ぶ。それぞれの専門職種が担う役割をもとに保健医療サービス提供における連携とはどのようなものか理解を深める。

授業の方法

講義形式。テキストの活用を中心とし、板書や配布資料を適宜使い解説を行う。また、確認のために小試験を課題とし、添削後、返却し解答・解説を行いフィードバックする。
「基本は対面授業の実施」であるが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書は必ず持参すること。
必要な資料等は適宜配布するため持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程，保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は11回以上。
20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	２０％	１０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
医療保険制度の理解	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について詳細に理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について概ね理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について部分的に理解できた。	医療保険制度創設の目的や保険給付、診療報酬について助言により部分的に理解できた。	助言しても理解できなかった。
保健医療サービスの概要	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法について把握し、健康増進・保健対策との関連を詳しく説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について概ね説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について部分的に説明できた。	医療・福祉施設、保健所の役割と医療法、健康増進・保健対策について助言により部分的に説明できた。	助言しても説明できなかった。
専門職の役割	保健医療分野における社会福祉士の役割を、患者の権利とチーム医療との関連から詳しく説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利、チーム医療について概ね説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利、チーム医療について部分的に説明できた。	保健医療分野における社会福祉士の役割、患者の権利、チーム医療について助言により部分的に説明できた。	助言しても説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保健医療と福祉 （科目ナンバリング：SOM112013 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 宮﨑　剛司 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	医療機関や看護教育現場での経験を活かし、医療・保健・福祉の現況について話をします。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新社会福祉士養成講座 5 保健医療と福祉』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021	978-4-8058-8248-1	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス説明 授業改善アンケート結果反映の説明 保健医療サービスについて	事前に教科書全体に目をとおしておく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
2	医療保険制度	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
3	医療保険制度（保険給付）	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく（９０分）	配布資料を見直しておく（９０分）
4	医療保険制度（医療費政策）	教科書の「医療保険制度」について事前に読んでおく（９０分）	配布資料を見直しておく（９０分）
5	診療報酬	教科書の「診療報酬」を事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
6	保健医療サービスの概要（医療法）	教科書の「医療サービス」を事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
7	保健医療サービスの概要（医療・福祉施設と医療計画）	教科書の「医療サービス」を事前に読んでおく（９０分）	前半の授業内容を復習しておく（90分）
8	前半のまとめと学習到達度の確認テスト	前半の授業・資料・ノートを見直しテストに臨む（90分）	問題を見直し自己採点しておく（９０分）
9	テスト返却。保健医療サービスの概要（衛生行政活動）	教科書の「保健行政」を事前に読んでおく（９０分）	返却テスト結果と授業で行ったことを見直し整理しておく（９０分）
10	保健医療サービスの概要（健康増進・保健対策）	教科書の「保健行政」を事前に読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをまとめておく（９０分）
11	専門職の役割（医療ソーシャルワーカー）	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく（９０分）	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する（９０分）
12	専門職の役割（各専門職とチーム医療）	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく（９０分）	配布資料を見直しておく（９０分）
13	専門職の役割（患者の権利・インフォームドコンセント）	教科書の「専門職について」を事前に読んでおく（９０分）	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する（９０分）
14	保健医療サービスの連携と実際	教科書の「専門職の連携」について事前に読んでおく（９０分）	社会福祉士の役割を授業と関連させて復習する（９０分）
15	総括と保健医療サービスの今後の課題 授業改善アンケート実施	これまで授業で行ったことを振り返り準備してくる（９０分）	提案した福祉課題に今後も取り組んでいく（９０分）
16	定期試験６０分の終了後、残りの時間で解説します。	定期試験準備を行っておく（９０分）	試験及び解説を受けて講義全体を振り返る（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法　（科目ナンバリング：SWS122020，SWS422079，SWS522086　）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　櫻井　美帆子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照。				

概要

履修目標

相談援助における専門的援助構造及び機能、多様な実践の共通課題や諸理論を学ぶ事を通じ、福祉実践に
おけるソーシャルワークを理解し、専門的援助者としての視点の涵養をはかる。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ２に対応する。(2022・2023年度)

到達目標

①相談援助に対応するための基礎的能力（定義、意義、目的など）を身につける。
②相談援助の支援過程を理解し、援助者としての基礎を理解できる。

授業全体の内容と概要

①相談援助の援助関係の相互作用システムについて学ぶ。
②相談援助の展開過程について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書に沿って講義形式で展開する。講義の際に随時質問をするので答えること。
②不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

３０分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目
，社会福祉主事任用資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。
提出期限を過ぎたレポートは受け取らない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	２０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
面接と記録の意義目的について理解ができる。	事例をあげながらながら説明できる。	概要について要点を押さえ、述べることができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があってもできない。
ケアマネジメントの理解ができる。	事例を用いて説明することができる。	概要について要点を押さえ、述べることができる。	各々の概要を区別できる。	助言により理解できる。	助言があっても理解できない。
グループワーク、コミュニティワークの意義目的について理解できる。	事例をあげながら説明ができる。	意義目的と、展開の流れ、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション、スーパービジョンについて理解できる。	事例を用いながら説明ができる。	展開の流れと、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法 （科目ナンバリング：SWS122020，SWS422079，SWS522086 ）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 櫻井　美帆子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法Ｉ 』	杉本敏夫	ミネルバ	2023	9784623095209	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワークの理論と方法Ｉのふりかえり	教科書の目次と次回の授業内容に該当する部分を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
2	ソーシャルワークの面接①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
3	ソーシャルワークの面接②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
4	ソーシャルワークの記録	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
5	ケアマネジメント①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（90分）	ノートを整理する。（９０分）
6	ケアマネジメント②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（90分）	ノートを整理する。（９０分）
7	中間まとめ	1回から６回の授業内容について質問点をまとめる。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
8	小試験	試験に該当する部分の復習をする。（９０分）	試験の自己採点をする。（９０分）
9	グループを活用した支援	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
10	グループを活用した支援	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
11	コミュニティワーク	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
12	ソーシャルアドミニストレーション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
13	ソーシャルアクション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
14	スーパービジョンとコンサルテーション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（90分）	ノートを整理する。（９０分）
15	まとめ	1回から１４回の授業内容について質問点をまとめる。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
16	定期試験（60分の試験の後30分解説を行う）。 受業改善アンケートの実施。	全体の復習をする。（９０分）	試験で間違えた部分の復習をする。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法　（科目ナンバリング：SWS122020，SWS422079，SWS522086　）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　櫻井　美帆子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照。				

概要

履修目標

相談援助における専門的援助構造及び機能、多様な実践の共通課題や諸理論を学ぶ事を通じ、福祉実践に
おけるソーシャルワークを理解し、専門的援助者としての視点の涵養をはかる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP3、DP4に対応する。(2024年度)

到達目標

①相談援助に対応するための基礎的能力（定義、意義、目的など）を身につける。
②相談援助の支援過程を理解し、援助者としての基礎を理解できる。

授業全体の内容と概要

①相談援助の援助関係の相互作用システムについて学ぶ。
②相談援助の展開過程について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書に沿って講義形式で展開する。講義の際に随時質問をするので答えること。
②不測の事態における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

３０分以上の遅刻は欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツソーシャルワーカー資格課程科目
，社会福祉主事任用資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の出席が無ければ成績評価の対象としない。
提出期限を過ぎたレポートは受け取らない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	０%	２０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
面接と記録の意義目的について理解ができる。	事例をあげながらながら説明できる。	概要について要点を押さえ、述べることができる。	助言により理解できる。	助言があれば一部理解できる。	助言があってもできない。
ケアマネジメントの理解ができる。	事例を用いて説明することができる。	概要について要点を押さえ、述べることができる。	各々の概要を区別できる。	助言により理解できる。	助言があっても理解できない。
グループワーク、コミュニティワークの意義目的について理解できる。	事例をあげながら説明ができる。	意義目的と、展開の流れ、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。
ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション、スーパービジョンについて理解できる。	事例を用いながら説明ができる。	展開の流れと、ソーシャルワーカーの担う役割について説明ができる。	助言によって理解できる。	助言によって一部理解できる。	助言があっても理解できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法　（科目ナンバリング：SWS122020，SWS422079，SWS522086　）				
授業担当者（所属・職名）	櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　櫻井　美帆子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現場の実務経験から得た事例等を用いて、相談援助に対する理解を深めていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ　』	杉本敏夫	ミネルバ	2023	9784623095209	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰのふりかえり	教科書の目次と次回の授業内容に該当する部分を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
2	ソーシャルワークの面接①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
3	ソーシャルワークの面接②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
4	ソーシャルワークの記録	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
5	ケアマネジメント①	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（90分）	ノートを整理する。（９０分）
6	ケアマネジメント②	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（90分）	ノートを整理する。（９０分）
7	中間まとめ	1回から６回の授業内容について質問点をまとめる。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
8	小試験	試験に該当する部分の復習をする。（９０分）	試験の自己採点をする。（９０分）
9	グループを活用した支援	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
10	グループを活用した支援	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
11	コミュニティワーク	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
12	ソーシャルアドミニストレーション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
13	ソーシャルアクション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
14	スーパービジョンとコンサルテーション	次回の授業内容に該当する部分の教科書を読む。（90分）	ノートを整理する。（９０分）
15	まとめ	1回から１４回の授業内容について質問点をまとめる。（９０分）	ノートを整理する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験の後３０分解説を行う）。 受業改善アンケートの実施。	全体の復習をする。（９０分）	試験で間違えた部分の復習をする。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	音楽表現Ⅰ （科目ナンバリング：CHS122084 ）				
授業担当者（所属・職名）	小黒　万里子（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	1 （単位認定責任者： 小黒　万里子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	非常勤教員 入力例：事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で，子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。保育における教材等の活用及び作成と，身近な自然やものの音や音色，人の声や音楽等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識，技術である音楽表現ができる。
身近な自然やものの音や音色，人の声や音楽等に親しむための保育の環境づくりを実践することができる。

授業全体の内容と概要

保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かに展開するために必要な音楽表現の知識，技術を習得する。身近な自然やものの音や音色，人の声や音楽等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。
「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教科書や板書を用いて説明を行い，実技を通して保育における教材等の活用及び作成と，身近な自然やものの音や音色，人の声や音楽等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。質問や相談に対して随時応答する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

準備学習において，しっかりしたイメージをもって授業に臨むよう準備すること。限られた授業時間なので，事後学習として各個人でトレーニングを行うこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。実技による試験。毎回の課題に対する取り組みの態度。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	３０％	１０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉・保育における関心、意欲及び授業態度	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を深く理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性をおおむね理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を多少理解できた。	子どもの遊びを豊かにする音楽表現の必要性を理解することが難しいかった。
音楽の基礎知識と理解	音楽の基礎的な知識を十分に理解できた。	音楽の基礎的な知識をおおむね理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解できた。	音楽の基礎的な知識を多少理解できた。	音楽の基礎的な知識を理解することが難しかった。
音楽表現における技術と演習	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を十分に修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術をおおむね修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を多少修得していた。	保育の環境構成を展開するための音楽的技術を修得することが難しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	音楽表現Ⅰ （科目ナンバリング：CHS122084 ）				
授業担当者（所属・職名）	小黒　万里子（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 小黒　万里子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『改訂　ユニバーサルデザインの音楽表現』	星山麻木	萌文書林	２０１８年	978-4893472854	
2	『保育者のためのピアノ基礎』	井口太／筒井かほる	朝日出版社		9784255156286	
3	『五線紙（ノート）』					様式は問わない
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 保育の内容「表現」の中の音楽表現について	シラバスを確認すること（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
2	音・動き・リズム・ことばの音楽表現①（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
3	音・動き・リズム・ことばの音楽表現②（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
4	音・動き・リズム・ことばの音楽表現③（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
5	音・動き・リズム・ことばの音楽表現④（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
6	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑤（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
7	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑥（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
8	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑦（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
9	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑧（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
10	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑨（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
11	音・動き・リズム・ことばの音楽表現⑩（歌と楽器）	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
12	てあそび歌，わらべ歌①	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
13	てあそび歌，わらべ歌②	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
14	てあそび歌，わらべ歌③	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
15	音楽表現のまとめ	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	講義内容についてまとめ、ふりかえりをしておくこと（４５分）
16	定期試験 ６０分の試験終了後，残りの３０分で解説を行います。	教科書を読み学習しておくこと（４５分）	解説を受けて，講義全体のふりかえりを行うこと（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規Ⅱ　（科目ナンバリング：APT312019　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　佐藤　善太郎　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

日常生活をとりまく建築関係法令は建築基準法をはじめとして関連する法律が非常に多く，生活環境・社会構造の変化とともに，より複雑化してきている。ここでは建築関係法令のうち建築基準法・建築基準法施行令他，関係法令からまちづくりや住まいづくり，建築のデザインに関わる法令法規ついて学習し，住宅やまち・都市を取り巻く今日的課題と法整備の状況を理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP3に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

建築基準法に定める集団規定の持つ意義や規定を理解し，都市デザインに密接な係わりを持つ道路と敷地・用途地域・各種高さ制限などに関する条文を理解できる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について，条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きをおこない，板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて，きめ細やかに進めていく。また，理解度を測るため，単元ごとに課題提示・小テストも行い，解説することでフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また，本講義にあたっては電卓や携帯電話，スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０％	０％	０％	０％	０％	２０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
都市計画区域等における建築物の敷地、用途、建築物等の理解	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を８割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を６割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の一般構造に関する規定を理解することができなかった。
都市計画区域等における建築物の接する道路等の理解	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を８割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を６割方正確に理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を理解することができた。	基準法に規定された建築物の接する道路等に関する規定を理解することができなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を８割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を６割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	建築法規Ⅱ　（科目ナンバリング：APT312019　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　佐藤　善太郎　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『建築基準法関係法令集 2024年』』	日建学院編	建築資料研究社	2024		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。建築基準法と都市計画法 授業改善アンケート結果反映の説明	建築法規Ⅰの振返り(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
2	都市と道路	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
3	用途地域-実例で見る建築用途制限の詳細	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
4	許可申請の手続き	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
5	容積率１-敷地の容積率の限度	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
6	容積率２-建築物の容積率の緩和・特定道路・地区計画	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
7	容積率３-天空率の計算と実例	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
8	都市計画図と建ぺい率	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
9	斜線制限（道路斜線制限・隣地斜線制限）	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
10	斜線制限（北側斜線制限）	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
11	斜線制限（その他の高さ制限）	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
12	斜線制限と緩和規定	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
13	日影規制	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
14	日影図（含　ＣＡＤによるシミュレーション）	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理 (90分)
15	建築基準法と倫理２ 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本講義の振返り (90分)
16	理解度診断試験・試験解説	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振返り(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	道徳教育の指導法	（科目ナンバリング：ESS143157，ESS243103，ESS343097，ESS443099，ESS543108）			
授業担当者（所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2	（単位認定責任者：　佐藤　雅一　）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

みずからの価値観や道徳観、教育観、道徳教育の方法論、思考力、創造力、リーダーシップ等を身につけることができる。

授業の位置づけ

経営学科のDP２、DP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）
社会福祉学科のDP２、DP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン・建築学科のDP２、DP４に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

①具体例（ビデオ、資料等）やディスカッション等を通じて、みずからの価値観や人生観、そして道徳観を確立するとともに、道徳教育の理想像とその方法論を形成する。
②みずからの考えを明確に表現する能力やコミュニケーション能力を身につける。
③現代社会が抱える問題点やその価値観･道徳観をしっかりと把握する。
④過去の歴史を踏まえたうえで、これからの時代に必要な価値観や道徳教育の全体像を構築する。

授業全体の内容と概要

脳科学や精神医学、臨床心理学等の最新成果を踏まえ、みずからの価値観や人生観、そして道徳観を形成し、これからの時代に必要な道徳教育とその方法論を模索する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

講義。対話や個人発表、ディベートなどによるアクティブラーニングを行う。適宜、平常点を付与する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義中はスマホ等の電源を必ずOFFにし、机の上に置かないこと。置いている場合は、講義終了まで預かる。授業に関係のない私語禁止。座席を指定することもありうる。居眠り厳禁。レポートの採点基準は、「どれだけ講義の内容を理解し、自分のものにしているか」ということ。自分自身との対話を通し、自分のことばで語ることが重要。講義で扱っていない内容や自分の考えばかりを書いても合格点に達することはできない。コピペは１００％単位認定されない。最後に、全体的感想や自分の意見をつけ加えるとよりよい。
公欠や特別な事由で欠席した場合、課題を提出しなければ、授業回数に反映されないことに留意。学務課に成績票を提出した後は受領できない。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（中学）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１2回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	４２％	０％	０％	１０％	４８％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
レポート	講義やビデオの内容を十分理解し、みずからの教育観に十分役立てた。	講義やビデオの内容をかなり理解し、みずからの教育観にかなり役立てた。	講義やビデオの内容をそれなりに理解し、みずからの教育観にそれなりに役立てた。	講義やビデオの内容を理解しようと努め、みずからの教育観に役立てようと努めた。	講義やビデオの内容を理解しておらず、みずからの教育観に役立てていなかった。
発言	発言を１０回以上した。	発言を７回以上した。	発言を５回以上した。	発言を３回以上した。	発言が３回未満だった。
ディベート、構成的グループエンカウンターなど	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、中心的役割を演じた。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、積極的に発表した。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、それなりに発表した。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて、発表しようと努めた。	ディベート、構成的グループエンカウンターなどにおいて消極的で、ほとんど発表していなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	道徳教育の指導法 （科目ナンバリング：ESS143157，ESS243103，ESS343097，ESS443099，ESS543108）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　雅一（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者：　佐藤　雅一　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバスの解説 授業改善アンケート結果の反映の説明 いま、なぜ、道徳教育なのか	シラバスをきちんと読む（９０分）	第１回講義の復習（９０分）
2	道徳教育は、何をめざすのか	第１回講義の復習と第２回講義の予習（９０分）	第２回講義の復習（９０分）
3	少年犯罪と心の教育	第２回講義の復習と第３回講義の予習（９０分）	第３回講義の復習（９０分）
4	外国での道徳教育の取り扱い	第３回講義の復習と第４回講義の予習（９０分）	第４回講義の復習（９０分）
5	わが国での道徳教育の歴史　① 幕末・維新期の道徳観	第４回講義の復習と第５回講義の予習（９０分）	第５回講義の復習（９０分）
6	わが国での道徳教育の歴史　② 明治の価値変動の時代の道徳観	第５回講義の復習と第６回講義の予習（９０分）	第６回講義の復習（９０分）
7	わが国での道徳教育の歴史　③ 大正・昭和前期・統一教科書の時代の道徳	第６回講義の復習と第７回講義の予習（９０分）	第７回講義の復習（９０分）
8	わが国での道徳教育の歴史　④ 戦後の道徳教育の変遷	第７回講義の復習と第８回講義の予習（９０分）	第８回講義の復習（９０分）
9	学校における道徳教育	第８回講義の復習と第９回講義の予習（９０分）	第９回講義の復習（９０分）
10	道徳教育の目標と内容	第９回講義の復習と第10回講義の予習（９０分）	第１０回講義の復習（９０分）
11	道徳教育の計画	第１０回講義の復習と第１１回講義の予習（９０分）	第１１回講義の復習（９０分）
12	他教科・他領域と道徳教育との関連	第１１回講義の復習と第１２回講義の予習（９０分）	第１２回講義の復習（９０分）
13	指導の諸方式	第１２回講義の復習と第１３回講義の予習（９０分）	第１３回講義の復習（９０分）
14	指導案の作成	第１３回講義の復習と第１４回講義の予習（９０分）	第１４回講義の復習（９０分）
15	道徳教育の課題 家庭・社会および「公」と「私」の関連等	第１４回講義の復習と第１５回講義の予習（９０分）	第１５回講義の復習（９０分）
16	課題(レポート)に対するフィードバック 授業改善アンケートの実施	第１５回講義の復習と第１６回講義の予習（９０分）	第１６回講義の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実験	必修・選択	選択
科目名称	建築材料実験（1年）　（科目ナンバリング：BSM322028　）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1　（単位認定責任者：　長森　正　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに実験をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

基本的な建築材料であるのコンクリートと鋼材について、物理的性質や力学的性質を求める試験法を修得し、体験的な理解を深める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（２０２４年度）
建築学科のＤＰ１、DP２、DP４に対応する。（２０２３・２０２２年度）
建築学科のＤＰ１、DP５、、DP７に対応する。（２０２１年度）

到達目標

JIS規格試験から材料実験の意義・実験法を理解し、実験データのまとめ方、実験報告書の作成ができる。

授業全体の内容と概要

主に鉄筋コンクリート構造の構成材料である鋼材とコンクリート材料に関してのJIS規格試験を実施する。
コンクリートと鋼材の試験体制作や強度試験から基本的な性状を理解する。

授業の方法

授業は配布物資料にて説明をした後、グループワークにて実験を行い実験報告書の提出を行う。
実験報告書にはフィードバックとして実験結果の解説を行う。
不足時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実験作業に適した汚れても良い服装とし、安全第１をこころがけて実施する。
電卓、筆記用具を必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目、建築士試験受験資格課程。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	５０％	０％	０％	０％	５０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
材料実験の理解	自ら進んで実験に関する内容を調べることができた。	実験内容を十分に理解し、他の人に説明できた。	理解のあいまいな点があるが、予習ができた。	実験内容の予習ができた。	頻繁に実験内容の予習ができなかった。
材料実験の正確性	他人をリードする行動で実験を進めることができた。	自発的に実験を進めることができた。	テキストを見れば、内容を理解して実験を進めることができた。	テキストの従って正しく実験を進めることができた。	テキストに従った実験が進められなかった。
材料実験報告書	実験から得た自らの考えを報告書に記述することができた。	実験から得た自らの考えを正確に伝えることができた。	実験で得たデータを正しく整理し、まとめることができた。	実験で得たデータを正しく整理できた。	実験で得たデータを正しく整理できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実験	必修・選択	選択
科目名称	建築材料実験（1年）　（科目ナンバリング：BSM322028　）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1　（単位認定責任者：　長森　正　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに実験をします。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築材料実験教材』	日本建築学会	丸善株式会社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 実験実習ガイダンス	シラバス資料を確認して，実験内容を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
2	実験データのまとめ方	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
3	コンクリートの調合設計	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
4	骨材含水率調整	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
5	コンクリート調合（試験練り・本練り）	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
6	JIS A １１０１スランプ試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
7	JIS A １１２８空気量試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
8	JIS A １１０８圧縮強度試験	次次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
9	JIS A １１１３割裂引張試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
10	コンクリート実験レポート	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実実験内容を理解し復習する（４５分）
11	鉄筋加工	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
12	鉄筋試験片歪ゲージ貼付け	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
13	JIS Z２２０１鉄筋引張試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
14	静弾性係数試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
15	鋼材系実験レポート	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
16	授業改善アンケートの実施 まとめ 最終回において解説しフィードバックします。	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容全体について資料を整理して，レポート作成に備える（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実験	必修・選択	選択
科目名称	建築材料実験（2年）　（科目ナンバリング：BSM322028　）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1　（単位認定責任者：　長森　正　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに実験をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

基本的な建築材料であるのコンクリートと鋼材について、物理的性質や力学的性質を求める試験法を修得し、体験的な理解を深める。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（２０２４年度）
建築学科のＤＰ１、DP２、DP４に対応する。（２０２３・２０２２年度）
建築学科のＤＰ１、DP５、、DP７に対応する。（２０２１年度）

到達目標

JIS規格試験から材料実験の意義・実験法を理解し、実験データのまとめ方、実験報告書の作成ができる。

授業全体の内容と概要

主に鉄筋コンクリート構造の構成材料である鋼材とコンクリート材料に関してのJIS規格試験を実施する。
コンクリートと鋼材の試験体制作や強度試験から基本的な性状を理解する。

授業の方法

授業は配布物資料にて説明をした後、グループワークにて実験を行い実験報告書の提出を行う。
実験報告書にはフィードバックとして実験結果の解説を行う。
不足時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実験作業に適した汚れても良い服装とし、安全第１をこころがけて実施する。
電卓、筆記用具を必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目、建築士試験受験資格課程。

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	５０％	０％	０％	０％	５０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
材料実験の理解	自ら進んで実験に関する内容を調べることができた。	実験内容を十分に理解し、他の人に説明できた。	理解のあいまいな点があるが、予習ができた。	実験内容の予習ができた。	頻繁に実験内容の予習ができなかった。
材料実験の正確性	他人をリードする行動で実験を進めることができた。	自発的に実験を進めることができた。	テキストを見れば、内容を理解して実験を進めることができた。	テキストの従って正しく実験を進めることができた。	テキストに従った実験が進められなかった。
材料実験報告書	実験から得た自らの考えを報告書に記述することができた。	実験から得た自らの考えを正確に伝えることができた。	実験で得たデータを正しく整理し、まとめることができた。	実験で得たデータを正しく整理できた。	実験で得たデータを正しく整理できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実験	必修・選択	選択
科目名称	建築材料実験（2年）　（科目ナンバリング：BSM322028　）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	1　（単位認定責任者：　長森　正　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに実験をします。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築材料実験教材』	日本建築学会	丸善株式会社			
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 実験実習ガイダンス	シラバス資料を確認して、実験内容を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
2	実験データのまとめ方	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
3	コンクリートの調合設計	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
4	骨材含水率調整	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
5	コンクリート調合（試験練り・本練り）	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
6	JIS A １１０１スランプ試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
7	JIS A １１２８空気量試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
8	JIS A １１０８圧縮強度試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
9	JIS A １１１３割裂引張試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
10	コンクリート実験レポート	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
11	鉄筋加工	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
12	鉄筋試験片歪ゲージ貼付け	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
13	JIS Z２２０１鉄筋引張試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
14	静弾性係数試験	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
15	鋼材系実験レポート	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容を理解し復習する（４５分）
16	授業改善アンケートの実施 まとめ 最終回において解説しフィードバックします。	次回実習範囲の資料を予習する（４５分）	実験内容全体について資料を整理して、レポート作成に備える（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	管理会計論 （科目ナンバリング：ACC423024，ACC523026 ）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木　重政（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 鈴木　重政 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	①研究室前の掲示ボード等を参照　②Teamsによるチャットは平日午前９時から午後５時まで対応				

概要

履修目標

適正な経営の意思決定を行うことができるようにマーケティングと経営戦略に会計を加え、経営の総合力をつける。戦略的な予算を策定することができる能力を涵養する。

授業の位置づけ

経営学科のDP3に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

会計情報をもとに経営戦略と予算を策定できる基本能力を有する。

授業全体の内容と概要

テーマの説明を行い、練習問題を解きながら講義を進めていく。また時事問題についても解説を行い、学生から意見を発言してもらう。

授業の方法

毎回プリント（ケース）を配布し、講義内容の管理会計における位置づけを説明し、本題に入る。双方向授業を活用して、学生から意見を発言してもらう。講義の最後にミニテストを実施する。ミニテスト、試験などの解説のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

正当な理由のない遅刻・途中退席は認めない。電卓を持参すること。ノートをしっかり取ること。
原価計算論を履修済みであることが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	0%	0%	0%	３０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ＣＶＰ分析を用いた分析を行うことができ、経営戦略を策定できる。	ＣＶＰ分析を用いた経営戦略（販売価格決定、固定費、変動費の設定）ができた。	ＣＶＰ分析を用いて、目標利益を達成するための営業料を算定することができた。	ＣＶＰ分析を正しく行うことができた（損益分岐点の算定）。	固定費と変動費の分析ができた。	固定費と変動費の区分ができず、ＣＶＰ分析を正しく行うことができなかった。
マーケティングと経営戦略を合わせた予算策定	実在する企業について、不足する情報を推察し、適正な経営戦略と予算編成ができた。	経営戦略を達成するための予算を策定することができた。	PPMと５ｆｏｒｃｅ分析から経営戦略の策定ができた。	ＳＷＯＴ分析とＰＰＴを行うことができた。	ＳＷＯＴ分析ができなかった。
全社戦略を策定することができる	実在する企業について、不足する情報を推察し、適正なM&A計画を策定することができた。	Ｍ＆Ａ、多角化における資産評価と投資価値の算定を行うことができた。	ＤＣＦ（ディスカウントキャッシュフロー）法を用いて全社戦略を策定することができた。	全社戦略について理解していた	全社戦略について理解が不足していた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	管理会計論 （科目ナンバリング：ACC423024，ACC523026 ）				
授業担当者（所属・職名）	鈴木　重政（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 鈴木　重政 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明など） 企業経営と管理会計の目的 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
2	管理会計のフレームワーク	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
3	管理会計の歴史	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
4	原価計算	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
5	ＡＢＣ・ＡＢＭ	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
6	ＥＲＰパッケージ	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
7	戦略評価、ＤＣＦ法	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
8	事業戦略・全社戦略	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
9	製品開発	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
10	短期利益計画	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
11	予算管理	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
12	生産管理	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
13	事業部制会計	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
14	研究開発	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
15	投資計画、Ｍ＆Ａ	ケースの該当箇所を読んでおく（９０分）	ミニテストが満点になるまで解く（９０分）
16	定期試験および解説（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説） 授業改善アンケートの実施	総復習（９０分）	総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学Ⅱ　（科目ナンバリング：HUG122126，　　）				
授業担当者（所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　塩﨑　大輔　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

人文地理学の基礎を理解するともに、地理空間情報の基礎を知り，地域や教育に活用できる考え方の基礎を身につけることを目的とする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ４、５に対応する。　（2023・2022年度）

到達目標

１．人文地理学的な見方・考え方を修得する。
２．地理空間情報及びGISの基礎知識を習得する。

授業全体の内容と概要

近年身近に普及している地理空間情報とGIS（地理情報システム）の基礎と活用方法を学ぶ。その知識を応用し、教育に活かす力を身に付けることを目標とする。またその過程でオープンデータとして公開されている統計情報を活用するスキルを身に付ける。
「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は講義形式で行い、スライド資料及び映像資料を使用して行う。授業中・授業後に適宜、課題に沿った作業・レポート作成を行う。またPCを利用し、GISソフトを活用した作業を行い、その成果についてディスカッションを行う。作業を行う過程で、政府統計の総合窓口e-Statや地理情報分析支援システムMANDARAの活用法を解説する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義内で適宜連絡する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（地理歴史）必修科目　（社会）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	５０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
人文地理学の理解	レポート課題において、９割以上の得点を上げた。	レポート課題において、８割以上の得点を上げた。	レポート課題において、７割以上の得点を上げた。	レポート課題において、６割以上の得点を上げた。	レポート課題において、６割未満の得点であった。
地理空間情報・GISスキル	右の記述を高いレベルで実現していた。	地理空間情報およびGISを活用し、、たいへんわかりやすく説明ができた。	地理空間情報およびGISを活用し、説明することができた。	地理空間情報およびGISを活用することができた。	地理空間情報およびGISを活用することができなかった。
資料収集・活用	統計情報等の資料収集を行い、高いレベルで活用し、説明することができた。	統計情報等の資料収集を行い、活用し説明することができた。	統計情報等の資料収集を行い、活用することができた。	統計情報等の資料収集を行った。	統計情報等の資料収集を行っていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	人文地理学Ⅱ　（科目ナンバリング：HUG122126，　　）				
授業担当者（所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2　（単位認定責任者：　塩﨑　大輔　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『フリーGISソフトMANDARA10入門 増補版：かんたん!オリジナル地図を作ろう』	谷 謙二	古今書院	2022	4772281231	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方のガイダンス	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	身の回りのGIS	事前にテキストの範囲を読んでおくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
3	地理空間情報とGIS	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
4	統計情報とオープンデータ	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
5	統計情報の収集	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
6	統計情報の編集	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
7	統計情報の可視化	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
8	GISの基礎①　測地系と座標系	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
9	GISの基礎②　地図の作成	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
10	GISの基礎③　地理空間情報の可視化・地図化	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
11	GISの基礎④　地理空間情報の整理	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
12	GISの基礎⑥　地理空間情報の統合	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
13	GISの基礎⑤　地理空間情報の活用	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	次回成果発表の準備学修。（９０分）
14	地理空間情報の活用成果発表①	成果発表の準備学修。（９０分）	次回成果発表の準備学修。（９０分）
15	地理空間情報の活用成果発表②	成果発表の準備学修。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備。（９０分）	まとめの振り返り。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ （科目ナンバリング：DES222019 ）				
授業担当者（所属・職名）	田中　靖之（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 田中　靖之 ）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの現場において、実務経験者である教員がその経験を基に実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

１.ＣＩの理念及びその中核となるＶＩシステムを理解する。
２.ＣＩの基本要素であるシンボルマーク等のデザイン演習を行うことによって、その成り立ちを理解する。
３.ＣＩのデザイン（形・色）演習を通して、その展開デザインの拡がりを理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP３、DP４に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP３、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

ＣＩの主体を類別し、シンボルマーク等の形・色のデザインを実施し、ＶＩの基本形と展開形をレイアウトすることができる。

授業全体の内容と概要

ＣＩの概要とＶＩシステムの全体を把握し、その目的と機能・運用に関して理解し、テーマ選択後にデザイン演習を行う。
「SDG12．つくる責任つかう責任」の関連授業

授業の方法

板書とオリジナルプリント配布を併用し実技形式で行う。また、クライアントにプレゼンすることを前提としたデザイン内容となるよう多角的に確認し、さらにフィードバックを繰り返したのち、演習課題を完成させ提出する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

サムネールやスケッチの実技が重要なため、ノート・筆記具を常備すること。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談で相談のもと、事前に参考資料を提供することがある。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上。
完成度の高い作品を合格とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	６０%	０%	１０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ＣＩの理念とその中核のＶＩシステム	ＣＩ理念とＶＩシステムを理解し、実例を３つ以上分類・提示し、コメントと改善案をラフスケッチ等で提示できた。	ＣＩ理念とＶＩシステムを理解し、実例を３つ提示し、客観的なコメントを含め、改善案も提示できた。	ＣＩ理念とＶＩシステムを理解し、実例を３つ提示し、デザインに対して客観的なコメントを提示できた。	ＣＩ理念とＶＩシステムを理解し、実例を１つ以上提示できた。	ＣＩ理念とＶＩシステムを理解できなかった。
シンボルマークのデザイン演習とその成り立ち	シンボルマークのサムネール（１５以上）を基本に、フィードバックの繰り返しと、類似パターンを調査の上、オリジナルなデザインを１点仕上げた。	シンボルマークのサムネール（１５以上）を基本とし、客観的なフィードバックを繰り返し、１点に仕上げることができた。	シンボルマークのサムネール（１０以上）を基礎に、１点に仕上げることができた。	シンボルマークデザインのためのサムネールが複数（１０以上）できた。	シンボルマークのデザインができなかった。
デザイン（形・色）演習と展開デザイン	ベーシックデザインの要素（マーク・文字・色）及び展開デザインを３つ以上含め、類似パターンを調査の上、オリジナルなレイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素（マーク・文字・色）及び展開デザインを２つ以上含め、レイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素（マーク・文字・色）をフィードバックを繰り返し、レイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素（マーク・文字・色）をレイアウトし提出できた。	ベーシックデザインの演習が完成しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ （科目ナンバリング：DES222019 ）				
授業担当者（所属・職名）	田中　靖之（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 田中　靖之 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの現場において、実務経験者である教員がその経験を基に実践的な授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 ＣＩの歴史について	「ＣＩ」語句としての認識（４５分）	CI導入企業や自治体の具体例の収集(45分)
2	ＣＩデザインの事例収集とスケッチ	CI導入企業等のシンボルマーク、ロゴタイプの例を調査(45分)	ＣＩデザイン、具体例の収集（４５分）
3	ＣＩＳ（ＶＩＳ）の例・ベーシックとアプリケーション	「ベーシック・アプリケーション」語句としての認識（４５分）	企業のアプリケーションデザイン例を収集(45分)
4	マークデザインのサムネール作成①	シンボルマークの事例収集(45分)	サムネール補足演習（４５分）
5	商標登録と企業戦略	「商標登録」語句としての認識（４５分）	商標登録の実例調査(45分)
6	マークデザインのサムネール作成②	自己で選択した形状のサムネール準備(45分)	サムネール補足演習（４５分）
7	シンボルマークとピクトグラム	「ピクトグラム」語句としての認識（４５分）	ピクトグラムの事例収集(45分)
8	ピクトグラムのアイデア制作	自己で選択したアイテムのサムネール準備(45分)	アイデア制作補足演習（４５分）
9	ＶＩとベーシックカラー	ベーシックカラー事例収集（４５分）	「特別色」と「プロセスカラー」の区別と認識チェック(45分)
10	カラーリング演習	PC又は鉛筆色での用具準備(45分)	カラーリング演習（４５分）
11	ＣＩＳ展開デザインの位置づけと応用例	展開デザインの語句と事例認識（４５分）	具体例としての展開デザインを収集(45分)
12	ＣＩＳ企画のためのアイデアフラッシュ	「アイデアフラッシュ」語句としての認識(45分)	アイデアフラッシュ補足（45分）
13	ＣＩＳ課題演習①－１ ・シンボルマークの位置づけ	「シンボルマーク」事例収集（45分）	シンボルマークのサムネール作業確認
14	ＣＩＳ課題演習①－２ ・シンボルマークの展開使用例とサムネール制作	サムネール案の準備作業(45分)	演習補足（４５分）
15	ＣＩＳ課題演習②－１ ・シンボルカラーの位置づけ	「シンボルカラー」事例収集（４５分）	“色”のもつ意味を確認(45分)
16	ＣＩＳ課題演習②－２ ・シンボルカラーリング演習	パソコン又は色鉛筆での着色チェック(45分)	演習補足（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	ＣＩＳ課題演習③－１ ・セットロゴ位置づけ	「セットロゴ」事例収集（４５分）	セットロゴのパターン(レイアウト)を確認(45分)
18	ＣＩＳ課題演習③－２ ・セットロゴデザイン演習	セットロゴパターン(タテ組、ヨコ組)等のラフデザイン(45分)	演習補足（４５分）
19	ＣＩＳ課題演習④－１ ・タイプフェイスの位置づけ	「タイプフェイス」事例収集（４５分）	PCフォントやアナログレタリングでのラフデザイン(45分)
20	ＣＩＳ課題演習④－２ ・タイプフェイス演習	PCやアナログでの制作準備(45分)	演習補足（４５分）
21	ＣＩＳ課題演習⑤－１ ・ロゴタイプの位置づけ	「ロゴタイプ」事例収集・一般企業（４５分）	演習補足(45分)
22	ＣＩＳ課題演習⑤－２ ・ロゴタイプ演習	「ロゴタイプ」事例収集・自治体(45分)	演習補足（４５分）
23	ＣＩＳ課題演習⑥－１ ・ベーシックカラーの設定	企業例としてのカラー事例収集（４５分）	「特別色」と「プロセスカラー」の使用例の事例確認(45分)
24	ＣＩＳ課題演習⑥－２ ・ベーシックカラーの選択	「特別色」の主体に選定準備(45分)	演習補足（４５分）
25	ＣＩＳ課題演習⑦－１ ・フォーマット＆レイアウトの意義	レイアウト事例収集（４５分）	レイアウトのサムネール準備(45分)
26	ＣＩＳ課題演習⑦－２ ・フォーマット＆レイアウト演習	レイアウト作成準備(45分)	演習補足（４５分）
27	ＣＩＳ課題演習⑧－１ ・レイアウトバリエーション	アドバイス項目のチェック（４５分）	レイアウトの微調整作業(45分)
28	ＣＩＳ課題演習⑧－２ ・レイアウト調整	レイアウトアイテム等の最終チェック(45分)	演習補足（45分以上）
29	ＣＩＳ今後の課題と未来展望	アドバイス項目のチェック（45分）	CISに対する個人的見解の整理(45分)
30	課題作品の提出	作品の最終チェックなどの(45分)	演習補足（45分以上）
31	課題に対する解説・フィードバック①	講義全体を通して質問事項をまとめておく（45分）	質問に対する解説等の理解(45分)
32	課題に対する解説・フィードバック② 授業改善アンケートの実施	総体的な質問項目のまとめ(45分)	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深める（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ演習 （科目ナンバリング：AEN322057 ）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 安藤　淳一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

近年，ユニバーサルデザインに関する情報の量は目覚しく増大し，その考え方を反映したものが数多く開発・生産・販売されている。「ものつくり」をとおして共生社会実現のための理解を深めるため，指定した単位空間を対象にその実測調査をおこない，そこから既存施設の問題点を明らかにし，ユニバーサルデザインの視点から改修計画を提案・発表する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3,DP4,DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

疑似体験により介助される側，介助する側としての両立場を理解する。生活空間のあり方に対して自分なりの考えを見つけるきっかけとなり，身の回りにある製品・商品および空間に対しての理解，ユニバーサルデザインの視点からの建築空間・都市空間の評価，改善計画の提案とその発表する能力を養うことができる。

授業全体の内容と概要

前半は疑似体験を通して，身体障がい者並びに高齢者の身体機能の低下を体感し，生活活動に対する心理状態を推測し，理解の一助とする。後半はユニバーサルデザインの考え方を製品・商品に積極的に取り入れている企業への現地調査を実施する。さらに，不特定多数の利用者が対象となる空間の実測とその改修計画に取り組みユニバーサルデザインの視点で提案をおこない，プレゼンテーション後，作品ごとに講評をおこなう。
{SDGs11.住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

疑似体験は，体験者・介助者・観察者の三者の視点でおこなう。ユニバーサルデザインを考えた製品・商品の調査には，企業を直接訪問し，ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた製品に対する理念，開発から実現へのプロセスを理解する。プレゼンテーション・提案など，指定された課題は全て提出すること。基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

製品調査に際しては大学外での現地調査となるため，建築を学ぶ学生として行動・言動・マナーなど各自責任ある態度が求められる。また積極性と自発的な行動力を求める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

演習科目であり原則毎回出席すること(最低出席回数１０回以上)，ユニバーサルデザイン製品の現地調査は必修とし，授業・演習には積極的に取り組むこと。FW,見学会レポート（レポート），既存施設図および改修計画図・模型（レポート）課題作品），課題に取り組む姿勢等（その他）で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	６０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ユニバーサルデザインとはどのような概念であるかを理解し，実社会にどのように反映され機能しているかを理解する。	ユニバーサルデザインの概念と様々な実例をもとに多面的に理解できた。	概念を理解し，実例を通して有用性実例を認識できた。	概念を理解できた。	おおむね概念が理解ができた。	レポートが提出できなかった。
指定した単位空間を対象にその実測調査をもとに図面作成をおこない，現状における問題点を見つける。	優れた図面を完成し多くの問題点を見つけ出すことができた。	図面を作成し多くの問題を見つけ出すことができた。	図面を作成し問題点を見つけ出すことができた。	図面を完成することができた。	図面を作成することができなかった。
ユニバーサルデザインの視点から指定した単位空間の改修計画を提案する。	非常に優れた改修計画を提案できた。	優れた改修計画を提案できた。	改修計画を提案できた。	多少問題があるものの改修計画を提案できた。	改修計画を提出することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ演習 （科目ナンバリング：AEN322057 ）				
授業担当者（所属・職名）	安藤　淳一（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 安藤　淳一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明，授業改善アンケート結果反映の説明，ユニバーサルデザインとは	シラバス事前確認（90分）	受講の注意の確認（90分）
2	「ユニバーサルデザイン」の考え方	配布資料確認（90分）	講義内容の振り返り（90分）
3	疑似体験プログラム（A.高齢者）（B.右片麻痺）	配布資料確認（90分）	体験データのまとめ（90分）
4	疑似体験プログラム（C.車椅子）	配布資料確認（90分）	体験データのまとめ（90分）
5	ハートビル法のチェックリストに基づく校舎内の調査１	配布資料確認（90分）	チェックリストのまとめ（90分）
6	ハートビル法のチェックリストに基づく校舎内の調査２	チェックリストの確認（90分）	チェックリストのまとめ（90分）
7	実測調査　対象の実測	実測用道具の確認（90分）	実測データの整理（90分）
8	実測調査　収集データのまとめ	データ不足箇所の確認（90分）	実測データの整理（90分）
9	実測図作成１　平面図	実測データの確認（90分）	図面確認（90分）
10	実測図作成１　平面図	図面確認（90分）	図面確認（90分）
11	実測図作成２　展開図	実測データの確認（90分）	図面確認（90分）
12	実測図作成２　展開図	図面確認（90分）	図面確認（90分）
13	ユニバーサルデザイン製品製造メーカー　講習	見学会場の確認（90分）	配布資料・講習内容の振返り（90分）
14	ユニバーサルデザイン製品製造メーカーショールーム見学	製造メーカーの商品確認（90分）	見学レポート作成（90分）
15	改修計画案の検討　平面計画	改修条件の確認（90分）	検討内容の振返り（90分）
16	改修計画案の検討　平面計画	改修条件との整合性確認（90分）	検討内容の振返り（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	改修計画案の検討　断面計画	改修条件の確認（90分）	検討内容の振返り（90分）
18	改修計画案の検討　断面計画	改修条件との整合性確認（90分）	検討内容の振返り（90分）
19	改修計画案の作図１　平面図	改修計画内容の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
20	改修計画案の作図１　平面図	改修計画内容の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
21	改修計画案の作図１　平面図	改修計画内容の確認（90分）	図面の完成度確認（90分）
22	改修計画案の作図１　平面図	改修計画内容の確認（90分）	図面の完成度確認（90分）
23	改修計画案の作図２　展開図A.B	平面図の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
24	改修計画案の作図２　展開図A.B	平面図の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
25	改修計画案の作図３　展開図C.D	平面図の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
26	改修計画案の作図３　展開図C.D	平面図の確認（90分）	制作図面の確認（90分）
27	改修計画案の内部模型製作	制作道具・材料の確認（90分）	制作模型の進捗状況確認（90分）
28	改修計画案の内部模型製作	平面図・展開図の確認（90分）	制作模型の完成度確認（90分）
29	改修計画案　提出	提出準備（90分）	提出物の再確認（90分）
30	改修計画案　グループ別発表	発表準備（90分）	発表内容の振返り（90分）
31	総評（全作品の講評）	提出作品の最終確認（90分）	総評の振返り（90分）
32	総評（全作品の講評） 授業改善アンケートの実施	提出作品の最終確認（90分）	総評の振返り（90分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導（M） （科目ナンバリング：ESS323056，S0E423051 ）				
授業担当者（所属・職名）	川津　大樹（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 川津　大樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体（商工会）に勤務し、地域の中小企業に対して経営指導を行った経験も踏まえて、業界の特徴や企業実務に関する実例も取り上げていく。		
オフィスアワー	初回講義で説明。または研究室前の掲示等を参照。				

概要

履修目標

経済環境の変化により、企業・業界のビジネス環境は大きく変化している。
また、個人の就業環境や勤労観も変化しており、企業に努めつつ副業を行ったり、フリーランスとして活躍したりするチャンスも増えている。
本講義では、業界・企業分析を通じて、職業を学び、「働くこと」に対する意識向上を目標とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3、DP4に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

・様々な業界・業種の特徴を学ぶ。
・企業分析の手法を習得する。
・自分なりの職業観・勤労観を自覚する。

授業全体の内容と概要

本講義では、「職業観・労働観の醸成」と「業界・企業分析」という2本柱に基づいて、職業について学ぶ。
講義の序盤（第５回まで）は、総論部分として、職業やキャリア教育について学習する。
講義の中盤（第６回～第１０回）では、業界分析、経営分析および財務諸表分析の手法について学習し、実践する。
講義の終盤（第１３回以降）では、これまでの総仕上げとして、業界分析と企業分析を組み合わせた総合分析について学ぶ。
本授業科目は、「SDG８ 経済成長と雇用」の関連授業である。

授業の方法

本講義は、テキストの解説のみならず、受講者自らが実践的に分析を行う機会を設ける。
日経新聞の記事や上場企業の財務諸表を用いて、実社会との関わりを意識して講義を進める。
授業では、リアクションペーパーを毎回配布し、その回答内容は、次回以降の授業で取り上げる。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供することがあり得る。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実践的に分析する機会を設けるので、出席を重視する。出席確認は、授業で毎回配布するリアクションペーパーの提出をもって行う。
また、業界・企業分析に際しては、受講者が積極的・能動的に取り組む姿勢を求める。財務分析の際には、計算が必要となるので、計算機の持参を推奨する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。出席確認は、授業で毎回配布するリアクションペーパーの提出をもって行う。
「平常点」は、リアクションペーパーの回答内容で評価する。
「レポート」は２回行う予定である。具体的な提出時期は、授業内で説明する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
様々な業界・業種の特徴を理解する。	特定の業界と、それに関連する業界について総合的に説明できる。	様々な業界・業種の特徴を十分に理解している。	自分の関心ある業界・業種を理解するのみならず、関連する業界・業種についても、関心を抱いている。	自分の関心ある業界・業種の特徴を最低限理解している。	業界・業種の特徴を理解できなかった。
企業分析（経営・財務諸表分析）の手法を習得する。	企業分析を行い、対象企業について詳細に説明できる。	企業分析の手法を駆使して、対象企業の特徴を十分に把握できる。	企業分析の手法を駆使して、対象企業の特徴をある程度把握できる。	企業分析に使用される指標の意味を最低限理解している。	企業分析に使用される指標の意味を理解できなかった。
自分なりの職業観・勤労観を自覚する	「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来目標に向けて、具体的に取り組み始めた。	「働くこと」に対して意識が向上し、自分の将来についてしっかり考えるようになった。	職業観・勤労観について自覚し、「働くこと」に対して意識し始めた。	職業観・勤労観について最低限自覚できた。	職業観・勤労観を自覚できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	職業指導（M）	（科目ナンバリング：ESS323056，S0E423051 ）			
授業担当者（所属・職名）	川津　大樹（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 川津　大樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	大分県内の経済団体（商工会）に勤務し、地域の中小企業に対して経営指導を行った経験も踏まえて、業界の特徴や企業実務に関する実例も取り上げていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『学部生のための企業分析テキスト―業界・経営・財務分析の基本（改定版）』	高橋聡・福川裕徳・三浦敬　編著	創成社	２０２４年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（講義の進め方、アンケートによる受講者の意向調査）	シラバスとテキストの序文を読んでおく（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
2	働く目的	事前配布資料を予習する（９０分）	配布資料の内容を復習する（９０分）
3	キャリア教育・職業選択理論	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
4	業界・業種の概要①	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
5	業界・業種の概要②	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
6	業界分析の実践	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
7	職業興味と自己理解	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
8	経営分析の概要	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
9	財務諸表分析の概要	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
10	財務諸表分析の実践	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
11	特別講演	事前に指示した内容を調べておく（９０分）	講演の内容を復習する（９０分）
12	就職活動	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
13	業界・企業の総合分析①	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
14	業界・企業の総合分析②	テキストの指定箇所を予習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
15	まとめ講義	これまでの内容を復習する（９０分）	テキストと配布資料の内容を復習する（９０分）
16	課題に対する解説とフィードバック 授業改善アンケートの実施	これまでの内容を復習する（９０分）	授業で取り上げた解説の内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉調査の基礎 （科目ナンバリング：SOC112014 ）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 杉本　大輔 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

・量的調査、質的調査の方法論を習得し、あわせて数学的分析方法を理解する。
・ソーシャルワーク技法における評価技法を理解する。
・統計法及び社会調査における倫理規定について理解し、ソーシャルワーカーの倫理綱領との共通点を理解する。
・社会調査の歴史を理解し、科学的調査技法の発展のプロセスを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、ＤＰ４に対応する（２０２２年度）

到達目標

・量的調査、質的調査の技法と分析方法を習得する。
・個人情報保護法下における調査倫理を理解する。
・データ分析におけるＩＴ機器と統計ソフトの活用方法を習得する。

授業全体の内容と概要

・社会調査とソーシャルワークの関係の紹介（調査事例を用いる）。
・量的調査、質的調査の技法の紹介。
・調査倫理と個人情報保護法について関連法規を紹介して関係性を分析。
・データ分析方法と統計ソフトの紹介。

授業の方法

１５回の講義において教員がプリント・資料を用意して講義形式で行う。また、データ分析においては基礎解析などの数学の基本が必要になるので数学の基本的講義も行う。課題として高校数学の復習を課す。
学生からの質問等に随時対応する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

社会福祉学科全コースが履修可能である。
チャット等に「欠席理由」の連絡がない場合、公欠等の連絡なく欠席した場合は無条件で欠席とみなす。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程，スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程，子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数１０回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	１０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
量的調査の方法論の理解	テーマ設定、仮説の構成と質問文への昇華、回答選択肢の選定、現地調査の方法、統計分析の手順を全て説明できた。	テーマ設定、仮説の構成と質問文への昇華、回答選択肢の選定について説明できた。	テーマ設定、質問文の作成と注意、回答選択肢の選定、現地調査の方法について説明できた。	質問文の作成と現地調査の方法について説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
質的調査の方法論の理解	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法、質的分析（ＫＪ法、ＭＧＴＡ法）についてすべて説明できた。	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法と質的分析の一つを説明できた。	参与者と観察者の位置づけ、記述方法、インタビュー方法について説明できた。	面接・観察について説明できた。	左記の内容が何一つできていなかった。
社会調査者の倫理規定についての理解	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領との共通点と各々の独自性を全て言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領各々の独自性について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定と社会福祉士の倫理綱領各々の共通点について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定について言語で説明できた。	社会調査者の倫理規定についての説明ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉調査の基礎　（科目ナンバリング：SOC112014　）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　杉本　大輔　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　社会調査とソーシャルワーク技法の関連（授業改善アンケート結果反映の説明）	基礎数学の復習（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
2	量的調査の概要	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
3	量的調査技法１（テーマの設定）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
4	量的調査技法２（仮説の設定）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
5	量的調査技法３（質問文の作成）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
6	量的調査技法４（サンプリング）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
7	量的調査技法５（プリテストと本調査、その注意点）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
8	量的調査技法６（データ解析法　ＩＴ機器の活用法）	前回プリントの読み込み1次関数2次関数の復習（９０分）	配布プリントの熟読　量的調査全体の復習（９０分）
9	質的調査技法１（フィールドの設定）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
10	質的調査技法２（フィールドにおけるサンプリング）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
11	質的調査技法３（フィールドにおける記録と聞き取り）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
12	質的調査技法４（質的分析　グランデッドセオリーアプローチを中心に）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
13	質的調査技法５（質的調査事例の紹介１）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読　事例の熟読（９０分）
14	質的調査技法６（質的調査事例の紹介２）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読　事例の熟読（９０分）
15	調査倫理と個人情報保護法との関連（授業改善アンケートの実施）	前回プリントの読み込み（９０分）	講義全体の総復習（９０分）
16	定期試験（６０分試験終了後３０分解説をする）	講義全体の総復習（９０分）	自己総括（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	鋼構造 （科目ナンバリング：BSM323027 ）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）	研究室等所在	アトリエ棟１階		
単位数	2 （単位認定責任者： 長森　正 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

構造用鋼から圧延された鋼板および各種の形鋼を高力ボルトや溶接などの接合手段によって組み上げた構造または建築物を鉄骨構造という。
鉄骨構造建築物の柱、梁、継手、柱梁接合部、柱脚などの断面設計法について演習を通して修得する。

授業の位置づけ

建築学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（２０２４年度）
建築学科のＤＰ１、DP２に対応する。（２０２３・２０２２年度）
建築学科のＤＰ１、DP５に対応する。（２０２１年度）

到達目標

鋼材の種類と記号を学び、引張材、圧縮材など部材設計の基本事項を修得し、簡単な計算例を通してボルト接合、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計ができる。

授業全体の内容と概要

鋼材の種類と記号を学び、設計荷重、鋼材の許容応力度、ボルト接合、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計法を中心に講義・演習を中心に行う。また引張材、圧縮材など部材設計の基本についても講義・演習を行う。

授業の方法

授業は配布物とプロジェクターを中心に講義形式で行う。授業では課題解説・演習等をおり交ぜて行うが、基本的に予習課題を事前学修し重要箇所について確認しながら進めていく。
不測時における授業や補講等でオンラインを実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積重ねの講義内容であるので、毎回出席しなければ分からなくなるので欠席に注意する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）選択科目、建築士試験受験資格課

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	３０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
鋼材の種類と記号	鉄骨構造・鋼材の特徴を簡潔に説明できた。	鋼材の特徴を簡潔に説明できた。	鋼材の特徴をほぼ簡潔に説明できた。	鋼材の特徴を説明できた。	鋼材の特徴を簡潔に説明できなかった。
引張材、圧縮材など部材設計の基本事項	引張材、圧縮材、曲げ材などの許容応力度について簡単に説明できた。	許容応力度について簡単に説明できた。	許容応力度についてほぼ簡単に説明できた。	許容応力度について説明できた。	許容応力度について簡単に説明できなかった。
設計荷重、鋼材の許容応力度、高力ボルト接合、溶接接合による部材接合部の設計	複雑な接合設計について簡単に説明ができた。	接合設計について簡単に説明ができた。	接合設計についてほぼ簡単に説明ができた。	接合設計について説明ができた。	接合設計について簡単に説明ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	鋼構造 （科目ナンバリング：BSM323027 ）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	2 （単位認定責任者： 長森　正 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義をします。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『初めて学ぶ鉄骨構造基礎知識（第三版）』	橋本篤秀	市ケ谷出版社	2016	9784870711563	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 鋼構造の概要	シラバスを確認する（９０分）	授業内容の復習（９０分）
2	鋼材の基礎	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
3	鉄骨の構造設計	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
4	引張材の力学（１）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
5	引張材の力学（２）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
6	圧縮材の力学（１）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
7	圧縮材の力学（２）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
8	圧縮材の力学（３）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
9	曲げ材の力学（１）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
10	曲げ材の力学（２）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
11	曲げ材の力学（３）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
12	接合部の力学（１）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
13	接合部の力学（２）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
14	接合部の力学（３）	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業終了時に示す課題をこなす（９０分）
15	耐震設計概要	教科書の指定箇所の予習（９０分）	授業内容の復習（９０分）
16	授業改善アンケートの実施 全体のまとめ、フィードバック	全体内容の再確認及び理解（９０分）	授業内容の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論Ⅱ　（科目ナンバリング：EDU011015　）				
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　藤根　収　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（生涯学習）について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

生涯学習についての考え方と具体的な活動の現状から学び、生涯学習の学習者・支援者としての理解を深めるとともに生涯学習について国際化・情報化等の視点から、今後の動向を考察する。

授業の位置づけ

経営学科・経営学科スポーツマネジメントコースのＤＰ２、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）
社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）
デザイン学科のＤＰ２、ＤＰ４に対応する。（２０２３・２０２２年度）
建築学科のＤＰ２、ＤＰ４に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

生涯学習の考え方や歴史などの基礎的知識を身に付け、国内外の実践をとおして、人的支援の支援の在り方や施設等の役割、生涯学習における教育の現代的課題を理解できる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換(グループ)、発表等の一連の活動を行う。また、できるだけ具体的な事例から生涯学習の理解を深め、生涯においてどう関わるか、また、支援者としての関わりを考えられるように構成する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業ではパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で思考・考察、意見交換・討論、発表等の一連の活動を行う。また、実践事例のVTR教材視聴後に事例に基づくレポート提出を行う。レポートにはコメントにてフィードバックする。なお、学生の質問等は、チャット形式などの支援システムなどで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とし、遅刻３回で欠席１回とみなす。
全学科が同一クラスで授業を行うため、無断でのスマホ使用、私語の禁止、座席の指定など、受講に当たっての注意事項を必ず厳守すること。また、グループワークなど主体的な学修態度が求められる。
不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	１０%	０%	２０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
生涯学習理論等の理解	生涯学習理論等について、学修したを知識・技能を基盤に、さらに知識等を深めようとすることができた。	生涯学習理論等について、意欲的に学び、必要な知識・技能を理解することができた。	生涯学習理論等について必要な知識・技能を理解できた。	生涯学習理論等についての知識・技能を一定程度理解できた。	生涯学習理論等について、理解が不十分である。
生涯学習に関する情報や実践に対する思考･判断･表現	生涯学習について積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して表現することができた。	生涯学習について思考・判断し、個人やグループで表現することができた。	生涯学習について、個人やグループで思考活動等に取組み、表現しようとすることができた。	生涯学習について、思考活動に一定程度取り組み、表現しようとしていた。	生涯学習について、思考・判断・表現について必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度に課題があった。

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生涯学習概論Ⅱ　（科目ナンバリング：EDU011015　）				
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　藤根　収　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（生涯学習）について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『よくわかる生涯学習(改訂版)』	香川正弘　ほか	ミネルヴァ書房	2016	978-4-623-07631-4	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『多文化・他民族共生時代の世界の生涯学習』	岩崎正吾	学文社	2018	978-4-7620-2757-4	
2	『生涯学習概論　改訂版』	小林　繁　ほか	エイデル研究所	2020	978-4-87168-613-6	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、生涯学習について（復習）	教科書から「生涯学習社会」についての課題を整理する(９０分)	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること(９０分)
2	生涯学習を支える思想１ ― 生涯学習の学習論と社会的位相	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(９０分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(９０分)
3	生涯学習を支える思想２ ― 自己主導的学習論と知識基盤社会における生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(９０分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(９０分)
4	施設に基づいた生涯学習活動１ ― 生涯学習施設と社会教育施設、生涯学習推進センターの役割等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(９０分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(９０分)
5	施設に基づいた生涯学習活動２ ― 公民館、図書館、博物館、体育施設等の役割	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(９０分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(９０分)
6	生涯学習にかかわる人的支援１ ― 生涯学習支援にかかわる人々	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(９０分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(９０分)
7	生涯学習にかかわる人的支援２ ― 生涯学習支援にかかわる専門職員等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(９０分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(９０分)
8	伝統として息づく日本の生涯学習１ ― 生涯学習の先駆的発想と実践	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(９０分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(９０分)
9	伝統として息づく日本の生涯学習２ ― 地域を育てる生涯学習の実践	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(９０分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(９０分)
10	諸外国の生涯学習１ ― イギリス、アメリカ、ドイツ等の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(９０分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(９０分)
11	諸外国の生涯学習２ ― フランス、デンマーク、ブラジル等の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(９０分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(９０分)
12	生涯学習の現代的課題１ ― 生きがいづくり,健康、まちづくり等の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(９０分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(９０分)
13	生涯学習の現代的課題２ ― 高齢社会、少子化、高度情報化等の生涯学習	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(９０分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(９０分)
14	生涯学習の現代的課題３ ―環境問題、安全・安心な社会づくり等の生涯学習と学習成果の活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(９０分)	重要な用語や事柄等をノートに整理する(９０分)
15	生涯学習社会の形成と今後の動向 ― 生涯学習のまとめ～「これまで」と「これから」	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する(９０分)	重要な用語や事柄等を整理し、レポートを作成する(９０分)
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説する。）	教科書等で講義内容を整理する(９０分)	試験の結果を見直す(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害者の心理・生　（科目ナンバリング：SNE122104　　）				
授業担当者（所属・職名）	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　堀川厚志　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

知的障害児に対する教育を効果的に行うために必要な心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容を理解し、指導上の基礎的な配慮事項等を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、ＤＰ４、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

知的障害児者の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容がわかる。
知的障害児に対する指導上の基礎的な配慮事項や指導の在り方について、少人数で協議して考えを整理することができる。

授業全体の内容と概要

基本的な内容としては、知的障害に関する定義、原因、医学的分類、状態像の把握（アセスメント、心理検査）、関連障害（染色体異常、代謝異常、自閉スペクトラム症等の発達障害）、認知処理過程（感覚、知覚、記憶等）、身体と運動発達、言語の獲得について、一般的な定型発達との比較及び教育的な対応の視点から説明する。
「SDGs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、パワーポイントのスライド資料の提示と資料配布による講義形式を主とする。
授業前半には、前時使用の資料を使用し、内容の振り返りと確認を実施する。
資料中に課題を用意し、少人数によるグループワークやペアワークを実施する。
内容によっては、Webサイトを検索を通して内容を探究する。
授業後半には、内容の確認小テストを実施し、重要ポイントなどを確認する。
Microsoft Forms等を活用し、小テストなどを実施するなどして、理解度を把握し指導する。
学生の不明点等については、チャットなどを活用して迅速に解決できるようにする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業内容に関するプレゼン資料の毎時間の配布や、レポート課題の出題、小テストを実施するので、欠席をしないようにすること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業及び評価の成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上とする。
中間で提示課題に沿ったレポートの提出は、単位取得に必須条件とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	３０％	０％	０％	１０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等の基本的な内容の理解	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を十分に理解し、学修した知識をさらに深化させたり、発展的な学修ができた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を十分に理解できた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を一定程度、理解できた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を部分的に理解できた。	知的障害児の心理や生理、病理、行動特性等を理解できなかった。
基本的内容及び指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応に関する思考力、判断力、表現力の向上	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を的確かつ発展的に整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を整理し、思考力、判断力、表現力を十分に高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を整理し、部分的に思考力、判断力、表現力を高めることができた。	指導上の基礎的な配慮事項等を踏まえた教育的対応を整理し、思考力、判断力、表現力を高めることができなかった。
授業への参加意欲や学修に向かう姿勢・態度	授業には意欲的に参加し、自ら発言するなど、常に積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、積極的に取り組むことができた。	授業には意欲的に参加し、部分的に積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、ときどき積極的に取り組むことができた。	授業に参加し、積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害者の心理・生 （科目ナンバリング：SNE122104 ）				
授業担当者（所属・職名）	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 堀川厚志 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校教育現場及び教育行政経験のある教員が、特別支援教育に関する今日的課題等について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、知的障害の概要について）	シラバスを読む（９０分）	内容を振り返る（９０分）
2	知的障害の用語と定義について	用語の使用と定義を調べる（９０分）	重要事項を整理する（９０分）
3	知的障害の原因と医学的分類について	原因と医学的分類を調べる（９０分）	重要事項を整理する（９０分）
4	知的障害児のアセスメントについて	アセスメントについて調べる（９０分）	重要事項を整理する（９０分）
5	知的障害児に対する教育的な活用を考慮した心理検査について	心理検査について調べる（９０分）	重要事項を整理する（９０分）
6	知的障害に関連した障害（染色体異常）について	染色体異常について調べる（９０分）	重要事項を整理する（９０分）
7	知的障害に関連した障害（代謝異常）について	代謝異常について調べる（９０分）	重要事項を整理する（９０分）
8	知的障害に関連した障害（自閉スペクトラム症等の発達障害）について	自閉スペクトラム障害について調べる（９０分）	重要事項を整理する（９０分）
9	知的障害児の認知特性について	認知特性について調べる（９０分）	重要事項を整理する（９０分）
10	知的障害児の知覚特性について	知覚特性について調べる（９０分）)	重要事項を整理する（９０分）
11	知的障害児の知能について	知能について調べる（９０分）	重要事項を整理する（９０分）
12	知的障害児の記憶について	記憶について調べる（９０分）	重要事項を整理する（９０分）
13	知的障害児の身体と運動について	身体と運動について調べる（９０分）	重要事項を整理する（９０分）
14	知的障害児の言語の理解と表出について	言語について調べる（９０分）	重要事項を整理する（９０分）
15	知的障害児の言語の獲得について 授業改善アンケートの実施	言語について調べる（９０分）	重要事項を整理する（９０分）
16	定期試験（６０分間の筆記テスト、終了後１５分間の解答の解説実施）	全内容・資料を整理する（９０分）	全内容を振り返る（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ （科目ナンバリング：DES222023 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者：　北嶋　洋一　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基に実践的なグラフィックデザインを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインにおけるグラフィックデザインについて正しい認識を持ち、その可能性と将来の展望ができる知識と技術を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

デザインの基本工程を理解し、各メディアのコンテンツを制作する際に必要とされる知識や技術を身に付ける。そして、一つのプロジェクトを俯瞰し、全体の指揮をシミュレーションすることができる。

授業全体の内容と概要

日常生活や社会生活において必要とされる様々な情報の中から一つを選び、それを公開するための全体計画を立案する。その後、自らが志向とするグラフィックデザイン系メディアコンテンツの制作を行う。
「ＳＤＧｓ９．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

情報メディアをデザインすることの意義を再確認するための指導を行う。
その後に情報を公開するための全体計画を“効果的な視覚メディアを用いてプレゼンテーション”するための制作をデジタル環境で行う。
後半においては自らが強く志向するメディアを選択し、そこに投下するためのコンテンツを制作する。
メディアの取材や情報の選定は、フィールドワークによる現地取材、他媒体に公開される内容の調査・整理を行うことを前提とする。
制作に必要なアプリケーション等の指導は個別に行う。
ChatGPTやCANVAなどの生成AIを積極的に活用させる。
質問には随時対応する。
不測時の授業や補講等ではオンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

主として商業美術を志向する者のための演習が中心の授業である。中でも情報メディアにおけるデザインとビジネスを前提とした内容であるから、そのスタンスがアート系分野とは相反することを理解し、それを前提として履修しなければならない。
グラフィックデザインⅠと同様にAdobe IllustratorとPhotoshopによる課題制作を行うので、履修者は基本操作を身につけていなければならない。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は26回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「グラフィックデザインを情報メディアとして捉え、適切な情報形態を整えることができる」	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持ち、適切なメディアへ、その特性を理解した上で効果的な情報の投下が可能な能力を身につけた。	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持ち、適切なメディアへ情報の投下ができる能力を身につけた。	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持つことはできたが、適切なメディアの選択と情報の処理が不十分である。	グラフィックデザインに対する知識と技術が不十分であり、メディアと情報の関連性を捉え切れていない。	グラフィックデザインの知識と技術が身につかなかった。
思考力・判断力・表現力「グラフィックデザインのメディアにおいて、質の高い視覚情報の構築ができる」	適切なメディアの選択や完成度の高い表現を行う技能を身につけ、質の高い実践ができるレベルに到達した。	適切なメディアの選択や表現を行うための技能を身につけ、実践が可能なレベルに到達した。	メディアの選択や表現を行う技能は身につけているが、それを適切に応用することができていない。	適切なメディアの選択や表現を行う技能が不完全なため、メディアの選択や表現が不十分である。	メディアの選択や表現ができなかった。
主体性・多様性・協働性「社会性、公共性に配慮しつつ、適切な情報形態を以ってのプレゼンテーションが行える」	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、完成度の高いメディアの特性を理解した適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組んだが、適切なプレゼンテーションには至っていない。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的でなく、プレゼンテーションも不完全であった。	グラフィックデザインにおける問題解決ができず、プレゼンテーションが行えなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ （科目ナンバリング：DES222023 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基に実践的なグラフィックデザインを指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス～シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 「情報とは何か？」	商品企画・広報宣伝企画について研究しておく（４５分）	商品企画・広報宣伝企画について研究しておく（４５分）
2	「視覚化すべき情報の選択」	商品企画・広報宣伝企画について研究しておく（４５分）	「情報の選択」を終えておく（４５分）
3	「企画立案」① 情報の分析とメディア計画	選択した情報の幅広い知識を得ておくこと（４５分）	選択した情報の幅広い知識を得ておくこと（４５分）
4	「企画立案」② コンセプトシートの作成	コンセプトシートは次週授業開始時まで完成（４５分）	コンセプトシートは次週授業開始時まで完成（４５分）
5	「企画立案」③ 企画書の作成	企画書に必要な素材の収集を行っておく（４５分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（４５分）
6	「企画立案」④ 企画書の作成	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（４５分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（４５分）
7	「企画立案」⑤ 企画書の作成	企画書完成に必要な準備を終えておく（４５分）	企画書完成に必要な準備を終えておく（４５分）
8	「企画立案」⑥ 企画書の完成	企画書完成に必要な準備を終えておく（４５分）	次週授業開始時までに完成提出できるよう進度の調整を行う（４５分）
9	制作工程の確認と制作にあたっての留意点について	企画内容を基にしてコピーやビジュアルの発想をしておく（４５分）	企画内容を基にしてコピーやビジュアルの発想をしておく（４５分）
10	視覚化が可能なメディアの選択とビジュアル計画	企画内容を基にしてコピーやビジュアルの発想をしておく（４５分）	ラフ案（３案）を計画しておく（４５分）
11	「コピーとビジュアルの作成」① ラフ案	ラフ案作成に必要な準備を終えておく（４５分）	ラフ案作成に必要な準備を終えておく（４５分）
12	「コピーとビジュアルの作成」② 再ラフ案	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（４５分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（４５分）
13	「コピーとビジュアルの作成」③ 再々ラフ案	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする（４５分）	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする（４５分）
14	「コピーとビジュアルの作成」④ 最終ラフ作成	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする（４５分）	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする（４５分）
15	「コピーとビジュアルの作成」⑤ 最終ラフ作成	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする（４５分）	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする（４５分）
16	「コピーとビジュアルの作成」⑥ 最終ラフ作成～提出	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする（４５分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	「コピーとビジュアルの作成」⑦ プレゼンテーションと講評	プレゼンテーションの準備（４５分）	他者の作例を研究する（４５分）
18	「コピーとビジュアルの作成」⑧ プレゼンテーションと講評～今後の展開	他者の作例を研究する（４５分）	他者の作例を研究する（４５分）
19	メディア化にあたっての留意店について	制作すべきメディアを決めておく（４５分）	制作すべきメディアを決めておく（４５分）
20	コピーとビジュアルの用法の試案	デザイン計画（４５分）	デザイン計画（４５分）
21	「メディアコンテンツの制作」① ラフ案	ラフ案作成に必要な準備を終えておく（４５分）	ラフ案の制作（４５分）
22	「メディアコンテンツの制作」② 修正作業	ラフ案の制作（４５分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（４５分）
23	「メディアコンテンツの制作」③ 再ラフ案	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく（４５分）	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく（４５分）
24	「メディアコンテンツの制作」④ 修正作業	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく（４５分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（４５分）
25	「メディアコンテンツの制作」⑤ 再々ラフ案	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく（４５分）	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく（４５分）
26	「メディアコンテンツの制作」⑥ 制作	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく（４５分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（４５分）
27	「メディアコンテンツの制作」⑦ 制作	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく（４５分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（４５分）
28	「メディアコンテンツの制作」⑧ 制作	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（４５分）	期間内に完成提出できるよう進度調整を行う（４５分）
29	「メディアコンテンツの制作」⑨ 制作	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく（４５分）	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく（４５分）
30	「メディアコンテンツの制作」⑩ 完成	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく（４５分）	次週授業開始時までに完成提出できるよう進度の調整を行う（４５分）
31	メディアコンテンツの発表	自分以外の者の制作物についても事前に知識を得ておく（４５分）	自分以外の者の制作物についても事前に知識を得ておく（４５分）
32	講評 授業改善アンケートの実施	グラフィックデザインについて正しい認識を持てたかを確認（４５分）	グラフィックデザインについて正しい認識を持てたかを確認（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築生産 （科目ナンバリング：BSM323029 ）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小笠原　健 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建築生産に必要な内外装工事や施工管理およびそれに至る工事契約や積算について理解を深め、また、建築士試験の施工および建築施工管理技士試験に対応した学力の修得する。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ２に対応する。（2024年度）
建築学科のＤＰ２に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のＤＰ２に対応する。（2021年度）

到達目標

建築施工に重要な各工事に着目し生産技術を学ぶことで、設計や施工の実務に向けた知識と建築士ならびに建築施工管理技士を見据えた学力を修得できる。

授業全体の内容と概要

配布資料を中心に授業を行い、建築技術者に必要な知識の修得を行う。また、建築士試験にも対応した授業を実施する。

授業の方法

配布資料を基本に板書中心の授業を行うが、その分野ごとに建築士試験の過去問題も提供し、その解説を行うことで、建築士試験を意識させた授業を実施していく。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

配布資料を必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１００％	０％	０％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。
「建築生産」の基礎知識を習得することができる。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組むことができた。	基礎知識を修得し、さらに建築科目全般に取り組む必要性を理解できた。	基礎知識を修得することができた。	基礎知識をおおむね修得することができた。	基礎知識を修得することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築生産 （科目ナンバリング：BSM323029 ）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小笠原　健 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築施工テキスト』		建築資料研究社	2020		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明（小笠原	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
2	工事契約と品質保証	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
3	工事監理	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
4	施工業務	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
5	内外装の仕上げ工事：防水と屋根工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
6	内外装の仕上げ工事：左官工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
7	内外装の仕上げ工事：タイル工事・石工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
8	内外装の仕上げ工事：塗装工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
9	内外装の仕上げ工事：ガラス工事・建具工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
10	内外装の仕上げ工事：内装工事・断熱工事	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
11	建築物の維持管理（改修工事）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
12	建築物の維持管理（設備工事）	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
13	積算	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
14	建築廃棄物の有効利用法（リサイクル法）ほか	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
15	まとめ	次回授業範囲の資料を予習する（90分）	授業内容を整理して、復習する（90分）
16	定期試験（60分の試験終了後，残りの30分で解説を行う） 授業改善アンケートの実施	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える（90分）	定期試験内容を整理して、復習する（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	公共ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 （科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	山本一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 山本 一彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

地域ガバナンスの意味を知り、公共性を担うさまざまなマネジメント主体の特質と地域社会のよりよい発展について考え、現代のサードセクターの意義について理解することを目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP3、DP4に対応する。（2024年度）

到達目標

地域ガバナンスの理論とサードセクターについて単に知識を習得するだけでなく、地域のさまざまなマネジメント主体の特質や問題点とわれわれのかかわりを理解し、地域社会のよりよいあり方について自ら考える姿勢をもつ。

授業全体の内容と概要

地域ガバナンスの営みとその担い手としての生活者に目を向け、さまざまなマネジメント主体の特質と生活者とのかかわりをとり上げる。さらに、地域社会の持続可能性を支えるサードセクターと多様なマネジメント主体の共生的関係を探り、北海道の内発的発展について考察する。

授業の方法

授業は現代のさまざまな事例を素材としながら講義形式で行ない、必要な場合には資料を配布する。単元・項目によっては受講者の見解を知るための小文を提出してもらい、概要を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

さまざまなテーマについて自らか考える「主体的・能動的」な姿勢での受講を求める。本試験・追試験結果が保留であった場合、レポート課題の提出が必要。保留後の合格の場合は、評価はＣとする。尚、不測の事態の際はオンラインで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は10回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識	定期試験における基礎事項該当部分で9割以上の正答があった。	同8割以上9割未満の正答であった。	同7割以上8割未満の正答であった。	同6割以上7割未満の正答であった。	同部分の正答が6割に届かなかった。
思考力・判断力等	地域ガバナンス概念を軸にして、さまざまなセクターのマネジメント活動の特質と意義を充分に考察できていた。	左記の事項についておおむね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察には達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。
地域問題への分析力・主体性等	授業の中心的テーマであるサードセクターを中心に、現実の地域問題について充分な主体的分析ができていた。	左記の事項について概ね考察できていた。	左記の事項について広く一般的水準の考察には達していた。	左記の事項についての考察が最低限の水準に留まっていた。	考察が最低限の水準に届かず、授業内容が理解されていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・1年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	公共ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論 （科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	山本一彦（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 山本　一彦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	※科目ガイダンス・・・・全体概要、目的とねらい、 履修上の注意、評価方法説	シラバス内容事前確認　（９０分）	目的とねらいについての復習・確認 （９０分）
2	Ⅰ.地域ガバナンスの視点 1.高度産業化と地域社会の変貌 ・・・・生活者と社会関係資本	産業活動の高度化が地域社会をどのように変えたかについての事前考察（９０分）	値域社会の持続と生活者の社会関係資本の重要性についての復習・理解（９０分）
3	Ⅰ.地域ガバナンスの視点 2.地域ガバナンスとは何か？	地域がガバナンスされるとはどのようなことかの事前考察　（９０分）	地域ガバナンス概念の源流、その意味についての復習・理解（９０分）
4	Ⅱ.地域ガバナンスのアクター 1.多様なマネジメント主体と公共性の担い手	地域社会におけるマネジメント主体のタイプについての事前考察（９０分）	多様なマネジメント主体の特質と領域についての復習・理解（９０分）
5	Ⅱ.地域ガバナンスのアクター 2.地方政府	地方公共団体はどのような役割を果たすべきかについての事前考察（９０分）	地域ガバナンスでの地方政府の役割の意義と限界についての復習・理解（９０分）
6	Ⅱ.地域ガバナンスのアクター 3.民間営利組織	営利事業が地域社会で果たすべき役割についての事前考察（９０分）	地域ガバナンスでの企業の企業の役割の意義と限界についての復習・理解（９０分）
7	Ⅲ.現代のサードセクター 1.社会的経済の領域	民間領域に営利企業以外のどのような組織・団体があるかの事前考察（９０分）	社会的経済組織の現代的意義と地域における可能性についての復習・理解（９０分）
8	Ⅲ.現代のサードセクター 2.ボランタリー・エコノミーとNPO法人	経営組織としてのNPO法人の登場についての事前確認（９０分）	自発的市民セクターの重要性とNPO法人の意義についての復習・理解（９０分）
9	Ⅲ.現代のサードセクター 3.ワーカーズ・コレクティブ ・・・・生産者・労働者の「協同」	協同組合の歴史的意義についての事前考察（９０分）	ワーカーズコレクティブの事業組織としての特質についての復習・理解(９０分)
10	Ⅲ.現代のサードセクター 3.ワーカーズ・コレクティブ ・・・・生産者・労働者の「協同」	地域におけるワーカーズコレクティブの役割についての事前考察（９０分）	出資・経営・労働一体の事業組織と市民が「働くこと」についての復習・理解（９０分）
11	Ⅳ.内発的地域振興に向けて 1.社会問題と地域社会の持続可能性	現代の地域社会で何が社会問題となっているかについての事前考察（９０分）	地域社会の持続可能性にとって重要な施策についての復習・理解（９０分）
12	Ⅳ.内発的地域振興に向けて 2.「地域公共性」とマネジメント主体の共生的関係	異なるマネジメント主体間の協働かんけいのあり方についての事前考察（９０分）	地域におけるマネジメント主体間の協働の重要性についての復習・理解（９０分）
13	Ⅳ.内発的地域振興に向けて 2.「地域公共性」とマネジメント主体の共生的関係	社会的企業とはどのような事業組織かについての事前考察（９０分）	地域マネジメントにおける社会的企業の意義についての復習・理解（９０分）
14	Ⅳ.内発的地域振興に向けて 3.北海道の内発的発展へ内発的地域主義と北海道	北海道の地域社会にとって何が必要とされているかについての事前考察（９０分）	内発的地域主義の意義と北海道にとっての重要性についての復習・理解（９０分）
15	※総括と試験概要説明、授業アンケート実施	ノートの整理と重要事項のチェック（９０分）	評価に関する確認と理解 試験対応のための復習・理解（９０分）
16	※試験および解説 60分の試験終了、残りの30分で解説	試験対応準備（９０）	解説内容の確認・理解（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉と包括的支援　（科目ナンバリング：SWS123024　　）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　上原　正希　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１．地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。
２．地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。
３．地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。
４．地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。
５．包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。
６．地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。

※地域福祉と包括的支援体制Ｉで学修した内容をもとに、IIでは地域における具体的な実践について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する(2022年)。

到達目標

１．地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解することができる。
２．地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解することができる。
３．地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解することができる。
４．地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解することができる。
５．包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解することができる。
６．地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解することができる。

※地域福祉と包括的支援体制Ｉで学修した内容をもとに、IIでは地域における具体的な実践について理解することができる。

授業全体の内容と概要

１．地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について学ぶ。
２．地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を学ぶ。
３．地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を学ぶ。
４．包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について学ぶ。
５．地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を学ぶ。
６．テキストを中心に関連文献を適宜紹介し、参考文献として、その他文献資料も活用して学ぶ。
７．授業内容は、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験と関連付けて学ぶ。
８．地域福祉と包括的支援体制Ｉで学修した内容をもとに、IIでは地域における具体的な実践について学ぶ。

授業の方法

１．授業形態は講義形式だが、適宜、グループワークやディスカッションを含む。
２．テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
３．適宜、質疑応答を交える。
４．自然災害等などの状況により、オンライン授業やオンデマンドなどに変更になる場合もある。
　　しかし保育士養成課程学生については対面での実施となるため補講等を実施する。
５．ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等もある場合もある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．授業形態は講義形式だが、適宜、グループワークやディスカッションを含む。
２．テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
３．適宜、質疑応答を交える。
４．自然災害等などの状況により、オンライン授業やオンデマンドなどに変更になる場合もある。しかし保育士養成課程学生について
　　は対面での実施となるため補講等を実施する。
５．ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等もある。
６．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、保育士課程科目（選択）

評価方法・基準

評価前提条件

１．教科書は必ず持参すること。
２．必要な資料等は適宜配布する。
３．ＩとIIは同じ教科書を使用する。
４．自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
５．ソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	０％	０％	３０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
【知識】ソーシャルサポートネットワークについて理解する。	ソーシャルサポートネットワークについて非常に理解できた	ソーシャルサポートネットワークについておおむね理解できた	ソーシャルサポートネットワークについて理解できた	ソーシャルサポートネットワークについて一部理解ができなかった	ソーシャルサポートネットワークについて理解できなかった
【知識】地域における社会資源について理解する。	地域における社会資源について非常に理解できた	地域における社会資源についておおむね理解できた	地域における社会資源について理解できた	地域における社会資源について一部理解ができなかった	地域における社会資源について理解できなかった
【知識】災害時における地域福祉問題や対策について理解する。	災害時における地域福祉問題や対策について非常に理解できた	災害時における地域福祉問題や対策についておおむね理解できた	災害時における地域福祉問題や対策について理解できた	災害時における地域福祉問題や対策について一部理解ができなかった	災害時における地域福祉問題や対策について理解できなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地域福祉と包括的支援　（科目ナンバリング：SWS123024　）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　上原　正希　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『地域福祉と包括的支援体制』	福祉臨床シリーズ編集委員会	弘文堂	2022年	9784335612152	価格　/ 2,750（本体 / 2,500）
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ・シラバスの説明 ガイダンス（授業改善アンケート結果反映及びシラ	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
2	ソーシャルサポートネットワークについて	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
3	ソーシャルサポートネットワークについて－事例	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
4	地域における社会資源の活用・調整・開発について	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
5	地域における社会資源の活用・調整・開発について－事例	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
6	地域における福祉ニーズの把握方法と実際について	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
7	地域における福祉ニーズの把握方法と実際について－事例	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
8	地域トータルケアシステムの構築と実際について	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
9	地域トータルケアシステムの構築と実際について－展開方法	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
10	地域トータルケアシステムの構築と実際について－事例	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
11	地域における福祉サービスの評価方法について	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
12	災害支援と地域福祉について	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
13	災害支援と地域福祉について－事例	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
14	地域福祉と海外について－イギリス	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
15	地域福祉と海外について－アメリカ 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと(９０分)	ノート整理を行うこと(９０分)
16	【定期試験】６０分の試験終了後，残りの３０分で解説	テスト勉強をしておくこと(９０分)	テストの振り返りを行うこと(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	聴覚障害教育総論 （科目ナンバリング：SNE122113 ）				
授業担当者（所属・職名）	室岡　弘明（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	Ｉ号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 室岡　弘明 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	元道立聾学校・高等聾学校の校長としての学校現場の勤務経験や教育行政の経験を活かして、聴覚障害教育に係る今日的な課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

聴覚障害者の心理・生理・病理面からの考察を基盤として、我が国の聴覚障害教育の全体像を把握するとともに、聴覚障害児の発達と各段階における教育内容・方法について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、DP４、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

聴覚障害の特性と発達及び教育内容の特徴を理解し、説明するとともに、テーマに即して、限られた時間内でレポートを記述できる。

授業全体の内容と概要

聴覚障害の特性をおさえた上で、聴覚障害の種類・程度による発達的特性及びコミュニケーション能力と環境との関係性について具体的な事例を取り入れて構成する。また、毎回設定する「授業テーマ」をもとに、思考・考察、意見交換、討論、発表等の一連の活動を行う。
「SDG10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目

授業の方法

授業は、パワーポイントや実際の授業映像（DVD）および配布資料で実施し、資料にて説明した後、ディスカッションし、レポート提出を行う。なお、 レポートは評価並びにコメントを記入し、フィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職科目（特別支援教育）であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。
試験結果やレポートの提出状況、講義での取り組み状況により評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	４０%	０%	０%	10%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
聴覚障害の特性と教育内容の習得	聴覚障害教育に係る知識・技能を積極的に習得し、その内容を的確に説明できた。	聴覚障害教育に係る知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容をほぼ説明できた。	聴覚障害教育に係る基礎的な知識・技能の習得や、その内容説明ができなかった。
授業テーマに関するレポートの記述	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	聴覚障害教育総論 （科目ナンバリング：SNE122113 ）				
授業担当者（所属・職名）	室岡　弘明（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	Ｉ号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 室岡　弘明 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	元道立聾学校・高等聾学校の校長としての学校現場の勤務経験や教育行政の経験を活かして、聴覚障害教育に係る今日的な課題への対応を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『聴覚障害教育の基本と実際』	中野善達	田研出版	2008	978-4860890186	
2	『聴覚障害教育の手引』	文部科学省	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-562-2	
3	『聴覚障害教育のこれまでとこれから』	脇中起余子	北大路書房	2009	978-4762826900	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 耳の役割（聴覚障害とは）	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
2	特別支援学校（聾学校）の教育の実際	次回授業範囲を予習し、 関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
3	聴覚障害児が受ける教育の場	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
4	聞こえのしくみと聴覚障害の分類	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
5	聞こえと聴力検査の実際	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
6	オージオグラムと聴力型	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
7	補聴器と人工内耳	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
8	聴覚障害児の発達的特性（発達と心理）	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
9	聴覚障害幼児の言語発達	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
10	聴覚障害教育の歴史的経過（１）～欧米について	次回授業範囲を予習し、 関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
11	聴覚障害教育の歴史的経過（２）～日本について	次回授業範囲を予習し、 関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
12	聴覚障害教育における教育課程	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
13	聴覚障害者のコミュニケーション手段	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
14	保護者への支援	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
15	聴覚障害教育の実際、まとめ 授業改善アンケートの実施	次回授業範囲を予習し、 関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業 レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
16	試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行う。）	講義資料等で講義内容を整理する。（９０分）	試験の結果を見直す。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本文化史 （科目ナンバリング：HIS122122 ）				
授業担当者（所属・職名）	及川　琢英（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 及川　琢英 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

人と猫との関わり合いという切り口を通して、日本の文化、人間社会のあり様を考察する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ４、DP９に対応する。（2021年度）

到達目標

１．テーマに沿った文献や資料を提示することができる。
２．文献を批判的に考察することができる。
３．考察した内容を適切に表現できる。

授業全体の内容と概要

１．人と動物との関わり合いについて考察する。
２．日本独特の文化とは何かを考える。

授業の方法

受講者にはテキスト読解を担当してもらい、質疑応答を行う。またリアクションペーパーを書いて提出してもらい、次回にそれに対するコメントを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回配布する資料をしっかりと読み、読み切れなかった箇所に目を通して、次回の授業に臨むこと。
毎回のリアクションペーパー提出を持って出席に代える。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
文献・資料の取り扱い	授業で配布された資料を整理し、 自分で文献や資料を広く入手するとともに、テーマに沿って適切に提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館のみならず、広く入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理し、自分で文献や資料を図書館などで入手して提示できていた。	授業で配布された資料を整理できていた。	授業で配布された資料を整理できていなかった。
文献の批判的考察	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、複数の観点から分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して提示し、批判的な分析を行ったうえで、考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を取捨選択して、適切な考察がなされていた。	テーマに沿って、資料を提示し、考察がなされていた。	テーマに沿った資料を提示しての考察がなされていなかった。
考察内容の表現	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述を工夫するとともに、さらなる課題なども提示できていた。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示、記述も工夫され、説得力があった。	指示された枠組みに基づいて記述がなされ、資料の提示も適切になされていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていた。	指示された枠組みに基づいて記述されていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本文化史 （科目ナンバリング：HIS122122 ）				
授業担当者（所属・職名）	及川　琢英（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 及川　琢英 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『猫が歩いた近現代』	真辺将之	吉川弘文館	2021		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおく（９０分）	基礎的事項の確認（９０分）
2	猫の世界史	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
3	猫の世界史2	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
4	江戸時代の猫	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
5	明治初期の認識	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
6	文筆家と猫	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
7	猫絵	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
8	猫の需要	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
9	猫獲り	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
10	虐待と愛護	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
11	震災と戦争	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
12	猫食い	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
13	猫文化	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
14	生活の変化	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
15	猫ブーム	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）
16	猫の現代、授業改善アンケートの実施	学習内容について調べる（９０分）	資料を読み直し、関連事項を調べる（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習Ⅳ　（科目ナンバリング：APT323022　）				
授業担当者（所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　向井　正伸　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所にて教育、交通、宿泊、居住、文化施設といった様々な用途・規模の施設設計経験を踏まえ、学生との対話を重視した建築設計教育を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

公共建築の設計・プレゼンテーションを通じて、高い社会性と機能を持った建築の設計手法を学ぶ。そのため、建築学科で学んだ知識や人生経験もフル活用しながら、地域の環境や歴史のリサーチ等を通して住民の未来へ意識を向け、未来をつくる建築の設計をおこなう。この授業では特に、「思想をもってデザインする」、そして「考えたことを説得力を持たせて他者に伝える」ことに重きを置く。卒業設計の準備として、社会や地域への問題意識をもって取り組むこと。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP2、DP3に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP1、DP2、DP3、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

中-大規模の建築の計画与条件を満たし、設計者の考え方や主旨を盛り込んだ建築の設計ができる。また、その考え方や主旨ををわかりやすく表現するプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要

公共建築を成立させるためには、思い付きのアイディアをカタチにするだけでは不十分である。そのため、本授業では対話を中心としたエスキスを実施する。エスキスを通じて、学生自身がより多くのPDCAサイクル(Plan , Do (or Design) , Check , Action) を回す過程でアイディアを明確にし、より良い建築となるよう指導する。作品提出後は発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。
「SDGs１２　つくる責任　つかう責任」
「SDGs１１　住み続けられるまちづくりを」

授業の方法

授業では，板書やICTを活用しながら構造の考え方を説明し、双方向授業で実施する。また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評しフィードバックする。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業には必ず出席し、途中成果の提示と中間指導を受け、PDCAサイクル(Plan , Do (or Design) , Check , Action) を自主的に行うこと。　授業ではエスキスを中心に展開するため、授業時間外、自宅での制作が不可欠である。製図道具やケント紙、トレーシングペーパー、模型材料などは、各自が用意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度で総合判定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
計画の強さ　：　自分なりの思想をもち、説得力のある計画をし、説明できたか。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画をし、説明できた。	自分なりの思想をもち、説得力のある計画ができた。	自分なりの思想をもち、計画ができた。	思想をもって計画ができた。	思想をもち計画ができなかった。
計画の正確性　：　与条件や建築基準法に則った計画ができ、正確に作図ができていたか。	条件に適した施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。	条件に合った施設として計画し、各種図面が正しく作図することができた。	条件を踏まえた施設として計画し、各種図面を作図することができた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
表現力：　考えや設計内容をダイアグラムやパース、模型を用い表現できたか。人に伝わるプレゼンテーションができたか。	考えをダイヤグラムやパース、模型など用いて的確に表現ができ、他者を共感させることができた。	考えをダイヤグラムやパース、模型など用いて的確に表現ができた。	考えをダイヤグラムやパース、模型など用いて表現ができた。	ダイヤグラムやパース、模型など用いて表現ができた。	ダイヤグラムやパース、模型など用いて表現ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	建築設計演習Ⅳ　（科目ナンバリング：APT323022　）				
授業担当者（所属・職名）	向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　向井　正伸　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計事務所にて教育、交通、宿泊、居住、文化施設といった様々な用途・規模の施設設計経験を踏まえ、学生との対話を重視した建築設計教育を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『第4版 コンパクト建築設計資料集成』	日本建築学会	丸善株式会社	2024	978-4621307427	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	プリントを読んで理解しておくこと（90分）
2	課題１　まちをリサーチし、大きなテーマで小さな建築をつくる　課題説明	プリントを読んで理解しておくこと（90分）	課題のプリントを読み、デザイン検討する（90分）
3	課題１　エスキスチェック①	デザインしたものを表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
4	課題１　エスキスチェック②	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
5	課題１　発表・質疑応答・課題2　発表	デザインを改善し、表現する（90分）	講評会の内容をまとめる（90分）
6	課題２　課題説明	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	現地見学のポイントをピックアップする（90分）
7	課題２　中間指導①　（エスキスチェック：コンセプト）	取り組みスケジュールを作成する（90分）	敷地調査結果をまとめデザインアイディアを作成する（90分）
8	課題２　中間指導②　（エスキスチェック：コンセプトと全体計画）	アイディアをカタチにし、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
9	課題２　中間指導②　（エスキスチェック：コンセプトと全体計画）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
10	課題２　中間指導③　（エスキスチェック：ランドスケープと平面計画）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
11	課題２　中間指導④　（エスキスチェック：平面計画と断面構成）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
12	課題２　中間指導⑤　（エスキスチェック：平面計画と断面構成）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
13	課題２　中間指導⑥　（エスキスチェック：作図　ダイアグラム　プレゼンテーション）	デザインを改善し、表現する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
14	課題２　中間指導⑦　（エスキスチェック：作図　ダイアグラム　プレゼンテーション）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	エスキスの改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
15	課題提出・講評会	プレゼンテーションにまとめる（90分）	改善点をまとめる（90分）
16	合同発表会	プレゼンテーションにまとめる（90分）	ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂと栄養 （科目ナンバリング：SPS422072，SPS522057 ）				
授業担当者（所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 湯浅　頼佳 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

この科目では「スポーツと栄養」についての理解と実践方法を学ぶ。また、スポーツ選手の栄養・食事管理・コンディショニング維持に必要な知識を修得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

基本的な栄養学について理解をするとともに日常の食材や食品から栄養のバランスや摂取量を判断できる能力も養い，コンディショニングの維持が実際にできるようにする。

授業全体の内容と概要

スポーツ種目別の栄養・食事内容の特徴、身体組成の測定方法、また，トレーニング期、調整期、試合前後それぞれのステージにおける食事の特徴や、アスリートと一般人における食事の相違点などについて解説する。
SDG４．「質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

板書を中心に、実際のスポーツチームの栄養管理方法等のDVDなども取り入れながら講義形式で実施する。
実際に食事調査に関しても実際にグループワークで行い、そこから見えてくる問題に対して取り上げ解説する。小テストは５回実施し、回収後フィードバックとして回答解説を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・単位認定に必要となる出席回数は全体授業数の３分の２回以上とする。また遅刻3回で欠席1回とみなす。
日本体育協会講習会科目#12,#36使用。「公認スポーツ指導者養成テキストⅠ・Ⅲ」のワークブックから問題を出す。詳細については授業中に指示する。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

スポーツ指導者（スポーツリーダー）資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は全体授業数の３分の２以上とする。定期試験、出席、レポート提出を上表の基準で評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
９０%	０%	０%	０%	５%	５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解(理解力)	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を深く理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を概ね理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を多少理解できた。	スポーツと栄養の関わりについて基礎的な知識を理解できなかった。
汎用的機能(思考力)	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について深く考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について概ね考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について多少考察できた。	スポーツリーダーを目指すものとしてスポーツと栄養の関係性について考察できなかった。
態度・志向性(意欲)	授業に意欲的に参加する事ができた。	授業に概ね意欲的に参加する事ができた。	授業に休ほぼ意欲的に参加する事ができた。	授業に意欲的に参加する事が少なかった。	授業に意欲的に参加する事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂと栄養 （科目ナンバリング：SPS422072，SPS522057 ）				
授業担当者（所属・職名）	湯浅　頼佳（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 湯浅　頼佳 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『養成講習会用テキストReference Book』	JSPO	公益財団法人日本スポーツ協会			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明及びスポーツと栄養（５大栄養素・栄養のバランス）(#12)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(９０分)
2	炭水化物・穀物・主食	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(９０分)
3	たんぱく質・筋肉づくり・主菜	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(９０分)
4	脂質の栄養学的意義	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(９０分)
5	食物繊維・野菜	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(９０分)
6	スポーツと栄養（食事の摂り方・水分補給）(#12)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(９０分)
7	コンディショニング維持とビタミン	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(９０分)
8	コンディショニング維持とミネラル	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(９０分)
9	アスリートの栄養摂取と食生活①(#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(９０分)
10	アスリートの栄養摂取と食生活②(#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(９０分)
11	アスリートの栄養摂取と食生活③(#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(９０分)
12	アスリートの栄養摂取と食生活④(#36)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(９０分)
13	外食と栄養のバランス	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(９０分)
14	減量と食事	教科書の学習内容部分を数回読んでおく事(９０分)	毎回授業後にノート整理を含めた復習を行う事(９０分)
15	まとめ	今までの小テストについて確認をしておく事(９０分)	整理したノートから試験範囲をまとめる事(９０分)
16	授業改善アンケートの実施 定期試験実施日 ６０分の試験終了後，残りの３０分で解説を行う。	試験準備（９０分）	試験のふりかえり（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	視覚障害教育総論　（科目ナンバリング：SNE122112　）				
授業担当者（所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　木村　浩紀　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、視覚障害教育に関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

特別支援教育の教師を目指すため、視覚障害の特性の理解と、学習上・生活上の困難を改善・克服する教育についての基本的知識を習得し、視覚障害教育に携わる者の意欲・態度等の基本的資質について学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

視覚障害の特性を、眼疾患や心理面、歴史、職業、学校制度から基本的な理解ができる。また、視覚障害による学習上・生活上の困難さの理解を基に、視覚障害者が社会参加・自立できるための教育について基礎的知識を習得することができ、視覚障害教育に携わる者としての知識・意欲・態度の資質を養うことができる。

授業全体の内容と概要

１.前半を「視覚障害者の心理・生理・病理」、後半を「視覚障害教育」を中心に構成する。
２.「心理・生理・病理」では、視覚障害児の眼疾患や視知覚の状況、心理面の理解等を学び、「教育論」では、学習上・生　活上の困難さを改善・克服するための点字や歩行、触察など自立活動を中心に、歴史やキャリア教育等、視覚障害教育の課題等についても学ぶ構成をする。
３.具体的な理解を図るため、歩行や触察等の疑似体験や視覚教材視聴等の構成とする。
ＳＤＧ４．「質の高い教育を教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１.講義では、各項目の特徴を明らかにすることを重視し、振り替えしシートで講義内容を整理する。
２.講義ではできない体験や点字など時間をかけて復習することが必要なものについては課題とし、内容の定着を図る。
３.自立活動や指導の実践については、簡単な演習や映像・スライド等で理解を深める。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１.振り返りシートは講義後（当日）に提出、課題については提出日の講義前に提出すること。
２.「歩行」・「触察」時にアイマスクやお金を使用するので、衛生面上、必ず各自で準備すること。
３.「歩行」時は服装や靴など動きやすいものを準備すること。
４.不測の事態が生じた際の授業等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席回数は、１１　回以上。
・試験結果や課題の提出状況、発表等の講義での取り組み状況により評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
２５%	０%	４０%	２５%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
準備・課題学習	課題学習等に努め、基本的・応用的理解が身についているとともに、自主的な学習にも取り組んだ。	課題学習等に努め、基本的・応用的な理解が身についた。	課題学習等に努め、基本的理解が身についた。	課題学習等に努め、提出した。	課題学習等への取り組みが不十分で、空白部分多かったり、未提出が多かった。
視覚障害者（眼疾患等）や視覚障害教育（指導内容・方法等）についての理解	視覚障害教育について、意欲的に学び、興味・関心を高め、自ら課題をみつけ調査したり、要点をまとめた。	視覚障害教育について、良く学び、基本的理解が十分身についた。	視覚障害教育について、学ぶ意欲が高まり、基本的理解が身につくようになった。	視覚障害教育について、基本的理解への努力がみられるようになった。	視覚障害教育について、基本的理解への努力がみられなかった。
視覚障害教育への関心・意欲・態度	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が、応答・発表等に著しくみられた。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が、応答・発表等に十分にみられた。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が、応答・発表等にみられた。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲が、みられるようになった。	視覚障害者の教育に携わる者としての意欲・態度が、応答・発表等にみられなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	視覚障害教育総論 （科目ナンバリング：SNE122112 ）				
授業担当者（所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 木村　浩紀 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	特別支援学校や教育行政における勤務経験を活かして、視覚障害教育に関する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『視覚障害教育に携わる方のために（五訂版）』	香川　邦生ほか	慶應義塾出版	2016年	978-4-7664-2367-9	
2	『新・視覚障害教育入門』	青柳まゆみ・鳥山由子	ジアース教育新社	2021年	978-4-86371-533-2	
3	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2022年	978-4-86371-548-6	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ・授業計画（シラバス）の説明 ・視覚障害者の生活と視覚認知	シラバスの確認。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
2	目の構造・機能と視覚障害 ・視覚認知 ・目の構造と機能	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
3	視機能の役割と視覚障害児における眼疾患 ・目の機能 ・視機能の障害	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
4	視覚障害児の眼疾患と視知覚・触知覚の発達 ・主な眼疾患 ・視知覚・触知覚の発達	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
5	視覚障害者の心理と社会性の発達 ・視覚障害の疑似体験（触察）（アイマスク使用） ・弱視児の見え方	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
6	視力検査の実際と視機能検査 ・視覚障害者の程度の把握 ・視力検査等の実際	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
7	視覚障害児の心理（発達）検査と指導との関連 ・視知覚検査の実際 ・指導との関連	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
8	心理・生理・病理のまとめ ・試験（６０分）	前半の復習。（９０分）	講義内容の整理。（９０分）
9	視覚障害教育の歴史 ・視覚障害教育の歴史 ・北海道の視覚障害教育の歩み	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
10	視覚障害教育の対象と教育の場 ・就学基準 ・教育の場と各学校の現状	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
11	視覚障害教育の教育課程と指導上の配慮事項 ・教育課程 ・指導上の配慮事項	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
12	点字の歴史と点字の概要 ・点字の歴史 ・点字の概要と仕組み	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
13	点字の読み書きの実際 ・点字の読み書き ・指導の実際	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
14	視覚障害児における自立活動（歩行等） ・自立活動の指導 ・歩行指導	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
15	歩行指導の実際とキャリア教育 ・歩行指導の実際（介添え等）（アイマスク使用） ・進路と三療	学習内容の確認と関連事項を調べる。（９０分）	講義内容の整理と課題の作成。（９０分）
16	視覚障害教育のまとめ ・試験（６０分） 授業改善アンケートの実施	後半の復習。（９０分）	講義全体の振り返り。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　（科目ナンバリング：DES222027　）				
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　林　春生　）		CAP制	X	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板を参照				

概要

履修目標

モノ、コト、商品をデザインする、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、
プレゼンテーション技術、デザイナーとしての人間力を習得する。

授業全体の内容と概要

デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、
ポスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。

授業の方法

課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	80%	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を辛うじて捉え、今まで以上の価値を辛うじて出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。
新デザイン提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝII	（科目ナンバリング：DES222027 ）			
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 林　春生 ）		CAP制	X	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ発表	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
8	アイデアスケッチまとめ１	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
9	アイデアスケッチ１プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
10	アイデアスケッチ２	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
11	アイデアスケッチ２まとめ	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
12	アイデアスケッチ２プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
14	デザイン作業 造形面の確認	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
15	デザイン作業 人に優しいか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
16	デザイン作業 第三者に伝わるか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	デザイン審査 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
18	デザイン再考 コンセプトは大丈夫か	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
20	デザイン修正 ディテールアップ	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
21	レンダリング	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
22	レンダリング 全体の構図チェック	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
23	レンダリング サブモックを作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
24	レンダリング モックの作成方法を検討	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
25	レンダリング モックの確認	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
26	レンダリング サブモックを作成仕上げ向かう	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
27	レンダリング サブモックを完成させる	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 第三者に伝わるか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 最終チェック	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
32	総評 授業改善アンケートの実施	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｺｰﾁﾝｸﾞ方法論 （科目ナンバリング：S0P523083 ）				
授業担当者（所属・職名）	伊藤　博（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	体育棟1階スポーツ課	
単位数	2 （単位認定責任者： 伊藤　博 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	2003年から2018年までプロ野球読売巨人軍にてトレーニングコーチを務める。 2019年から2021年まで社会人野球北海道ガスにて野手担当コーチを務める。 その他高校、大学、社会人等多数のチームでのフィジカル及び技術指導を経験。 異なるカテゴリー及び年齢層でのコーチングを経験する中で、その方法論を学ぶ。		
オフィスアワー	体育棟前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

指導対象者（選手及びチーム）がその目標を達成する為に、スポーツ指導者（コーチ）としてどのようにアプローチすべきかの基本的な考え方や具体的な方法について学習する。

授業の位置づけ

経営学科のDP２、DP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

①スポーツ指導者として必要な基本理念を理解する
②目標設定についての具体的な方法について理解する
③ティーチングとコーチングの違いを理解し、それぞれの基本となる概念を理解する
④具体的手法を用いて、目標達成に向けて適切な指導が実施出来る

授業全体の内容と概要

講義により基本的な考え方を学び、実習でティーチング及びコーチングを実践する
「SDG 3.すべての人に健康と福祉を」の関連科目。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業はパワーポイントを使用し、講義形式で実施する。
レポートへの対応はコメントや解説などでフィードバックを行う。
実習は講義内で学生に発表を行わせる。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

自身が取り組んでいる（取り組んでいた）競技の経験と照らし合わせての学習が効果的と考える。
もしくは身近な何らかの課題において、目標達成に向けてどうアプローチするかを参考にして学習する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	４０%	０%	0%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学習した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても獲得した	学習した知識・技能を確実に修得した	学習した知識・技能のすべてを修得することはできなかった	学習した知識・技能を修得したが最低限容認できるレベルにとどまった	学修に真面目に取学習まなかった
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。課題に対する理解力やプレゼンテーションの能力に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組んだ。積極性や協働性に関しては求められるレベルを大きく超えた	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルを達成した	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては、求められるレベルには達しなかった	与えられた課題に取り組んだ。積極性や協働性に関しては最低限容認できるレベルにとどまった	与えられた課題に真面目に取り組まなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｺｰﾁﾝｸﾞ方法論 （科目ナンバリング：S0P523083 ）				
授業担当者（所属・職名）	伊藤　博（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	体育棟1階スポーツ課	
単位数	2 （単位認定責任者： 伊藤　博 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	2003年から2018年までプロ野球読売巨人軍にてトレーニングコーチを務める。 2019年から2021年まで社会人野球北海道ガスにて野手担当コーチを務める。 その他高校、大学、社会人等多数のチームでのフィジカル及び技術指導を経験。 異なるカテゴリー及び年齢層でのコーチングを経験する中で、その方法論を学ぶ。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ダブル・ゴール・コーチ』	Jim・Tompson	東洋館出版社	2021	9784491035901	
2	『ポジティブ・コーチング』	Raymond M.Nakamura	サイエンティスト社	2001	9784914903855	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 スポーツ指導者としての心構え 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでおく（９０分）	学習内容の復習（９０分）
2	コーチとは何か	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
3	ティーチングとコーチング	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
4	目標設定	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
5	ティーチング　概念	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
6	ティーチング　具体的手法	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
7	ティーチング　事例	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
8	ティーチング　実習	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
9	コーチング　概念	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
10	コーチング　具体的手法①	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
11	コーチング　具体的手法②	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
12	コーチング　具体的手法③	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
13	コーチング　事例	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
14	コーチング　実習	学習のテーマについて事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
15	補足・まとめ	今までの学習について事前に調べる（９０分）	学習内容の復習（９０分）
16	期末試験（60分）解説（30分） 授業改善アンケートの実施	期末試験準備（90分）	期末試験内容の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科（経営スポーツコース）・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修（教
科目名称	保健体育科教育法Ⅱ （科目ナンバリング：DMB543120 ）				
授業担当者（所属・職名）	森　靖明（経営学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 森　靖明 ）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭及び教育委員会指導主事の経験を生かして、授業実践の在り方及び指導内容や指導方法の工夫・改善の実際について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独自の役割を理解し、学習指導の基本・実務的事項を修得する。また、保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について修得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP２、DP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

中学校及び高等学校の保健体育科の授業の特質を理解するとともに、教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について説明できるとともに、これらを踏まえて模擬授業を実践することができる。

授業全体の内容と概要

カリキュラムマネジメントに基づいて各回のテーマに反って授業の検証を行なって質の高い講義をするとともに、主体的・実践的・具体的な理解を可能とするように考察・討論・発表などの活動を行う。授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。「SDGs 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

授業の方法

学校教育の動向、中学校及び高等学校の保健体育科の学習内容に関してはパワーポイント及び学習指導要領解説を用いながら行い、授業づくりについてはグループワークを行いながら検討し、最終的に模擬授業を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻は講義開始後１０分までとし、その時間以降の受講は欠席扱いとする。公欠及び病欠は大学で認められているものに準ずることとし、その場合は欠席課題を提出する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

復習を中心に毎回の授業内容を自分で保健体育の授業づくりに応用できるようにする。授業時間と同様の復習および次回の授業に向けた予習時間を確保するようにする。授業づくりに係る学習指導案作成、教材作成と模擬授業を実践できる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	５０％（指導案）	５０％（模擬授業）	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
中学校及び高等学校保健体育科教育の目的・目標と評価との関わりについて理解する。	保健体育科の目的、目標と評価との関わりについて、学習指導要領解説、教科書を基に明確に整理することができていた。	保健体育科の目的、目標と評価との関わりについて、学習指導要領解説、教科書を参考にしながら必要な情報を選択することができていた。	保健体育科の目標と評価の観点について、学習指導要領解説、教科書を参考にしながら説明できていた。	保健体育科の目標と評価の観点について列挙できていた。	保健体育科の目標と評価の観点について想起することができていなかった。
中学校及び高等学校保健体育科教育に関わる学習指導の基本・実務的事項について理解する。	学習指導案の様式と記載内容について、授業づくりに係る必要な情報と関連づけながら根拠を持って説明し、学習指導案の様式にあてはめることができていた。	学習指導案の様式と記載内容について、授業づくりに係る必要な情報を列挙しながら学習指導案の様式にあてはめることができていた。	学習指導案の様式と記載内容について、学習指導要領解説から学年ごとに抜き出して整理することができていた。	学習指導案の様式と記載内容について列挙することができていた。	学習指導案の様式と記載内容について想起することができていなかった。
保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術を用いて授業実践できる。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして作成した学習指導案や教材を作成して模擬授業を実践できるとともに、他者の授業に対しても批判的視点で評価することができていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして作成した学習指導案を基に模擬授業を実践できるとともに、他者の授業および教材と比較し、違いについて理解できていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして作成した学習指導案および教材を使用して模擬授業を実践できていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして作成した学習指導案を基に模擬授業を実践できていた。	学習指導要領解説及び教科書、そのほかの授業づくりに係る資料を参考にして学習指導案を作成、模擬授業を実践できていなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科（経営スポーツコース）・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修（教
科目名称	保健体育科教育法Ⅱ （科目ナンバリング：DMB543120 ）				
授業担当者（所属・職名）	森　靖明（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階　非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 森　靖明 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭及び教育委員会指導主事の経験を生かして、授業実践の在り方及び指導内容や指導方法の工夫・改善の実際について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領解説－保健体育編－』	文部科学省	東山書房	平成３０年	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領解説－保健体育編－』	文部科学省	東山書房	平成３１年	9787-4-8278-15689-9	
3	『新しい保健体育』	戸田　芳雄他	東京書籍	2021	978-4487123711	
4	『現代高等保健体育』	衛藤　隆他	大修館	2022	978-4469663198	
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 ガイダンス、保健科教育の意義と目的	シラバスを熟読し、本講義について理解しておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
2	保健科教育の変遷	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
3	「保健」の担当教師に求められる能力	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
4	保健科教育の内的･外的条件	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
5	保健科教育の目標	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
6	「保健」の学習内容	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
7	保健学習を効果的にすすめるための教材作成	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
8	保健学習の評価	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
9	学習指導案の作成　学習指導の様式と指導計画	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
10	学習指導案の作成Ⅰ	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
11	学習指導案の作成Ⅱ	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
12	学習指導案の作成Ⅲ	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
13	模擬授業Ⅰ　－中学校および高等学校(保健)－	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
14	模擬授業Ⅱ　－中学校および高等学校(保健)－	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
15	模擬授業Ⅲ　－中学校および高等学校(保健)－	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	学習内容を復習し専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
16	模擬授業Ⅳ　－中学校および高等学校(保健)－、 講義のフィードバック 授業改善アンケートの実施	教科書等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	住宅設計演習Ⅱ　（科目ナンバリング：APT323112　）				
授業担当者（所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）　向井正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　君　興治　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整し研究室もしくはオンラインで対応。				

概要

履修目標

課題として、住宅建築の計画・設計・作図を行う。土地、地域、利用者、建物の規模、をもとに、利用の目的やそれに合わせた動線計画を行う。本科目では、課題に合わせた平面計画をし、それを正しく作図し、プレゼンテーションする手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP3、DP4に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

住宅建築の主要条件、付帯条件を満たし、建築関係法規に則った計画に、設計者の考え方設計主旨を盛り込み、その内容をわかりやすく表現する建築計画とプレゼンテーションができる。

授業全体の内容と概要

木造・RC壁式構造で低層集合住宅の計画とコンセプトを段階的に指導することで、設計者の意図をダイヤグラム、パースもしくは模型を使い、伝わるような表現方法を修得する。提出後は、作品の発表会を行い、他の作品から多様な考えと自分の作品を比較し、学ぶ機会を設ける。
「SDGs１２　つくる責任　つかう責任」
「SDGs１１　住み続けられるまちづくりを」
狭い視野での設計だけでなく町や地域を念頭においた設計を指導する。

授業の方法

授業では，板書やICT（チームスを使用しながら、図面をオンライン上その場で液晶ペンタブレットで添削し、毎事業ごとに保存することで、授業の課題経過をデジタル的にの残し、振り返りの自習を実現する。）をしながら詳細図をもとに構造の考え方を説明し、双方向授業で実施する。
また、授業中毎回、進行状況と中間指導を行い添削する。プレゼンテーションに対しては授業内で講評しフィードバックする。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題を構築するために、授業には必ず出席し、成果の提示と中間指導を受けなければならない。また、課題の説明等主要な説明は授業の最初に行われるため遅刻は厳禁とする。時間割上の授業時間内だけで図面を完成させることはむずかしいと思われるので、時間外、および自宅での製図が不可欠である。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、12回以上。提出課題と受講態度との総合判定

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
住宅建築において、主要条件、付帯条件に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
建築関係法規に則った計画ができていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
設計主旨に合った建築計画が出来ていたか。	各種図面が適した計画であり、正しく作図することができていた。	各種図面の計画ができ、正しく作図することができていた。	各種図面を正しく作図することができていた。	各種図面を作図することができていた。	各種図面を作図することができなかった。
初めてこの作品を見た人が理解しやすいプレゼンテーションで表現されていたか。	各種図面が適したデザインであり、正しく表現することができていた。	各種図面のデザインができ、正しく表現することができていた。	各種図面を正しく表現することができていた。	各種図面を表現することができていた。	各種図面を表現することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	住宅設計演習Ⅱ　（科目ナンバリング：APT323112　）				
授業担当者（所属・職名）	君　興治（建築学科・特任准教授）　向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館４階	
単位数	1　（単位認定責任者：　君　興治　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築事務所所長としての経験から、設計者が考えた思考やアイディアが、見る人に伝わり、理解してもらえるような表現方法と工夫を、図面に反映させる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「コンパクト建築設計資料集成　第３版」　日本建築学会編』	村田誠四郎	丸善株式会社	2005	9784621075098	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『矩計図で徹底的に学ぶ住宅設計「RC編」』	中山　繁信	オーム社	2016	9784274218828	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	プリントを読んで理解しておくこと（90分）
2	即日課題１　低層集合住宅計画　木構造	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
3	即日課題２　低層集合住宅計画　木構造	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
4	即日課題３　低層集合住宅計画　RC壁式構造	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
5	即日課題４　低層集合住宅計画　RC壁式構造	即日課題用低層集合住宅について考えをまとめる（90分）	即日課題の改善点をまとめ赤ペンで描き込む（90分）
6	設計課題　低層集合住宅計画　木構造・RC壁式構造 （課題説明、集合住宅の解説）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
7	設計課題　低層集合住宅計画　木構造・RC壁式構造 （課題説明、集合住宅の解説）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
8	中間指導②　コンセプトと全体計画 （エスキスチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
9	中間指導③　全体計画とランドスケープ （エスキスチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
10	中間指導④　ランドスケープと平面計画 （エスキスチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
11	中間指導⑤　平面計画と断面構成 （エスキスチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
12	中間指導⑥　平面計画と断面構成 （ダイアグラムについて）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
13	中間指導⑦　模型とプレゼンテーション （模型の造り方　レイアウトチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
14	中間指導⑧　プレゼンテーション （レイアウトチェック）	課題について自分の考えを書面でまとめ提出する（90分）	設計課題で確定した内容をCAD等でデータとして保存する。（90分）
15	課題提出・講評会	提出課題の準備をしておくこと（90分）	他の学生の発表内容をまとめる（90分）
16	最終指導　プレゼンテーションの指導 解説し、フィードバック 授業改善アンケートの実施	講評会の内容からさらにどのようにプレゼンするか考えておくこと（90分）	作品の調整、ポートフォリオに使用できるようにプレゼンを行う（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態		必修・選択	
科目名称	地域政策論 （科目ナンバリング：ECP422045，ECP522044 ）				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	2 （単位認定責任者： ）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー					

概要

履修目標

授業の位置づけ

到達目標

授業全体の内容と概要

授業の方法

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

修学サポート（合理的配慮）

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態		必修・選択	
科目名称	地域政策論	（科目ナンバリング：ECP422045，ECP522044 ）			
授業担当者（所属・職名）			研究室等所在		
単位数	2 （単位認定責任者： ）		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義・演習	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法III　（科目ナンバリング：DMB543121　）				
授業担当者（所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　髙井　雅一　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法IIIに関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

概要

履修目標

保健体育科の意義や内容をはじめ、各領域の内容・計画方法・評価等を学科目であり、授業設計を身につけ、保健体育教師としての基本的な学習指導理論を理解できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ２、DP４に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

保健体育科の目標・内容をはじめ、体育の各領域の特性に応じた指導計画の作成や評価の在り方並びに基礎的な学習指導理論等を理解し、子どもの実態を視野に入れた効果的な授業を設計する。

授業全体の内容と概要

・中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独自の役割をわかりやすく理解させる。
・保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について、意見交換で自分の意見を述べることができ、グループ学習の中で、多様な指導方法を身につけるとともに、多様な評価方法の在り方を理解する。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。〔SDG4〕質の高い教育活動を進めていくための指導計画案の作成。

授業の方法

・各回のテーマに関してプリンと等を使用して説明を行う。
・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等一連の活動を行う。
・データーを共有しながら、パソコンを使用し、仲間と相談しながら作成する。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・講義で配布するプリント類はファイル等の整然と保管し必要時に参照できるようにすること。
・２０分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	２０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保健体育科教育の基本的構造についての理解	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（９割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（８割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（７割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程について理解できた。	保健体育教育の基本的構造を理解できなかった。
教師としての基本的な学習指導理論の認識、思考・判断および実践	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（９割）	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（８割）	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（７割）	教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。	教師としての基本的な学習指導理論を理解できず実践できなかった。
指導案作成・模擬授業	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成し模擬授業ができた。（９割）	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成し模擬授業ができた。（８割）	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成し模擬授業ができた。（７割）	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成できた。	知識と指導技術が身についておらず指導案の作成ができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義・演習	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法III （科目ナンバリング：DMB543121 ）				
授業担当者（所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 髙井　雅一 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法IIIに関する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	２０１８	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領（平成３０年告示）保健体育編　体育編』	文部科学省	東山書房	２０１９	9784827815689	
3	『新しい中学保健体育　』	戸田芳雄　他	東京書籍	２０２４	9784487123711	
4	『現代高等保健体育　』	衛藤　隆　他	大修館書店	２０２４	9784469663198	
5	『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　中学校　保健体育』	文部科学省	東洋館出版社	２０２０	9784491041384	

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ステップアップ中学体育２０２４』	髙橋　健夫　他	大修館書店	２０２４		
2	『ステップアップ高校スポーツ2024』	髙橋　建夫　他	大修館書店	２０２４		
3	『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』	文部科学省	東山書房	２０１８		
4	『高等学校学習指導要領平成30年告示）解説』	文部科学省	東山書房	２０１９		
5	『体育科教育学入門　三訂版』	岡出美則、友添秀則、岩田靖	大修館書店	２０１６		

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 今、求められている体育教師とは	理想の体育教師像とはどのような教師なのか考えてくる	まとめられる体育教師像で、自身が不足していることをまとめる
2	体育授業で取り上げる内容・領域について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
3	体つくり運動の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
4	器械運動の特性と情報機器を活用した授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
5	陸上競技の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
6	水泳の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
7	球技(1)ネット型の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
8	球技(2)ゴール型の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
9	教球技(3)ベースボール型の特性と授業づくりの手順について	前時に予行した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
10	武道(1)柔道の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
11	武道(2)剣道の特性と授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
12	ダンスの特性と情報機器を活用した授業づくりの手順について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
13	体育理論の指導内容と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
14	指導案の作成方法について（その１）	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるように準備する。（９０分）
15	指導案の作成方法について（その２） 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分の意見をまとめておく。（９０分）	講義の内容を総復習する。（９０分）
16	定期試験（６０分）、終了後、試験の解説（３０分）	全講義内容を復習（９０分）	本時の学修内容をまとめて提出する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門)II　（科目ナンバリング：SWS122027　）				
授業担当者（所属・職名）	・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授） ・櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　小早川　俊哉　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	SW，CWとしての経験を有する教員が担当し、実践事例を参照しながら講義を進める。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

高齢、障がい、地域・行政、児童といった社会福祉各領域の事例を検証することによって、クライエントの主訴の読み取り、ニーズに合致した支援方法を考察することにより、ソーシャルワーク実践を考察する視点を養う。あわせてロールプレイングを通して面接技法における要点を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１，DP２，DP３，DP４に対応する（２０２３年度）

到達目標

事例を検討することから真のニーズを把握する洞察力を養い、ロールプレイを通して面接技法を習得する。また、次年度以降の現場実習に向けて、積極的な討議参加や自己表現ができる。

授業全体の内容と概要

事例検討を中心に、相談援助演習Ｉで学んだことを、グループワーク、ロールプレイ等を通して、実践に近い形で学び、体得する。

授業の方法

3～4グループに分かれ（1グループ20名以内）事例検討、ロールプレイ、事例検討の結果発表を行う。教員のアドバイス的な講義を含めつつ、学生自身が積極的に学び取るアクティブラーニング演習を行う。また、附属の事態が生じたときは補講、オンライン等で講義を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

この科目の単位が取得できない場合、次年度の相談援助実習及び相談援助実習指導III・IVは履修できないので注意すること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程，精神保健福祉士国家試験受験資格課程，子育て支援ソーシャルワーカー資格課程，スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数20回以上をクリアすること

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	０%	０%	０%	７０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワーク実践事例の理解。	ソーシャルワーク実践事例を読み込み、グループディスカッションに積極的に参加し、付随した課題に明確な回答を与え、且つ、その理由を説明できた。	ソーシャルワーク実践事例を読み込み、グループディスカッションに積極的に参加できた。	ソーシャルワーク実践事例の読み込みが的確であった。	グループディスカッションに積極的に参加できた。	ディスカッションへの参加も消極的で、事例に付随した課題にも回答できなかった。
ロールプレイングへの積極的参加	ロールプレイングの場面の作成を積極的に行い、且つＣＬ、ＳＷ各々の役割をこなし、ＯＳＣＥ項目の平均４点以上をキープできた。（５段階評価）	ロールプレイングの場面の作成を積極的に行い、且つＣＬ、ＳＷ各々の役割をこなし、ＯＳＣＥ項目の平均３点以上をキープできた。（５段階評価）	ロールプレイングの場面の作成を積極的に行い、且つＣＬ、ＳＷ各々の役割をこなしていた。	ロールプレイングに積極的に参加してきた。	ロールプレイングへの積極的参加ができなかった。。
チームワーク、リーダーシップ、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点、といった応用課題を理解する	チームワーク、リーダーシップ、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点各々について明確に言語で説明できた。	チームワーク、スーパービジョン、ソーシャルワークの視点について明確な言語で説明できた。	チームワーク、ソーシャルワークの視点について明確な言語で説明できた。	ソーシャルワークの視点について明確な言語で説明できた。	左記の言語全てを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ （科目ナンバリング：SWS122027 ）				
授業担当者（所属・職名）	・杉本　大輔（社会福祉学科・准教授） ・櫻井　美帆子（社会福祉学科・准教		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 小早川　俊哉 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	SW，CWとしての経験を有する教員が担当し、実践事例を参照しながら講義を進める。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「ソーシャルワーク演習ワークブック」』	相澤譲治　植戸貴子	（株）みらい	2013年	978-4-86015-123-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明	前期科目の復習（４５分）	テキストの読み込み（４５分）
2	ソーシャルワークプロセスの再確認	前期科目の復習（４５分）	テキストの読み込み（４５分）
3	事例研究１「倫理と組織：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
4	事例研究１「倫理と組織：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
5	事例研究２「高齢者介護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
6	事例研究２「高齢者介護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
7	事例研究３「知的障がい者：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
8	事例研究３「知的障がい者：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
9	事例研究４「児童虐待：ニーズの把握とグループ討」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
10	事例研究４「児童虐待：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
11	事例研究５「ＤＶ：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
12	事例研究５「ＤＶ：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
13	事例研究６「ストレングス：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
14	事例研究６「ストレングス：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
15	事例研究７「障がい児：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
16	事例研究７「障がい児：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（90分）	事例検討結果の検証（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	事例研究８「生活保護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
18	事例研究８「生活保護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
19	事例研究９「生活保護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
20	事例研究９「生活保護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
21	事例研究１０「権利擁護：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
22	事例研究１０「権利擁護：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
23	事例研究１１「地域：ニーズの把握とグループ討議」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
24	事例研究１１「地域：問題解決へのプランニング」	テキストの読み込み（４５分）	事例検討結果の検証（４５分）
25	応用演習（チームワーク）	テキストの読み込み（４５分）	講義中の自己の振り返り（４５分）
26	応用演習（リーダーシップ）	テキストの読み込み（４５分）	講義中の自己の振り返り（４５分）
27	応用演習（スーパービジョン）	テキストの読み込み（４５分）	講義中の自己の振り返り（４５分）
28	応用演習（ソーシャルワークの視点）	テキストの読み込み（90分）	講義中の自己の振り返り（90分）
29	各学生の気づき（グループ討議）	テキストの読み込み（４５分）	講義中の自己の振り返り（４５分）
30	振り返りと相談援助実習に向けて	テキストの読み込み（４５分）	講義中の自己の振り返り（４５分）
31	実習事例検討（利用者理解とコミュニケーション）	テキストの読み込み（４５分）	全体を通しての振り返り（４５分）
32	実習事例検討（アセスメントと生活場面面接）	テキストの読み込み（４５分）	全体を通しての振り返り（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築環境Ⅱ （科目ナンバリング：AEN323024 ）				
授業担当者（所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 伊藤　裕康 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

外界の厳しい自然環境から人間生活を護り、快適な室内環境を実現するために、「建築環境Ⅰ」の内容に引き続き、建築伝熱、建築音響、湿気・結露の物理的基礎、及びその建築計画上の方法を理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP1、DP2、DP7に対応する。（2021年度）

到達目標

建築計画上の物理的基礎として、熱貫流の３つの過程、音波の基本的性質や音の強さ、湿り空気の性質を理解できる。

授業全体の内容と概要

「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業。
室内と外部の温度差を生じる伝熱理論、室内の湿り空気や結露問題、音波の性質や吸音・遮音について、その基礎的取扱いからその建築計画上の方法までを学ぶ。
さらに演習問題を通して理解を深める。

授業の方法

授業は、パワーポイントおよび配付資料で実施し、資料にて説明をした後、演習問題を行う。学生の不明点・質問は、まず一人で考え、次に隣の人と意見交換し、最後に教室全体で共有して議論する。その後、授業内で解答を呈示してフィードバックする。また、学生の不明点・質問は、チャット形式の支援システムで迅速に回答する。授業の最後には「ふりかえり」レポートを提出し、レポートにはコメントにてフィードバックする。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。
欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・Ａ４版ポケットタイプのファイルとノートを毎回持参すること。
・20分以上の遅刻は欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目、教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４５%	１５%	０%	４０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建築伝熱の理解	外気から室内までの熱貫流抵抗と熱貫流量を計算できた。	熱貫流および換気による熱損失や評価指標を理解できた。	熱貫流率と熱伝達率、熱貫流率の関係を理解できた。	熱貫流の３つの過程を理解できた。	熱貫流の３つの過程を理解できなかった。
建築音響の理解	音の反射や残響と室内音響計画の考え方について理解できた。	吸音材料と吸音構造について理解できた。	吸音や遮音の考え方について理解できた。	音波の基本的性質や音の強さについて理解できた。	音波の基本的性質や音の強さについて理解できなかった。
湿気と結露の理解	表面結露と内部結露のそれぞれの防止対策について理解できた。	室内側表面結露が発生するかどうかを材料表面温度の式を用いて判断できた。	空気線図の見方を理解できた。	相対湿度と絶対湿度について理解できた。	相対湿度と絶対湿度について理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築環境Ⅱ　（科目ナンバリング：AEN323024　）				
授業担当者（所属・職名）	伊藤　裕康（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　伊藤　裕康　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新建築環境工学　改定４版』	田中俊六	井上書院	2014	9784753017577	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明／授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスと教科書をよく読み、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
2	熱環境－１　伝熱の基礎　熱エネルギーの流れ	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
3	熱環境－２　固体中の熱伝導・熱伝達と熱貫流	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
4	熱環境－３　熱伝導率や熱伝達率と熱貫流率の関係	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
5	熱環境－４　熱貫流量の計算	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
6	熱環境－５　建物外表面の熱授受と熱損失評価	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
7	音環境－１　音の性質と伝播、音の表し方と単位、音の大きさと聴感	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
8	音環境－２　室内音響　室内音響計画、室内音響の評価、室内音響設計	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
9	音環境－３　壁・床の遮音対策、音響透過損失	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
10	音環境－４　建築音響の材料と構造	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
11	音環境－５　騒音とその防止　騒音の測定と評価、騒音の伝播、騒音防止計画	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
12	湿気と結露－１　湿り空気、露点温度と結露、空気線図	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
13	湿気と結露－２　壁の透湿と結露、定常透湿計算	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
14	湿気と結露－３　表面結露と内部結露、断熱と温度・湿度の関係	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
15	湿気と結露－４　結露の発生と防止対策	次回授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと（90分）	授業内容を復習し、専門用語を確認しておくこと（90分）
16	定期試験 （60分の試験終了後，残りの30分で解説を行う） 授業改善アンケートの実施	試験範囲について復習しておくこと（90分）	試験内容について復習しておくこと（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道経済論 （科目ナンバリング：ECP422029，ECP522032 ）				
授業担当者（所属・職名）	小林　大州介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者：　小林　大州介　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前相談の上調整か、もしくは研究室前のボードにて確認のこと。				

概要

履修目標

開拓庁舎の開設に始まる北海道の近代的経済は、本土の政治的・経済的思惑におおきく左右されつつも、第１次産業やエネルギー産業を主体とする自律的な経済として発展を続けてきた。また１９６０年代以降、観光産業において顕著な発展を見せ、また７０年代以降は情報産業の盛り上がりも見せた。他方で、石炭から石油へのエネルギー転換による相次ぐ炭鉱の閉山、２００カイリ問題、そしてバブル崩壊以降の北海道拓殖銀行の破たん等、困難な時期を経験し、さらに現在では、COVID-19の蔓延により、基幹産業となるべき観光業も、インバウンド需要の大きな落ち込みを経験し、危機を迎えている。
本講義では、北海道経済の特色を学びながら今後の北海道経済の行方を考えるきっかけを作ることを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ４に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

北海道経済の歴史、主要産業、現状について説明することが出来る。

授業全体の内容と概要

１．北海道の地理・歴史
２．北海道経済の日本経済・世界経済におけるプレゼンス
３．北海道経済の現状と、ICTパラダイム
４．北海道経済の今後の課題、進むべき方向を考える

授業の方法

パワーポイント資料、DVD、統計資料などを使う。
また外部から講師を招き、講演をしてもらう予定である(第13回講義中を予定)。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

普段からよく北海道経済について関心を持ち、ニュースや資料を調べておくこと。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のために必要な出席回数は11回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	0%	0%	0%	３０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北海道の地理・歴史	北海道の位置、人口、本州との関係、歴史的背景について、網羅的に理解でき、説明することが出来る。	北海道の位置、人口、本州との関係、歴史的背景について理解しており、説明することが出来る。	北海道の位置、人口、本州との関係、歴史的背景などについて理解、している。	北海道の位置、歴史的背景などについて理解している。	北海道の位置、歴史的背景などについて理解が見られない
北海道経済について	北海道経済の特色である第１次産業、北方圏経済、環日本海経済、福祉政策について、良く理解が出来ており、説明できる。	北海道経済の特色である第１次産業、北方圏経済、環日本海経済、福祉政策について、良く理解が出来ている。	北海道経済の特色である第１次産業、北方圏経済、良く理解が出来ている。	北海道経済の特色である第１次産業について理解が出来ている。	北海道経済に関する理解が見られない。
北海道経済の今後について	現在苦境の中に在る北海道の観光業、第１次産業について、そして各産業が活路を見出そうとしているICT産業の可能性について良く理解し説明することが出来る。	現在苦境の中に在る北海道の観光業、第１次産業について、そして各産業が活路を見出そうとしているICT産業の可能性について良く理解している。	現在苦境の中に在る北海道の観光業、第１次産業について、解決策を議論できる。	現在苦境の中に在る北海道の観光業、第１次産業について理解している。	北海道経済の諸問題について理解が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道経済論 （科目ナンバリング：ECP422029，ECP522032 ）				
授業担当者（所属・職名）	小林　大州介（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小林　大州介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『北海道の経済と歴史』	小林好宏	北海道大学出版	２０１０	978-4832967298	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション　本講義について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを良く読み、講義の進行を良く理解しておく（９０分）。	講義で話した年間スケジュールを良く見直す（９０分）
2	北海道経済の今	ニュース等で近年話題に上がっている北海道経済に関する問題をピックアップしておく。(90分)	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく（９０分）
3	北海道経済の地理・歴史	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく（９０分）	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく（９０分）
4	北海道経済vs九州経済	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく（９０分）	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく（９０分）
5	環日本海経済圏と北海道	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく（９０分）	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく（９０分）
6	「北方圏」の有利・不利	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく（９０分）	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく（９０分）
7	札幌圏と道東・道北・道南地方	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく（９０分）	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく（９０分）
8	北海道の社会福祉	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく（９０分）	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく（９０分）
9	北海道の主要産業１・農林水産業	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく（９０分）	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく（９０分）
10	北海道の主要産業２・観光・スポーツ産業	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく（９０分）	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく（９０分）
11	北海道経済の基本的体質：官庁と民間企業	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく（９０分）	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく（９０分）
12	北海道経済とＩＣＴパラダイム１：官民の取り組みと課題	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく（９０分）	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく（９０分）
13	北海道経済とＩＣＴパラダイム２：実際の現場では…	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく（９０分）	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく（９０分）
14	世界経済の中の「北海道」	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく（９０分）	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく（９０分）
15	北海道経済はどこへ向かうべきか？	講義題目に関連のニュースや資料を集めておく（９０分）	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく（９０分）
16	定期試験（60分）と試験の解説 授業改善アンケートの実施	試験勉強（９０分）	講義で学んだ事を思い出し、ノートを整理しておく（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	写真表現Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222123 ）				
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 林　春生 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした写真表現講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

表現者になる為に必要な基礎写真技術を習得する。
頭の中にイメージを形成出来るようにして、そのイメージを第三者へ伝達、表現出来るようにする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）

到達目標

自分のイメージを具体的に効果的に写真を使って表現出来るようにする。

授業全体の内容と概要

学生の脳内にイメージが形成出来るように、写真のアイデアスケッチを行う。
自分の想像（脳内のイメージ）を完成した作品に自分の意図したポイントや表現を発表して第三者と意見交流をする。
SDG 12.,つくる責任、つかう責任に準じる。

授業の方法

写真機の構造や成り立ちを理解しつつ、自分のイメージが的確に表現出来るように切磋琢磨する。
写真をプレゼンテーションして第三者の意見を考察する。課題に対するフィードバックを得る。
カメラ機材、ストロボ機材は少数だが用意する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。
個人用のSDメモリーカードを用意の事。
出来れば個人的にカメラを用意する事をお勧めします。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は10回以上
課題提出は全点必ず。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	８０％	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イメージを頭の中に形成出来て、それを写真で表現する事を学ぶ。	イメージを頭の中に完璧に描くことができる。それを写真として完璧に表現できる。	イメージを頭の中に描くことができる。それを写真として完璧に表現できる。	イメージを頭の中に描くことができる。それを写真として表現できる。	イメージを頭の中に辛うじて描くことができる。それを写真として表現できる。	イメージを頭の中に辛うじて描くことができる。それを写真として辛うじて表現できる。
写真の原理、器材の使い方を学ぶ。	自分のイメージしたモノを効果的に完璧に表す為の機材を使用できる。写真を通して表現を完璧に出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を良く使用できる。写真を通して表現が良く出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を使用できる。写真を通して表現が出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を辛うじて使用できる。写真を通して表現が出来る。	自分のイメージしたモノを効果的に表す為の機材を辛うじて使用できる。写真を通して表現が辛うじて出来る。
写真に対する評価が出来る。	写真の品評、評価が完璧に出来る。	写真の品評、評価が良く出来る。	写真の品評、評価が出来る。	写真の品評、評価がやっと出来る。	写真の品評、評価が辛うじて出来る。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	写真表現Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222123 ）				
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 林　春生 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした写真表現講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、写真とは？深く考察 歴史的な作品を鑑賞	シラバスを読んでおく。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
2	写真機材の特性、使い方（より深く考察する）	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
3	レンズの特性、シャッタースピードの特性、絞りの特性、撮像素子の特性による画像の変化を理解１	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
4	レンズの特性、シャッタースピードの特性、絞りの特性、撮像素子の特性による画像の変化を理解2、ストロボ等を使用して光と影を理解する。	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
5	自分の目指す写真アイデアを出す。コンテ	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
6	撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
7	撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
8	作品をプレゼンテーション、評価	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
9	次改善作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
10	作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
11	作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
12	作品中間審査１、品評会	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
13	作品中間審査２、フィードバック	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
14	最終作品撮影	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
15	最終作品撮影、プリントアウト	要求された課題を作成する。（90分）	要求された課題を作成する。（90分）
16	最終作品プレゼンテーション 総評 授業改善アンケート	要求された課題を作成する。（90分）	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育原理（S・1年）	（科目ナンバリング：EDU121069，EDU241094，EDU341090，EDU441092，EDU541099）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西崎　毅　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育原理に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

教職に必要な知識や技能のうち、教育の基本概念をはじめ、教育を成り立たせている要素と相互関係、教育及び学校の変遷、学校教育の諸分野に関する基礎的事項を身に付ける。教職に必要な思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

授業のテーマについて考え、根拠を示しながら自分の意見をまとめ、他者と意見交換をしたり発表したりすることができる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。教育に関する内容は複数のテーマにかかわることが多いため、シラバスに示した学修内容を再構成し１５回の授業全体を通して学修を完結する形とする場合がある。このため、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○主体的・対話的で深い学びを行うため、思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。
○講義においては、ＰＣ及びスマートフォンを活用するので、特に指示がある場合を除き毎時間必ず持参すること。持参なき場合は当該時間の履修を認定しない。
○受講に支障が出ることのないよう、事前にＰＣ及びスマートフォンの充電を十分に行うなど、対策を講じること。
○授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」 に格納するので必要に応じてダウンロードすること。
○講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○講義開始時間までに用便を済ませておくこと。
○講義では演習を行うため、座席を指定する。
○教職の講義であるため、「起立」、「礼」の挨拶をする。
○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断し決定する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目　保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

○単位認定に必要となる出席回数は１３回。
◎成績評価は、定期試験（６０％）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性など（４０％）を参考に総合的に判断して行う。
○各授業回の課題（授業中の課題、事前事後課題）の全提出を単位認定の条件とする。
○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。
○自発的な発表の意欲は別途加点、講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。
○Ｓ評価は全体の10%、Ｓ評価とＡ評価を合わせて40%以内となっています。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで９割以上の得点を上げた。	定期テストで８割以上の得点を上げた。	定期テストで７割以上の得点を上げた。	定期テストで６割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が６割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめているが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断の的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及した。各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、思考テーマの意味のとらえに課題があり、期待される論点に十分には言及できなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字がなく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の９割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少ない。各欄の記述の分量が期待される分量の７割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が散見された。各欄の記述の分量が期待される分量の５割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多くみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の３割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述数Ｒことができた。	他の成員と意見交換しているが特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を理解し、自分の感想等を記述することができたが、自分の意見と異なる他の成員の意見に対しての記述は見られなかった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解に不十分な面があった。自分の感想等を記述してはいるが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に渋々参加していた。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点がずれているなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育原理（S・1年）	（科目ナンバリング：EDU121069，EDU241094，EDU341090，EDU441092，EDU541099）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者：　西崎　毅　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育原理に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新教育原理　改訂２版』	安彦忠彦ほか	勁草書房	2020	9784326251421	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） 教育の目的と本質について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
2	教育と人間の成長・発達について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
3	社会の変動と教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
4	日本の教育（歴史と展開）について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
5	世界の教育（歴史と展開）について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
6	日本の教育制度と行政について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
7	主要国の学校制度と教育改革について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
8	学校と教師について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
9	教育の内容と教育課程について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
10	教育の方法と技術について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
11	道徳教育、特別活動の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
12	総合的な学習の時間の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
13	外国語活動の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
14	生徒指導と教育相談・キャリア教育と進路指導について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
15	特別支援教育の原理と方法について 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）
16	70分の試験終了後，残りの20分で解説を行う。	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育原理（S・2年）	（科目ナンバリング：EDU121069，EDU241094，EDU341090，EDU441092，EDU541099）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西崎　毅　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育原理に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

教職に必要な知識や技能のうち、教育の基本概念をはじめ、教育を成り立たせている要素と相互関係、教育及び学校の変遷、学校教育の諸分野に関する基礎的事項を身に付ける。教職に必要な思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

授業のテーマについて考え、根拠を示しながら自分の意見をまとめ、他者と意見交換をしたり発表したりすることができる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。教育に関する内容は複数のテーマにかかわることが多いため、シラバスに示した学修内容を再構成し１５回の授業全体を通して学修を完結する形とする場合がある。このため、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○主体的・対話的で深い学びを行うため、思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。
○講義においては、ＰＣ及びスマートフォンを活用するので、特に指示がある場合を除き毎時間必ず持参すること。持参なき場合は当該時間の履修を認定しない。
○受講に支障が出ることのないよう、事前にＰＣ及びスマートフォンの充電を十分に行うなど、対策を講じること。
○授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」 に格納するので必要に応じてダウンロードすること。
○講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○講義開始時間までに用便を済ませておくこと。
○講義では演習を行うため、座席を指定する。
○教職の講義であるため、「起立」、「礼」の挨拶をする。
○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断し決定する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目　保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

○単位認定に必要となる出席回数は１３回。
◎成績評価は、定期試験（６０％）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性など（４０％）を参考に総合的に判断して行う。
○各授業回の課題（授業中の課題、事前事後課題）の全提出を単位認定の条件とする。
○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。
○自発的な発表の意欲は別途加点、講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。
○Ｓ評価は全体の10%、Ｓ評価とＡ評価を合わせて40%以内となっています。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで９割以上の得点を上げた。	定期テストで８割以上の得点を上げた。	定期テストで７割以上の得点を上げた。	定期テストで６割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が６割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめているが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断の的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及した。各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、思考テーマの意味のとらえに課題があり、期待される論点に十分には言及できなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字がなく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の９割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少ない。各欄の記述の分量が期待される分量の７割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が散見された。各欄の記述の分量が期待される分量の５割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多くみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の３割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述数Ｒことができた。	他の成員と意見交換しているが特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を理解し、自分の感想等を記述することができたが、自分の意見と異なる他の成員の意見に対しての記述は見られなかった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解に不十分な面があった。自分の感想等を記述してはいるが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に消々参加していた。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点がずれているなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育原理（S・2年）	（科目ナンバリング：EDU121069，EDU241094，EDU341090，EDU441092，EDU541099）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者：　西崎　毅　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育原理に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新教育原理　改訂２版』	安彦忠彦ほか	勁草書房	2020	9784326251421	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） 教育の目的と本質について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
2	教育と人間の成長・発達について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
3	社会の変動と教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
4	日本の教育（歴史と展開）について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
5	世界の教育（歴史と展開）について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
6	日本の教育制度と行政について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
7	主要国の学校制度と教育改革について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
8	学校と教師について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
9	教育の内容と教育課程について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
10	教育の方法と技術について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
11	道徳教育、特別活動の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
12	総合的な学習の時間の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
13	外国語活動の原理と方法について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
14	生徒指導と教育相談・キャリア教育と進路指導について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
15	特別支援教育の原理と方法について 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。（９０分）	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）
16	７０分の試験終了後，残りの２０分で解説を行う。	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義・実習	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法Ⅳ （科目ナンバリング：DMB543122 ）				
授業担当者（所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階		
単位数	2 （単位認定責任者：　髙井　雅一　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法Ⅳに関連する諸事項を講義・実習する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等で確認する。				

概要

履修目標

保健体育科の意義や内容をはじめ、各領域の内容・計画方法・評価等を学ぶ科目であり、授業設計を身につけ、保健体育教師としての基本的な学習指導理論を理解できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ２、DP４に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

保健体育科の目標・内容をはじめ、体育の指導計画の作成や評価の在り方並びに基礎的な学習指導理論等を理解するとともに、具体的な授業を想定した効果的な授業設計や学習指導案の作成を行うことができる実践的な力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

・中学校及び高等学校教育の目的・目標を明確にするとともに、保健体育科教育としての独特の役割をわかりやすく理解させる。
・保健体育科の授業を行うための必要な知識と指導技術について、意見交換で自分の意見を述べることがで・き、グループ学習の中で、多様な指導方法を身につける活動を行う。「SDG4」質の高い授業は、対象生徒にあった内容を工夫スタ指導案を作成するところからのスタートが大切であることを理解させる。
・模擬授業を実践し、指導技術・内容（情報機器の活用を含む）を再確認するために自分の意見を述べながら、意見交換し改善点を見つける。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

・各回のテーマに関してプリント等を使用して説明を行う。
・各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察・意見交換、発表等の一連の活動を行う。
・模擬授業では、ビデオ機器等を活用し、指導内容の確認などを実践する。
・不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・講義で配布したプリントや模擬授業の指導案等は、ファイル等の整然と保管し、必要時に参照できるようにすること。
・２０分以上の遅刻は欠席とみなし、遅刻３回で欠席１回とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
４０%	２０%	２０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保健体育科教育の基本的構造についての理解	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（９割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（８割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程・指導方法・評価方法など基本的構造について理解できた。（７割）	保健体育教育の意義・目標・内容・学習過程などについて理解できた。	保健体育教育の基本的構造を理解できなかった。
教師としての基本的な学習指導理論をの認識、思考・判断および実践	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（９割）	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（８割）	各領域の内容・計画方法・評価などを学び授業設計を身につけるため教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。（７割）	教師としての基本的な学習指導理論を認識し思考・判断して実践できた。	教師としての基本的な学習指導理論を理解できず実践できなかった。
指導案作成・模擬授業	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成して模擬授業ができた。（９割）	の授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成して模擬授業ができた。（８割）	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成して模擬授業ができた。（７割）	授業を行うために必要な知識と指導技術を身につけグループで意見交換し指導案を作成できた。	授業を行うための知識と指導技術が身につかなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義・実習	必修・選択	選択
科目名称	保健体育科教育法Ⅳ （科目ナンバリング：DMB543122 ）				
授業担当者（所属・職名）	髙井　雅一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 髙井　雅一 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校における勤務経験を活かして保健体育科教育法Ⅳに関連する諸事項を講義・実習する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説 保健体育編』	文部科学省	東山書房	２０１８	9784827815603	
2	『高等学校学習指導要領（平成３０年告示）保健体育編　体育編』	文部科学省	東山書房	２０１９	9784827815689	
3	『新しい中学保健体育』	戸田芳雄　他	東京書籍	２０２４	9784487123711	
4	『現代高等保健体育』	衛藤　隆　他	大修館書店	２０２４	9784469663198	
5	『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　中学校　保健体育』	文部科学省	東洋館出版社	2020	9784491041384	

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ステップアップ中学校体育２０２４北海道編』	髙橋　健夫　他	大修館書店	２０２４		
2	『ステップアップ高校スポーツ２０２４』	髙橋　健夫　他	大修館書店	２０２４		
3	『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』	文部科学省	東山書房	２０１８		
4	『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説』	文部科学省	東山書房	２０１９		
5	『体育科教育学入門　三訂版』	岡出美則、友添秀則、岩田靖	大修館書店	２０１６		

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション　シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 学校における体育科の役割について	本時の課題について教科書等を参考に自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
2	選択制授業のねらいと進め方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
3	指導案の作成について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
4	模擬授業の進め方について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
5	模擬授業の指導案作成と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
6	模擬授業の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
7	模擬授業（選択制授業）の指導案作成と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
8	模擬授業（選択制授業）の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
9	情報機器を活用した模擬授業の指導案作成と指導上の留意点について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
10	情報機器を活用した模擬授業の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
11	体育理論の模擬授業の指導案作成と授業展開について	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
12	体育理論の模擬授業の実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
13	模擬授業の振り返り	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
14	模擬授業のまとめ	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	話し合った課題に関して自分の意見を述べることができるよう準備する。（９０分）
15	体育におけるスポーツ障害について 授業改善アンケートの実施	前時に予告した課題について自分なりの進め方をまとめておく。（９０分）	講義の内容を総復習する。（９０分）
16	定期試験（６０分）、終了後、試験の解説（３０分）	全講義内容を復習（９０分）	本日の学修内容をまとめて提出する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ　（科目ナンバリング：SWS122029　）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）・小 早川　俊哉（社会福祉学科・教授）・大	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　上原　正希　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

１．ソーシャルワーク実習の意義について理解する。
２．社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を理解する。
３．ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する（2023年度）。

到達目標

１．ソーシャルワーク実習の意義について理解することができる。
２．社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を理解することができる。
３．ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を理解することができる。

授業全体の内容と概要

１．ソーシャルワーク実習の意義について学ぶ。
２．社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を学ぶ。
３．ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を学ぶ。

授業の方法

１．授業形態は講義形式だが、適宜、グループワークやディスカッションを含む。
２．テキストを使用し、ポイントとするべき箇所は説明、板書を行う。
３．適宜、質疑応答を交える。
４．自然災害などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
５．ソーシャルワーカーのお話を聞く授業等もある。
６．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	○	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．自分の意見等を積極的に発言すること。
２．多くの考えがあることを理解し、他者の意見を否定しない行動が必要となる。
２．教科書は必ず持参すること。
３．必要な資料等は適宜配布する。
４．不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
５．ソーシャルワーカーや学生・教員のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。
６．大学のペーパレス化に伴い、教科書は必須ですので絶対に購入してください。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

１．出席回数は最低１０回なければ試験を受験することはできない。
２．その他については、出席状況１５%、ボランティア参加(２回）１５%、ボランティアレポート１０%の評価となる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	０%	４０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソーシャルワークの各領域における職場について理解する。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各職場について、その具体的業務と課題、公的法制度と利用者について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の職場についてその特徴と違いを具体的に説明でき、且つ、根拠となる法制度について説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政各領域の職場理解について、具体的に説明でき、且つ、その特徴と違いを説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の職場について具体的に説明できた。	左記の内容を一つも説明できなかった。
ソーシャルワークの各領域における職種について理解する。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域の職種について、その具体的業務と課題、公的法制度と利用者について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種いついて、その特徴と違いを具体的に説明でき、且つ、根拠となる法制度について説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種について具体的に説明でき、且つその特徴の違いを説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域における職種について説明できた。	左記の内容を何一つ説明できなかった。
ソーシャルワーク各領域におけるソーシャルワーク実践についての理解する。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について、その具体的方法と課題、公的法制度と利用者の自立について具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について、その特徴と違いを具体的に説明でき、且つ根拠となる法制度について説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践の特徴と違いを具体的に説明できた。	高齢、障がい、児童、地域・行政の各領域におけるソーシャルワーク実践について説明できた。	左記の内容を何一つ説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ （科目ナンバリング：SWS122029 ）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）・小 早川　俊哉（社会福祉学科・教授）・大		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 上原　正希 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワーク実習・実習指導（社福専門）』	福祉臨床シリーズ編集委員会	弘文堂	2023年	9784335612275	価格 ／2,750（本体／2,500）
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（前年度実施した授業改善アンケートの結果反映およびシラバスの説明）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
2	ソーシャルワーク実習では、なにを学ぶのか ソーシャルワーク実習Q&A	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
3	ソーシャルワーク実習における実習計画書の作成のあり方について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
4	ソーシャルワーク実習における記録のあり方について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
5	ソーシャルワーク実習におけるケース研究のあり方について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
6	ソーシャルワーク実習の実習先について概論	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
7	障害分野のソーシャルワーク実践とは～担当教員からの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
8	障害領域のソーシャルワーク実践とは～障害領域のソーシャルワーカーからの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
9	児童分野のソーシャルワーク実践とは～担当教員からの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
10	児童領域のソーシャルワーク実践とは～児童領域のソーシャルワーカーからの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
11	高齢分野のソーシャルワーク実践とは～担当教員からの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
12	高齢領域のソーシャルワーク実践とは～高齢者領域のソーシャルワーカーからの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
13	地域分野のソーシャルワーク実践とは～担当教員からの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
14	地域分野のソーシャルワーク実践とは～地域分野のソーシャルワーカーからの報告～	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
15	実習に行った先輩の実習報告～児童分野・高齢分野・障害分野・地域分野の実習より 授業改善アンケートの実施	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
16	【定期試験】６０分の試験終了後、残りの３０分で解説をする）	テスト勉強をしていくこと（９０分）	テストの振り返りを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	イラスト漫画概論Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222124 ）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 （単位認定責任者： 竹内　美帆 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会や文化におけるイラスト・マンガ表現の意義や歴史、これまで問われてきたことを学び、知識や多様な視点を身に着ける。
イラストやマンガをめぐる様々な現象や事象、歴史を考えることや、具体的な作品の考察とそれについてのディスカッションを通して、私たちがそれらの文化とどのように関わっているかを考え、自分の創作活動を幅広い社会の中に位置づける意識を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

現代社会におけるメディアとしてのマンガやアニメに関わる知識を身に着け理解する。
芸術・文化についての興味や関心、批判的思考を養う。
自分の考えを根拠づけ明確に他者に表現する力を身につける。

授業全体の内容と概要

これまでイラストやマンガ表現に関して問われてきたさまざまなトピックを考えることや、具体的な作品の考察を通して、作品とその社会的位置づけについて多様な視点から考える力を養い、自身の制作に生かす。

授業の方法

講義形式で、パワーポイントやレジュメ、視聴覚メディア等を使って実施する。授業内のトピックについてグループワークやディスカッション、反転授業も取り入れる。
授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

事前学習として、授業内で取り上げるテーマについて事前に書籍やインターネット等で予習し、事後学習として取り上げたテーマを掘り下げて調べると、より理解が深まる。
作品考察においては、各学生が一つ作品（短い作品）を選び、その作品について調べ、発表を行うほか、その他の学生も同じ作品を授業までに読んでくること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	２０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業内容の理解	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
批判的思考力・視点の多様性	対象に対する、さらに自分なりの新しい視点や考えを生み出すことができた。	授業で取り上げた内容を超えて、作品に対して多様な視点から考えることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、多様な視点から作品を考えることができた。	授業で取り上げた内容に基づき、作品に対する多様な視点があることを理解できた。	当初の意見から意見を広げたり視点を多様化させることができなかった。
論理・文章表現力	自身の観点から、深い洞察をもって論考を書くことができた。	自身の観点から、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	自身の観点はまだ不十分だが、充分に考えられた内容の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができた。	課題に応じた内容・形式の論考を書くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	イラスト漫画概論Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222124 ）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 （単位認定責任者： 竹内　美帆 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	マンガミュージアムでの勤務や、公的なメディア芸術関連事業に関わった経験をもとに、イラストやマンガに関わる表現や文化について講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『日本イラストレーション史』	美術手帖編集部	美術出版社	2010	978-4568430691	
2	『女性マンガ研究　欧米・日本・アジアをつなぐMANGA』	大城房美編	青弓社	2015	978-4787233868	
3	『マンガ文化 55のキーワード』	竹内オサム、西原麻里編	ミネルヴァ書房	2016	978-4623075409	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　オリエンテーション	シラバスを読んでおく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
2	SNS時代のイラスト・マンガ（１）　イラスト／コミックエッセイの隆盛	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
3	SNS時代のイラスト・マンガ（２）　デジタル環境と変化するメディア特性	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
4	作品考察（１）：『電脳MAVO』より水野清香「家族喧嘩」	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
5	作品考察（２）『電脳MAVO』よりムライ「鳥の眼」	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
6	作品考察（３）高野文子「田辺のつる」（１９８０）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
7	作品考察（４）高野文子「田辺のつる」（１９８０）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
8	作品考察（５）こうの史代「古い女」（２００６）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
9	作品考察（６）こうの史代「古い女」（２００６）	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
10	作品考察（７）個別作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
11	作品考察（８）個別作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
12	作品考察（９）個別作品分析	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
13	AI時代のイラスト・マンガ（１）生成AIが提起する諸問題	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
14	AI時代のイラスト・マンガ（２）著作権に関わる諸問題	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
15	まとめ	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
16	期末レポートの解説 授業改善アンケート実施	事前配布プリントを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく（９０分）	これまでの授業内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	特別な教育的ﾆｰｽﾞの理 （科目ナンバリング：SNE142161，SNE242109，SNE342102，SNE442104，SNE542113）				
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授） 木村浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者：　藤根　収　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（特別な教育的ニーズの理解と支援）についてオムニバスで指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校において、特別支援教育を推進するために必要な基本的知識と障害の状況等に応じた指導のあり方等の実践的な知識を習得する。

授業の位置づけ

設定なし（２０２４年度）

到達目標

特別支援教育制度の概要と特別支援学校の教育課程並びに個別の教育支援計画の作成の意義や学習指導要領、特別支援教育コーディネーターの設置義務とその役割等、特別支援教育の推進について理解することができる。併せて、各障害の特性に即した自立活動の在り方について理解することができる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、特別支援教育の意義や目的、実践等について、主体的・対話的で深い学びを通して、理解を深められるよう、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。また、具体的な事例をとおして理解を深められるよう、パソコンや映像等の視聴覚教材などのＩＣＴを活用し総合的に構成する。
「ＳＤＧs4．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

授業は、パワーポイント及び教科書、配布物(レジメ)を活用して実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で思考・考察、意見交換、討論、発表等一連の活動を行う。グループワークにてグループ発表を行うとともに、レポート提出（1回）を行う。なお、グループ発表やレポートにはコメントにてフィードバックする。
ＩＣＴ活用に関しては、授業についての質問などをチャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職課程登録者を対象にした科目であり、全学科同一クラスで授業を行う。
２０分以上の遅刻は欠席、遅刻３回で欠席１回とみなす。
教職を目指す学生としてふさわしい受講態度で履修すること。
授業において円滑に授業を行う上で座席指定することがある。また、授業中の注意事項は必ず厳守すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	１０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
特別支援教育の基礎的な知識・技能の習得	知識・技能の基礎的内容について高い関心をもって理解し、さらに深めることができた。	知識・技能の基礎的内容について、関心をもって理解し、学修できた。	知識・技能の基礎的内容について理解し、学修することができた。	知識・技能の基礎的内容について一定程度理解することができた。	知識・技能の基礎的内容について理解ができなかった。
特別支援教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現しようとした。	テーマの受け止めが不十分で思考・判断・表現が十分でなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業に一定程度関心をもって参加できた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	特別な教育的ﾆｰｽﾞの理 （科目ナンバリング：SNE142161，SNE242109，SNE342102，SNE442104，SNE542113）				
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授） 木村浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者：　藤根　収　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題（特別な教育的ニーズの理解と支援）についてオムニバスで指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本　2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援学校学習指導要領　小学部・中学部（平成29年4月告示）』	文部科学省	海文堂出版	2018	978-4-303-12424-3	
2	『特別支援学校学習指導要領　高等部（平成31年2月告示）』	文部科学省	海文堂出版	2019	978-430312427	
3	『特別支援教育基本用語１００』	上野一彦・緒方明子・柘植正義	明治図書	2014	978-4181085	
4	『特別支援学校学習指導要領解説　総則等編（幼稚部・小学部・中学部）』	文部科学省	開隆堂	2018	978-4-304-04229-4	
5	『特別支援学校学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』	文部科学省	開隆堂	2018	978-4-304-04231-7	

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築について　（藤根）	教科書から「インクルーシブ教育システム」についての課題を整理する（９０分）	課題についてノートに整理し、シラバスで確認する（９０分）
2	インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進について　（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
3	特別支援教育の理念と基本的な考え方及び特別支援教育の対象について　（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
4	個別の教育支援計画の意義と活用について　（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
5	学習指導要領と教育課程の編成及び配慮事項について　（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
6	特別支援学校の教育の概要と教育課程の編成並びに指導について　（木村）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
7	自立活動の目標と内容について（木村）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
8	特別支援教育コーディネーターの役割と求められる資質について　（木村）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
9	特別支援学校のセンター的な役割について（木村）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
10	小学校、中学校等における特別支援教育について（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
11	各障害に応じた教育１ －視覚障害、聴覚障害について－（木村）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
12	各障害に応じた教育２ －知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱について－（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
13	各障害に応じた教育３ －重複障害、言語障害、情緒障害について－（木村）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
14	各障害に応じた教育４ －発達障害について－（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
15	障害のある子どもへのアセスメント 授業改善アンケートの実施　（藤根）	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な語句や内容の整理とレポートの作成（９０分）
16	定期試験（６０分の試験後、残りの３０分で解説）	教科書等で講義内容を整理する（９０分）	試験の結果を見直す（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理Ⅱ　（科目ナンバリング：SWS122039　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。
②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。
③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。
④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。
⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。
⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。
⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

精神保健福祉の理念や概念を習得し、精神保健福祉士の倫理や価値観を培い、役割や業務特性を理解できる。

授業全体の内容と概要

①障害者福祉の理念や概念の理解や社会的障壁について学ぶ。
②精神保健福祉士の原理や精神保健福祉士の役割等について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」関連科目

授業の方法

①授業形態は講義形式で行う。
②テキスト及び配布資料を使用し,ポイントとするべき箇所は説明,板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。
⑤Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は必ず持参すること。
②必要な資料等は適宜配布する。
③２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	１０％	３０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察することができなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむねに説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理Ⅱ （科目ナンバリング：SWS122039 ）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 西野　克俊 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『精神保健福祉の原理』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	２０２１	9784805882566	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	精神障害者福祉について シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の説明	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
2	精神科医療の特異性について①（強制入院・治療、精神科特例）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
3	精神科医療の特異性について②（隔離・身体的拘束、多剤併用）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
4	精神障害者の家族について（保護義務者の歴史、家族の多様性）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
5	「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯について（精神医学ソーシャルワーカー協会の設立、Y問題）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
6	原理・価値について(社会的復権と権利擁護、自己決定、当事者主体)	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
7	観点・視点について（人と環境の相互作用、エンパワメント、リカバリー、アンチスティグマ）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
8	関係性について（加害者性、援助関係、協働関係）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
9	精神保健福祉士法について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
10	精神保健福祉士の職業倫理について①（倫理綱領）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
11	精神保健福祉士の職業倫理について②（倫理的ジレンマ）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
12	精神保健福祉士の業務特性について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
13	精神保健福祉士の職場・職域について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
14	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について①（業務指針、業務分類）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
15	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について②（指針に基づく業務の展開例）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
16	試験（６０分）実施、終了後解説（３０分） 授業改善アンケートの実施	試験のための学習（９０分）	試験の振り返りを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理Ⅱ　（科目ナンバリング：SWS122039　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み（理念・視点・関係性）について理解する。
②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。
③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。
④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。
⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み（理念・視点・関係性）と倫理綱領に基づく職責について理解する。
⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。
⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（2023年度）

到達目標

精神保健福祉の理念や概念を習得し、精神保健福祉士の倫理や価値観を培い、役割や業務特性を理解できる。

授業全体の内容と概要

①障害者福祉の理念や概念の理解や社会的障壁について学ぶ。
②精神保健福祉士の原理や精神保健福祉士の役割等について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」関連科目

授業の方法

①授業形態は講義形式で行う。
②テキスト及び配布資料を使用し,ポイントとするべき箇所は説明,板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。
⑤Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は必ず持参すること。
②必要な資料等は適宜配布する。
③２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	１０％	３０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助についての基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基本を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察することができなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむねに説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉の原理Ⅱ （科目ナンバリング：SWS122039 ）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 西野　克俊 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『精神保健福祉の原理』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	２０２１	9784805882566	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	精神障害者福祉について シラバスの説明・授業改善アンケート結果反映の説明	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
2	精神科医療の特異性について①（強制入院・治療、精神科特例）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
3	精神科医療の特異性について②（隔離・身体的拘束、多剤併用）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
4	精神障害者の家族について（保護義務者の歴史、家族の多様性）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
5	「精神保健福祉士」の資格化に至る経緯について（精神医学ソーシャルワーカー協会の設立、Y問題）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
6	原理・価値について(社会的復権と権利擁護、自己決定、当事者主体)	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
7	観点・視点について（人と環境の相互作用、エンパワメント、リカバリー、アンチスティグマ）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
8	関係性について（加害者性、援助関係、協働関係）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
9	精神保健福祉士法について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
10	精神保健福祉士の職業倫理について①（倫理綱領）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
11	精神保健福祉士の職業倫理について②（倫理的ジレンマ）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
12	精神保健福祉士の業務特性について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
13	精神保健福祉士の職場・職域について	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
14	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について①（業務指針、業務分類）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
15	精神保健福祉士の業務内容と業務指針について②（指針に基づく業務の展開例）	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
16	試験（６０分）実施、終了後解説（３０分） 授業改善アンケートの実施	試験のための学習（９０分）	試験の振り返りを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態		必修・選択	
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑIV　（科目ナンバリング：IRE322075　）				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	1　（単位認定責任者：　）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー					

概要

履修目標

授業の位置づけ

到達目標

授業全体の内容と概要

授業の方法

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

修学サポート（合理的配慮）

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態		必修・選択	
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑIV　（科目ナンバリング：IRE322075　）				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	1　（単位認定責任者：　）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規Ⅳ （科目ナンバリング：APT323032 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　善太郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

広範な建築関係法令の中で，建築基準法を取り巻き「建築行政」を構成する各法律がどのような役割を持ち，社会の中でどう機能し，運営されているのかを認識する。そして建築関係法令のうち都市整備の基幹である都市計画法，何かと話題で今後も改正が予想される建築士法，ユニバーサルデザイン・バリヤフリーの観点からの新ハートビル法，都市防災の要である消防法他，関係法令を実務的視点も含めて理解する。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP3に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

都市計画法の建築基準法に関連する規定や，建築士法および建設業法の建築基準法に関連する規定，その他の建築関連法規に関する規定を理解することができる。

授業全体の内容と概要

建築基準法を理解する上で重要な条文について図解を交えてわかりやすく解説する。更に主要な制度規定について，条文の成立から実例まで併せて解説すると共に条文の理解を深めるための演習を行う。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

授業は条文の重要項目のチェックと線引きを行い，板書と配布資料により進めていく。随所に出現する法令独特の語彙の解釈や考え方にも触れて，きめ細やかに進めていく。また，理解度を測るため，単元ごとに課題提示・小テストを行い，解説も行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

法令集と赤ペン・青ペンを必ず持参のこと。また，本講義にあたっては電卓や携帯電話，スマートフォンなどの計算機能を使った計算を禁止する。必ず筆算のこと。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

「建築士試験受験資格課程」選択科目，教職課程（工業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０％	０％	０％	０％	０％	２０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
都市計画法の建築基準法に関連する規定の理解	都市計画法の建築物の一般構造その他に関する規定を正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に関する規定を８割方正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に関する規定を６割方正確に理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に関する規定を理解することができた。	都市計画法の建築物の一般構造その他に関する規定を理解することができなかった。
建築士法，建設業法の建築基準法に関連する規定の理解	建築士法，建設業法の建築基準法に関連する規定を正確に理解することができた。	建築士法，建設業法の建築基準法に関連する規定を８割方正確に理解することができた。	建築士法，建設業法の建築基準法に関連する規定を６割方正確に理解することができた。	建築士法，建設業法の建築基準法に関連する規定を理解することができた。	建築士法，建設業法の建築基準法に関連する規定を理解することができなかった。
その他の建築関連法規の理解	その他の建築関連法規に関する規定を正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を８割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を６割方正確に理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できた。	その他の建築関連法規に関する規定を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築法規IV （科目ナンバリング：APT323032 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　善太郎 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『基本建築関係法令集2023年版』	建築資料研究社	建築資料研究社	2023		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。都市計画法１- 建築基準法と都市計画法 授業改善アンケート結果反映の説明	建築法規Ⅱの振返り(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
2	都市計画法２-都市形成	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
3	都市計画法３-開発	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
4	都市計画法４-地域・区域	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
5	都市計画法５-都市の構成	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
6	建築士法１-建築士の役割	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
7	建築士法２-業務と倫理	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
8	建設業法１-施工管理	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
9	建設業法２-生産管理	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
10	新ハートビル法-やさしいまちづくり	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
11	消防法１-消防設備	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
12	消防法２-防災計画	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
13	品確法・耐震改修法	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
14	都市再開発法・その他	事前提示の条文熟読(90分)	授業中に提示の課題処理(90分)
15	民法-建築関係抜粋 授業改善アンケートの実施	事前提示の条文熟読(90分)	本講義の振返り(90分)
16	理解度診断試験（60分）・試験解説（30分）	事前提示の条文熟読(90分)	試験の振返り(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	総合的な学習の時間の	（科目ナンバリング：ESS143162，ESS243110，ESS343103，ESS443105，ESS543114）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西崎　毅　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして総合的な学習の時間の指導法に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するための指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

授業の位置づけ

経営・デザイン・建築学科のＤＰ２、ＤＰ４に対応する。（２０２３・２０２２年度）
社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

総合的な学習の時間の意義や目標等をはじめ、指導計画の作成や指導と評価の考え方、実践上の留意点について理解できる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。授業進行上、シラバスに記載したテーマが前後することがあるが、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○主体的・対話的で深い学びを行うため、思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。
○講義においては、ＰＣ及びスマートフォンを活用するので、特に指示がある場合を除き毎時間必ず持参すること。持参なき場合は当該時間の履修を認定しない。
○受講に支障が出ることのないよう、事前にＰＣ及びスマートフォンの充電を十分に行うなど、対策を講じること。
○授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」 に格納するので必要に応じてダウンロードすること。
○講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○講義開始時間までに用便を済ませておくこと。
○講義では演習を行うため、座席を指定する。
○教職の講義であるため、「起立」、「礼」の挨拶をする。
○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断し決定する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

○単位認定に必要となる出席回数は１３回。
◎成績評価は、定期試験（６０％）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性など（４０％）を参考に総合的に判断して行う。
○各授業回の課題（授業中の課題、事前事後課題）の全提出を単位認定の条件とする。
○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。
○自発的な発表の意欲は別途加点、講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。
○Ｓ評価は全体の10%、Ｓ評価とＡ評価を合わせて40%以内となっています。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで９割以上の得点を上げた。	定期テストで８割以上の得点を上げた。	定期テストで７割以上の得点を上げた。	定期テストで６割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が６割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめているが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断の的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及した。各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、思考テーマの意味のとらえに課題があり、期待される論点に十分には言及できなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字がなく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の９割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少ない。各欄の記述の分量が期待される分量の７割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が散見された。各欄の記述の分量が期待される分量の５割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多くみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の３割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述数Ｒことができた。	他の成員と意見交換しているが特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を理解し、自分の感想等を記述することができたが、自分の意見と異なる他の成員の意見に対しての記述は見られなかった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解に不十分な面があった。自分の感想等を記述してはいるが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に渋々参加していた。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点がずれているなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	総合的な学習の時間の	（科目ナンバリング：ESS143162，ESS243110，ESS343103，ESS443105，ESS543114）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2	（単位認定責任者：　西崎　毅　）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして総合的な学習の時間の指導法に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815610	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『高等学校学習指導要領解説　総合的な探究の時間編』	文部科学省	学校図書	2018	9784762505362	
2	『中学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815795	
3	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815672	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	学習指導要領の変遷並びに総合的な学習の時間の創設及び改訂の趣旨について シラバスの説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
2	総合的な学習の時間の意義について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
3	総合的な時間の目標について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
4	各学校において定める目標及び内容について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
5	指導計画の作成上の配慮事項と内容の取扱いについての配慮事項について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
6	総合的な学習の時間の目標を実現するにふさわしい探究課題について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
7	総合的な学習の時間の全体計画の作成について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
8	総合的な学習の時間の年間指導計画の作成について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
9	総合的な学習の時間の単元計画の作成について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
10	総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考え方について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
11	探究的な学習の過程における「主体的・対話的で深い学び」について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
12	探究的な学習の指導上の留意点について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
13	総合的な学習の時間の評価について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
14	総合的な学習の時間を充実させるための校内組織体制の整備について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
15	総合的な学習の時間を充実させるための環境整備及び外部との連携について 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）
16	７０分の試験終了後，残りの２０分で解説を行う。	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉制度論　（科目ナンバリング：SWS122043　）				
授業担当者（所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士や教員として相談援助を行っていたが、実際に活用する制度やサービスを実践面に即して授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

精神保健福祉に関する制度とサービスについて理解する。精神障害者の特徴、生活状況、精神保健福祉法、障害者総合支援法、年金･医療・生活保護など各種制度を理解し、マネジメントを把握する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３、DP４に対応する。（2023年度）

到達目標

①精神保健福祉領域の基礎知識をもとに，自分なりの考えを述べることができる。

授業全体の内容と概要

精神障害者を取り巻く課題を学び、グループワークやディスカッションを行う。板書やプリントの確認問題を行いながら学習を行う。確認問題は解説を行う。また、事例検討に関しては、事後の状況を説明し制度と生活支援がイメージできるようにフィードバックを行う。「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目である。

授業の方法

教科書は必ず持参すること。小テスト，レポートの内容や提出方法は，授業内にて指示する。精神疾患や障害のある人の社会生活にとって，制度やサービスがもつ意義を絶えず問い直しながら，学習を進めてほしい。ＩＣＴ活用（双方向型授業・自主学習支援など）、Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

授業態度、単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	３０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に参加し、教科書や板書、確認テストを受けている。	１５回以上授業に参加し、積極的に学習ができた。	１４回授業に参加し、積極的に学習ができた。	１３回授業に参加し、積極的に学習ができた。	１２～１０回授業に参加し、積極的に学習ができた。	９回以下授業に参加し、積極的に学習できなかった。
確認テストの内容を理解し、定期試験の成績が６０点以上である。	確認テストで平均１００～９０点を獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が８９～８０点以上を獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が７９～７０点以上を獲得できた。	確認テストを受けて、定期試験の成績が６９～６０点以上を獲得できた。	確認テストをある程度受け、定期試験の成績が５９点以下しか獲得できなかった。
教科書、資料の内容を理解するため事前学習を行い、授業内で質問や自分の意見をプレゼンテーションする。	事前学習を行い、授業中に５回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習を行い、授業中に４回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習を行い、授業中に３回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習を行い、授業中に２回以上質問や意見を出すことができた。	事前学習や質問、意見を出すことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉制度論　（科目ナンバリング：SWS122043　）				
授業担当者（所属・職名）	大島　康雄（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　大島　康雄　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士や教員として相談援助を行っていたが、実際に活用する制度やサービスを実践面に即して授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『精神保健福祉制度論』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	2021年	978-4-8058-8255-9	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
2	精神障害者に関する制度・施策の理解Ⅰ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
3	精神障害者に関する制度・施策の理解Ⅱ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
4	精神障害者の医療に関する制度Ⅰ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
5	精神障害者の医療に関する制度Ⅱ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
6	精神障害者の医療に関する制度Ⅲ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
7	精神障害者の生活支援に関する制度Ⅰ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
8	精神障害者の生活支援に関する制度Ⅱ	事前に教科書を確認（９０分）	事前に教科書を確認（90分）
9	精神障害者の生活支援に関する制度Ⅲ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
10	精神障害者の経済的支援Ⅰ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
11	精神障害者の経済的支援Ⅱ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
12	精神障害者と生活困窮Ⅰ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
13	精神障害者と生活困窮Ⅱ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
14	精神保健福祉領域の近年の動向Ⅰ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
15	まとめ	事前に教科書を確認（９０分）	ノートを整理し、質問事項を考える。（９０分）
16	確認テスト及びテストの解説 授業改善アンケートの実施	テストの事前学習（９０分）	テストの振り返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習(事 （科目ナンバリング：SNE123126 ）				
授業担当者（所属・職名）	木村浩紀（社会福祉学科・特任教授）、千葉聡美（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階（木村）・２号館７階（千葉）		
単位数	1 （単位認定責任者： 木村 浩紀 ）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教育経験がある教員が、その経験を活かして教育実習について事後指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

特殊教育から特別支援教育に転換した趣旨を的確に把握し、特別支援学校教育実習の意義を認識するとともに、常に教育実習を見据えて、特別支援学校における教師の役割について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ５、ＤＰ７、ＤＰ９に対応する。（２０２１年度）

到達目標

特別支援学校の教育の概要について理解し、障害のある子どもの教育指導の在り方について基礎的な知識・技能・態度を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

特別支援学校の教育の概要及び授業の実際について理解できるようにするとともに、学校の教育活動全般についても具体的な理解をはかるようにする。また、テーマに関する事項に関して思考・考察、意見交換、討論、発表等の一連の活動を行う。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

基本的な授業は、パワーポイント及び配布物資料で実施する。
実際に教育実習に行く予定の学校の授業を想定した模擬授業を受講者に行っていただく。
模擬授業の感想・意見を発表し、フィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

特別支援教育実習（事前指導　４年）を併せた２単位の取得が必要である。
教職科目（特別支援教育）であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１ 回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	７０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
特別支援学校の教育の概要及び障害のある子どもの教育指導の在り方	特別支援教育に係る知識・技能を積極的に習得し、ニーズに対応した教育指導が的確に実施できた。	特別支援教育に係る知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導が実施できた。	特別支援教育に係る知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できた。	特別支援教育に係る基本的な知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導がほぼ実施できた。	特別支援教育に係る基本的な知識・技能を習得し、ニーズに対応した教育指導が実施できなかった。
授業テーマに関するレポートの記述・発表	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述・発表ができた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述・発表できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述・発表できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、　ほぼ時間内に記述・発表できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、　時間内に記述・発表ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習(事 （科目ナンバリング：SNE123126 ）				
授業担当者（所属・職名）	木村浩紀（社会福祉学科・特任教授）、千葉聡美（社会福祉学科・特任教授）	研究室等所在	２号館８階（木村）・２号館７階（千葉）		
単位数	1 （単位認定責任者： 木村 浩紀 ）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教育経験がある教員が、その経験を活かして教育実習について事後指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 改訂版』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	２０１５		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明， オリエンテーション	関連する資料の収集に努めること。（９０分）	オリエンテーションの重要事項を整理すること。（９０分）
2	学習指導方法の研究（１） ・教育課程の研究 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。（９０分）	調査内容を整理すること。（９０分）
3	学習指導方法の研究（２） ・生徒指導の研究生徒 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。（９０分）	調査内容を整理すること。（９０分）
4	学習指導方法の研究（３） ・特別活動・学校行事の研究 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。（９０分）	調査内容を整理すること。（９０分）
5	模擬授業の実際Ⅶ（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしてくること。（９０分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。（９０分）
6	模擬授業の実際Ⅷ（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしてくること。（９０分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。（９０分）
7	模擬授業の実際Ⅸ（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしてくること。（９０分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。（９０分）
8	模擬授業の実際Ⅹ（各教科等を合わせた指導）	対象児童生徒を想定して模擬授業の準備をしてくること。（９０分）	模擬授業の振り返りと課題等を整理すること。（９０分）
9	学習指導方法の研究（４） ・キャリア教育の研究 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。（９０分）	調査内容を整理すること。（９０分）
10	学習指導方法の研究（５） ・「保護者や地域との連携」の研究 ・関係資料等の調査	事前に内容を確認し、調べておくこと。（９０分）	調査内容を整理すること。（９０分）
11	特別支援教育実習報告会 ＊指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。（９０分）	報告内容を整理し、今後の参考にすること。（９０分）
12	特別支援教育実習報告会 ＊指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。（９０分）	報告内容を整理し、今後の参考にすること。（９０分）
13	特別支援教育実習報告会 ＊指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。（９０分）	報告内容を整理し、今後の参考にすること。（９０分）
14	特別支援教育実習報告会 ＊指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。（９０分）	報告内容を整理し、今後の参考にすること。（９０分）
15	特別支援教育実習報告会 ＊指導方法の研究	報告内容を整理し、プレゼンの準備をすること。（９０分）	報告内容を整理し、今後の参考にすること。（９０分）
16	特別支援教育実習（事後学習）のまとめ ・教職員としての心構え 授業改善アンケートの実施	調査や報告内容を整理しておくこと。（９０分）	講義内容を整理すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション II （科目ナンバリング：AEA222041 ）				
授業担当者（所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 浩而　魅諭 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（バレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、実践に即した実習を通して、指導に当たる。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

学生が、イラストレーションを仕事にしていく上で必要とされる技術や社会人としての素養を身に付けることを目的とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

学生が、自分の個性に気付きそれをイラストレーションで表現することができる。
学生が、仕事をしていく上での社会人としての素養を身に付けることができる。
学生が、依頼者の希望に沿うイラストレーションを制作し提出することができる。

授業全体の内容と概要

学生が、イラストレーションを理解し己の個性をイラストレーションで表現しつつ、依頼者の希望を理解し応えることが出来る様になるため、教師は経験を生かし実践的な教授を行う。

授業の方法

授業は、板書をしたり実物商品や作品を活用しながらイラストレーションの仕事の事例を紹介する講義形式と、疑似依頼者と実践的やりとりを交わしながら社会性を身につけつつ、イラストレーション作品を完成させる実技形式で行う。授業は、各課題の説明の後，実技制作にあたる。板書や実際の作品を用いた講義形式の一斉授業と、こまめな机間巡視による個々の学生への個別の指導とを組み合わせて行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

設定した課題の締め切りを遵守。実際の仕事の納期を意識すること。
指定した用具、用品、各自が必要とする材料、道具などを必ず持参すること。
授業は第一回目からの積み重ね型の形態で行われるので欠かさず出席する事が大前提。
受講人数や習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったりすることもある。
（その都度説明しますのでご理解ください。）
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
自己表現について	自分らしさを生かした自分にしか出来ないイラストレーションに気付き制作を十分的確に行えた。	自分らしさを生かした自分にしか出来ないイラストレーションに気付き制作を的確に行えた。	自分らしさを生かした自分にしか出来ないイラストレーションに気付き制作をほぼ的確に行えた。	自分らしさを生かした自分にしか出来ないイラストレーションに気付き制作をある程度的確に行えた。	自分らしさを生かした自分にしか出来ないイラストレーションに気付き制作を的確に行うことが出来なかった。
依頼者との仕事の進め方について	依頼者とやりとりを交わす中で、依頼者の希望を理解しそれを表現していく技術が十分身についた。	依頼者とやりとりを交わす中で、依頼者の希望を理解しそれを表現していく技術が身についた。	依頼者とやりとりを交わす中で、依頼者の希望を理解しそれを表現していく技術がほぼ身についた。	依頼者とやりとりを交わす中で、依頼者の希望を理解しそれを表現していく技術がある程度身についた。	依頼者とやりとりを交わす中で、依頼者の希望を理解しそれを表現していく技術が身つかなかった。
依頼作品（課題）について	自分らしい作品でありながら、依頼者の希望に沿ライラストレーションを十分的確に制作することが出来た。	自分らしい作品でありながら、依頼者の希望に沿ライラストレーションを的確に制作することが出来た。	自分らしい作品でありながら、依頼者の希望に沿ライラストレーションをほぼ的確に制作することが出来た。	自分らしい作品でありながら、依頼者の希望に沿ライラストレーションをある程度的確に制作することが出来た。	自分らしい作品でありながら、依頼者の希望に沿ライラストレーションを的確に制作することが出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーションⅡ （科目ナンバリング：AEA222041 ）				
授業担当者（所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 浩而　魅諭 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	細密画家、復元画家（バレオアーティスト）、野生動物画家（ワイルドライフアーティスト）、ボールペン画家、イラストレーターとして活動する教師が、実践に即した実習を通して、指導に当たる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 授業の説明	予めシラバスに目を通しておく。（45分）	自己をみつめる。（45分）
2	自己紹介（自己プレゼン）	自己の持ち味を考える。 ポートフォリオなどあれば準備しておく。（45分）	明らかになった自己についてまとめておく。（45分）
3	イラストレーションの仕事の流れ	イラストレーションを仕事にするということについて考える。（45分）	イラストレーションという仕事をイメージトレーニングする。（45分）
4	課題提示（擬似依頼者）	自己の強みを改めて意識しておく。（45分）	課題となった仕事（依頼）の内容について整理する。（45分）
5	課題制作１・依頼者とのやりとりの仕方	一社会人としてのメールのマナーや敬語の使い方を確認しておく。（45分）	自分の身に置き換え学習を振り返る。（45分）
6	課題制作２・自己を見つめる	依頼者からの文面をよく読み、熟考しておく（45分）	依頼者の希望に沿うよう、アイディアを練る。（45分）
7	課題制作３・自己を知る、更に探る	思いを形にする（線で描く、相手に視覚で伝える）準備をする。（45分）	思いを形にするにはどうするかを考える。（45分）
8	課題制作４・タイトル・テーマ決定	依頼内容に合う内容について熟考する（45分）	可能な限り多くのラフ画を考えておく。（45分）
9	課題制作５・構図、画面構成、ラフアイディア	候補のラフ画を厳選しておく。（45分）	ボツになったラフ画も過程として残してまとめておく。（45分）
10	課題制作６・エスキース①（構想）	自己の画風について考える。 最終形を頭に思い描く。（45分）	課題の進捗状況を確認する。（45分）
11	課題制作７・エスキース②（構想、彩色構成）	自己の画風にあった画材について考える。（45分）	課題の進捗状況を確認し、見通しを持つ。（45分）
12	課題制作８・エスキース③（決定）	制作の完成までの見通しを持つ。（45分）	課題の進捗状況を確認し､遅れている場合は進める。（45分）
13	課題制作９・エスキース④（完成・チェックを受ける） 作品制作①	完成に向けて各所を検討する。（45分）	依頼者の希望に沿えているか再度確認する。 欠けている点があれば補う。（45分）
14	課題制作１０・作品制作②	依頼者へ添える文面を幾つか考えたり調べたりしておく。（45分）	依頼～提出までの一連の流れを記録して整理しておく。（45分）
15	課題制作１１・作品制作③	自らの作品を客観的に見つめる。（45分）	本日の反省と次回へのめあてを持つ（45分）
16	課題制作12・作品制作④	自らの作品を客観的に見つめる。（45分）	本日の内容の振り返りと次回の課題を自ら探す。（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	課題制作１３・作品制作⑤	依頼～提出までの流れを予め確認しておく。（45分）	課題の進捗状況を把握し、完成までの見通しをもつ（45分）
18	課題制作１４・作品制作⑥	自分の持ち味を再認識、再確認しておく。（45分）	今一度受け取った課題（仕事の依頼）について考える。（４５分）
19	課題制作１５・作品制作⑦	課題の進め方について復習しておく。（45分）	完成までの見通しを持ち、時間が足りなさそうなら自主的に進めておく（45分）
20	課題制作16・作品制作⑧	今一度依頼の内容を確認しておく。（45分）	依頼者の希望を読み取る。 齟齬が生じないよう多方面から気持ちを読み取る。（４５分）
21	課題制作17・作品制作⑨	依頼者の立場に立って依頼の内容を見返してみる。（45分）	依頼者がどうしたら納得できるか、どうしたら自己の画風を生かせるか考える。（45分）
22	課題制作１８・作品制作⑩	依頼者に伝わる言葉を考えておく。（45分）	依頼者と気持ちを通わせる自己の態度、姿勢について、己を省みる。（45分）
23	課題制作１９・作品制作11	依頼者の気持ちを再度考えておく。45分）	依頼者の希望に沿うことが出来ているか作品を客観的に見つめる（45分）
24	課題制作20・作品制作12	依頼者へ提示する準備をしておく。45分）	依頼者に納期などを含めた提出までの流れを提示出来たか、漏れはないかを確認する。（45分）
25	課題制作21・作品制作13	自己の画風について整理しておく。（45分）	自己を生かす画風について再考する。（45分）
26	課題制作22・作品制作14	依頼者との信頼関係を維持するときに必要なことは何かを考えておく。（45分）	依頼者の気持ちになって自己の動きを省みる。（45分）
27	課題制作23・作品制作15	自己の画風を追究する。（45分）	それぞれの制作中の作品を客観的な目で見つめてみる。（45分）
28	課題制作24・作品制作16 依頼者へ提出（メール）	客観的に作品を見つめる。（45分）	それぞれの制作中の作品を他者（身内や友達でよい）に見てもらう。（45分）
29	講評会１	全ての作品の細部を確認しておく。45分）	作品を客観的な目で見つめる。（45分）
30	講評会２	自らの作品の自己評価を行う。（45分）	他の学生の作品に触れ、多様な価値観を知る、気づく。（45分）
31	講評会３	自らの作品の自己評価を行う。（45分）	他の学生の作品に触れ、多様な価値観を知る、気づく。（45分）
32	講評会４ 他己評価 授業改善アンケートの実施	他者の意見、感想を参考に自らの作品についての評価を再検討する。（45分）	合評を通じて感じたこと学んだことを以後の制作にどう反映させていくか考える。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾋﾞｼﾞﾈｽⅠ （科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）・河野　善文（経営学科・教授）・川津　大樹	研究室等所在	２号館６階（信濃）・１号館２階（河野）・１号館４階（川		
単位数	2 （単位認定責任者： 信濃　吉彦 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員の研究室前掲示ボード等を確認のこと				

概要

履修目標

経営学を学ぶ上で必要となる、国際的な感覚を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

国際的な場面で起きる様々な出来事に対して、自分なりの意見や考え方をしっかりとした理由付けの元、構築し自分の将来に役立てることができる。

授業全体の内容と概要

本講座は4人の教員によるオムニバス形式の講義である。配布物や板書が多いのできちんとノートにまとめ，その内容をしっかり理解する。様々な場面・考え方を理解することによって国際関係ががどのようにつながり発展しているのかを考える。積極的な質問や相談は大いに歓迎する。また、興味を持った内容についてはどんどん掘り下げて自分のものとしていくことを励行する。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義形式で授業を行う。既習範囲の内容やハンドアウトを利用し、現在の国際社会を理解する。ノートの作り方や課題、予習復習の内容・やり方についてはその都度授業中に担当教員が指示を出す。座席は全席指定としスマホの使用は指示があるとき以外は認めない。板書の写真撮影は認めるが次回の授業までに必ずノートに転記すること。課題や不明点に関してはネットや経営学辞典等で調べたものを必ずノートに筆記保存すること。与えられた課題については個別対応は行わず、授業内でディスカッション形式で確認を行うものとする。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席および授業参加度を重視する。出席とは，教科書・前回までの配布物・ノート・筆記用具の４点セットを持参することを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り・スマホゲーム・LINE等の授業妨害行為および4点セットを持参しない学生・手ぶらで着席している学生に関しては欠席扱いとし、状況によっては評価対象外とすることがある。各担当者の最終授業において必ず小テストを実施する。ノート提出を１回課し，最終評価の対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、試験実施回を含めて１１回以上とする。遅刻は２０分までとし２回の遅刻を１回の欠席として扱う。各教員の講義で最大許容欠席は2回までとする。予習復習を心がけ，知らない・分からない事柄は必ず調べてノートに記録すること。ノート提出は平常点の最大２０%に換算する。最終評定は4回の小テストの合計とノート提出に出席を加味して行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	小テストの合計で９０点以上の得点を挙げた。	小テストの合計で８０点以上の得点を挙げた。	小テストの合計で７０点以上の得点を挙げた。	小テストの合計で６０点以上の得点を挙げた。	小テストの合計で６０点をクリアすることができなかった。
思考力・判断力・表現力	積極的に講義に取り組み、意思決定において必要となる理論の運用を学び、経営学における実践力を獲得するための努力をしている。	与えられた課題に取り組み、意思決定や国際問題への理解が深まりつつある。	与えられた課題に取り組み、意思決定に至る考え方や国際理解に対する努力が見られる。	与えられた課題に取り組み、経営バランスを理解するための努力は認められるがなかなか定着していない。	課題への取り組みが不十分で、意思決定につながる過程とバランシングへの理解に対する進歩が見られず、自分なりのデータベースができていない。
主体性	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら国際理解に取り組み、余った時間をさらなる問題や対策の研究・理解に振り分けている。	授業中の質問が多く、学習方法や調査結果などの相談も常であり経営学における意思決定やバランス理論の習得に関して前向きで、努力が窺える。	積極性は乏しいものの、不明点を質問するなど前向きな姿勢がうかがわれる。	何とか課題はこなすものの、不明点を質問したりすることはなく、ノートも板書の範囲を超えない。	自分から進んでマネジメント力を身につけようとする姿勢が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾋﾞｼﾞﾈｽⅠ　（科目ナンバリング：　）				
授業担当者（所属・職名）	信濃　吉彦（経営学科・教授）・河野　善文（経営学科・教授）・川津　大樹	研究室等所在	２号館６階（信濃）・１号館２階（河野）・１号館４階（川		
単位数	2　（単位認定責任者：　信濃　吉彦　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーシ国際政治（1）　（後藤担当） 国際関係の成立ョン：シラバスの説明	専用のノートを準備し、高校「世界史」近現代部分を復習する（９０分）	ノートによる情報のデータベース化すなわち授業で学んだことをノートに整理してまとめる（９０分）
2	国際政治（2）　（後藤担当） 第一次世界大戦	分からない単語について調べる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
3	国際政治（3）　（後藤担当） 第二次世界大戦	分からない単語について調べる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
4	国際政治（4）　（後藤担当） 冷戦の始まり	分からない単語について調べる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
5	国際政治（5）　（後藤担当） 冷戦の展開	分からない単語について調べる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
6	国際政治（6）　（後藤担当） 冷戦後の国際政治	分からない単語について調べる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
7	国際政治（7）　（後藤担当） グローバル化と国際政治	分からない単語について調べる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い小テストに備える（９０分）
8	国際政治（8）　（後藤担当） まとめと小テスト	分からない単語について調べ、小テストの準備をする（９０分）	小テストの問題を復習する（９０分）
9	会計・ファイナンスのグローバル化（1）　（川津担当） 資金調達のグローバル化	第2Q「簿記論」の内容を復習する（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
10	会計・ファイナンスのグローバル化（2）　（川津担当） 企業報告のグローバル化	事前に配布する資料を読み、分からない単語について調べる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い小テストに備える（９０分）
11	会計・ファイナンスのグローバル化（3）　（川津担当） サステナブルな資金調達と企業報告	事前に配布する資料を読み、分からない単語について調べ、小テストの準備をする（９０分）	小テストの問題を復習する（９０分）
12	経済のグローバル化（1）　（河野担当） 国境を越えるヒト・モノ・カネと情報	「経済のグローバル化」とは何か、グローバル化の言葉の意味を調べてノートにまとめる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
13	経済のグローバル化（2）　（河野担当） 日本経済とグローバル化 グローバル化の問題	経済のグローバル化が進むことのデメリットについて調べる（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い予習に備える（９０分）
14	経済のグローバル化（3）　（河野担当） 情報のグローバル化 まとめと小テスト	前回の授業で指示した課題について考察し、小テストに備える（９０分）	経済のグローバル化についてまとめる。小テストの問題を復習する（９０分）
15	経営のグローバル化　（信濃担当） 政治上のグローバル化とビジネス上のグローバル化	グローバリズムについて自分の考えをまとめてノートに記す（９０分）	授業で学んだことをノートに整理してまとめ過不足を補い小テストに備える（９０分）
16	経営と共生社会　（担当信濃） 結果の平等と機会の平等 まとめと小テスト	義務と権利・責任について自分の考えをまとめ、小テストに備える（９０分）	本科目の総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修・選
科目名称	介護等体験指導	（科目ナンバリング：SNE144163，SNE244111，SNE344104，SNE444106，SNE544115）			
授業担当者（所属・職名）	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）、木村浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 堀川厚志 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を生かして、今日的な課題について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教員として必要な人間関係を養い、個人の尊厳及び共生社会の理念に関する知識を深めるため、特別支援学校の児童生徒や教職員及び社会福祉施設の利用者と職員から貴重な時間提供を受けた中で、介護等体験が実施されることを理解し、積極的、主体的に体験に臨むための知識や態度を身に付ける。

授業の位置づけ

経営学科・経営学科スポートマネジメントコースのＤＰ２、DP４、DP５に対応する。（２０２３・２０２２年度）
デザイン学科・建築学科のＤＰ２、DP４に対応する。（２０２３・２０２２年度）
社会福祉学科のＤＰ２、DP４、DP５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

特別支援教育の意義を理解するとともに、特別支援学校に在籍する児童生徒の特徴がわかり、適切なかかわり方を理解する。
社会福祉施設の役割を理解するとともに、社会福祉施設や利用者の特徴がわかり、適切なかかわり方について理解する。

授業全体の内容と概要

介護等体験の制度と趣旨及びその目的について指導する。
特別支援学校の校種や教育の概要及び社会福祉施設の役割、介助・介護の実際、体験の際に守るべき基本的なマナーを指導する。体験を想定した心構えや実際にどう行動するかなどについて思考・考察・意見交換等の活動を行う。
「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、パワーポイントのスライド資料の提示と資料配布による講義形式を主とする。
前半には前時使用の資料を使用し、内容の振り返りと確認を実施する。
資料中には課題を用意し、少人数によるグループワークやペアワークを実施する。
内容によっては、Webサイト検索を通して内容を探究する。
後半には内容の確認小テスト等を実施し、重要ポイントを確認する。
Microsoft Forms等を活用し、小テスト等を実施するなどして、理解度を把握し指導する。
学生の不明点等については、チャットなどを活用し迅速に解決できるようにする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

小学校・中学校の教員免許状を取得するための必修科目である。

修学サポート（合理的配慮）

本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
事前相談を受け、学生の希望する修学サポート内容と授業及び尿かの成立要件等を調整し、修学サポートを実施する。

資格指定科目

教職課程（小学校・中学校）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定必要な最低出席回数は６回以上。
中間で提示課題に沿ったレポートの提出は、単位取得に必須条件とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	３０%	０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
介護等体験についての知識・技能	介護等体験の意義や内容を明確に理解し、体験する上での自己課題や心構えなどを自ら整理することができた。	介護等体験の意義や内容を明確に理解し、自分の考えを整理できた。	介護等体験の意義や内容について一定程度の理解ができた。	介護等体験の意義や内容について一部理解ができた。	介護等体験の意義や内容について理解ができなかった。
介護等体験についての思考・判断・表現	介護等体験について積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	介護等体験について思考・判断し、自ら表現することができた。	介護等体験について、思考活動に取り組み表現しようとすることができた。	介護等体験について、思考することができた。	介護等体験にかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に参加することができた。	授業にいくらかの関心をもって参加できた。	授業に関心がなく参加できなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修・選
科目名称	介護等体験指導	（科目ナンバリング：SNE144163，SNE244111，SNE344104，SNE444106，SNE544115）			
授業担当者（所属・職名）	堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）、木村浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 堀川厚志 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を生かして、今日的な課題について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援学校における介護等体験ガイドブック 新フィリア』	全国特別支援学校長会、全国特別支援教育推進連盟（編）	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-522-6	
2	『第５版　よくわかる社会福祉施設　教員免許志願者のためのガイドブック』	社会福祉法人全国社会福祉協議会	図書印刷	2020	978-4-7935-1277-3	
3	『五訂版　教師をめざす人の介護等体験ハンドブック』	現代教師養成研究会(編)	大修館書店	2020	978-4-469-26876-8	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 介護等体験制度の歴史、目的、意義等について	シラバスを確認する 介護等体験制度を調べる （９０分）	介護等体験制度の意義等をまとめる （９０分）
2	特別支援学校における介護等体験の意義、内容等について	特別支援学校で体験する意義を考える （９０分）	内容を整理する （９０分）
3	特別支援学校の児童生徒の特徴、教育の概要、授業での働きかけ、教育的な配慮等について	特別支援学校の校種、教育概要を知る （９０分）	特別支援学校の教育等をまとめる （９０分）
4	特別支援学校における介護等体験実施に向けた手続き、体験に際しての留意点と心構えについて	特別支援学校の校種、教育概要を知る （９０分）	特別支援学校の教育をまとめる （９０分）
5	社会福祉施設における介護等体験の意義、内容等及び社会福祉施設の概要、利用者、活動等について	社会福祉施設について調べる （９０分）	社会福祉施設についてまとめる （９０分）
6	社会福祉施設の種類、概要、利用者、活動等について 利用者とのかかわりと配慮等について	社会福祉施設について調べる （９０分）	社会福祉施設についてまとめる （９０分）
7	社会福祉施設における介護等体験に向けた手続き、体験に際しての留意点と心構えについて 授業改善アンケートの実施	社会福祉施設について調べる （９０分）	社会福祉施設についてまとめる （９０分）
8	介護等体験の意義、内容についてのまとめと定期試験（６０分間筆記試験、解答説明１０分）	意義、内容について調べ、自己課題を明確にする （９０分）	自己課題をまとめる （９０分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題　（科目ナンバリング：PSS122037　　）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　畠山　明子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代の精神保健分野の動向と課題、精神保健の基本的考え方、現代社会における精神保健の諸課題の実際、精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携、国際連合の精神保健活動その他の国々における精神保健の現状と対策に関わる精神保健福祉士に必要な知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。
②精神保健の基本的考え方を理解する。
③現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。
④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。
⑤国際連合の精神保健活動その他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。

授業全体の内容と概要

①ライフサイクルや生活習慣をはじめとする精神保健の基本的な考え方と、それに関連する人間の心理行動面の特徴と現在の動向について学ぶ。
②現在注目されている精神保健の問題と解決策について学ぶ。
③精神障害の発生予防や偏見・差別の解消について学ぶ。
④精神保健活動を行っている関係機関について学ぶ。
⑤世界的な精神保健の動向について学ぶ。
「SDGs3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。
②毎回の感想・質問等をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
③第１０回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する（出題形式・試験時間等は授業内で説明）。
④授業資料の配信等においてMicorsoft Teamsを活用する。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
③ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。
④新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに１０回以上あることを評価の前提条件とし、中間テスト（３０点）、第１６回目に実施する定期試験（７０点）の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	３０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね説明できた。	現代の精神保健分野の動向と課題に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②現代社会における精神保健の諸課題の実際を理解する。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね説明できた。	現代社会における精神保健の諸課題の実際に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね説明できた。	精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題 （科目ナンバリング：PSS122037 ）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2 （単位認定責任者： 畠山　明子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座２　現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要、現代の精神保健の動向と基本的考え方	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
2	家族に関連する精神保健の課題と支援①（家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健、介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりを	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
3	家族に関連する精神保健の課題と支援②（家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
4	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ①（学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
5	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ②（関与する専門職と関係法規、スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
6	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ①（現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
7	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ②（職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
8	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ①（災害被害者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防、身体疾患に伴う精神保健、貧困問題	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
9	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ②（社会的孤立、性的マイノリティと精神保健、多文化に接することで生じる精神保健上の課題、反	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）
11	精神保健に関する発生予防と対策①（精神保健における予防の考え方、アルコール関連問題に対する対策、薬物依存対策、ギャンブル等依存対策、うつ病	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
12	精神保健に関する発生予防と対策②（子育て支援と暴力・虐待予防、認知症高齢者に対する対策、発達障害者に対する対策、社会的ひきこもりに対する対	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
13	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
14	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
15	諸外国の精神保健活動の現状および対策について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題　（科目ナンバリング：PSS122037　　）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　畠山　明子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代の精神保健分野の動向と課題、精神保健の基本的考え方、現代社会における精神保健の諸課題の実際、精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携、国際連合の精神保健活動その他の国々における精神保健の現状と対策に関わる精神保健福祉士に必要な知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ５に対応する。（２０２３年度）

到達目標

①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。
②精神保健の基本的考え方を理解する。
③現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。
④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。
⑤国際連合の精神保健活動その他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。

授業全体の内容と概要

①ライフサイクルや生活習慣をはじめとする精神保健の基本的な考え方と、それに関連する人間の心理行動面の特徴と現在の動向について学ぶ。
②現在注目されている精神保健の問題と解決策について学ぶ。
③精神障害の発生予防や偏見・差別の解消について学ぶ。
④精神保健活動を行っている関係機関について学ぶ。
⑤世界的な精神保健の動向について学ぶ。
「SDGs3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。
②毎回の振り返り（小テスト・感想・質問等）をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
③第１０回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する（出題形式・試験時間等は授業内で説明）。
④授業資料の配信等においてMicorsoft Teamsを活用する。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
③ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。
④新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに１０回以上あることを評価の前提条件とし、中間テスト（３０点）、第１６回目に実施する定期試験（７０点）の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	３０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね説明できた。	現代の精神保健分野の動向と課題に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②現代社会における精神保健の諸課題の実際を理解する。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね説明できた。	現代社会における精神保健の諸課題の実際に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携についておおむね説明できた。	精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種の役割と連携に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	現代の精神保健の課題 （科目ナンバリング：PSS122037 ）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2 （単位認定責任者： 畠山　明子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座２　現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要、現代の精神保健の動向と基本的考え方	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
2	家族に関連する精神保健の課題と支援①（家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健、介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりを	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
3	家族に関連する精神保健の課題と支援②（家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
4	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ①（学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
5	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ②（関与する専門職と関係法規、スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
6	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ①（現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
7	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ②（職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
8	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ①（災害被害者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防、身体疾患に伴う精神保健、貧困問題	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
9	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ②（社会的孤立、性的マイノリティと精神保健、多文化に接することで生じる精神保健上の課題、反	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）
11	精神保健に関する発生予防と対策①（精神保健における予防の考え方、アルコール関連問題に対する対策、薬物依存対策、ギャンブル等依存対策、うつ病	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
12	精神保健に関する発生予防と対策②（子育て支援と暴力・虐待予防、認知症高齢者に対する対策、発達障害者に対する対策、社会的ひきこもりに対する対	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
13	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
14	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
15	諸外国の精神保健活動の現状および対策について	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	測量学 （科目ナンバリング：CIE323037 ）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）	研究室等所在	アトリエ棟１階		
単位数	2 （単位認定責任者：　長森　正　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。実務経験をもとに講義をします。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

古典的測量から現代の測量迄の建築測量関連としての教養的測量を修得し、建築に関る狭い範囲の測量のみならず測量を体系的に広がりを持った理解ができるようになる。

授業の位置づけ

建築学科のDP１３、DP４、DP５に対応する。（２０２４年度）
建築学科のＤＰ１、DP２に対応する。（２０２３・２０２２年度）
建築学科のＤＰ１、DP５に対応する。（２０２１年度）

到達目標

建築に必要な基本的測量知識の修得ができる。

授業全体の内容と概要

初めて測量学を学ぶことを前提にして、社会における測量の役割を理解し、実務に合わせた最新測量技術を用いた測量から地図の作成から建築工事測量までの基礎を講義する。

授業の方法

授業は教科書と配布資料を中心にプロジェクターを利用した講義形式で行う。
建築工事測量の演習も実施して理解を深める。フィードバックとして演習の解説を行う。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

関数電卓持参すること。数学が不得意の学生は基礎となる三角関数の復習に努めること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）選択科目、建築士試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	０％	０％	３０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
測量全般の基礎理解	測量の内容や用語を理解し、測量学全般に関する基礎的な知識を修得し、他の人に説明できた。	測量の内容や用語を理解し、測量学全般に関する基礎的な知識を修得できた。	基本的な測量内容や用語について理解し、他人に説明できた。	基本的な測量内容や用語について理解できた。	基本的な測量内容や用語について理解できなかった。
測量機器全般の基礎理解	測量機器・器具の構造と使用法を理解し、正確に操作でき、他の人に説明できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解し、正確に操作できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解し、説明できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解できた。	測量機器・器具の構造と使用法を理解できなかった。
測量データの理解	測量におけるデータの意味を理解し、データを用いた計算や成果の表示ができ、他の人に指導できた。	測量におけるデータの意味を理解し、データを用いた計算や成果の表示ができた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができ、他人に説明できた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができた。	測量におけるデータの意味を理解し、簡単な測量計算ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	測量学 （科目ナンバリング：CIE323037 ）				
授業担当者（所属・職名）	長森　正（建築学科・特任教授）		研究室等所在	アトリエ棟１階	
単位数	2 （単位認定責任者： 長森　正 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	１級土木施工管理技士・測量士・コンクリート技士として建設会社に勤務。 実務経験をもとに講義をします。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『図説わかる測量』	猪木幹雄・中田勝行・那須充	学芸出版社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 概論、測量の役割	シラバス資料を確認して，授業内容を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
2	地球の形と地図の表し方	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
3	測量の基本（１）　基準点・三角測量	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
4	測量の基本（２）　距離測量・補正演習	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
5	測量の基本（３）　水平角・鉛直角	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
6	測量の基本（４）　単角法・倍角法・方向法	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
7	衛星測位	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
8	トラバース測量	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
9	水準測量（１）　水準測量の基本	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
10	水準測量（２）　昇降式・器高式	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
11	地形測量・平板測量	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
12	建築工事測量・写真測量・GIS測量	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
13	角測量演習	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
14	水準測量演習	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
15	距離測量演習・まとめ	次回授業範囲の資料を予習する（９０分）	授業内容・演習問題を理解し復習する（９０分）
16	授業改善アンケートの実施 定期試験６０分の試験終了後、残りの３０分で解説を行います。	授業内容全体について資料を整理して、定期試験に備える（９０分）	授業内容全体について資料を整理する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法　（科目ナンバリング：SWS123040　　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。
②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。
③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。
④精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。
⑤個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。
⑥精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、ＤＰ2、ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。（2023年度）

到達目標

ソーシャルワークの展開に必要な知識や手法等を理解する。

授業全体の内容と概要

①精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要、過程、実際について学ぶ。
②多職種連携多機関連携について学ぶ。
③ソーシャルアドミニストレーション、コミュニティワークソーシャルアクション等について学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

①授業形態は講義形式で行う。
②テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④確認テストを実施し、解答回収後解説を行う。
⑤Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は必ず持参すること。
②必要な資料等は適宜配布する。
③２０分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	０%	１０%	３０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識をおおむね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開についておおむね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことをおおむね説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワークの理論と方法　（科目ナンバリング：SWS123040　　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実務経験がある教員がその経験を活かして、精神保健福祉の基礎となる知識や倫理観習得のための指導をする。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワークの理論と方法［精神専門］』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版株式会社	２０２１	9784805882573	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業内容の説明、シラバスの説明 ソーシャルワークの構成要素について	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
2	ソーシャルワークの展開過程について①（インテーク～プランニング）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
3	ソーシャルワークの展開過程について②（インターベンション～アフターケア）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
4	精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点について	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
5	アウトリーチについて	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
6	インテークについて（主訴の把握、スクリーニング、契約）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
7	アセスメント（本人に関する理解、環境に関する理解、アセスメントツール）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
8	援助関係の形成技法について（自己決定、意思決定、パートナーシップ、バウンダリー）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
9	面接技術について(面接の構造、マイクロカウンセリング）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
10	支援の展開(人、環境へのアプローチ）についての事例分析	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
11	支援の展開（ケアマネジメント）について	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
12	精神障害者家族の課題について（ケアラー・ヤングケアラー支援）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
13	家族理解の変遷について（家族システム論、家族の感情表出研究）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
14	家族支援の方法について①（家族相談面接、家族関係における暴力への介入）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
15	家族支援の方法について②（家族のリカバリー、家族のセルフヘルプグループ）	教科書を事前に読んでおくこと。（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
16	試験（６０分）実施、終了後解説（３０分） 授業改善アンケートの実施	試験のための学習（９０分）	試験の振り返りを行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ｷｬﾗｸﾀｰﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ	（科目ナンバリング：AEA222045 ）			
授業担当者（所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者： 三上　いずみ ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知り、具現化する。
自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学び、模索する。
オリジナルのキャラクターを生み出し、愛着の持てる作品に仕上げる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP３、DP５に対応する。（2023，2022年度）
デザイン学科のDP２、DP３、DP５に対応する（2021年度）

到達目標

二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知る。
自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学ぶ。
オリジナルのキャラクターを生み出し、立体作品に仕上げる。

授業全体の内容と概要

テーマに沿ったキャラクターを発想し、立体物として仕上げる。張り子技法で制作する。
完成後、作品を撮影し、発表する。その後、展示を行い講評にてフィードバックする。
「SDGs１２．つくる責任つかう責任」の関連授業。

授業の方法

授業内容は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。プロジェクター使用。授業後、デジタル資料はTeamｓに保存するので振り返り可能。共同使用する材料はこちらで準備する。個人で使用する物は各自で準備する。
ラフデザインの段階でグループワークで野ディスカッションを行い、学生相互でデザインのクオリティ向上を目指す。デザイン決定後、立体制作に入る。
課題は講評にてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題制作に真剣に取り組むこと。
ハサミ、カッター、ガムテープ、刷毛、筆、ボウル（入れ物）、は各自で用意すること。
授業開始から３０分で作業の説明をするので遅刻しないこと。
欠席した場合は次の授業までに同じ段階まで作業を進めておくこと。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数１１回以上。
作品が期日までに完成していること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	５０％	０％	５０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構造の理解	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知り、理解し、作品に活かすことができた。	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知り、理解することができた。	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知り、理解することに努めた。	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知ることができた。	二次元のデザインを三次元に変換させ、その構造を知ることができなかった。
表現方法	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学び、模索し、作品に活かすことができた。	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学び、模索することができた。	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学び、模索することに努めた。	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学ぶことができた。	自らのデザインを三次元につくり上げるための表現方法を学ぶことができなかった。
作品への情熱	オリジナルのキャラクターを生み出し、愛着の持てる作品に仕上げ、完成度の高い作品ができた。	オリジナルのキャラクターを生み出し、愛着の持てる作品に仕上げることができた。	オリジナルのキャラクターを生み出し、愛着の持てる作品に仕上げることに努めた。	オリジナルのキャラクターを生み出し、作品に仕上げることができた。	オリジナルのキャラクターを生み出し、作品に仕上げることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ｷｬﾗｸﾀｰﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ	（科目ナンバリング：AEA222045 ）			
授業担当者（所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	1 （単位認定責任者：　三上　いずみ　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 道具の説明	シラバスを読んでおくこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
2	ラフデザイン グループでのディスカッション	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
3	立体造形　芯づくり①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
4	立体造形　芯づくり②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
5	立体造形　成形①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
6	立体造形　成形②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
7	立体造形　補強①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
8	立体造形　補強②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
9	立体造形　着色①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
10	立体造形　着色②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
11	立体造形　表面加工①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
12	立体造形　表面加工②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
13	立体造形　仕上げ①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
14	立体造形　仕上げ②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
15	撮影・発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
16	展示・講評 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究Ⅱ　（科目ナンバリング：AEA223061　）				
授業担当者（所属・職名）	安田　祐造（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館１階	
単位数	2　（単位認定責任者：　安田　祐造　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

概要

履修目標

油彩やエッグテンペラだけでなく、その他のものについてもより深く学修し、支持体についても様々な処方を試みる。また、絵画制作をとおし、自らをより深く探求するとともに社会とのかかわりについても考察を深化させることを目標とする。技法材料・研究Ⅰと重複する部分が多いが、繰り返すことにより、より確かなものを獲得できるようにする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP54に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

油彩やエッグテンペラ、その他のテンペラ、水彩等の技法等から、自らの表現の意図に最も相応しい技法を採用し、作品制作を通して個性豊かに自己実現につなげることができる。

授業全体の内容と概要

自ら採用した技法と材料とを駆使し、自らが設定したテーマに沿って制作を行う。客観的評価を得て自らの表現力を検証する意味で公募展等にも挑むが、発表の場や形式についても自らの作風や大きさに合わせて選択する。

授業の方法

様々な技法材料について学修するだけではなく、主体的に自らが選択した技法や材料に重点を置き、自己表現する実技形式の授業である。それぞれの個性や哲学に相応しいテーマを設定し、表現した作品を創り上げることを課題とするものである。授業での視聴覚機器を活用した情報提供はもとより、履修生自らが美術館や公募展等で得た情報等を作品や人間形成に寄与させるものである。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

この授業を履修するに当たっては、間もなく卒業し社会に出ることを前提として、以後美術を通して何ができるかを引き続き模索するものでもあることを十分に認識したうえで履修すること。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２２回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴に習熟し、それらを自らの表現に十分効果的に活かした。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現に効果的に活かした。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現にほぼ効果的に活かした。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現にある程度効果的に活かした。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を十分に理解しておらず、自らの表現に効果的に活かせなかった。
彩色材料について	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴に習熟し、それらを自らの表現に十分効果的に活かした。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を十分理解し、それらを自らの表現に効果的に活かした。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現にほぼ効果的に活かした。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現にある程度効果的に活かした。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を十分に理解しておらず、自らの表現に効果的に活かせなかった。
描写について	モティーフの面やバルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をより確かに、より効果的に取り入れられた。	モティーフの面やバルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を確かに、効果的に取り入れられた。	モティーフの面やバルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をほぼ確かに、ほぼ効果的に取り入れられた。	モティーフの面やバルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をある程度確かに、ある程度効果的に取り入れられた。	モティーフの面やバルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法が不十分なもので、効果的に取り入れられなかった。
自らについて	自らの感性や個性をより深く認識し、社会とのかかわり方についてもより確かな見識を見出した。	自らの感性や個性を認識し、社会とのかかわり方についての見識も見出した。	自らの感性や個性をほぼ認識し、社会とのかかわり方についてもほぼ確かな見識を見出した。	自らの感性や個性をある程度認識し、社会とのかかわり方についてもある程度の見識を見出した。	自らの感性や個性を認識しえず、社会とのかかわり方についても見識を見出しえなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究Ⅱ （科目ナンバリング：AEA223061 ）				
授業担当者（所属・職名）	安田　祐造（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館１階	
単位数	2 （単位認定責任者： 安田　祐造 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスについて、授業改善アンケート結果反映の説明、公募展について　Ⅰ	予めシラバスに目をとおし、出品予定の公募展についても下調べをしておく。（４５分）	シラバスの中身に従い、自らの制作についての計画を立てる。（４５分）
2	オリエンテーション シラバスについて、公募展について　Ⅱ	自らの感性や表現の意図に相応しい公募展について下調べをしておく。（４５分）	どの公募展を目指すかを決め、新作のテーマやモティーフについて検討する。（４５分）
3	様々な技法や材料についての復習 エッグテンペラや油彩の技法・材料について　Ⅰ	これまでに学修した様々な絵画技法や材料の特徴を復習し、新作の表現に最も相応しいものを検討する。（４５分）	新作についての構想を練る。（４５分）
4	様々な技法や材料についての復習 混合技法や水彩などの技法・材料について　Ⅱ	新作についての構想を取りまとめ、その制作に要する技法や材料を検討する。（４５分）	構想を具体的に下絵として取りまとめ、制作のための技法や材料を決める。（４５分）
5	支持体製作　（支持体をどの様にどれだけの大きさのものにするかは任意選択） 基底材の選択と組み立てについて　Ⅰ	新作の表現に最も相応しい基底材を決める。（４５分）	基底材に足りないものがあれば補充を行う。（４５分）
6	支持体製作 基底材の選択と組み立てについて　Ⅱ	基底材の組み立てについて、自らの制作に相応しいものとなるように作業計画を立てる。（４５分）	作品の構想を具現化するために、必要とする資料などの収集を行う。（４５分）
7	支持体製作 地塗り材の選択と地塗り作業について　Ⅰ	作品の具現化に最も効果的な地塗り材と塗布の仕方について検討する。（４５分）	本時の制作の進捗を観察し、思い通りの地塗りを行えるように検討する。（４５分）
8	支持体製作 地塗り材の選択と地塗り作業について　Ⅱ	作品の構想に照らし、最も相応しい地塗りの仕方について検討する。（４５分）	本時の地塗りで足りない点がないかを観察する。（４５分）
9	支持体製作 地塗面の仕上げ	作品の構想に照らし、地塗り面の平滑の程度や吸収の程度を調整する。（４５分）	作り上げた支持体を観察し、不備な個所がないかを観察する。（４５分）
10	下絵の支持体への転写	下絵の転写の仕方を決める。（４５分）	転写に不足した点はないかを観察し、必要に応じて加筆する。（４５分）
11	本制作　Ａ　（制作のための描法－技法－は任意選択） 大まかな色面把握について　Ⅰ	大まかな色面把握ということについて予習する。（４５分）	細部に捉われて基本的な骨格を見失っていないかを検討する。（４５分）
12	本制作　Ｂ 大まかな色面把握について　Ⅱ	足りない点や過ぎた点がないかについて検討する。（４５分）	他の学生の制作を参考にするなどして、自らの制作の進め方について検討する。（４５分）
13	本制作　Ｃ 大まかな色面把握について　Ⅲ	明度、彩度、色相のそれぞれの差異に目をやり、自らの制作の進捗を検討する。（４５分）	本時の制作を省みて足りない点や過ぎた点について修正を行う。（４５分）
14	本制作　Ｄ 大まかな色面把握について　Ⅳ	上描きを繰り返しながら制作を進めることを念頭に、初期段階から細部に捉われすぎないように注意する。（４５分）	今一度、色の三属性のそれぞれの要素について、大まかに捉えられているかを確かめ、必要に応じて修正を行う。（４５分）
15	本制作　Ｅ 上描きによる細部の表現について　Ⅰ	局部的に細密に描写するのではなく、常に全体的に、次第に細部に目をやるように注意する。（４５分）	全体に目をやり、全体的にかつ段階的に描き込みが行われているかを確認する。（４５分）
16	本制作　Ｆ 上描きによる細部の表現について　Ⅱ	色の三属性のそれぞれの要素は、周囲の色との関係から変化して見えることを再確認する。（４５分）	ことに、写実的な描写を行う場合は、まず明度について、構想したものとの間に隔たりが生じていないかを検討する。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	本制作　Ｇ 上描きによる細部の表現について　Ⅲ	色の明度の観点から、足りない点や過ぎた点がないかについて検討する。（４５分）	同様に、彩度や色相についても、周囲の色の影響を考慮し、構想したものとの間に隔たりが生じていないかを検討する。（４５分）
18	本制作　Ｈ 上描きによる細部の表現について　Ⅳ	過ぎた点については、必要に応じて、削ったり拭ったりして後戻りすることを検討する。（４５分）	削除したり加筆したりする場合、描画材料により、溶剤や用具について慎重に検討する。（４５分）
19	中間発表	これまでの自らの制作振り返る。（４５分）	中間発表会で寄せられた他者の意見や助言や感想について取りまとめる。（４５分）
20	中間発表	他の学生の制作について、各々の感性や表現の仕方など、それぞれの良さを見つけ出すように努める。（４５分）	他者の意見や感想などを糧として、これからの制作の仕方について計画を立てる。（４５分）
21	本制作　Ⅰ さらなる描き込みについて(質感表現を主に)　Ⅰ	ことに、明度に着目し、質感表現について検討する。（４５分）	明度差－コントラスト－やタッチにより質感が変化することに着目し、これまでの制作を検討する。（４５分）
22	本制作　Ｊ さらなる描き込みについて(質感表現を主に)　Ⅰ	それぞれの色相の明度を見極めて、質感が十分に表現されつつあるかを検討する。（４５分）	色合いのある色面の明度について着目し、古今の作品などを参照する。（４５分）
23	本制作　Ｋ さらなる描き込みについて(陰影表現を主に)　Ⅰ	明部と暗部のそれぞれの明るさの差を見極められるように努める。（４５分）	次第に、作品の構成要素が増加し複雑化するが、部分と部分だけでなく部分と全体との関係についても、隔たりが生じていないかを検討する。（４５
24	本制作　Ｌ さらなる描き込みについて(陰影表現を主に)　Ⅱ	確かな陰影表現により。空気感が表現できるように努める。（４５分）	陰影の部分と明部との関係について、明度だけでなく、彩度や色相についても検討する。（４５分）
25	本制作　Ｍ さらなる描き込みについて(色彩調和を主に)　Ⅰ	かたちや立体感を追い求めるのと同時に、表現の意図に合った色彩調和について目をやる。(４５分)	美し調和だけでなく、良い調和とはどういうことかについて検討する。（４５分）
26	本制作　Ｎ さらなる描き込みについて(色彩調和を主に)　Ⅱ	かたちを損なうことのないように、色彩調和を求める。（４５分）	立体感や奥行き感を損なうことなく、色彩調和をはかるための要点は何かについて検討する。(４５分)
27	本制作　Ｏ 仕上げに向けて　Ⅰ　Ⅰ	さらに全体を見通して、部分どうしや全体とのバランスや調和につて検討する。（４５分）	仕上げに向け、かたちや色についてだけでなく、質感の表現についても検討する。（４５分）
28	本制作　Ｐ 仕上げに向けて　Ⅱ	立体感や空気感が表現できているかを検討する。（４５分）	明部と暗部とについて、かたちや色彩調和を損なうことなく、足りない点や過ぎた点について修正を行う。（４５分）
29	本制作　Ｑ 仕上げに向けて　Ⅲ	構想や表現の意図が作品に反映されているかの検討を行う。（４５分）	構想や表現の意図に照らし、的確な色彩表現が行えているかを検討する。（４５分）
30	本制作　Ｒ 仕上げに向けて　Ⅳ	色彩調和について、全体調整を行う。（４５分）	発表を前に、さらに全体に目をやり、自らの構想や表現の意図に照らし調整を行う。（４５分）
31	合評　Ａ	これまでの制作活動を振り返り、良い点や足りない点などについて検討する。(４５分)	他者の意見や助言や感想を参考に、自らの制作と作品についての自己評価を行う。（４５分）
32	合評　Ｂ、授業改善アンケートの実施	他者との感性や価値観の相違、多様性などを認め、卒業後の社会生活のあり方についての考えをまとめる。（４５分）	合評会での他者の意見や助言や感想を参考に、卒業後の創作活動について検討する。(４５分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習Ⅰ　（科目ナンバリング：SEM324058　）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館６階		
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１級建築施工管理技士(学科)試験の合格に必要な知識を修得し、学科試験に合格できる学力を修得する。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ２に対応する。（2024年度）
建築学科のＤＰ２に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のＤＰ２に対応する。（2021年度）

到達目標

国家資格である「１級建築施工管理技士」の学科試験に合格できる学力を備えることができる。

授業全体の内容と概要

使用テキストに沿って「１級建築施工管理技士学科試験」項目の講義および演習問題の実施・解説を行い、建築施工管理について修得する。

授業の方法

授業は配布する各章の過去問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

準備学習として教科書の読み込みを行い、当日の過去問題の小テストに備え、講義後はその復習に努める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法は、毎回の各章の小テストの合計得点を勘案し、総合的に判断する。単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。また、定期試験は実施せず、日常授業の８回の小テスト（課題）の結果を勘案して総合評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	１００%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
１級建築施工管理技士の学科試験に必要な知識を修得できる。	１級建築施工管理技士技士（学科）試験の合格に必要な知識を修得できていた。	１級建築施工管理技士（学科）試験の合格に必要な知識をおおむね修得できていた。	１級建築施工管理技士（学科）試験の合格に必要な知識を最低限修得できていた。	１級建築施工管理技士（学科）試験の合格に向けて取り組む意志があった。	１級建築施工管理管理技士（学科）試験の合格に必要な知識を修得できていなかった、または、取り組む意志がなかった。
共生社会の実現ならびに貢献できる人材として、建築の基礎力を養うことができる。	建築が社会で果たす役割を理解し、基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、ある程度の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解し、最低限の基礎力を修得できていた。	建築が社会で果たす役割を理解していた。	建築が社会で果たす役割を理解していなかった。
建築技術者としての問題意識を持ち、その問題解決の意識を持つことができる。	建築についての問題意識を持ち、問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、ある程度の問題解決に向き合うことができた。	建築についての問題意識を持ち、どのような問題が存在しているかを理解していた。	建築についての問題意識を持ち、問題解決の必要性を理解していた。	建築についての問題意識を持たなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	施工管理技士演習Ⅰ　（科目ナンバリング：SEM324058　）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『令和５年度　１級建築施工管理技士学科テキスト』		建築資料研究社	２０２３		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業の進め方について説明 授業改善アンケート結果に関する説明（小笠原	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
2	構造力学－問題・解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
3	計画原論・一般構造－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
4	計画原論・一般構造－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
5	建築材料－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
6	建築材料－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
7	躯体工事①－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
8	躯体工事①－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
9	躯体工事②－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
10	躯体工事②－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
11	仕上工事①－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
12	仕上工事①－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
13	仕上工事②－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
14	仕上工事②－解説	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
15	設備工事・その他－問題	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
16	設備工事・その他－解説 授業改善アンケートの実施	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	４Ｑ	授業形態		必修・選択	
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾘｻｰﾁⅠ　（科目ナンバリング：　　）				
授業担当者（所属・職名）			研究室等所在		
単位数	2　（単位認定責任者：　　）		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー					

概要

履修目標

授業の位置づけ

到達目標

授業全体の内容と概要

授業の方法

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

修学サポート（合理的配慮）

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	４Ｑ	授業形態		必修・選択	
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾘｻｰﾁⅠ　（科目ナンバリング：　）				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	2　（単位認定責任者：　）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222069 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　力 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実技経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

彫刻の特性を活かして、構造的にも安定した美しい作品を制作することが出来る。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP３、DP５に対応する。（2023･2022年度）

到達目標

彫刻の特性を理解して作品を制作することが出来る。

授業全体の内容と概要

彫刻Ⅱでは、木彫の基本的な技法、用具の使いかた、材料についての知識を実践的に学ぶ。
課題はAまたはBのどちらか１つを選択して行う。Aは写実表現を深く学ぶ。Bは写実表現＋抽象彫刻。

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、プレゼンテーションを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

立体構成１及び２、彫刻１を履修したものが望ましい。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

２０回以上の出席がない場合は評価の対象としない。
評価は作品点（７０％）、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」（３０％）の基準で行う。
講義の前半で課題を説明するため、３０分以上の遅刻は出席として認めない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
彫刻の基本的な特性の理解（知識・理解）	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を理解し、上手く活用しており、美しかった。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を理解し、活用していた。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を活用しようと試みていた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。	作品が自立せず、彫刻として成立していなかった。
編集と発表の能力（思考力・表現力・判断力等）	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ボードを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を収めたボードを作成した。	制作した作品を収めたボードを作成した。	制作した作品を収めずボードを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度（主体性・多様性・協働性）	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻Ⅱ （科目ナンバリング：AEA222069 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　力 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実技経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動する経験を活かして実技指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション －シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと（45分）	オリエンテーションを振り返り、内容を理科しておく事（４５分）
2	彫刻を考える	身近な彫刻作品について考えてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
3	木彫 A「りんご」　ドローイング B「たまご」ドローイング	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
4	木彫 A「りんご」ドローイング B「たまご」ドローイング	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
5	木彫 A「りんご」 B「たまご」	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
6	木彫 A「りんご」 B「たまご」	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
7	木彫 A「りんご」荒彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
8	木彫 A「りんご」荒彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
9	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
10	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
11	木彫 A「りんご」 B「たまご」	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
12	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
13	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
14	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
15	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
16	木彫 A「りんご」彫り B「たまご」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	木彫 Aりんご　彫り B「抽象彫刻」ドローイング	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
18	木彫 Aりんご　彫り B「抽象彫刻」ドローイング	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
19	木彫 Aりんご　彫り B「抽象彫刻」荒彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
20	木彫 Aりんご　彫り B「抽象彫刻」荒彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
21	木彫 Aりんご　彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
22	木彫 Aりんご　彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
23	木彫 Aりんご　彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
24	木彫 Aりんご　彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
25	木彫 Aりんご　彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
26	木彫 Aりんご　彫り B「抽象彫刻」彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
27	木彫 Aりんご　仕上げ B「抽象彫刻」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
28	木彫 Aりんご　仕上げ B「抽象彫刻」仕上げ	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
29	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
30	プレゼンテーション	プレゼンテーション準備（４５分）	プレゼンテーション準備（４５分）
31	講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（４５分）
32	講評 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用数学 （科目ナンバリング：MAT322054 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

学生が微分積分の基礎知識を養う力を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

基本的な数学の知識から学び、微分積分の基礎知識までを修得する。さらに，それらのことを通して，答えだけではなく，計算過程（思考過程の説明）も大切であることを理解し，習慣づけることができる。

授業全体の内容と概要

数の計算から始まり、分数・因数分解・平方根・一次関数、極限値，導関数，微分法の公式，べき・三角関数・指数関数・対数関数などの微分，不定積分，置換積分法，部分積分法など，豊富な練習問題を計算することによって，微分積分の知識の定着を図る。「ＳＤＧ4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書及び配布物資料で実施し、板書及び資料にて説明した後、課題演習を行う。また、課題及び演習の解答は時間内に行うようにする。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施します。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義内容を十分に理解するために予習・復習を怠らず，また講義や演習に対して積極的に取り組むこと。予習・復習を怠らないこと。
授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

１1回以上の出席、レポート課題の提出と定期試験の結果を総合し絶対評価及び相対評価を併用して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	２０%	０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
微分積分の基礎知識の修得	極限及び微分積分の基礎知識が１００%理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が９０%以上理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が８０%以上理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が７０%以上理解できた。	極限及び微分積分の基礎知識が７０%も理解できなかった。
計算過程（思考過程の説明）の習慣化	演習問題は計算過程（思考過程の説明）を１００%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程（思考過程の説明）を９０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程（思考過程の説明）を８０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程（思考過程の説明）を７０%記述したレポートになった。	演習問題は計算過程（思考過程の説明）を７０%も記述したレポートにならなかった。
微分積分を学ぶために必要な基礎数学の知識の修得	基礎数学の知識が１００%理解できた。	基礎数学の知識が９０%以上理解できた。	基礎数学の知識が８０%以上理解できた。	基礎数学の知識が７０%以上理解できた。	基礎数学の知識が７０%も理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	応用数学 （科目ナンバリング：MAT322054 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適時資料配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
2	整数と計算	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
3	分数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
4	展開・因数分解	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
5	平方根・一次関数	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
6	極限値・連続関数	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
7	導関数	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
8	べきの微分	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
9	微分法の公式１（極限値）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
10	微分法の公式２（導関数）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
11	初等関数の微分１（三角関数）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
12	初等関数の微分２（指数関数・対数関数）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
13	不定積分１（原始関数と不定積分）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
14	不定積分２（初等関数の積分）	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
15	まとめ及び授業改善アンケートの実施	配布資料の学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
16	60分の試験終了後、残りの30分で解説を行います。	全内容の再確認及び理解を行う。（90分）	総理解（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理学 （科目ナンバリング：PSG111008 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者：　吉澤　英里　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

心理学は、心とは何かという問いに対して科学的な手法を用いて明らかにすることを試みる学問領域である。研究例を手がかりとしながら、どのようなことが明らかになっているのかを知り、自他の心の理解を深めることを目指す。

授業の位置づけ

全学科のDP2に対応する。（２０２４年度）

到達目標

人の心の解釈の多様性を理解し、その中から自分なりの解を示すことができる。さらに、そうした解を学術レポートの様式に準じた形で文章表現できる。

授業全体の内容と概要

心理学が成立した過程を学び、その中でどのような研究がなされてきたのかを理解する。さらに、研究の結果としてどのようなことがわかっているのか、あるいはわかっていないのかを、自分の経験や体験と照らし合わせながら考えていく。これらの学びを通して、こころの多様性や自他への理解を深めることを目指す。
「SDGs３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

スライド資料、板書、 映像等を使用しながら講義形式で行う。毎回の最後に、Microsoft Formsを活用した質疑応答を求める。受け取った質問やコメント、要望については、次回に全体へフィードバックする。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。また、欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

「読む、考える、書く」ことを重視する。関連図書を読み、理解を深めること。特に、学術レポートの執筆が不慣れな者は、レポート執筆前に「レポートの書き方」などの文献を一読することを強く勧める。
提出物の締め切りは厳守すること。締め切りを超過したレポートも受理するが、それへの評価は相当低くなることを覚悟すること。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	１００％	０％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎知識の理解	授業で扱った専門知識について、非常に理解ができた。	授業で扱った専門知識について、よく理解ができた。	授業で扱った専門知識について、やや理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができた。	授業で扱った専門知識について、最低限の理解ができていなかった。
解とその根拠の提示	問いに対して、自分なりの解とその根拠を非常に示せた。	問いに対して、自分なりの解とその根拠をかなり示せた。	問いに対して、自分なりの解とその根拠をやや示せた。	問いに対して、自分なりの解を示せた。	問いに対して、自分なりの解を示せなかった。
アカデミック・ライティング	学術レポートのルールを非常に理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールをよく理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールをやや理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートの最低限のルールを理解し、レポートを執筆できた。	学術レポートのルールに沿って、レポートが執筆できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	心理学 （科目ナンバリング：PSG111008 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 吉澤　英里 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『心理学　第5版補訂版』	鹿取廣人　他	東京大学出版会	2020	9784130121170	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明：オリエンテーション（心とは何か）	関連図書を事前に読んでおくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
2	心理学の誕生に至るまでの歴史	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
3	行動主義	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
4	条件づけ・学習	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
5	記憶の仕組み	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
6	記憶に関わる諸現象	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
7	感覚・知覚の基礎	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
8	見えの仕組みと諸現象	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
9	聞こえの仕組みと諸現象	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
10	問題解決と認知的発達	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（90分）
11	推論と発見	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
12	コミュニケーション（言語と非言語）	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
13	動機づけ	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
14	情動（情動とは何か）	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
15	フラストレーションとコンフリクト	指定したキーワードを事前に調べておくこと。（９０分）	授業の内容をノートにまとめて復習すること。（９０分）
16	これまでの振り返りと授業改善アンケートの実施	今までの授業内容を復習しておくこと。（９０分）	振り返りを行うこと（９０分）。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画Ⅳ （科目ナンバリング：AEA223067 ）				
授業担当者（所属・職名）	五十嵐　優美子（デザイン学科・客員教授）　鴨　修平（デザイン学科・非常勤	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 鴨　修平 ）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画連載・単行本出版経験のある教員が，漫画の描き方を基礎から指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

漫画の基礎技術の向上と現代における表現技法の多様性を学習し，漫画雑誌だけを発表の場としない柔軟な考えを身につけ，芸術文化の推進に率先垂範できる能力を身に付けるとともに，芸術文化をとおし社会における使命・役割を理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP３、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP２、DP３、DP５、DP６に対応する。（2021年度）

到達目標

漫画の作業工程を理解し、制作する中で漫画の読者の立場から作者の立場に視点を変化することができる。

授業全体の内容と概要

いくつかの課題を通して基礎的なテクニックの確認と補強をしながら，雑誌投稿などを想定した漫画作品の制作を各自で行う。個人の実力にあわせて指導し、漫画を完成させる。

授業の方法

板書及び参考資料とプリントを使って説明をし、各自で制作の実技を行う。制作の際は適宜講師との打ち合わせを行う。
制作期間中は宿題とし、期限内に提出する。作品によってはその日の授業内に提出するものもある。
提出物にはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

作品制作に応じて必要な画材があれば持参すること。デジタル作品を制作する場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。(持参できない場合は講師と相談。)３回の遅刻で１回の欠席とみなす。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，２０回以上。
授業内で示した作業スケジュールを遵守し，期日内に作品を提出する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
漫画表現（知識と理論の理解）	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を十分に理解し、それらを自らの創作に活かして作品を完成できた。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を理解し、それらを自らの創作に活かして作品を制作した。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論をある程度理解し、それらを自らの創作に活かす努力ができた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できなかった。 作品を提出できなかった。
漫画制作（ストーリー創作技術）	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを十分に理解し、自らの表現したいテーマを決めて創作し作品を完成できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解し、作品を創作できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックをある程度理解し、作品を創作する努力をした。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割等のテクニックを理解できず、作品を創作できなかった。
漫画制作（作画技術）	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らの考えたテーマや個性を十分に表現し、完成できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らのテーマや個性を表現できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し、使用できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画Ⅳ （科目ナンバリング：AEA223067 ）				
授業担当者（所属・職名）	五十嵐　優美子（デザイン学科・客員教授）　鴨　修平（デザイン学科・非常勤	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 鴨　修平 ）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画連載・単行本出版経験のある教員が，漫画の描き方を基礎から指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『必要に応じて参考資料を提示、プリントを配布。』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケートの結果反映の説明 シラバスの説明・原稿の制作手順	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
2	好きな作品のプレゼンイラスト2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
3	ストーリーのネームと実技１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
4	ストーリーのネームと実技２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
5	ストーリーのネームと実技３	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
6	ストーリーのネームと実技４	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
7	ストーリーのネームと実技５	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
8	ストーリーのネームと実技６	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
9	４P漫画制作　プロット	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
10	４P漫画制作　プロット	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
11	４P漫画制作　ネーム１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
12	４P漫画制作　ネーム２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
13	４P漫画制作　ネーム３	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
14	４P漫画制作　下書き	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
15	４P漫画制作　ペン入れ	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
16	４P漫画制作　仕上げ	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	ストーリー漫画制作　プロット	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
18	ストーリー漫画制作　ネーム１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
19	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
20	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
21	ストーリー漫画制作　ネーム２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
22	ストーリー漫画制作　下書き１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
23	ストーリー漫画制作　下書き２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
24	ストーリー漫画制作　ペン入れ１	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
25	ストーリー漫画制作　ペン入れ２	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
26	ストーリー漫画制作　ペン入れ３	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
27	ストーリー漫画制作　背景	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
28	ストーリー漫画制作　ベタぬり・効果線	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
29	ストーリー漫画制作　スクリーントーン	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
30	ストーリー漫画制作　仕上げ	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
31	授業改善アンケートの実施 講評	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）
32	講評	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。（４５分）	講義中に指示された課題に取り組むこと。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	松岡　龍介（デザイン学科・准教授）		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論Ⅱ　（科目ナンバリング：AEA222083　）				
授業担当者（所属・職名）	松岡　龍介（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　松岡　龍介　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が美術，デザインの専門家に必要な基礎的素養としての造形解釈について理解することが目的である。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

学生が造形論に関わる内容に関して(最低限の)口頭での発表またはレポート形式で記述することを学ぶことができる。

授業全体の内容と概要

学生が美術，デザインにおける基本的素養としての造形解釈について理解するために，
授業計画に記載されている「ハイブリッド感覚」や「類像現象」などの直裁的で造形の本質に関するテーマに触れ，理解した内容やコンセプト，自らの思考を口頭での発表やレポート形式で記述する。

授業の方法

授業のプレゼンテーションの方法としてパワーポイントを用いて授業を実施し，講義形式で授業をすすめ，毎回の授業の要点を各自が自筆ノートにまとめる。
これらをもとに，各自が毎回のテーマについてアクティブラーニングとして各自が自らが主体となって能動的に口頭での発表や，レポート形式で記述（レポート制作）する。
学生が、プレゼンテーションとしての口頭での発表やレポート形式で記述を行う。
実験・実習・実技として各自が制作した課題レポート（１３課題）の確認とアドバイスによる双方向授業を行う。
また、毎回の口頭での発表や、レポートに対して、フィードバックとして添削およびコメントをする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。
但し、高等学校教諭一種免許状（工芸）の科目として履修している学生は除く。
自筆ノートを制作すること。
レポートの作成について、特に、ウエブを参考にした場合、その記述について注意すること。
出席を取り終わったあとは欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

１０回以上の最低出席回数。および，レポート課題１０課題以上の提出の双方。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	６０%	0%	0%	４０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
造形論における対象が，人間に関わる文化的な表徴であることを理解し表現している。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものへと繋がるような内容が表現されていることについて、十分に目標に達成していた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものへと繋がるような内容が表現されていることについて、概ね出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものへと繋がるような内容が表現されていることについて、不十分ではあるが出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものへと繋がるような内容が表現されていることについて、最低限出来ていた。	口頭の発表ないしはレポートで記述の中で、例えば、造形によって表現されたものが何処か文化的な普遍性のようなものへと繋がるような内容が表現されていることについて、全く出来ていなかった。
各回のテーマに対して対象としたものの解説と、さらに自らが対象としたものについての考察の内容が充実している。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、十分に目標に達成していた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、概ね出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、不十分ではあるが出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、最低限出来ていた。	口頭での発表やレポート形式で記述で対象としたものが何であるのかの解説と、対象としたものの考察に自らの“発明”“発見”的な要素のある内容が含まれていることが、全く出来ていなかった。
レポートとしての構成，内容、および，基本的な記述の形式が正しく表現されている。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、十分に目標に達成していた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、概ね出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、不十分ではあるが出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、最低限出来ていた。	特に、基本的な参考文献、図版出典の表記の方法が正しく表現されているかについて、全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	松岡　龍介（デザイン学科・准教授）		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論Ⅱ　（科目ナンバリング：AEA222083　）				
授業担当者（所属・職名）	松岡　龍介（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　松岡　龍介　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス，授業の進め方，単位認定について シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認(90分)	ガイダンス，授業の進め方についての確認　(90分)
2	ハイブリッド感覚	ハイブリッド感覚(90分)	ハイブリッド感覚(90分)
3	類像現象	類像現象(90分)	類像現象(90分)
4	手法としての流用	手法としての流用(90分)	手法としての流用(90分)
5	架空の風景	架空の風景(90分)	架空の風景(90分)
6	ミニチュア化	ミニチュア化(90分)	ミニチュア化(90分)
7	表現形式としてのドット	表現形式としてのドット (90分)	表現形式としてのドット (90分)
8	組み替えのデザイン	組み替えのデザイン(90分)	組み替えのデザイン(90分)
9	表現形式のアーキタイプ	表現形式のアーキタイプ (90分)	表現形式のアーキタイプ (90分)
10	構成要素で構成されている造形	構成要素で構成されている造形(90分)	構成要素で構成されている造形(90分)
11	擬態するデザイン	擬態するデザイン(90分)	擬態するデザイン(90分)
12	作品の再解釈について	作品の再解釈について(90分)	作品の再解釈について(90分)
13	見立て	見立て（90分）	見立て（90分）
14	簡略化のデザイン	簡略化のデザイン(90分)	簡略化のデザイン(90分)
15	まとめ　レポート提出	簡略化のデザイン(90分)	まとめ　レポート提出(90分)
16	講評　レポート返却 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)	評価を受け講義全体の理解を深める(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻Ⅳ （科目ナンバリング：AEA223071 ）				
授業担当者（所属・職名）	國松　明日香（デザイン学科･客員教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者：　国松　明日香　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

（課題Ⅰ）では形として目で見ることはできないものをテーマとして、それを目に見える形として表現する技量を身につける。
（課題Ⅱ）では（課題Ⅰ）で取り組んだ結果を更に発展させ、北海道らしい四季を作品制作のテーマとして掲げ、それの形象化を目指し、彫刻作品として完成させ、併せて様々な素材を体験し、今後の制作活動に役立てる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP２、DP３、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

自然が持つ優れた造形性を理解し、形態の美しさについて学び、それらを他者に伝えることができる。

授業全体の内容と概要

（課題Ⅰ）では「暖かさ」をテーマに抽象彫刻をテラコッタ（粘土を素焼きにしたもの）として制作。陶芸用の粘土で制作し、乾燥後陶芸用の窯にて焼成する。
（課題Ⅱ）では「四季」あるいは「春」、「夏」、「秋」、「冬」の中からひとつの季節を選び、様々な素材（金属、流木、石膏、粘土など）にて立体造形作品として制作する。

授業の方法

（課題Ⅰ）抽象彫刻をテーマにパワーポイントにて講義をする。「暖かさ」という言葉からイメージする形態を導き出し、アイディアスケッチを制作。陶芸用粘土にて実制作に入り、乾燥後陶芸用の窯にて焼成する。完成作品についてプレゼンテーションしてもらい、それについて講評する。
（課題Ⅱ）四季を表現した美術作品や音楽作品を鑑賞し、意見を述べ合う。「四季」あるいは「春」、「夏」、「秋」、「冬」の中からひとつの季節を選び、アイディアスケッチを制作。実制作に使用する素材を決め、実制作に移る。使用する素材へのアドバイスや立体に組み立てるための技法を指導する。完成作品についてプレゼンテーションしてもらい、それについて講評する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実制作に入ってからは、作業に適した服装で受講すること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、２０回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
資料の活用（知識の習得）	課題の意味をしっかりと理解し、それに関して的確に調査し、必要な資料等を活用しながら的確に作品に反映させることができた。	課題の意味をしっかりと理解し、それらの資料等の収集に努め、それらの内の数点を的確に作品に反映させることができた。	課題の意味を理解し、資料を複数収集し、それらの資料をよく活用しながら作品に反映させることができた。	資料を収集しそれを活用して作品を完成させることができた。	資料の収集ができなかった。更に作品を完成させることができなかった。
作品とコンセプトの考え方（思考力・表現力）	作品制作のコンセプトが的確であり、それらの表現力に優れ、更に技術力も高い。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトをしっかりと持っていて、それらの表現力も的確に持っている。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品にある程度反映させることができている。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている。又作品の完成度も認められる。	作品制作のコンセプトが認められない。更に作品を完成させることができなかった。
プレゼンテーション（表現力）	自分自身が制作した作品について、作品を客観的に眺めることができ、その制作プロセスやコンセプトを他者に的確にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがしっかりとできた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがある程度できた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻Ⅳ （科目ナンバリング：AEA223071 ）				
授業担当者（所属・職名）	國松　明日香（デザイン学科･客員教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者：　国松　明日香　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 （課題Ⅰ）についてのオリエンテーション。パワー	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	制作に参考となる資料の収集。（４５分）
2	（課題Ⅰ）についてのオリエンテーション。パワーポイントを使って課題のテーマに沿った彫刻作品の解説。併せてテラコッタ作品を鑑賞②。	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	制作に参考となる資料の収集。（４５分）
3	集めた資料を基に発表。	制作に参考となる資料の収集。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
4	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作①。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
5	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作②。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
6	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作③。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
7	粘土にて制作①。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
8	粘土にて制作②。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
9	粘土にて制作③。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
10	粘土にて制作④。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
11	粘土にて制作⑤。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
12	粘土にて制作⑥。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
13	粘土作品の完成･プレゼンテーション・講評及び採点①。	提出すべき作品の確認。（４５分）	講義全体を振り返り､まとめを行うこと。（４５分）
14	粘土作品の完成･プレゼンテーション・講評及び採点②。	提出すべき作品の確認。（４５分）	講義全体を振り返り､まとめを行うこと。（４５分）
15	（課題Ⅱ）についてのオリエンテーション。東洋、西洋の自然観が判る作品についてパワーポイントにて解説①。	制作に参考となる資料の収集。（４５分）	制作に参考となる資料の収集。（４５分）
16	（課題Ⅱ）についてのオリエンテーション。東洋、西洋の自然観が判る作品についてパワーポイントにて解説②。	制作に参考となる資料の収集。（４５分）	制作に参考となる資料の収集。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	東洋、西洋の自然観が判る音楽を鑑賞。	制作に参考となる資料の収集。（４５分）	制作に参考となる資料の収集。（４５分）
18	集めた資料を基に発表。	制作に参考となる資料の収集。（４５分）	制作に参考となる資料の収集。（４５分）
19	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作①。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
20	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作②。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
21	各自が使う素材の収集①。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
22	各自が使う素材の収集②。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
23	実制作①。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
24	実制作②。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
25	実制作③。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
26	実制作④。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
27	実制作⑤。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
28	実制作⑥。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
29	実制作⑦。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
30	実制作⑧。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
31	作品の完成･プレゼンテーション・講評及び採点①。	提出すべき作品の確認。（４５分）	講義全体を振り返り､まとめを行うこと。（４５分）
32	作品の完成･プレゼンテーション・講評及び採点②。 授業改善アンケートの実施	提出すべき作品の確認。（４５分）	講義全体を振り返り､まとめを行うこと。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講Ⅰ　（科目ナンバリング：0EN323080　）				
授業担当者（所属・職名）	柿沼　博彦（建築学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階・非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　柿沼　博彦　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに，新幹線開発，交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

イノベーションとは何か，デザインとは何か，その本質を知り，今後の授業・社会生活に役立てる。

授業の位置づけ

建築学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
建築学科のDP２、DP３、DP５に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP２、DP３、DP５、DP６に対応する。（2021年度）

到達目標

イノベーションとデザインの理解を深め，イノベーションとデザインの本質及び関係を理解する。

授業全体の内容と概要

イノベーションとは何か，なぜイノベーションが必要なのかを講義する。
鉄道の視点から見たデザイン（車両・駅舎など）を講義をする。パワーポイントと板書を中心に講義する。
SDGsの全般的な内容について解説する。

授業の方法

パワーポイントと黒板への板書を中心に講義をする。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

時間厳守，筆記具（黒板，口述の内容を各自メモ）
月１回程度の頻度で課題を報告

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。
レポートや課題作品の提出を課す。出席（率）や受講する姿勢，授業態度等も評点に連動する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	２０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イノベーションとは何か，デザインとは何か，そして双方の関係を理解することが社会生活の問題を解決することに繋がることを理解できる。	イノベーション，デザイン双方の関係から社会生活の問題解決に繋がることを理解できた。	イノベーション，デザイン双方の関係が新たものを生み出すことに繋がることを理解できた。	イノベーション，デザイン双方の関係を理解することができた。	イノベーション，デザインそれぞれを理解することができた。	イノベーション，デザインが理解できなかった。
イノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解する。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割の重要性を理解できた。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割を理解できた。	イノベーションとデザインの思考との関係を理解できた。	デザインの思考を理解できた。	デザインの思考を理解できなかった。
イノベーションとデザインの本質を知ることから，ものの見方，考え方に役立てる。	考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持ち将来の社会生活に役立てることができた。	ものの見方，考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。	ものの見方，考え方が理解できた。	ものの見方が理解できた。	ものの見方が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講Ⅰ　（科目ナンバリング：OEN323080　）				
授業担当者（所属・職名）	柿沼　博彦（建築学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階・非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　柿沼　博彦　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに，新幹線開発，交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『イノベーションへの挑戦』	柿沼博彦	中西出版	２０１５年	4891153091	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	・シラバスの説明・授業改善アンケート結果、反映の説明・イノベーションとは何か。デザインとは何か？	シラバスを読んでおくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
2	・イノベーションとは何のこと? ・何故、現在社会においてイノベーションが求められるのか	イノベーションとは何かについて調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
3	・様々なイノベーションの創生プロセス（１回） 破壊的イノベーション	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
4	・様々なイノベーションの創生プロセス（２回） 破壊的イノベーション　シュンペーターのイノベーション？	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
5	・様々なイノベーション　中間まとめ その特徴と共通を考える	イノベーションはどんな特徴と共通性があるのか調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
6	・行動変容から考えるイノベーションの本質 ・３つのドライバー（技術革新・心理変化・社会構造）	行動変容の意味を調べておくこと。・ドライバーの意味を調べておくこと。・技術革新・心理変化・社会構造とは何か調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
7	・イノベーションに求められる資質とは ・失敗はイノベーションの種 ・イノベーションを拒む壁	イノベーションに求められる資質と失敗との関わりについて考えておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
8	・これからのイノベーション環境（グローバル化・多様性・・AI時代のイノベーションを考える）	これからのイノベーションは何が求められるのか今までの講義を振り返って考えておくこと。（９０分）	講講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
9	・広義のデザインとシステムデザインについて デザインに求められる資質	広義のデザインとシステムデザインに必要な資質について調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
10	・デザインとデザイン思考について・イノベーションに重要なデザイン思考	デザイン思考とは何か調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
11	・システムデザインの視点から鉄道を考える 鉄道は巨大なシステムである。鉄道の公共性・特異性（公共・安全・サービス）について	鉄道をシステムデザインするとはどのようなことか調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
12	・鉄道システムデザイン 鉄道のシステムデザインのいくつかの特異性	鉄道のシステムデザインについて調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
13	車両システムと形のデザイン　設計から完成まで	車両システムデザインのプロセスについて調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
14	・駅舎のシステムのデザイン① 駅舎の変遷と機能（BF.UD） 駅舎の機能3つのパターン	・駅舎の歴史と役割・機能の変遷を調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
15	・駅舎のシステムのデザイン② 新千歳空港駅（デンマーク国鉄とのコラボ）	可能な限り新千歳空港駅をデザインの視点で調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
16	・駅舎のシステムのデザイン③都市計画と駅舎のデザイン・全体のまとめ　イノベーションとデザインの共通性・矛盾と向き合う能力を磨く（知性の時	可能な限り旭川駅を中心とした都市計画の視点で調べておくこと。・１５回の講義の振り返りをしておくこと。（９０分）	解説・フィードバックを受けて講義全体を振り返り理解を深めること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講Ⅱ　（科目ナンバリング：0EN323081　）				
授業担当者（所属・職名）	柿沼　博彦（建築学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階・非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　柿沼　博彦　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに，新幹線開発，交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

イノベーションとは何か，デザインとは何か，その本質を知り，今後の授業・社会生活に役立てる。

授業の位置づけ

建築学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
建築学科のDP２、DP３、DP５に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP２、DP３、DP５、DP６に対応する。（2021年度）

到達目標

イノベーションとデザインの理解を深め，イノベーションとデザインの本質及び関係を理解する。

授業全体の内容と概要

イノベーションとは何か，なぜイノベーションが必要なのかを講義する。
鉄道の視点から見たデザイン（車両・駅舎など）を講義をする。パワーポイントと板書を中心に講義する。
SDGsの全般的な内容について解説する。

授業の方法

パワーポイントと黒板への板書を中心に講義をする。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

時間厳守，筆記具（黒板，口述の内容を各自メモ）
月１回程度の頻度で課題を報告

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。
レポートや課題作品の提出を課す。出席（率）や受講する姿勢，授業態度等も評点に連動する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	２０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イノベーションとは何か，デザインとは何か，そして双方の関係を理解することが社会生活の問題を解決することに繋がることを理解できる。	イノベーション，デザイン双方の関係から社会生活の問題解決に繋がることを理解できた。	イノベーション，デザイン双方の関係が新たものを生み出すことに繋がることを理解できた。	イノベーション，デザイン双方の関係を理解することができた。	イノベーション，デザインそれぞれを理解することができた。	イノベーション，デザインが理解できなかった。
イノベーションの創生に必要なデザイン思考の重要性を理解する。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割の重要性を理解できた。	イノベーションを生み出すためにデザイン思考が担う役割を理解できた。	イノベーションとデザインの思考との関係を理解できた。	デザインの思考を理解できた。	デザインの思考を理解できなかった。
イノベーションとデザインの本質を知ることから，ものの見方，考え方に役立てる。	考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持ち将来の社会生活に役立てることができた。	ものの見方，考え方の理解した上で新たなものを生み出す意志を持つことができた。	ものの見方，考え方が理解できた。	ものの見方が理解できた。	ものの見方が理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	建築学特講Ⅱ　（科目ナンバリング：OEN323081　）				
授業担当者（所属・職名）	柿沼　博彦（建築学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階・非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　柿沼　博彦　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	鉄道技術の基礎知識をもとに，新幹線開発，交流回生及び振子特急の車両などの開発に従事してきたこと等を授業に関連させ教授する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『イノベーションへの挑戦』	柿沼博彦	中西出版	２０１５年	4891153091	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	・シラバスの説明・授業改善アンケート結果、反映の説明・イノベーションとは何か。デザインとは何か？	シラバスを読んでおくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
2	・イノベーションとは何のこと? ・何故、現在社会においてイノベーションが求められるのか	イノベーションとは何かについて調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
3	・様々なイノベーションの創生プロセス（１回） 破壊的イノベーション	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
4	・様々なイノベーションの創生プロセス（２回） 破壊的イノベーション　シュンペーターのイノベーション？	イノベーションはいかに誕生するのか調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
5	・様々なイノベーション　中間まとめ その特徴と共通を考える	イノベーションはどんな特徴と共通性があるのか調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
6	・行動変容から考えるイノベーションの本質 ・３つのドライバー（技術革新・心理変化・社会構造）	行動変容の意味を調べておくこと。・ドライバーの意味を調べておくこと。・技術革新・心理変化・社会構造とは何か調べておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
7	・イノベーションに求められる資質とは ・失敗はイノベーションの種 ・イノベーションを拒む壁	イノベーションに求められる資質と失敗との関わりについて考えておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
8	・これからのイノベーション環境（グローバル化・多様性・・AI時代のイノベーションを考える）	これからのイノベーションは何が求められるのか今までの講義を振り返って考えておくこと。（９０分）	講講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
9	・広義のデザインとシステムデザインについて デザインに求められる資質	広義のデザインとシステムデザインに必要な資質について調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
10	・デザインとデザイン思考について・イノベーションに重要なデザイン思考	デザイン思考とは何か調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
11	・システムデザインの視点から鉄道を考える 鉄道は巨大なシステムである。鉄道の公共性・特異性（公共・安全・サービス）について	鉄道をシステムデザインするとはどのようなことか調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
12	・鉄道システムデザイン 鉄道のシステムデザインのいくつかの特異性	鉄道のシステムデザインについて調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
13	車両システムと形のデザイン　設計から完成まで	車両システムデザインのプロセスについて調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
14	・駅舎のシステムのデザイン① 駅舎の変遷と機能（BF.UD） 駅舎の機能3つのパターン	・駅舎の歴史と役割・機能の変遷を調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
15	・駅舎のシステムのデザイン② 新千歳空港駅（デンマーク国鉄とのコラボ）	可能な限り新千歳空港駅をデザインの視点で調べておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め，課題提出へ向けノートをまとめておくこと。（９０分）
16	・駅舎のシステムのデザイン③都市計画と駅舎のデザイン・全体のまとめ　イノベーションとデザインの共通性・矛盾と向き合う能力を磨く（知性の時	可能な限り旭川駅を中心とした都市計画の視点で調べておくこと。・１５回の講義の振り返りをしておくこと。（９０分）	解説・フィードバックを受けて講義全体を振り返り理解を深めること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育Ⅰ　（科目ナンバリング：CHS122089　）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が，実際の保育現場の事例等を通じて，３歳未満児の心身諸機能の発達など乳児保育について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

乳児（３歳未満児）期は人間形成の基礎づくりの時期であることを知り，乳児保育の大切さを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP３に対応する。（２０２３年度）

到達目標

３歳未満児の心身諸機能の発達など，乳児保育の知識が身につく。

授業全体の内容と概要

３歳未満児の保育について，心身の発達にそって諸機能の発達と健康と安全の基本を理解する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義を中心とした授業を行っていく中で、実際の保育現場の事例をあげ、子どもや保護者、保育者の様子をイメージしなが、，一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問については随時対応する。レポートは解説し、フィードバックする。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻した場合、入室はできるが２０分以上の遅刻は欠席となる。
教科書がない場合、受講できませんので必ず購入のこと（乳児保育Ⅱ／演習でも同じ教科書を活用）。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
８０%	０%	０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
乳児保育の基礎的知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	乳児保育について基礎的な知識を深く理解できた。	乳児保育について基礎的な知識をおおむね理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を多少理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育Ⅰ　（科目ナンバリング：CHS122089　）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が，実際の保育現場の事例等を通じて，３歳未満児の心身諸機能の発達など乳児保育について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『はじめて学ぶ乳児保育』	志村聡子	同文書院	２０１９	9784810314731	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						授業内で適宜紹介
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
2	乳児保育の役割と機能	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
3	乳児保育における養護及び教育	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
4	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
5	保育所における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
6	保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
7	家庭的保育等における乳児保育	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
8	３歳未満児とその過程を取り巻く環境と子育て支援の場	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
9	３歳未満児の生活と環境	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
10	３歳未満児の遊びと環境	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
11	３歳以上児の保育に移行する時期の保育	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
12	３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
13	３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
14	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
15	乳児保育における職員間及び保護者や自治体等関係機関との連携・協働、まとめ	教科書を読み、学習しておくこと（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと（９０分）
16	定期試験　解説およびフィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体をとおして質問など整理しておく（９０分）	解説を受け、講義全体をふりかえること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科･３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（三上）　（科目ナンバリング：AEA223075　）				
授業担当者（所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

テキスタイルデザインについての知識を深める。
技法の特徴を理解し、習得する。
技法を活かした作品を制作する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP３、DP５に対応する。（2023，2022年度）
デザイン学科のDP２、DP３、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

テキスタイルデザインについて知る。
技法を理解する。
技法を用いて作品を制作する。

授業全体の内容と概要

スクリーンプリント技法の特徴と制約を活かし、試行錯誤してものづくりをする。制作の目的を設定し、各自で作業計画を立てる。完成後、作品を発表し、展示する。
「SDG１２．つくる責任つかう責任」の関連授業。

授業の方法

授業は板書・パワーポイント・資料配布・実演等の方法で説明する。授業後、デジタル資料はTeamｓに保存するので振り返り可能。デザインはアナログ・デジタルどちらも対応する。テキスタイル作品についての調査をして作品制作の展開を図る。制作段階ごとにグループワークでディスカッションを行い、学生相互に作品の向上に努める。また個別にも指導する。課題は講評にてフィードバックする。作品完成後、発表し、展示する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

必要な道具と生地は各自で用意する。
授業開始３０分間で説明をするので遅刻しないこと。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

最低出席回数は２２回以上。
自分の作業日は欠席しないこと。
作品を期日までに提出すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
テキスタイルデザインについての知識を深める。	テキスタイルデザインについての知識を深め、活かすことができた。	テキスタイルデザインについての知識を深めることができた。	テキスタイルデザインについて知り、その知識を深めることに努めた。	テキスタイルデザインについて知ることができた。	テキスタイルデザインについて知ることができなかった。
技法の特徴を理解し、習得する。	技法の特徴を理解し、習得し、磨くことができた。	技法の特徴を理解し、習得することができた。	技法を理解し、習得することに努めた。	技法を理解することができた。	技法を理解することができなかった。
技法を自己の作品に活かす。	技法を自己の作品に活かし、完成度の高いものができた。	技法を自己の作品に活かすことができた。	技法を用いて作品を制作し、作品に活かすことに努めた。	技法を用いて作品を制作することができた。	技法を用いて作品を制作することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科･３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（三上）　（科目ナンバリング：AEA223075　）				
授業担当者（所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　三上　いずみ　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 シラバスの説明 テキスタイルデザインとはなにか	シラバスを読んでおくこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
2	スクリーンプリント技法について テキスタイル作品の調査	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
3	作品制作の目的を設定する	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
4	作業計画を立てる	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
5	ラフデザイン①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
6	ラフデザイン②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
7	素材研究①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
8	素材研究②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
9	技法研究①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
10	技法研究②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
11	デザイン決定①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
12	デザイン決定②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
13	原画作成①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
14	原画作成②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
15	版下作成①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
16	版下作成②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	版下作成③	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
18	版下作成④	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
19	製版①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
20	製版②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
21	刷り①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
22	刷り②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
23	落版①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
24	落版②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
25	作品加工①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
26	作品加工②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
27	仕上げ①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
28	仕上げ②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
29	展示計画①	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
30	展示計画②	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
31	展示・発表・鑑賞	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること（４５分）
32	講評 授業改善アンケートの実施	学習内容に沿って事前準備を行うこと（４５分）	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（梅田力） （科目ナンバリング：AEA223075 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　力 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

金属の加工技法を活かして、美しい作品を制作することが出来る。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP３、DP５に対応する。（2023･2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

金属の加工技法を理解して作品を制作することが出来る。

授業全体の内容と概要

工芸実習Ⅳ（金属）では指輪制作（ろう付け技法）と、銅板レリーフ（打ち出し技法）の２課題を通じて、実践的に金属の表現力を磨く。

授業の方法

スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

２０回以上の出席がない場合は評価の対象としない。
評価は作品点（７０％）、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」（３０％）の基準で行う。
講義の前半で課題を説明するため、３０分以上の遅刻は出席として認めない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
金属表現の基本的な特性の理解（知識・理解）	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け技法の特性を活用して美しい作品を制作した。	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け技法の特性を活用した作品を制作した。	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け技法の作品を制作した。	鍛金、ろう付け技法の作品を制作した。	鍛金、ろう付け技法が理解できず、作品が制作できなかった。
技術を応用したデザインの能力（思考力・表現力・判断力等）	習得した技術を生かした独自性のある美しいデザインをする事が出来た。	習得した技術を生かした独自性のあるデザインをする事が出来た。	習得した技術を使って自分なりにデザインをする事が出来た。	習得した技術を使ってデザインをする事が出来た。	習得した技術を使ってデザインをする事が出来なかった。
主体的に学習に取り組む態度（主体性・多様性・協働性）	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（梅田力） （科目ナンバリング：AEA223075 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　力（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　力 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスをよく読んでおくこと（45分）	オリエンテーションを振り返り、内容を理解しておく事（４５分）
2	金属工芸について	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
3	指輪制作 ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
4	指輪制作 ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
5	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
6	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
7	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
8	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
9	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
10	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
11	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
12	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
13	指輪制作	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
14	指輪制作 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
15	指輪制作 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
16	銅板レリーフ ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	銅板レリーフ ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
18	銅板レリーフ ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
19	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
20	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
21	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
22	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
23	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
24	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
25	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
26	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
27	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
28	銅板レリーフ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
29	銅板レリーフ 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
30	銅板レリーフ 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（４５分）	制作の参考となる作品を調べる事（４５分）
31	講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（４５分）
32	講評 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと（４５分）	講評を再考し、理解を深めること（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（中島義）　（科目ナンバリング：AEA223075　）				
授業担当者（所属・職名）	中島　義博（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　中島　義博　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

孔版の２技法、スクリーンプリントと合羽摺り（ステンシル）を利用して、染色パネルを制作する。隣接する技法の組み合わせによって、生ずる効果を知り、合わせて染料と顔料の違いを学ぶ。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP３、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

染料と道具の実践的知識を身につけ正しく使用できる。
版と型、スキージと刷毛の使用法と効果の違いを知る。２つの技法を習得し、制作ができる。
用具、用材の実践的知識を身につけ正しく使用できる。

授業全体の内容と概要

異なる技法と道具の組み合わせに挑戦する。版を使ってプリントし、その上から型を通して刷毛染め施して完成する。

授業の方法

視聴覚メディアと板書，作例によって効果と作業の基礎を学び各自の発想による原画をもとにオリジナル作品を制作する実技科目である。完成作品の発表を行う機会を設け講評をする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

工具類、染料の使用に対応した服装の用意。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

２０回以上の出席と課題作品の完成，提出を求める。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	０％	３０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
孔版とは何かを知る。	孔版とは何かを詳しく知り作品に応用できた。	孔版とは何かを詳しく知っていた。	孔版とは何かを知っていた。	孔版とは何か、最低限のことを知っていた。	孔版とは何かを知らなかった。
二つの技法を習得し制作できる。	二つの技法を習得し優れた作品を制作し、後進に技法を伝えることができた。	二つの技法を習得し優れた作品を制作できた。	二つの技法を習得し制作できた。	どちらか一つの技法を習得し制作できた。	どちらもできなかった。
顔料と道具を正しく使用できる。	顔料と助剤、今回の道具を全て正しく使用でき、それを周囲に伝えることができた。	顔料と助剤、今回の道具を全て正しく使用できた。	顔料と道具を正しく使用できた。	顔料と道具をある程度正しく使用できた。	顔料と道具を正しく使用できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（中島義）　（科目ナンバリング：AEA223075　）				
授業担当者（所属・職名）	中島　義博（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	アトリエ棟２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　中島　義博　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
2	課題説明	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
3	実作業による作例	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
4	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
5	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
6	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
7	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
8	アイデアスケッチ	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
9	版下作業	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
10	版下作業	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
11	版下修正	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
12	製版準備	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
13	製版	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
14	製版	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
15	プリント	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
16	プリント	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	型彫り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
18	型彫り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
19	刷毛差し	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
20	刷毛差し	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
21	刷毛差し	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
22	刷毛差し	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
23	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
24	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
25	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
26	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
27	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
28	応用作品	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
29	パネル製作	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
30	パネル貼り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
31	作品発表、講評	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	各自必要なところまで制作作業を進めること。（４５分）
32	課題解説、質疑応答 授業改善アンケートの実施	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。（４５分）	作品を持ち帰り使用または展示し課題を振り返る。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（鳴海）　（科目ナンバリング：AEA223075　）				
授業担当者（所属・職名）	鳴海　伸一（非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室・アトリエ棟２階版画教室		
単位数	2　（単位認定責任者：　鳴海　伸一　）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家（アートワーク依頼作品設置と作品発表）およびDTP 日本美術家連盟会員／版画学会会員		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室・アトリエ棟で対応。				

概要

履修目標

本講義では基本版種となる凹凸孔平、各版の知識と理解を深め、デザインの発想やイラストなどの表現の幅を広げ、自己の才能と可能性を探求・追求する事を目的とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP３、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

版の知識と技術を深め、自身で正確で安全な制作が可能な実力を養う。
また、その版表現によって個性のある作品成果を目標とする。

授業全体の内容と概要

本講義では主要４版種の中から、「銅版画」と「リトグラフ」の小作品を制作する。美術家やイラストレーター、クリエイター、メディアアーティストを目指す方々の印刷技術の理解にも有意義な実技である。
作品づくりをとおして制作の喜びと楽しさ、難しさを実体験する。

授業の方法

「描画」ー「製版」ー「刷り」と作業を進める。油性描画材、腐蝕液、溶剤、油性インクなど版画ならではの専用画材を扱い、プレス機を用いて各版種ひとり1作品を制作する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

制作の特性上、汚れてもよい服装や保護具を着用のこと。
制作過程で乾燥・化学反応などの待機時間や日数を要し、設備の台数制限から作業の順番待ちが発生します。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は22回以上とする。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	70%	０％	０％	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
版の原理と制作工程を理解しようとしている。	知識と技術が伴って安全かつ正確な制作ができている。他版種にも関心を寄せ、作品発表につなげている。	知識だけではなく、実技としてほぼ正しい制作工程が可能である。	助言をもとに、制作工程を理解し、製版と向き合っている。	凹凸孔平の基本版種の原理を図として理解できている。	版表現に興味がもてず、原理を理解しようとしていない。 版が完成していない。
扱っている道具、材料の特性を理解しようとしている。	道具、材料を応用的に用いることが出来、経済的な制作とメンテナンスができる。	授業内容に準じた内容で道具と材料を自身で的確に扱い使用することができている。	材料の特性を理解し、助言をもとに効率的な制作ができる。	授業内容に沿った内容で道具、材料の特性を理解し、助言をもとに制作ができる。	自身が扱っている道具や材料に関心をよせていない。道具を大切に扱えていない。
安全で正確な制作工程を理解している。	教室の安全維持、環境維持に積極的に取り組んでいる。	換気、環境、設備の理解と保護具の着用など安全に配慮した制作ができる。	道具、材料の扱い方法を理解し、正しい使い方で正確な制作が可能である。	道具、材料の扱い方法を理解し、正しい使い方で正確な制作が可能である。	無頓着で雑な制作を行い、工程を把握しようとしていない。
作品の仕上りに成果が反映されている。	授業外の技法にも挑戦し、研究的な手法を身につけている。楽しんで制作ができている。	授業内の技法を理解し、画面の中に効果的に表現されている。	画題、サインなどが明記され、版表現の魅力を感じ取っている。	本刷りがされ、裁断も行われシート作品として完成している。	本刷りがされていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習Ⅳ（鳴海）　（科目ナンバリング：AEA223075　）				
授業担当者（所属・職名）	鳴海　伸一（非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室・アトリエ棟２階版画教室	
単位数	2　（単位認定責任者：　鳴海　伸一　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家（アートワーク依頼作品設置と作品発表）およびDTP 日本美術家連盟会員／版画学会会員		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明とガイダンス／版画について 授業改善アンケート結果反映の説明	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
2	シラバスの説明とガイダンス／版表現の魅力と能性	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
3	凹版画制作①／エッチングー下絵制作ー	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（４５分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（４５分程度）
4	凹版画制作①／エッチングー下絵制作ー	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（４５分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（４５分程度）
5	凹版画制作②／エッチングー下絵と転写ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
6	凹版画制作②／エッチングー下絵と転写ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
7	凹版画制作③／エッチングー腐蝕製版ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
8	凹版画制作③／エッチングー腐蝕製版ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
9	凹版画制作④／エッチングー腐蝕製版と刷りー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
10	凹版画制作④／エッチングー腐蝕製版と刷りー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
11	凹版画制作⑤／エッチングー刷りー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
12	凹版画制作⑤／エッチングー刷りー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
13	凹版画制作⑥／エッチングー刷りとアクアチントー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
14	凹版画制作⑥／エッチングー刷りとアクアチントー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
15	凹版画制作⑦／エッチングー仕上げと著名ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
16	凹版画制作⑦／エッチングー仕上げと著名ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	平版画制作①／リトグラフー下絵制作ー	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（３０分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（３０分程度）
18	平版画制作①／リトグラフー下絵制作ー	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（３０分程度）	各自スキルに応じた時間確保をお願いします。（３０分程度）
19	平版画制作②／リトグラフー転写と描画ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
20	平版画制作②／リトグラフー転写と描画ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
21	平版画制作③／リトグラフー第１製版ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
22	平版画制作③／リトグラフー第１製版ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
23	平版画制作④／リトグラフー第２製版ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
24	平版画制作④／リトグラフー第２製版ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
25	平版画制作⑤／リトグラフー刷りー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
26	平版画制作⑤／リトグラフー刷りー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
27	平版画制作⑥／リトグラフー刷りと裁断ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
28	平版画制作⑥／リトグラフー刷りと裁断ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
29	平版画制作⑦／リトグラフー仕上げと著名ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
30	平版画制作⑦／リトグラフー仕上げと著名ー	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
31	まとめ／鑑賞と講評 授業改善アンケートの実施	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）
32	まとめ／鑑賞と講評	事前に内容を確認のこと（４５分程度）	授業内容を振り返り、次回の課題を把握すること（４５分程度）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史Ⅱ　（科目ナンバリング：FAH221081　）				
授業担当者（所属・職名）	苫名　真（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2　（単位認定責任者：　苫名　真　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館における勤務経験を活かして美術史に関する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

様式の変遷、モティーフの意味、技法や風土と表現の関係などさまざまな角度から東洋日本美術にアプローチすることにより、その特質や魅力を理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2023年度）
デザイン学科のDP１、DP２に対応する。（2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

１．様式、モティーフ、技法、風土性など美術に向き合うさまざまな視点があることを理解する。
２．東洋日本美術の特質や魅力を把握する。
３．初めて目にする作品に対しても自らさまざまな視点を立ててアプローチすることができる。

授業全体の内容と概要

さまざまな視点やテーマから東洋日本美術の特質や魅力にアプローチする。

授業の方法

受講生は各回の授業で扱う代表的作品一点について事前に感想を書き、授業の冒頭に一人ずつ発表する。その上で講師がパワーポイントを使って各テーマの美術について講義する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

毎回の感想発表と受講姿勢の平常点を重視し、レポートも合わせて評価する。
授業の冒頭で各自発表してもらうので遅刻しないこと。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程　高・美術　必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	８０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業への取り組み	きわめて意欲的に授業に参加する姿勢が見られた。	真摯な姿勢で授業に参加する姿勢が見られた。	授業には参加していたが積極的な姿勢はあまり見られなかった。	授業には参加していたがほとんど意欲が感じられなかった。	ほとんど授業に参加しなかった。
毎回の事前準備	きわめて意欲的に事前の準備を行っていた。	真摯な姿勢で事前の準備を行っていた。	事前の準備は行っていたが十分ではなかった。	事前準備をしてこないことが何度かあった。	事前準備をほとんどしてこなかった。
知識の習得	きわめて意欲的に十分な知識を習得した。	真摯な姿勢で必要な知識を習得した。	重要項目の知識は概ね習得した。	必要最低限の知識は習得した。	必要最低限の知識を習得できなかった。
レポート	きわめて意欲的に十分な資料調査を行い、自分の考えも的確に表現できていた。	真摯な姿勢で必要な資料調査を行い、自分の考えも表現していた。	不十分ではあるが資料調査を行い、ある程度自分の考えを表現していた。	最低限の資料調査を行い、多少は自分の考えを表現していた。	調査をほとんど行わず、自分の考えも表現できていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史Ⅱ　（科目ナンバリング：FAH221081　）				
授業担当者（所属・職名）	苫名　真（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　苫名　真　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	美術館における勤務経験を活かして美術史に関する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『日本美術史』	山下裕二・高岸輝	美術出版社	2014	978-4568389074	
2	『日本美術の歴史』	辻惟雄	東京大学出版会	2021	978-4130820868	
3	『教養の日本美術史』	吉田亮	ミネルヴァ書房	2019	978-4623085156	
4	『日本美術史ハンドブック』	辻惟雄・泉武夫	新書館	2009	978-4403250989	
5	『日本美術館』		小学館	1997	978-4096997017	

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 聖なるイメージ「釈迦の生涯と仏教の主題」	シラバスを読む。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
2	畏れのイメージ「描かれたもののけ」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
3	モティーフと意味「中国山水画と花鳥画」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
4	モティーフと意味「清明上河巻」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
5	絵を読む「院政期絵巻」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
6	絵を読む「洛中洛外図屏風」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
7	作者を探る「湯女図」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
8	作者を辿る「伊藤若冲」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
9	記録と表現「肖像画」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
10	記録と表現「写真」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
11	技法と表現「木版画」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
12	技法と表現「ガラス」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
13	空間の芸術「日本庭園」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
14	風土と美術「三岸好太郎、木田金次郎、神田日勝」	課題作品を画像で鑑賞し、事前に感想をまとめておく。（90分）	配付資料を復習する。（90分）
15	レポートの発表とフィードバック	レポートを準備する。（90分）	授業内容を復習する。（90分）
16	レポートの発表とフィードバック 授業改善アンケート実施	レポートを準備する。（90分）	授業内容を復習する。（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育Ⅱ　（科目ナンバリング：CHS123090　）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が，実際の保育現場の事例等を通じて，３歳未満児の新信書機能の発達など乳児保育について講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

乳児（３歳未満児）期は人間形成の基礎づくりの時期であることを知り，乳児保育の大切さを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP３に対応する。（２０２３年度）

到達目標

３歳未満児の心身諸機能の発達など，乳児保育の知識が身につく。

授業全体の内容と概要

３歳未満児の保育について，心身の発達にそって諸機能の発達と健康と安全の基本を理解する。
「SDGs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

講義・演習を中心とした授業を行っていく中で，実際の保育現場の事例をあげ，子どもや保護者，保育者の様子をイメージしながら，一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問については随時対応する。レポートは解説し、フィードバックする。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席とレポート提出、発表・発言を重要視する。
「乳児保育Ⅰ」を履修した後に受講すること（教科書は引き続き使用する）。
遅刻した場合、入室はできるが２０分以上の遅刻は欠席となる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
乳児保育の基礎的知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	乳児保育について基礎的な知識を深く理解できた。	乳児保育について基礎的な知識をおおむね理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を多少理解できた。	乳児保育について基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	乳児保育の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことをわかりやすく説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことをおおむね説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことを多少説明できた。	三歳未満児保育の多様な展開について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	乳児保育Ⅱ　（科目ナンバリング：CHS123090　）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場での実務経験のある教員が，実際の保育現場の事例等を通じて，３歳未満児の新信書機能の発達など乳児保育について講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『はじめて学ぶ乳児保育』	志村聡子	同文書院	２０１９	9784810314731	乳児保育Ⅰで使用する教科書と同じです
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 オリエンテーション　子どもと保育士等との関係の重要性	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
2	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
3	子どもの主体性の尊重と自己の育ち	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
4	子どもの体験と学びの芽生え	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
5	子どもの1日の生活の流れと保育の環境	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
6	子どもの生活や遊びを支える環境の構成	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
7	３歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
8	３歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
9	子ども同士の関わりとその援助の実際	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
10	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
11	集団での生活における配慮	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
12	環境の変化や移行に対する配慮	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
13	長期的な指導計画と短期的な指導計画	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
14	個別的な指導計画と集団の指導計画	教科書を読み、学習しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
15	計画実践発表とまとめ	教科書を読み、学修しておくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（４５分）
16	レポートに関する解説及びフィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体をとおして質問など整理しておく。（４５分）	解説を受け、講義全体をふりかえること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	一級対策製図Ⅱ　（科目ナンバリング：APT323061　）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小笠原　健　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士である。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国家資格である「一級建築士二次試験（製図試験）」における技量の修得を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

一級建築士二次試験で実施される製図試験と記述試験の基礎スキルを修得することができる。

授業全体の内容と概要

提示されたテーマ課題に従い、テキストを参考に製図演習問題を実施、その製図・記述に対し、添削指導により、製図スキルを向上させていく。

授業の方法

実際に一級建築士二次試験（製図試験）で使用するA２サイズの平行定規盤を使用し、与えられた課題を担当教員の指導のもと、期限に完成させる。完成させた課題については、個別指導を行う。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題は、与えられた期限内に提出すること。平行定規盤は各履修者が用意して毎回持参すること。
配布したテキストおよびプリントは毎回持参すること。
この講座の履修は、建築プロファッショナル専攻「一級建築士特別養成コース」に所属する学生に限る。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数１1回以上。課題はすべて提出のこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	１００%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
一級建築士二次試験（製図試験）の過去問題または想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をする能力を習得することができる。	設計課題をすべて理解した上での不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。
記述問題に対する適切な解答を修得することができる。	記述問題に対するすべてを満足させる適切な解答ができた。	記述問題を満足させる適切な解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる適切な解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる解答ができた。	記述問題をおおむね満足させる解答ができなかった。
限られた時間内に図面を完成することのできる作図スピードとクオリティを修得することができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	一級対策製図Ⅱ　（科目ナンバリング：APT323061　）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2　（単位認定責任者：　小笠原　健　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士である。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。　授業の進め方について説明。 テキスト・課題１の配布。	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業の作図の継続(90分)
2	課題1～記述・製図トレース	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
3	課題1～記述・製図トレース	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
4	課題1～記述・製図トレース	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
5	課題1～課題製出 課題2～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
6	課題1～添削指導 課題2～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
7	課題1～添削指導 課題2～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
8	課題1～添削指導 課題2～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	課題2～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	課題2～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	課題2～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	課題2～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	課題2～課題提出 課題3～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	課題2～添削指導 課題3～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
15	課題2～添削指導 課題3～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
16	課題2～添削指導 課題3～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	課題3～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
18	課題3～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
19	課題3～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
20	課題3～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
21	課題3～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
22	課題3～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
23	課題3～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
24	課題3～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
25	課題3～課題提出 課題4～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
26	課題3～添削指導 課題4～エスキス	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
27	課題3～添削指導 課題4～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
28	課題3～添削指導 課題4～エスキス・記述	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
29	課題4～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
30	課題4～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
31	課題4～製図	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
32	課題4～課題完成・提出	作図準備をする(90分)	授業の復習(90分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育の計画と評価 （科目ナンバリング：CHS123076 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 吉江　幸子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における計画立案の経験を活かし、保育所における計画作成と保育内容の関連を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

１．保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。
２．保育の全体計画の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。
３．計画・実践・省察・評価，改善の過程についてその全体構造を動態的にとらえ，理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、DP４に対応する。（２０２３年度）

到達目標

保育の計画と評価の基本，保育所における保育の計画，保育の計画の作成と展開，保育所における保育の評価について理解し、保育の内容を具体的に説明する。

授業全体の内容と概要

保育の計画と評価の基本，保育所における保育の計画，保育の計画の作成と展開，保育所における保育の評価など保育の内容について学修する。保育の計画と作成では、思考・考察、他者との意見交換、討論、発表等一連の活動を行う。「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイントを活用しながら講義形式で行う。
授業の理解度を深めるためのグループ学習も取り入れ、質疑応答の時間を設定する。
提出された課題・作品はコメントをつけてフィードバックする。
Microsoft Teams/Forms の諸機能も活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容・提出方法及び課題・平常点の評価は、授業時間に説明する。
遅刻した場合、入室は可能だが２０分以上の遅刻は欠席扱いとするので注意すること。
評価Ｓは履修者の１０％以内、評価ＳとＡを合わせて４０％以内となっている。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０％	０％	３０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育計画の知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	保育の計画について基礎的な知識を深く理解できた。	保育の計画について基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を多少理解できた。	保育の計画について基礎的な知識を理解することができなかった。
計画を立案するための思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育の内容を踏まえた計画作成について十分に考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成についておおむねに考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について多少考察できた。	保育の内容を踏まえた計画作成について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	保育の計画作成と評価について理解したことをわかりやすく説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことをおおむね説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを多少説明できた。	保育の計画作成と評価について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	保育の計画と評価 （科目ナンバリング：CHS123076 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 吉江　幸子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における計画立案の経験を活かし、保育所における計画作成と保育内容の関連を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画第2版』	神永直美	萌文書林	２０１８	9784893472397	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育所保育指針＜平成29年告示＞』	厚生労働省	フレーベル館	２０１７	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	指定した教科書を事前に読むこと（９０分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
2	保育の計画と評価の基本（１）カリキュラムの基礎理論	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
3	保育の計画と評価の基本（２）保育所における保育の計画と評価の意義	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
4	保育の計画と評価の基本（３）保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
5	保育の計画と評価の基本（４）計画，実践，省察・評価，改善の過程の循環による保育の質の向上	保育計画の意味を理解しておく（９０分）。	５回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
6	保育所における保育の計画（１）保育所保育指針と幼稚園教育要領	保育計画と指針、要領との関連を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す１回目の課題を作成する（９０分）。
7	保育所における保育の計画（２）保育の全体的な計画と指導計画	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
8	保育所における保育の計画（３）全体的な計画の編成	発達心理等発達過程を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す２回目の課題を作成する（９０分）。
9	保育所における保育の計画（４）指導計画（長期的・短期的）の作成と作成上の留意事項	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	９回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
10	育の計画の作成と展開（１）保育の全体的な計画の編成と展開	計画作成の方法をよく読んでおく（９０分）。	授業終了時に示す３回目の課題を作成する（９０分）。
11	保育の計画の作成と展開（２）指導計画の実際の作成と展開	対象年齢と計画の連動性を理解しておく（９０分）。	１１回目の授業で理解した点を整理する９０分）。
12	保育所における保育の評価（１）保育の省察及び記録	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	１２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
13	保育所における保育の評価（２）保育士及び保育所の自己評価	教科書の評価頁を事前に読んでおく（９０分）。	１３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
14	保育所における保育の評価（３）保育の計画の再編成	教科書の専門用語の意味を理解しておく（９０分）。	授業終了時に示す４回目の課題を作成する（９０分）。
15	保育所における保育の評価（４）生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録	保育の計画で学んだ事を整理しておく（９０分）	授業の目的の達成度を自己評価する（９０分）。
16	定期試験６０分。試験終了後に解説を行う 提出された課題の総合評価をフィードバック 授業改善アンケートの実施	15回の講義内容を振り返り復習する(９０分)	試験、課題の解説に基づき復習し整理する(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの健康と安全 （科目ナンバリング：SOM123091 ）				
授業担当者（所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 宮﨑　剛司 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの発達状態や健康状態の把握の方法について演習する。また、子どもが育つ環境つくりや子ども自身で心身健康で安全な生活をつくりだせるような支援方法を考える。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整または研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

保育における保健の観点から保育環境や支援のあり方について学ぶ。
子どもを取り巻く社会状況・指針をふまえた衛生・安全管理やその対策を学び、体制つくり、活動計画・評価等の一連について理解を深める。また、子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP2、DP3、DP4、DP5に対応する。（2023年度）

到達目標

子どもを取り巻く社会状況を把握し、安全管理の実際について討議・発表できる。
子どもの健康状態の把握の方法を理解し計測できる。
子どもの保健の基本をふまえ、心身の状態や発達に即した適切な対応について説明できる。

授業全体の内容と概要

子ども保健の基本的な考え方を理解し、子どもの健康と安全な生活のための支援方法を学ぶ。
子どもを取り巻く社会状況・指針をふまえた衛生・安全管理やその対策、体制つくりの活動計画・評価の一連等の理解を深めるとともに、心身の状態や発達に即した適切な対応についての保健活動を具体的に学習する。

授業の方法

講義と実習形式。参考図書や配布資料を活用。実施前に基本学習事項、事前課題への取り組み方を提示する。
テーマについて説明後、グループワークや課題解決学習の発表・実施、その後レポート提出（2回）を行う。その都度、コメントを返す。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教科書は必ず持参すること。
必要な資料等は適宜配布するので講義に持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	４０%	０%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子どもを取り巻く社会状況の把握と衛生・安全管理	体験した安全管理の活動を振り返り、子どもを取り巻く社会状況と関連させて活発に討議し非常によい発表ができた。	体験した安全管理のための活動を振り返り、子どもを取り巻く社会状況と関連させて概ね討議・発表できた。	安全管理のための活動と子どもを取り巻く社会状況について部分的に討議・発表できた。	安全管理のための活動と子どもを取り巻く社会状況を助言により討議・発表できた。	助言しても討議・発表ができなかった。
子どもの健康状態の把握	子どもの健康状態の把握の方法を詳しく調べ、正しく計測できた。	子どもの健康状態の把握の方法を調べ、概ね計測できた。	子どもの健康状態の把握の方法を調べ、部分的に計測できた。	子どもの健康状態の把握の方法について、助言により計測できた。	助言しても計測できなかった。
子どもの体調や心身の状態把握の方法	子どもの発達状況に即した体調や心身の状態把握、その対応方法について詳しく説明できた。	子どもの発達状況に即した体調や心身の状態把握、その対応方法について概ね説明できた。	子どもの発達と、体調や心身の状態把握、その対応方法について部分的に説明できた。	子どもの体調や心身の状態把握、その対応について助言により説明できた。	助言しても説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	子どもの健康と安全　（科目ナンバリング：SOM123091　）				
授業担当者（所属・職名）	宮﨑　剛司（社会福祉学科・講師）		研究室等所在	１号館２階常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　宮﨑　剛司　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	看護実践、看護教育の実務経験あり。子どもの発達状態や健康状態の把握の方法について演習する。また、子どもが育つ環境つくりや子ども自身で心身健康で安全な生活をつくりだせるような支援方法を考える。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『子どもの健康と安全　改訂第２版』	大西文子	中山書店	2022	9784521749778	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『授業の中で随時案内する』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス、シラバス説明 授業改善アンケート結果反映の説明 子どもを取り巻く社会状況と子ども保健	履修を終えている「子どもの保健」の概要を理解しておく（９０分）	当日の授業で行ったことをノートにまとめておく（９０分）
2	事故防止及び健康安全管理１ 保育環境と衛生・安全対策	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（９０分）	当日授業や討議で行った課題について調べ、レポート作成する（９０分）
3	事故防止及び健康安全管理２ 子どもの事故、危機回避と体つくり	討議・発表準備のため十分に予習して授業に臨む９０分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく（９０分）
4	子どもの健康に関する適切な対応１ 保健的対応・対策	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（９０分）	当日の授業で行ったことをノートにまとめ、出された課題を調べておく（９０分）
5	子どもの健康に関する適切な対応２ 健康状態の把握　計測・測定	発表・実施準備のため十分に予習して授業に臨む（９０分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し整理しておく（９０分）
6	子どもの健康に関する適切な対応３ 病児の状態把握の方法と対応	指定した参考図書・配布資料を読んでおく（９０分）	当日授業や討議で行った課題について調べ、レポート作成する（９０分）
7	子どもの健康・安全にかかわる実施体制	指定した参考図書・配布資料を読んでおく９０分）	返されたコメントや他の評価を参考に自己課題を見直し追加修正しておく（９０分）
8	提出レポート・課題について解説、フィードバックし総括します。 授業改善アンケートの実施。	これまで授業で行ったことを振り返り準備してくる（９０分）	子どもの保健の課題に今後も取り組んでいく（９０分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	映像表現Ⅱ （科目ナンバリング：AEA223047 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者：　北嶋　洋一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用までを指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインやアートのコンテンツとして映像を捉え、その基本的な撮影・編集技術を学び、制作工程に携わることで、その表現の可能性を知ることができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP4に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

映像制作の過程を通じて，作品の完成度を高めるために必要な要素は何か？　に気付かせ，それを実践できる。
映像メディアの必要性，映像ならではの表現を用いることができる。

授業全体の内容と概要

映像表現Ⅰの内容を踏まえ、映像の制作工程とチームワークについて学ぶ。同時に、映像制作のアプリケーションとしてAfterEffectsの操作講習を行い、履修者全員に必要最低限の技術を身に付けさせる。
「ＳＤＧs９．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

映像表現Ⅰで用いたPowerPointと提出されたストーリーボードを用いて、知識の再確認を行う。
その後に実技として、作品制作のためのグループを編成し、役割分担を行い、映像制作の工程に沿ったスケジュールを作成し作品の制作を進行する。
毎週、グループ毎に進行確認のミーティングやディスカッションを行い、その報告はメールにて提出する。
ロケハンやロケのための現地調査・取材は時間外でも良しとする。
これと並行して、前半の５週を目途にAfterEffectsの操作講習を行う。
質問には随時対応し、技術的な指導も適時行う。
制作完了後は上映会にてプレゼンテーションし、意見交換を行わせた後に全体講評を行う。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

映像制作の実技になるので、全授業を通じてチームワークとなる。もちろん、完成作品についての評価はチーム毎になるので、役割分担の際には公平な仕事量を心掛けることが重要。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「映像の撮影・編集に関する基本的な技術を身につけている」	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が十分に修得できており、制作時に効果的な応用作業が行えた。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が修得できており、制作時に応用作業が行えた。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術は修得できているが、制作時に応用するまでには至らなかった。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が不完全であり、制作時に用いることができなかった。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が修得できなかった。
思考力・判断力・表現力「映像作品制作において、グループ内の役割について、その必然性を理解し、自らに与えられた役割を果たすことができる」	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解し、十分な知識と技術を運用することができた。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解し、十分な知識と技術を運用するよう努力した。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解していたが、知識と技術の運用は十分ではなかった。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解できず、知識と技術の運用ができなかった。	作品制作に於いて、自らの役割を果たすことができず、携わることができなかった。
主体性・多様性・協働性「グループ制作作業における全工程を把握し、その中での与えられた工程に取り組む際に他の学生と積極的に意見交換をしながら、作品の質を高めるよう心掛けることができた」	制作グループ内で、積極的に作業に取り組み、協働性に於いては求められるレベルを超えて活動していた。	制作グループ内で、積極的に作業に取り組み、協働性に於いては求められるレベルに達していた。	制作グループ内で、与えられた作業には取り組んでいたが、積極性や協働性に於いては求められるレベルには達していなかった。	制作グループ内で、作業への取り組みが消極的であり、協働性については極めて限定的であった。	制作グループ内で、全ての作業に対し取り組みが不十分であり、責任感に乏しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	映像表現Ⅱ （科目ナンバリング：AEA223047 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用までを指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス～シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 ①「ストーリーメイク　「リアリズム，オポテュニ	シラバスを一読しておくこと（４５分）	グループ設定について代表者が取り纏め、次週の授業開始時までに提出（４５分）
2	After Effects　の操作講習①　「入力～出力」	授業用素材のダウンロードと確認（４５分）	授業内容の反復（４５分）
3	After Effects　の操作講習②　「編集」	授業用素材のダウンロードと確認（４５分）	授業内容の反復（４５分）
4	After Effects　の操作講習③　「エフェクト」	授業用素材のダウンロードと確認（４５分）	授業内容の反復（４５分）
5	After Effects　の操作講習④　「試作」	授業用素材のダウンロードと確認（４５分）	授業内容の反復（４５分）
6	After Effects　の操作講習⑤　「試作」	授業用素材のダウンロードと確認（４５分）	授業内容の反復（４５分）
7	映像制作（180sec～）①　テーマ　～　コンセプト	グループ内での役割分担と仕事内容について、明確にしておくこと（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
8	映像制作（180sec～）②　シナリオ　～　設計	映像表現Ｉの授業内容を再確認すること（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
9	映像制作（180sec～）③　素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
10	映像制作（180sec～）④　素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
11	映像制作（180sec～）⑤　素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
12	映像制作（180sec～）⑥　編集	設計図の再確認と修正（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
13	映像制作（180sec～）⑦　編集	設計図の再確認と修正（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
14	映像制作（180sec～）⑧　編集	設計図の再確認と修正（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
15	映像制作（180sec～）⑨	微調整や修正のためのミーティングをしておくこと（４５分）	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える（４５分）
16	映像制作（180sec～）発表 授業改善アンケートの実施	プレゼン用のコンセプトシートを纏めておく（４５分）	他のグループへの意見や感想を纏めて、既定の日時までに提出する（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習III （科目ナンバリング：AEN323064 ）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 小笠原　健 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士である。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国家資格である「一級建築士一次（学科）試験」に合格できる学力の修得を目標とする。
この講座では、特に一級建築士一次試験５科目のうち、「IV・施工分野」の傾向と対策を行う。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

提示された一級建築士試験の過去問題に対し、出題者の意図を探り，解答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

一級建築士学科試験（学科IV・施工分野）に出題される過去問題を毎回、小テストを実施し、その解説書に基づいて、復習を行う。

授業の方法

授業では、配布する各章の過去問題をテスト形式で実施し、次回にその解説を行う。事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。なお、事前に小テストの出題範囲を予習してくること。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

この一級建築士資格試験対策は，３年生までの専門科目の集大成の総まとめとして、建築業界最高峰の国家資格である「一級建築士試験」に挑戦するものである。
よって、覚悟を以って取り組むこと。
なお、毎回、テキストを必ず持参すること。
この講座の履修は、建築プロファッショナル専攻「一級建築士特別養成コース」に所属する学生に限る。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。また、定期試験にて成績評価を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１００％	０％	０％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
契約約款・施工計画の定義を理解	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題をすべて正確に解くことができた。	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題を正確に解くことができた。	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題をほぼ正確に解くことができた。	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題を解くことができた。	契約約款・施工計画の定義を理解し、それに関する問題を解くことができなかった。
各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができなかった。
仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を正確に解くことができた。	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができた。	仕上げ工事・改修工事・設備工事に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習III　（科目ナンバリング：AEN323064　）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　小笠原　健　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士である。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『一級建築士学科IV施工（2024年度版）』	日建学院	(株)建築資料研究社	2023		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。 契約約款・工事監理・施工計画・施工管理の小テスト	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	契約約款・工事監理・施工計画・施工管理の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	仮設工事・地盤調査・土工事・山留め工事・基礎地業工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	仮設工事・地盤調査・土工事・山留め工事・基礎地業工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	筋工事・型枠工事・コンクリート工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	プレキャスト鉄筋コンクリート・鉄骨工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	プレキャスト鉄筋コンクリート・鉄骨工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	仕上げ工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	仕上げ工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	改修工事・設備工事の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	改修工事・設備工事の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	複合問題対策の小テスト	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	複合問題対策の小テストの解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	定期試験	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	定期試験の解説 授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義、実技	必修・選択	選択
科目名称	運動学(運動方法学を　（科目ナンバリング：SPS522062　）				
授業担当者（所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）　天野　雅斗（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館３階（米野）　２号館７階（天野）		
単位数	2　（単位認定責任者：　米野　宏　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	約７年にわたる本科目の授業経験とその他の体育・スポーツ関係の授業経験も活かしながら授業を進める。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

身体運動におけるメカニズムについての理論的学習に加え、スポーツ活動の実践を通して、グループワーキングなどにより、主体的に指導方法を身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP２、DP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

学校の体育やスポーツ指導現場で必要な運動の見方や考え方を学び、その質的評価ができる。

授業全体の内容と概要

前半は、人体の解剖学的な学びに加え、力・重心・モーメントなどの運動力学的な基礎知識を学ぶ。後半は、具体的な運動をテーマに実践やグループワーキングを通して方法学を学ぶ。

授業の方法

基本的には教室において、板書またはパワーポイントで理論的学習を行うが、授業の後半は、運動場において、実践的な活動の中で運動方法を学ぶ。
さらに、理解を深めるためにグループワークやビデオ視聴もする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなします。遅刻３回で１回の欠席とみなします。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	０%	３０%	３０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
運動における解剖学的、生理学的な基礎知識の理解	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換,血液についての生理学的知識が専門的なレベルで得られた。	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換、血液についての生理学的知識が比較的多く得られた。	人体の筋、骨格などの解剖学的知識やガス交換、血液についての生理学的知識はおおよそ得られた。	人体の筋、骨格の基礎的知識や基礎的な生理的機能が理解できた。	人体の筋、骨格の基礎的知識がほとんど無い。生理学的基礎知識もほとんど得られなかった。
スポーツバイオメカニクスに関する知識と理解	身体運動の力学的な知識はとても豊かで運動の分析も多種できた。	身体運動の力学的な知識は比較的豊かで分析もおおよそできた。	身体運動の力学的な基礎的知識が備わり応用もできた。	身体運動の力学的な基礎的知識はあるが応用までには至らなかった。	身体運動の力学的な知識がほとんど理解できなかった。
バイオメカニクス的原則に則った運動の実践と指導法の理解	理論に則った考えでの運動を模範的な動きで実践でき、指導法の理解もとても深い。	理論に則った考えでの運動を模範的な動きで実践でき、指導法の理解も比較的できた。	理論に則った考えでの運動はおおよそ実践でき、指導のポイントも理解できた。	理論に則った考えでの運動はあまりできないが、指導のポイントは理解できた。	理論に則った考えでの運動が実践や指導のポイントも理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義、実技	必修・選択	選択
科目名称	運動学(運動方法学を　（科目ナンバリング：SPS522062　）				
授業担当者（所属・職名）	米野　宏（経営学科・准教授）　天野　雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階（米野）　２号館７階（天野）	
単位数	2　（単位認定責任者：　米野　宏　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	約７年にわたる本科目の授業経験とその他の体育・スポーツ関係の授業経験も活かしながら授業を進める。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『スポーツバイオメカニクス』	金子公宥	杏林書院	２０１７	978-4-7644-1079-4c3047	
2	『スポーツバイオメカニクス２０講』	阿江通良	朝倉書院	２０１７	978-4-254-69040c3075	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明）（授業改善アンケート結果反映の説明） 運動学とは	事前にシラバスを読んで確認する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
2	人体の構造（骨格・骨格筋） （担当：天野）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
3	バイオメカニクスの基礎（エンジンとしての筋） （担当：天野）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
4	バイオメカニクスの基礎（エネルギー供給） （担当：天野）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
5	バイオメカニクスの基礎（運動の指令と調節） （担当：天野）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
6	バイオメカニクスの基礎（運動の力学と法則） （担当：米野）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
7	バイオメカニクスの実際（立つ） （担当：米野）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
8	バイオメカニクスの実際（歩く） （担当：米野）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
9	バイオメカニクスの実際（走る） （担当：米野）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
10	バイオメカニクスの実際（跳ぶ①） （担当：天野）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
11	バイオメカニクスの実際（跳ぶ②） （担当：天野）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
12	バイオメカニクスの実際（投げる） （担当：米野）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
13	バイオメカニクスの実際（打つ） （担当：米野）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
14	バイオメカニクスの実際（蹴る） （担当：米野）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
15	バイオメカニクスの実際（その他の運動） （担当：米野）	シラバスを参考にし、事前に参考文献で予習する（９０分）	ノートに記載された内容を復習し、理解する（９０分）
16	まとめ （担当：米野）	ノートに記載されたすべての内容を再度復習する（９０分）	課題の内容を確認し、準備する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育史	（科目ナンバリング：EDU141151，EDU241095，EDU341091，EDU441093，EDU541100）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者：　西崎　毅　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育史に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

教職に必要な知識や技能のうち、教育の歴史や様々な教育思想に関する基礎的知識をはじめ、それらと多様な教育の理念とのかかわりや過去から現在に至る教育や学校の歴史的変遷についての知識を身に付ける。教職に必要な思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付ける。

授業の位置づけ

設定なし（２０２４年度）

到達目標

授業のテーマについて考え、根拠を示しながら自分の意見をまとめ、他者と意見交換をしたり発表したりすることができる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。教育に関する内容は複数のテーマにかかわることが多いため、シラバスに示した学修内容を再構成し１５回の授業全体を通して学修を完結する形とする場合がある。このため、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○主体的・対話的で深い学びを行うため、思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。
○講義においては、ＰＣ及びスマートフォンを活用するので、特に指示がある場合を除き毎時間必ず持参すること。持参なき場合は当該時間の履修を認定しない。
○受講に支障が出ることのないよう、事前にＰＣ及びスマートフォンの充電を十分に行うなど、対策を講じること。
○授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」 に格納するので必要に応じてダウンロードすること。
○講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○講義開始時間までに用便を済ませておくこと。
○講義では演習を行うため、座席を指定する。
○教職の講義であるため、「起立」、「礼」の挨拶をする。
○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断し決定する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

○単位認定に必要となる出席回数は１３回。
○成績評価は、定期試験（６０％）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性など（４０％）を参考に総合的に判断して行う。
○各授業回の課題（授業中の課題、事前事後課題）の全提出を単位認定の条件とする。
○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。
○自発的な発表の意欲は別途加点、講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。
○Ｓ評価は全体の10%、Ｓ評価とＡ評価を合わせて40%以内となっています。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで９割以上の得点を上げた。	定期テストで８割以上の得点を上げた。	定期テストで７割以上の得点を上げた。	定期テストで６割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が６割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめているが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断の的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及した。各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、思考テーマの意味のとらえに課題があり、期待される論点に十分には言及できなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字がなく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の９割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少ない。各欄の記述の分量が期待される分量の７割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が散見された。各欄の記述の分量が期待される分量の５割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多くみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の３割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述数Ｒことができた。	他の成員と意見交換しているが特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を理解し、自分の感想等を記述することができたが、自分の意見と異なる他の成員の意見に対しての記述は見られなかった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解に不十分な面があった。自分の感想等を記述してはいるが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に消々参加していた。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点がずれているなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育史	（科目ナンバリング：EDU141151，EDU241095，EDU341091，EDU441093，EDU541100）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2	（単位認定責任者：　西崎　毅　）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育史に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『はじめて学ぶ教育の制度と歴史』	広岡義之ほか	ミネルヴァ書房	2019	9784623087723	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明含む） 日本の古代・中世の教育制度と教育の歴史について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
2	日本の近世の教育制度と教育の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
3	明治維新と教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
4	日本における近代国家の確立と教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
5	大正デモクラシーと教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
6	日本の戦時体制下の教育について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
7	日本の戦後の教育政策について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
8	日本の現代の教育改革について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
9	古代のギリシア・ローマの教育制度と教育の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
10	中世・ルネサンス・宗教改革の教育制度と教育の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
11	１７・１８世紀及び革命期の教育制度と教育の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
12	近代公教育制度の成立について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
13	１９世紀の教育制度と教育の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
14	２０世紀の教育制度と「新教育運動」の歴史について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
15	世界の教育制度と改革の動向について 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）
16	７０分の試験終了後，残りの２０分で解説を行う。	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅱ(人間　（科目ナンバリング：CHS122079　）				
授業担当者（所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　松下　守邦　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

授業の目的は、保育実践の内容を理解することである。そのための具体的内容は、保育者の専門性である、①養護と教育にかかわる保育の内容を展開するための知識、技術、判断力を修得すること、②保育の内容５領域、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」を総合的にとらえ、人は社会と関わり生活していくための「人間関係」の重要性について、子どもの理解を深めることである。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP1、DP3、DP5に対応する。（2023年度）

到達目標

領域「人間関係」について、子どもの適切な理解を深めながら保育内容を実践することができる。テキスト課題「考えてみよう」を具体的に識別して列挙することができる。

授業全体の内容と概要

・授業の概要は、幼児教育の基本・乳幼児期の発達、子どもと保育者、遊びと人間関係・家庭生活と子ども、幼児教育と課題となる。
・授業内容の取扱いは、①保育の実践に必要となる知識、理論、②保育現場でおこり得る事例、③事例を考える際の問題点、④事例の対応方法、の４観点から構成される。
・「SDGs４．．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

テキストのワークシート「事例　考えてみよう」（６６例）を利用し、ケース学習をすすめる。「保育の現場で実際に起こり得る事例」について、ケース学習（下記、アクティブ・ラーニングの実施方法、その他）、グループワークをおこない、授業展開する。授業では視聴覚教材を利用する。課題レポートのコメントはフィードバックされる機会がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・「保育内容演習Ⅱ（人間関係）」は、保育の内容（５領域）から「人間関係」を抽出する科目である。・保育の内容を統合する理解の視点がもとめられる。

・配布資料はファイリングし、授業内容、資料の欠落することのないように留意する。

・授業は学生のみなさんと担当教員による協同学習となるので、主体的に参加、授業貢献する。

・大学交付学生用メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用する。
・パソコンスキル（レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー）を高めていく。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進める。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定のための出席要件は、授業第１回から第８回までに計６回以上の出席が必要になる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	６０％	３０％	０％	０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の内容の統合的視点をふまえながら、領域「人間関係」について、知識・技能を修得する。（知識・技能）	領域（人間関係）について、深く理解ができた。	領域（人間関係）について、おおむね理解ができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識の理解ができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識に欠ける部分はあるが、理解することができた。	領域（人間関係）について、基本的な知識を著しく欠いており、理解することが難しかった。
保育内容の統合的視点をふまえながら、領域「人間関係」について、展開することができる。（思考力・判断力・表現力）	領域（人間関係）について、充分に思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、おおむね思考して、表現することができた。	領域（人間関係）について、基本的な思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、改善の余地はあるが、思考をして、表現することができた。	領域（人間関係）について、思考をして、表現することが難しかった。
保育者として、保育内容の理解に関心と意欲を持ち、積極的、協同的に参加することができる。（関心・意欲・態度）	領域（人間関係）について、保育者の役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	領域（人間関係）について、保育者の役割をおおむね理解して、自ら行動することができた。	領域（人間関係）について、保育者の役割について、基本的な行動をすることができた。	領域（人間関係）について、改善の余地はあるが、自分の役割を考えながら、行動することができた。	領域（人間関係）について、自分の役割を理解して、行動することが難しかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅱ(人間 （科目ナンバリング：CHS122079 ）				
授業担当者（所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 松下　守邦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『事例と図解で学ぶ保育実践 子どもの心の育ちと人間関係　第２版』	寺見陽子	教育情報出版	２０１６	9784938795771	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育所保育指針解説(2018)　』	厚生労働省	国立国会図書館	２０２３		https://warp.da.ndl.go.jp/info:
2	『保育を支えるネットワーク： 支援と連携　保育学講座5 』	日本保育学会	東京大学出版会	２０１６	9784130522052	
3	『子どもの育ちをエピソードで描く』	鯨岡峻	ミネルヴァ書房	２０１３	9784623066414	
4	『札幌市・帯広市・江別市　公立保育士　採用試験対策シリーズ2024年度版』	協同教育研究会	協同出版	２０２３	9784319337354	
5	『子どもの経験から振り返る保育プロセス』	秋田喜代美	幼児教育映像制作委員会	２０１０		DVD教材

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 幼児教育の基本・乳幼児期の発達①（心理学的接近と教育学的接近）	シラバスを熟読する。（４５分）	今回の学習内容を復習する。（４５分）
2	幼児教育の基本・乳幼児期の発達②（視聴覚教材の視聴）	テキストⅠ、Ⅱ章と演習課題を熟読する。（４５分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（４５分）
3	子どもと保育者①（社会学的接近）	テキスト学習範囲を熟読する。（４５分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（４５分）
4	子どもと保育者②（保育学的接近）	テキスト学習範囲を熟読する。（４５分）	今回の学習テキスト，視聴覚教材を復習する。（４５分）
5	遊びと人間関係・家庭生活と子ども①（社会学的接近と社会心理学的接近）	テキストIII、IV章と演習課題を熟読する。（４５分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（４５分）
6	遊びと人間関係・家庭生活と子ども②（視聴覚教材の視聴	テキスト学習範囲を熟読する。（４５分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（４５分）
7	幼児教育と課題　まとめ①（エピソード記述法）	テキスト学習範囲を熟読する。（４５分）	今回の学習テキスト、視聴覚教材を復習する。（４５分）
8	幼児教育と課題　まとめ②（保育学） 授業改善アンケートの実施	これまでのテキスト、資料、視覚教材の学習内容を整理する。（４５分）	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。（４５分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習Ⅳ　（科目ナンバリング：BSM323065　）				
授業担当者（所属・職名）	赤木　良子（准教授）	研究室等所在	2号館６階		
単位数	1　（単位認定責任者：　赤木　良子　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士資格保有		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

将来受験する一級建築士試験（学科Ⅳ構造）に合格するための受験対策を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

提示された一級建築士試験の学科Ⅳ各分野の過去問題に対し、解答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

各自単元ごとに小テストを実施し、自己採点した上で、その解説書に基づいて復習を行う。

授業の方法

授業では、各章の問題をテスト形式で実施し、必要であれば、次回にその解説を行う。
事前学習と各章の小テストの解説によって理解を深める。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

建築プロフェッショナル専攻の一級建築士特別養成コース学生のみ履修可能。
毎回、テキストを必ず持参すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
30%	0%	0%	70%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
「力学（つりあい、反力、応力）、断面の性質、座屈、変形」各項目の理解	関連する問題を全て正確に解くことができた。	関連する問題をほぼ正確に解くことができた。	関連する問題を半分程度解くことができた。	関連する問題内容を理解することができた。	理解することができなかった。
「構造設計」各項目の理解	関連する問題を全て正確に解くことができた。	関連する問題をほぼ正確に解くことができた。	関連する問題を半分程度解くことができた。	関連する問題内容を理解することができた。	関連する問題内容を理解することができなかった。
「各種構造」各項目の理解	関連する問題を全て正確に解くことができた。	関連する問題をほぼ正確に解くことができた。	関連する問題を半分程度解くことができた。	関連する問題内容を理解することができた。	関連する問題内容を理解することができなかった。
「地盤・基礎、その他の構造等」各項目の理解	関連する問題を全て正確に解くことができた。	関連する問題をほぼ正確に解くことができた。	関連する問題を半分程度解くことができた。	関連する問題内容を理解することができた。	関連する問題内容を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	一級建築士演習Ⅳ　（科目ナンバリング：BSM323065　）				
授業担当者（所属・職名）	赤木　良子（准教授）		研究室等所在	2号館６階	
単位数	1　（単位認定責任者：　赤木　良子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士資格保有		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『一級建築士学科Ⅳ構造（2024年度版）』』	日建学院	㈱建築資料研究社	2023		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明・授業ガイダンス 第1章　力の釣り合い・反力	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
2	第1章　力の釣り合い・反力　解説	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
3	第2章　静定構造物の応力・第3章　断面の性質	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
4	第2章　静定構造物の応力・第3章　断面の性質　解説	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
5	第4章　応力度・座屈・変形・第5章　不静定構造物の応力	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
6	第4章　応力度・座屈・変形・第5章　不静定構造物の応力　解説	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
7	第6章　振動・構造物の崩壊・一次設計・第7章　構造設計・構造計画	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
8	第6章　振動・構造物の崩壊・一次設計・第7章　構造設計・構造計画　解説	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
9	第8章　木質構造・第9章　鉄骨構造	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
10	第8章　木質構造・第9章　鉄骨構造　解説	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
11	第10章　鉄筋コンクリート構造・第１１章　鉄骨鉄筋コンクリート構造	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
12	第10章　鉄筋コンクリート構造・第１１章　鉄骨鉄筋コンクリート構造　解説	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
13	第１２章　地盤と基礎構造・第１３章　その他の構造等	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
14	第１２章　地盤と基礎構造・第１３章　その他の構造等　解説	試験範囲の学習（45分）	試験内容の確認（45分）
15	定期試験／授業改善アンケートの実施	試験範囲全体の復習（45分）	試験内容の確認（45分）
16	定期試験の解説	試験問題の復習（45分）	試験範囲の復習（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育行政学	（科目ナンバリング：SOE122063，SOE242097，SOE342093，SOE442095，EDU542102）			
授業担当者（所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　木村　浩紀　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、教育行政に係る今日的課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教育の理想や思想は、「教育制度」とならなければ実際に力をもつものとはならないとの観点から教育を把握するとともに、２１世紀の教育行政に対応できる教育行政学について理解する。

授業の位置づけ

経営学科、経営学科スポーツマネジメントコースのＤＰ２、ＤＰ４に対応する。（２０２３・２０２２年度）
デザイン学科・建築学科のＤＰ２、ＤＰ４に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

教育行政の組織や権限等の法制的な理解にとどまらず、学習するものの立場に立った教育条件整備の在り方について考察し、説明するとともに、テーマに即して、限られた時間内でレポートを記述できる。

授業全体の内容と概要

教育行政というものが何であり、どうあるべきかを理論的・体系的にとらえるとともに、教育内容から教育環境の問題までを現実に即して具体的に考えていく。また、毎回設定する「授業テーマ」をもとに、思考・考察、発表等の活動を行う。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、パワーポイント等の配布物資料で実施し、資料にて説明した後、レポートを作成して提出する。
各回のテーマごとに意見や感想を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職科目であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全学科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１ 回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	４０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育行政の法的理解と教育制度の習得	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る知識・技能を積極的に習得し、その内容を的確に説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容をほぼ説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できなかった。
授業テーマに関するレポートの作成	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ 時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、 時間内に記述できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育行政学	（科目ナンバリング：SOE122063，SOE242097，SOE342093，SOE442095，EDU542102）			
授業担当者（所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者：　木村　浩紀　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、教育行政に係る今日的課題への対応を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『教育行政学』	横井敏郎	八千代出版	2022	978-4-8429-1839-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 ・教育行政の身近な課題について、授業改善アンケート結果反映の説明	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
2	Ⅰ憲法・教育基本法と教育行政制度 ・憲法・教育基本法について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
3	Ⅰ憲法・教育基本法と教育行政制度 ・文部科学省と教育政策形成について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
4	Ⅰ憲法・教育基本法と教育行政制度 ・教育委員会制度について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
5	Ⅰ憲法・教育基本法と教育行政制度 ・教育財政と教職員配置について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
6	Ⅰ憲法・教育基本法と教育行政制度 ・教育課程について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
7	Ⅰ憲法・教育基本法と教育行政制度のまとめ	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
8	Ⅱ公教育制度と学校・教員 ・教育を受ける権利と公教育制度について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
9	Ⅱ公教育制度と学校・教員 ・学校組織と学校経営について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
10	Ⅱ公教育制度と学校・教員 ・教職員制度と教員の仕事について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
11	Ⅱ公教育制度と学校・教員 ・学校を支える教職員・施設と専門職協働について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
12	Ⅲ子ども・若者支援と権利保障 ・子どもの権利条約と学校の課題について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
13	Ⅲ子ども・若者支援と権利保障 ・子どもの成長・発達を支える行政について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
14	Ⅲ子ども・若者支援と権利保障 ・進路を拓く若者支援と学校の取り組みについて	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
15	Ⅱ公教育制度と学校・教員 Ⅲ子ども・若者支援と権利保障　のまとめ	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
16	教育行政学のまとめ 定期試験（６０分） 授業改善アンケートの実施	講義資料等で講義内容を整理する。（９０分）	試験の結果を見直す。（９０分 ）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育行政学（S）	（科目ナンバリング：S0E122063，S0E242097，S0E342093，S0E442095，EDU542102）			
授業担当者（所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　木村　浩紀　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、教育行政に係る今日的課題への対応を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

教育の理想や思想は、「教育制度」とならなければ実際に力をもつものとはならないとの観点から教育を把握するとともに、２１世紀の教育行政に対応できる教育行政学について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

教育行政の組織や権限等の法制的な理解にとどまらず、学習するものの立場に立った教育条件整備の在り方について考察し、 説明するとともに、テーマに即して、限られた時間内でレポートを記述できる。

授業全体の内容と概要

教育行政というものが何であり、どうあるべきかを理論的・体系的にとらえるとともに、教育内容から教育環境の問題までを現実に即して具体的に考えていく。また、毎回設定する「授業テーマ」をもとに、思考・考察、発表等の活動を行う。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、パワーポイント等の配布物資料で実施し、資料にて説明した後、レポートを作成して提出する。
各回のテーマごとに意見や感想を発表する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教職科目であることから、遅刻や欠席をしないように努めること。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全学科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１ 回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	４０%	０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
教育行政の法的理解と教育制度の習得	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る知識・技能を積極的に習得し、その内容を的確に説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容をほぼ説明できた。	教育行政の組織・権限並びに教育制度に係る基礎的な知識・技能を習得し、その内容を説明できなかった。
授業テーマに関するレポートの作成	テーマに基づき、的確な思考力・判断力のもと、論理的な内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、思考力・判断力を活かした内容で、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、思考力・判断力のもと、時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、ほぼ 時間内に記述できた。	テーマに基づき、資料を参考にして、自分なりの考えで、時間内に記述できなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に主体的・積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にほぼ関心を持って参加することができた。	授業に関心を持って参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	教育行政学（S）	（科目ナンバリング：SOE122063，SOE242097，SOE342093，SOE442095，EDU542102）			
授業担当者（所属・職名）	木村　浩紀（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2　（単位認定責任者：　木村　浩紀　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政の経験のある教員がその経験を活かして、教育行政に係る今日的課題への対応を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『教育行政学』	横井敏郎	八千代出版	2022	978-4-8429-1839-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 教育行政の身近な課題について、授業改善アンケート結果反映の説明	授業範囲を予習し、関連する資料の収集に努めること。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
2	Ⅰ憲法・教育基本法と教育行財政制度 ・憲法と教育基本法について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
3	Ⅰ憲法・教育基本法と教育行財政制度 ・文部科学省と教育政策形成について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
4	Ⅰ憲法・教育基本法と教育行財政制度 ・教育委員会制度について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
5	Ⅰ憲法・教育基本法と教育行財政制度 ・教育財政と教職員配置	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
6	Ⅰ憲法・教育基本法と教育行財政制度 ・教育課程について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
7	Ⅰ憲法・教育基本法と教育行財政制度のまとめ	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
8	Ⅱ公教育制度と学校・教員 ・教育を受ける権利と公教育制度について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
9	Ⅱ公教育制度と学校・教員 ・学校組織と学校経営について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
10	Ⅱ公教育制度と学校・教員 ・教職員制度と教員の仕事について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
11	Ⅱ公教育制度と学校・教員 ・学校を支える教職員・施設と専門職協働について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
12	Ⅲ子ども・若者支援と権利保障 ・子どもの権利条約と学校の課題について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
13	Ⅲ子ども・若者支援と権利保障 ・子どもの成長・発達を支える行政について	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
14	Ⅲ子ども・若者支援と権利保障 ・進路を拓く若者支援と学校の取り組みについて	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
15	Ⅱ公教育制度と学校・教員 Ⅲ子ども・若者支援と権利保障　のまとめ	授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。（９０分）	講義資料、授業レポートをファイル化し、復習しておくこと。（９０分）
16	教育行政学のまとめ 定期試験（６０分） 授業改善アンケートの実施	講義資料等で講義内容を整理する。（９０分）	試験の結果を見直す。（９０分 ）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝⅣ （科目ナンバリング：DES223029 ）				
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 林　春生 ）		CAP制	X	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板参照				

概要

履修目標

モノ、コト、商品をデザインする、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2021年度）

到達目標

プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、
プレゼンテーション技術、デザイナーとしての人間力を習得する。

授業全体の内容と概要

デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、
ポスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。

授業の方法

課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	80%	０％	20%	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を辛うじて捉え、今まで以上の価値を辛うじて出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。
新デザインを提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを辛うじて具現化出来て、造形力やアプローチも辛うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実習	必修・選択	選択
科目名称	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝⅣ （科目ナンバリング：DES223029 ）				
授業担当者（所属・職名）	林　春生（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 林　春生 ）		CAP制	X	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ発表	プロダクトデザインとは？調べておく、シラバスを読む。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
4	マーケットチャート作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
8	アイデアスケッチまとめ１	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
9	アイデアスケッチ１プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
10	アイデアスケッチ２	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
11	アイデアスケッチ２まとめ	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
12	アイデアスケッチ２プレゼンテーション デザイン審議会	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
14	デザイン作業 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
15	デザイン作業 コンセプト確認	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
16	デザイン作業 アイデアは反映されているか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	デザイン審査	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
18	デザイン再考 第三者の意見を汲む	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
20	デザイン修正 レイアウト確認	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
21	レンダリング モック作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
22	レンダリング モック作成、効果的な方法考察	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
23	レンダリング モック作成、何を表現するか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
24	レンダリング モック作成、材料を検討	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
25	レンダリング モック作成、考えていたのと造形は合っているか	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
26	レンダリング モック作成　完成に近づける	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
27	レンダリング モック作成完成させる	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
28	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
29	ポスター作成 プレゼンボード作成 レイアウト考察	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
30	ポスター作成 プレゼンボード作成 表現として効果的か	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）
32	総評 授業改善アンケートの実施	世の中の製品を良く調べておく。（４５分）	授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅲ(環境)　（科目ナンバリング：CHS122080　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　慶知（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師控室	
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　慶知　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、保育内容の各領域の関連を講義する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

この科目は、以下の２つを授業の目的とする。
１．養護と教育にかかわる保育の内容が，それぞれに関連性を持ち，総合的に保育を展開していくための知識，技術，判断力を習得する。
２．子どもの発達を「環境」の領域の観点から捉え，子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP４に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

１．保育を展開していくための方法や技術、援助、関わりについて具体的に理解する。
２．保育所保育指針に示す乳児保育の３つの視点や保育における領域「環境」について理解する。

授業全体の内容と概要

保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、援助の関わりについて具体的に学修する。保育所保育指針に示す乳児保育の３つの視点や保育における領域「環境」について学修する。

授業の方法

授業は、板書とグループ学習を取り入れ、質疑応答の時間を設定する。
課題やレポートには必ずコメントを記入し、フィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価方法は、授業時間に説明する。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	２０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
領域「環境」に対する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「環境」について基礎的な知識を深く理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識をおおむね理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を多少理解できた。	領域「環境」について基礎的な知識を深理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開についておおむね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について多少考察できた。	保育の基本を踏まえた保育内容「環境」の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	環境を通した保育について理解したことをわかりやすく説明できた。	環境を通した保育について理解したことをおおむね説明できた。	環境を通した保育について理解したことを説明できた。	環境を通した保育について理解したことを多少説明できた。	環境を通した保育について理解したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅲ(環境)　（科目ナンバリング：CHS122080　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　慶知（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師控室	
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　慶知　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、保育内容の各領域の関連を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育所保育指針』	厚生労働省	フレーベル館	2018/3	9784577814482	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明 保育指針における養護と教育のねらいと内容の理解	保育指針の第一章を事前に読むこと（９０分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
2	保育指針における環境の領域のねらいと内容、保育者の関わりについて	保育指針の「環境」の領域を事前に読むこと（９０分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
3	環境教育の重要性と留意点、環境設定する際のポイント 保育の現場での危機管理、安全管理について	自信が考える環境の重要性についてメモにまとめておくこと（９０分）	３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。 回目の課題を作成する（90分）。
4	子どもの自主性、主体性を引き出す魅力的な環境とは。 環境教育における保育者の役割と重要性について	保育指針における第二章　乳児保育を事前読むこと（９０分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
5	保育における環境の重要性、安全衛生管理について	保育指針における乳児保育及び衛生安全管理を事前読むこと（９０分）	５回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
6	理想の保育環境を考える ①物的環境　②自然環境	保育における物的環境について事前学習しておく（９０分）。	６回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
7	理想の保育環境を考える ③人的環境（保育者の資質、専門性）	保育における人的環境について事前に学習しておくこと（９０分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
8	まとめ　環境を通した保育とは レポートの作成 授業改善アンケートの実施	これまでの授業内容を確認しておく（９０分）。	授業の目的の達成度を自己評価する（９０分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生理学 （科目ナンバリング：BAM522064 ）				
授業担当者（所属・職名）	黒川　泰任（経営学科・客員教授）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 黒川　泰任 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門医・指導医であり、ヒトの生理、病態につき経験がある。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

生理学は生物、特にヒトの正常機能を追求する学問の一分野である。ヒトの生物学的機能を再考察し、生体の働きのメカニズムを理解することを目指す。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

ヒトの身体における正常機能について、理解を深める。

授業全体の内容と概要

われわれ、すなわちヒトの身体を、生命という視点から、生き物の最小単位としてその機能の必然性について理解し、生命活動、疾病、運動時などにおける変化につき考察する。

授業の方法

板書および配布資料を活用しながら、呼吸、血液、循環、消化と吸収、代謝、排泄、内分泌等の生体維持に関する機能としくみについて、順次、要点を講義、および対話形式ですすめる。また、理解度の確認のため、各講義終了時に小テストを実施し、成績判定に用いる。前回の講義内容要約を配布するので、復習と定期試験のために参考とすること。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

小テストと講義内容要約が重要なので、欠席しないように。
首席は表彰される。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は１０回以上。
定期試験と、各講義終了時の小テストの合計点で目標到達を判断する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	４０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ヒトは生物の、そして動物の一種であることを科学的に理解する	討論を元に、生命活動のしくみを科学的に考えられる。	生命のしくみについて興味を持ち、理解しようとしている。	ヒトの生物としての特徴がいえる。	講義の中心テーマを一つは理解できている。	講義に参加していない。
ヒトの正常の生命活動と、機械の働く機序との相同性、相違性を理解する	ヒトという生物も、機械も、活動のしくみは同じだと理解し、説明できる。	生物と機械の違いを説明できる。	ヒトの生命活動の特徴が、いくつか説明できる。	講義の中心テーマを一つは理解できている。	講義に参加していない。
講義態度	討論・質疑に参加し、積極的に意見や考えを述べられていた。	講義や皆の発言に耳を傾け、書き取っていた。	板書しており、疑問点や不明点をメモできていた。	板書はできている。	講義に参加していない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	生理学 （科目ナンバリング：BAM522064 ）				
授業担当者（所属・職名）	黒川　泰任（経営学科・客員教授）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 黒川　泰任 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	診療に従事する、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、病態栄養学会専門医・指導医であり、ヒトの生理、病態につき経験がある。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ぜんぶわかる人体解剖図』	坂井ら	成美堂出版	2017	9784415306193	
2	『はじめの一歩のイラスト生理学 改訂第2版』	照井直人／編	羊土社	2011	9784758120296	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション・シラバスの説明	シラバスを確認しておく（９０分）	人の生理について興味ある点を、まとめておく（９０分）
2	生き物とは	資料等を活用し、学習内容に関連する事項について事前に調べておく（９０分）	当日講義内容の確認のため小テストを行うが、これを利用して理解を深める（９０分）
3	細胞と環境	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
4	細胞と循環	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
5	呼吸、酸素の恩恵	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
6	血液	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
7	神経１　中枢神経と末梢神経	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
8	神経２　脳の機能局在	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
9	神経３　脳の解剖学的特徴	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
10	神経と運動	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
11	神経とホルモン、下垂体	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
12	腎臓	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
13	消化器１　消化管	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
14	消化器２　肝臓と膵臓	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
15	免疫	講義内容は、互いに関連がある。講義は前回の復習から始まる。内容の概要を調べておく（９０分）	当日の講義内容確認は小テストで、前回の確認は、要約を配布する（９０分）
16	定期試験 ６０分の試験終了後、残り３０分で解説を行う。 授業改善アンケートの実施	試験準備（９０分）	定期試験内容を参考として、ヒトが生きていく仕組みについて、参考になる読書をする（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育課程論（1年）	（科目ナンバリング：ESS142152，ESS242098，ESS342094，ESS442096，EDU542103）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者：　西崎　毅　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育課程論に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

教職に必要な知識や技能のうち、教育課程の役割・機能・意義をはじめ教育課程編成の基本原理と方法、カリキュラム・マネジメントの意義・重要性・推進方法に関する知識を身に付ける。教職に必要な思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付ける。

授業の位置づけ

設定なし（２０２４年度）

到達目標

授業のテーマについて考え、根拠を示しながら自分の意見をまとめ、他者と意見交換をしたり発表したりすることができる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。教育に関する内容は複数のテーマにかかわることが多いため、シラバスに示した学修内容を再構成し１５回の授業全体を通して学修を完結する形とする場合がある。このため、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○主体的・対話的で深い学びを行うため、思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。
○講義においては、ＰＣ及びスマートフォンを活用するので、特に指示がある場合を除き毎時間必ず持参すること。持参なき場合は当該時間の履修を認定しない。
○受講に支障が出ることのないよう、事前にＰＣ及びスマートフォンの充電を十分に行うなど、対策を講じること。
○授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」 に格納するので必要に応じてダウンロードすること。
○講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○講義開始時間までに用便を済ませておくこと。
○講義では演習を行うため、座席を指定する。
○教職の講義であるため、「起立」、「礼」の挨拶をする。
○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断し決定する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

○単位認定に必要となる出席回数は１３回。
○成績評価は、定期試験（６０％）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性など（４０％）を参考に総合的に判断して行う。
○各授業回の課題（授業中の課題、事前事後課題）の全提出を単位認定の条件とする。
○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。
○自発的な発表の意欲は別途加点、講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。
○Ｓ評価は全体の10%、Ｓ評価とＡ評価を合わせて40%以内となっています。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで９割以上の得点を上げた。	定期テストで８割以上の得点を上げた。	定期テストで７割以上の得点を上げた。	定期テストで６割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が６割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめているが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断の的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及した。各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、思考テーマの意味のとらえに課題があり、期待される論点に十分には言及できなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字がなく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の９割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少ない。各欄の記述の分量が期待される分量の７割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が散見された。各欄の記述の分量が期待される分量の５割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多くみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の３割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述数Ｒことができた。	他の成員と意見交換しているが特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を理解し、自分の感想等を記述することができたが、自分の意見と異なる他の成員の意見に対しての記述は見られなかった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解に不十分な面があった。自分の感想等を記述してはいるが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に渋々参加していた。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点がずれているなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・１年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育課程論（1年）	（科目ナンバリング：ESS142152，ESS242098，ESS342094，ESS442096，EDU542103）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者：　西崎　毅　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育課程論に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『改訂新版　教職を目指す人のための教育課程論』	古川治ほか	北大路書房	2019	9784762830624	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815580	
2	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815672	
3	『中学校学習指導要領解説　総則編』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815597	
4	『高等学校学習指導要領解説　総則編』	文部科学省	東洋館出版社	2018	9784491036397	
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明を含む） 教育課程の意義について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
2	教育課程編成の思想と構造について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
3	近代・現代日本の教育課程の歩みについて	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
4	教育課程の編成と諸要因及びカリキュラム・マネジメントの意義について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
5	小学校学習指導要領と教育課程編成の実際について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
6	中学校学習指導要領と教育課程編成の実際について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
7	高等学校学習指導要領と教育課程編成の実際について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
8	特別支援学校の学習指導要領と教育課程編成の実際について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
9	学校経営とカリキュラム・マネジメントについて	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
10	各教科、特別の教科「道徳」、特別活動、総合的な学習の時間の関連について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
11	教育課程と評価について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
12	カリキュラム開発と学力向上策について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
13	学習指導要領の改訂の経過と特徴について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
14	国際学力調査と教育課程改革について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
15	諸外国における教育課程改革について 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）
16	70分の試験終了後，残りの20分で解説を行う。	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育課程論（2年）	（科目ナンバリング：ESS142152，ESS242098，ESS342094，ESS442096，EDU542103）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者：　西崎　毅　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育課程論に関連する諸事項を講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボードを参照				

概要

履修目標

教職に必要な知識や技能のうち、教育課程の役割・機能・意義をはじめ教育課程編成の基本原理と方法、カリキュラム・マネジメントの意義・重要性・推進方法に関する知識を身に付ける。教職に必要な思考力・判断力・表現力等の能力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付ける。

授業の位置づけ

経営・経営スポーツマネジメント・デザイン・建築学科のＤＰ２、ＤＰ４に対応する。（２０２３・２０２２年度）
社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

授業のテーマについて考え、根拠を示しながら自分の意見をまとめ、他者と意見交換をしたり発表したりすることができる。

授業全体の内容と概要

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。教育に関する内容は複数のテーマにかかわることが多いため、シラバスに示した学修内容を再構成し１５回の授業全体を通して学修を完結する形とする場合がある。このため、各授業の冒頭において、当該の授業内容とシラバス上の授業テーマとの関連を明示する。「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連科目

授業の方法

各回のテーマに関してプレゼンテーションソフトウェア等を使用して説明を行う。各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して、グループワークを中心として思考・考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。課題については、観点別の評価とコメントによりフィードバックを行う。要望については口頭及びメール等で対応する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、小テスト、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

○主体的・対話的で深い学びを行うため、思考・考察、討論・発表等の活動を行うので、積極的に参加すること。
○講義においては、ＰＣ及びスマートフォンを活用するので、特に指示がある場合を除き毎時間必ず持参すること。持参なき場合は当該時間の履修を認定しない。
○受講に支障が出ることのないよう、事前にＰＣ及びスマートフォンの充電を十分に行うなど、対策を講じること。
○授業資料等は、Microsoft Teams の「投稿欄」の「ファイル」 に格納するので必要に応じてダウンロードすること。
○講義中の私語・居眠りは厳に慎むこと。
○講義中の「退室」は、許可を得ること。
○講義開始時間までに用便を済ませておくこと。
○講義では演習を行うため、座席を指定する。
○教職の講義であるため、「起立」、「礼」の挨拶をする。
○上記以外の授業に関する事項については、担当教員が判断し決定する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

○単位認定に必要となる出席回数は１３回。
○成績評価は、定期試験（６０％）、課題等への対応、講義に臨む姿勢、積極性など（４０％）を参考に総合的に判断して行う。
○各授業回の課題（授業中の課題、事前事後課題）の全提出を単位認定の条件とする。
○受講姿勢及び課題はすべて点数化・集積し、評価に活用する。
○自発的な発表の意欲は別途加点、講義中における私的なサイトの閲覧およびＳＮＳ等の使用、私語、居眠り、出席管理システムの不正利用などの授業妨害行為は別途減点する。
○Ｓ評価は全体の10%、Ｓ評価とＡ評価を合わせて40%以内となっています。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	定期テストで９割以上の得点を上げた。	定期テストで８割以上の得点を上げた。	定期テストで７割以上の得点を上げた。	定期テストで６割以上の得点を上げた。	定期テストの得点が６割未満であった。
思考の深さ	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマについて、既に学修した知識や自らの経験等と関連させながら深く多面的に考え、根拠を明らかにしながら、論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて多面的に考え、根拠を示しながら論理的に自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめているが、根拠の記述や論理性に課題があった。	与えられた思考テーマについて考え、自分の意見をまとめてはいるが、根拠の記述や論理性が著しく欠けており、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
判断の的確性	右の記述を高いレベルで実現した。	与えられた思考テーマの意味を的確にとらえ、期待されるすべての論点に言及した。各論点について論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマの意味をとらえているが、期待されるすべての論点には言及できなかった。言及した論点については論理を明確にしながら自分の意見をまとめることができた。	与えられた思考テーマについて自分の意見をまとめてはいるが、思考テーマの意味のとらえに課題があり、期待される論点に十分には言及できなかった。	与えられた思考テーマについて記述しているが、思考テーマの意味のとらえが不十分であり、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
表現の適切性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員の意見の趣旨を的確にとらえ、簡潔にまとめて記述した。誤字脱字がなく、丁寧に書くことができた。各欄の記述の分量が期待される分量の９割を超えた。	他の成員の意見の趣旨を簡潔にまとめて記述することができた。誤字脱字が少ない。各欄の記述の分量が期待される分量の７割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、その趣旨を十分にまとめ切れなかった。誤字脱字が散見された。各欄の記述の分量が期待される分量の５割程度であった。	他の成員の意見を記述してはいるが、内容が極めて不十分であった。誤字脱字が多くみられた。各欄の記述の分量が期待される分量の３割程度であるなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。
主体性・協働性	右の記述を高いレベルで実現した。	他の成員と積極的に意見交換を行った。他の成員の意見を十分に理解し、自分の感想等を記述することができた。自分の意見と異なる他の成員の意見に対して疑問点や反論等を記述数Ｒことができた。	他の成員と意見交換しているが特段積極性は見られなかった。他の成員の意見を理解し、自分の感想等を記述することができたが、自分の意見と異なる他の成員の意見に対しての記述は見られなかった。	他の成員と意見交換しているが、消極的であった。他の成員の意見の理解に不十分な面があった。自分の感想等を記述してはいるが、表面的なものにとどまった。	他の成員との意見交換に消々参加していた。他の成員の意見の理解が極めて不十分であった。自分の感想等を記述しているが、論点がずれているなど、期待される最低限の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・２年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択（教職課
科目名称	教育課程論（2年）	（科目ナンバリング：ESS142152，ESS242098，ESS342094，ESS442096，EDU542103）			
授業担当者（所属・職名）	西崎　毅（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	2 （単位認定責任者：　西崎　毅　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校や教育行政における勤務経験を活かして教育課程論に関連する諸事項を講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『改訂新版　教職を目指す人のための教育課程論』	古川治ほか	北大路書房	2019	9784762830624	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815580	
2	『高等学校学習指導要領』	文部科学省	東山書房	2018	9784827815672	
3	『中学校学習指導要領解説　総則編』	文部科学省	東山書房	2017	9784827815597	
4	『高等学校学習指導要領解説　総則編』	文部科学省	東洋館出版社	2018	9784491036397	
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバスの説明を含む） 教育課程の意義について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認して学修の心構えを、持つこと。（９０分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
2	教育課程編成の思想と構造について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
3	近代・現代日本の教育課程の歩みについて	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
4	教育課程の編成と諸要因及びカリキュラム・マネジメントの意義について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
5	小学校学習指導要領と教育課程編成の実際について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
6	中学校学習指導要領と教育課程編成の実際について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
7	高等学校学習指導要領と教育課程編成の実際について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
8	特別支援学校の学習指導要領と教育課程編成の実際について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
9	学校経営とカリキュラム・マネジメントについて	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
10	各教科、特別の教科「道徳」、特別活動、総合的な学習の時間の関連について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
11	教育課程と評価について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
12	カリキュラム開発と学力向上策について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
13	学習指導要領の改訂の経過と特徴について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
14	国際学力調査と教育課程改革について	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	本時に課された事後課題を行い、次時に提出すること。（９０分）
15	諸外国における教育課程改革について 授業改善アンケートの実施	前時に課された事前課題を行い提出すること。（90分）	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）
16	70分の試験終了後，残りの20分で解説を行う。	前１５回の学修内容を復習すること。（９０分）	試験を振り返り、自分の学修姿勢を評価すること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	造形表現Ⅱ （科目ナンバリング：CHS122087 ）				
授業担当者（所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 浩而　魅諭 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員実務経験を生かし、乳幼児とその保護者とを対象にした自然体験型教室（兼託児）を立ち上げ運営してきた。その経験を生かし、保育に携わるものが身につけるべき心構えや、乳幼児への感性を高める声かけなどを大前提にし、実践的な授業を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

造形表現Ⅰで習得した技術の向上を目指し、創作的表現活動に取り組む。
身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境構成及び展開のための技術を実践的に習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ（２）、（３）に対応する。（２０２３年度・２０２２年度）

到達目標

「感じる・考える・工夫する」造形活動を支えるための素材を活用した造形表現の知識、技術を習得する。
身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に習得する。

授業全体の内容と概要

「感じる・考える・工夫する」造形活動を支えるための素材を活用した造形表現を学修する。
身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむための保育の環境について実践的に学修する。

授業の方法

授業は講義形式で行うと共に、課題制作など実技形式で行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

指定した用具・用品など、各自が準備した材料・用材を持ってくること。
出席を取り終わった後は欠席とする。
受講人数や実施する季節、天候、受講者の習熟度などによりシラバスの内容の順番を組み替えたり、削ったり、変更したりすることがある。（都度説明しますのでご理解ください）
受講人数を見て、グループでの活動を主体にすることもある。基本的に毎回出席することが大前提となる。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。
毎回出席することは大前提

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	６０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
五感を大切にした造形活動について理解することが出来る。	五感を大切にした造形活動について理解することが十分に出来ていた。	五感を大切にした造形活動について理解することがほぼ十分に出来ていた。	五感を大切にした造形活動について理解することがある程度出来ていた。	五感を大切にした造形活動について理解することが最低限出来ていた。	五感を大切にした造形活動について理解することが出来ていなかった。
色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力をつけることが出来る。	色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力を十分につけることが出来ていた。	色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力をほぼ十分につけることが出来ていた。	色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力をある程度つけることが出来ていた。	色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力を最低限つけることが出来ていた。	色彩学の基本を理解しそれを保育の現場の造形表現に生かしていく力をつけることが出来ていなかった。
保育の造形表現の可能性について考えていく力をつけることが出来る。	保育の造形表現の可能性について考えていく力を十分につけることが出来ていた。	保育の造形表現の可能性について考えていく力をほぼ十分につけることが出来ていた。	保育の造形表現の可能性について考えていく力をある程度つけることが出来ていた。	保育の造形表現の可能性について考えていく力を最低限つけることが出来ていた。	保育の造形表現の可能性について考えていく力をつけることが出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・2年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	造形表現Ⅱ （科目ナンバリング：CHS122087 ）				
授業担当者（所属・職名）	浩而　魅諭（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 浩而　魅諭 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員実務経験を生かし、乳幼児とその保護者とを対象にした自然体験型教室（兼託児）を立ち上げ運営してきた。その経験を生かし、保育に携わるものが身につけるべき心構えや、乳幼児への感性を高める声かけなどを大前提にし、実践的な授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 授業の説明 保育における造形表現とは	予めシラバスを確認しておく。（４５分）	授業の流れを理解し、全１６回の見通しを持つ。（４５分）
2	”保育士”として自己紹介しよう	自分の持ち味は何か、客観的に見つめておく。特技など披露出来るものは小道具を持参するなどしてよい。心に残った絵本などの紹介として現物を持参し	人の心を動かす話し方について感じ取ったことなどをまとめておく。（４５分）
3	保育における造形表現の位置づけ	保育における造形表現の位置づけについて自分なりの考えをまとめておく。（４５分）	保育における造形表現の位置づけについて新たにわかったことや感じたことをまとめておく。（４５分）
4	保育における造形表現において、五感を意識した活動の大切さについて	五感とは何か、どんな造形表現が考えられるか自分なりの考えをまとめておく。（４５分）	保育における造形表現において、五感を意識した活動の大切さについて気づいたことをまとめておく。（４５分）
5	造形表現のための基本技法①	発想力について調べておく（４５分）	活動から、感じ取ったことをまとめておく。（４５分）
6	造形表現のための基本技法②	感覚を伝えるに当たって、感情や情景などを表現する語彙を増やしておく。（４５分）	感覚を色と形を使って人に伝える、言葉も使って、の活動から、保育の実践でどう生かしておけるかイメージトレーニングをしてまとめておく。（４５
7	色彩の基本について	中学校の頃の美術の教科書や資料集を読んで色彩に関する知識をまとめておく。（４５分）	色彩が日常の生活でどのように生かされているのか見つめ直してみる。気づいたことをまとめておく。（４５分）
8	造形表現のための基本技法③	混色の基本について中学校の教科書や資料集で確認しておく。（４５分）	色のイメージを大切にした商品名、他の候補は無いか考えてみる。（４５分）
9	課題制作１	学習を振り返って自分なりの考えをまとめておく。（４５分）	感覚をどう制作に生かすことが出来るか、さらなる可能性を考えてみる。（４５分）
10	課題制作２	思いを色と形によって表現することについて自分なりの考えをまとめておく。（４５分）	思いを色と形によって表現することの具体的な方法を更に探っていき、課題制作に生かせるよう準備をする。（４５分）
11	課題制作３	計画の具体的イメージをかためておく。（４５分）	自分の思い描いた通りに出来たか客観的に作品をみつめる。足りないところは補う（４５分）
12	課題制作４	聴覚について調べておく。造形表現にどう関係しているのか自分なりの考えをまとめておく。（４５分）	聴覚に心地よさを感じ得る造形、その表現からさらに聴覚に新たな気づきをもたらし心を豊かにする可能性について自分なりの考えをまとめてみる。
13	課題制作５	自分のイメージを作り出すことが出来そうな素材を予め集めておく。（４５分）	自分がイメージした世界を表現するための工作の可能性について深く考える。課題制作に生かせる形でまとめてみる。（４５分）
14	課題制作６	思いを表現することが出来る細工はどうすればよいのか、調べてみる。（４５分）	課題作品が完成していなければ、完成させておく。（４５分）
15	合評１ 自己評価	自分の作品についてどう発表するか考えておく。（４５分）	他の学生の作品に触れ、多様な価値観、表現の幅を感じ取る。（４５分）
16	合評２ 他己評価 授業改善アンケートの実施	他者からの意見、感想を参考に、自らの作品についての評価を再検討する。（４５分）	合評を通じて感じたことを、以後の制作に反映させていくことを考える。実際の保育現場でどう生かしていくかを考えてまとめておく。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究Ⅰ （科目ナンバリング：PIP223036 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者：　北嶋　洋一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインに於ける３DCG技術の習得。モデリング、シェーディング、レンダリング、アニメーション、シミュレーションを網羅し、制作のための基礎を身につけるためのアクティブラーニングである。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

ビジュアル制作に於ける表現の幅を広げるための、３DCGアプリケーション（Maya）の基本操作を身に付ける。
「自らが学ぶ力」と「汎用的能力」を養うことで、実践力と社会性の伴った専門性を身に付ける。

授業全体の内容と概要

３DCGの制作工程を理解した後、モデリング～レンダリングの基礎、アニメーションの基礎について、アプリケーション（Maya）の基本操作を含めて系統的に学ぶための教材が配信される。
これを基にして、受講者各自が、「体験」、「調査」、「発見」、「課題解決」などの学習を能動的に行う。

授業の方法

専門講師によるオンデマンドでの講義と実技指導の配信を教材として、受講生各自が主体的に学ぶ。
受講生は指定されたアプリケーション（Maya）を用いることが可能な環境と、オンデマンドの受信が可能な環境の構築を事前に行う。
操作講習から課題制作まで、全てを自学自習の形式で行う内容であり、環境の整備以外は全て教員の手を借りない自己解決を常とする。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

受講者はオンデマンドの受信から課題の制作まで事前事後の学習を含む全授業内容でコンピュータを用いることになるので、自身のコンピュータを持ち込めることが望ましい。
さらに、受講者はコンピュータとアプリケーション関する知識と技術に習熟しており、トラブルには自己対応が可能でなければならない。
３DCGはデザインに於ける表現分野の一つであるが、自らの制作活動に於いてその表現技法を必要とする者のための内容である。
習う授業ではなく自学自習を原則とした授業であり、基本操作から課題制作まで自主的に積極的に取り組む姿勢が重要である。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１3回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「３DCGをデザインの表現分野として正しく認識できている」	３CDGアプリケーション（Maya）の基本操作と、その表現特性を９０%以上理解し、可能性をシミュレーションできた。	３CDGアプリケーション（Maya）の基本操作とその表現特性を８０%以上理解していた。	３CDGアプリケーション（Maya）の基本操作とその表現特性を７０%以上理解していた。	３CDGアプリケーション（Maya）の基本操作とその表現特性を６０%以上理解していた。	３CDGアプリケーション（Maya）の基本操作とその表現特性の理解が６０%未満であった。
思考力・表現力・判断力「デザイン的な志向の基に３DCGを用いた作品制作が行える」	３CDGアプリケーション（Maya）を適切に操作し、その特性を効果的に用いた完成度の高い作品制作が行えた。	３CDGアプリケーション（Maya）を適切に操作し、その特性を用いた完成度の高い作品制作が行えた。	３CDGアプリケーション（Maya）を操作して、その特性を用いた作品制作が行えた。	３CDGアプリケーション（Maya）を操作し、作品制作が行えた。	３CDGアプリケーション（Maya）の操作が不十分であり、作品制作には至らなかった。
主体性・多様性・協調性「３DCGの基本操作から課題制作までの流れを通じて、主体的に学ぶ姿勢が身に着いている」	与えられた教材の習得と課題提出を９０%以上完了している。 授業の内容を十分に理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を８０%以上完了している。 授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて、自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を７０%以上完了している。 授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて、自主的に応用することの大切さを理解していた。	与えられた教材の習得と課題提出を６０%以上完了している。 授業の内容を理解しているが、今後の制作活動に於いて自主的に応用する意思は育っていなかった。	与えられた教材の習得と課題提出が６０%未満である。 授業の内容理解が不十分であり、今後の制作活動に向けて自主的に学び応用しようとする意思を持っていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究Ⅰ （科目ナンバリング：PIP223036 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス～シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 教材と受講環境の確認	シラバスの確認 （９０分）	受講環境整備 （９０分）
2	第1章　３DCGのワークフローと基本操作 ①	第１章の講義内容を確認しておく （９０分）	課題制作の継続 （９０分）
3	第1章　３DCGのワークフローと基本操作 ②	課題制作の継続 （９０分）	課題制作の継続 （９０分）
4	第1章　３DCGのワークフローと基本操作 ③	課題制作の継続 （９０分）	課題制作の継続 （９０分）
5	第1章　３DCGのワークフローと基本操作 ④	課題制作の継続 （９０分）	課題の完成 （９０分）
6	第2章 基本操作とモデリング基礎 ①	第２章の講義内容を確認しておく （９０分）	課題制作の継続 （９０分）
7	第2章 基本操作とモデリング基礎 ②	課題制作の継続 （９０分）	課題制作の継続 （９０分）
8	第2章 基本操作とモデリング基礎 ③	課題制作の継続 （９０分）	課題制作の継続 （９０分）
9	第2章 基本操作とモデリング基礎 ④	課題制作の継続 （９０分）	課題制作の継続 （９０分）
10	第2章 基本操作とモデリング基礎 ⑤	課題制作の継続 （９０分）	課題の完成 （９０分）
11	第3章　シェーディング・UV・基礎 ①	第３章の講義内容を確認しておく （９０分）	課題制作の継続 （９０分）
12	第3章　シェーディング・UV・基礎 ②	課題制作の継続 （９０分）	課題制作の継続 （９０分）
13	第3章　シェーディング・UV・基礎 ③	課題制作の継続 （９０分）	課題制作の継続 （９０分）
14	第3章　シェーディング・UV・基礎 ④	課題制作の継続 （９０分）	課題制作の継続 （９０分）
15	第3章　シェーディング・UV・基礎 ⑤	課題制作の継続 （９０分）	課題の完成 （９０分）
16	各章課題の確認 CG技法研究Ⅱのガイダンス 授業改善アンケートの実施	各章課題の最終確認 （９０分）	CG技法研究Ⅱのシラバス確認 （９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級対策製図Ⅱ　（科目ナンバリング：APT324067　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　向井　正伸　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所にて設計業務に携わった経験を踏まえ、授業を実施する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

今日の生活習慣や価値観の多様化は，建築空間にも急速に進展してきた。そしてそれは建築士試験における出題傾向にも色濃く反映されている。建築士試験の２次試験製図課題の傾向を探り，実践的な設計手法を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（２０２４年度）

到達目標

設計業務に於いて即座に提示される付与条件と課題目標に対応した設計手順を学び，多様な図面表現をすることができる。

授業全体の内容と概要

建築士の想定製図課題を提示し，出題者の意図を探り，計画上の決まりごとや作図上の留意点をエスキス等をもとに理解し，作図する。

授業の方法

授業は授業初めに板書と配布資料、ビデオによる視聴覚資料により解説をおこない、エスキス・作図については基本的に個別にチェックをしてフィードバックする。不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

コンセプトを構築し空間として具現化を図るためには，とりもなおさず人の話を「注意深く」聞き，その内容を理解するという作業から始まる。時間外の指導及び作業を課す。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席し全課題に取り組むこと(ただし最低出席回数１１回以上)と，積極的に課題に取り組むこと。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	１０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
二級建築士製図試験想定問題に対する正確なエスキスと平面プランの構築をする能力を習得することができる。	設計課題をすべて理解した上での不備のないエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をすべて理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をおおむね理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題をある程度理解した上でのエスキスや平面プランを構築できた。	設計課題の内容を理解することができなかった。
設計与条件に対する適切な解答としての表現力を修得することができる。	与条件すべてを満足させる適切な表現ができた。	与条件を満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる適切な表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができた。	与条件をおおむね満足させる表現ができなかった。
限られた時間内に図面を完成することのできる作図スピードを修得することができる。	時間内にすべての図面を書き残すことなく完成することができた。	時間内に書き上げることができた。	時間内におおむね書き上げることができた。	時間内にほぼ書き上げることができた。	時間内に完成することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級対策製図Ⅱ　（科目ナンバリング：APT324067　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　向井　正伸　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	一級建築士として設計事務所にて設計業務に携わった経験を踏まえ、授業を実施する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの確認。　授業の進め方と課題提出までのスケジュール	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
2	平面計画とプランニング	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
3	平面計画とプランニング	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
4	プランニングからエスキスへ	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
5	プランニングからエスキスへ	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
6	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
7	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業終了時に提示の課題を処理する(90分)
8	建築士試験想定製図課題の設計	指定した資料を事前に熟読する(90分)	授業の作図の継続(90分)
9	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
10	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
11	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
12	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
13	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	授業の作図の継続(90分)
14	建築士試験想定製図課題の設計	作図準備をする(90分)	プレゼンテーション準備(90分)
15	建築士試験想定製図課題の設計	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)
16	講評会	プレゼンテーション準備(90分)	感想レポート提出(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	言語表現（1年）　（科目ナンバリング：CHS122088　）				
授業担当者（所属・職名）	太田　俊一（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　太田　俊一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

この科目は、以下の３つを授業の目的とする。
１．子どもの発達と絵本，紙芝居，人形劇，ストーリーテリング等に関する知識と技術を習得する。
２．子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術を習得する。
３．子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
社会福祉学科のDP１、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

子どもの発達と絵本，紙芝居，人形劇，ストーリーテリング等に関する知識と技術，子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術，子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開について理解し、実演する。

授業全体の内容と概要

子どもの発達と絵本，紙芝居，人形劇，ストーリーテリング等に関する知識と技術，子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術，子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開について実践を通して学修する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。
児童文化財（パネルシアター）制作を行い発表してお互いを評価しあう時間も設定する。
課題や作品、レポート及び中間試験レポートはコメントをつけてフィードバックする。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。
児童文化財制作（スケッチブックシアターを予定）のため、各自でクレヨン、マジック、絵具等教材の用意が必要。
遅刻の場合は入室できるが、２０分以上の遅刻は欠席となる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	２０%	２０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
児童文化財に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	児童文化財について基礎的な知識を深く理解できた。	児童文化財について基礎的な知識をおおむね理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を多少理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	子どもの発達と児童文化財の関連について十分に考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連についておおむね考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について多少考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について考察できなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことをわかりやすく説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことをわかおおむね説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを多少説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	言語表現（1年）　（科目ナンバリング：CHS122088　）				
授業担当者（所属・職名）	太田　俊一（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　太田　俊一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育者のための言語表現の技術』	古橋和夫	萌文書林	２０１９	9784893473493	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	指定した教科書を事前に読むこと（４５分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
2	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，パネルシアター１	児童文化財の種類を理解しておく（４５分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
3	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，パネルシアター２	児童文化財の種類を理解しておく（４５分）。	３回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
4	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，パネルシアター３	児童文化財の種類を理解しておく（４５分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
5	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，ストーリーテリング１	素話の意味を理解しておく（４５分）。	５回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
6	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，ストーリーテリング２	素話の実演方法を理解しておく（４５分）。	授業終了時に示す課題を作成する（４５分）。
7	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，ストーリーテリング３	昼間テストに向け発表練習をしておく（４５分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
8	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境１ 中間テスト（制作発表）	昼間テスト（発表）の準備をしておく（４５分）。	８回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
9	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境２　　中間テストの評価解説	望ましい保育環境について事前学習する（４５分）。	９回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
10	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境３	望ましい保育環境について事前学習する（４５分）。	１０回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
11	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開１	児童文化財と遊びの関係を事前学習する（４５分）。	１１回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
12	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開２	児童文化財と遊びの関係を事前学習する（４５分）。	１２回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
13	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開３	児童文化財と遊びの関係を事前学習する（４５分）。	１３回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
14	学生による言語表現の展開１	言語発表の準備、練習をしておく（４５分）。	授業終了時に示す課題を作成する（４５分）。
15	学生による言語表現の展開２・まとめ・レポート提出	授業を通して学んだ事を整理しておく（４５分）。	授業の目的の達成度を自己評価する（４５分）。
16	提出されたレポート、課題の総合評価をフィードバック 授業改善アンケートの実施	１５回の内容を振り返り復習する(４５分)。	試験、課題の解説に基づき復習し整理する(４５分)。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	言語表現（2年）　（科目ナンバリング：CHS122088　）				
授業担当者（所属・職名）	太田　俊一（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　太田　俊一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

この科目は、以下の３つを授業の目的とする。
１．子どもの発達と絵本，紙芝居，人形劇，ストーリーテリング等に関する知識と技術を習得する。
２．子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術を習得する。
３．子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

子どもの発達と絵本，紙芝居，人形劇，ストーリーテリング等に関する知識と技術，子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術，子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開について理解し、実演する。

授業全体の内容と概要

子どもの発達と絵本，紙芝居，人形劇，ストーリーテリング等に関する知識と技術，子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境を構成する知識と技術，子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開について実践を通して学修する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。
児童文化財（パネルシアター）制作を行い発表してお互いを評価しあう時間も設定する。
課題や作品、レポート及び中間試験レポートはコメントをつけてフィードバックする。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。
児童文化財制作（スケッチブックシアターを予定）のため、各自でクレヨン、マジック、絵具等教材の用意が必要。
遅刻の場合は入室できるが、２０分以上の遅刻は欠席となる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	２０%	２０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
児童文化財に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	児童文化財について基礎的な知識を深く理解できた。	児童文化財について基礎的な知識をおおむね理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を多少理解できた。	児童文化財について基礎的な知識を理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	子どもの発達と児童文化財の関連について十分に考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連についておおむね考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について多少考察できた。	子どもの発達と児童文化財の関連について考察できなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことをわかりやすく説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことをわかおおむね説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを多少説明できた。	子どもの表現活動と児童文化財の関わりについて理解したことを説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	言語表現（2年） （科目ナンバリング：CHS122088 ）				
授業担当者（所属・職名）	太田　俊一（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 太田　俊一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育者のための言語表現の技術』	古橋和夫	萌文書林	２０１９	9784893473493	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	指定した教科書を事前に読むこと（４５分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
2	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，パネルシアター１	児童文化財の種類を理解しておく（４５分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
3	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，パネルシアター２	児童文化財の種類を理解しておく（４５分）。	３回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
4	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，パネルシアター３	児童文化財の種類を理解しておく（４５分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
5	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，ストーリーテリング１	素話の意味を理解しておく（４５分）。	５回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
6	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，ストーリーテリング２	素話の実演方法を理解しておく（４５分）。	授業終了時に示す課題を作成する（４５分）。
7	子どもの発達と絵本，紙芝居，劇，ストーリーテリング３	昼間テストに向け発表練習をしておく（４５分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
8	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境１ 中間テスト（制作発表）	昼間テスト（発表）の準備をしておく（４５分）。	８回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
9	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境２　　中間テストの評価解説	望ましい保育環境について事前学習する（４５分）。	９回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
10	子ども自らが児童文化財等に親しむ経験と保育の環境３	望ましい保育環境について事前学習する（４５分）。	１０回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
11	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開１	児童文化財と遊びの関係を事前学習する（４５分）。	１１回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
12	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開２	児童文化財と遊びの関係を事前学習する（４５分）。	１２回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
13	子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開３	児童文化財と遊びの関係を事前学習する（４５分）。	１３回目の授業で理解した点を整理する（４５分）。
14	学生による言語表現の展開１	言語発表の準備、練習をしておく（４５分）。	授業終了時に示す課題を作成する（４５分）。
15	学生による言語表現の展開２・まとめ・レポート提出	授業を通して学んだ事を整理しておく（４５分）。	授業の目的の達成度を自己評価する（４５分）。
16	提出されたレポート、課題の総合評価をフィードバック 授業改善アンケートの実施	１５回の内容を振り返り復習する(４５分)。	試験、課題の解説に基づき復習し整理する(４５分)。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究Ⅱ （科目ナンバリング：PIP223037 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者：　北嶋　洋一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

デザインに於ける３DCG技術の習得。モデリング、シェーディング、レンダリング、アニメーション、シミュレーションを網羅し、制作のための基礎を身につけるためのアクティブラーニングである。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

ビジュアル制作に於ける表現の幅を広げるための、３DCGアプリケーション（Maya）の基本操作を身に付ける。
「自らが学ぶ力」と「汎用的能力」を養うことで、実践力と社会性の伴った専門性を身に付ける。

授業全体の内容と概要

CG技法研究Ⅰで学んだ内容を踏まえた次の段階であり、３DCGのモデリング～レンダリングの基礎、アニメーションの基礎について、アプリケーション（Maya）の基本操作を含めて系統的に学ぶための教材が配信される。
これを基にして、受講者各自が、「体験」、「調査」、「発見」、「課題解決」などの学習を能動的に行う。

授業の方法

専門講師によるオンデマンドでの講義と実技指導の配信を教材として、受講生各自が主体的に学ぶ。
受講生は指定されたアプリケーション（Maya）を用いることが可能な環境と、オンデマンドの受信が可能な環境の構築を事前に行う。
操作講習から課題制作まで、全てを自学自習の形式で行う内容であり、環境の整備以外は全て教員の手を借りない自己解決を常とする。
不測時の授業や補講等ではオンラインにて実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

CG技法研究Ⅰからの連続した内容であり、CG技法研究Ⅰを履修した者であることが前提となる。
そして、自らの制作活動に於いて３ＤＣＧの表現技法を必要とする者のための内容である。
習う授業ではなく自学自習を原則とした授業であり、基本操作から課題制作まで自主的に積極的に取り組む姿勢が重要である。
受講者は、オンデマンドの受信から課題の制作まで、事前事後の学習を含む全授業内容でコンピュータを用いることになるので、自身のコンピュータを持ち込めることが望ましい。
さらに、受講者はコンピュータに関する知識と技術に習熟しており、トラブルには自己対応が可能でなければならない。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。
板書の量および方法等について配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	８０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能　「３DCGをデザインの表現分野として正しく認識できている」	３CDGアプリケーション（Maya）の基本操作と、その表現特性を９０%以上理解し、可能性をシミュレーションできた。	３CDGアプリケーション（Maya）の基本操作とその表現特性を８０%以上理解していた。	３CDGアプリケーション（Maya）の基本操作とその表現特性を７０%以上理解していた。	３CDGアプリケーション（Maya）の基本操作とその表現特性を６０%以上理解していた。	３CDGアプリケーション（Maya）の基本操作とその表現特性の理解が６０%未満であった。
思考力・表現力・判断力「デザイン的な志向の基に３DCGを用いた作品制作が行える」	３CDGアプリケーション（Maya）を適切に操作し、その特性を効果的に用いた完成度の高い作品制作が行えた。	３CDGアプリケーション（Maya）を適切に操作し、その特性を用いた完成度の高い作品制作が行えた。	３CDGアプリケーション（Maya）を操作して、その特性を用いた作品制作が行えた。	３CDGアプリケーション（Maya）を操作し、作品制作が行えた。	３CDGアプリケーション（Maya）の操作が不十分であり、作品制作には至らなかった。
主体性・多様性・協調性「３DCGの基本操作から課題制作までの流れを通じて、主体的に学ぶ姿勢が身に着いている」	与えられた教材の習得と課題提出を９０%以上完了している。 授業の内容を十分に理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を８０%以上完了している。 授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて、自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を７０%以上完了している。 授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて、自主的に応用することの大切さを理解していた。	与えられた教材の習得と課題提出を６０%以上完了している。 授業の内容を理解しているが、今後の制作活動に於いて自主的に応用する意思は育っていなかった。	与えられた教材の習得と課題提出が６０%未満である。 授業の内容理解が不十分であり、今後の制作活動に向けて自主的に学び応用しようとする意思を持っていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究Ⅱ （科目ナンバリング：PIP223037 ）				
授業担当者（所属・職名）	北嶋　洋一（デザイン学科・教授）		研究室等所在	２号館５階	
単位数	2 （単位認定責任者： 北嶋　洋一 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス～シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 受講環境の再確認と教材の確認	第１・２・３章の講義内容を復習しておく（９０分）	教材と環境の再確認（９０分）
2	第４章　レンダリング基礎 ①	第４章の講義内容を確認しておく（９０分）	課題制作の継続（９０分）
3	第４章　レンダリング基礎 ②	課題制作の継続（９０分）	課題制作の継続（９０分）
4	第４章　レンダリング基礎 ③	課題制作の継続（９０分）	課題制作の継続（９０分）
5	第４章　レンダリング基礎 ④	課題制作の継続（９０分）	課題制作の継続（９０分）
6	第４章　レンダリング基礎 ⑤	課題制作の継続（９０分）	課題の完成（９０分）
7	第５章　アニメーション基礎 ①	第５章の講義内容を確認しておく（９０分）	課題制作の継続（９０分）
8	第５章　アニメーション基礎 ②	課題確認と制作（９０分）	課題確認と制作（９０分）
9	第５章　アニメーション基礎 ③	課題制作の継続（９０分）	課題制作の継続（９０分）
10	第５章　アニメーション基礎 ④	課題制作の継続（９０分）	課題制作の継続（９０分）
11	第５章　アニメーション基礎 ⑤	課題制作の継続（９０分）	課題の完成（９０分）
12	第６章　シミュレーション基礎 ①	第６章の講義内容を確認しておく（９０分）	課題制作の継続（９０分）
13	第６章　シミュレーション基礎 ②	課題制作の継続（９０分）	課題制作の継続（９０分）
14	第６章　シミュレーション基礎 ③	課題制作の継続（９０分）	課題制作の継続（９０分）
15	第６章　シミュレーション基礎 ④	課題制作の継続（９０分）	課題の完成（９０分）
16	各章課題の確認～講評 授業改善アンケートの実施	各章課題の最終確認（９０分）	第１～6章の全内容を復習する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健Ⅰ （科目ナンバリング：PSS522066 ）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2 （単位認定責任者： 畠山　明子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

現代の精神保健分野の動向と課題、精神保健の基本的考え方、現代社会における精神保健の諸課題の実際に関わる教育の専門職に必要な知識を習得する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ２に対応する。（２０２３年度）

到達目標

①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。
②精神保健の基本的考え方を理解する。
③現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。

授業全体の内容と概要

①ライフサイクルや生活習慣をはじめとする精神保健の基本的な考え方と、それに関連する人間の心理行動面の特徴と現在の動向について学ぶ。
②現在注目されている精神保健の問題と解決策について学ぶ。
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布される資料に板書事項を記述すること。
②毎回の振り返り（小テスト・感想・質問）等をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
③第１０回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する（出題形式・試験時間等は授業内で説明）。
④授業資料の配信や感想等の提出にMicrosoft Teamsを活用する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
③ニュース等で報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。
④新聞記事等を題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに１０回以上あることを評価の前提条件とし、第１０回目に実施する中間テスト（３０点）、第１６回目に実施する定期試験（７０点）の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	３０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代の精神保健分野の動向と課題についておおむね説明できた。	現代の精神保健分野の動向と課題に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②精神保健の基本的考え方を理解する。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神保健の基本的考え方についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健の基本的考え方についておおむね説明できた。	精神保健の基本的考え方に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③現代社会における精神保健の諸課題の実際を理解する。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより現代社会における精神保健の諸課題の実際についておおむね説明できた。	現代社会における精神保健の諸課題の実際に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健Ⅰ （科目ナンバリング：PSS522066 ）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 畠山　明子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座２　現代の精神保健の課題と支援』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	4805882530	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神保健の概要	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
2	現代の精神保健の動向と基本的考え方①（精神保健の動向、精神保健活動の三つの対象）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
3	現代の精神保健の動向と基本的考え方②（精神の健康に関する心的態度、生活と嗜好）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
4	家族に関連する精神保健の課題と支援①（家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
5	家族に関連する精神保健の課題と支援②（介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
6	家族に関連する精神保健の課題と支援③（家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
7	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ①（学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
8	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ②（関与する専門職と関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
9	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ③（スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社会資源）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）
11	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ①（現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
12	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ②（職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
13	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ①（災害被害者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
14	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ②（精神保健の身体疾患に伴う精神保健、貧困問題と精神保健、社会的孤立）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
15	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ③（性的マイノリティと精神保健、多文化に接することで生じる精神保健上の課題、反復違法行為と	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由教育Ⅱ （科目ナンバリング：SNE123110 ）				
授業担当者（所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 千葉　聡美 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（肢体不自由教育及び重複障害教育）について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

共生社会の創造のための教養として肢体不自由者及び重複障害者の教育を効果的に行うために必要な基本的な知識と障害の状況等に応じた指導の在り方等の実践的な知識を取得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ（２）（４）（５）に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

肢体不自由教育を効果的に行うために必要な指導内容・方法等についての実践的な知識を具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

特別支援教育の対象となる肢体不自由教育及び重複障害のある子供の教育の現状を押さえ，児童生徒の実態に応じた教育課程や指導内容・方法について事例研究や映像教材等も活用しながら構成する。
「SDG４．質の高い教育をみんなに」の関連授業

授業の方法

授業は、パワーポイント及び配付資料で教科書の内容を確認するとともに、その回の内容に応じた思考・考察、意見交換、討議等の活動を行う。また、教育の実際場面の動画を視聴しレポートにまとめたり、指導事例に基づいて指導案を作成し模擬授業を行う等で、総合的に教育の方法を取得させる。レポーや模擬授業についてはコメントによりフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

肢体不自由者の障害特性に応じた指導を効果的に行うために必要な知識を積極的に学ぶ姿勢で臨むこと。
また，重複障害児指導事例集等の事例に基づく指導案の作成と模擬授業の実施及びレポート提出を求めるので，授業を欠席することのないよう留意すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	４０%	０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育の理解	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとすることができた。	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、必要な知識・技能を理解することができた。	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、一定程度の理解ができた。	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、一部理解することができた。	肢体不自由及び重複障害のある子どもの教育について、理解できなかった。
肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法における思考・判断・表現	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を深く思考し、模擬授業を通して自ら工夫して表現することができた。	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して自ら表現することができた。	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して表現することができた。	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して一部表現することができた。	肢体不自由を主とする重複障害のある子どもの実態に応じた指導内容・方法を思考し、模擬授業を通して表現するための必要な取り組みができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業にいくらかの関心をもつことができた。	授業へ積極的に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由教育Ⅱ　（科目ナンバリング：SNE123110　）				
授業担当者（所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　千葉　聡美　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（肢体不自由教育及び重複障害教育）について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本　２０２０』	国立特別支援教育総合研究所	ジアーズ教育新社	2020年	978-4-86371-548-6	
2	『特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領』	文部科学省	海文堂出版	平成29年	978-4-303-12424-3	
3	『特別支援学校学習指導要領解説総則編』	文部科学省	開隆堂出版	平成30年	978-4-304-04229-4	
4	『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編』	文部科学省	開隆堂出版	平成30年	978-4-304-04231-7	
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明及び肢体不自由者・重複障害者の教育の概要 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを確認しておくこと　（９０分）	配付資料に基づいて、年間の授業内容の見通しを立てる（９０分）
2	重複障害児の教育の意義	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
3	肢体不自由者のコミュニケーション支援（ １ ） ことばの獲得のプロセスと支援	教科書の「各教科等の指導の工夫」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
4	肢体不自由者のコミュニケーション支援（ ２ ） コミュニケーション手段と支援	教科書の「各教科等 の指導の工夫」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
5	重複障害児の教育の内容と方法	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
6	重複障害のある幼児児童生徒の指導事例（１） 「観察する」ことを中心に	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
7	重複障害のある幼児児童生徒の指導事例（２） 「知的障害」と「視覚障害」との重複	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
8	重複障害のある幼児児童生徒の授業づくり 「指導案の書き方」	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき指導案作成に着手（９０分）
9	重複障害のある幼児児童生徒の授業づくり 「指導案の作成」（１）	教科書の「重複障害」を事前に読んでおくこと（９０分）	助言を受けて指導案を修正する（９０分）
10	重複障害のある幼児児童生徒の授業づくり 「指導案の作成」（２）	配布した資料を事前に読んでおくこと（９０分）	助言を受けて指導案を修正する（９０分）
11	重複障害のある幼児児童生徒の授業づくり 「教材教具の作成」	配布した資料に基づき指導案について事前に調べておくこと（９０分）	助言を受けて指導案を修正する（９０分）
12	重複障害のある幼児児童生徒の授業づくり 「モデル授業」	配布された指導案を事前に読んでおくこと　（９０分）	示範授業を見て自分の指導案修正する（９０ 分）
13	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫（１） 模擬授業	配布された指導案を事前に読んでおくこと　（９０分）	指導案を修正する　（９０ 分）
14	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫（２） 模擬授業	配布された指導案を事前に読んでおくこと　（９０分）	指導案を修正する　（９０ 分）
15	肢体不自由教育の指導案に基づく指導の工夫（３） 模擬授業 授業改善アンケートの実施	配布された指導案を事前に読んでおくこと　（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
16	肢体不自由教育の指導案作成のポイントと評価の方法・まとめ	指導案や模擬授業の振り返り(９０分)	検討の結果を見直す(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	工業科教育法Ⅱ （科目ナンバリング：ESS343096 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が高等学校工業科教員としての必要な資質を身につける。

授業の位置づけ

建築学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

工業教育の意義と役割を考え，基礎的知識及び技術，指導内容及び指導方法を理解することができる。

授業全体の内容と概要

工業教育の基礎的知識及び技術、指導内容・指導方法を理解し学ぶ。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業は、板書で実施し、板書にて説明しながら、演習を行う。課題提出後、解説も行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

積極的に教育に関心をもつこと。
授業時間の半分以上の遅刻は欠席とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（工業）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

１1回以上の出席、レポート課題の提出と平常点の結果を総合して判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	７０%	０%	０%	２０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
工業教育の意義と役割の理解	講義の内容から工業教育の意義と役割について完璧に理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割について理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割についてほぼ理解した。	講義の内容から工業教育の意義と役割について大体理解した。	工業教育の意義と役割について理解しなかった。
工業教育の基礎的知識及び技術の理解	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について完璧に理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術についてほぼ理解した。	講義の内容から工業教育の基礎的知識及び技術について大体理解した。	工業教育の基礎的知識及び技術について理解しなかった。
指導内容及び指導方法の理解	講義の内容から指導内容及び指導方法について完璧に理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法について理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法についてほぼ理解した。	講義の内容から指導内容及び指導方法について大体理解した。	指導内容及び指導方法について理解しなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	工業科教育法Ⅱ （科目ナンバリング：ESS343096 ）				
授業担当者（所属・職名）	横山　哲也（建築学科・准教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 横山　哲也 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『高等学校学習指導要領』	文部科学省				
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜指示』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、カリキュラムとその在り方及び授業改善アンケート結果反映の説明	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
2	カリキュラムの要素と構成	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
3	工業教育のカリキュラムの編成１	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
4	工業教育のカリキュラムの編成２	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
5	工業教育のカリキュラムの変遷	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
6	模擬授業１	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
7	模擬授業２	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
8	工業高校のカリキュラム	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
9	カリキュラムへの作業分析方法の導入１	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
10	カリキュラムへの作業分析方法の導入２	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
11	学習指導と工業教育１	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
12	学習指導と工業教育２	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
13	評価	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
14	模擬授業３	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
15	模擬授業４	学習内容の箇所を事前に予習しておくこと（90分）	今日の授業の再確認（90分）
16	授業改善アンケートの実施及び総解説しフィードバックします	総復習(90分)	総理解(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育Ⅰ　（科目ナンバリング：SNE122107　）				
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　藤根　収　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

特別な支援を必要とする知的障害児の教育課程及び指導・支援の方法を理解し、知的障害児の教育を効果的に行うために必要な基本的知識と障害の状況等に応じた指導のあり方等の実践的な知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

特別支援学校学習指導要領等を基準として，知的障害のある児童生徒の障害の状態や特性及び発達段階等を踏まえた教育課程の編成や個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と活用方法を理解する。また、知的障害教育を効果的に行うために必要な指導内容・方法等についての基礎的な知識を理解する。

授業全体の内容と概要

毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。知的障害教育の歴史的変遷と現状を知り、児童生徒の実態把握の方法、教育課程や指導内容・方法、評価等を具体的な事例や映像等の視聴覚教材を活用し、総合的に構成する。「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、テーマに関する説明をした後、グループワーク等で、テーマに関する事項に関して、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして理解を深める。また、実践事例のVTR教材視聴の事例に基づくレポート提出を行う。なお、レポート等にはコメントにてフィードバックする。
ＩＣＴ活用に関連して、授業についての質問などはチャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とし、遅刻３回で欠席１回とみなす。
不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援学校教諭）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	２０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知的障害教育の知識・技能の習得	知識・技能の基礎的内容について高い関心をもって理解し、さらに深めてようとすることができた。	知識・技能の基礎的内容について、関心をもって理解し、学修することができた。	知識・技能の基礎的内容を学修することができた。	知識・技能の基礎的内容について一定程度理解することができた。	知識・技能の基礎的内容についての理解ができなかった。
知的障害教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、一部、思考・判断し、個人やグループで表現しようとした。	テーマの受け止めが不十分で、思考・判断・表現が十分にできなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育Ⅰ　（科目ナンバリング：SNE122107　）				
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　藤根　収　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、今日的な教育課題について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本　２０２０』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）』	文部科学省	海文堂出版	2018	978-4-303-12424-3	
2	『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）』	文部科学省	開隆堂出版	2018	978-4-304-04230-0	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、知的障害教育の概要	教科書から「知的障害教育」についての課題を整理する。（９０分）	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。（９０分）
2	知的障害児教育の歴史① ～戦前の教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
3	知的障害児教育の歴史② ～戦後の教育	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
4	知的障害の理解と教育の制度について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
5	学習指導要領と教育課程編成の基本的な考え方について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
6	実態把握の方法と個別の指導計画について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
7	個別の指導計画と授業づくりについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
8	知的障害のある子どもの日常生活の指導と遊びの指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
9	知的障害のある子どもの作業学習の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
10	知的障害のある子どもの生活単元学習の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
11	知的障害のある子どもの教科別の指導などについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する(９０分)
12	知的障害のある子どもの自立活動の指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
13	知的障害のある子どもの個別の教育支援計画等について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
14	知的障害のある子どもの交流及び共同学習について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
15	知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメント、学習評価の方法について 授業改善アンケートの実施	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な語句や内容を整理するとともにレポートを作成する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説する。）	教科書等で講義内容を整理する。（９０分）	試験の結果を見直す。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーションⅣ （科目ナンバリング：AEA223043 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）		研究室等所在	２号館７階・１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　正人 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

大型オリジナルイラストのためのイラストの多様性，表現方法を学び，完成度の高い作品造りを目指す。イラスト，デザイン，アートのみならず様々なものから積極的な探求心，研究心を養う。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP３、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP３、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

完成度の高いオリジナル作品の完成を目指し，独自のイラスト表現を確立。各自に合うコンペなどへの応募も検討する。

授業全体の内容と概要

個々のイラスト表現を模索して，オリジナルの方向性を確立。作品制作の中で画材表現，イラスト表現を身につける。ビジュアル本制作に於いて各自のイラストの方向性の研究。

授業の方法

イラストレーターの仕事について，イラスト表現の多様性等について講義を行った後，各自の過去のイラスト作品の研究を行う。その後で，実技にて作品制作を行っていく。また各自作品ビジュアル本を制作する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

遅刻３回で欠席１回とみなす。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は２０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対しての制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題へ取り組みながらも、制作意欲が乏しかった。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現における表現・描法への知識および理解。	授業内容に積極的に真剣に取り組み、知識の習得と理解度を深めていた。	授業内容に真剣に取り組み、授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組み概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解していなかった。
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形にしていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けた。
イラストの多様性・実践的制作への理解。	授業内容を深く理解して実践的応用や表現の多様性にも優れ、完成度にも著しく優れていた。	授業内容を充分理解して実践的制作、多様性を習得して表現していた。	授業内容を概ね理解して真面目に多様性・実践的制作をしていた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず制作意欲に欠けた。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーションⅣ （科目ナンバリング：AEA223043 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　正人（デザイン学科・客員教授）		研究室等所在	２号館７階・１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 佐藤　正人 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。授業改善アンケート結果反映の説明。 オリエンテーション（イラストレーターの仕事につ	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
2	制作への心構え，制作意識について，イラスト表現の多様性についてなど講義）	シラバスを読んでおくこと。（４５分）	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
3	各自過去のイラスト作品を持参して，各自のオリジナリティを探求。テーマ性，イラスト表現の研究。	持参する各自の過去のイラスト作品を用意しておくこと。（４５分）	作への取り組みを進めること。（４５分）
4	各自過去のイラスト作品を持参して，各自のオリジナリティを探求。テーマ性，イラスト表現の研究。	持参する各自の過去のイラスト作品を用意しておくこと。（４５分）	各自のイラスト表現の方向性を固めて制作への取り組みを進めること。（４５分）
5	オリジナルイラストのコンセプト確定（テーマ性，媒体など）。画材。タッチ表現の決定。	イラストの構想，テーマ，コンセプトなどを練っておくこと。（４５分）	作品制作に向けて具体的な作品イメージを固めておくこと。（４５分）
6	オリジナルイラストのコンセプト確定（テーマ性，媒体など）。画材。タッチ表現の決定。	イラストの構想，テーマ，コンセプトなどを練っておくこと。（４５分）	作品制作に向けて具体的な作品イメージを固めておくこと。（４５分）
7	大型作品への取り組みについて。水張り作業，下地作業。ラフ制作。	制作作業の道具準備を行っておくこと。（４５分）	アイデア出し，ラフ作業制作に向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）
8	大型作品への取り組みについて。水張り作業，下地作業。ラフ制作。	制作作業の道具準備を行っておくこと。（４５分）	アイデア出し，ラフ作業制作に向けて取り組みを進めておくこと。（４５分）
9	着色作業１。下地作業終了後にトレース作業。	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
10	着色作業１。下地作業終了後にトレース作業。	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
11	着色作業２	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
12	着色作業２	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
13	着色作業３	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
14	着色作業３	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
15	着色作業４	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
16	着色作業４	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	着色作業５	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
18	着色作業５	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
19	着色作業６	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
20	着色作業６	制作作業の準備を行っておくこと。（４５分）	作品制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
21	プレゼンテーション，作品講評，コンセプトシート＆作品提出。	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
22	プレゼンテーション，作品講評，コンセプトシート＆作品提出。	作品提出へ向けて取り組みを進めること。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
23	イラストレーションを使ったビジュアル本の制作（絵本的表現の習得）。	制作へ向けて課題説明書を読み作品の構想を練っておくこと。（４５分）	作品資料をまとめて完成品のイメージを固めておくこと。
24	イラストレーションを使ったビジュアル本の制作（絵本的表現の習得）。	制作へ向けて課題説明書を読み作品の構想を練っておくこと。（４５分）	作品資料をまとめて完成品のイメージを固めておくこと。（４５分）
25	ビジュアル本制作ー１。絵コンテ，ページの構成。	制作作業に必要な作品準備を行っておくこと。（４５分）	作品資料をまとめて作品プリントの準備を進めておくこと。（４５分）
26	ビジュアル本制作ー１。絵コンテ，ページの構成。	制作作業に必要な作品準備を行っておくこと。（４５分）	作品資料をまとめて作品プリントの準備を進めておくこと。（４５分）
27	ビジュアル本制作ー２。製本作業１	製本作業に必要な作品，道具の準備を行っておくこと。（４５分）	製本制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
28	ビジュアル本制作ー２。製本作業１	製本作業に必要な作品，道具の準備を行っておくこと。（４５分）	製本制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
29	ビジュアル本制作ー３。製本作業２	製本作業に必要な作品，道具の準備を行っておくこと。（４５分）	製本制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
30	ビジュアル本制作ー３。製本作業２	製本作業に必要な作品，道具の準備を行っておくこと。（４５分）	製本制作へ向けて取り組みを進めること。（４５分）
31	ビジュアル本制作ー４，製本完成。プレゼンテーション，作品講評，コンセプトシート＆作品提出。	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）
32	ビジュアル本制作ー４，製本完成。プレゼンテーション，作品講評，コンセプトシート＆作品提出。授業	作品完成，プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。（４５分）	講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。（４５分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習III （科目ナンバリング：SEM324070 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士，その中でも大学卒業後すぐに受験可能な２級建築士試験の学科III「建築構造」にターゲットを絞り，その傾向と対策を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り，試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

２級建築士学科試験学科IIIに出題される過去問題の回答・解説について網羅する。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

テキストや配布資料をもとに，視聴覚資料も交えて講義を行う。また講義後には毎回確認実施テストを行う。不測の事態の際にオンライン及びオンデマンドにて授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

資格試験対策は，通常授業とはそのアプローチも異なり，そして学習方法もちがう。しかし３年生までの専門科目の集大成と総まとめとして，そして建築士は建築学科出身の学生には避けては通れないものなので，覚悟を以って取り組んで欲しい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	６０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を解くことができた。	構造力学の用語の定義と構造力学の解法の理解に関する問題を解くことができなかった。
各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法の性状理解	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を正確に解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題をほぼ正確に解くできた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を解くことができた。	各種構造、工法の用語の定義と各種構造、工法に関する問題を解くことができなかった。
各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を解くことができた。	各種建築材料の用語の定義と各種建築材料の性質理解に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習III （科目ナンバリング：SEM324070 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1 （単位認定責任者： 向井　正伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。静定構造物・反力・応力 授業改善アンケート結果反映の説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	静定ラーメン・静定トラス	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	断面の性質	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	応力度と許容応力度	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	座屈・変形	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	地震力	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	風圧力	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	荷重・外力融合	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	地盤・基礎構造	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	木構造―耐力壁・接合法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	ＲＣ造―構造設計・各部の設計	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	S造―構造設計・接合部	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	その他構造―壁式鉄筋コンクリート構造・補強コンクリートブロック造・組積造	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築材料―木材・セメント・骨材・コンクリート	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	建築材料―金属・ガラス・材料融合 授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑVI （科目ナンバリング：IRE323077 ）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 小笠原　健 ）		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間企業に従事		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

建設業界の各企業の実務担当者を招き、直接、業務内容等の建設業界の現状を理解することで、在学中の学習意欲の向上と就職意識の醸成を目的とする。

授業の位置づけ

建築学科のＤＰ２に対応する。（2024年度）
建築学科のＤＰ２に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のＤＰ２に対応する。（2021年度）

到達目標

建設業界は非常に幅広い業界であり、各分野ごとの建設業としての業務や立場を理解でき、就職活動に活かすことができる。

授業全体の内容と概要

建設業界の設計事務所・建設会社業者・設備業者・ハウスメーカー・デベロッパーなどの様々な業種に勤務する実務担当者から、実際の業務について経験をまじえて実体験の講演を実施。
また、講義後には、感想文などのアンケートを実施し、その内容による成績評価を行う。

授業の方法

各企業担当者を外部講師として招き、それぞれの業界について講義を実施する。
不測時における授業等は、オンラインで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義後、振返りアンケートを実施するが、期限までに未提出の場合は、欠席扱いとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	１００%	０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
建設業界について、必要な知識を修得できる。	建設業界について必要な知識を修得できていた。	建設業界についてに必要な知識をおおむね修得できていた。	建設業界について必要な知識を最低限修得できていた。	建設業界について必要な知識を知ることができた。	建設業界についての知識を知る意志がなかった。
建設業界における各業種について、必要な知識を修得できる。	建設業界における各業種について必要な知識を修得できていた。	建設業界における各業種について必要な知識をおおむね修得できていた。	建設業界における各業種について必要な知識を最低限修得できていた。	建設業界における各業種について必要な知識を知ることができた。	建設業界における各業種について必要な知識を知る意とがなかった。
建設業界への就職活動について、必要な知識を修得できる。	建設業界への就職活動について必要な知識を修得できていた。	建設業界への就職活動について必要な知識をおおむね修得できていた。	建設業界への就職活動について必要な知識を最低限修得できていた。	建設業界への就職活動について必要な知識を知ることができた。	建設業界への就職活動について必要な知識を知る意志がなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	建築学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑVI （科目ナンバリング：IRE323077 ）				
授業担当者（所属・職名）	小笠原　健（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館６階	
単位数	1 （単位認定責任者： 小笠原　健 ）		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	民間企業に従事		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。 授業の進め方について説明。 企業１（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
2	企業２（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
3	企業３（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
4	企業４（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
5	企業５（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
6	企業６（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
7	企業７（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
8	企業８（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
9	企業９（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
10	企業１０（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
11	企業１１（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
12	企業１２（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
13	企業１３（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
14	企業１４（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
15	企業１５（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）
16	企業１６（外部講師による建設業界についての講義）	シラバス資料を確認して、授業内容を予習する（45分）	授業内容を整理して、復習する（45分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・１		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	体つくり運動 （科目ナンバリング：HSS522069 ）				
授業担当者（所属・職名）	是枝　亮（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 是枝　亮 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

自己の体に関心を持ち、体力づくりにはどのような運動が効果的であるかを理解し、指導実践できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

学校教育において「体つくり運動」が導入された経緯と必要性、その目的・教育の方法を理解する。

授業全体の内容と概要

自己の体を動かしながら、身体について考え、その働きを学習する。また、仲間と交流したりするための手軽な運動や規律的な運動を学習する。

授業の方法

授業は実技を中心に行い、学習内容の課題をグループごとに実施・発表する。
中間課題評価は、体力つくりの基礎技術を見る。
なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

運動のできる服装（上履き必須）。ピアス・ネックレス等は身に付けないこと。携帯電話は持ち込まないこと。
上記のことについて厳守。守れない学生は授業に参加できない。又、授業中の私語、迷惑行為、授業中断等の態度・行為「例えば、授業中に寝る・授業に関係のない行為、協調生に欠ける・授業に集中できない」このような学生は場合によっては退席させ、その時間の授業は欠席とみなします。トイレは授業前に済ませること。やむをえず退席を希望の場合は許可を得ること。許可なく授業途中の退席は欠席とみなす。点呼時に着席していない場合は遅刻とみなす。遅刻２回で一回の欠席とみなす。１０分以上の遅刻は欠席とみなす」但し、バスや列車が原因で遅れる場合は遅延証明書を提出すること。中間課題評価は必ず受講すること。受講できない学生は、評価の対象となりません。課題提出を課された場合は期日厳守。病欠等の場合、診断書等を提出すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	２０％	３０％	４０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
体つくり運動についての理解・認識	体つくり運動の目的や必要性を十分に理解し、授業で登場した運動や指導について具体的に結び付けることができ、また自ら運動や指導法を見出すことができた。	体つくり運動の目的や必要性を理解し、授業で登場した運動や指導について具体的に結び付けることができた。	体つくり運動の目的や必要性を理解し、授業で行った運動と結び付けることができた。	体つくり運動の目的や必要性は理解することができた。	体つくり運動の目的や必要性を理解することができなかった。
自分や他者の体への意識と運動の実施	自分や他者の体に意識を向けることができ、運動の効果を考え、効果的に運動や指導を実践することができた。	自分や他者の体に意識を向けることができ、運動の効果を考え、指示された運動の効果を考えながら運動を試みていた。	自分や他者の体に意識を向けることができ、指示された運動の効果を考える努力が窺えた。	指示された運動をとりあえず実施していた。	自分や他者の体に意識を向けることはなく、運動の実施もできなかった。
授業に対する主体的な実践への取り組み	自分のみならず周囲の学生も巻き込みながら授業に取り組み、余った時間をさらなる研究・理解に振り分け、実践力のある指導者としての自覚が出来上がりつつあった。	授業中の質問が多く、与えられた問題解決への相談も常にみられ、実践力を身に付けるための努力が窺えた。	不明点を質問するなど前向きな姿勢が窺えた。	不明点を質問したりすることは少ないなど、積極性に乏しく受動的であった。	自分から進んで授業に参加する姿勢が見られなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・１		
開講時期	２Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	体つくり運動 （科目ナンバリング：HSS522069 ）				
授業担当者（所属・職名）	是枝　亮（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 是枝　亮 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領解説　保健体育編』	文部科学省	東山書房	２０１７		
2	『高等学校学習指導要領解説　保健体育編　体育編』	文部科学省	東山書房	２０１８		
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『体つくり運動-授業の考え方と進め方-改訂版』		東洋館出版社	２０１３		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ・体つくり運動とは何か	シラバスを読んでおくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
2	体ほぐしの運動① ・基礎運動① 「柔軟体操、ストレッチング」	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
3	体ほぐしの運動② ・基礎運動② 「ペアグループでの柔軟体操、ストレッチン	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
4	体ほぐしの運動③ ・一人での発育発達の観点を取り入れた各運動（歩、走、跳）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
5	体ほぐしの運動④ ・複数での発育発達の観点を取り入れた各運動（歩、走、跳）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
6	体ほぐしの運動⑤ ・器具を使用した各運動（ボール、フープ、ナワ、棒、シャトル等）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
7	体力を高める運動① ・柔軟性向上の運動（ストレッチングの基本）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
8	体力を高める運動② ・筋力向上の運動（自体重負荷）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
9	体力を高める運動③ ・巧みさ向上の運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
10	体力を高める運動④ ・持久力向上の運動	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
11	体力を高める運動⑤ ・パワー向上の運動（ウェイトトレーニングの基本）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
12	体力を高める運動⑥ ・総合的体力向上の運動（レペテーション、サーキット）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
13	体力を高める運動⑦ ・有酸素運動（エアロビック）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
14	模擬授業①（指導者として）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	学習内容についてふりかえり、まとめておくこと（４５分）
15	模擬授業②（指導者として）	学習内容に関連する事柄について調べておくこと（４５分）	講義全体をふりかえり、まとめておくこと（４５分）
16	課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項を整理しておくこと（９０分）	解説・フィードバックを受けて学習内容の理解を深めること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	美術科教育法Ⅱ　（科目ナンバリング：ESS243094　）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2　（単位認定責任者：　竹内　美帆　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状（美術）と高等学校教諭専修免許（美術）を有し、公立小学校で教員経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

美術科教育の目標、内容及び指導の方法について、学習指導要領を基に基礎的な理解を深め、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP2、DP3、に対応する。（2022・2023年度）

到達目標

・学習指導要領を理解し、美術科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解できる。
・中等・高等教育段階における美術教育の意義を踏まえ、学習指導案を作成し、実際に授業を行うことができる。

授業全体の内容と概要

中学校を中心に美術科の学習指導要領を基に基礎的な内容を理解する。いくつかの教材研究を通して、中等・高等教育における美術科の意味を考え、表現に関する指導計画の作成および学習の方法などを学び、美術科の学習指導に必要な基礎的な知識や技能を身につけていく。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。

授業の方法

授業ではパワーポイントや配布資料のほか、DVDなどの視聴覚メディアなどを用い、講義形式だけでなく、グループワークやディスカッション、プレゼンテーション、模擬授業などを行う。模擬授業では他の学生の授業について検討し、ディスカッションを行う。模擬授業実施後、再度修正した指導案を提出する。なお、提出された指導案にはコメントにてフィードバックする。授業で使用する資料はTeams等の学習支援システムを活用して配布、回収するほか、学生の不明点･質問は､チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	○	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

指導案の作成や模擬授業などを実施するため、やむを得ない場合を除き欠席はしないことが望ましい。授業内で行うグループワークやディスカッションには積極的に参加する態度が求められる。
『中学校美術の教科書1～3年』　（開隆堂出版、日本文教出版、光村図書出版など）について、授業で何冊か準備するが、どの学年でもよいので各自が1冊は購入することが望ましい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	２０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
美術科の内容に対する理解度	授業で得た用語や概念の理解を通して、社会や文化に対する深い洞察力をもって自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、自分独自の視点から考察できた。	授業で得た用語や概念の理解を通して、授業で示された範囲のテーマを考察できた。	授業で得た用語や概念が理解できた。	授業内で使われた用語や概念の理解が不十分だった。
学習指導案の作成能力	授業内容を超えて文献や資料を自分で調査して、学習指導案を適切に作成することができた	学習指導要領に沿って、考察をより深めながら適切に学習指導案を作成することができた	自学習指導要領に沿ってある程度適切に学習指導案を作成することができた	学習指導要領に沿って学習指導案を作成することができた	学習指導案を作成することができなかった
模擬授業などの演習やディスカッションを通した考察	自ら進んで課題の範囲を越えて調べ、自主的な学修が認められた。	演習において他者との意見交換を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察を深めることができた。	演習を通して考察することができた。	演習を通して考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	課程必修
科目名称	美術科教育法Ⅱ （科目ナンバリング：ESS243094 ）				
授業担当者（所属・職名）	竹内　美帆（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	2号館7階	
単位数	2 （単位認定責任者： 竹内　美帆 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学校教諭専修免許状（美術）と高等学校教諭専修免許（美術）を有し、公立小学校で教員経験がある教員が、その経験を元に美術科教育法について授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『美術教育概論 新訂版』	大橋 功他	日本文教出版	2018年	9784536601030	
2	『中学校学習指導要領解説 美術編　平成29年7月―平成29年告示』	文部科学省	日本文教出版大阪	2018年	9784536590136	
3	『高等学校学習指導要領解説　芸術（音楽・美術・工芸・書道）編・音楽編・美術編　平成30年7	文部科学省	教育図書	2019年	9784877304201	
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『美術科教育の基礎知識』	福田隆眞、茂木一司、福本謹一	建帛社	2010年	9784767921013	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業についてのオリエンテーション 授業改善アンケート結果に関する説明	シラバスを読んでおく（９０分）	配布プリントを読み、授業内容を復習する（９０分）
2	学習指導要領における「鑑賞」：その意義と目的、内容	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する（９０分）
3	鑑賞教育の歴史と種類	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する（９０分）
4	「鑑賞」の教材研究（１）アートカードを使った鑑賞教育	教科書の該当ページを参考に、鑑賞の教材について調べておく。（９０分）	鑑賞の教材について、授業内容を復習する（９０分）
5	「鑑賞」の教材研究（２）「分析批評」による名画鑑賞の授業	教科書の該当ページを参考に、鑑賞の教材について調べておく。（９０分）	鑑賞の教材について、授業内容を復習する（９０分）
6	「鑑賞」の教材研究（３）対話型鑑賞による授業	教科書の該当ページを参考に、鑑賞の教材について調べておく。（９０分）	鑑賞の教材について、授業内容を復習する（９０分）
7	ICT機器の活用について	事前配布プリントや教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する（９０分）
8	学習指導案の作成（１）年間指導計画・学習指導案の構成と作成方法	事前配布プリント教科書の該当ページを丁寧に読んで、疑問点等を挙げておく。（９０分）	配布プリント教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する（９０分）
9	学習指導案の作成（２）学習指導案の構成と作成方法	学習指導案を作成する（９０分）	学習指導案を作成する（９０分）
10	学習指導案の作成（３）制作した指導案の確認　模擬授業へ向けた準備	学習指導案を作成する（９０分）	模擬授業の準備をする。（９０分）
11	模擬授業（１）	模擬授業の準備をする。（９０分）	授業後の振り返りや気づきをまとめる（９０分）
12	模擬授業（２）	模擬授業の準備をする。（９０分）	授業後の振り返りや気づきをまとめる（９０分）
13	模擬授業（３）	模擬授業の準備をする。（９０分）	授業後の振り返りや気づきをまとめる（９０分）
14	模擬授業振り返り　指導案の修正	模擬授業を受けて、指導案を改めて作成する（９０分）	学習指導案を作成する（９０分）
15	まとめ 授業改善アンケートの実施	これまでの授業の疑問点をまとめておく（９０分）	配布プリントや教科書の該当ページを読み、授業内容を復習する（９０分）
16	指導案講評　フィードバック	これまでの授業の疑問点をまとめておく（９０分）	講評のフィードバックを受けて、授業の内容の理解を深める（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱者の心理・生理・ （科目ナンバリング：SNE122106 ）				
授業担当者（所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 千葉　聡美 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習に必要な内容を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

特別な支援を必要とする病弱教育の教育課程及び支援の方法を理解し、病弱・身体虚弱児の心理・生理・病理、行動特性等の基本的な知識を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２、DP４、DP５に対応する。（２０２３年度・２０２２年度）

到達目標

病弱・身体虚弱児の心理・生理・病理の各特性や行動特性等について理解することができる。

授業全体の内容と概要

病弱・身体虚弱児の身体的・心理的な特性や病理的特性について、できるだけ具体的な事例や視聴覚教材等を活用しながら構成する。
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連科目。

授業の方法

各回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。授業ではパワーポイント及び配布物（レジメ）で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等でグループ協議を行う。具体的な事例のＶＴＲ視聴後にレポート提出を行う。レポートはコメントしてフィードバックする。質問等随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とし、遅刻３回で欠席１回とみなします。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	２０%	０%	０%	２０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
病弱児者の心理・生理・病理の理解	心理・生理・病理の理解について高い関心をもって理解し、さらに深めることができた。	心理・生理・病理について関心をもって理解し学修できた。	心理・生理・病理についてほぼ学修できた。	心理・生理・病理について不十分ながら理解することができた。	心理・生理・病理について理解できなかった。
病弱児者の心理・生理・病理についての思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し個人やグループで多少表現できた。	テーマの受け止め方が不十分で思考・判断・表現にできなかった。
病弱児者の心理・生理・病理に係る授業への関心・意欲・態度	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が低いが多少参加できた。	授業への参加態度に課題が残った。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	病弱者の心理・生理・ （科目ナンバリング：SNE122106 ）				
授業担当者（所属・職名）	千葉　聡美（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 千葉　聡美 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験から、その経験を活かして具体的な実践例を中心に各特性等の理解を図り、さらに教育実習に必要な内容を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本　2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020年	978-4863715486	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明と授業改善アンケート結果反映の説明	教科書から「病弱者の心理・生理・病理」についての課題を整理する（９０分）	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。（９０分）
2	病弱者と病弱教育について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
3	小児慢性特定疾患についての理解について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
4	障がいの受容と支援の理解について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
5	発達段階とプレパレーションの理解と方法について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
6	腎臓疾患の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
7	悪性新生物の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な語句や内容の整理とレポートの作成（９０分）
8	こころの病の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
9	小児の心身症の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
10	てんかんと脳腫瘍の理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
11	筋ジストロフィーの理解と支援	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
12	障がいの理解と支援・自立に向けて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
13	自立と進路指導について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
14	病弱者の「限界への挑戦」について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する（９０分）
15	緩和ケアとトータルケアの課題について 授業改善アンケートの実施	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する（９０分）	重要な語句や内容の整理とレポートの作成（９０分）
16	定期試験(６０分の試験終了後、残りの３０分で解説する。)	講義内容の重要事項について整理しておくこと（９０分）	試験の結果を見直す（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	アニメーション Ⅰ （科目ナンバリング：PIP223048 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　真紀（デザイン学科・非常勤講師 ）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　真紀 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

アニメーション制作の基礎、およびアニメーションにおいて生き生きとした動きを描くための基本原則や表現方法を修得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

アニメーションにおける動画の基本原則を理解し、動画を作成できる。

授業全体の内容と概要

ウォルト・ディズニー・スタジオのアニメーターであるフランク・トーマスとオリー・ジョンストンが共著書『Disney Animation / The Illusion of Life』（1981）にまとめたアニメーションの１２の基本原則を元に、物理原則に沿った動きを理解し、キャラクターを生き生きと動かす表現力を修得する。動画は、紙と鉛筆による手描きで行い、カメラで撮影する。

授業の方法

授業は動画の基本原則について映像や配布物資料などで説明した後、課題制作に取り組む。作画に必要な画材（主にアニメーションタップ、ライトボックスA4程度）については、初回の授業で詳細説明を受けた後、各自で準備（購入など）する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席を重視。課題作品提出は必須。
授業内で提示された課題は次の授業までに仕上げてくること。
制作に必要な画材（アニメーションタップ、ライトボックスなど）は購入するなどして各自で必ず準備すること。価格の目安としては計3000円程度。動画撮影のために、各自でスマートフォンやタブレットなどのモバイル端末にアプリケーションのダウンロードを必要とする。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
動画の基本技術	動画作成における原画（キーフレーム）と中割り、フレームレート等、動画の基本・本質を理解して、手で描く作画力を身につけた。	動画作成における原画（キーフレーム）と中割り、フレームレート等、動画の基本を理解して、手で描く作画力を身につけた。	動画作成における原画（キーフレーム）と中割り、フレームレート等、動画の基本を理解して、作画することができた。	動画作成の基本を理解して、作画することができた。	動画作成の基本を理解せず、作画ができなかった。
基本原則の表現力	アニメーションの各基本原則を理解し、生き生きとした動画を描く豊かな表現力を身につけた。	アニメーションの各基本原則を理解し、生き生きとした動画を描く表現力を身につけた。	アニメーションの各基本原則を理解し、それに適した動画を描くことができた。	アニメーションの各基本原則を学び、動画を描くことができた。	アニメーションの各基本原則を元に、動画を描くことができなかった。
動画撮影	すべての課題において、手描きの作画を正確な方法でカメラで撮影して動画を作成し、十分な撮影技術を身につけた。	すべての課題において、手描きの作画を正確な方法でカメラで撮影して動画を作成できた。	課題において、手描きの作画を概ねカメラで撮影して動画を作成できた。	課題において、手描きの作画をカメラで撮影して動画を作成できた。	動画の撮影ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	アニメーション Ⅰ （科目ナンバリング：PIP223048 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　真紀（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　真紀 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『Disney Animation : The Illusion of Life』	Frank Thomas, Ollie Johnston	Abbeville Press	1981	0896592332	
2	『The Animators Survival Kit: A Manual of Methods, Principles and Formulas for	Richard Williams	Faber and Faber	2001	0571202284	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 アニメーションとは何か	シラバスを読んでくること（90分）	授業をふりかえり理解を深めておくこと（90分）
2	アニメーションの基本原則１　Squash and Stretch	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
3	アニメーションの基本原則２　Anticipation	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
4	アニメーションの基本原則３　Staging	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
5	アニメーションの基本原則４　Straight Ahead and Pose to Pose	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
6	アニメーションの基本原則５　Follow Through and Overlapping Action	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
7	アニメーションの基本原則６　Slow In and Slow Out	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
8	基本原則１～６　課題作品講評	講評の準備をすること（90分）	講評を振り返り、理解を深めること（90分）
9	アニメーションの基本原則７　Arcs	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
10	アニメーションの基本原則８　Secondary Action	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
11	アニメーションの基本原則９　Timing	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
12	アニメーションの基本原則１０　Exaggeration	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
13	アニメーションの基本原則１１　Solid Drawing	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
14	アニメーションの基本原則１２　Appeal	学習内容に関連する動きを観察すること（90分）	動画を描く（90分）
15	基本原則６～１２　課題作品講評	講評の準備をすること（90分）	講評を振り返り、理解を深めること（90分）
16	まとめ　課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項 をまとめておくこと(90分)	フィードバックをふりかえり講義全体の理解を深めること(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅳ　（科目ナンバリング：SEM324071　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	1　（単位認定責任者：　向井　正伸　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

「資格が無ければ食えない」とも言われる建設業界でその根幹である建築士，その中でも大学卒業後すぐに受験可能な２級建築士試験の学科Ⅳ「建築施工」にターゲットを絞り，その傾向と対策演習を学ぶ。

授業の位置づけ

建築学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
建築学科のDP1、DP2に対応する。（2023・2022年度）
建築学科のDP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

提示された建築士の過去問題に対し出題者の意図を探り，試験の決まりごとや回答上の留意点を解説等をもとに理解できる。

授業全体の内容と概要

２級建築士学科試験学科Ⅳに出題される過去問題の回答・解説について網羅する。
「SDG11．住み続けられるまちづくりを」の関連授業

授業の方法

テキストや配布資料をもとに，視聴覚資料も交えて講義を行う。また講義後には毎回確認実施テストを行う。不測の事態の際にオンライン及びオンデマンドにて授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

資格試験対策は，通常授業とはそのアプローチも異なり，そして学習方法もちがう。しかし３年生までの専門科目の集大成と総まとめとして，そして建築士は建築学科出身の学生には避けては通れないものなので，覚悟を以って取り組んで欲しい。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

原則毎回出席すること(最低出席回数１１回以上)

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	0%	６０％	４０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題を正確に解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題を解くことができた。	施工計画やネットワークに関する用語の定義と計画立案の理解に関する問題を解くことができなかった。
各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができた。	各種建築関連工事に関する用語の定義と工事内容の理解に関する問題を解くことができなかった。
積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をすべて正確に解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を正確に解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題をほぼ正確に解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができた。	積算業務や測量に関する用語の定義と業務の理解に関する問題を解くことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	二級建築士演習Ⅳ　（科目ナンバリング：SEM324071　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　善太郎（建築学科・教授）・向井　正伸（建築学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	1　（単位認定責任者：　向井　正伸　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所に勤めた経験を活かして実践的な授業を展開していく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『適宜配布』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。施工計画・ネットワーク工程表 授業改善アンケート結果反映の説明	オリエンテーション時に配布された資料の熟読(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
2	安全衛生管理・材料管理・工事管理業務	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
3	渉外諸手続き	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
4	仮設工事・地盤調査	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
5	土工事・基礎地業工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
6	鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
7	鉄骨工事・コンクリートブロック工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
8	木工事・防水・屋根工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
9	左官工事・タイル・張石工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
10	塗装工事・建具・ガラス工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
11	内装・断熱工事・設備工事・ユニット工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
12	改修工事	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
13	用語・機械-工法	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
14	建築積算・測量	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
15	工事契約-請負契約・契約図書 授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)
16	実力診断試験・解説	指定した資料を事前に熟読する(45分)	授業終了時に提示の課題を処理する(45分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	アニメーションⅡ	（科目ナンバリング：PIP223049 ）			
授業担当者（所属・職名）	梅田　真紀（デザイン学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　真紀 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

自主制作におけるアニメーションの制作工程を学び、制作技術および表現力を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

自分のアイデアに基づいて、アニメーション作品を完成させる。

授業全体の内容と概要

作品の企画から最終的な書き出しまで、アニメーションの制作工程を実習を通して学ぶ。完成作品は、コンペティション応募を目指す。

授業の方法

授業は、パワーポイント及び配布物資料などで学習内容の説明をした後、制作過程の進捗状況についてチュートリアルを行う。制作は、第1C室のPC・ソフトウエアを使用することを基本としているが、私物のノートパソコン、タブレットなどを持参しても良い。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席を重視し、制作工程における提出物、および完成作品において評価する。
授業の目的は、アニメーション制作における各工程を演習を通して学ぶことであるため、次の2点に注意が必要。
①使用ソフトの指定はしない。ただし、デバイスを授業に持参できることが条件となる。
②各制作工程チェックのため提出物が複数ある。授業内で提示された課題は、準備・事後学習の時間を使って次の授業までに必ず仕上げてくること。
「アニメーションⅠ」を履修・修得していることが望ましい。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
制作過程	プロセスに沿って、制作を進めることができた。それぞれの過程で、できる限り表現を追求し、洗練させた。	プロセスに沿って、制作を進めることができた。それぞれの過程で、できる限り表現を追求した。	プロセスに沿って、制作を進めることができた。それぞれの過程で、努力した。	プロセスに沿って、制作を進めることができた。	プロセスに沿った制作がほとんどできなかった。
授業外学修（準備学習・事後学習）の取り組み	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題をひとつひとつ仕上げて、授業に臨み、授業のアドバイスを受けて、改善することができた。	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題をひとつひとつ仕上げて、授業に臨むことができた。	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題にある程度取り組むことができた。	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題に取り組む努力をした。	準備学習、事後学習に全く取り組むことができなかった。
完成作品	アニメーションの技術力・表現力が認められる完成度の高い作品を仕上げた。	アニメーションの技術力・表現力が認められる作品を仕上げた。	アニメーションの技術や表現を活かした作品を完成させた。	作品を完成させた。	作品が完成しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｱﾆﾒｰｼｮﾝⅡ （科目ナンバリング：PIP223049 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　真紀（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　真紀 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 アニメーション制作について	シラバスを読んでくること（９０分）	授業をふりかえり理解を深めておくこと（９０分）
2	プリプロダクション①　企画・テーマ・コンセプト	作品の企画を考える（９０分）	作品の企画をまとめる（９０分）
3	プリプロダクション②　あらすじ	作品の企画をまとめる（９０分）	あらすじを考える（９０分）
4	プリプロダクション③　脚本	あらすじを仕上げる（９０分）	脚本を進める（９０分）
5	プリプロダクション④　絵コンテ	脚本を仕上げる（９０分）	絵コンテを進める（９０分）
6	プリプロダクション⑤　アニマティック	絵コンテを仕上げる（９０分）	アニマティックを進める（９０分）
7	プリプロダクション⑥　キャラクターデザイン	アニマティックを仕上げる（９０分）	キャラクターデザインを進める（９０分）
8	プロダクション①　背景デザイン	キャラクターデザインを仕上げる（９０分）	背景デザインを進める（９０分）
9	プロダクション②　レイアウト	背景デザインを仕上げる（９０分）	レイアウトを進める（９０分）
10	プロダクション③　動画	レイアウトを仕上げる（９０分）	動画を進める（９０分）
11	プロダクション③　動画	動画を進める（９０分）	動画を進める（９０分）
12	ポストプロダクション①　撮影	動画を仕上げる（９０分）	撮影を進める（９０分）
13	ポストプロダクション②　編集	撮影を仕上げる（９０分）	編集を進める（９０分）
14	ポストプロダクション③　録音	編集を仕上げる（９０分）	録音を進める（９０分）
15	ポストプロダクション④　書き出し	録音を仕上げる（９０分）	作品を完成させる（９０分）
16	講評　課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項 を（９０分）	講評・フィードバックをふりかえり講義全体の理解を深めること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論	（科目ナンバリング：MAN423036，MAN523039 ）			
授業担当者（所属・職名）	阿部 裕樹（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 阿部 裕樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし，企業がイノベーションを創出するための組織的な取り組み方について実例を挙げて解説する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

近年、グローバル社会においてイノベーションの創出は国家レベルの重点政策として取り組まれている。我が国においても少子高齢化、人口減少社会、経済のグローバル化の進展といった課題解決に向けてイノベーションの必要性が益々高まってきている。本講義では、イノベーションの本質を理解し、その創出過程のメカニズムを明らかにするとともに、成功する為に必要な条件について理解することをねらいとする。

授業の位置づけ

経営学科のDP２、DP３に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

イノベーションの本質について理解し、将来、自らイノベーションを起こすことで、社会に価値を提供できるような考え方、発想を持てるようにする。選ばれた天才のみが発明できるのではなく、身近なレベルでもイノベーションを起こすことが可能であることを理解する。

授業全体の内容と概要

イノベーションとは単に技術的な発明だけでなく、既に存在するものを組み合わせて新しい価値を創出することも可能である。古典的な理論から始まり、主流となった破壊的イノベーション、そして最新のオープンイノベーション等の概念について体系的に学習することで、イノベーションの多様な在り方について理解する。また、イノベーションを起こす際のマネジメント理論についても習得する。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物資料で実施し，資料にて説明をして基礎理論を習得したあと，事例を動画で視聴することで，より具体的な理解を深めることができるようにする。レポートを課すことで本授業のなかで感じたこと，考えたことを改めて認識する機会とし，気づきを得てもらいたい。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講座は出席および授業参加度を重視する。出席とは，ノート・筆記用具を持参し講義に臨むことを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り等の授業妨害行為に関しては欠席扱いとする。レポート提出を1回課し，試験と合わせて最終評価の対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	20%	0%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イノベーションについての理解	国家戦略としてのイノベーションの重要性についてグルーバルの視点から説明することができた	イノベーションの価値について様々な例を挙げて説明することができた	イノベーションの意味について説明することができた	イノベーションの意味について理解していた	イノベーションの意味について全く理解していなかった
イノベーションの理論についての理解	今後、有望なイノベーションのテーマについてイメージすることができた	イノベーションの理論について様々な例を挙げて説明することができた	イノベーションの理論について説明することができた	イノベーションの理論について理解していた	イノベーションの理論について全く理解していなかった
イノベーションを起こす戦略とマネジメントについての理解	イノベーションを起こすことが可能な企業像を具体的にイメージすることができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて成功する要素を具体的に説明することができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて説明することができた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて理解していた	イノベーションを起こす戦略とマネジメントについて全く理解していなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	３Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論	（科目ナンバリング：MAN423036，MAN523039 ）			
授業担当者（所属・職名）	阿部 裕樹（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 阿部 裕樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役の経営コンサルタントとしての実務経験を活かし，企業がイノベーションを創出するための組織的な取り組み方について実例を挙げて解説する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　本授業における概要とガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
2	イノベーションとは何か？	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
3	DX（デジタル・トランスフォーメーション）概論	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
4	シュンペーターの新結合	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
5	ドラッカーの「７つの機会」	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
6	知識創造理論（SECIモデル）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
7	破壊的イノベーション（１）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
8	破壊的イノベーション（２）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
9	オープンイノベーション	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
10	リバース・イノベーション	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
11	イノベーション実現のための戦略（１）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
12	イノベーション実現のための戦略（２）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
13	イノベーションを起こすマネジメント（１）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
14	イノベーションを起こすマネジメント（２）	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
15	本授業におけるまとめ	これまでの授業を振り返り総まとめの復習を行う。（90分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（90分）
16	60分の試験終了後，残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施	「本授業におけるまとめ」を活かして試験対策(90分)	試験の出題テーマを振り返り、理解が不足していた箇所を完全に理解しておくこと。（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・１		
開講時期	３Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	陸上競技 （科目ナンバリング：HSS522071 ）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）・石井　祐治（経営学科・特任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 戸佐　晃一 ）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

記録の向上や競技の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を身につけることが出来るようにする。また、計画的な練習法や競技法を工夫できるようにするほか、競技会の企画・運営に関しても身につける。

授業の位置づけ

経営学科のDP3、DP4、DP5に対応する。(2024年度)

到達目標

陸上競技に自主的に取り組む。ルールやマナーを大切にする。自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫出来るようにする。

授業全体の内容と概要

陸上競技における走競技種目、躍競技、投てき競技種目の特性を理解し、基本的な技術を習得する。

授業の方法

陸上競技場を中心に授業を進める。陸上競技のＤＶＤを視聴することで競技の特性や特徴などの理解を深める。技能習得場面ではグループワークを通して課題の発見や指摘をし合い、ディスカッションではＩＣＴ機器の活用をするなどして正しい技術を習得できるように進めていく。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

注意事項及び詳細に関しては、7月中にガイダンスで説明。
大学近郊の陸上競技場を利用し、集中授業として実施予定。
怪我等で見学をする場合は診断書の提出をしてもらう場合もある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

１3回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	３０%	５０%	２０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
短距離競技の理解と実践	短距離競技の理解と実践が良くできた	短距離競技の理解と実践がほぼできた	短距離競技の理解と実践がある程度できた	短距離競技の理解と実践ができた	短距離競技の理解と実践ができなかった
跳躍競技の理解と実践	跳躍競技の理解と実践が良くできた	跳躍競技の理解と実践がほぼできた	跳躍競技の理解と実践がある程度できた	跳躍競技の理解と実践ができた	跳躍競技の理解と実践ができなかった
投てき競技の理解と実践	投てき競技の理解と実践が良くできた	投てき競技の理解と実践がほぼできた	投てき競技の理解と実践がある程度できた	投てき競技の理解と実践ができた	投てき競技の理解と実践ができなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・１		
開講時期	３Ｑ	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	陸上競技 （科目ナンバリング：HSS522071 ）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）・石井　祐治（経営学科・特任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 戸佐　晃一 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2024』	荒木達雄他	大修館	２０２４	9784469365634	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明（戸佐　晃一）	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	短距離走Ⅰ（戸佐　晃一）	短距離走の確認をしておく（４５分）	短距離走を理解しておく（４５分）
3	短距離走Ⅱ １００m走（各種スタート法と正しい走り方） （石井　祐治）	短距離走の確認をしておく（４５分）	短距離走を理解しておく（４５分）
4	短距離走Ⅲ １００m走（スタートダッシュ・中間疾走・フィニッシュ・タイムトライアル）（石井　祐治）	短距離走の確認をしておく（４５分）	短距離走を理解しておく（４５分）
5	ハードル走Ⅰ （ハードリングとインターバル・安全配慮） （戸佐　晃一）	ハードル走の確認をしておく（４５分）	ハードル走を理解しておく（４５分）
6	ハードル走Ⅱ （スターティングブロックを使用してのスタート、インターバル５歩走～３歩）（石井　祐治）	ハードル走の確認をしておく（４５分）	ハードル走を理解しておく（４５分）
7	ハードル走Ⅲ （タイムトライアル）（石井　祐治）	ハードル走の確認をしておく（４５分）	ハードル走を理解しておく（４５分）
8	跳躍競技Ⅰ （走り幅跳び：助走・歩数・踏切・安全配慮） （戸佐　晃一）	跳躍競技の確認をしておく（４５分）	跳躍競技を理解しておく（４５分）
9	跳躍競技Ⅱ （走り高跳び：助走・歩数・踏切・安全配慮） （戸佐　晃一）	跳躍競技の確認をしておく（４５分）	跳躍競技を理解しておく（４５分）
10	跳躍競技Ⅲ （走り幅跳び・高跳びトライアル） （石井　祐治）	跳躍競技の確認をしておく（４５分）	跳躍競技を理解しておく（４５分）
11	投てき競技Ⅰ （砲丸投げの基本動作、グライド、構えからつきだし・安全配慮）（戸佐　晃一）	投てき競技の確認をしておく（４５分）	投てき競技を理解しておく（４５分）
12	投てき競技Ⅱ （砲丸投げトライアル）（石井　祐治）	投てき競技の確認をしておく（４５分）	投てき競技を理解しておく（４５分）
13	リレー種目（バトンパスの方法とテークオーバーゾーンの走り方）（石井　祐治）	リレー競技の確認をしておく（４５分）	リレー競技を理（４５分）
14	リレー種目（４×１００mのタイムトライアル） （石井　祐治）	リレー競技の確認をしておく（４５分）	リレー競技を理解しておく（４５分）
15	まとめ（競技会の企画・運営など） （戸佐　晃一）	競技会の企画・運営などを確認しておく（４５分）	競技会の企画・運営などを理解（４５分）
16	フィードバック、授業改善アンケートの実施 （戸佐　晃一）	授業内容全体を振り返り確認しておく（４５分）	授業内容を理解しておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修
科目名称	工芸科教育法Ⅱ （科目ナンバリング：ESS243096 ）				
授業担当者（所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 三上　いずみ ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状（芸術）を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験をもとに工芸科教育法について授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

工芸科教育の意味と目的を理解し、教員に必要な資質を身につける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP１、DP３、DP５に対応する。（2023･2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP３に対応する。（2021年度）

到達目標

工芸科教育の意味と目的を考え、教員として最低限の知識と技能を身につける。

授業全体の内容と概要

工芸教育の基礎知識と技術、学習指導要領の内容、授業計画、教材研究、指導方法、評価方法を学び、模擬授業の準備を行う。
授業全体を通じて、情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができるよう、具体的な指導を行う。
「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

学習指導要領解説を用いて行い、学習内容はパワーポイントやプリント資料で説明する。
主体的で対話的な学びを目指し、グループ学習・ディスカッション・発表などを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教育について興味・関心を持ち、教員としての心構えを身につけ、行動すること。
課題は期日までに提出すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	２０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点や目指すことを述べることができた。	工芸科教育の意味と目的を理解し、問題点を考えることができた。	工芸科教育の意味と目的を理解できた。	工芸科教育の意味と目的を考えることができた。	学習指導要領の要点をまとめることができなかった。
思考力・判断力・表現力	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べ、問題に対応することができた。	課題を多面的に捉え、自分の意見を論理的に述べることができた。	課題を捉え、自分の意見を述べることができた。	自分の意見を述べることができた。	意見を述べることができない。
関心・意欲・態度	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てて、考察することができた。	責任や自覚を持ち、積極的に知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけ、役立てることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができた。	責任や自覚を持ち、知識を身につけることができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	教職課程必修
科目名称	工芸科教育法Ⅱ （科目ナンバリング：ESS243096 ）				
授業担当者（所属・職名）	三上　いずみ（デザイン学科・准教授）		研究室等所在	２号館８階	
単位数	2 （単位認定責任者： 三上　いずみ ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校教諭専修免許状（芸術）を有し、公立高等学校で教員経験がある教員が、その経験をもとに工芸科教育法について授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領解説　美術編』	文部科学省	日本文教出版大阪	2018	9784536590136	
2	『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽・美術・工芸・書道)編・音楽編・美術編』	文部科学省	教育図書	2019	9784877304201	
3	『工芸の教育』	大坪圭輔	武蔵野美術大学出版局	2017	9784864630580	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 教科書分析	シラバスをよく読んでおくこと（90分）	授業内容を復習する（９０分）
2	工芸の技法	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
3	工芸の鑑賞	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
4	年間指導計画の作成	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
5	ICT機器の活用について	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
6	模擬授業見学（４年生）１	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
7	模擬授業見学（４年生）２	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
8	教材研究	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
9	評価の観点	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
10	学習指導案の作成１	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
11	模擬授業１	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
12	模擬授業振り返りと改善１	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
13	学習指導案作成２	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
14	模擬授業２	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
15	指導案作成の振り返りと改善２	テキスト・参考資料内の学習内容について専門用語等の事前学習（90分）	授業内容を復習する（９０分）
16	課題・レポートの解説 授業改善アンケートの実施	講義全体をふりかえりまとめを行うこと（90分）	フィードバックの内容を受けて、講義全体のふりかえりを行うこと（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｴﾃﾞｨﾄﾘｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ （科目ナンバリング：DES222025 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　真紀（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　真紀 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	フリーランスのグラフィックデザイナーとしての実務経験を元に、エディトリアルデザイン制作を指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

エディトリアルデザインにおける基礎的な知識・技術を修得し、編集内容の考察を深め、視覚的効果に配慮してデザインを行うことができる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP１、DP５に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（2021年度）

到達目標

エディトリアルデザインの基礎的な知識・技術を理解し、制作することができる。

授業全体の内容と概要

印刷物の制作を通して、エディトリアルデザインに必要な知識・技術の修得を目指す。

授業の方法

授業は、制作過程の進捗状況についてチュートリアルを行った後、パワーポイント及び配布物資料等で次の工程の説明をする。
Adobe illustrator, InDesign, Photoshopを使用する。
制作物は、各自で印刷すること。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席を重視し、制作過程の提出物および完成作品において評価する。
授業内で提示された課題は次の授業までに仕上げてくること。
「エディトリアルデザインⅠ」を履修・修得していることが望ましい。
第１C室のパソコンおよびソフトウエアを使用することを基本としているが、私物のノートパソコンおよびタブレットを持参しても良い。
不足の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
デザインにおける基礎的な知識・技術	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらを基に、効果的で説得力のあるデザインに仕上げた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらを基に効果なデザインができた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらを基に制作できた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題に取り組んだ。	デザインの基礎的な知識・技術を理解できず、課題ができなかった。
構成力・編集力	文字・図・写真などを整理して配置し、美しく効果的でバランスの良い紙面を構成・編集できた。	文字・図・写真などを整理して配置し、美しく効果的な紙面を構成できた。	文字・図・写真などを整理して配置し、分かりやすい紙面を作ることができた。	文字・図・写真などを整理して配置できた。	情報を文字・図・写真などに整理することができなかった。
制作過程と完成作品	デザインコンセプトに沿って、読み手のことを考慮しながら各過程で検討を重ねて、印刷・製本までを美しく仕上げた。	デザインコンセプトに沿って、各過程で検討を重ねて、印刷・製本までを美しく仕上げることができた。	デザインコンセプトに沿って、各過程で努力し、印刷・製本まで仕上げることができた。	アイデアに基づいて、作品を完成させた。	作品が完成しなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｴﾃﾞｨﾄﾘｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ （科目ナンバリング：DES222025 ）				
授業担当者（所属・職名）	梅田　真紀（デザイン学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 梅田　真紀 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	フリーランスのグラフィックデザイナーとしての実務経験を元に、エディトリアルデザイン制作を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明 エディトリアルデザイン制作について	シラバスを読んでくること（90分）	授業をふりかえり理解を深めておくこと（90分）
2	冊子制作１ 課題について	エディトリアルデザインについて理解を深める（90分）	課題について構想をまとめる（90分）
3	冊子制作２　アイデア・コンセプト	課題について構想をまとめる（90分）	課題について構想をまとめる（90分）
4	冊子制作３　サイズ・ページネーション	サイズ・ページネーションを検討する（90分）	サイズ・ページネーションを検討する（90分）
5	冊子制作４　デザインコンセプト	デザインコンセプトを検討する（90分）	デザインコンセプトを検討する（90分）
6	冊子制作５　サムネイル	デザインコンセプトを決定する（90分）	サムネイルを仕上げる（90分）
7	冊子制作６　取材	取材の準備をする（90分）	取材を行う（90分）
8	冊子制作７　インタビューの文字起こし	取材を行う（90分）	文字起こしを仕上げる（90分）
9	冊子制作８　写真加工	写真の準備をする（90分）	写真加工を仕上げる（90分）
10	冊子制作９　インデザインによる編集① レイアウトとデザインエレメントの検討	編集の準備をする（90分）	デザインエレメントについて検討し、編集する（90分）
11	冊子制作１０　インデザインによる編集② 文字組の調整	文字組の調整を行う（90分）	文字組の調整を行う（90分）
12	冊子制作１１　インデザインによる編集③ 余白・全体の調整	余白や全体の調整を行う（90分）	余白や全体の調整を行う（90分）
13	冊子制作１２　試し刷り	全体の調整を行う（90分）	ブラッシュアップに取り組む（90分）
14	冊子制作１３　ブラッシュアップ	ブラッシュアップに取り組む（90分）	データを完成させる（90分）
15	冊子制作１４　印刷・製本	印刷の準備をする（90分）	講評に向けて準備をする（90分）
16	講評　課題に対する解説・フィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体を通して質問事項 をまとめておくこと(90分)	講評・フィードバックをふりかえり講義全体の理解を深めること(90分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	eﾋﾞｼﾞﾈｽ論 （科目ナンバリング：MAN422021，MAN522023 ）				
授業担当者（所属・職名）	阿部 裕樹（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 阿部 裕樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役のＩＴコーディネータとしての実務経験を活かし、ビジネスにおけるＩＴ（とりわけインターネット）の活用価値について実例を挙げて解説する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

近年、ビジネスにおいてインターネットの活用は当たり前と言えるが、特にスマートフォンの普及によりビジネスモデルそのものが多様化しつつある。本講義では、企業がインターネットを活用することで、いかに生産性向上を図ることができるかを認識することができる。あわせて、現在、注目が集まっているＤＸの概念についても理解する。

授業の位置づけ

経営学科のDP２、DP３に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

インターネットビジネスの多様性とその価値について理解し、安全かつ効果的な活用ができるための基礎知識を習得し、社会に出てから実践に役立つようなスキルを身に付ける。

授業全体の内容と概要

本講義ではｅビジネスの基本から理解し、ビッグデータ、ＡＩ（人工知能）、ＩｏＴ（モノのインターネット）、ＲＰＡ、キャッシュレス社会といった最新のトレンドの動向にも触れることでこれからのインターネットの活用価値と可能性について理解する。またソーシャルメディアの台頭により，情報発信・コミュニケーションを主目的としたインターネット利活用へのパラダイムシフトが急速に進行していることについても認識を深める。

授業の方法

授業はパワーポイント及び配布物資料で実施し，資料にて説明をして基礎理論を習得したあと，事例を動画で視聴することで，より具体的な理解を深めることができるようにする。レポートを課すことで本授業のなかで感じたこと，考えたことを改めて認識する機会とし，気づきを得てもらいたい。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講座は出席および授業参加度を重視する。出席とは，ノート・筆記用具を持参し講義に臨むことを意味する。授業参加度とは，発言や質問等の積極性を意味し私語・居眠り等の授業妨害行為に関しては欠席扱いとする。レポート提出を1回課し，試験と合わせて最終評価の対象とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
70%	20%	0%	0%	10%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ｅビジネスについての理解	ｅビジネスで成果を上げている企業について経営戦略と関連付けて説明することができた	ｅビジネスで成果を上げている企業について成功要因について説明することができた	ｅビジネスとは何かについて例を挙げて説明することができた	ｅビジネスとは何かについて理解していた	ｅビジネスについて全く理解していなかった
ｅビジネスを実践している企業の調査	ｅビジネスを実践している企業の調査し、経営戦略と関連付けて分析することができた	ｅビジネスを実践している企業の調査し、成功要因を分析することができた	ｅビジネスを実践している企業を調査し結果をレポートとしてまとめることができた	ｅビジネスを実践している企業の調査をすることができた	ｅビジネスを実践している企業の調査ができなかった
ｅビジネスの現在と未来の可能性についての理解	ｅビジネスの未来について具体的にイメージし、説明することができた	ｅビジネスの可能性について説明することができた	ｅビジネスの現在について説明することができた	ｅビジネスの現在について理解していた	ｅビジネスの現在について全く関心がなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	eﾋﾞｼﾞﾈｽ論	（科目ナンバリング：MAN422021，MAN522023 ）			
授業担当者（所属・職名）	阿部 裕樹（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階 非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 阿部 裕樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	現役のＩＴコーディネータとしての実務経験を活かし、ビジネスにおけるＩＴ（とりわけインターネット）の活用価値について実例を挙げて解説する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　本授業における概要とガイダンス 授業改善アンケート結果反映の説明	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
2	ｅビジネスとは	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
3	ＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）の動向	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
4	デジタルマーケティングの動向	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
5	ソーシャルメディア概論	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
6	クラウドコンピューティング	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
7	ＩｏＴ（モノのインターネット）とは	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
8	ＩｏＴ（モノのインターネット）のビジネスへの応用	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
9	キャッシュレス社会について	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
10	コロナ禍で普及したテレワーク	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
11	ＡＩ（人工知能）の基本とビジネスへの応用	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
12	生成ＡＩの価値と可能性	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
13	デジタルレイバー（ＲＰＡ）について	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
14	ｅビジネスに必要な情報セキュリティ	資料等を活用し，学習内容に関連する事項について事前に調べておくこと。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
15	本授業におけるまとめ	これまでの授業を振り返り総まとめの復習を行う。（９０分）	今回の内容を復習し講義のポイントと専門用語について完全に理解しておくこと。（９０分）
16	60分の試験終了後，残りの30分で解説 授業改善アンケートの実施	「本授業におけるまとめ」を活かして試験対策（９０分）	試験の出題テーマを振り返り、理解が不足していた箇所を完全に理解しておくこと。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅲ(ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ)　（科目ナンバリング：HSS522075　）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

共生社会の実現に寄与できる人材となるため、さまざまな情報の中から必要と思われる知識を幅広く理解・体得する科目である。さらに、教職課程の科目なので、基礎からゲームに至るまでのさまざまな技術や方法を実践し、自らの技術向上のみならず、作戦をいかした攻防を展開しゲームが出来るようになるまでの指導力を修得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP4、DP5に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

競技の特性やルールを学び理解するとともに、施設等の安全を確かめ、健康・安全に留意できる教員としての指導能力が身につく。

授業全体の内容と概要

バドミントンの基礎技術の習得及びゲームを中心に授業を進める。

授業の方法

バドミントンという種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながら応用できるように配慮していく。また授業の中で基本的な技術を反復し課題をグループワークで指摘し合いディスカッションをして技術の改善に反映できるように工夫し進めていく。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

ジャージ・屋内運動靴を必ず用意する。アクセサリー（時計、指輪、ピアス等）は全て外す。携帯電話の電源は必ず切る。その他注意事項の詳細は授業ガイダンスで指示する。
※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、13回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	１０%	２０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基本技術の理解	基本技術を良く理解できた	基本技術をほぼ理解できた	基本技術をある程度理解できた	基本技術を理解できた	基本技術を理解できなかった
基本技術の実践	基本技術の実践が良くできた	基本技術の実践がほぼできた	基本技術の実践がある程度できた	基本技術の実践ができた	基本技術の実践ができなかった
戦術に関する理解	戦術に関して良く理解できた	戦術に関してほぼ理解できた	戦術に関してある程度理解できた	戦術に関して理解できた	戦術に関して理解できなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅲ(ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ)　（科目ナンバリング：HSS522075　）				
授業担当者（所属・職名）	戸佐　晃一（経営学科・特任教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　戸佐　晃一　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ステップアップ高校スポーツ2024』	荒木達雄他	大修館	２０２４	9784469365638	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	基本技術の理解と実践①　グリップ、オーバーヘッド	バドミントンの基本技術を確認しておく（４５分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（４５分）
3	基本技術の理解と実践②　アンダーハンド・プッシング、ハイクリアー	バドミントンの基本技術を確認しておく（４５分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（４５分）
4	基本技術の理解と実践③　ドリブングリアー、ドロップカット	バドミントンの基本技術を確認しておく（４５分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（４５分）
5	基本技術の理解と実践④　スマッシュ・ヘアピン・サービス	バドミントンの基本技術を確認しておく（４５分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（４５分）
6	基本技術の確認	バドミントンの基本技術を確認しておく（４５分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（４５分）
7	バドミントンのフットワーク	バドミントンの基本技術を確認しておく（４５分）	バドミントンの基本技術を理解しておく（４５分）
8	戦術に関する理解と実践①　シングルス	バドミントンの戦術を確認しておく（４５分）	バドミントンの戦術を理解しておく（４５分）
9	戦術に関する理解と実践②　ダブルス	バドミントンの戦術を確認しておく（４５分）	バドミントンの戦術を理解しておく（４５分）
10	審判法とゲーム運営	バドミントンのルールを確認しておく（４５分）	バドミントンのルールを理解しておく（４５分）
11	ゲーム　シングルス①	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
12	ゲーム　シングルス②	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
13	ゲーム　シングルス③	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
14	ゲーム　ダブルス①	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
15	ゲーム　ダブルス② 授業改善アンケートの実施	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
16	実技試験	実技試験の準備をしておく（４５分）	試験内容を練習しておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導III （科目ナンバリング：SWS123031 ）				
授業担当者（所属・職名）	小早川　俊哉（社会福祉学科・教授）・上原　正希（社会福祉学科・教授）・杉	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2 （単位認定責任者： 小早川　俊哉 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験のある教員が、実践現場における事例を参照しながら、現場実習の事後指導を行う。		
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボードなどを参照すること				

概要

履修目標

各領域の相談援助実習を終了した後、実習中の振り返り（利用者との関り、他職種・他機関連携、地域連携）を行うことによって、実習中の行為がＳＷ実践の具体的技法とどのような関連するか、ＳＷ諸理論とどのように関連するか、あるいは逸脱しているかを理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（２０２３年度）

到達目標

専門職として求められる資質、専門的知識・技術、倫理、自己に求められる問題把握など、総合的に対応できる能力を習得する。さらに、現場実習での具体的援助経験を、専門性を踏まえて概念化し理論化できる能力を習得する。

授業全体の内容と概要

「相談援助実習III・IV」と「相談援助実習」は３つの授業に分かれているが、1対のものと理解すべきである。「相談援助実習指導III」は事前指導、「相談援助実習」は現場実習、「相談援助実習指導IV」は事後指導と考える。「相談援助実習」での課題への取り組みを振り返り、それをレポートおよび報告書にまとめる。また「相談援助実習指導IV」の最終講義において「相談援助実習」の報告（各領域１名程度）、「相談援助実習指導Ⅱ」（２年生向け）での報告会（各領域から1名程度）を行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

授業の方法

高齢、障がい、児童、地域・行政の各実習領域に分かれ、各々の担当教員が講義を行う。講義方法は各担当教員に一任されているが、各領域の制度、法規、実践事例、そして実習後の振り返りをメインに行う。講義資料は各担当教員が用意するが、実習後の振り返りについては学生自身が発表者になりプレゼンを行う（方法については担当教員に一任されるが、最低限レジメの配布は行うこと）。年間を通して実習終了後のレポート、報告書の提出を課題として義務付けている。学生からの要望・課題については、可能な範囲で随時対応していく。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

各領域担当教員の指示に従うこと。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程、精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程、子育て支援ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定の最低出席回数１０回以上をクリアすること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	０%	０%	３０%	４０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
実習中の利用者との関りをＳＷ理論・技法と位置付けて説明できる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、それを具体的論で説明でき、且つ、具体的技法との関連を説明できる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、その各々の場面を通しての自己覚知ができる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と、失敗事例を振り返り、それを具体的理論によって説明できる。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例を振り返り、それを具体的理論で説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
実習中の他職種・他機関連携をＳＷ理論・技法と位置付けて説明できる。	実習中の他職種・他機関連携について具体的なＳＷ理論と結び付けて説明でき、且つ、ジェネリックソーシャルワークの視点から普遍的なＳＷ理論に昇華できる。	実習中の他職種・他機関連携を全て説明でき、実習の領域の特性と合わせて説明できる。	実習中の他職種・他機関連携について、どんな職種・機関と連携したかを説明できる。	実習中の他職種・他機関連携について具体的なＳＷ理論と結び付けて説明できる。	左記の内容が何一つできていない。
実習中の地域連携についてＳＷ理論・技法と位置付けて説明できる。	実習中の地域連携について説明でき、その具体的業務をＳＷ理論を用いて説明でき、且つ、地域ネットワーク構築の特徴を考察できる。	実習中の地域連携について説明でき、具体的にどんな機関と連携し、どのようなＳＷ実践を行ったかを説明できる。	実習中の地域連携について説明でき、その具体的な業務内容をＳＷ理論を用いて説明できる。	実習中の地域連携について、どんな機関と連携したかを説明できる。	左記の内容が何一つできていない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ソーシャルワーク実習指導III （科目ナンバリング：SWS123031 ）				
授業担当者（所属・職名）	小早川　俊哉（社会福祉学科・教授）・上原　正希（社会福祉学科・教授）・杉		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小早川　俊哉 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	ソーシャルワーク、ケアワークの実務経験のある教員が、実践現場における事例を参照しながら、現場実習の事後指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　事後学習（振り返り①）	実習の振り返り（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
2	事後学習（振り返り②）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
3	事後学習（振り返り③）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
4	事後学習（自己覚知①）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
5	事後学習（自己覚知②）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
6	事後学習（自己覚知③）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
7	事後学習（他職種・他機関連携①）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
8	事後学習（他職種・他機関連携②）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
9	事後学習（他職種・他機関連携③）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
10	事後学習（地域連携①）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
11	事後学習（地域連携②）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
12	事後学習（地域連携③）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
13	事後学習（ソーシャルワーク実践理論①）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
14	事後学習（ソーシャルワーク実践理論②）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
15	事後学習（ソーシャルワーク実践理論③）	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）
16	実習報告会	前回プリントの読み込み（９０分）	配布プリントの熟読（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	WEBﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES222031 ）				
授業担当者（所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 上坂　恒章 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業のおけるコンピュータスキルの実務経験を活かし，実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生がコンピュータを用いwebデザインの応用できる手法を学び，表現を修得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP54に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

Webプログラミングの基礎とコンテンツデザインの手法をマスターし，実際のコンテンツ制作の基礎，応用まで可能なスキルを修得することができる。

授業全体の内容と概要

コンセプト設定，情報の構造化，ページデザイン，インターフェース，画像処理手法等の講義とJavaScriptのプログラミングを学び，その成果を作品として制作し発表する。

授業の方法

授業では，テキスト及び配布したプリントの内容をプロジェクターにより投影し解説する。各項目ごとの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、評価をフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

コンピュータを利用するため，遅刻・欠席すると次の授業の理解が厳しくなるので注意すること。
「コンテンツデザインⅠ」知識が必要なので履修済みであること。
HTML５＆CSS３の基本を理解していること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施することができる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	30%	40%	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
インターネットやWebデザインに関する知識の理解	学習した内容から範囲を広げて、自ら学び、理解を深めていた。	学習した内容を理解していた。 検定に合格できるレベルに達している。	学習した内容を概ね理解していた。	学習した内容を最低限理解していた。	学習した内容を理解していなかった。
Webプログラミングの理解	JavaAcriptを完全に理解し、自ら更に理解を深めていた。	JavaAcriptを理解し、検定に合格できるレベルに達している。	JavaAcriptをお概ね理解していた。	JavaAcriptを最低限理解していた。	JavaAcriptの理解できていなかった。
Webサイトの制作	学んだ知識、技術を更に深めて、意図したとおり、Webサイトを制作することができる。	Webサイトを制作することができる。	Webサイトを概ね制作することができた。	Webサイトを最低限制作することができた。	Webサイトを制作することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	WEBﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ （科目ナンバリング：DES222031 ）				
授業担当者（所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 上坂　恒章 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業のおけるコンピュータスキルの実務経験を活かし，実践的な授業に取り組む。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『いちばんやさしいJavaAcriptの教本　第2版』	岩田宇史	インプレス	2023	9784295005926	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション -シラバスの説明，コンテンツデザインとは 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読み、コンテンツの意味を調べておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
2	Webデザインのアプローチ	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
3	コンセプトと情報設計①	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
4	コンセプトと情報設計②	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
5	デザインと表現手法①	プリントを予習すること（90分	授業の内容を復習すること（90分）
6	デザインと表現手法②	プリントを予習すること（90分	授業の内容を復習すること（90分）
7	知的財産権①	プリントを予習すること（90分	授業の内容を復習すること（90分）
8	知的財産権②	プリントを予習すること（90分	授業の内容を復習すること（90分）
9	JavaScriptの基本①	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
10	JavaScriptの基本②	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
11	JavaScriptの基本③条件分岐	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
12	JavaScriptの基本④関数	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
13	JavaScriptの基本⑤繰り返し	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
14	JavaScriptの応用①画像操作	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
15	JavaScriptの基本応用①サンプル	テキストの該当部分読んでおくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
16	作品講評 授業改善アンケートの実施	全授業の振り返りを行う（90分）	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ論 （科目ナンバリング：MAN424016，MAN524018 ）				
授業担当者（所属・職名）	猪尾　紀幸（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 猪尾　紀幸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、ビジネスプランにおける市場性と実現性を重視した実践的な講義を展開する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

本講義は、学生が経営における専門知識を広範に活用して創業計画を作成することを目的としている。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP２、DP３に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

本講義は、①事業計画の重要性を理解する。②企業（経営者）がとるべき戦略について理解する。③経営に関する専門用語についての意味や概念を理解する。以上の３つを理解した上で、創業計画書を作成することができることを到達目標としている。

授業全体の内容と概要

本講義は、創業計画書の作成を通して、事業コンセプト、企業理念、ビジョン、ビジネスモデル、ターゲット、市場の概念、マーケティングなど、事業計画の重要性と事業計画策定の肝を学ぶ。講義の後半は、創業計画の作成に傾注し、最終的には、ビジネスプランをプレゼンテーションしてもらい評価とする。

授業の方法

本講義の前半は、パワーポイント及び配布物資料で講義を進める。１枚のパワーポイントを掲示して、一連の解説が終了した後、一定の時間、学生がノートを書く時間を取る。講義の後半は、アクティブラーニングを活用し、講師とディスカッションしながら、創業計画を作成してもらう。最終的には、創業計画の内容をパワーポイントを使いプレゼンテーションする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義は、積極的に経営を学びたいという意欲ある学生の受講を期待する。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。
課題（創業計画）を提出した学生。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	７０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
創業計画書の作成に対応した文章表現力	創業計画書の各項目に対して、自分で調べた内容がわかりやすく書かれていた。	創業計画書の各項目に対して、自分で調べた内容が書かれていた。	創業計画書の各項目に対応する内容が書かれていた。	創業計画書の内容が最低限、読み手に伝わた。	創業計画書の内容が読み手に伝わらなかった。
創業計画書に対応したプレゼンテーション力	ビジネスプランの内容をについて、身振り手振りを加え、制限時間内に相手に伝わる発表ができた。	ビジネスプランの内容を聞きやすい言葉で制限時間内に発表することができた。	ビジネスプランの内容を時間内に発表することができた。	最低限、ビジネスプランの内容を発表することができた。	そもそも人前で発表ができなかった。
創業計画における総合的な実現性	オリジナリティがあり、戦略、財務計画までもが現実的な内容であった。	ある程度、オリジナリティのあるビジネスで市場性が高かった。	既存のビジネスに追従しつつも、差別化戦略が明確であった。	既存のビジネスに追従する内容でああった。	創業計画書が完成していなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ論	（科目ナンバリング：MAN424016，MAN524018 ）			
授業担当者（所属・職名）	猪尾　紀幸（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 猪尾　紀幸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中小零細企業への経営コンサルティングを実施している経営の専門家として、ビジネスプランにおける市場性と実現性を重視した実践的な講義を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ＭＢＡビジネスプラン』	グロービズ経営大学院	ダイヤモンド社	2010年	9784478014745	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明（講義全体の概要，講義のやり方，評価方法など）、授業改善アンケート結果反映の説明	必ずシラバスを読んでから，初回ガイダンスを受講すること。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
2	起業・創業とはどういうことか？　ビジネスプラン　キャリアプランの意味	起業家と呼ばれる人材を事前に調べること。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
3	創業・事業計画のから何がわかるのか？　何のために計画を策定するのか？	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
4	企業理念、ビジョンとは？　端的な言葉が人を動かす	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
5	市場と顧客の概念、ターゲットとは？	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
6	ビジネスモデルと業態　どんな儲け方をするのか？	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
7	マーケティングの基本的な考え方	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
8	マーケティング分析のフレームワーク（４Ｐ、３Ｃ分析など）	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
9	マーケティング分析のフレームワーク（ＳＷＯＴ分析、ＳＴＰ分析など）	創業者・起業家に関する新聞やインターネットの記事を読むこと。（９０分）	講義終了時に提示する課題についてレポートを作成すること。（９０分）
10	ビジネスプラン作成【ビジョン・コンセプトの設定】	自分の作成するビジネスプランを決めること。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
11	ビジネスプラン作成【ターゲット・商品の設定】	自分の作成するビジネスプランを決めること。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
12	ビジネスプラン作成【営業戦略を考える―販路・販売手法―】	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
13	ビジネスプラン作成【運営組織・生産体制を考える】	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
14	ビジネスプラン作成【損益計算書・資金繰り計画】	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
15	プレゼンテーションの基本　伝えるではなく→伝わることの重要性	プレゼンテーションの準備をする。（９０分）	ビジネスモデルを考え創業計画書を作成する。（９０分）
16	ビジネスプランのプレゼンテーション、講義全体のまとめ、課題提出、授業改善アンケートの実施	プレゼンテーションの準備をする。（９０分）	フィードバックを受けて自分のビジネスプランを見直す。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	WEBﾃﾞｻﾞｲﾝII （科目ナンバリング：DES222032 ）				
授業担当者（所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 上坂　恒章 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業のおけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

Webサイトのデザインをマスターする。また、サイトの企画力、デザイン力、情報収集能力を身に付ける。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP54に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP3、DP4に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

Webサイトの企画力、デザイン力、情報収集能力を身に付ける。

授業全体の内容と概要

Webサイトにおけるデザインカンプの手法をマスターし、テーマに従ってチームで制作を行うことにより実践力を養う。

授業の方法

授業では、各ステップの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、評価をフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

デジタルデザインⅠ、Ⅱ、WEｂデザインⅠを履修済みであること。
遅刻・欠席すると次の授業の理解が厳しくなるので注意すること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	２０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ワイヤーフレームについて	ワイヤーフレームを理解し、自ら学習して、更に理解の向上に努めていた。	ワイヤーフレームを理解していた。	ワイヤーフレームについて概ね理解していた。	ワイヤーフレームを最低限理解していた。	ワイヤーフレームを理解できなかった。
Webサイトのプロトタイピング	プロトタイプ制作でき、自ら応用するとができた。	プロトタイプを適切に制作することができる	プロトタイプを概ね理解し、制作することができる。	プロトタイプを最低限制作することできた。	プロトタイプを制作することができなかった。
Webサイトにおけるデザインカンプの制作	オリジナルのデザインカンプを制作することができる。	デザインカンプを制作することができる。	概ねデザインカンプ制作することがきりる。	最低限のデザインカンプすることができる。	デザインカンプ制作することができない

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	WEBﾃﾞｻﾞｲﾝII （科目ナンバリング：DES222032 ）				
授業担当者（所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 上坂　恒章 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業のおけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『AdobeXDではじめるWebデザイン＆プロトタイプ』	松下　絵梨	翔泳社	2020	978-4-7981-5871-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ーシラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。メディアアートについて調べておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
2	ワイヤーフレームの制作手法	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
3	スマートフォン用デザインカンプの方法①	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
4	スマートフォン用デザインカンプの方法②	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
5	インタラクティブ・プロトタイプの制作	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
6	プロトタイプとデザインスペックの共有	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
7	デザインカンプ	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
8	Web動画基礎	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
9	Web動画応用	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
10	Webサイトのデザイン（企画、調査）	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
11	Webサイトのデザイン（テーマの設定と情報収集）	作品の構想を完成させること（90分）	メディアアート作品の制作（90分）
12	Webサイトのデザイン（ラフデザインの検討）	メディアアート作品の制作（90分）	メディアアート作品の制作（90分）
13	Webサイトのデザイン（ワイヤーフレーム）	メディアアート作品の制作（90分）	メディアアート作品の制作（90分）
14	Webサイトのデザイン（デザイン制作、フォントの決定）	メディアアート作品の制作（90分）	メディアアート作品の制作（90分）
15	Webサイトのデザイン（制作完成）	プレゼン用レジュメの準備をすること（90分）	プレゼン用レジュメの準備をすること（90分）
16	プレゼンテーション 授業改善アンケートの実施	プレゼン用レジュメの準備をすること（90分）	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽ法務 （科目ナンバリング：LAW422018，LAW522020 ）				
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 青山　浩之 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

法令違反が企業の存亡をも左右する現在，法律を守りそれに従って行動することが強く求められる。ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を習得すること目的とする。さらにビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

ビジネス実務法務検定試験（東京商工会議所主催）を通して，ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を習得する。基本的法律知識を修得することにより，条文を理解し，適用・解釈できるようになる。

授業全体の内容と概要

ビジネスマンとして理解しておくべき基本的法律知識を修得することにより，ビジネス活動で生じる法的問題の発見能力とコンプライアンス能力を修得することを目的とする。ビジネス活動で日常起こりうる法的な問題点の認識。具体的には，民法・商法・経済刑法・知財法・独禁法・労働法・税法等，コンプライアンス・ＣＳＲ（企業の社会的責任）・内部告発。ビジネス実務法務検定試験受験対策講座。
「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業（第３回から第４回の計２回）は，資料をパワーポイントで投影し，資料を配布して実施する。授業の進行は，前回の復習から始まり，本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。問題演習を行う授業（第５回から第１４回の計１０回）は，資料を配布して実施する。
①確認テストは，講義の理解を深めるために４回（前年実績）実施する。②ビデオ視聴は，課題解決力を養うために１回（前年実績なし）（受講人数・使用教室などによっては実施しない）実施する。③小テストは，講義の理解を深めるために２回（前年実績）実施する。①②③についてのフィードバックは，講義内で解説を行う。
※補講が必要な場合は実施する（公欠などの学生に対しては補講を実施する）。
※確認テストなどは、Microsoft Formsの小テストから実施し、学生全体の理解度を把握し、指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・私語などの迷惑行為は厳禁。
・講義中スマホの操作は厳禁，マナーモードで受講してください。
・六法を持参することを推奨。
・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

教職課程（商業）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上
※課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の４割を占めるので，１２回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	０％	０％	２０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り，理解できる	法律の条文を読み取り，理解でき，さらに自分の意見を述べれた。	法律の条文を読み取り，理解でき，自分なりの説明できた。	法律の条文を読み取り，理解できた。	法律の条文を読み取れた。	法律の条文を読み取れなかった。
事例を理解し，法律の条文を適用できる	事例を理解し，法律の条文を適用し，さらに自分の意見を述べれた。	事例を理解し，法律の条文を適用し，自分なりの説明できた。	事例を理解し，法律の条文を適用できた。	事例を理解し，法律の条文を理解できた。	事例を読み取れず，法律の条文を理解できなかった。
課題に対し，問題解決ができる	解答が的確で，過不足なく網羅して答えれた。	解答は答えているが，一部に解答と関係ないことを答えていた	解答が一通り答えているが，改善すべき点があった	解答を部分的には答えているが，的確ではなかった	解答が論点にズレがあり，テーマに対して十分ではなかった

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ﾋﾞｼﾞﾈｽ法務 （科目ナンバリング：LAW422018，LAW522020 ）				
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 青山　浩之 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ポケット六法　令和６年版』	佐伯仁志・大村敦志・荒木尚志／編集代表	有斐閣	２０２３年	9784641009240	
2	『民法 第2版（ファーストトラックシリーズ 2）』	伊藤真	弘文堂	２０２０年	9784335314612	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス　シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ビジネス実務法務検定とは	シラバスの確認（９０分）	復習（９０分）
2	ガイダンス　シラバスの説明 ビジネスに関わる法律とは コンプライアンス能力とは	シラバスの確認 コンプライアンス能力についての調べ学習（９０分）	復習（９０分）
3	民法の概要１ 民法の基本原理 契約とは　賃貸借・使用貸借・消費貸借	民法の基本原理，契約（賃貸借・使用貸借・消費貸借）についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
4	民法の概要２ 民法の基本原理，契約（諾成契約と要物契約） 契約の一般的なきまり（承諾，条件・期限）	民法の基本原理，契約，契約のきまりについての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
5	問題演習　契約・不動産物権変動 確認テスト２（前年実績）	契約，物権変動についての調べ学習（９０分）	問題演習の復習（９０分） 確認テストの復習
6	問題演習　債務不履行，同時履行の抗弁権，担保責任，危険負担	債務不履行，同時履行の抗弁権，担保責任，危険負担についての調べ学習（９０分）	問題演習の復習（９０分）
7	問題演習　未成年者，成年被後見人，意思表示（心裡留保・虚偽表示・錯誤・詐欺・強迫）	制限行為能力者，意思表示についての調べ学習（９０分）	問題演習の復習（９０分）
8	制限行為能力者の法の見方・考え方	制限行為能力者についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
9	錯誤・詐欺の法の見方・考え方 問題演習　賃貸・賃借人の義務，借地・借家・賃借権	賃貸・賃借人の義務，借地・借家・賃借権についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習 問題演習の復習（９０分）
10	電子消費者契約特例法・消費者契約法の見方・考え方 問題演習　債権譲渡，物権（留置・質・抵当権），保証債務	債権譲渡，物権（留置・質・抵当権），保証債務についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習 問題演習の復習（９０分）
11	不法行為についての演習問題 確認テスト４（前年実績）	不法行為についての調べ学習（９０分）	問題演習の復習（９０分） 次回小テストを実施するので，復習しておくこと
12	問題演習　代理（表見・無権），不法行為 小テスト１（前年実績）	過失相殺，使用者責任，製造物責任，時効についての調べ学習（９０分）	問題演習の復習（９０分） 小テスト１の復習 次回小テストを実施するので，復習しておくこと
13	問題演習　過失相殺，使用者責任，製造物責任，時効	第５回から第１３回まで復習（９０分）	問題演習の復習（９０分） 小テスト２の復習
14	まとめ　問題演習の復習 小テスト２（前年実績）	第５回から第１３回まで復習（９０分）	問題演習の復習（９０分）
15	まとめ　問題演習の復習 定期試験の説明 授業改善アンケートの実施	第５回から第１３回まで復習（９０分）	試験範囲の確認により，第３回から第１４回まで復習（９０分）
16	定期試験（６０分） 定期試験の解説，採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認，第３回から第１４回まで復習（９０分）	復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	図学 （科目ナンバリング：AEA221141 ）				
授業担当者（所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館６階		
単位数	2 （単位認定責任者： 赤木　良子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計・インテリア実務設計経験		
オフィスアワー	Teamsにて事前に連絡の上、研究室にて臨機応変に対応。				

概要

履修目標

図学、つまり図形幾何学とは、3次元の立体を2次元の平面上に表現したり、2次元の平面情報から3次元の立体を再構成する技術である。 これは美術・デザインにおける表現手段の基礎的な技術の一つであり、製図の基礎として位置付けられる。 本実習ではこの表現技術について修得し、基本的な作図と立体表現ができるようになることを目標とする。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
デザイン学科のDP1、DP2、に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP1、DP2、DP3、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

基礎的な立体と平面の関係性の把握。
作図に必要な道具を使って水平・垂直・長さ・線の太さ・破線等を美しく正確に作図表現できる。

授業全体の内容と概要

まずは基本となる図形の書き方を定規やコンパスなどを用いて描く。
製図の基本的な仕組みや、立体を平面上で表現する基礎的な方法を学び、自分なりの表現技術の基礎を作る。

授業の方法

教科書、補足資料、パワーポイント、板書などに内容に応じて用いる。
授業形態は講義および、講義に対応した課題をその場で実施する。
アクティブラーニングとしては、自身で課題を製作するため、それ自体がアクティブそのものである。
学生同士で相談などしても良い。
課題に対するフィードバックは適宜行う。
基本的に授業は対面で実施するが，不測の事態が起きた際に，授業・補講はオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

【必要な道具（以下）】各自で準備のこと。（推奨商品リストを配布します）
製図用シャープペンシル（芯の太さ0.5、濃さB以上推奨）必須。そのほか、0.3,0.7などの太さがあっても良い。
定規（15cm，できれば30cmも）、三角定規、三角スケール、コンパス、カッターナイフ、スケッチブック（クロッキー帳でも良い）
その他通常の文具。
正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

１１回以上の出席と全課題作の完成・提出を必須とする。
（先述のように正当な理由なき１０分以上の遅刻に関して、遅刻３回を１回欠席とみなす。）

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
基礎的な立体と平面の関係性の把握ができている。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
作図に必要な道具を的確に使うことができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
基本的な図面の表現ができる。	十分出来ていた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	1		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	図学 （科目ナンバリング：AEA221141 ）				
授業担当者（所属・職名）	赤木　良子（建築学科・准教授）	研究室等所在	２号館６階		
単位数	2 （単位認定責任者： 赤木　良子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	建築設計・インテリア実務設計経験		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『建築図法　立体・パース表現から設計製図へ』	佐藤健司	学芸出版社	2019	9784761527211	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス：シラバスの説明、授業の進め方「線と分割」	シラバスを読んでおくこと（９０分）	課題の復習（９０分）
2	「つなげる」	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
3	「平面・立面・断面」（１）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
4	「平面・立面・断面」（２）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
5	アイソメトリック図	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
6	アクソノメトリック図	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
7	ヴォリュームの組み合わせと陰影図	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
8	透視図（１）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
9	透視図（２）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
10	透視図（３）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
11	作品制作（１）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
12	作品制作（２）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
13	作品制作（３）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
14	作品制作（４）	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
15	作品制作（５）講評	課題の予習（９０分）	課題の復習（９０分）
16	総評・授業評価アンケート	未提出課題等の仕上（９０分）	全体の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17		¥	
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業心理学 （科目ナンバリング：SOP123059，SOP423042，SOP523041 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 吉澤　英里 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

産業・組織について，心理学の領域ではどのような研究がなされているのかを理解する。さらに，そのような心理学的知見が社会（産業・福祉）の中でどのように活用されているのかを考える。

授業の位置づけ

経営学科のDP１に対応する。（２０２２年度）
社会福祉のDP１に対応する。（２０２２年度）
経営学科のＤＰ２、DP９に対応する。（２０２１年度）
社会福祉学科のＤＰ２、DP９に対応する。（２０２１年度）

到達目標

①産業心理学領域で扱われる理論や専門用語の内容を説明する。
②産業心理学領域で扱われる理論や専門用語が，社会活動の中でどのように活かされているのかを指摘する。
③学んだ知識的枠組みを手掛かりとして，現在の産業分野の社会問題の原因や解決方法を考察する。

授業全体の内容と概要

心理学は医療・保健、教育、福祉、司法、産業と、さまざまな領域で応用されている。産業心理学では、そのような基礎心理学の知見が産業分野でどのように応用されているのかを理解する。さらに、産業が抱える問題に対して心理学がどのように貢献できるのかについても知る。
「SDG3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

スライドや板書を提示しながら講義形式を中心に進行する。講義の最後にMicrosoft Formsを活用した振り返りを実施する。質問には随時対応し，振り返りにはフィードバックをする。
授業で使用するスライドはMicrosft Teamsを用いて共有する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業の運営・進行を著しく妨害するような行為（私語，大学で認められたもの以外の飲食，代返　等）が認められた場合，総合評価から大幅に減点することがある。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５５%	０%	４５%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識について，９割以上理解できた。	専門知識について，８割程度理解できた。	専門知識について，７割以上理解できた。	専門知識について，６割以上理解できた。	専門知識について理解できなかった。
専門知識の活用と応用	提示された専門知識が活かされるような社会的（産業，福祉）活動を複数挙げ，その根拠についても非常によく説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的（産業，福祉）活動を複数挙げ，その根拠についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的（産業，福祉）活動を挙げ，その根拠についても説明できた。	提示された専門知識が活かされるような社会的（産業，福祉）活動を挙げることができた。	提示された専門知識が活かされるような社会的（産業，福祉）活動を挙げることができなかった。
アカデミック・スキル（文章表現）	自らの考えを、アカデミックのルール（序論・本論・結論や文体の統一、引用など）に沿って、非常に表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール（序論・本論・結論や文体の統一、引用など）に沿って、かなり表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール（序論・本論・結論や文体の統一、引用など）に沿って、やや表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール（序論・本論・結論や文体の統一、引用など）に沿って、最低限表現できた。	自らの考えを、アカデミックのルール（序論・本論・結論や文体の統一、引用など）に沿って、表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	産業心理学 （科目ナンバリング：S0P123059，S0P423042，S0P523041 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 吉澤　英里 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『産業・組織心理学への招待』	白樫三四郎	有斐閣	2009	9784641183797	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明，産業心理学の歴史と研究領域）	産業心理学とはどのような学問領域かを調べる（９０分）	産業心理学で扱う内容について確認する（９０分）
2	動機づけ①（モチベーションの特徴、内容理論）	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
3	動機づけ②（過程理論　ほか）	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
4	作業の心理学①（作業の評価）	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
5	作業の心理学②（ヒューマンエラー、作業環境）	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
6	まとめ①（動機づけと作業の心理学）	２回から５回までの内容を振り返る（９０分）	これまでの内容について，疑問点を整理する（９０分）
7	集団と組織①（人々の認識とそのゆがみ）	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
8	集団と組織②（集団・組織の議論過程の問題）	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
9	集団と組織③（集団状況におけるパフォーマンス）	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
10	リーダーシップ	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
11	まとめ②（集団と組織、リーダーシップ）	７回から１０回までの内容を振り返る（９０分）	これまでの内容について，疑問点を整理する（９０分）
12	職場ストレスとカウンセリング（ストレスモデル）	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
13	消費者行動①（消費者の心理的メカニズム　ほか）	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
14	消費者行動②（販売・広告と消費者行動　ほか）	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
15	まとめ③（職場ストレスとカウンセリング、消費者行動） 授業改善アンケートの実施	１２回から１４回までの内容を振り返る（９０分）	これまでの内容について，疑問点を整理する（９０分）
16	６０分の試験終了後，残りの３０分で解説を行う。	資料を確認し，自分の言葉で授業内容を説明できるように準備する（９０分）	試験でわからなかったことを再確認する（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅴ(ﾗｸﾞﾋﾞｰ) （科目ナンバリング：HSS522077 ）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 佐藤　和裕 ）		CAP制	実技	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、安全かつ基礎的な技術を正確に指導できるように行っていく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

教職課程の科目なので、基礎からゲームに至るまでのさまざまな技術や方法を実践し自らの技術向上のみならず作戦をいかした攻防を展開しゲームが出来るようになるまでの指導力を修得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP４、DP５に対応する。（２０２３・２２年度）

到達目標

競技の特性やルールを学び理解するとともに、練習場などの安全を確かめ健康・安全に留意できる教員としての指導能力を身につけることができる。

授業全体の内容と概要

ラグビーの基礎技術の習得及びルールを学び、ゲームが出来るように授業を進める。　「ＳＤＧ　４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

ラグビーという種目の特性を考慮し基礎的な動作やルールを理解させ怪我に注意を払いながら応用できるように配慮していく。また授業の中で基本的な技術を反復し課題をフィードバックしながら技術に反映できるように工夫し進めていく。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

服装は実技にふさわしい物を着用して下さい。グラウンドでの実技はアップシューズを使用します。
雨又は雪の場合は体育館で実技を行います。その際に屋内運動靴を必ず用意する。
※健康上の理由で医師から運動を停止されている者は、申し出の上指示を受けること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１３回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	３０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
運動技能（基本技能）	ラグビーの各技能に優れ充分にできた。	ラグビーの各技能が７割程度できた。	ラグビーの各技能が５割程度できた。	ラグビーの各技能が３割程度できた。	ラグビーの各技能が全くできなかった。
競技知識（ルールの理解）	ルールを詳細まで理解していて審判を行うことができた。	細かいルールも理解することができた。	主なルールを理解することができた。	曖昧ではあるが少しルールを理解することができた。	全くルールを理解することができなかった。
社会的行動（挑戦する姿勢）	好奇心を持ち積極的に挑戦し成し遂げることができた。	前向きに取り組み努力することができた。	挑戦することができた。	とりあえずやってみるが、諦めないでできた。	できないと決めつけ、挑戦することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	球技Ⅴ(ﾗｸﾞﾋﾞｰ)　（科目ナンバリング：HSS522077　）				
授業担当者（所属・職名）	佐藤　和裕（経営学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　佐藤　和裕　）		CAP制	実技	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、安全かつ基礎的な技術を正確に指導できるように行っていく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『アクティブスポーツ総合版』	文部科学省	大修館書店	２０１９	4469365603	
2	『ラグビー上達テクニック』	林　雅人	実業之日本社	２００９	4408452548	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明） 授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んで確認しておく（４５分）	ガイダンスの内容を理解しておく（４５分）
2	基本技術の理解と習得（ボールコントロール・パス）	ラグビーの競技特性を確認しておく（４５分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（４５分）
3	基本技術の理解と習得（ボールコントロール・キック）	ラグビーの競技特性を確認しておく（４５分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（４５分）
4	本技術の理解と習得（タックル）	ラグビーの競技特性を確認しておく（４５分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（４５分）
5	基本技術の理解と習得（スクラム）	ラグビーの競技特性を確認しておく（４５分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（４５分）
6	基本技術の理解と習得（ラインアウト）	ラグビーの競技特性を確認しておく（４５分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（４５分）
7	基本技術の理解と習得（モール・ラック）	ラグビーの競技特性を確認しておく（４５分）	ラグビーの競技特性を理解しておく（４５分）
8	応用技術の理解と習得	ラグビーの応用技術を確認しておく（４５分）	ラグビーの応用技術を理解しておく（４５分）
9	戦術に関する理解と実践　攻撃編	ラグビーの攻撃について　確認しておく（４５分）	ラグビーの攻撃について　理解しておく（４５分）
10	術に関する理解と実践　守備編	ラグビーの守備について　確認しておく（４５分）	ラグビーの守備について　理解しておく（４５分）
11	試合形式による審判法の実践	ラグビーのルールについて　確認しておく（４５分）	ラグビーのルールについて　理解しておく（４５分）
12	試合形式による戦術の理解と実践　攻撃編	ラグビーの攻撃の戦術について確認しておく（４５分）	ラグビーの攻撃の戦術について理解しておく（４５分）
13	試合形式による戦術の理解と実践　守備編	ラグビーの守備の戦術について確認しておく（４５分）	ラグビーの守備の戦術について理解しておく（４５分）
14	試合形式（少人数でのゲーム）	少人数でのゲームについて確認しておく（４５分）	少人数でのゲームについて理解しておく（４５分）
15	試合形式（ゲーム）	ゲーム運営について確認しておく（４５分）	ゲーム運営について理解しておく（４５分）
16	総合評価、到達度確認(授業改善アンケートの実施)	ラグビーの特性やルールについて確認しておく（４５分）	指導における留意点を復習し理解しておく（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神障害ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ論　（科目ナンバリング：SWS123042　　）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　畠山　明子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則、精神障害リハビリテーションの構成及び展開、精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関、精神障害リハビリテーションの動向と実際について学び、精神保健福祉士に求められる知識および技術を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ２、ＤＰ３、ＤＰ５に対応する。（２０２２年度）

到達目標

①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。
②精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。
③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。

授業全体の内容と概要

①精神障害リハビリテーションが医学的な回復にとどまらず、一人の人として尊厳のある社会生活を送ることを保障するものであることを学ぶ。
②精神障害リハビリテーションの歴史と現状、精神障害リハビリテーションプログラムの内容について学ぶ。
「SDGs3．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

①教科書の内容をまとめた配布資料に基づく講義形式になるが、新聞記事の活用や映像資料の視聴、演習（グループワーク等）も取り入れる。配布された資料には板書事項を記述すること。
②毎回の感想・質問等をMicrosoft Formsを通して提出し、次回授業開始時にフィードバックを行う。
③第１０回目の前半には中間テストを実施し、理解度を確認する（出題形式・試験時間等は授業内で説明）。
④授業資料の配信等においてMicorsoft Teamsを活用する。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②配布資料は紛失しないよう、ファイリングする等して管理を徹底すること。
③ニュースなどで報道される福祉に関わる話題について興味を持つこと。
④新聞記事などを題材として社会福祉の現状や課題を検討する等、常に問題意識を持ちながら積極的に授業に参加すること。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程、スクール（学校）ソーシャルワーカー資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

出席回数は定期試験前までに１０回以上あることを評価の前提条件とし、第１０回目に実施する中間テスト（３０点）、第１６回目に実施する定期試験（７０点）の結果を総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	３０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。	関係するキーワードを用いてについて精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について、具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割についておおむね説明できた。	精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションプログラムについて具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションプログラムについておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションプログラムについて具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションプログラムについておおむね説明できた。	精神障害リハビリテーションプログラムに関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について具体的に説明できた。	関係するキーワードを用いて精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連についておおむね具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について具体的に説明できた。	関係するキーワードを提示することにより精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連についておおむね説明できた。	精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連に関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神障害ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ論 （科目ナンバリング：SWS123042 ）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2 （単位認定責任者： 畠山　明子 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座３　精神障害リハビリテーション論』	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	2021	9784805882542	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明、精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク①（精神障害リハビリテーションとソーシャル	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
2	精神障害リハビリテーションとソーシャルワーク②（精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
3	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則①（精神障害リハビリテーションの理念と定義）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
4	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則②（医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
5	精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則③（精神障害リハビリテーションの基本原則、地域およびリカバリー概念を基盤としたリハビリテー	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
6	精神障害リハビリテーションの構成および展開①（精神障害リハビリテーションの対象）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
7	精神障害リハビリテーションの構成および展開②（チームアプローチ）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
8	精神障害リハビリテーションの構成および展開③（精神障害リハビリテーションのプロセス）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
9	まとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
10	中間テスト、振り返り	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）
11	精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関①（医学的リハビリテーションプログラム）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
12	精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関②（職業的リハビリテーションプログラム）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
13	精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関③（社会的リハビリテーションプログラム、教育的リハビリテーションプログラム）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
14	精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関④（家族支援プログラム、リハビリテーションプログラムに用いられるその他の手法・プログラ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
15	精神障害リハビリテーションの動向と実際	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。前回授業で指示した用語やテーマについて調べる。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説）、授業改善アンケートの実施	試験に向けて授業内容の振り返りを行う。（９０分）	試験で間違えたところ、理解があいまいだった箇所についてプリント等を確認して見直し、復習を行う。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	民法 （科目ナンバリング：LAW122131，LAW422033，LAW522034 ）				
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 青山　浩之 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

民法およびその関連法規について，基本となる知識を修得することを目的とする。法的な問題が生じたとき，迅速かつ的確に対応できるよう，条文を理解し，適用・解釈できるように学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP1、DP2、DP3に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

法律に対して感じるむずかしさや抵抗感を取り除き，法律学の基礎となる民法の面白さを伝える。法律の基本知識を修得することにより，条文を理解し，適用・解釈できる。

授業全体の内容と概要

法律の基本となる知識を修得することを目的とし，条文を理解し，適用・解釈できるようになることを目標とし，さらに法的な問題が生じたとき，迅速かつ的確に対応できる人材の育成することを目的とする。民法は，市民生活や経済活動を送るうえで基本となる法律であり，最も身近な法律である。民法の基本となる知識を修得し，実例に即し講義を行う。具体的には，総則・物権・債権からなる財産法を中心に解説する。
「SDG 10.人や国の不平等をなくそう」の関連科目。

授業の方法

授業は，資料をパワーポイントで投影し，資料（第３回から第１４回の計１２回）を配布して実施する（調査学習含む）。授業の進行は，前回の復習から始まり，本日の講義の内容を講義形式で解説を行う。
①確認テストは，講義の理解を深めるために６回（前年実績）実施する。②ビデオ視聴は，課題解決力を養うために２回（前年実績なし）（受講人数・使用教室などによっては実施しない）実施する。③課題は，講義の理解を深めるために１回（前年実績）実施する。①②③についてのフィードバックは，講義内で解説を行う。
※補講が必要な場合は実施する（公欠などの学生に対しては補講を実施する）。
※確認テストなどはMicrosoft Formsの小テストから実施し，学生全体の理解度を把握し，指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・私語などの迷惑行為は厳禁。
・講義中スマホの操作は厳禁，マナーモードで受講してください。
・六法を持参することを推奨。
・確認テストやビデオ視聴を実施するので遅刻は慎むこと。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・参考資料の配布方法や事前提供などについて配慮する。
・講義中の録音・録画・撮影などについて配慮する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上
※課題の提出等の定期試験以外の割合が単位認定基準の４割を占めるので，１２回以上の出席を推奨。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	１０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
法律の条文を読み取り，理解できた。	法律の条文を読み取り，理解でき，さらに自分の意見を述べることができた。	法律の条文を読み取り，理解でき，自分なりの説明できた。	法律の条文を読み取り，理解できた。	法律の条文を読み取れた。	法律の条文を読み取れなかった。
事例を理解し，法律の条文を適用できた。	事例を理解し，法律の条文を適用し，さらに自分の意見を述べることができた。	事例を理解し，法律の条文を適用し，自分なりの説明できた。	事例を理解し，法律の条文を適用できた。	事例を理解し，法律の条文を理解できた。	事例を読み取れず，法律の条文を理解できなかった。
課題に対し，問題解決ができた。	解答が的確で，過不足なく網羅して答えていた。	一部に解答と関係ないことを答えていたが，解答は答えていた。	改善すべき点があったが，解答を一通り答えていた。	的確ではないが，解答を部分的には答えていた。	解答が論点にズレがあり，テーマに対して十分ではなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	民法 （科目ナンバリング：LAW122131，LAW422033，LAW522034 ）				
授業担当者（所属・職名）	青山　浩之（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 青山　浩之 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『民法 第2版（ファーストトラックシリーズ 2）』	伊藤真	弘文堂	２０２２年	9784335314612	
2	『ポケット六法　令和６年版』	佐伯仁志・大村敦志・荒木尚志／編集代表	有斐閣	２０２３年	9784641009240	
3	『大学生活と法学』	江藤祥平・大塚智見・遠藤聡太・栗谷しのぶ・辰野喜則・田原	有斐閣	２０２２年	9784641126312	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明 ガイダンス	シラバスの確認（９０分）	復習（９０分）
2	シラバスの説明 ガイダンス 民法全体の概観	シラバスの確認 民法の特徴と基本原理の調べ学習（９０分）	復習（９０分）
3	民法の基本原理，契約，制限行為能力者（未成年者，成年被後見人）	民法の基本原理，契約，制限行為能力者についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
4	成年被後見人，意思表示（錯誤・心裡留保・通謀虚偽表示・詐欺・強迫）	成年被後見人，意思表示についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
5	代理（代理，表見代理，無権代理） 確認テスト１（前年実績）	代理（代理，表見代理，無権代理）についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
6	代理（無権代理） 確認テスト２（前年実績）	代理（無権代理）についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
7	問題演習の解答と解き方 時効（取得時効，消滅時効） 確認テスト３（前年実績）	時効（取得時効，消滅時効）についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
8	物権－物権法の概観	物権法についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
9	物権－用益物権（地上権，永小作権，地役権，入会権），物権の変動（動産，不動産），即時取得 確認テスト４（前年実績）	用益物権，物権の変動，即時取得についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
10	物権－物権の変動（登記），担保物権（留置権，先取特権，質権，抵当権） 確認テスト５（前年実績）	物権の変動（登記），担保物権（留置権，先取特権，質権，抵当権）についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
11	債権－法定地上権，保証契約 課題１（前年実績）	保証契約，連帯保証についての調べ学習（９０分）	課題の作成 配布資料の復習（９０分）
12	答案練習 債権－手付，担保責任	課題の作成 手付，担保責任についての調べ学習（９０分）	答案練習の復習 配布資料の復習（９０分）
13	債権－債務不履行，同時履行の抗弁権，危険負担 確認テスト６（前年実績）	債務不履行，同時履行の抗弁権，危険負担についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分），確認テストの復習
14	債権－不当利得，不法行為，使用者責任，工作物責任	不当利得，不法行為，使用者責任，工作物責任についての調べ学習（９０分）	配布資料の復習（９０分）
15	まとめ 授業改善アンケートの実施 定期試験の説明	第３回から第１４回まで復習（９０分）	試験範囲の確認により， 第３回から第１４回まで復習（９０分）
16	定期試験（６０分） 定期試験の解説，採点方法の説明 授業改善アンケートの実施	試験範囲の確認，第３回から第１４回まで復習（９０分）	復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ （科目ナンバリング：DES223051 ）				
授業担当者（所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 上坂　恒章 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業のおけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

コンピュータプログラムを用いメディアアート制作の基礎の学び、表現手法を修得する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1、DP3、DP5に対応する。（2023・2022年度）
デザイン学科のDP2、DP32、DP5に対応する。（2021年度）

到達目標

メディアアート作品を創作するための基礎技術を修得することができる。

授業全体の内容と概要

メディアアートの現状を紹介し，実施にプログラム（Processing）を学び、各自のメディアアート作品を創作する。

授業の方法

授業では、各ステップの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、評価をフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

デジタルデザインⅠ、Ⅱを履修済みであること。
遅刻・欠席すると次の授業の理解が厳しくなるので注意すること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	２０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
プログラムのコーディングの理解	学んだコーディングを理解し、自ら学習して、更に理解の向上に努めていた。	学んだコーディングを理解していた。	学んだコーディングを概ね理解していた。	学んだコーディングを最低限理解していた。	学んだコーディングを理解できなかった。
プログラムの操作スキル	学習したプログラムを適切に使うことができ、応用するｋとができた。	学習したプログラムを適切に使うことができた。	学習したプログラムを概ね使うことができた。	学習したプログラムを最低限使うことができた。	学習したプログラム使うことができなかった。
メディアアート作品の制作	オリジナルのメディアアート作品を制作することができた。	学習した内容を応用して、メディアアート作品を制作することができた。	学習した内容の知識でメディアアート作品を制作することができた。	非常に簡単なメディアアート作品を制作することができた。	メディアアート作品を制作することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ　（科目ナンバリング：DES223051　）				
授業担当者（所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　上坂　恒章　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業のおけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『「Processingをはじめよう　第2版」』	Casey Reas , Ben Fry	オライリー・ジャパン	2016	9784873117737	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ーシラバスの説明 メディアアートとは	シラバスを読んでおくこと。メディアアートについて調べておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
2	Processingの基礎	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
3	計算と変数について	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
4	繰り返しとランダムについて	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
5	条件分岐命令について	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
6	データの読み込みと画像の取り扱い	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
7	変換について	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
8	関数について	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
9	アニメーション	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
10	配列	指定部分のテキストを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
11	オリジナルメディアアート作品の制作　1	作品の構想を完成させること（90分）	メディアアート作品の制作（90分）
12	オリジナルメディアアート作品の制作　2	メディアアート作品の制作（90分）	メディアアート作品の制作（90分）
13	オリジナルメディアアート作品の制作　3	メディアアート作品の制作（90分）	メディアアート作品の制作（90分）
14	オリジナルメディアアート作品の制作　4	メディアアート作品の制作（90分）	メディアアート作品の制作（90分）
15	プレゼンテーション	プレゼン用レジュメの準備をすること（90分）	フィードバックするので、自己評価をすること（90分）
16	作品講評 授業改善アンケートの実施	全授業の振り返りを行う（90分）	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝ	（科目ナンバリング：　　）			
授業担当者（所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・特任教授）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2　（単位認定責任者：　上坂　恒章　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

コンピュータを用いデザインの基礎の学び、表現手法を修得し、オリジナルの作品を制作できる。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）

到達目標

画像処理ソフトAdobe社Photoshopを使用し、学生が画像処理及び作品制作のスキルを修得できる。

授業全体の内容と概要

基本機能からフォトレタッチ、色調補正、テキスト処理などの画像処理の方法を学ぶ。

授業の方法

授業では、各ステップに渡った内容のプリントを配布し、PCの操作によりプロジェクターに投影し解説する。ステップごとの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、その評価をフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

デジタルデザインを履修済みであること。
積み重ねの学習となるため、欠席しないようにすること。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施することができる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	５０%	３０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソフトウエアの理解	各種機能を十分理解し、自ら進んで学ぶことが十分できる。	各種機能を十分理解している。	各種機能を概ね理解している。	各種機能を最低限理解している。	各種機能を理解していない。
ソフトウエアの操作スキル	学習したコンピュータソフトの機能を完全に理解し、十分に使うことができ、更に学習を進め応用スキルが身についている、	学習したコンピュータソフトの機能を理解し、適切使うことができる。	学習したコンピュータソフトを概ね使うことができる。	学習したコンピュータソフトを最低限使うことができる。	学習したコンピュータソフトを使うことができない。
学習したソフトを利用した作品の制作と他者に伝える表現力	自分が表現したい作品を満足に制作でき、他者に十分伝えることができる表現となっている。	自分が表現したい作品を制作でき、他者に伝えることができる表現となっている。	自分が表現したい作品を概ね制作できる。	自分が表現したい作品を最低限制作できる。	自分が表現したい作品を制作できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	ｺﾝﾃﾝﾂﾃﾞｻﾞｲﾝ （科目ナンバリング：　　）				
授業担当者（所属・職名）	上坂　恒章（デザイン学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者：　上坂　恒章　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『入門CGデザイン』					
2	『Adobe　Photoshop　CC解説書』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 画像処理の基本について 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読み、画像処理を調べておくこと（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
2	画像解像度、ファイル形式について	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
3	選択範囲について	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
4	イラストレータとの統合処理	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
5	フォトレタッチ	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
6	色調補正（レベル補正，トーンカーブ）	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
7	テキスト処理	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
8	レイヤーアニメーション	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
9	チャネル、マスク処理の応用	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
10	フィルター処理の応用	プリントを予習すること（90分）	授業の内容を復習すること（90分）
11	課題作品制作1	課題作品のラフを完成すること（90分）	課題作品の制作を行うこと（90分）
12	課題作品制作2	課題作品のラフを完成すること（90分）	課題作品の制作を行うこと（90分）
13	課題作品制作3	課題作品のラフを完成すること（90分）	課題作品の制作を行うこと（90分）
14	課題作品制作4	課題作品のラフを完成すること（90分）	課題作品の制作を行うこと（90分）
15	プレゼンテーション	レジュメの準備をすること（90分）	フィードバックするので、自己評価をすること（90分）
16	作品返却 授業改善アンケートの実施	全授業の振り返りを行う（90分）	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う（90分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾀﾞﾝｽ （科目ナンバリング：HSS522079 ）				
授業担当者（所属・職名）	是枝　亮（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 是枝　亮 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

学校教育においてダンス教材を扱うのに相応しい、態度・能力・指向性のある人材を目指す。まずは履修者自身がダンスを楽しむ素養を身に付け、親しみを持てるようにする。その過程において、他者との関わり方や実施環境への配慮といった要素についても留意できるようにする。

授業の位置づけ

経営学科のDP２、DP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

ダンスに親しみ、楽しめむことができる。ダンスの基本の動き、音楽に合わせた動きの表現を理解し発表できるようになる。

授業全体の内容と概要

ダンスの基本の動き、音楽に合わせた動きの表現を中心に学び、最終的には課題に応じた創作ダンスの発表ができるようにする。

授業の方法

毎回の授業の中で、様々なダンスの動きや表現を学習する。
単なる模倣ではなく、個人やグループでテーマやモチーフを表現したダンスを創作していく。
不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

実技科目のため、運動できる服装で参加すること。
その他注意事項及び詳細に関しては、オリエンテーションで説明する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１1回以上。
授業に対する意欲・態度・技術の上達等を総合的に判定する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	３０%	０%	６０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ダンスに対する姿勢	音楽に合わせて自然と身体を動かしたり、自己の持つ考えや決められたモチーフついて表現することに楽しみを覚え、授業を通じてダンスに対して親しみを持つことができた。	音楽に合わせて身体を動かしたり、決められたモチーフついて表現することを楽しることがあり、ダンスに対して親しみを持てる場面もあった。	音楽に合わせて表現することを楽しみ、発表会等に向けて表現や創作をするこができた。	音楽や表現を楽しみ、身体を動かすことができた。	音楽に合わせた動きや表現に、積極的に取り組むことができなかった。
グループでの創作および発表	グループでの創作において、主体的にテーマに対する斬新なアイデアや大胆な動きの提言し、印象的な作品の創作につなげることができた。	グループでの創作において、テーマや動きのアイデアを考え、主体的に作品創作をすることができた。	グループでの創作において、テーマや動きのアイデアについての話し合いに十分参加できた。	グループでの創作や、他者の前での発表ができた。	グループでの創作や、他者の前での発表が十分できなかった。
他者との主体的なコミュニケーション	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを常にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを十分にとることができた。	他の履修者に対して、提案やアドバイスといった、主体的なコミュニケーションを自らとるこがあった。	他の履修者とコミュニケーションがとれた。	他の履修者と十分なコミュニケーションがとれなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ﾀﾞﾝｽ （科目ナンバリング：HSS522079 ）				
授業担当者（所属・職名）	是枝　亮（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1 （単位認定責任者： 是枝　亮 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『学校体育実技指導資料第9集 表現運動系及びダンス指導の手引』』	文部科学省	東洋館出版社	2013 年	9784491029771	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、ガイダンス・レクリエーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスの確認　（４５分）	ガイダンス内容の　理解（４５分）
2	からだほぐし、ダンスへの導入	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
3	ダンスへの導入　リズムに合わせて動く	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
4	ダンスへの導入　誰かと一緒に動く	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
5	ダンスへの導入　動きから作品へ	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
6	即興による表現　他者との関係	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
7	即興による表現　ものを使った表現	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
8	即興による表現　他者との関係	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
9	即興による表現　空間を活かした表現	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
10	作品創作への導入　イメージ・表現・動き	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
11	作品創作への導入　テーマ・モチーフ	授業内容のイメージ（４５分）	学習内容の復習　（４５分）
12	作品創作	作品創作の準備　（４５分）	進捗の振り返りと　確認（４５分）
13	作品創作	発表会へ向けた創作（４５分）	進捗の振り返りと　確認（４５分）
14	作品創作	発表会へ向けた創作（４５分）	進捗の振り返りと　確認（４５分）
15	発表会	発表会への準備　（４５分）	作品の振り返り　（４５分）
16	まとめ 授業改善アンケートの実施	授業全体の振り返り（４５分）	身に付いた事の確認　（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	柔道 （科目ナンバリング：HSS522080 ）				
授業担当者（所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1 （単位認定責任者： 三嶋　康嗣 ）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、柔道の精神と嘉納治五郎の目指す柔道修行の礎を理解させ、安全に柔道の技術的特性を指導していく。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

柔道の技術（礼法、基本動作、対人技能の投げ技・固め技等）を自から身につけ、安全に配慮しながら指導できるよう、指導法を実践し学ぶ。練習方法と審判法、試合運営法を習得し、安全かつ健康を保持増進し、加納治五郎先生の精神である「人格の完成をはかり、社会に貢献できるよう」学習する。

授業の位置づけ

経営学科のDP4、DP5に対応する。(2023・2022年度)

到達目標

学校体育の柔道指導法、武道の指導法を実践し学ぶ。
基本動作、対人的技能の投げ技・固め技、練習方法と審判方を習得する。
また、安全指導のあり方を学習する。

授業全体の内容と概要

基本動作、基本的な技術を実践し習得する。
安全指導への注意点を学び実践する。
試合運営の方法を習得する。

授業の方法

授業は実技のため、各人の技量が必要となってくる。基本的な動作（礼法・受身・技）を習得し、安全に注意を払いながら指導できるようにしていく。また、審判法やルールを理解し、円滑に試合運営ができるようにする。欠席・見学は無いよう体調管理に気を付け技の習得につとめる事。習得状況の確認試験を実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

柔道衣を正しく清潔に着用する。柔道衣はIJF規格若しくは全日本柔道連盟規格に適合するものを用意する。
武道の精神である、礼節を大切に励行する。
ルールで決められている、危険な物は身につけない（時計・指輪・ピアス・ミサンガ等）。
体調の悪い時は、事前に申し出ること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(保健体育)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
３０％	０％	０％	０％	６０％	１０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
柔道に対する関心・意欲・態度・判断	日本古来の武道である柔道の精神を理解し、自ら意欲的に取り組み、安全に細心の注意を払うことができた。	積極的に取り組み、安全に注意を払うことができた。	指示された事を普通に行い、安全に注意を払っていた。	指示されたことが理解できず、意欲もなく安全に注意を配っていなかった。	指示どおりにおこなわず、意欲も全くなく、安全に注意を配っていなかった。
各運動技能	礼法・受身・技の理合いを理解し、各項目において特に優れている技能を有する事ができた。	各項目において技能が7割程度習得できている事ができた。	各項目において技能が5割程度習得できている事がた。	各項目において技能が3割程度しか習得できていなかった。	各項目において技能が習得できていない、やる気がなかった。
知識・理解（ルール、審判、運営の仕方）	審判規定を完全にマスターし、審判やゲームの運営をスムーズに実施することができた。	審判規定をマスターし、審判やゲームの運営を助言を受けながら実施することができた。	審判規定を最低限マスターし、審判やゲームの運営を行うことができた。	審判規定を理解することができず、部分的にしか審判やゲームの運営をすることができなかった。	審判規定を習得できず、審判やゲームの運営を行うことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	柔道 （科目ナンバリング：HSS522080 ）				
授業担当者（所属・職名）	三嶋　康嗣（経営学科・専任講師）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 三嶋　康嗣 ）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、柔道の精神と嘉納治五郎の目指す柔道修行の礎を理解させ、安全に柔道の技術的特性を指導していく。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『柔道上達BOOK』	小俣幸嗣	成美堂出版	2004		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（授業の進め方、柔道の教育的意義、武道の歴史）シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読み確認をおこなう（４５分）	ガイダンスの内容を理解する（４５分）
2	柔道衣の着方、礼法、指導のあり方と基本動作と受身（後ろ受身、横受身、横転受身）	事前に柔道衣の着方、礼法、受身を学習する(４５分)	本日の授業内容を復習し、確認を行う(４５分)
3	基本動作、受身の復習（前回り受身）、安全な投げ方、袈裟固め	事前に基本動作の知識や投げ方の学習をする(４５分)	本日の授業内容を復習し、確認を行う(４５分)
4	投げ技（膝車、支え釣り込み足）、固め技（横四方固め）	事前に膝車、支え釣り込み足、横四方固めの学習を行う(４５分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(４５分)
5	投げ技（体落し、大腰）、固め技（上四方固め）、固め技のゲーム	事前に体落し、大腰、上四方固めの学習を行う(４５分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(４５分)
6	投げ技（小内刈、大内刈、大外刈）、固め技（縦四方固め）、固め技のゲーム	事前に小内刈、大内刈、大外刈、縦四方固めの学習を行う(４５分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(４５分)
7	投げ技、固め技の復習、約束練習、固め技の簡易試合	事前に今まで習得した技の復習を行っておく(４５分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(４５分)
8	投げ技（背負投、一本背負）、約束練習、かかり練習、固め技の簡易試合	事前に背負投、一本背負投の投げ方を学習する(４５分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める(４５分)
9	かかり練習、約束練習、自由練習の練習法	事前に練習方法の学習を行う（４５分）	本日の授業内容を復習し、さまざまな練習法を習得する（４５分）
10	投げ技（払腰、内股）、固め技（絞め技と間接技の原理と安全指導）	事前に払腰、内股、絞め技、関節技の学習をする(４５分)	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める（４５分）
11	投げ技１１・固め技６つの復習、約束練習	事前に、今までに学習した技を復習しておく（４５分）	本日の授業内容を復習し、技の習得に努める（４５分）
12	試合の方法、審判法、かかり練習、自由練習　担当：三嶋	事前に試合の方法、審判法を学習する（４５分）	本日の授業内容を復習し、審判法の習得に努める（４５分）
13	試合の運営法、技の判定基準、約束練習、かかり練習、自由練習	事前に審判法の復習及び試合の運営方法を学習する（４５分）	本日の授業内容を復習し、審判法、試合運営法を習得する（４５分）
14	簡易試合を通じ、試合の運営方法、審判法、技の判定基準、役割、役割分担を学ぶ	事前に13時間目の復習をしておく（４５分）	試合の運営法を習得し、安全に試合が運営できるか理解し工夫をする（４５分）
15	ミニ大会を実施、運営法を学ぶ	スムーズに大会を行えるよう手順を学習する（４５分）	技術、指導法、審判法を習得し、安全に授業を行えるようにする（４５分）
16	実技試験、到達度確認、授業改善アンケートの実施	実技試験の為の用具等の準備を行う（４５分）	指導における留意点を復習し、円滑に授業が行えるようまとめる（４５分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	課程必修
科目名称	教職実践演習(中・高)　（科目ナンバリング：EDU144168，EDU244116，EDU344110，EDU444112，EDU544121）				
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）、堀川　厚志（社会福祉学科・特任教		研究室等所在	未定	
単位数	2　（単位認定責任者：　塩﨑 大輔　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

（1）使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
（2）社会性や対人関係能力に関する事項
（3）生徒理解や学級経営等に関する事項
（4）教科等の指導力に関する事項
以上の項目で、個々の不足している知識や技能を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ（２）、ＤＰ（３）、ＤＰ（４）、ＤＰ（５）に対応する。（2021年度）
経営学科のＤＰ（２）、ＤＰ（３）、ＤＰ（４）に対応する。（2021年度）
デザイン学科のＤＰ（１）、ＤＰ（２）に対応する。（2021年度）
建築学科のＤＰ（１）に対応する。（2021年度）

到達目標

教員に求められる必要不可欠な資質能力、更に本学が揚げる教員養成理念に基づく必要な資質を身に付けることができる。

授業全体の内容と概要

大学４年間のそれぞれの学習内容、理解度を把握するための教職課程履修カルテ等に基づく担当教員の指導により、個々の能力・技能等の課題を理解し、その不足している知識や技能等を補うため自己目標を設定し、課題解決に向け取り組みを行う。授業の内容は、教職課程の個々の科目の履修により修得した専門的知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感，教育的愛情等を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力を養うため、教職経験者を含めた複数教員の協力方式による効果的な授業（ロールプレーイング・フィールドワーク・ワークショップ等）を展開する。「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業形態は講義形式であるが、板書の他に視聴覚メディア等を利用する。教職に関する科目の担当複数教員を中心に実践的な授業（ロールプレーイング・フィールドワーク・ワークショップ等）を展開する。また、内容によって、教科に関する科目の担当教員や教職の現場経験者、更に地元教育委員会等の連携により授業を運営する。また、学生は進んで学校ボランティア・学校サポーター等に参加して教育経験を得る。なお、課題として提出するレポート等ついては、評価とコメントによりフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席状況、受講態度の点で適格性を欠いていると判断された学生は、以後受講できなくなる場合があるので、真剣な取り組みを要する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

授業の参加態度、発表内容、レポート等を総合的に評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	２０%	０%	２５%	２５%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	レポート課題において、９割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、８割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、７割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた。	グループ討議などで、自分の意見を論理的まとめ、進んで発表することができた。	グループ討議などで、自分の意見を論理的まとめ発表することができた。	グループ討議などで、自分の意見をやや論理的まとめ発表することができた。	グループ討議などで、自分の意見を論理的まとめ発表することができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	学校サポーター・学校ボランティア・ＴＡなどに進んで参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義を理解することができた。	学校サポーター・学校ボランティア・ＴＡなどに参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義を理解することができた。	学校サポーター・学校ボランティア・ＴＡなどに参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義をやや理解することができた。	学校サポーター・学校ボランティア・ＴＡなどに参加し、「教育実習」における課題解決学習の意義を理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	課程必修
科目名称	教職実践演習(中・高)　（科目ナンバリング：EDU144168，EDU244116，EDU344110，EDU444112，EDU544121）				
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）、堀川　厚志（社会福祉学科・特任教		研究室等所在	未定	
単位数	2　（単位認定責任者：　塩﨑 大輔　）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『中学校学習指導要領解説　各教科編（最新版）』					
2	『高等学校学習指導要領解説　各教科編（最新版）』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバスの説明、資料の配布、各授業の到達目標の提示、学生個々の課題提示、学生の自己目標設定）、前年度の授業改善アンケート結果反	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	Ⅰ　使命感や責任感，教育的愛情等に関する事項 １．教職現場経験者（中学校・高等学校・特別支援学校）による「理想の教師像」の講義	事前に講義内容のプリントを読んでおくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
3	２．講義を参考にしたグループ討議「理想の教師像・私の教師像について」	グループ討議に参加できるよう準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
4	Ⅱ　社会性や対人関係能力に関する事項 １．「教育現場でのいじめや不登校，特別支援教育等の現状と課題について」の講義	事前に講義内容のプリントを読んでおくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
5	２．講義を参考にしたグループ討議「課題解決に向けての教師としてのアプローチについて	グループ討議に参加できるよう準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
6	３．場面に応じた教師としての話し方（挨拶・言葉遣い等）及び日常的に発生する学級内の問題解決について	ロールプレーイングについて学習しておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
7	４．「地元学校における現地調査」＜フィールドワーク＞	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	フィールドワークの内容をまとめておくこと。（９０分）
8	５．「福祉施設等における現地調査」＜フィールドワーク＞	フィールドワークの準備をしておくこと。（９０分）	フィールドワークの内容をまとめておくこと。（９０分）
9	Ⅲ　生徒理解や学級経営等に関する事項 １．講演「生徒が所属感，効力感を感受する学級経営について」（教育委員会指導主事又は地元学校校	学級経営について、学習しておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
10	２．講演を参考にした意見発表と集団討議「私の学級経営方針について」	グループ討議に参加できるよう準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
11	Ⅳ　教科等の指導力に関する事項 １．教育実習経験を踏まえた授業設計と模擬授業の実施	模擬授業の準備をしておくこと（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
12	２．教育実習経験を踏まえた授業設計と模擬授業の実施	模擬授業の準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）
13	Ⅴ 学生個々の課題解決の実施 １．学校サポーター・学校ボランティア・ＴＡ等の参加	参加準備をしておくこと。（９０分）	今回の体験をまとめておくこと。（９０分）
14	２．学校サポーター・学校ボランティア・ＴＡ等の参加	参加準備をしておくこと。（９０分）	今回の体験をまとめておくこと。（９０分）
15	３．学校サポーター・学校ボランティア・ＴＡ等の参加	参加準備をしておくこと。（９０分）	今回の体験をまとめておくこと。（９０分）
16	まとめ（レポート課題等）の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備をしておくこと。（９０分）	今回の授業をまとめておくこと。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習　（科目ナンバリング：SWS122047　　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）、畠山　明子（社会福祉学科・准教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が、実習に向けた学習・体験などを通じて精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。
②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。
③ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
⑤具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ1、ＤＰ2、ＤＰ3、ＤＰ4、ＤＰ5に対応する。（2022年度）

到達目標

①ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。
②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。
③精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

授業全体の内容と概要

①教科書をもとに、実習事前・実習中・実習事後の学習方法を理解する。
②事前には、実習の目的と構造（実習および実習指導の意義や目的、実習におけるスーパービジョン、実習における教育評価、実習の構造、実習におけるリスクマネジメント）、実習先に向けた準備（情報収集の方法、実習記録の書き方、精神保健医療福祉の現状と精神保健福祉士の役割、精神保健福祉士実習の施設・機関の理解）、実習先決定後の準備（実習先決定後の学習の内容と方法、実習計画の作成、事前訪問／事前打ち合わせ）を行い、実習中には、実習スーパービジョン、実習中の評価、実習中に直面する悩み、実習中に起こり得る問題から学び、事後には、実習後に行う評価、事後学習の目的と方法、実習成果の報告（実習報告会）を通じて振り返りを行う。
「SDG 3．すべての人に健康と福祉を」、「SDG 4．質の高い教育をみんなに」の関連授業。

授業の方法

①教科書の主要な内容をまとめたレジュメを作成し報告することを通して、実習前・中・後に必要となる準備を行う。報告の分担は授業開始後に決定する。
②実習配属先が決定後、実習に向けた事前学習・実習計画書の作成を通して、自らの実習課題を設定すること。事前学習・実習計画書は個別指導を実施する。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④Microsoft Teams／Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②実習準備を行うことから出席を重視する。やむを得ず遅刻や欠席をするときには事前に連絡をすること。
③講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師による講義等も実施の予定である。実習生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。
④不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。成績は、レジュメの作成・報告（２０点）、事前学習・実習計画書の作成（５０点）、平常点（３０点）で総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	７０％	０％	３０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
①ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。	関係するキーワードを用いてソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いてソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することによりソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義についておおむね説明・記述できた。	ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難についておおむね具体的に説明・記述できた。	精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状、その生活の実態や生活上の困難について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
③ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等についておおむね具体的に説明・記述できた。	精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
④精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等についておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等について具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等についておおむね具体的に説明・記述できた。	精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等について関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。
⑤具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを用いて具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てておおむね具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てて具体的に説明・記述できた。	関係するキーワードを提示することにより具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てておおむね具体的に説明・記述できた。	具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てることについて関係するキーワードを理解しておらず、説明・記述が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習　（科目ナンバリング：SWS122047　　）				
授業担当者（所属・職名）	西野　克俊（社会福祉学科・准教授）、畠山　明子（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　西野　克俊　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健福祉士として相談援助に従事していた教員が、実習に向けた学習・体験などを通じて精神保健福祉援助実習が効果的になるように授業を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習【精神専門】』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	２０２１年	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバス説明、講義ー演習ー実習の循環	本講義で学ぶ概要についてシラバスや教科書の内容を確認する。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
2	ソーシャルワーク実習の目的と構造①（実習および実習指導の意義と目的）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
3	ソーシャルワーク実習の目的と構造②（実習におけるスーパービジョン、実習における教育評価）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
4	ソーシャルワーク実習の目的と構造③（実習における教育評価、実習の構造）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
5	実習先決定に向けた準備①（情報収集の方法、実習記録の書き方）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
6	実習先決定に向けた準備②（精神保健医療福祉の現状と精神保健福祉士の役割、精神保健福祉士実習の施設・機関の理解）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
7	実習先決定後の準備①（実習先決定後の学習の内容と方法）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
8	実習先決定後の準備②（実習計画の作成、事前訪問／事前打ち合わせ）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
9	実習中の学習①（実習スーパービジョン、実習中の評価）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
10	実習中の学習②（実習中に直面する悩み、実習中に起こり得る問題）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
11	実習後の学習①（実習後に行う評価、事後学習の目的と方法）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
12	実習後の学習②（実習成果の報告）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
13	実習の実際①（実習先で必要とされる精神保健福祉士としての専門的知識と技術、精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
14	実習の実際②（精神科医療機関における実習）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
15	実習の実際③（障害福祉サービス事業所における実習）	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）
16	実習の実際④（行政機関における実習）、まとめ	次回授業で取り扱う教科書の該当箇所について指示したキーワードを確認しながら読む。（９０分）	授業回の配布資料を用いて、重要なキーワードの復習や疑問点等を確認する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニティ心理学 （科目ナンバリング：CLP123058，CLP423047，CLP523046 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 吉澤　英里 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

学生が，コミュニティ心理学の理念と目標を理解し，コミュニティ心理学的介入方法について理解する。さらに，学生が，いくつかのコミュニティ活動の事例について見聞きしながら，実際のコミュニティにおける問題解決への心理学的アプローチの可能性について考察する。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP３に対応する。（２０２２年度）
社会福祉のDP１、DP３に対応する。（２０２２年度）
経営学科のDP2、DP９に対応する。（２０２１年度）
社会福祉学科のＤＰ4、DP９に対応する。（２０２１年度）

到達目標

①コミュニティ心理学で扱われる理論や専門用語の内容を理解する。
②実際のコミュニティ活動を通した問題解決の事例を，心理学の知見を援用しながら説明する。
③コミュニティ心理学に関するテーマについて，調べ，整理し，スライド資料を用いて紹介する。

授業全体の内容と概要

コミュニティ心理学の理念・目的に基づき，人が環境に適応するための援助だけでなく，個人を取り巻く環境改善への介入・援助の方法について学ぶ。さらに，従来の臨床心理学的なアプローチに加え，社会心理学的アプローチの可能性についても考察する。
「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業

授業の方法

前半は板書とパワーポイント，配布印刷物を活用しながら，講義形式で行う。前半の最後に授業内課題を実施し，知識の定着を図る。後半は履修生によるプレゼンテーションを実施する。質問には随時対応する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業の運営・進行を著しく妨害するような行為（私語，大学で認められたもの以外の飲食，携帯電話・スマートフォンの使用，代返　等）が認められた場合，総合評価から大幅に減点することがある。
プレゼンテーション発表の枠は、６枠×３回であり、その中で全履修者の発表を終わらせる必要がある。そこで、履修者の人数が多い（概ね20名以上）の場合、グループでの発表になることがある。
不測時における授業や補講等でオンラインにて授業を実施する。欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	３０%	６０%	０%	０%	１０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
専門知識の理解	専門知識を非常に理解できた。	専門知識をかなり理解できた。	専門知識をやや理解できた。	最低限の専門知識を理解できた。	最低限の専門知識を理解できなかった。
専門知識の応用	提示された社会問題の原因や解決策を挙げることができ，その理由を詳しく説明できた。 さらに，コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に，自ら社会問題の原因や優れた解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げることができ，その理由を説明できた。 さらに，コミュニティ心理学の知識の枠組みを元に，自ら社会問題の原因や解決策を提示することができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げることができ，その理由を説明できた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げることができた。	提示された社会問題の原因や解決策を挙げることができなかった。
プレゼンテーション	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を９割以上できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を８割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を７割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を６割程度できた。	プレゼンテーションの事前説明時に示された評価の観点を満たすことができなかった。
授業への積極的参加	授業へ非常に参加できた。	授業へかなり参加できた。	授業へやや参加できた。	授業へ最低限の参加ができた。	授業へ積極的に参加できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	コミュニティ心理学 （科目ナンバリング：CLP123058，CLP423047，CLP523046 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉澤　英里（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 吉澤　英里 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（シラバス及び授業改善アンケートの結果反映の説明，コミュニティとは）	コミュニティについて調べる（９０分）	本授業で扱うテーマを確認する（９０分）
2	コミュニティ心理学の歴史と特徴	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
3	コミュニティ心理学の理念と心理学者の役割	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
4	コミュニティ心理学の理論とモデル	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
5	予防プログラム	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
6	危機介入とコンサルテーション	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
7	ソーシャルサポートとセルフヘルプ	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
8	コミュニティ感覚と市民参加	関連する文献を読む（９０分）	授業内容を振り返る（９０分）
9	これまでの振り返り	これまでの内容を振り返る（９０分）	疑問点をまとめる（９０分）
10	プレゼンテーション①（テーマ，発表順の決定，準備）	関連する文献を読む（９０分）	発表テーマに関する資料を収集する（９０分）
11	プレゼンテーション②（準備，ディスカッション）	発表テーマに関する資料を収集する（９０分）	スライド資料をまとめる（９０分）
12	プレゼンテーション③（準備，ディスカッション）	プレゼンテーションの準備をする（９０分）	発表された内容を振り返る（９０分）
13	プレゼンテーション発表とディスカッション①（第１グループ）	プレゼンテーションの準備をする（９０分）	発表された内容を振り返る（９０分）
14	プレゼンテーション発表とディスカッション②（第２グループ）	プレゼンテーションの準備をする（９０分）	発表された内容を振り返る（９０分）
15	プレゼンテーション発表とディスカッション③（第３グループ）	これまでの内容を振り返る（９０分）	疑問点をまとめる（９０分）
16	これまでの内容の振り返り（プレゼンテーションの予備日を兼ねる） 授業改善アンケートの実施	これまでの内容を振り返る（９０分）	疑問点をまとめる（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護Ⅱ　（科目ナンバリング：CHS123094　）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　杉本　大輔　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照すること				

概要

履修目標

以下について理解し、事例研究やロールプレイ等を通して自己覚知を行う。
①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解する。
②施設養護及び家庭養護の実際について理解する。
③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。
④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。
⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解することができる。
②施設養護及び家庭養護の実際について理解することができる。
③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解することができる。
④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解することができる。
⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解することができる。

授業全体の内容と概要

①子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。
②施設養護及び家庭養護の実際について学ぶ。
③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について学ぶ。
④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について学ぶ。
⑤社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について学ぶ。

授業の方法

授業は、演習テーマに基づき思考・考察・意見交換・討論・発表等の一連の活動を行う。小グループでの話し合い、事例分析・ロールプレイング等を行い、それに基づく各自の感想、意見、振り返りを毎回述べてもらう。グループ発表、個人発表等に対してコメントを述べフィードバックを行う。レポートについても解説によるフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

保育士を目指す者として積極的に参加し、専門職としての自己を成長させるための時間として活用して欲しい。演習テーマに基づき小グループでの話し合い、ロールプレイング等を行うので主体的に参加して欲しい。そのためにも「準備学習」については、示したテーマに係るこれまでの学びを踏まえて整理すること。「事後学習」については、その日取り組んだ演習内容を記録し保育士を目指す者としての自己覚知を重視すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、ほぼ理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、やや理解を深めた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解することができた。	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について、理解することができなかった。
施設養護及び家庭養護の実際について	施設養護及び家庭養護の実際について、理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実際について、ほぼ理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実際について、やや理解を深めた。	施設養護及び家庭養護の実際について、理解することができた。	施設養護及び家庭養護の実際について、理解することができなかった。
社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、やや理解を深めた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、理解することができた。	社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について、理解することができなかった。
社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、やや理解を深めた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解することができた。	社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について、理解することができなかった。
社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、ほぼ理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、やや理解を深めた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解することができた。	社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	社会的養護Ⅱ　（科目ナンバリング：CHS123094　）				
授業担当者（所属・職名）	杉本　大輔（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　杉本　大輔　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（シラバス確認）、社会的養護における子どもの理解 授業改善アンケートの結果反映説明	社会的養護とは（９０分	演習の記録と自己覚知（９０分）
2	社会的養護の内容①日常生活支援	日常生活とは（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
3	社会的養護の内容②治療的支援	治療とは（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
4	社会的養護の内容③自立支援	自立とは（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
5	社会的養護の実際①施設養護の生活特性及び実際	施設養護の生活特性とは（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
6	社会的養護の実際②家庭養護の生活特性及び実際	家庭養護の生活特性とは（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
7	アセスメントと個別支援計画の作成	アセスメントとは（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
8	記録及び自己評価	記録のあり方について（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
9	保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	保育の専門性とは（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
10	社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践	相談援助の知識・技術について（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
11	社会的養護における家庭支援	家庭支援について（９０分）	レポート作成（９０分）
12	社会的養護の課題と展望	社会的養護の課題と展望について（９０分）	レポート作成（９０分）
13	社会的養護に関わる事例研究	事例研究（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
14	社会的養護に関わる事例に基づくロールプレイ	ロールプレイの準備（９０分）	演習の記録と自己覚知（９０分）
15	まとめ（授業改善アンケートの実施）	文献学習（９０分	文献学習（９０分
16	フィードバックとしてレポートに対する解説を行う	文献学習（９０分	文献学習（９０分

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ生理学 （科目ナンバリング：SPS522054 ）				
授業担当者（所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・専任講師）	研究室等所在	２号館７階		
単位数	2 （単位認定責任者： 天野　雅斗 ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	スポーツ医科学研究所や大学院生理学研究室での経験を活かして、スポーツ生理学の実践的活用方法について講義する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

運動・スポーツによる身体機能の変化について理解し、競技スポーツおよび健康増進のために必要な運動処方や理論を指導する知識を習得する。

授業の位置づけ

経営学科のDP2、DP4に対応する。（2023･2022年度）

到達目標

人間の筋・神経・呼吸・循環における生理学的基礎知識を学ぶとともに、運動・スポーツにおける生理学的変化を理解することで、健康維持や運動能力向上に効果的な運動処方を指導できる。

授業全体の内容と概要

前半は、骨格筋の収縮、呼吸に伴うガス交換や酸素摂取の基礎知識を学ぶ。後半はホルモン、体脂肪、体温、栄養と身体機能の関係について学び、さらには老化と身体機能、運動と生活習慣病との関係も理解させる。

授業の方法

各回のテーマについてテキストを使用しながら講義する。また、スポーツ現場で起こる生理的要因が影響するシーンを題材にしてグループディスカッションを行い理解を深める。双方向授業を展開するためにMentimeterやMicrosoft Teams を活用したExcelやPower Pointでの意見集約・共同作業、Formsでの確認テスト等を実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻３回で１回の欠席とする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（保健体育）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１3回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
３０%	０%	４０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	学習した知識・技能を確実に修得するとともに、それらに関連した知識・技能についても修得できた。	学習した知識・技能をおおむね修得できた。	学習した知識・技能を一定程度修得できた。	学習した知識・技能を最低限容認できるレベルで修得できた。	学習した知識・技能を修得できなかった。
思考力・判断力・表現力等	与えられた課題に積極的に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルに達した。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められるレベルに一定程度到達した。	与えられた課題に取り組み、その課題に対する理解力やプレゼンテーション能力に関して、求められる最低限容認できるレベルで到達した。	与えられた課題に取り組まなかった。
主体性・多様性・協働性	与えられた課題に積極的に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルを大きく超えた。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルに達した。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められるレベルに一定程度到達した。	与えられた課題に取り組み、積極性や協働性に関して、求められる最低限容認できるレベルで到達した。	与えられた課題に取り組まなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科（スポーツマネジメントコース）・３		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｽﾎﾟｰﾂ生理学 （科目ナンバリング：SPS522054 ）				
授業担当者（所属・職名）	天野　雅斗（経営学科・専任講師）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2 （単位認定責任者： 天野　雅斗 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	スポーツ医科学研究所や大学院生理学研究室での経験を活かして、スポーツ生理学の実践的活用方法について講義する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『入門運動生理学』	和田正信	杏林書院	２０１５	9784764411593	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	スポーツ生理学について シラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
2	筋収縮とエネルギー	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
3	筋線維の種類と特徴	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
4	筋の収縮様式と筋力	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
5	神経系の役割	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
6	運動と循環	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
7	運動と呼吸（ガス交換、酸素解離）	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
8	運動と呼吸（酸素摂取量）	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
9	運動とホルモン	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
10	身体組成と肥満	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
11	運動と体温	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
12	運動と疲労	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
13	運動と栄養	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
14	老化と身体機能	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
15	運動と生活習慣病	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）
16	テスト及び解説 授業改善アンケートの実施	教科書理解（９０分）	学習内容の復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地誌 （科目ナンバリング：HUG122129， ）				
授業担当者（所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 塩﨑　大輔 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

海外の事例と身近な事例を通して地誌学の基礎概念や方法論に触れ、議論することができる知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ４、５に対応する。　（2023・2022年度）

到達目標

地誌学の基礎を身につける。
東南アジアの事例から、地域と経済の関係を考えることができる。

授業全体の内容と概要

本授業では東南アジアを対象とし、その土地の地理的条件と人々の活動の関係を通して地誌学の基礎概念を身につけることを目標とする。また東南アジアというグローバルな視点から日本との関係を知ることにより、多面的多角的なモノの見方を習得する。まずマレーシアを中心とした東南アジアの地理的条件および産業を学び、アジア通貨危機と世界金融危機によってどのような影響を受けたのかを解説する。そして東南アジア諸国における港湾の発達、知的クラスターの形成、そうして生み出された知的財産家の保護に焦点をあて説明する。
「ＳＤＧs４．質の高い教育をみんなに」および「ＳＤＧs９．産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連科目。

授業の方法

授業は基本的に講義形式で行い、適宜課題に沿った作業を行う。教科書を中心にスライド資料及び映像資料を交えながら講義を進める。そのため、教科書を必ず用意すること。また適宜国土地理院地理院地図などのWebGISを利用する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義内で適宜連絡する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	５０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北海道誌の理解	レポート課題において、９割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、８割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、７割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができなっかた。
地誌的記述	右の記述を高いレベルで実現できた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、地域をより深く考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、地域を深く考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、地域を考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、地域を考察することができなかった。
情報収集・整理	右の記述を高いレベルで実現できた。	地域の情報を収集し、わかりやすく整理することができた。	地域の情報を収集し整理することができた。	地域の情報を収集することができた。	地域の情報を収集することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	地誌 （科目ナンバリング：HUG122129， ）				
授業担当者（所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 塩﨑　大輔 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『東南アジアの経済発展と世界金融危機』	橋本 雄一	古今書院	2014	4772252746	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明（授業内容と課題・評価基準の説明含む）	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	地誌学概論	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
3	東南アジアの地理的条件	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
4	マレー半島の歴史	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
5	東南アジアの産業政策	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
6	グローバル化と金融	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
7	アジア通貨危機の概要と発生	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
8	アジア通貨危機と東南アジア経済	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
9	金融と土地利用　～住宅バブル～	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
10	CDOとCDS	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
11	世界金融危機の概要と発生	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
12	世界金融危機と東南アジアへの影響	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
13	東南アジアにおけるインフラ整備と地域開発	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
14	東南アジアにおける知的クラスターの形成	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
15	これからの地理教育における地誌の課題	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備。（９０分）	まとめの振り返り。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅳ(言葉)　（科目ナンバリング：CHS122081　）				
授業担当者（所属・職名）	太田　俊一（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　太田　俊一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

この科目は、以下の２つを授業の目的とする。
１．養護と教育にかかわる保育の内容が，それぞれに関連性を持ち，総合的に保育を展開していくための知識技術，判断力を習得する。
２．子どもの発達を「言葉」の領域から捉え，子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP３、DP４に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

「言葉」の領域を学ぶことにより，子ども理解を深めながら保育内容を理解し、具体的に述べる。

授業全体の内容と概要

保育における領域「言葉」を学修する。「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。
最後に「言葉」「表現」に関するまとめとして発表を行い、お互いに評価しあう。
なお、レポートや課題・作品提出の際にはコメントをつけてフィードバックする。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。
遅刻の場合、入室はできるが２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	５０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
領域「言葉」に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「言葉」の側面から具体的なな援助技術を深く理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的なな援助技術をおおむね理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的なな援助技術を理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的なな援助技術をやや理解できた。	領域「言葉」の側面から具体的なな援助技術を理解できなかった。
領域を意識した「言葉」に関する思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	総合的な保育内容の展開について十分に考察できた。	総合的な保育内容の展開についておおむね考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できた。	総合的な保育内容の展開についてやや考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	総合的な保育内容の展開について学修したことをわかりやすく説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをおおむね説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをやや説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅳ(言葉)　（科目ナンバリング：CHS122081　）				
授業担当者（所属・職名）	太田　俊一（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	1　（単位認定責任者：　太田　俊一　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育者のための言語表現技術』	古橋和夫	萌文書林	２０１９	9784893473493	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明　授業改善アンケートの結果反映の説明 子どもの言葉と育ち	指定した教科書を事前に読むこと（９０分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
2	保育所保育指針における「言葉」の理解 乳幼児期の言葉の発達	指針「言葉」を事前学習しておく（９０分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
3	子どものことばと保育者-どう捉え、どう関わるか-	環境保育について事前学習しておく（９０分）。	３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
4	うたや触れ合いを楽しむ（わらべうた、うた遊び）	語彙について事前学習しておく（９０分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
5	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ①（児童文化財）	発達過程を理解しておく（９０分）。	５回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
6	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ②（児童文化財）	発達過程について事前学習しておく（９０分）。	授業終了時に示す課題を作成する（９０分）。
7	絵や劇、物語とことばの豊かな世界を楽しむ③（児童文化財）	ここまでに学んだことを整理しておく（９０分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
8	特別な配慮が必要な子どもの関わり 提出されたレポートの評価と解説をフィードバック 授業改善アンケートの実施	「言葉」の意義を事前学習しておく（９０分）。	これまでの授業で理解した点を整理する（９０分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態		必修・選択	
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑVIII　（科目ナンバリング：IRE324079　）				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	1　（単位認定責任者：　）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー					

概要

履修目標

授業の位置づけ

到達目標

授業全体の内容と概要

授業の方法

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

修学サポート（合理的配慮）

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態		必修・選択	
科目名称	ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑVIII　（科目ナンバリング：IRE324079　）				
授業担当者（所属・職名）		研究室等所在			
単位数	1　（単位認定責任者：　）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ⅴ(表現)　（科目ナンバリング：CHS122082　）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）	研究室等所在	１号館2階		
単位数	1　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、領域「表現」と保育内容の関連を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

この科目は、以下の２つを授業の目的とする。
１．養護と教育にかかわる保育の内容が，それぞれに関連性を持ち，総合的に保育を展開していくための知識技術，判断力を習得する。
２．子どもの発達を「表現」の領域から捉え，子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）
社会福祉学科のDP１、DP３、DP４に対応する。（2023・2022年度）
社会福祉学科のDP１、DP３、DP５、DP６、DP９に対応する。（2021年度）

到達目標

「表現」の領域を学ぶことにより，子ども理解を深めながら保育内容を理解し、具体的に述べる。

授業全体の内容と概要

保育における領域「表現」を学修する。「SDG4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。
最後に「表現」に関するまとめとして発表を行い、お互いに評価しあう。
なお、レポートや課題・作品提出の際にはコメントをつけてフィードバックする。
Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

課題の内容及と提出方法及び課題・平常点の評価は加点方式とし、授業時間に説明する。
遅刻の場合、入室はできるが２０分以上の遅刻は欠席扱いとする。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は６回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	５０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
領域「表現」に関する知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	領域「「表現」の側面から具体的なな援助技術を深く理解できた。	領域「表現」の側面から具体的なな援助技術をおおむね理解できた。	領域「表現」の側面から具体的なな援助技術を理解できた。	領域「表現」の側面から具体的なな援助技術をやや理解できた。	領域「表現」の側面から具体的なな援助技術を理解できなかった。
思考力判断力表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	総合的な保育内容の展開について十分に考察できた。	総合的な保育内容の展開についておおむね考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察できた。	総合的な保育内容の展開についてやや考察できた。	総合的な保育内容の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	総合的な保育内容の展開について学修したことをわかりやすく説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをおおむね説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことをやや説明できた。	総合的な保育内容の展開について学修したことを説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育内容演習Ｖ(表現)　（科目ナンバリング：CHS122082　）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館2階	
単位数	1　（単位認定責任者：　吉江　幸子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実践経験を活かし、領域「表現」と保育内容の関連を指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『保育者のための言語表現の技術』	古橋和夫	萌文書林	2019	9784893473493	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 子どもの姿に学ぶ 保育における領域「表現」のねらいと内容	指定した教科書を事前に読むこと（９０分）。	１回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
2	保育内容「表現」と他領域の関係 表現とICT	指針「表現」を事前学習しておく（９０分）。	２回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
3	保育室における表現① 保育室における表現②	環境保育について事前学習しておく（９０分）。	３回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
4	保育室における表現③ 屋外における表現①	表現の基礎について事前学習しておく（９０分）。	４回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
5	屋外における表現② 屋外における表現③	発達過程を理解しておく（９０分）。	５回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
6	地域・行事における表現① 屋外における表現②	保育の阻害環境について事前学習しておく（９０分）。	授業終了時に示す課題を作成する（９０分）。
7	屋外における表現③ 幼児期からみた連携プログラム	ここまでに学んだことを整理しておく（９０分）。	７回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
8	児童期からみた連携プログラム	「表現」の意義を事前学習しておく（９０分）。	８回目の授業で理解した点を整理する（９０分）。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育Ⅱ　（科目ナンバリング：SNE123093　）				
授業担当者（所属・職名）	坂上　俊樹（社会福祉学科・非常勤教員）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2　（単位認定責任者：　坂上　俊樹　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（障害児保育全般と発達障害）について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

障害のある子どもの保育に携わる保育士に必要なさまざまな援助技能を、シミュレーション学習をとおして習得するとともに、子ども１人ひとりの発達課題と生活課題を明らかにすることによって保育場面で援助技能を適切に活用して援助することを理解できるようになる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP２、DP４、DP５に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

障害のある乳幼児の障害特性を知るとともに、障害のあるなしにとらわれない視点から保育実践を行うことのできる保育士になるために、必要な知識・技術について具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

統合保育場面や家族支援の事例に基づき、ロールプレイ等のシミュレーション学習を通して、遊びや対人関係の援助、日常生活動作等に関する具体的な保育技術、保育計画の立案や面接・記録の技法の実際を学び、保育士としての心構えを取得する。
「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

教科書の輪読、パワーポイント及び配布資料で教科書の内容を確認、ロールプレイや質疑応答の時間を設けるなどで基礎知識の定着をはかる。また、DVD で具体的な実践場面を視聴し内容をレポートにまとめ知識の伸展を図る。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・具体的な指導場面の指導事例を元に、ロールプレイで体感したり、障害児保育にかかわる実践事例のVTR 教材を視聴した後に、事例に基づいたレポート作成を求めるので、授業を欠席することのないよう留意すること。
・指定教科書は必ず持参して授業を受けること。
・不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	２０%	１０%	１０%	１０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
障害児保育Ⅱの理解	障害児保育Ⅱについて、学修した知識・技能を基盤に、さらに学修を深めようとすることができた。	障害児保育Ⅱについて、必要な知識・技能を理解することができた。	障害児保育Ⅱについて、一定程度の理解ができた。	障害児保育Ⅱについて、一部理解することができた。	障害児保育Ⅱについて、理解ができなかった。
障害児保育Ⅱの思考・判断・表現	障害児保育Ⅱについて、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	障害児保育Ⅱについて、思考・判断し、自ら表現することができた。	障害児保育Ⅱについて、思考活動に取り組み表現しようとすることができた。	障害児保育Ⅱについて、思考することができた。	障害児保育Ⅱにかかわる思考・判断・表現について必要な取り組みができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心を持って参加することができた。	授業へのいくらかの関心をもつことができた。	授業へ積極的に参加することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	障害児保育Ⅱ （科目ナンバリング：SNE123093 ）				
授業担当者（所属・職名）	坂上　俊樹（社会福祉学科・非常勤教員）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 坂上　俊樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（障害児保育全般と発達障害）について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『実践事例に基づく障害児保育』	七木田敦編著	保育出版社	2014年	978-4-938795-62-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、障害児保育Ⅱの概要	シラバスを確認しておくこと （９０分）	シラバスに基づいて、授業内容に見通しを立てる（９０分）
2	保育場面の事例を通して学ぶ①（アセスメント）	教科書の「障害のある子どもの保育とは」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
3	保育場面の事例を通して学ぶ②（保育計画の立案）	教科書の「特別支援教育と保育」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
4	保育場面の事例を通して学ぶ③（保育計画の立案２）	教科書の「特別支援教育と保育」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
5	保育場面の事例を通して学ぶ④（ロールプレイ 個別援助）	教科書の「かかわりの基本・ていねいなかかわり」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
6	保育場面の事例を通して学ぶ⑤（ロールプレイ 集団援助）	教科書の「学習に障害のある子どもの保育」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
7	家族支援の事例を通して学ぶ①（アセスメント）	教科書の「家庭との連携」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
8	家族支援の事例を通して学ぶ②（面接場面のロールプレイ）	教科書の「家庭との連携」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
9	家族支援の事例を通して学ぶ③（保護者会運営のロールプレイ）	教科書の「家庭との連携」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
10	スーパービジョンとチームワーク①（所内ケース検討会議のロールプレイ）	教科書の「保育所・幼稚園の支援について」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
11	スーパービジョンとチームワーク②（所内ケース検討会議のロールプレイ）	教科書の「保育所・幼稚園の支援について」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
12	ＤＶＤの視聴及びレポートの作成	配布した資料を事前に読んでおくこと（９０分）	ＤＶＤ視聴時のメモを元に整理する。（９０分）
13	他機関連携の事例を通して学ぶ②（児童相談所・保健所）	配布した資料を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
14	他機関連携の事例を通して学ぶ③（早期療育システム）	配布した資料を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
15	障害児保育にかかわる保育士の資質について総合的に検討する。 「授業改善アンケートの実施」	配布した資料を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残り３０ 分で解説する。）	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと(９０分)	試験の結果を見直す(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾗｳﾄﾞｺﾝﾋﾟｭｰﾃｨﾝｸﾞ （科目ナンバリング：MUD423059 ）				
授業担当者（所属・職名）	由水　伸（経営学科・教授）	研究室等所在	１号館２階		
単位数	2 （単位認定責任者：　由水　伸　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの運用経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報ネットワークの構築・運用に必要な知識について講義を行う		
オフィスアワー	講義時間以外は随時来室可（会議等で不在時を除く） 詳しくは研究室前の掲示ボード等を参照してください。				

概要

履修目標

・クラウドコンピューティングの理論知識、実践的スキル、クリティカルシンキングと問題解決力を養う科目である。
・インターネットを支える技術を基盤とした応用性の高い仕組・技術を理解する。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ（１）（２）に対応する。（２０２３・２０２４年度）

到達目標

・クラウドコンピューティングの基本概念、サービスモデルおよびクラウドの利点と課題に関する知識を修得する。
・クラウドサービスプロバイダーの基本的操作、クラウドリソース管理、アプリケーションのデプロイメントとモニタリングを行うことができる。
・クラウドコンピューティングを用いたビジネスや技術的課題の解決策の考案ができる。
・クラウドコンピューティングの利用に関連するコストとセキュリティを考慮に入れた提案ができる。

授業全体の内容と概要

基礎から応用まで段階的に学習を進め、クラウドコンピューティングの重要性とその応用を理解する。
「SDGs 9.産業と技術革新の基盤をつくろう」の関連授業。

授業の方法

授業の中ではパソコンやモバイル端末などＩＣＴ機器を利用し、実践的な学習機会を提供し、理論と実践の橋渡しを図る。
また、プロジェクトやケーススタディを取り入れることで、自発的な学習につなげる。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・受講にあたり、情報システム論、情報ネットワーク論を受講しておくことが望ましい。
・講義内容には前後の相関性があるので欠席しないこと。
・欠席者に対する補講はオンデマンドにて授業を提供する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な出席回数は１１回以上。
３０分以上の遅刻、早退は欠席とみなす。
授業中の課題も評価に含めるので、欠席をするとＳ評定の取得は困難となる点に注意すること。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	０%	５０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理論知識の理解 クラウドコンピューティングの基本概念、サービスモデル（IaaS、PaaS、SaaS）、およびクラウドの利点と課題に関する知識。	クラウドコンピューティングの高度な概念と技術を深く理解しており、授業外の事例や最新のトレンドについても言及できる。	必要な理論知識を正確に理解している。授業で学んだ内容を具体的な事例に適用できる。	基本的な理論知識は理解しているが、深い理解や事例への適用に若干の困難がある。	基本概念の理解に不足があり、重要なポイントを見落としている。	クラウドコンピューティングの基本概念の理解が不十分。授業内容の基本的な事項も理解していない。
実践的スキル クラウドサービスプロバイダーの基本的な操作、クラウドリソースの設定と管理、簡単なアプリケーションを利用可能とし、モニタリングを行う能力。	実践的なスキルで顕著な能力を示し、クラウド環境で複雑なタスクを自立して解決できる。	ほとんどの実践的なタスクを適切に実行でき、問題が生じた際には適切な解決策を見つけることができる。	基本的な実践的スキルはあるが、より高度なタスクや問題解決には支援が必要。	実践的な操作に苦手意識があり、基本的なタスクの実行も不安定。	実践的な操作やタスクの実行がほとんどできない。
クリティカルシンキングと問題解決 クラウドコンピューティングを用いたビジネスや技術的課題の解決策の提案、クラウドコンピューティングの利用に関連するコストとセキュリティの考慮。	クラウドコンピューティングに関する課題に対して独創的かつ効果的な解決策を提案できる。業界の最新トレンドを取り入れた提案ができる。	与えられた課題に対して論理的で実用的な解決策を提案できる。	基本的な問題解決はできるが、解決策に深みや創造性が欠けることがある。	単純な問題に対してのみ解決策を提案でき、複雑な課題には苦労する。	問題解決能力が不足しており、課題に対して効果的な解決策を提案できない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	ｸﾗｳﾄﾞｺﾝﾋﾟｭｰﾃｨﾝｸﾞ （科目ナンバリング：MUD423059 ）				
授業担当者（所属・職名）	由水　伸（経営学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 由水　伸 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業での情報システムの運用経験を持つ教員が、その実務経験を活かして情報ネットワークの構築・運用に必要な知識について講義を行う		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバスの説明と受講の注意点 授業の概要	シラバスを確認し、新出の用語を理解する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
2	クラウドコンピューティングとは何か クラウドの歴史と進化 基本用語と概念	クラウドコンピューティングとは何かを予習する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
3	クラウドコンピューティングの基本構成要素 ハードウェアとソフトウェア サーバー、ストレージ、ネットワーキング	コンピュータを構成する主な部品とその役割を予習する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
4	インターネットの理解 ネットワーク概論 インターネットの仕組み	インターネットの歴史的と背景について予習する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
5	クラウドコンピューティングとネットワーキング CDN（Content Delivery Network） VPN（Virtual Private Network）とクラウドネット	VPNを予習する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
6	クラウドサービスモデル IaaS、PaaS、SaaS	IaaS、PaaS、SaaSをそれぞれ予習する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
7	クラウドストレージとデータ管理 クラウドストレージの種類 データの移行と統合	Googleドライブと OneDriveについて比較する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
8	クラウドアプリケーション クラウドアプリケーションの利用 クラウドネイティブアプリケーション開発	クラウドアプリケーションの実例を調査する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
9	クラウドの経済性とビジネスモデル オンデマンド・セルフサービス 広範囲なネットワークアクセス	オンデマンド・セルフサービスの関と用語をいくつか選び理解する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
10	データ分析とクラウド ビッグデータとデータウェアハウジング AIと機械学習サービス	ビッグデータとは何かと使用例について予習する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
11	クラウドプロバイダー 主要なクラウドプロバイダーの特徴とサービスの比較	AWS、Azure、Google Cloudについて調査する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
12	クラウドのセキュリティとプライバシー セキュリティの基礎、暗号化とデータ保護 法規制と標準	インターネット上の情報流出事件と原因について調査する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
13	クラウドコンピューティングの将来とトレンド エッジコンピューティング クラウドとIoT（Internet of Things）	IoTについて予習する（９０分）	授業内容の復習をする（９０分）
14	実世界のクラウドコンピューティングの事例研究 グループ分け 事例研究テーマ選択と発表資料作成	企業におけるクラウドコンピューティングの事例を調査する（９０分）	発表資料の作成を続ける（９０分）
15	プレゼンテーションとフィードバック グループ別発表 フィードバックと質疑応答	発表資料を完成させる（９０分）	定期試験に備えて全講義内容を復習する（９０分）
16	定期試験（６０分）と解答・解説 （授業アンケート実施回）	定期試験に備えて全講義内容を復習する（９０分）	総復習（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育Ⅱ　（科目ナンバリング：SNE123108　）				
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　藤根　収　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、特別支援教育（知的障害教育）について指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

特別な支援を必要とする知的障害児の教育課程及び指導・支援の方法を理解し、知的障害児の教育を効果的に行うために必要な基本的知識と障害の状況等に応じた指導のあり方等の実践的な知識を習得する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２、ＤＰ４、ＤＰ５に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

特別支援学校学習指導要領等を基準として，知的障害教育における教育課程の編成やカリキュラム・マネジメントの考え方、個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成する意義と活用方法等を理解する。また、知的障害教育における自立活動の指導や各教科等の授業づくりにあたって、効果的な指導を行うために必要な指導内容・方法や児童生徒理解の方法等についての基礎的知識を理解する。

授業全体の内容と概要

毎回のテーマに基づき必要な事項を講義するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するため、テーマに関連する事項に関して考察、意見交換、発表等の一連の活動を行う。また、知的障害教育に係わる教育課程の編成や個別の指導計画の作成、授業づくりの仕方、各種検査の理解について、具体的な事例や演習方式も取り入れながら行う。
「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業ではパワーポイント及び配布物(レジメ)で実施し、資料にて説明した後、グループワーク等で、テーマに関する事項に関して、思考・考察、意見交換、討議、発表等の一連の活動を行うなどして理解を深める。また、実践事例のVTR教材視聴の事例に基づくレポート提出を行う。なお、レポート等にはコメントにてフィードバックする。
ＩＣＴに関連して、授業についての質問などは、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

２０分以上の遅刻は欠席とし、遅刻３回で欠席１回とみなす。
不測の事態が起きた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（特別支援学校教諭）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
５０%	２０%	０%	０%	３０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知的障害教育の専門的な知識・技能の習得	専門的な内容について高い関心をもって理解し、さらに深めてようとすることができた。	専門的な内容について、関心をもって理解し、学修することができた。	専門的な内容を学修することができた。	専門的な内容について一定程度理解することができた。	専門的な内容について理解できなかった。
知的障害教育に関する思考・判断・表現	テーマに基づき、積極的に思考・判断し、個人やグループで工夫して積極的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで意欲的に表現できた。	テーマに基づき、思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマに基づき、一部思考・判断し、個人やグループで表現できた。	テーマの受け止めが不十分で、思考・判断・表現が十分にできなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業に非常に積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業への関心が一定程度みられた。	授業への参加態度・姿勢が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	知的障害教育Ⅱ　（科目ナンバリング：SNE123108　）				
授業担当者（所属・職名）	藤根　収（社会福祉学科・特任教授）		研究室等所在	２号館７階	
単位数	2　（単位認定責任者：　藤根　収　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場や教育行政における経験がある教員がその経験を活かして、特別支援教育（知的障害教育）について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本　2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の授業案づくり』	太田正己	黎明書房	2016	978-4-654-01929-8	
2	『特別支援教育の学習指導案と授業研究』	肥後祥治　ほか	ジアース教育新社	2013	978-4-86371-213-3	
3	『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）』	文部科学省	開隆堂出版	2018	978-4-304-04230-0	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、知的障害教育について～	教科書から「知的障害教育」についての課題を整理する。（９０分）	課題についてノートに整理し、シラバスで確認すること。（９０分）
2	知的障害教育の基礎知識、関係する法令・制度等（教育基本法や学校教育法、学習指導要領等）の理解について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
3	特別支援学校学習指導要領のポイントとカリキュラム・マネジメントについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
4	特別支援学校や特別支援学級における教育について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
5	知的障害教育の歴史的変遷～戦前・戦後の教育、学習指導要領等の変遷等について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
6	教育課程（１） ～教育課程編成上の基本事項と指導の形態について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
7	教育課程（２） ～各教科等の指導における授業づくりについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
8	教育課程（３） ～各教科等を合わせた指導における授業づくりについて	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
9	教育課程（４） ～自立活動の指導と個別の指導計画の作成について	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
10	教育課程（５） ～学習指導案の作成と教材・教具の工夫、ＩＣＴの活用等	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
11	知的障害に関する理解（１） ～児童生徒理解と就学相談等の実際	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
12	知的障害に関する理解（２） ～発達検査の理解と活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
13	知的障害に関する理解（３） ～社会生活能力検査の理解と活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
14	知的障害に関する理解（４） ～知能検査の理解と活用	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な用語や事柄等をノートに整理する。（９０分）
15	まとめと今後の課題 授業改善アンケートの実施	教科書の該当部分を読んでおくことと課題を整理する。（９０分）	重要な語句や内容を整理するとともにレポートを作成する。（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、残りの３０分で解説する。）	教科書等で講義内容を整理する。（９０分）	試験の結果を見直す。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	金融論 （科目ナンバリング：MOF424026，MOF524028 ）				
授業担当者（所属・職名）	小林　大州介		研究室等所在	1号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小林　大州介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	基本的には事前調整による。もしくは、研究室前のボードを参照。				

概要

履修目標

昨今の世界経済における金融の役割は非常に大きくなっている。貿易額を見ても、実物取引よりも金融取引の方がはるかに規模が大きい。こうした金融のダイナミクスは取引の電子化により、世界経済の変転を加速しつつある。世界経済に大きな影響を与える金融のメカニズムについて、その歴史とシステムを良く理解し、今後の世界経済を分析する目を養う事を履修の目的とする。

授業の位置づけ

経営学科のＤＰ１、DP２に対応する。（2022年度）

到達目標

日本の金融システムを理解し、現状の世界経済を分析・説明出来る。

授業全体の内容と概要

１．金融の歴史
２．日本の金融
３．金融システムの理解
４．金融システムとマクロ経済学の関係の理解

授業の方法

パワーポイントによる講義・必要に応じて板書。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

本講義は教科書を使用せず、板書と配付資料によって行うので、必ず出席する事。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数１１回。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	0%	0%	0%	３０%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
金融の歴史について	貨幣の発生から保険や株式、金融システムの成立に至る歴史や、日本の金融史を網羅的に把握している。	貨幣の発生から保険や株式、金融システムの成立に至る歴史を把握している。	貨幣の発生から金融システムの成立に至る歴史を把握している。	金融システムの成立について、把握している。	金融システムの成立について、理解が見られない。
金融システムについて	金融システムにおける銀行の役割、利子形成の問題、資産保有とリスクの問題などについて網羅的に理解している。	金融システムにおける銀行の役割、利子形成の問題、資産保有とリスクの問題などについて理解している。	金融システムにおける銀行の役割、利子形成の問題について網羅的に理解している。	金融システムにおける銀行の役割について理解している。	金融システムに関する理解が見られない。
金融とマクロ経済について	景気循環やインフレ、デフレ、バブルが生じる一般的なメカニズムなどに関して、網羅的に理解している。	景気循環やインフレ、デフレ、バブルが生じる一般的なメカニズムなどに関して理解している。	景気循環やインフレ、デフレに関して理解している。	金融と景気循環の関係を理解している。	金融と景気の関係に関して理解が見られない。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	金融論 （科目ナンバリング：MOF424026，MOF524028 ）				
授業担当者（所属・職名）	小林　大州介		研究室等所在	1号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小林　大州介 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	初回オリエンテーション：本講義の進め方 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを良く読み、金融に関するネットニュースや新聞を良く読んでおく。（９０分）	今後のスケジュールをよく確認しておく。（９０分）
2	「金融」とは何か	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
3	金融システム発達の歴史	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
4	日本の金融システム１：日本の金融史	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
5	日本の金融システム２：日本の金融システム	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
6	「貨幣」とは何か：交換と貯蔵	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
7	資産と金融１：不確実性の回避手段としての金融	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
8	資産と金融２：金融市場と資産価格	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
9	銀行の役割と「利子」	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
10	イノベーションと金融：資金はどこから来るのか？	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
11	マクロ経済学から見た金融の役割１：金融と景気	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
12	マクロ経済学から見た金融の役割２：マクロ経済システム	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
13	バブル経済と金融：日本の経験を踏まえて	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
14	昨今の金融ニュースを読む：日本と世界の情勢	講義回に該当するトピックについて、配付資料やネットニュースなどで良く調べておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
15	講義全体のまとめ	これまで講義で学んだ事を復習し、まとめておく（９０分）	講義の内容をよく思い出し、ノートを整理しておく（９０分）。
16	定期試験（６０分）と試験の解説 授業改善アンケートの実施	試験の準備をする（９０分）。	これまで講義で学んだ事を復習する（９０分）。

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会心理学 （科目ナンバリング：S0P122057 ）				
授業担当者（所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者：　松下　守邦　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。 Teamsチーム（本科目）には、履修学生と授業者の履修相談について説明案内、連絡ツールを掲載する。				

概要

履修目標

・社会心理学は私たちの日常生活をあつかう学問である。この授業では、「私たちが社会からどのような影響をうけているのか」、「私たちが社会をどのように理解しているのか」について学修する。

・理解するためのアプローチは大きく２つがある。一人ひとりの人間の心の仕組みに関心を向ける「心理学的社会心理学」と、集団に関心をおいてマクロな構造や社会的変化をあつかう「社会学的社会心理学」（中村陽吉：2006）である。

・ここでは、社会学的理解と心理学的理解の２つの観点から、社会意識、実験社会心理学の基礎を学ぶ。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP5に対応する。（2022年度）

到達目標

①社会心理学の基本になる学術用語の説明ができる。
②社会心理学の応用領域における日常生活について、概念である学術用語、理論等を用いて課題を把握して考察ができる。

評価基準の５指標は、履修目標をこえた（S）、履修目標をほぼ達成できた（A）、履修目標と到達目標の間であった（B）、到達目標をみたす、合格最低レベル（C）、到達目標に達することができなかった不合格（F）の段階的区分がある。成績分布目標は、履修状況により相対性と絶対性が勘案される規定があるので留意する。

授業全体の内容と概要

・「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。
・社会心理学における自己研究を学修する。日常生活において私たちの思考や行動が「適応的無意識」のなかで大量の情報処理を瞬時におこなっている、その情報の解釈過程について考察する。

授業の方法

・「授業の進行方法」：授業の初回にて、文献精読の方法、学生分担報告について説明をおこなう。
・文献精読は縮約（大野晋『日本語練習帳』岩波書店、1999）、三色線引き読み（齋藤孝『三色ボールペンで読む日本語』角川書店、2005）、論理的な文章；段落と全体の要旨把握（遠藤・渡辺：2021）の技法をもとに、プレゼンテーション、グループワーク、文献読解（下記、アクティブ・ラーニングの実施方法、その他）の授業構成になる。
・「使用教材」：授業はテキスト、副教材（プリント資料、映像資料）を紹介しながら、自己研究についての社会心理学基礎を学修する。
・「課題に関する説明～課題に対するフィードバック」「要望等への対応方法」：授業中の個別報告、授業のまとめレポートなど課題や要望等の質問相談には、随時、対応する。授業中、あるいは研究室オフィスアワー利用により、気軽に相談してほしい。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。
履修学生は、文献精読、報告作業を担当する。
個別報告とレポート作成提出は、協同学習として役割と時間を遵守する。
大学から交付される学生メールアドレスを使い、マイクロソフト社Teams科目チャネル、Formsを学修利用する。パソコンスキル（レポート作成、準備学修の確認、教員への授業外連絡など、情報通信機器利用マナー）を高めていく。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
高校教育までの支援をふまえ、本人とメニュー調整をおこないながら科目サポートを進めるので、授業開始前に授業者へ相談してほしい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

・単位認定に必要となる最低出席要件は１１回（全授業回数２/３以上）である。
・文献精読の分担報告（本文、ソースノートの要旨をまとめる。新しい知見、学術用語をについて、例をあげて説明記述する）をおこなう。学修のまとめとしてレポート作成提出する。テキストに各自が線を引き、書き込みながら読み込む「アクティブ・リーディング」実践確認のため、各自、テキスト作業後、提出準備をすすめる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	４０%	６０%	０%	０%	0

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
修得した知識を使い、収集した情報を分析し、理解することができる、情報分析力としての知識・技能	文献の要旨をていねいにまとめており、これまでの学修内容との関連を適切にふまえていた。新しく学ぶことについて、複数の例をあげながら、自分の言葉でていねいに説明した。	文献の要旨をまとめており、これまでの学修内容のいくつかを関連づけていた。新しく学ぶことについて、自分の言葉で例をあげて説明した。	文献の要旨をまとめており、新しく学ぶことについて、自分の言葉で説明した。	文献の要旨は、改善の余地があるが、まとめていた。新しく学ぶことについて、充分ではないが、自分の言葉で説明をおこなうことができた。	文献の要旨をまとめる作業、新しく学ぶことについて、説明することが難しく、情報分析の知識・技能の修得ができなかった。
収集した情報を分析して課題を発見し、客観的立場から成果を論理的に表現することができる、思考力・判断力・表現力	課題に関連して、信頼性のある文献資料を複数選び、適切に引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと対比して、類似点や相違点をあげながら表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、適切な手続きで引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら、論理的に表現をした。	課題に関連して、信頼性のある文献資料を選び、引用した。新しく学ぶことは、これまでのものと関連づけながら表現をした。	課題に関連して、改善の余地があるが、文献資料を選び引用した。新しく学ぶことは、充分ではないが、これまでのものを関連づけて表現をおこなうことができた。	課題に関連して、文献資料を選び、引用すること、新しく学ぶことを表現することが難しく、思考力・判断力・表現力の修得ができなかった。
大学の学修環境を創造するメンバーとして自覚し、自分の意見と異なる意見を統合させながら、学修経験を高めていこうとする、関心・意欲・態度	大学生としての役割と責任を自覚し、積極的、協同的に行動することができた。	大学生として役割は、おおむね理解しており、行動することができた。	大学生として自分の役割は、基本的な行動をすることができた。	大学生として自分の役割は、改善の余地はあるが、行動することができた。	大学生として自分の役割を、自ら理解して行動することが難しく、関心・意欲・態度を示すことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会心理学 （科目ナンバリング：S0P122057 ）				
授業担当者（所属・職名）	松下　守邦（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 松下　守邦 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『選択の科学』	S・アイエンガー/櫻井祐子訳	文藝春秋	２０１４	9784167901554	文春文庫S13-1
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『自分とは何か-「自我の社会学」入門』	船津 衛	恒星社厚生閣	２０１１	9784769912415	
2	『選択日記』	S・アイエンガー	文藝春秋	２０１２	9784163756004	
3	『THINK BIGGER』	S・アイエンガー	NewsPicksパブリッシング	２０２３	9784910063348	
4	『新　心理学的社会心理学』	中村陽吉	ブレーン出版	２００６	9784892428401	
5	『現代文解釈の基礎』	遠藤嘉基・渡辺実	筑摩書房	２０２１	9784480510730	

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスと前年度本科目、授業改善アンケート結果反映の説明をおこなう。報告役割分担を確認する。	シラバスを熟読する（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
2	自我の３側面（C・H・クーリー）、「人間の自我は、他の人間の認識や評価を想像し、それによって生じる自己感情からなっている」（船津衛：	配布資料を読んで予習をする。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
3	運命、偶然と選択、自分自身、自分の置かれた環境とセルフ・コントロール、自己決定権の自己認識	テキスト第1講Ⅰ～Ⅳを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
4	宗教と幸福度、個人主義的文化と集団主義的文化の自己認識	テキスト第2講Ⅰ～Ⅵを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
5	恋愛結婚と取り決め婚、日本人とアメリカ人の自己認識	テキスト第2講Ⅴ～Ⅷを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
6	バーナム効果、認知不協和、就職活動の自己認識	テキスト第3講Ⅰ～Ⅱを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
7	他者の自己評価、多面評価とフィードバック、社会資本の変化とエコーチェンバー効果がもたらす自己認識	テキスト第3講Ⅲ～Ⅳを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
8	マシュマロテスト、ヒューリスティック、提示方法バイアス、確認バイアス、感情の自己認識	テキスト第4講Ⅰ～Ⅳを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
9	視覚文化、流行、単純接触効果、広告と自己認識	テキスト第5講Ⅰ～Ⅲを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
10	プライミング、投票行動と自己認識	テキスト第5講Ⅳ～Ⅵを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
11	選択条件、選択行動、マジカルナンバー、ロングテールと自己認識	テキスト第6講Ⅰ～Ⅲを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
12	退職金積立制度、医療保険制度、選択の多様性、選択の飽和と自己認識	テキスト第6講Ⅳ～Ⅵを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
13	医療における治療方針の選択行動、父権主義、絶対的価値、相対的価値と自己認識	テキスト第7講Ⅰ～Ⅲを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
14	選択的決定、非選択的決定、心理的反発、アクラシア、自己決定の委譲と自己認識	テキスト第7講Ⅳ～Ⅶを予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
15	三元（選択、偶然、運命）の連立、直感、熟考、選択死と自己認識	テキスト最終講の予習する。（９０分）	今回の学習内容を復習する。（９０分）
16	自己研究の心理学的理解と社会学的理解の総括 授業改善アンケーの実施	これまでのテキスト、資料、視覚教材の学習内容を整理する。（９０分）	全授業を振り返り、学習内容の内省的レポートを期日までに提出する。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年　経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際政治論　（科目ナンバリング：POL123133，POL422050　）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

国際社会の抱える諸問題の現状と歴史および国際政治を把握するための基礎的な理論を理解する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP2、DP５に対応する。（2023・2022年度）
経営学科のDP2に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

①国際政治の歴史的な展開を理解し説明することができる。
②国際政治に関する理論を理解し説明することができる。
③国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を考察することができる。

授業全体の内容と概要

国境を越えたモノ、カネ、ヒトの自由移動の進展に伴い、今日、世界の国々はますます相互に依存し合うようになっている。この授業では、国際社会が抱える諸問題について、歴史的な経緯と国際政治の理論をもとに学んでいく。
「SDG1.貧困をなくそう」、「SDG10.人や国の不平等をなくそう」、「SDG16.平和と公正をすべての人に」の関連授業

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。
書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。
教科書を使用しないので講義をしっかり聴いてメモをとること。
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。
TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。
正当な理由のない２０分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻３回で欠席１回とみなす。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会）の選択科目、教職課程（公民）の必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	０%	０%	０%	30%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
国際政治の歴史的な展開を理解し説明することができる。	国際政治の歴史的な展開を発展的に理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を正確に理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開をある程度理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を理解し、説明することができた。	国際政治の歴史的な展開を理解し、説明することができなかった。
国際政治に関する理論を理解し説明することができる。	国際政治に関する理論を発展的に理解し、説明することができた。	国際政治に関する理論を正確に理解し、説明することができた。	国際政治に関する理論をある程度理解し、説明することができた。	国際政治に関する理論を理解し、説明することができた。	国際政治に関する理論を理解し、説明することができなかった。
国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を考察することができる。	国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を発展的に考察することができた。	国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を十分に考察することができた。	国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題をある程度考察することができた。	国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を考察することができた。	国際政治の理論を用いて国際社会の諸問題を考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年　経営学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際政治論　（科目ナンバリング：P0L123133，P0L422050　）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2　（単位認定責任者：　後藤　啓倫　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
2	国際関係の成立	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
3	第一次世界大戦	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
4	第二次世界大戦―ヨーロッパ	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
5	第二次世界大戦―アジア	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
6	冷戦の始まり	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
7	冷戦の展開	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
8	冷戦後の国際政治―湾岸戦争	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
9	冷戦後の国際政治―９・１１アメリカ同時多発テロ	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
10	日米関係の歴史	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
11	国際政治理論からみた日米関係	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
12	東アジアの国際情勢（朝鮮半島）	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
13	東アジアの国際情勢（中国）	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
14	国際政治の理論	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業で示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
16	定期試験（試験６０分＋解説３０分）	試験の準備（９０分）	試験のふり返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年、経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経済論 （科目ナンバリング：ECP123134，ECP422030，ECP522033 ）				
授業担当者（所属・職名）	小早川　俊哉（社会福祉学部・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小早川　俊哉 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

経済・国際経済の基礎となる理論を学び、日本経済・国際経済の動き（特に要因）を把握し、政治動向やその他の状況変化等を考慮することにより，将来の日本社会及び国際情勢を展望できるようになる。　日本経済の他国への影響、他国経済の日本社会への影響を考えつつ、グローバル化した経済が我々の日々の生活に大きく関わっていることを理解できるようになる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ２、DP３に対応する。（２０２３・２０２２年度）
経営学科のＤＰ２、DP３に対応する。（２０２３・２０２２年度）

到達目標

国際経済の修学基礎として、需要と供給、財政政策、金融政策を理解する。
国際経済の中心となる代表的な貿易理論、外国為替理論を理解する。
地域の経済統合に関するFTA・EPAの理解と共に、APEC・EUの経済統合の大枠を理解する。

授業全体の内容と概要

グローバル化の進展と瞬時に変化する国際情勢を念頭に、講義前半は経済学の基礎・基本理論の理解を深めることに集中する。講義後半では、貿易、外国為替、国際経済システム、経済統合（EU・ユーロ圏）の課題を考察すると共に、時事問題を通して世界経済の課題と解決策を探っていく。
「SDG10. 人や国の不平等をなくそう」の関連授業

授業の方法

①授業のポイントを記したレジュメ（プリント）をteamsのファイルに格納するので自身でプリントアウトするか、端末を持参して授業に臨む。
②開始５～１０分は、前回の復習を口頭試問形式で行う。その後は，パワーポイントを使用し、レジュメの空き行間に重要・理解できた事項をメモする形の講義形式をとる。理解度の確認のため随時問いかけをさせてもらう。　質問には随時対応する。
③復習を兼ねて、授業中のメモと書籍などを参考にノートにまとめることを推奨する。
④中間試験（論述）を採点後返却する際、解答の仕方など個別に指導する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の積極性（質問、質問への解答など）は、その場で確認することで成績に反映させる。
遅刻３回で欠席１回とみなす。
尚、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。その他、個別案件に対しては要相談。

資格指定科目

中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０／１５回以上（１６回目は定期試験）。
積極的な授業参加（発言する，質問する，回答する，メモを取る，など）を平常点とする。
論述の中間試験と定期試験、平常点の総計で単位認定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０%	０%	０%	２０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
経済政策の基礎理論を理解する。	どの国の経済政策が，どのように，日本経済に影響を及ぼすのか、その要因を説明することができた。	日本の経済状況と経済政策の関連を説明することができた。	総需要と総供給の関連を理解できた。	財政政策，金融政策の主体と方法を理解することができた。	財政政策，金融政策の主体と方法を理解することができなかった。
貿易と外国為替について理解できた。	主要国の経済政策と貿易・外国為替との因果関係をその要因から説明することができた。	経済政策と貿易・外国為替との関係を説明することができた。	貿易と外国為替の因果関係を説明することができた。	貿易および外国為替の仕組みを理解することができた。	貿易および外国為替の仕組みを理解することができなかった。
地域の経済統合について理解できた。	EUの経済統合のメリットとデメリットを説明することができた。	経済統合の深化として，通貨統合のメリットとデメリットを説明することができた。	貿易を主とした経済統合のメリットとデメリットを説明することができた。	自由貿易の考えから地域経済統合の必要性を説明することができた。	自由貿易の考えから地域経済統合の必要性を説明することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年、経営学科・２年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際経済論 （科目ナンバリング：ECP123134，ECP422030，ECP522033 ）				
授業担当者（所属・職名）	小早川　俊哉（社会福祉学部・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小早川　俊哉 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、授業改善アンケート結果反映の説明（シラバスの説明を含む）と市場メカニズムについて	シラバスの読み込みと価格メカニズムを調べてくる（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
2	総需要と総供給（GDP、GNI、など）及び景気	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
3	経済活動と物価（インフレーションとデフレーション）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
4	財政政策（政府の役割を含む）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
5	金融政策（中央銀行の役割・機能を含む）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
6	ポリシー・ミックス（財政政策と金融政策）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分	今回のノートをまとめるとともに中間試験のため見直しを行う（９０分）中間試験のため見直しを行う（９０分）
7	経済学の基本的考え方についての復讐と中間テスト（小試験）	中間試験の準備をする　（９０分）	自身の解答を振り返る　（９０分）
8	貿易理論（比較優位など）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	今回のノートをまとめるとともに自身の課題克服の方法を考える（９０分）
9	外国為替理論（中央銀行のスタンスなど）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
10	貿易と外国為替（為替リスク、多国籍企業の行動）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
11	ブレトンウッズ体制（IMF、世界銀行、GATT、WTO、変動相場制など）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
12	経済統合Ⅰ（FTA・EPA、ASEAN、TPP、APEC、EU、など概要）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
13	経済統合Ⅱ（統合の深化およびメリットとデメリット）	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
14	欧州通貨統合とユーロの課題	参考となる経済入門書を読み本授業のイメージを持てるようにする（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
15	まとめとして経済統合とポリシー・ミックス 授業改善アンケートの実施	ポリシー・ミックスを復習してくる　（９０分）	定期試験に向け自身のノートの最終チェックを行う（９０分）
16	定期試験（６０分の試験終了後、試験のポイントを解説）	定期試験の準備をする(９０分)	試験の振り返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	倫理学概論 （科目ナンバリング：PHE122138， ）				
授業担当者（所属・職名）	尾崎　有紀（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 尾崎　有紀 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし，非常勤講師室で対応。				

概要

履修目標

規範倫理学の主要な立場である義務論と功利主義の考え方について学ぶ。また、現代的なトピックに照らしてこれらの考え方をみずから評価することで、みずからの価値観や人間観を構築する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP3、DP4、DP5に対応する。（2024年度）
社会福祉学科のDP2、DP4、DP5に対応する。（2023・2022年度）
社会福祉学科のDP3、DP4、DP5、DP6に対応する。（2021年度）

到達目標

規範倫理学の主要な立場である義務論と功利主義の考え方を理解し、具体的なケースに照らして各立場の考え方についてのみずからの見解を述べ他者と議論することができる。

授業全体の内容と概要

過去の倫理思想を紹介しながら、学生自身が主体的に価値観や人間観を構築していく。
「SDGs17. パートナーシップで目標を達成しよう」の関連授業

授業の方法

規範倫理学の概要を講義形式で説明する。また、講義内容について自らの知識として定着が図れるよう、レポート作成やグループディスカッション等を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・レポート課題の進め方等については、その都度指示する。
・配布する講義資料を活用し、講義内容の理解に努めること。
・不測の事態が起きた際には、オンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位の認定に必要な最低出席回数は１１回。定期試験（期末試験）は行わないが、数回のレポート課題（グループディスカッション課題を含む）に対するレポートの論理構成と内容、講義期間中に行う中間テストの結果などを総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	０%	２０%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
規範倫理学における各立場の考え方の理解	各立場の基本的な考え方を深く理解でき、みずからの実践に役立てられた。	各立場の基本的な考え方を深く理解できた。	各立場の基本的な考え方をよく理解できた。	各立場の基本的な考え方を理解できた。	各立場の基本的な考え方を理解できなかった。
具体的なケースにおける道徳的判断の考察	具体的なケースをみずから考え、そこにおける道徳的判断について考察できた。	与えられた具体的なケースにおける道徳的判断について深く考察できた。	与えられた具体的なケースにおける道徳的判断についてよく考察できた。	与えられた具体的なケースにおける道徳的判断について考察できた。	与えられた具体的なケースにおける道徳的判断について考察できなかった。
ディスカッションとグループワークにおける発表	ディスカッションとグループワークにおいて中心的役割を演じた。	ディスカッションとグループワークにおいて積極的に質の高い発表ができた。	ディスカッションとグループワークにおいて積極的に発表できた。	ディスカッションとグループワークにおいて発表できた。	ディスカッションとグループワークにおいてほとんど発表できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	倫理学概論 （科目ナンバリング：PHE122138， ）				
授業担当者（所属・職名）	尾崎　有紀（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 尾崎　有紀 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『道徳形而上学原論』	カント	岩波書店	1960	4-00-336251-9	
2	『功利主義』	J．S．ミル	岩波書店	2021	978-4003900048	
3	『科学者の社会的責任』	藤垣裕子	岩波書店	2018	978-4-00-029679-3	
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明。授業改善アンアケート結果の反映の説明。 イントロダクション：因果関係と自由	シラバスを読む（９０分）	第１回講義の復習(９０分)
2	ケーススタディ：トロッコ問題	第１回講義の復習と第２回講義の予習（９０分）	第２回講義の復習(９０分)
3	カントの義務論（１）：義務と傾向性	第２回講義の復習と第３回講義の予習（９０分）	第３回講義の復習(９０分)
4	カントの義務論（２）：自律と他律	第３回講義の復習と第４回講義の予習（９０分）	第４回講義の復習(９０分)
5	カントの義務論（３）：定言命法と仮言命法	第４回講義の復習と第５回講義の予習（９０分）	第５回講義の復習(９０分)
6	全体討論（１）	第５回講義の復習と第６回講義の予習（９０分）	第６回講義の復習(９０分)
7	ケーススタディ：ミニョネット号事件	第６回講義の復習と第７回講義の予習（９０分）	第７回講義の復習(９０分)
8	功利主義（１）：J．ベンサムの「最大多数の最大幸福」	第７回講義の復習と第８回講義の予習（９０分）	第８回講義の復習(９０分)
9	功利主義（２）：J．S．ミルの質的功利主義	第８回講義の復習と第９回講義の予習（９０分）	第９回講義の復習(９０分)
10	全体討論（２）	第９回講義の復習と第１０回講義の予習（９０分）	第１０回講義の復習(９０分)
11	R．ノージックの自由至上主義	第１０回講義の復習と第１１回講義の予習（９０分）	第１１回講義の復習(９０分)
12	J．ロールズの正義論	第１１回講義の復習と第１２回講義の予習（９０分）	第１２回講義の復習(９０分)
13	科学倫理（１）：科学者の社会的責任	第１２回講義の復習と第１３回講義の予習（９０分）	第１３回講義の復習(９０分)
14	科学倫理（２）：ラッセル＝アインシュタイン宣言とパグウォッシュ会議	第１３回講義の復習と第１４回講義の予習（９０分）	第１４回講義の復習(９０分)
15	科学倫理（３）：責任概念の現代的分析	第１４回講義の復習と第１５回講義の予習（９０分）	第１５回講義の復習(９０分)
16	課題（レポート）に対するフィードバック 授業改善アンケートの実施	第１５回講義の復習（９０分）	第１６回講義の復習(９０分)

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・デザイン学科・建築		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉施設の人事・　（科目ナンバリング：SWS124139　　）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）・市内包括連携施設職員ほか	研究室等所在	１号館２階		
単位数	1　（単位認定責任者：　上原　正希　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

１．福祉施設などの経営を取り巻く環境について理解する。
２．社会福祉法人・施設が地域共生社会づくりのイニシアチブをとりかたについて理解する。
３．多様で複合的な課題に対応できる総合性や専門性について理解する。
４．組織の力を最大限に引き出すうえでの、福祉施設長のマネジメントについて理解する。
５．課題の解決に向けて、経営に生かせる実践力を理解する。

授業の位置づけ

全学科のDP3、DP4、DP5に対応する(2021年)。

到達目標

１．福祉施設などの経営を取り巻く環境について理解することができる。
２．社会福祉法人・施設が地域共生社会づくりのイニシアチブをとりかたについて理解することができる。
３．多様で複合的な課題に対応できる総合性や専門性について理解することができる。
４．組織の力を最大限に引き出すうえでの、福祉施設長のマネジメントについて理解することができる。
５．課題の解決に向けて、経営に生かせる実践力を理解することができる。

授業全体の内容と概要

１．福祉施設などの経営を取り巻く環境について学ぶ。
２．社会福祉法人・施設が地域共生社会づくりのイニシアチブをとりかたについて学ぶ。
３．多様で複合的な課題に対応できる総合性や専門性について学ぶ。
４．組織の力を最大限に引き出すうえでの、福祉施設長のマネジメントについて学ぶ。
５．課題の解決に向けて、経営に生かせる実践力を学ぶ。
６．社会福祉施設の施設長など職員からお話を聞く授業等で学ぶ。
７．「ＳＤＧ３．すべての人に健康と福祉を」「ＳＤＧ4．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

１．授業形態は基本は「講義及び演習形式」であるが、グループで話し合うなどの作業を行うこともある。
２．適宜質問を促し、質問に対応する。
３．自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
４．社会福祉施設の施設長などの職員からお話を聞く授業等がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

１．教員や学生が板書した内容や演習で話し合った内容、フィードバックなどもある授業であるので、しっかりとノートに写し、毎回の授業後にノートの整理をする。
２．適宜質問に対応する。
３．自然災害等などの状況により、オンライン授業などに変更になる場合もある。
４．社会福祉施設の施設長や職員からお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

サブメジャープログラム(知識拡大講座　社会福祉施設経営者養成プログラム)

評価方法・基準

評価前提条件

１．必要な資料等は適宜配布する。
２．授業は８回ですので、最低５回は出席しなければ評価はできません。
３．その他については、出席状況と質問や発言、グループワークなどの活動状況で８０%、２０%はレポートで評価する。
４．成績評価分布の目標について「S」は履修者の１０%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の４０%以内とする。
但し、履修者が１０人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする（絶対評価と相対評価を併用する）。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	２０%	０%	０%	０%	８０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、ほぼ理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、やや理解を深めた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解することができた。	社会福祉士の職域と求められる役割について、理解することができなかった。
ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、ほぼ理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、やや理解を深めた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができた。	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について、理解することができなかった。
ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、ほぼ理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、やや理解を深めた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができた。	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について、理解することができなかった。
総合的かつ包括的な支援について理解する。	総合的かつ包括的な支援について、理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、ほぼ理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、やや理解を深めた。	総合的かつ包括的な支援について、理解することができた。	総合的かつ包括的な支援について、理解することができなかった。
多職種連携の意義と内容について理解する。	多職種連携の意義と内容について、理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、ほぼ理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、やや理解を深めた。	多職種連携の意義と内容について、理解することができた。	多職種連携の意義と内容について、理解することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・経営学科・デザイン学科・建築		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉施設の人事・ （科目ナンバリング：SWS124139 ）				
授業担当者（所属・職名）	上原　正希（社会福祉学科・教授）・市内包括連携施設職員ほか		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1 （単位認定責任者： 上原　正希 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、日本ソーシャルワーカー協会常任理事・北海道ソーシャルワーカー協会会長としての自分自身の経験や体験談をふまえ講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『別途指示します』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	ガイダンス（授業改善アンケート結果反映及びシラバスの説明）、これからの社会福祉法人・施設の役割と経営のあり方	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
2	・今日の社会福祉施設長に求められるものとは ・社会福祉施設の経営管理	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
3	・社会福祉施設におけるサービスの質と権利擁護 ・社会福祉施設のサービス管理	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
4	・地域共生社会の実現における社会福祉施設の役割と実践	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
5	・社会福祉施設の財務管理	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
6	・社会福祉施設の人事労務管理	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
7	・社会福祉施設におけるリスクマネジメント ・レポート課題課題の発表	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
8	・レポート提出 ・授業改善アンケートの実施 ・まとめ（事例研究）及びレポートに対するフィー	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート整理を行うこと（９０分）
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由者の心理・ （科目ナンバリング：SNE122105 ）				
授業担当者（所属・職名）	坂上　俊樹（社会福祉学科・非常勤教員）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 坂上　俊樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（肢体不自由者の心理・生理・病理）について指導する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

共生社会創造のための授業として肢体不自由教育を効果的に行うために必要な心理や病理・行動特性等の基本的な知識を理解して、指導上の配慮事項等の基礎知識を得る。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP３、DP４、DP５に対応する。（2024年度）

到達目標

肢体不自由児の心理や行動特性、指導上の配慮事項等について具体的に述べることができる。

授業全体の内容と概要

「一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育」の基本的理念を押さえ、肢体不自由児の身体的・心理的な特性を事例や視覚教材を活用しながら構成する。「ＳＤＧｓ４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、パワーポイント及び配布資料で実施し、パワーポイントにて説明した後、配付資料の記述部分に書き込んだり、質疑応答の時間を設けて基礎知識の定着を図る。また、DVD を視聴し具体的な実践場面を確認し、レポートにまとめ知識の進化を図る。なお、グループワーク発表、レポートにはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

・肢体不自由児の身体的、心理的な特性に応じた指導を行うにはどうしたらよいのかを考えながら、必要な知識を積極的に学ぶ姿勢で臨むこと。また、実践事例の DVD 教材視聴直後に事例に基づくレポート提出を求めるので、授業を欠席することのないよう留意すること。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

・事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
・講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。

資格指定科目

教職課程（特別支援）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
６０％	２０％	０％	０％	２０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
肢体不自由児者の心理・生理・病理の理解	肢体不自由児者の心理・生理・病理の理解について、学修した知識・技能を基盤に、更に学修を深めることができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、必要な知識・技能を理解することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、一定程度の理解ができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、一部理解することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、理解ができなかった。
肢体不自由児者の心理整理・病理についての思考・判断・表現	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、積極的に思考・判断し、自ら表現を工夫して活動することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について思考・判断し、自ら表現することができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、思考活動に取組み、表現しようとすることができた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理について、思考できた。	肢体不自由児者の心理・生理・病理にかかわる、思考・判断・表現についての必要な取組ができなかった。
授業への参加態度・姿勢	授業にとても積極的に参加することができた。	授業に積極的に参加することができた。	授業に関心をもって参加することができた。	授業へいくらか関心をもって参加できた。	授業への積極的な参加ができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・１年		
開講時期	２Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	肢体不自由者の心理・ （科目ナンバリング：SNE122105 ）				
授業担当者（所属・職名）	坂上　俊樹（社会福祉学科・非常勤教員 ）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 坂上　俊樹 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験を活かして、今日的な教育課題（肢体不自由者の心理・生理・病理）について指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアーズ教育新社	2020年	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『『肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3 版』』	篠田達明	金芳堂	2015 年	978-4-7653-1628-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション ～授業改善アンケート結果反映の説明とシラバスの説明、肢体不自由者の心理・生理・病理の概要	シラバスを確認しておくこと （９０分）	配付資料に基づいて、年間の授業内容の見通しを立てる（９０ 分）
2	肢体不自由者の概念と疾患	指定した教科書の「特別支援教育の対象」を事前に読んでおくこと（９０ 分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
3	脳性まひの起因と症状（１）	指定した教科書の「肢体不自由とは」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
4	脳性まひの起因と症状（２）	指定した教科書の「脳性まひ」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
5	二分脊椎の起因と症状	指定した教科書の「二分脊椎」を事前に読んでおくこと（９０ 分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
6	筋ジストロフィーの起因と症状	指定した教科書の「筋ジストロフィー」を事前に読んでおくこと（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
7	ペルテス病の起因と症状	「ペルテス病」について事前に調べておくこと（９０ 分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
8	肢体不自由の特性を呈するその他の障害	指定した教科書の「医学的側面から見た肢体不自由」を事前に読んでおくこと（９０ 分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
9	重症心身障害	配布した資料に基づき事前に調べること（９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
10	障害に対する医療的対応	指定した教科書の「医学的側面からの把握」を事前に読んでおくこと（９０ 分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
11	ＤＶＤの視聴及びレポート作成	事前に配布したＤＶＤの資料を読んでおくこと（９０ 分）	ＤＶＤ視聴時に取ったメモに基づき整理しておくこと（９０分）
12	生涯学習と医療・社会福祉	指定した教科書の「幼児児童生徒への対応」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
13	肢体不自由者の心理的特性	指定した教科書の「心理学的・教育学的側面からみた肢不自由」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
14	肢体不自由者の療育上特に留意すべき事項	指定した教科書の「肢体不自由とは」を事前に読んでおくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
15	「授業改善アンケート」の実施 バリアフリーとまとめ	配布した資料に基づき「バリアフリー」について調べておくこと （９０分）	配付資料に基づき復習しておくこと（９０分）
16	定期試験(６０ 分の試験終了後、残りの３０分で解説する。)	指定した教科書や講義内容について整理しておくこと(９０ 分)	試験の結果を見直す（９０ 分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神医学と精神医療Ⅱ （科目ナンバリング：PSS123035 ）				
授業担当者（所属・職名）	伊東　隆雄（社会福祉学科・非常勤講師）	研究室等所在	１号館１階非常勤講師室		
単位数	2 （単位認定責任者： 伊東　隆雄（社会福祉学科・非常勤講師） ）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応。				

概要

履修目標

精神医学の歴史や現状を理解する。脳および神経の解剖と生理を理解する。さらに、代表的な精神疾患を理解し、精神を病む人間存在を支援するための福祉の理念を論じる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP９に対応する。（2021年度）

到達目標

１．精神医学，精神医療の歴史を説明する。２．脳および神経の生理・解剖の基礎を説明する。3．代表的な精神障害について説明する。

授業全体の内容と概要

精神保健福祉士の業務に必要な精神医学の知識の理解，とくに主要な精神疾患の症状，経過，治療等についての理解を深める。

授業の方法

講義形式で各授業を進行する。教科書の概説および毎回、関連する資料を配布し説明する。適宜グループワークやディスカッションを行い理解を深める。授業の冒頭において，前回のまとめを行う。わからない部分については質問を受けつける。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

必ず予習をして、積極的に質問して，わからないことをその場できちんと理解してほしい。授業の冒頭で前回のまとめを行う。不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は，１０回以上。
筆記試験で規定の成績を得たもの。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
１００％	０％	０％	０％	０％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
精神医学の歴史についての理解が目標のレベルを達成しているか。	精神医学、精神医療の歴史を、批判的に考察して、支援のあり方について説明できた。	精神医学、精神医療の歴史から、支援のあり方を説明できた。	精神医学、精神医療の歴史の詳細を説明できた。	精神医学，精神医療の歴史の概要を説明できた。	精神医学，精神医療の歴史を説明できなかった。
脳や神経の解剖学と生理学の理解が目標のレベルを達成しているか。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神症状との関連を説明できた。	脳の解剖学と生理学について理解し、精神疾患の病態を説明できた。	脳の解剖学と生理学についての基本的な知識について説明できた。	脳の解剖学についての基礎的な知識を説明できた。	脳の解剖学について説明できなかった。
代表的な精神疾患についての理解が目標のレベルを達成しているか。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療および福祉的支援のあり方について説明できた。	代表的な精神疾患の原因、診断、治療の詳細について説明できた。	代表的な精神疾患の診断と治療の概要について説明できた。	代表的な精神疾患の概要について説明できた。	代表的な精神疾患について説明できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神医学と精神医療Ⅱ （科目ナンバリング：PSS123035 ）				
授業担当者（所属・職名）	伊東　隆雄（社会福祉学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館１階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 伊東　隆雄（社会福祉学科・非常勤講師） ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神保健指定医、精神科専門医として、大学病院や総合病院精神科での豊富な臨床経験に基づいて、授業を展開する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新精神保健福祉士養成講座　第１巻　精神医学と精神医療』	日本精神保健福祉士養成校協会＝編集	中央法規出版	2021年	978-4-8058-8252-8	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業改善アンケート結果反映の説明 オリエンテーション　シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
2	代表的な精神障害①　成人の人格および行動の障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
3	代表的な精神障害②　精神遅滞	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
4	代表的な精神障害③　心理的発達の障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
5	代表的な精神障害④　小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
6	代表的な精神障害⑤　神経系の疾患（てんかんを含む）	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
7	治療法①　身体的療法　薬物療法とその副作用	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
8	治療法②　身体的療法　電気ショック療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
9	治療法③　精神療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
10	治療法④　環境・社会療法	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
11	治療法⑤　精神科リハビリテーション	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
12	病院精神医療（身体合併症医療，インフォームドコンセントを含む）	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
13	精神科救急医療（インフォームドコンセントを含む）	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
14	地域精神医学	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
15	まとめ	教科書において学習内容に該当する箇所を読んでおくこと（９０分）	講義内容の理解を深め，教科書・ノートをまとめておくこと（９０分）
16	定期試験 ６０分の試験終了後，残りの３０分で解説 授業改善アンケートの実施	試験に備えて講義全体のふりかえりを行うこと（９０分）	試験および解説を受けて講義全体をふりかえり理解を深めること（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習　（科目ナンバリング：SWS122046　）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　畠山　明子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（２０２１年度）

到達目標

①精神保健福祉士に必要な専門的知識・技術・実践ができる。
②記録や報告書等の作成能力を高め，実践現場で通用する社会性・主体性を身につけて実践できる。
③福祉実践者として自己覚知を深め，対象者理解と地域での生活支援について理解できる。

授業全体の内容と概要

① 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。
② 個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により学ぶ。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

①個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
②教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①教科書は毎回持参すること。
②演習は、自分で考え実践すること、また、仲間と協同して取り組むことが重要であることから、積極的な発言や参加を求める。
③講義、演習を含めた形態とするが、施設見学や外部講師等による講義等も実施予定である。学生である前提に社会人としてのマナーを意識し、日頃の自らの言動に気を付けて行動すること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１１回以上。成績は、レポート（５０点）、平常点（５０点）で総合して評価する。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	０%	０%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助演習　（科目ナンバリング：SWS122046　）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	1　（単位認定責任者：　畠山　明子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新　精神保健福祉士養成講座７　ソーシャルワーク演習［精神専門］』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	２０２１	978-4-8058-8258-0	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（授業内容・シラバスの説明）授業改善アンケート結果反映の説明	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
2	退院支援、地域移行・定着支援に関する考察	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
3	退院支援、地域移行・定着支援に関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
4	地域精神保健に関する考察	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
5	地域精神保健に関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
6	精神科リハビリテーションに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
7	精神科リハビリテーションに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
8	インテーク・アセスメント・プランニング関する考察	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
9	インテーク・アセスメント・プランニングに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
10	インターベンション・モニタリング・エバリュエーションに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
11	インターベンション・モニタリング・エバリュエーションに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
12	ケアマネジメントに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
13	ケアマネジメントに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
14	チームアプローチに関する考察	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
15	チームアプローチに関するロールプレイ	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）
16	まとめ（具体的習得知識・技術）	授業を振返り学習内容をまとめておくこと（９０分）	復習・資料整理を行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習　（科目ナンバリング：SWS123049　　）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　畠山　明子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

① ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。
② 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。
③ ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。
④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
⑤ 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３、DP４、DP５に対応する。（２０２１年度）

到達目標

精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

授業全体の内容と概要

①障害福祉サービス事業所や行政機関等、及び精神科病院等の医療機関理解のための個別指導及び集団指導を受ける。
②精神保健福祉領域における精神保健福祉士の倫理・責務・義務理解のための個別指導及び集団指導を受ける。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連科目

授業の方法

①個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により行う。
②教科書および配布資料を使用し、ポイントとなるべき箇所は説明、板書を行う。
③質問等に対しては都度口頭にて説明を行い、必要に応じて資料を配布する。
④Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。
⑤基本は対面授業となるが、不測時には授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

①精神保健福祉援助実習指導Ⅰ、Ⅱを修了していることを前提とする。
②テキスト及び配布資料を使用し、ポイントとすべき箇所は説明、板書を行う。
③Microsoft　Teams/Formsの諸機能を活用し、質問を受け付け、適宜教材配布等を行う。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０％	０％	０％	０％	０％	１００％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を深く理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を概ね理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を多少理解できた。	精神保健福祉相談援助の発展的な知識を理解できなかった。
思考力・考察力	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について十分に考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について概ね考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について多少考察できた。	精神保健福祉の基礎知識を踏まえ、精神保健福祉相談援助の展開について考察できなかった。
主体性・情意	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを適切に説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを概ね説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを多少説明・表現できた。	精神保健福祉相談援助の展開について理解したことを説明・表現できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	精神保健福祉援助実習　（科目ナンバリング：SWS123049　）				
授業担当者（所属・職名）	畠山　明子（社会福祉学科・准教授）、西野　克俊（社会福祉学科・准教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2　（単位認定責任者：　畠山　明子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	精神科医療機関における実践経験がある教員がその経験を活かして、基礎能力・技術等を実践的に指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『最新　精神保健福祉士養成講座８　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習［精神専	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	２０２１	978-4-8058-8259-7	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション シラバス説明	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
2	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
3	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
4	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
5	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
6	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
7	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
8	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
9	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
10	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
11	実習の評価全体総括会	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
12	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
13	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
14	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
15	個別振り返り指導	教科書を事前に読んでおくこと（９０分）	ノート・資料整理を行うこと（９０分）
16	総まとめ	個人の振り返りをしておくこと（９０分）	実習資料・日誌などの整理を行うこと（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実践演習 （科目ナンバリング：CHS124102 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者：　吉江　幸子　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場において実務経験がある教員が、実際の保育現場の事例等を活用して、保育実践に必要な総合力を高める指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか自らの学びを振り返り把握する。保育実習等を通じて理解した課題を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力が身につく。自己課題の明確化及び保育の実践に際して必要となる基礎的資質・能力が身につく。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ１、ＤＰ３、ＤＰ４、ＤＰ５、ＤＰ６、ＤＰ７、ＤＰ９に対応する。（２０２１年度）

到達目標

保育士として必要な専門的知識、技術、職業倫理観について振り返ることができる。保育実習後の自己課題に気づき、保育士に求められる資質・能力が何かを認識できる。

授業全体の内容と概要

保育士として必要な専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等の習得について振り返る。さらに、保育実習等体験学習を通し、自己課題を明確にして保育士に求められる資質・能力とは何かを認識する。
「SDGs４．質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

演習を中心とした授業を行っていく中で，実際の保育現場の事例をあげ，子どもや保護者，保育者の様子をイメージしながら，一人ひとり学生の考える場となるように授業を進めていく。質問については随時対応する。レポートは解説し、フィードバックする。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	○	ＰＢＬ
○	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席とレポート提出、発表・発言を重要視する。
遅刻した場合、入室はできるが２０分以上の遅刻は欠席となる。
学外の保育現場等へ出向くこともあるため、社会人としてふさわしい態度を求める。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	６０%	０%	０%	４０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
保育の実践方法の基礎的知識・技能（何を知っているか、何ができるか）	保育実践について基礎的な知識を深く理解できた。	保育実践について基礎的な知識をおおむね理解できた。	保育実践について基礎的な知識を理解できた。	保育実践について基礎的な知識を多少理解できた。	保育実践について基礎的な知識を理解することができなかった。
思考力・判断力・表現力等（知っていること、できることをどう使うか）	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について十分に考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開についておおむね考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について多少考察できた。	保育実践の基本を踏まえた保育内容の展開について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度（どのように関わるか）	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題を明確にできた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題をおおむね明確にできた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題を理解できた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して多少自己課題を理解できた。	保育実習の振り返り及び保育実践を通して自己課題を理解できなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実践演習 （科目ナンバリング：CHS124102 ）				
授業担当者（所属・職名）	吉江　幸子（社会福祉学科・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 吉江　幸子 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場において実務経験がある教員が、実際の保育現場の事例等を活用して、保育実践に必要な総合力を高める指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明 オリエンテーション 授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
2	学びの振り返り①保育士の意義、役割についてグループ討論	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
3	学びの振り返り②保育士の職務内容、子どもに対する責任、倫理についてグループ討論	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
4	学びの振り返り③社会性、対人関係能力についてロールプレイ	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
5	学びの振り返り④子どもやその家庭の理解についてロールプレイ	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
6	学びの振り返り⑤職員間、関係機関との連携についてロールプレイ	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
7	学びの振り返り⑥保育や子育て家庭に対する支援の展開に関する討論	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
8	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク①課題について	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
9	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク②要因、背景について	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
10	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループワーク③課題解決の内容と方法	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
11	保育に関わる今日の社会的状況等課題に関するグループ発表、評価	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
12	これまでの学修を踏まえ、自己の課題の明確化	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
13	これまでの学修を踏まえ、目指す保育士像について明確化	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
14	自己の課題、保育士像に向けて取り組むべき具体的手段や方法の明確化	資料を読み、学習しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
15	保育士としての資質、能力についての研究発表とまとめ	資料を読み、学修しておくこと。（９０分）	講義内容の理解を深め、復習しておくこと。（９０分）
16	レポートに関する解説及びフィードバック 授業改善アンケートの実施	講義全体をとおして質問など整理しておく。（９０分）	解説を受け、講義全体をふりかえること。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道誌 （科目ナンバリング：HUG122130， ）				
授業担当者（所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 塩﨑　大輔 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

身近な地域の地誌を学ぶことによって、その地域性を理解し、また地域を多面的多角的に議論する能力を身に付ける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のＤＰ４、５に対応する。　（2023・2022年度）

到達目標

１．北海道の地域性を説明することができ、他地域の地域性を学ぶ力を身につける。
２．地域をマイクロスケールからミクロスケールで見ること学び、多面的多角的な視点を養う。

授業全体の内容と概要

本授業では北海道と対象とし、その土地の地理的条件と人々の活動の関係を通して地誌学の基礎概念を身につけることを目標とする。また，北海道や市町村といったローカルな視点で地域を知ることにより、多面的多角的なモノの見方を習得する。まず北海道の自然条件と歴史に着目し、その地域性を俯瞰する。そして北海道の市町村レベルで地域の形成過程を見ていく。そうした中で近年スキーリゾート開発が進み、インバウンド観光が盛んとなったニセコエリアを対象とし、ミクロな地域の変容を解説する。
「ＳＤＧ４．質の高い教育をみんなに」および「ＳＤＧ１１．住み続けられるまちづくりを」の関連科目。

授業の方法

授業は基本的に講義形式で行い、適宜課題に沿った作業を行う。スライド資料を中心に映像資料を交えながら講義を進める。また適宜国土地理院地理院地図などのWebGISを利用する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

講義内で適宜連絡する。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１１回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	５０%	５０%	０%	０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
北海道誌の理解	レポート課題において、９割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、８割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、７割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができた。	レポート課題において、６割以上の得点を取ることができなっかた。
地誌的記述	右の記述を高いレベルで実現できた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性をより深く考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性を深く考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性を考察することができた。	人文・社会・自然的な背景を踏まえ、北海道の地域性を考察することができなかった。
情報収集・整理	右の記述を高いレベルで実現できた。	地域の情報を収集し、わかりやすく整理することができた。	地域の情報を収集し整理することができた。	地域の情報を収集することができた。	地域の情報を収集することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・３年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	北海道誌 （科目ナンバリング：HUG122130， ）				
授業担当者（所属・職名）	塩﨑　大輔（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館３階	
単位数	2 （単位認定責任者： 塩﨑　大輔 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバスの説明、授業の内容・進め方・評価の仕方 ガイダンス、授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
2	北海道の地理的条件①　気候と地形	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
3	北海道の地理的条件②　土地成因	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
4	北海道の地理的条件③　北海道の開発	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
5	北海道とアイヌ文化	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
6	北海道の農業	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
7	北海道の工業	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
8	北海道の商業	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
9	広域中心都市の形成	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
10	港湾都市の形成と再開発	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
11	災害とまちづくり	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
12	自然環境の保全と共存	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	レポート課題等を作成すること。（９０分）
13	ニセコエリア①～インバウンド観光と新たなまちづくり～	レポート課題等を作成すること。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
14	ニセコエリア②～土地利用変化～	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
15	ニセコエリア③～近年のスキーリゾート開発～	前回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（９０分）
16	まとめ、課題（レポートなど）の解説 授業改善アンケートの実施	まとめの準備。（９０分）	まとめの振り返り。（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本政治史 （科目ナンバリング：POL122120 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者：　後藤　啓倫　）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

近現代日本政治外交の歴史的展開に関する基本的な知識を身につけ、説明することができる。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP２、DP８に対応する。（2021年度）

到達目標

①近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができる。
②事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができる。
③現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができる。

授業全体の内容と概要

本授業では、近現代日本政治外交の歴史的展開について解説する。とくに、戦争や植民地支配に関する事実と背景を、東アジア諸国との相互関係に配慮しながら解説していく。近代日本の政治と東アジア諸国との関係を学ぶことで現在の日本を取り巻く国際環境の成り立ちを理解するとともに、自国だけでなく他国の立場からもみた歴史を学ぶ。
「SDGs10.人や国の不平等をなくそう」、「SDGs16.平和と公正をすべての人に」の関連授業。

授業の方法

授業は講義形式で行う。書き込み式のレジュメを配布して補足の説明を行う。
書き込む内容は板書またはパワーポイントで示す。
教科書を使用しないので講義をしっかり聴いてメモをとること。
毎回の感想・質問等を記入するリアクションペーパーを配布し、次回授業時にフィードバックを行う。
TeamsやFormsを活用し授業資料の配布、質問の受付・回答を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

授業中の私語、スマホの使用は厳禁。受講マナーを守ること。
正当な理由のない２０分以上の遅刻は欠席とみなす。遅刻３回で欠席1回とみなす。
不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（社会・地理歴史）の選択科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１０回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０％	０％	０％	０％	30％	０％

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができる。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を発展的に理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を正確に理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実をある程度理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができた。	近現代日本の政治外交史に関する基礎事実を理解することができなかった。
事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができる。	事実に基づいて日本政治外交史の展開を発展的に説明することができた。	事実に基づいて日本政治外交史の展開を正確に説明することができた。	事実に基づいて日本政治外交史の展開をある程度説明することができた。	事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができた。	事実に基づいて日本政治外交史の展開を説明することができなかった。
現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができる。	現代日本政治外交の論点を発展性をもって歴史的に考察することができた。	現代日本政治外交の論点を十分に歴史的に考察することができた。	現代日本政治外交の論点をある程度歴史的に考察することができた。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができた。	現代日本政治外交の論点を歴史的に考察することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	日本政治史 （科目ナンバリング：POL122120 ）				
授業担当者（所属・職名）	後藤　啓倫（社会福祉学科・専任講師）		研究室等所在	１号館４階	
単位数	2 （単位認定責任者： 後藤　啓倫 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						なし。
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						適宜紹介する。
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	シラバス及び授業改善アンケート結果反映の説明	シラバスを読んでおくこと（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
2	日本の近代化	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
3	近代日本と東アジア国際秩序	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
4	日清戦争と日露戦争	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
5	韓国併合	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
6	日本の植民地支配	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
7	対中21カ条要求をめぐる日本と中国	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
8	近代日本の政党政治	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
9	ワシントン体制と日本	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
10	満洲事変	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
11	日中戦争	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
12	アジア太平洋戦争	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
13	戦時下の人々	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
14	終戦過程	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
15	授業のまとめ 授業改善アンケートの実施	授業中に示したキーワードを調べる（９０分）	配布資料の整理・再読（９０分）
16	定期試験（試験６０分＋解説３０分）	試験の準備（９０分）	試験のふり返り（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉事業史 （科目ナンバリング：SWS124119 ）				
授業担当者（所属・職名）	小早川　俊哉（社会福祉学部・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小早川　俊哉 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

①福祉概念の変遷を時代背景と共に理解する。
②其々の時代背景と福祉の制度を含む社会システムの関連を理解する。
③第二次世界大戦後の我が国の福祉の変遷を理解する。
④現代の課題とソーシャルポリシーを結び付けることができるようになる。

授業の位置づけ

社会福祉学部のDP２，DP３、DP４、DP５、DP６、DP９、DP１０に対応する。（２０２１年度）

到達目標

①福祉に関する自身の考えを論理的に述べる力を獲得する。
②時代背景と社会の在り方を理解することから、社会の変化と福祉体制、福祉概念の変化と社会の在り方の関連性を理解する。
③ファシリテーターとしてグループワークを取りまとめることができる。

授業全体の内容と概要

①学んできたことを基盤として、更なる福祉観の醸成を図る。
②１つのテーマを講義、グループワーク、プレゼンテーションを通して、背景（要因・理由）とその内容（考え方・概念）を論理的に考察する。
③現代の課題をテーマとした際は、社会背景（要因・理由）から解決策を考察する。
「SDG３．すべての人に健康と福祉を」の関連授業。

授業の方法

①３コマを１パッケージとして（１５コマ÷３コマ＝５パッケージ）展開する。
②１コマ目を講義、２コマ目は講義を基本にグループワーク、３コマ目はグループワークから結論等をプレゼンする。
③テーマにより、３コマ目のプレゼンをディベートに置き換える.
④講義のポイントを記したレジュメ（プリント）をteamsのファイルに格納するので自身でプリントアウトするか、端末を持参して授業に臨む。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	○	ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

これまでに学んできたこと、例えば社会保障、社会福祉の原理と政策など，他の授業との関わりに注意する。
授業中の積極性（質問、質問への回答、課題提供、ファシリテーションなど）は、その場で確認することで成績に反映させる。
遅刻３回で欠席１回とみなす。
尚、不測の事態が生じた際の授業や補講等をオンラインやオンデマンドで実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。
講義中の録音･録画･撮影は事前相談を経て、個人利用に限り許可する場合がある。その他、個別案件に対しては要相談。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は、１０回／１５回以上
積極的な発言・質問・回答、課題提供、ファシリテーション、プレゼンテーションなどと、平常点（授業への真摯な取り組み）の総計で単位認定を行う。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	０%	００%	２０%	８０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
福祉に関する自身の考えを論理的に述べることができた。	自身の福祉観を構築することができた。	論理性に時代背景、社会背景が含まれていた。	福祉に関する自身の考えを論理的に述べることができた。	福祉に関する自身の考えを述べることができた。	福祉に関する自身の考えを述べることができなかった。
時代背景と福祉の制度を含む社会システムの関連を理解することができた。	具体的な関連性を例を使い説明することができた。	時代背景と福祉の制度を含む社会システムの関連を理解することができた	社会システムが変化することが理解できた。	時代背景とは何かを理解することができた。	時代背景とは何かを理解することができなかった。
現代の課題とソーシャルポリシーを結び付けることができた。	昨今、なぜソーシャルポリシーが必要なのかを説明できた。	現代の課題とソーシャルポリシーを結び付けることができた。	ソーシャルポリシーの概念を理解できた。	現代の福祉的社会課題を提示することができた。	現代の福祉的社会課題を提示することができた。
社会の変化と福祉体制、福祉概念の変化と社会の在り方を関連付けられる。					

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	社会福祉事業史 （科目ナンバリング：SWS124119 ）				
授業担当者（所属・職名）	小早川　俊哉（社会福祉学部・教授）		研究室等所在	１号館２階	
単位数	2 （単位認定責任者： 小早川　俊哉 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション（授業改善アンケート結果について，シラバスの説明を含む）と欧米の福祉の歴史（講義）	シラバスの読み込みとレジュメの下調べ（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
2	欧米の歴史的時代背景と福祉体制の関連についてのグループワーク	講義の復習（９０分）	グループワークのまとめとプレゼンの準備（９０分）
3	プレゼンと討議	プレゼン及び討議の準備（９０分）	次回講義テーマの下調べ（９０分）
4	戦前日本の福祉について（講義）	レジュメの下調べ（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
5	戦前日本の福祉についてのグループワーク	講義の復習（９０分）	グループワークのまとめとプレゼンの準備（９０分）
6	プレゼンと討議	プレゼン及び討議の準備（９０分）	次回講義テーマの下調べ（９０分）
7	保健制度と税金によるサービス（講義）	レジュメの下調べ（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
8	保健制度と税金によるサービスについてのグループワーク	講義の復習（９０分）	グループワークのまとめとプレゼンの準備（９０分）
9	保険or税金？　ディベート	プレゼン及び討議の準備（９０分）	次回講義テーマの下調べ（９０分）
10	戦後日本の福祉の歴史（講義）	レジュメの下調べ（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
11	戦後日本の福祉の歴史についてのグループワーク	講義の復習（９０分）	グループワークのまとめとプレゼンの準備（９０分）
12	戦後日本の福祉の歴史についてのプレゼン	プレゼン及び討議の準備（９０分）	次回講義テーマの下調べ（９０分
13	現代日本の福祉的課題（講義）	レジュメの下調べ（９０分）	用語の整理とメモ等をノートにまとめる（９０分）
14	現代日本の福祉的課題と対策についてのグループワーク	講義の復習（９０分）	グループワークのまとめとプレゼンの準備（９０分）
15	現代日本の福祉的課題と対策についてのプレゼン	プレゼン及び討議の準備（９０分）	これまでのまとめと自身の福祉観をまとめる（９０分）
16	予備時間		

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年，社会福祉学科・４年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際法 （科目ナンバリング：LAW122132，LAW423035，LAW522036 ）				
授業担当者（所属・職名）	細川　光法（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館1階非常勤講師室	
単位数	2 （単位認定責任者： 細川　光法 ）		CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			
オフィスアワー	事前連絡後に調整をし、非常勤講師室等で対応				

概要

履修目標

国際社会のルールが国際法である。国際法は国際社会を構成する各々国家が遵守すべき法である。国際社会の秩序維持に欠かすことのできない国際法についての関心を深め，国際社会のルールについて学ぶ。

授業の位置づけ

経営学科のDP１、DP２に対応する。（2023・2022年度）
社会福祉学科のDP１、DP２に対応する。（2023・2022年度）

到達目標

「国際社会の平和と安全」を維持するための国際法について理解を深め，更に高度な知識を得るための基礎をつくる。

授業全体の内容と概要

国際法の存在意義について考え，国際法に関する基礎知識の習得を目指す。
「SDG 16. 平和と公正をすべての人に」の関連科目。

授業の方法

板書、プリントなどを用い、講義形式・学生参加型授業を実施する。　レポートの解説等のフィードバックを実施する。なお、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業を実施する場合がある。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

教室では他人の迷惑になる行為（私語など）をしない、携帯・スマホの使用も厳禁。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１６回の授業（定期試験を含む）のうち１１回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
７０%	１０%	０%	0%	２０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
参加型授業への取り組み姿勢	大いに意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表も多く積極的だった。	意欲･関心・興味を持って授業に参加していた。クラスでの発表に努め積極的だった。	ある程度意欲・関心・興味を持って授業に参加していた。やや積極的だった。	あまり意欲･関心・興味が感じられなかった。無難に授業を消化していた。やや積極性に欠けていた。	全く意欲･関心･興味が感じられなかった。遅刻・欠席が目立った。積極性に欠けていた。
知識	試験の成績９割以上。用語･理論共によく理解していた。	試験の成績８割以上。用語・理論を理解していた。	試験の成績７割以上。用語･理論をある程度理解していた。	試験の成績６割以上。用語・理論の理解が浅かった。	試験の成績６割未満。用語・理論の理解ができていなかった。
思考力・表現力	思考力に長けている。表現方法も豊かで自分の考えを正確に伝えることができていた。	思考力･表現能力共に良。自分の考えを適切に伝えることができていた。	思考力・表現力共に普通。自分の考えを伝えることができていた。	思考力･表現力共に若干弱かった。自分の考えを伝えるのに苦労していた。	思考力･表現力共に弱かった。自分の考えを正確に伝えることができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	経営学科・４年，社会福祉学科・４年		
開講時期	４Ｑ	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	国際法	（科目ナンバリング：LAW122132，LAW423035，LAW522036　）			
授業担当者（所属・職名）	細川　光法（経営学科・非常勤講師）		研究室等所在	１号館1階非常勤講師室	
単位数	2	（単位認定責任者：　細川　光法　）	CAP制	○	
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『はじめての国際法　第3版』	尾崎　哲夫著	自由国民社	2016年	9784426122775	
2	『よくわかる国際法　第2版　やわらかアカデミズム・＜わかる＞シリーズ』	大森　正仁編著	ミネルヴァ書房	2014年	9784623069781	
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業の進め方，採点に関すること，その他授業に関するガイダンス。（シラバスの説明） 授	シラバスを読むこと。（９０分）	授業中に学んだことを復習。 （９０分）
2	国際公法と国際私法	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる （９０分）	授業中に学んだことを復習。 （９０分）
3	国際法の主体と法源	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる （９０分）	授業中に学んだことを復習。 （９０分）
4	国際法の歴史	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる （９０分）	授業中に学んだことを復習。 （９０分）
5	条約、条約の改定・修正	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる （９０分）	授業中に学んだことを復習。 （９０分）
6	国際紛争と法的解決	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる （９０分）	授業中に学んだことを復習。 （９０分）
7	日米間の条約と問題点	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる （９０分）	授業中に学んだことを復習。 （９０分）
8	北方領土問題の歴史的経緯と法的問題	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる （９０分）	授業中に学んだことを復習。 （９０分）
9	国家領域「領土」	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる （９０分）	授業中に学んだことを復習。 （９０分）
10	日本の領土問題	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる （９０分）	授業中に学んだことを復習。 （９０分）
11	国会領域「領海」	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる （９０分）	授業中に学んだことを復習。 （９０分）
12	領空と国際空域 宇宙空間	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる （９０分）	授業中に学んだことを復習。 （９０分）
13	国際連合の成立とその役割	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる （９０分）	授業中に学んだことを復習。 （９０分）
14	国際法と個人の関係①	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる （９０分）	授業中に学んだことを復習。 （９０分）
15	国際法と個人の関係②	テレビ、ネットなどで国際関連のニュースを調べる （９０分）	授業中に学んだことを復習。 （９０分）
16	総合評価　定期試験 授業改善アンケートの実施	これまで学んだことを確認(９０分)	試験の内容を復習 （９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	福祉士国家試験対策　（科目ナンバリング：SWS124140　）				
授業担当者（所属・職名）	小早川　俊哉（社会福祉学科・教授）、上原　正希（社会福祉学科・教授）杉本	研究室等所在	１号館２階		
単位数	4　（単位認定責任者：　小早川　俊哉　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	実際に受験を経験した教員を中心に試験対策に特化した指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験に合格できる力を身につける。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP１、DP２、DP３、DP４に対応する科目。(2021年度)

到達目標

過去３年間の過去問の８割程が正解できる。

授業全体の内容と概要

科目ごとに過去問を行い、解答の解説を行う。また、宿題を課し、問題毎に説明ができるようになる。
「SDG 4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

過去問を回答してもらい、頻出分野を解説する。板書や資料などを用いて学習を進める。質問や疑問点などは解説を行い、そのつど対応する。ＩＣＴ活用（双方向型授業・自主学習支援など）、Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。
基本は対面授業の実施だが、不測時における授業や補講等でオンラインやオンデマンドによる授業の実施をおこなう。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		ＰＢＬ
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

受験科目になるため、基本的には毎回出席をすること。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

社会福祉士国家試験受験資格課程
精神保健福祉士国家試験受験資格課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要となる最低出席回数は１２回以上

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
０%	０%	２５%	２５%	５０%	０%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
授業に出席し、科目ごとに問題を解説することができる。	１５回以上出席し、共通科目の問題を５科目以上解説することができた。	１５回以上出席し、共通科目の問題を４科目解説することができた。	１４回出席し、共通科目の問題を３科目解説することができた。	１３回出席し、共通科目の問題を２科目解説することができた。	１２回以下の出席しかできかなった。
社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の第３５回、３６回の共通科目を８割以上の点数で回答できる。	第３５、３６回の共通科目の点数が8割以上できた。	第３５、３６回の共通科目の点数が７割できた。	第３５、３６回の共通科目の点数が６割できた。	第３５、３６回の共通科目の点数が５割できた。	第３５、３６回の共通科目の点数が４割以下しができなかった。
第３６回の共通科目の解説が行える。	１１科目の解説を行うことができた。	９～１０科目の解説を行うことができた。	７～８目の解説を行うことができた。	５～６科目の解説が行うことができた。	解説を行うことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・４年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	福祉士国家試験対策　（科目ナンバリング：SWS124140　）				
授業担当者（所属・職名）	小早川　俊哉（社会福祉学科・教授）、上原　正希（社会福祉学科・教授）杉本	研究室等所在	１号館２階		
単位数	4　（単位認定責任者：　小早川　俊哉　）	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	実際に受験を経験した教員を中心に試験対策に特化した指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2025（共通科目編）』		中央法規	2024		
2	『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック2025』		中央法規	2024		
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ＩＳＢＮ	備考
1	『社会福祉士国家試験過去問題解説集　2024』		中央法規	2024		
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション、シラバスの説明.。 医学概論	過去問の学習（９０分）	過去問の振り返り、解説（９０分）
2	心理学と心理的支援	過去問の学習（９０分）	過去問の振り返り、解説（９０分）
3	社会学と社会システム	過去問の学習（９０分）	過去問の振り返り、解説（９０分）
4	社会福祉の原理と政策	過去問の学習（９０分）	過去問の振り返り、解説（９０分）
5	社会福祉調査の基礎	過去問の学習（９０分）	過去問の振り返り、解説（９０分）
6	地域福祉と包括的支援体制	過去問の学習（９０分）	過去問の振り返り、解説（９０分）
7	社会保障	過去問の学習（９０分）	過去問の振り返り、解説（９０分）
8	障害者福祉	過去問の学習（９０分）	過去問の振り返り、解説（９０分）
9	権利擁護を支える法制度 刑事司法と福祉	過去問の学習（９０分）	過去問の振り返り、解説（９０分）
10	中間テスト	中間テストに向けた学習（９０分）	過去問の振り返り、解説（９０分）
11	ソーシャルワークの基盤と専門職 ソーシャルワークの理論と方法	過去問の学習（９０分）	過去問の振り返り、解説（９０分）
12	福祉サービスの組織と経営 高齢者福祉	過去問の学習（９０分）	過去問の振り返り、解説（９０分）
13	児童・家庭福祉 貧困に対する支援	過去問の学習（９０分）	過去問の振り返り、解説（９０分）
14	保健医療と福祉 ソーシャルワークの理論と方法（専門）	過去問の学習（９０分）	過去問の振り返り、解説（９０分）
15	第３５回過去問のテスト	第３５回の予習（９０分）	過去問の振り返り、解説（９０分）
16	各科目の解説	解説のロールプレイ（９０分）	過去問の振り返り、解説（９０分）

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			